SETSUNAN UNIVERSITY

SYLLABUS

2019 経営学部 授業計画

経営学科

経　営　学　部

（学部略号：I）

Faculty of Business Administration

経営学科
（学科略号：D）
Department of Business Administration

経営学部（共通）

◎教育研究上の目的

現代企業社会で活躍できる経営に関する基礎的な知識・技能を十分に身につけるとともに、幅広い教養をあわせ持ち、物事を論理的に分析し実践に移すことのできる知的専門職業人を養成する。

経営学科

◎教育研究上の目的

企業を中心とする組織一般の運営に関する基礎的な理論と知識を身につけるとともに、幅広い教養をあわせ持ち、自律的・主体的に企業経営の一翼を担うことのできる、実行力ある知的専門職業人を養成する。

◎ディプロマ・ポリシー（DP：卒業認定・学位授与の方針）

本学科の課程を修め、所定の単位を修得したうえで、次の要件を満たした者に学士（経営学）の学位を授与します。

■知識・理解

［ＤＰ１］社会人として必要な教養と知的専門職業人として活躍するための基盤となる経営学および会計/ファイナンスなどの経営諸科学に関する基礎知識とスキルを身につけている。（一般教養・基礎的経営専門知識）

■思考・判断

［ＤＰ２］企業を含む組織における一連の意思決定プロセスにおいて必要となる、①問題発見能力　②問題解決に向け必要となる情報の収集・選別・分析力　③それらを踏まえた計画の立案と実施に係る思考力・判断力・実践力、を身につけている。（問題発見能力、情報の収集力と分析力、実践力）

■関心・意欲・態度

［ＤＰ３］社会・組織の規範を守り、組織の一員として主体的かつ協働して組織の価値向上に努める態度と意欲を身につけている。（社会規範、多様性の理解、チームワークとリーダーシップ）

［ＤＰ４］企業を含む組織が直面する問題に関心をもち、それらの問題解決に主体的に取り組む姿勢を身につけている。（グローバルかつ地域社会への関心、問題解決に取り組む態度、問題解決に必要な知識・スキル修得への意欲）

■技能・表現

［ＤＰ５］ビジネス・パーソンとして活躍するための前提となるコミュニケーション能力と ICT 活用能力を身につけている。（コミュニケーションおよび情報に関するリテラシー）

◎カリキュラム・ポリシー（CP：教育課程編成・実施の方針）

ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、次のとおり教育課程を編成・実施します。

■知識・理解

①企業社会で活躍し、また貢献・奉仕することができる幅広い教養とグローバルな視野をもつビジネス・パーソンを育成するため、外国語・数学などの「基礎科目」、人文系・社会系・自然系・地域志向系・教養特別科目の５つの系から構成される「教養科目」、卒業後の人生設計を念頭におき大学４年間で修得すべき「キャリア形成科目」および企業経営に密接に関連する「法律科目群」を配置する。

②経営学および会計/ファイナンスに関する専門知識をステップアップ的に修得するため、１年次から２年次にかけて「専門基礎科目群」を、（１）企業経営コースおよび（２）会計/ファイナンスコースのいずれかのコースを選択する２年次からは各「コース固有科目群」を、３年次からをそれぞれ「専門科目」として配置する。

■思考・判断

③問題発見能力、情報の収集・選別・分析能力を身につけるため、１年次から２年次にかけて「専門基礎科目群」、２年次からは企業経営コースおよび会計/ファイナンスコースに関する各「コース固有科目群」をそれぞれ「専門科目」として配置する。

④企業経営の意思決定に際して必要となる思考力・判断力・実践力を身につけるため、３年次から理論科目との双方向での同時学修を念頭においた「応用・実践科目群」を「専門科目」として配置する。

■関心・意欲・態度

⑤社会規範を順守し、また多様性が理解でき、協調性とリーダーシップといった資質を身につけるため、「法律科目群」および少人数で行われる「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」、「卒業研究」を配置する。

⑥常に企業社会に関心の目を向け、課題解決に自ら進んで取組み、また課題解決に必要な知識とスキルの修得に意欲をもやす態度・姿勢を身につけるため、少人数で行われる「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」、「卒業研究」を配置する。

■技能・表現

⑦企業活動において必須なコミュニケーション能力と情報に関するリテラシーを修得するため、少人数で行われる「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」、「卒業研究」を配置する。

◎アドミッション・ポリシー（AP：入学者受入れの方針）

本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲などを備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組む人を求めます。

■知識・理解

①経営学部で学ぶ諸科目を修得するために必要な基礎的教養・知識である「国語」、「英語」、「地理歴史」、「公民」、「数学」などの高等学校の教育課程を幅広く修得している。

■思考・判断

②「国語」、「英語」の読解力に基づいて、論理的に思考・分析し、その結果を解釈する基礎的能力を有している。

③「数学」の解析力に基づいて、論理的に思考・分析し、その結果を解釈する基礎的能力を有している。

■関心・意欲・態度

④「地理歴史」、「公民」の学修を通じて、現代の企業が抱える多様な諸課題に関心をもち、経営に関する専門知識と情報スキルの向上に意欲があり、その目標達成に向け、自ら進んで学修することができる。

⑤課外活動やボランティア活動に、他者と協働して、主体的に取り組んだ経験がある。

⑥ディプロマ・ポリシーを理解し、本学科への入学を強く希望している。

■技能・表現

⑦他者との交流を通じて自分自身を成長させることのできるコミュニケーション能力を有している。

⑧取得した資格やスポーツの経験などを通じて特定の分野において自慢できる能力や技能を有している。

入学者選抜の実施にあたっては、学力試験、適性検査をはじめとして、大学入試センター試験、面接、学修計画書、小論文、高等学校調査書、英語ほかの資格検定試験の結果などを入試毎に組み合わせて評価します。

授　業　計　画

科目名	担当者	ページ
ア		
ＩＣＴ概論	塚　田　義　典	11
イ		
インターンシップ基礎	水　野　　武	487
エ		
英語Ⅰａ	ｸﾞﾗﾝﾄ　ﾊﾞｰﾐﾝﾊﾑ	197
英語Ⅰａ	ジョン　カール	199
英語Ⅰａ	ブルース　ライリー	200
英語Ⅰａ	スコット　ライリー	202
英語Ⅰａ	山　本　尚　子	204
英語Ⅰａ	中　野　華　子	205
英語Ⅰｂ	ダニエル　マリンズ	206
英語Ⅰｂ	ジェフリー　ベル	209
英語Ⅰｂ	ﾘﾁｬｰﾄﾞ　ﾀﾞｨｱｰｽ	211
英語Ⅰｂ	ｼﾞｪｰﾝ　ﾊﾟｰﾒﾝﾀｰ	212
英語Ⅰｂ	ﾏｰﾃｨﾝ　ｵｲｸﾙ	213
英語Ⅰｂ	松　浦　茂　寿	214
英語Ⅰｃ	ｸﾞﾗﾝﾄ　ﾊﾞｰﾐﾝﾊﾑ	215
英語Ⅰｃ	ジョン　カール	217
英語Ⅰｃ	ブルース　ライリー	218
英語Ⅰｃ	スコット　ライリー	220
英語Ⅰｃ	山　本　尚　子	222
英語Ⅰｃ	中　野　華　子	223
英語Ⅰｄ	ダニエル　マリンズ	224
英語Ⅰｄ	ジェフリー　ベル	227
英語Ⅰｄ	ﾘﾁｬｰﾄﾞ　ﾀﾞｨｱｰｽ	228
英語Ⅰｄ	ｼﾞｪｰﾝ　ﾊﾟｰﾒﾝﾀｰ	229
英語Ⅰｄ	ﾏｰﾃｨﾝ　ｵｲｸﾙ	230
英語Ⅰｄ	松　浦　茂　寿	231
英語Ⅱａ	ﾘﾁｬｰﾄﾞ　ﾀﾞｨｱｰｽ	232
英語Ⅱａ	湊　　由妃子	233
英語Ⅱａ	山　本　尚　子	234
英語Ⅱａ	大　江　麻里子	235
英語Ⅱａ	鈴　木　三千代	236
英語Ⅱａ	内　山　知　美	238
英語Ⅱｂ	ルッケル瀬本　阿矢	240
英語Ⅱｂ	松　浦　茂　寿	242
英語Ⅱｂ	植　村　真　未	243
英語Ⅱｂ	田　村　康　子	245
英語Ⅱｂ	小　倉　永　慈	246
英語Ⅱｂ	黒　田　絢　香	247
英語Ⅱｃ	ﾘﾁｬｰﾄﾞ　ﾀﾞｨｱｰｽ	248
英語Ⅱｃ	湊　　由妃子	249
英語Ⅱｃ	山　本　尚　子	250
英語Ⅱｃ	大　江　麻里子	251
英語Ⅱｃ	鈴　木　三千代	252
英語Ⅱｃ	内　山　知　美	254
英語Ⅱｄ	ルッケル瀬本　阿矢	256
英語Ⅱｄ	松　浦　茂　寿	258
英語Ⅱｄ	植　村　真　未	259
英語Ⅱｄ	田　村　康　子	261
英語Ⅱｄ	小　倉　永　慈	262
英語Ⅱｄ	後　藤　一　章	263
英語コミュニケーションⅠ	ｱｰｻｰ　ﾛﾘﾝｸﾞｽﾝ	264
英語コミュニケーションⅡ	ｱｰｻｰ　ﾛﾘﾝｸﾞｽﾝ	265
演習Ⅰ	佐　藤　正　志	12
演習Ⅰ	西之坊　　穂	13
演習Ⅰ	大　田　住　吉	15
演習Ⅰ	杉　本　篤　信	16
演習Ⅰ	畠　山　俊　宏	17
演習Ⅰ	北　　真　収	18
演習Ⅰ	佐　井　英　子	19
演習Ⅰ	岩　坪　加　紋	20
演習Ⅰ	三　木　僚　祐	21
演習Ⅰ	呉　　重　和	22
演習Ⅰ	林　　正　浩	23
演習Ⅱ	畠　山　俊　宏	25
演習Ⅱ	佐　井　英　子	26
演習Ⅱ	佐　藤　正　志	27
演習Ⅱ	西之坊　　穂	28
演習Ⅱ	杉　本　篤　信	29
演習Ⅱ	高　尾　裕　二	30
演習Ⅱ	大　田　住　吉	31
演習Ⅱ	岩　坪　加　紋	32
演習Ⅱ	三　木　僚　祐	33
演習Ⅱ	呉　　重　和	34
エンプロイメントデザインⅠ	石　井　三　恵	488
エンプロイメントデザインⅡ	水　野　　武	490
オ		
応用簿記	高　尾　裕　二	35
カ		
海外語学研修	鳥　居　祐　介	266
海外ビジネスインターンシップ	西之坊　　穂	325
会計学入門	佐　井　英　子	37
会計情報分析論	呉　　重　和	39
会社法	高　田　尚　彦	41
会社法Ⅰ	高　田　尚　彦	42
会社法Ⅱ	高　田　尚　彦	43
科学技術教養（Ｖ１）	居　場　嘉　教	326
科学技術教養（Ｖ２）	長　田　　武	328
科学技術教養（Ｒ１）	岩　田　三千子	330
科学技術教養（Ｒ２）	岩　田　三千子	332
科学技術教養（Ａ１）	宮　本　征　一	333
科学技術教養（Ａ２）	宮　本　征　一	334
科学技術教養（Ｍ１）	堀　江　昌　朗	335
科学技術教養（Ｍ２）	諏　訪　晴　彦	337
科学技術教養（Ｅ１）	片　田　喜　章	339
科学技術教養（Ｅ２）	片　田　喜　章	341
科学技術教養（Ｃ１）	伊　藤　　譲	343
科学技術教養（Ｃ２）	伊　藤　　譲	344
科学技術教養（Ｔ１）	東　　武　大	345

科目名	担当者	ページ
科学技術教養（Ｔ２）	島田伸一	347
科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ｖ１）	居場嘉教	349
科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ｖ２）	長田武	351
科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ｒ１）	岩田三千子	353
科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ｒ２）	岩田三千子	355
科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ａ１）	宮本征一	356
科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ａ２）	宮本征一	357
科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ｍ１）	堀江昌朗	358
科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ｍ２）	諏訪晴彦	360
科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ｅ１）	片田喜章	362
科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ｅ２）	片田喜章	364
科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ｃ１）	伊藤譲	366
科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ｃ２）	伊藤譲	367
科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ｔ１）	東武大	368
科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ｔ２）	島田伸一	370
株式投資と企業家育成	林正浩	372
環境と経営	井上尚之	44
環境と現代社会	井上尚之	374
管理会計論Ⅰ	三木僚祐	45
管理会計論Ⅱ	三木僚祐	46

キ

科目名	担当者	ページ
企業金融論	岩坪加紋	47
企業分析（経営戦略ケース分析）	北真収	49
企業分析（経営組織ケース分析）	西之坊穂	50
企業分析（財務戦略ケース分析）	呉重和	52
企業簿記	三木僚祐	54
企業論	大田住吉	56
基礎演習	北真収	58
基礎演習	杉本篤信	59
基礎演習	岩坪加紋	60
基礎演習	三木僚祐	61
基礎演習	呉重和	62
基礎演習	林正浩	63
基礎演習	大田住吉	64
基礎演習	畠山俊宏	65
基礎演習	西之坊穂	66
基礎演習	田中祥司	67
基礎演習	高尾裕二	68
基礎演習	塚田義典	69
北河内を知る	荻田喜代一	375
キャリアデザイン	水野武	492
キャリアプラン	水野武	494
教育課程論	大野順子	511
教育経営論	朝日素明	513
教育原理	谷口雄一	515
教育実習Ⅰ	朝日素明	516
教育実習Ⅱ	朝日素明	517
教育実習Ⅲ	朝日素明	518
教育社会学	大野順子	519
教育心理学	吉田佐治子	521
教育相談	吉田佐治子	522
教育方法論	林茂樹	523
教職実践演習（中・高）	吉田佐治子	525
教師論	朝日素明	527
近代文学から学ぶ	橋本正俊	377
金融商品取引法	高田尚彦	70
金融論	岩坪加紋	71

ク

科目名	担当者	ページ
くらしと経済	岩坪加紋	378
グローバル経営論	畠山俊宏	72

ケ

科目名	担当者	ページ
経営学	北真収	74
経営学Ⅰ	畠山俊宏	76
経営学Ⅱ	北真収	78
経営学特講Ⅰ	鶴坂貴恵	79
経営学特講Ⅱ	田中祥司	80
経営学特講Ⅲ	佐井英子	82
経営管理論	林正浩	83
経営財務論Ⅰ	高尾裕二	85
経営財務論Ⅱ	高尾裕二	87
経営史	佐藤正志	89
経営戦略論	北真収	90
経営組織論	北真収	91
経営組織論	北真収	92
経営組織論Ⅰ	北真収	93
経営統計学	杉本篤信	94
経営統計学	樋口友紀	95
経営とマーケティング	田中祥司	96
経営分析論	呉重和	97
経営倫理Ⅰ	藤木健史	99
経営倫理Ⅱ	大田住吉	101
経済学入門	岩坪加紋	103
原価計算論Ⅰ	三木僚祐	104
現代韓国事情	田中悟	379
現代社会論	有馬善一	105
現代日本経営史	佐藤正志	107
現代ビジネス論	牧美喜男	381

コ

科目名	担当者	ページ
工業簿記	三木僚祐	109
公衆衛生学	小堀栄子	383
コーポレート・ファイナンスⅠ	高尾裕二	110
コーポレート・ファイナンスⅡ	高尾裕二	112
コミュニケーション能力開発	亀田峻宣	495

サ

科目名	担当者	ページ
財務会計論Ⅰ	佐井英子	114
財務会計論Ⅱ	佐井英子	115
財務諸表論入門	佐井英子	116

シ

科目名	担当者	ページ
ＣＳＲ経営論	大田住吉	118
市場調査入門	牧野幸志	120

科目名	担当者	ページ
自然地理学	手代木　功　基	385
社会科・公民科教育法Ⅰ	大　野　順　子	528
社会科・公民科教育法Ⅱ	大　野　順　子	530
社会学Ⅰ	山　本　圭　三	387
社会学Ⅱ	山　本　圭　三	389
就職実践基礎	山　岡　亮　太	391
就職実践基礎	亀　田　峻　宣	392
生涯スポーツ実習	横　山　喬　之	268
生涯スポーツ実習（ゴルフ）	近　藤　　潤	269
商業科教育法	久　井　孝　則	532
商業簿記	高　尾　裕　二	122
情報倫理	藤　木　健　史	124
情報倫理	藤　木　健　史	126
職業指導Ⅰ	水　野　　武	534
職業指導Ⅱ	水　野　　武	535
職業能力開発	水　野　　武	496
人的資源管理論Ⅰ	西之坊　　穂	128
人的資源管理論Ⅱ	西之坊　　穂	130
人文地理学	麻　生　　将	393
心理学Ⅰ	寺　口　　司	394
心理学Ⅱ	法　　卉	396

ス

科目名	担当者	ページ
数学基礎Ⅰ	小　泉　耕　蔵	270
数学基礎Ⅰ	野　場　　啓	271
数学基礎Ⅰ	妻　鳥　淳　彦	272
数学基礎Ⅱ	小　泉　耕　蔵	273
数学基礎Ⅱ	野　場　　啓	274
数学基礎Ⅱ	妻　鳥　淳　彦	275
数的能力開発	亀　田　峻　宣	497
数的能力開発	山　岡　亮　太	498
数的能力開発	橋　本　朗　子	499
数的能力開発	津　村　　忠	500
スポーツ科学実習Ⅰ	近　藤　　潤	276
スポーツ科学実習Ⅱ	近　藤　　潤	277
住まいとデザイン	大　髙　和　香	397

セ

科目名	担当者	ページ
生産管理論	大　田　住　吉	132
政治学概論Ⅰ	和　田　泰　一	398
政治学概論Ⅱ	和　田　泰　一	400
青少年育成ファシリテーター養成講座	浅　野　英　一	402
生徒指導論	朝　日　素　明	536
税務会計論Ⅱ	呉　　重　和	134
世界遺産論	北　條　ゆかり	403
世界の歴史	村　上　司　樹	405
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	居　場　嘉　教	406
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	橋　本　正　治	407
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	石　田　秀　士	408
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	石　田　裕　子	409
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	浅　野　英　一	410
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	久　保　貞　也	411
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	牧　野　幸　志	412
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	大　塚　正　人	413
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	石　井　信　輝	414
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	田　井　義　人	415
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	吉　田　佐治子	417
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	上野山　裕　士	418
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	藤　原　京　佳	419
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	居　場　嘉　教	420
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	橋　本　正　治	421
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	石　田　秀　士	422
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	石　田　裕　子	423
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	浅　野　英　一	424
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	久　保　貞　也	425
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	牧　野　幸　志	426
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	大　塚　正　人	427
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	石　井　信　輝	428
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	田　井　義　人	429
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	吉　田　佐治子	431
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	上野山　裕　士	432
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	藤　原　京　佳	433
専門基礎演習	北　　真　収	136
専門基礎演習	杉　本　篤　信	137
専門基礎演習	岩　坪　加　紋	138
専門基礎演習	三　木　僚　祐	139
専門基礎演習	呉　　重　和	140
専門基礎演習	林　　正　浩	141
専門基礎演習	大　田　住　吉	142
専門基礎演習	畠　山　俊　宏	143
専門基礎演習	西之坊　　穂	144
専門基礎演習	田　中　祥　司	145
専門基礎演習	高　尾　裕　二	146
専門基礎演習	塚　田　義　典	147
専門日本語ＦⅠ	塩　谷　尚　子	278
専門日本語ＦⅡ	塩　谷　尚　子	279
専門日本語Ｒ	塩　谷　尚　子	280

ソ

科目名	担当者	ページ
ソーシャル・イノベーション実務総論	石　井　三　恵	434
卒業研究	畠　山　俊　宏	148
卒業研究	佐　藤　正　志	149
卒業研究	杉　本　篤　信	150
卒業研究	西之坊　　穂	151
卒業研究	高　尾　裕　二	152
卒業研究	佐　井　英　子	153
卒業研究	岩　坪　加　紋	154
卒業研究	三　木　僚　祐	155
卒業研究	大　田　住　吉	156

タ

科目名	担当者	ページ
大学教養応用	大　塚　正　人	436
大学教養実践	伊　藤　　譲	438
大学教養入門	荻　田　喜代一	440
ダイバーシティとコミュニケーション	石　井　三　恵	442

科目名	担当者	ページ
チ		
地域貢献実践演習	鶴坂貴恵	444
地域と私	鶴坂貴恵	445
地域連携教育活動Ⅰ	吉田佐治子	447
地域連携教育活動Ⅱ	吉田佐治子	448
チームビルディング	水野武	449
地誌学	渡邉英明	451
中国語を聞くa	小都晶子	281
中国語を聞くb	中西正樹	282
中国語を話すa	段飛虹	283
中国語を話すb	段飛虹	285
中小企業会計論	呉重和	158
地理学Ⅰ	手代木功基	452
地理学Ⅱ	麻生将	454
テ		
哲学Ⅰ	貫井隆	455
哲学Ⅱ	濱良祐	458
ト		
道徳教育の研究	谷口雄一	537
特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	林茂樹	539
特別活動の理論と方法	林茂樹	541
特別支援教育論	林茂樹	543
ニ		
日本語会話ＦⅠ	古川由理子	287
日本語会話ＦⅡ	古川由理子	288
日本語会話Ｒ	古川由理子	289
日本国憲法	大仲淳介	460
日本語総合ＦⅠ	藤原京佳	290
日本語総合ＦⅡ	藤原京佳	291
日本語総合Ｒ	藤原京佳	292
日本語読解ＦⅠ	佐々木成美	293
日本語読解ＦⅡ	佐々木成美	294
日本語読解Ｒ	佐々木成美	295
日本語能力開発Ⅰ	澤野加奈	501
日本語能力開発Ⅱ	澤野加奈	502
日本語表現作文ＦⅠ	佐々木成美	296
日本語表現作文ＦⅡ	佐々木成美	297
日本語表現作文Ｒ	佐々木成美	298
日本語表現法Ⅰ	澤野加奈	299
日本語表現法Ⅰ	上島誠司	300
日本語表現法Ⅱ	澤野加奈	301
日本語表現法Ⅱ	久田行雄	302
日本語文法ＦⅠ	佐々木成美	303
日本語文法ＦⅡ	佐々木成美	304
日本語文法Ｒ	佐々木成美	305
日本事情ＦⅠ	門脇薫	306
日本事情ＦⅡ	門脇薫	308
日本事情ＲⅠ	門脇薫	310
日本事情ＲⅡ	門脇薫	312

科目名	担当者	ページ
日本の歴史	高木純一	462
ハ		
犯罪被害者の支援と法的救済	小野晃正	464
ヒ		
ビジネスイングリッシュⅠ	李孝聖	314
ビジネスイングリッシュⅡ	李孝聖	316
ビジネスインターンシップⅠ	石井三恵	503
ビジネスインターンシップⅡ	石井三恵	505
ビジネス情報処理Ⅰ	橋本はる美	160
ビジネス情報処理Ⅰ	塚田義典	161
ビジネス情報処理Ⅱ	橋本はる美	162
ビジネス情報処理Ⅱ	塚田義典	163
ビジネス中国語基礎a	欒玉璽	318
ビジネス中国語基礎b	大西紀	319
ビジネス中国語基礎c	曹櫻	320
ビジネス中国語基礎d	大西紀	321
ビジネスプラン	林正浩	164
ビジネスプランニング	林正浩	166
ビジネスマナーⅠ	奥田和子	507
フ		
ファイナンシャル・プランニング	植杉大	168
ファイナンスⅠ	岩坪加紋	169
ファイナンスⅠ	岩坪加紋	170
ファイナンスⅡ	岩坪加紋	171
プロポーザル・デザイン	北村浩	466
文学から学ぶ	橋本正俊	468
ヘ		
ベンチャービジネス論	林正浩	173
ホ		
法学入門	小島俊朗	469
簿記入門	三木僚祐	175
簿記入門	呉重和	177
保健論	吉川万紀	322
マ		
マーケティング概論	田中祥司	179
マーケティング概論	田中祥司	180
マーケティング戦略論	田中祥司	181
マーケティングと歴史	武居奈緒子	470
マクロ経済学	杉本篤信	182
マネジメントサイエンス	栢木紀哉	183
マネジメントサイエンス	栢木紀哉	184
ミ		
ミクロ経済学	岩坪加紋	185
身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	中沼丈晃	472
民法	大川謙蔵	186
民法Ⅰ	大川謙蔵	188

科目名	担当者	ページ
モ		
ものづくりインターンシップ基礎	坂　本　淳　二	474
ものづくりインターンシップ基礎	楢　橋　祥　一	476
ものづくりインターンシップ実践	坂　本　淳　二	477
ものづくり海外インターンシップ	楢　橋　祥　一	479
ものづくりと経営	大　田　住　吉	190
ヤ		
役立つ金融知力	陸　川　富　盛	480
ラ		
ライフサイエンスの基礎	西　矢　芳　昭	482
リ		
倫理学	有　馬　善　一	483
ロ		
労働法	川　谷　道　郎	192
労働法Ⅰ	川　谷　道　郎	193
労働法Ⅱ	川　谷　道　郎	194

専　　門　　科　　目

科目名	ＩＣＴ概論	科目名（英文）	Introduction to Information and Communications Technology
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塚田　義典
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1012a0		

授業概要・目的	インターネットやソーシャルメディアの利活用が、組織や個人の活動に浸透する今日において、ICT（情報通信技術）がどんな社会課題の解決を支援するのかを考察する。ICT の効果的な適用により、企業の経営や個人の活動が、いかに変化し、どんな価値創造が可能になるのかを、主要業界の事例を通して学習する。
到達目標	経営課題の解決を支援する ICT の役割と位置づけを理解する。インターネットを中心とする ICT の利活用について、自主学習を進め、課題・視点を発見すること、いかに解決を図るのかを経営資源の中核である情報の視点から考えること、ICT の役割と組織・個人との関係について、自分の『気づき』を表現し、クラスやグループで発信できることを目指す。
授業方法と留意点	授業は、講義、テーマごとに、課題の個人発表、グループワーク・発表（5～6 名／グループ）から構成される。毎回、グループワーク・発表（プレゼンテーション）を中心に授業運営を進める。また、ランダムに指名し各自の意見を求めた際には、積極的・建設的な発言等で授業への参画に励むよう努めること。適宜、最新の業界トピック、適用されているテクノロジーを学習する。
科目学習の効果（資格）	・新聞や Web が提供する ICT 関連テーマの記事の骨格を理解することができる。 ・同僚・先輩学生と意見交換を図るための基礎知識や素養を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	・授業ガイダンス ・『ICT（情報通信技術）』とは何か	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
2	ICT 現代史	・課題解決の支援手段としての ICT ・インターネット&コンピュータ小史 ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
3	企業の経営課題と情報化	・企業の情報化戦略・施策（日本企業、グローバル企業） ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
4	社会課題と政府の情報化	・官邸・中央官庁の情報化戦略・施策 ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
5	地域課題と行政機関の情報化	・戦略特区・地方公共団体の情報化戦略・施策 ・個人発表（プレゼンテーション）	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
6	e-commerce（電子商取引）	・B2C（Business to Consumer）　企業対消費者間の取引 ・B2C（Business to Consumer）　企業対企業間の取引 ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
7	顧客インターフェースの ICT	・フロントオフィス（Front Office） ・バックオフィス（Back Office） ・サービス業（金融、観光等）情報化 ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
8	仲介機能の ICT	・ミドルオフィス（Middle Office） ・ソフトウェア・エージェント ・流通業（小売り、物流等）情報化 ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
9	情報化推進による事業創造	・経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報） ・マネジメント情報（顧客、取引、商品、サービス等にかかわる情報） ・個人発表（プレゼンテーション）	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
10	クラウドコンピューティングサービス（Cloud Computing Services）	・クラウドコンピューティングサービス ・グローバル企業の ICT 事例（Google/Amazon/Uber/Airbnb/Walmart 等） ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
11	IoT（Internet of Things）	・モノのインターネット ・ウェアラブルデバイス ・自転車シェアリングサービス ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
12	IoT（Internet of Everything）	・すべてがネットにつながる社会 ・位置情報サービス ・戦略特区のおもてなし IoT ビジネス ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
13	クラウド･データとアナリティクス（Analytics）	・ビッグデータ／オープンデータ／パーソナルデータの利活用 ・人工知能による意思決定支援 ・個人発表（プレゼンテーション）	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
14	個人に係る情報の利活用	・改正個人情報保護法の要点 ・パーソナルデータのマーケティング利活用と個人情報の保護 ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
15	まとめ	総括	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	テクノロジー経営入門	松崎 和久	同友館
2			

	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	経営の基礎から学ぶ 経営情報システム教科書	武藤 明則	同文舘出版
2	経営情報論 新版補訂	遠山 曉	有斐閣
3	図解「IoT」ビジネス入門	小泉 耕二	あさ出版

評価方法 （基準）	平常点（25%）、個人レポートの提出（15%）、定期試験（60%）による総合評価を行う。平常点は、個人およびグループでの課題・ディスカッション、指名時の発言、小テスト（毎回、不定期）、授業への参画程度・態度で評価する。私語、携帯機器の利用、遅刻等の進行を妨げる者、授業に無関係な行動を行う者については退室指示等で厳しく対処し、かつ成績評価に反映するので、くれぐれも注意すること。
学生への メッセージ	授業中の講義を聞くだけでは、十分得るものがなく、周りとのコミュニケーショ図ることで触発し合う重要性を認識すること。グループワークは、自分のアイデアを主張すればいいことでもないことに留意し、自分のグループでの立ち位置、クラスでの相対的なポジショニングを考えながら、主体的に課題に接しつつ、存在感が発揮できるように率先して問題の発見・解決に取り組んでください。
担当者の 研究室等	
備考	全座席指定での着席をお願いします。初回の授業ガイダンスでは、クラス運営法、学習法、成績評価基準の説明、課題・発表（プレゼンテーション）要領、授業用ツール（Portal、SNS）利用を説明するので、必ず出席すること。また、授業の出席回数の要件、成績評価にかかわる活動での不正行為者は、初回授業で示す評価基準に従った評価を行う。

科目名	演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	佐藤　正志
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2055a0		

授業概要・目的	テーマ「経営者の研究・企業経営の歴史的研究（経営史）」 各自が興味ある経営者（企業家）の経営理念や企業の歴史的な発展過程・現状についての研究を行ないます。 加えて、経営史研究分野に関する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導・教育します。
到達目標	経営事象の本質を歴史的視点から捉える能力を培うことを目標とします。
授業方法と留意点	日本を代表する企業家の経営活動を分析します。基本的には事前学習が大切です。まずは、教科書を読んでおいてください。また、事後学習は、より詳しく、専門書などにあたり、深く研究していきます。 加えて、経営学分野に関する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導・教育します。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業内容】 ２年次には教科書をもとに、その報告と質疑を行いながら、日本経営史の基礎知識を身につけていきます。 （前期）　本演習のオリエンテーション、　自己紹介 近代経営の発展・展開（明治後期～昭和初期）と経営者 （後期）　企業経営の変容・大企業体制の成立と経営者 情報・消費社会のなかでの経営者活動
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	企業家に学ぶ日本経営史	宇田川勝	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	研究発表の内容・方法（50%）、ゼミ活動への積極的参加態度（50%）。
学生へのメッセージ	楽しく充実したゼミにするには、ひとえにゼミ生の意気込みにかかってます。積極的に活動計画や企画を出すなどして、ゼミ活動に主体的に参加してください。また、卒業研究に向かって、各自の興味関心のある事柄についての研究テーマを設定して臨んでください。
担当者の研究室等	11 号館 8 階
備考	

科目名	演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	西之坊　穂
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2055a0		

授業概要・目的	【授業概要】 組織とヒトのマネジメントについて研究します。また、教員の企業人事での実務経験を通じた教育を行います。 【目的】 本演習では、戦略、組織、人のマネジメントについて基礎から段階的に学び、自らの問題意識をもって様々な組織やヒトに関する経営現象を考察できるようになることを目的としています。
到達目標	①様々な経営現象に広く関心を持つ。 ②経営学の理論に関する知識をディスカッションやプレゼンテーションを通じて習得する。 ③論理的に自分の考えをまとめ、他者に伝えられるようになる。 ④他者の意見を聞き、また他者に自分の考えを伝えられるようになる。 ⑤ワークでは、企業で実際に働く人にアポイントを取る必要があるため、その際に必要なビジネスマナーを習得する。 演習Ⅰの終わりには、4年次に提出する卒業論文に向けてそれぞれの研究テーマを設定していきます。
授業方法と留意点	①ゼミをグループに分けてテーマを決め、ゼミ生の知人が働く会社における関心テーマについて調査、分析、考察する。最後はグループ別プレゼンテーション大会を行います。 ②実務家をゼミに招いたり、休みを利用して企業訪問することがよくあります。 ③卒業研究テーマを選定します。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ】 「組織とヒトのマネジメントに関する基本的考察」 【授業内容】 ①問題意識、文献調査・実地調査、プレゼンテーション、フィードバックを繰り返し行います。 ②報告者は、事前に文献・新聞・ウェブ検索を参考に報告者間での議論をレジュメにまとめます。次に、用意したレジュメをもとにプレゼンテーションを行います。 ③報告者以外の人は、意見・質問等の発言ができるようにプレゼンテーションをしっかり聞いて準備すること。発言等、授業への参画がない場合、欠席扱いにします。 【事前、事後学習課題】 新聞等でのニュースで経営に関する情報を常に入手し、ゼミ等で関わったどの経営現象で説明できるか考察すること。 ゼミでも随時、日経新聞記載のニュースを中心に取り上げ、ディスカッションを行います。 なお、上記を進めるにあたり、不正防止のため研究倫理も併せて指導・教育します。
関連科目	演習Ⅱ、卒業研究
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席、提出物、プレゼンテーション、ディスカッション、参加意欲の総合評価（発言等がない場合、欠席扱いにする場合があります）
学生へのメッセージ	ゼミへの主体的な参加は必須のゼミです。
担当者の研究室等	11号館8F　西之坊研究室
備考	①参考書等については、演習の中で紹介し、必要に応じて購入してもらう場合がある。 ②随時、企業家を招いてディスカッションを行う。招く場合は事前に伝えますので、所属組織について事前調査を必ず行うこと。 ③ゼミ活動は基本的に全員参加することを通じて社会人基礎力を養います。 ④ゼミの懇親会およびゼミ合宿等を行い、集団凝集性を高めます。

科目名	演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	大田　住吉
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2055a0		

授業概要・目的	・学ぶのは、「戦略」です。演習Ⅰでは、様々な企業事例をもとに、それぞれの「ビジネス戦略」について「ビジネス・スクール形式」で学びます。 ・主な学習テーマは、以下のとおりです。 ①４年次の卒業研究、卒業論文に向けて、この授業で何を、どこまで、修得すべきか？ ②２年次に、企業分析、戦略判断、グループ討議、ビジネスプラン策定、プレゼンなど、個人のスキル完成度をどこまで高めるか？ ③小売業、サービス業、製造業の基本的な「ビジネス戦略」を策定するために、具体的に何をすれば良いのか？ ④創業、起業、開業など、新たにビジネスを始め、軌道に乗せるために、何を、どのように準備すれば良いのか？ ・なお、この科目は、「実務経験のある教員による授業科目」です。民間企業、経済団体、シンクタンク等に通算 29 年間勤務し、また経営コンサルタント(中小企業診断士)として 150 社以上の企業経営支援に携わった実務経験を活かし、アクティブラーニング（ケースメソッド形式）による実践的な授業を行います。
到達目標	・実社会で「戦力」として通用するビジネスリーダーを養成することが、この授業の到達目標です。 ・様々な業種・業態のビジネス戦略について分析し、判断し、表現する、実践的な知識および能力を身につけることができます。 ・また、その到達目標をクリアできているかどうか検証するため、毎回の授業においてケースメソッドによる個人作業、グループワーク、プレゼン、質疑応答等を繰り返し、その達成度合いを一人一人判定します。
授業方法と留意点	・この授業は、座学ではありません。授業の特徴は、以下のとおり。 ① 基本的な「ビジネス戦略」に関する企業事例について、実際のビジネス現場で起きるケースメソッド（仮想企業による事例研究）を準備し、学生同士でディスカッションを行う「ビジネス・スクール形式」の授業です。 ② 毎回の授業においてグループ討議、プレゼン、質疑応答などを徹底的に繰り返し、明るく、楽しく、わかりやすく、学びます。 ③ グループメンバー、役割分担は定期的に交替し、自分の考えを主張するとともに、他人の考え方との違いを体感します。 ・授業ではスマホ等を使ったキーワード検索等があります。教科書の他、スマホ等は必ず持参して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	授業の具体的内容は、以下のとおりです。 なお、企業経営、経営戦略に関連した研究活動における不正防止のための研究倫理教育を併せて実施します。 ＜前期＞ ・テーマ　　：ケースメソッドによる企業事例研究Ⅰ ・授業内容： 授業回数①　ガイダンス 同上②～④　企業ケーススタディⅠ：　消費立地を考える　～近接立地、地域別価格、郊外立地～ 同上⑤～⑩　企業ケーススタディⅡ：　空席に怯まず、満席に驕らず　～イタリア食堂、起業・開業ビジネス戦略～ 同上⑪～⑮　企業ケーススタディⅢ：　商流に掉さす　～酒小売業&食品卸売商社の市場分析と販売戦略～ ＜後期＞ ・テーマ　　：ケースメソッドによる企業事例研究Ⅱ ・授業内容 授業回数 ①～⑥　企業ケーススタディⅠ：シャッターガード誕生物語　～技術開発型ベンチャー企業　ビジネス戦略～ ⑦～⑪　企業ケーススタディⅡ：輝け！インストアベーカリー　～パン製造小売業　マーケティング戦略～ ⑫～⑮　企業ケーススタディⅢ：向日葵のように、柊のように　～水質濾過機メーカーのビジネスプラン～
関連科目	２年次…企業論、３年次…ＣＳＲ経営論、生産管理論ほか

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	【前期】アクティブラーニング(ケースメソッド)授業テキスト 演習・ビジネス戦略論Ⅰ［第３版］	大田住吉、佐々木公之	デザインエッグ社
2	【後期】アクティブラーニング(ケースメソッド)授業テキスト 演習・ビジネス戦略論Ⅱ［第２版］	同上	同上
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	①グループ討議への参加意欲・呼応発言内容（40%） ②制限時間内におけるプレゼン用シートの記載内容・分析力（15%） ③プレゼン力および質疑応答対応力（15%） ④毎回の授業における理解度チェック小テスト(30%) による総合評価。 ただし、毎回の授業の都度採点し、集計します。
学生へのメッセージ	・通算 35 年間の民間企業・公的機関等でのビジネス経験やコンサルティング経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！ ・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。
担当者の研究室等	11 号館 7 階　大田住吉研究室
備考	理解度チェック小テストの結果については、授業の中で適宜フィードバックします。

科目名	演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	杉本　篤信
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2055a0		

授業概要・目的	テーマ　経済データの利用 　日本経済に関する様々な問題を分析するため、基本的なデータの利用の仕方をを身に付ける。そして以下のような目標を達成する。 （1）現状をよく知るために、新聞などを読む。 （2）理論的な知識をつけるために、多くの本を読む。 （3）論理的な思考をする。 （4）自分の考えを、口頭で発表する。 （5）形式の整った、内容のあるレポートを書く。
到達目標	自分で問題を設定できる。 　その問題を分析するための情報を収集できる。 　情報、データを有効に活用できる。
授業方法と留意点	【授業内容】 [授業内容] データの意味。利用の仕方。経済の現状の把握。 [授業方法と留意点] テキストを利用した、発表と討論。出席と授業中の発言が、最も重視される。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	日本の企業、経済、社会に関する問題を分析するためのデータを利用する方法やその意義について考えていく。テキストなどの担当項目の報告を通じ、理論的に思考し、また自分の考えを表現する力をつけていく。 上記を進めるにあたり、不正防止のため研究倫理も併せて指導・教育する。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	若者は本当にお金がないのか？－統計データが語る意外な真実－	久我尚子	光文社新書
2	データ分析をマスターする１２のレッスン	畑農、水落	有斐閣アルマ
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高校生からの経済データ入門	吉本佳生	ちくま新書
2			
3			

評価方法（基準）	平常点、授業での取り組み、レポートなどで総合的に評価。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	【学生へのメッセージ】 上にも書いたように、できるだけ多くの本を読むようにしてほしい。基本的知識をつけることは、どのような分野を勉強するにも大事なことである。また自分の考えをまとめ、人に伝える技量をつけてほしい。

科目名	演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	畠山　俊宏
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2055a0		

授業概要・目的	本演習では、国際経営論について学習する。近年、多くの企業が国境を越えてビジネスをしている。そのため、国際経営に関する知識を習得することは、グローバル化した社会で活躍するために重要となっている。 本演習の目的は、教科書の内容を踏まえたグループプレゼンテーションやグループディスカッションを通じて企業の国際化の実態や理論を理解することである。
到達目標	①国際経営論に関する基礎的知識を習得する。 ②課題を分析して、自分の考えをまとめる力を身につける。 ③自分の意見をわかりやすく伝える力を身につける。
授業方法と留意点	教科書を用いたグループプレゼンテーションと質疑応答、グループディスカッションを中心に授業を進める。各自が責任を持って授業に取り組むことが重要である。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	文献の輪読を通じて国際経営に関する基礎的な知識の理解を深めていく。発表グループは文献を熟読して内容をレジュメかパワーポイントにまとめてプレゼンテーションを行う。その後、全体でグループディスカッションを行う。他のメンバーも事前に文献を読み、重要だ思う点と質問したい点についてまとめてくることが必要である。 尚、経営学分野に関連する不正防止のための研究倫理についても取り上げ、指導・教育する。
関連科目	経営学Ⅰ・Ⅱ、経営戦略論、グローバル経営論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ケースに学ぶ国際経営	吉原秀樹・白木三秀・新宅純二郎・浅川和宏	有斐閣
2	新興市場ビジネス入門	今井雅和	中央経済社
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	下記の輪読の取り組み状況（100%）で評価する。 1.グループプレゼンテーションの内容 2.質疑応答における発言 3.グループディスカッションにおける発言
学生へのメッセージ	ゼミの主役は教員ではなく学生である。「自ら考え行動する力」を身につけるために、主体的にゼミの活動に取り組んで欲しい。
担当者の研究室等	11 号館 8 階　畠山研究室
備考	

科目名	演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	北　真収
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2055a0		

授業概要・目的	３年間の演習（ゼミナール）を通して、戦略的思考を学ぶ。 経営戦略や事業戦略、事業の仕組みであるビジネスモデルを教材として使いながら、ものごとを大局的に考える力を涵養することを目的とする。 演習Ⅰでは、ブルーオーシャン戦略やビジネスモデルの理論や事例に触れながら基礎的なスキルの習得を目指します。 企業での企画調査やコンサルティングの実務経験を講義に取り入れます。
到達目標	経営の現象について、 ①　　「何（どんなこと）を」(What) ②　　「なぜ（どうして)」(Why) ③　　「どんな方法で」(How) の観点から考察するスキルを身につけて、分析力、判断力を養うこと。 英語などの検定を継続して受験しレベルアップを図ること。
授業方法と留意点	自分の考えをまとめ、それを発表し、他の人の理解を得たり、他の人の違う意見を取り入れて自らの考えを改善する。 こうした方法を毎回、繰り返すことで、他者との相互作用のあり方についても習得していきます。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	前期のテーマはブルーオーシャン戦略。授業では、その理論的側面と事例的側面の双方から深く理解します。 理論的側面に関しては、テキストのエッセンスについて、各グループごとに発表を積み重ねていきます。 事例的側面では、実際に応用したような事例を調査し、情報を収集・分析してブルーオーシャンからみた解釈や考察を行います。 情報収集状況から判断して、対象事例について取材したり、詳細な説明を受ける機会を設けることもあります。 後期のテーマはビジネスモデル。まず、どのようなモデルがあるのか、整理をしながら、理解を深める。 多種多様なビジネスモデルがあるが、異業種のモデルを組み合わせたり、複数のモデルを組み合わせて、モデルの拡張性や付加価値の源泉の多様性を学習する。 事前学習：グループ毎の担当表に従って、レポート作成、発表準備を行う（所要３時間） 事後学習：授業での指摘事項についてレポートを加筆修正し再提出する（所要２時間）
関連科目	経営戦略論、経営組織論、グローバル経営論など。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席を含めた学習態度（50%）と課題レポートの作成・発表・討議（50%）にもとづいて評価する。
学生へのメッセージ	いろんな角度から疑問を持って授業に臨んでください。そうした疑問について皆で討議をしながら学習していきます。 皆が寄れば文殊の知恵です。
担当者の研究室等	１１号館８階　北　真収研究室
備考	

科目名	演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	佐井　英子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2055a0		

授業概要・目的	英語、パソコン、会計（国際）が現代の「三種の神器」である、といわれるがこの三者に共通していることは、どれもグローバルなコミニュケーション手段であるということです。会計は企業活動を計数的に写像したものであり、企業経営そのものを指し示している。経営者による裁量的な会計行動による不祥事が次々と発覚し、近年、会計の重要性が再認識されつつある。本演習では、会計情報を利用する立場から会計の基礎知識の修得に努める。また、レポート作成時など不正防止のための研究倫理につても取り上げ、指導・教育する。
到達目標	・会計情報開示制度と会計の基本を理解する。 ・会計の基本的ルール、財務諸表作成のルール、会計基準等を理解する。 ・会計情報を自ら分析、理解して、会計情報から企業の経営内容を読み取る力を修得する。 ・財務諸表を理解し、使いこなし、説得力のあるプレゼンテーションができるようになる。 ・グループワークを通して、コミュニケーション能力、協同する態度を修得する。 ・研究倫理について理解し、実践する姿勢を身につける。　・会計情報開示制度と会計の基本を理解する。
授業方法と留意点	・基礎的知識を修得するための資料の読解、インターネット等での情報収集。 ・毎回ディスカッションを行うので、自分の意見またはグループの代表としてディスカッションに参加すること。 ・与えられた課題をグループワークや個人で解決し、プレゼンテーションする。 、
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	・会計と経営、経済社会の関わりについて学び、会計の基本的な枠組み、知識を習得する。ゼミでは、毎回、各自の発言を求め、質疑、応答形式で進めていく ・、グループワークでの研究、調査を行い、協同してプレゼン等を行う。 ・実際の経営の現場に触れるために、校外学習を積極的に実施する（工場見学等） ・事前学習は、配布資料等で分からない用語等事前に調べ、自分なりに理解してゼミに参加すること。ただし、内容がどうしても分からないところは、ゼミで必ず質問し、理解するようにする。事後学習は、毎回のゼミで、レポート課題､、さらに詳しく調べることなどの課題をその都度、指示するので、グループまたは個人で調べ、プレゼンテーション用のスライド等を作成しておくこと。
関連科目	企業簿記、財務会計論、経営学、
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習への参加（出席、レポートの提出、発表等）
学生へのメッセージ	ゼミは、必ず出席し、積極的に参加してください。一方的に知識が与えられる場としてではなく、活発な討論を通じて教員もゼミ生も互いに切磋琢磨していける場としてゼミを考えています。
担当者の研究室等	11 号館８階
備考	

科目名	演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	岩坪　加紋
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2055a0		

授業概要・目的	金融・ファイナンスで扱う事象は、わたしたちの身の回りにある。端的に言えばお金に関する事で、財布の中の現金をはじめ、電子マネーやクレジットカード、銀行、証券会社、保険、国債、株式、資産運用、借入等々、延々と続くお金の通り道で起こる様々な事象を体系的に論じるのが学問としての金融・ファイナンスである。日頃の生活はもちろん、ビジネスとも密接な関係にある。本ゼミでは、そのようなお金に関する事象や問題を『研究・探究』し、金融・ファイナンスの考え方を修得するとともに、客観的な根拠に基づき主張する能力の修得を目的とする。本ゼミ希望者には成績の良し悪しは問わないが、自律的で能動的な姿勢を求めたい。
到達目標	金融・ファイナンスを中心とした経済・経営問題に関心を持ち、客観的視点から問題を把握し、解決する能力を身につけること
授業方法と留意点	原則として学生による発表・質疑応答形式（プレゼンテーション）で進める。発表者だけでなく、聴き手学生にも積極性を求める。ゼミを単位取得のための「がまん大会」にしてはならない。不幸にして欠席・遅刻しそうなら、教員に速やかに連絡すること。 また年末には卒研生（4回生）の卒論報告会への参加とルーブリック評価基準に基づく卒論の評価をしてもらう予定である。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	本演習では、所定の書籍をもとに発表・質疑応答形式（プレゼンテーション）で進める。発表者が発表準備をするのは当然だが、聞き手学生も書籍の発表箇所を事前に読んでおくこと。また、適宜レポートも課す。加えて該当する分野に関連する不正防止のための研究倫理についても合わせて取り上げ、指導・教育する。
関連科目	ミクロ経済学、マクロ経済学、ファイナンス等
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学習態度、プレゼンテーションの出来映えなどを総合的に判断する。
学生へのメッセージ	就職率が高くなったとはいえ、依然として企業の対応は厳しい。易きに流れるは世の常なれど、後悔するのは自分自身である。その点、覚悟願う。
担当者の研究室等	１１号館８階（岩坪教授室）
備考	

科目名	演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	三木　僚祐
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2055a0		

授業概要・目的	本演習では、管理会計について学んでいく。管理会計とは、企業内部の各階層の経営管理者に、経営管理に有用な会計情報の提供を目的とする会計である。管理会計は、経営管理を有効に行うために不可欠な手段であり、管理会計を学ぶことは今後社会に出るにあたって、大変意義のあることであると考える。本演習では、管理会計の意義や伝統的な管理会計の諸技法など管理会計の基礎的事項について学ぶ。
到達目標	①　管理会計とは何かや、予算管理、標準原価計算といった伝統的な管理会計技法の意義・手続きについて理解する。②　伝統的な管理会計に関する理解を踏まえて、伝統的な管理会計の課題について理解する。
授業方法と留意点	管理会計の基礎的な教科書を用いて授業を行なう。毎回当番を決めて、事前に演習参加者に教科書の内容についてまとめた資料を作成してもらう。その資料を授業中にプレゼンテーションし、、発表後は、その内容についてゼミ生全員でディスカッションを行う。全員がディスカッションに参加し、活発な議論が展開されることを期待する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	管理会計に関する基礎的な教科書を用いて、授業を進める。毎回の進度は、教科書 1 章分。前期は、管理会計を理解する上で欠かすことのできない原価計算の基礎的な事項について学ぶ。後期は、予算管理や標準原価計算など伝統的な管理会計技法について学んでいく。授業での発表者以外の人も、当日の授業内容について事前に自分なりにまとめておくこと(90 分)。また、事後にその日の授業内容について復習もしておくこと(30 分)。加えて、会計分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導教育する。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	発表資料 40%、プレゼン 30%、授業中の態度 30%
学生へのメッセージ	授業の無断欠席や遅刻は認めません。授業には、真剣に取り組んで下さい。また、授業中は、積極的に発言することを期待します。演習参加者全員の努力で、演習での学びを、充実した実りのあるものにしましょう。
担当者の研究室等	11 号館 7 階(三木准教授室)
備考	教科書については第 1 回目の授業の際に指示する。 発表資料の作成時間は 3 時間程度を考えている。

科目名	演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	呉　重和
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2055a0		

授業概要・目的	企業（または，世の中で経済活動をおこなう経済主体）に関連する社会問題を発見し，問題を解決する方法を学習し，分析をおこない，わかった知識を発信することを自ら行える能力を習得する。
到達目標	①　会計セミナーに所属する学生として必要最低限である会計関連知識を習得する。 ②　企業に関連する問題について，会計情報を根拠として提示しながら，意思表明ができる。 ③　簿記関連資格を取得する。 ④　卒業論文のテーマを決める。
授業方法と留意点	演習 1 は講義形式ではなく，学生の参加形式であり，会計学の知識の習得，会計情報の分析，ディスカッションの実施，プレゼンによる知識の発信などが予定されている。 ①　ゼミの活動に積極的に参加すること ②　やむを得ない事情を除き，出席すること ③　ディスカッションに積極的に参加すること ④　学内で生じた問題については素早く相談すること
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	＋　前期では，簿記に関連する基礎知識の学習・発表と関心テーマを発見する。 ＋　後期では，会計に関連する基礎知識の学習・発表と関心テーマに関連する新聞記事などの背景を調べ，報告する。 ＋　毎週行われるテーマに合わせ，事前に課題などが提示される。提示された課題については，報告者でなくても事前にわからない用語等を調べるなどし，ディスカッションに参加できるようにすること。(詳細な計画については初日の演習で告知する)
関連科目	経営学に関連する授業全般
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特に指定しない		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門経営分析	倉田三郎	同文館出版
2	なぜ、会計嫌いのあいつが会社の数字に強くなった？	村上裕太郎	東洋経済新聞社
3	ビジネススクールで教える経営分析	太田康弘	日経文庫

評価方法（基準）	毎回のゼミ参加，ディスカッションのへの参加，発表，報告などを総合的に評価
学生へのメッセージ	ゼミは教員主導の講義ではなく，学生主導の学習の場であります。教員はあくまでも学習の補助者であります。皆さんが希望するゼミ活動があれば積極的に提案し，参加するなど，イメージしていたゼミを作り上げていきましょう。
担当者の研究室等	11 号館 7 階
備考	

科目名	演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	林　正浩
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD2055a0		

授業概要・目的

社会人になるためのスキルを身に付けるだけではなく、専門職として必要な知識とノウハウを習得し、自身の創造性と挑戦意欲を引き出すための演習を実施します。
具体的には、各自が志向する以下の２つのプロジェクトに挑戦し、各プロジェクトで２チーム（チームメンバー5名程）を構成し協議・協力しながら目的を達成する取り組みとなります。

【挑戦プロジェクト】
＜プロジェクトＡ＞『キャンパスベンチャーグランプリ大阪』（主催：日刊工業新聞社）
＜プロジェクトＢ＞『開放特許等を活用したビジネスアイデア学生コンテスト』（主催：近畿経済産業局産業技術課知的財産室）

【担当教員実務経歴】
・金融機関勤務（本部企画部・本店営業部与信審査業務）
・ベンチャー投資財団（企業投資業務）
・監査法人（株式上場コンサルティング）
・ベンチャー企業監査役（複数社）

到達目標

チームメンバー内のディスカッションを経て、自身の知識を知恵に転換する思考力と創造性を有するようになり、且つ、コンペティションによる競争意欲と更なる挑戦意欲を持つ人材を目指します。

授業方法と留意点

各コンペティションに応募するために必要な基礎知識の習得（ＰＣソフトの有効活用方法、簿記会計の基礎）と、チーム編成による提案プランの策定演習の準備。
留意点として各チームメンバーの中で、役割分担を明確にし、各自の能力とチームメンバーのノウハウとを融合させた有意義な取り組みを実施するようにしてください。

科目学習の効果（資格）

アイデアの具現化、企画力、競争意識の醸成により、企業現場における様々な課題解決に積極的に取り組む思考力が身につきます。
提案プラン策定の基礎知識として必要なツール（ＰＣソフト）の高度な活用方法の習得と、簿記会計（日商簿記３級程度）の習得を目指します。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講座ガイダンス 挑戦プロジェクトの説明	講座ガイダンス（勉強方法・評価方法） 挑戦するプロジェクトの内容と過年度のプロジェクト開催状況	＜事後＞自身が参加するプロジェクトの詳細情報の入手と分析（30分）
2	PC ソフトの戦略的活用 【Excel の機能（１）】	策定テキストに基づき、様々な編集機能等を習得する。	＜事前＞配布されたテキストの事前学習（30分）。 ＜事後＞授業で取り組んだ機能に関する演習課題（30分）
3	PC ソフトの戦略的活用 【Excel の機能（２）】	策定テキストに基づき、様々な編集機能等を習得する。	＜事前＞配布されたテキストの事前学習（30分）。 ＜事後＞授業で取り組んだ機能に関する演習課題（30分）
4	PC ソフトの戦略的活用 【Excel の機能（３）】	策定テキストに基づき、様々な編集機能等を習得する。	＜事前＞配布されたテキストの事前学習（30分）。 ＜事後＞授業で取り組んだ機能に関する演習課題（30分）
5	簿記会計の基礎（１）	財務会計とは（１）	＜事前＞１年次履修項目の再学習（30分）。 ＜事後＞授業内容に関する Case Method（１時間）
6	簿記会計の基礎（２）	財務会計とは（２）	＜事前＞１年次履修項目の再学習（30分）。 ＜事後＞授業内容に関する Case Method（１時間）
7	簿記会計の基礎（３）	財務諸表の構造理解（１）	＜事前＞１年次履修項目の再学習（30分）。 ＜事後＞授業内容に関する Case Method（１時間）
8	簿記会計の基礎（４）	財務諸表の構造理解（２）	＜事前＞１年次履修項目の再学習（30分）。 ＜事後＞授業内容に関する Case Method（１時間）
9	簿記会計の基礎（５）	原価配分の考え方（１）	＜事前＞１年次履修項目の再学習（30分）。 ＜事後＞授業内容に関する Case Method（１時間）
10	簿記会計の基礎（６）	原価配分の考え方（２）	＜事前＞１年次履修項目の再学習（30分）。 ＜事後＞授業内容に関する Case Method（１時間）
11	挑戦プロジェクトのチーム編成	各プロジェクトに２チーム（１チーム５名）を編成。 チーム内役割分担。 応募に必要な提案事項の理解。	＜事前＞各プロジェクト紹介のＨＰで内容確認（30分）。 ＜事後＞次回打ち合わせ事項の事前調査（１時間）
12	挑戦プロジェクト 【Discussion】	チーム内でのディスカッション	＜事前＞ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査（30分）。 ＜事後＞ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業（1時間）。
13	挑戦プロジェクト 【Discussion】	チーム内でのディスカッション	＜事前＞ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査（30分）。 ＜事後＞ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業（1時間）。
14	挑戦プロジェクト 【Discussion】	チーム内でのディスカッション	＜事前＞ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査（30分）。 ＜事後＞ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業（1時間）。
15	挑戦プロジェクト 【Discussion】	チーム内でのディスカッション	＜事前＞ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査（30分）。 ＜事後＞ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業（1時間）。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2 3
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
評価方法 （基準）	以下の①～?による統合評価とします。 ①第２回～第１１回までの Case Method に対する回答評価（評価割合：50%） ②チーム別提案資料（応募原案）（評価割合：50%） ?プロジェクトにおける各自役割津の遂行度（自己評価：参考得点） チーム単位での自身における役割の遂行度の自己評価、およびプロジェクト取り組みにより何を得られたのか、など授業習得度に対する評価。
学生への メッセージ	各プロジェクトの応募は８月ですので、それまでにチーム内で提案原案を策定してもらいます。 また、社会人では必須な情報機器となるノートパソコン（持ち運び可能）を各自用意されると、学習速度が速くなります。
担当者の 研究室等	１１号館７階　林研究室
備考	ノートパソコンの購入を考えている方は、高価なパソコンの必要はありません。オペレーションソフトは、学内でダウンロードできる Windows を使用する予定です。また使用するソフトもダウンロードが可能な microsoft を使用しますので、当該ソフトが使用できる程度のノートパソコンで構いません。

科目名	演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	畠山　俊宏
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD3056a0		

授業概要・目的	本演習では、国際経営論について学習する。近年、多くの企業が国境を越えてビジネスをしている。そのため、国際経営に関する知識を習得することは、グローバル化した社会で活躍するために重要となっている。 本演習の目的は、教科書の輪読やグループディスカッションを通じて企業の国際化の実態や理論を理解することである。
到達目標	①プレゼンテーション・スキルを習得する。 ②論理的文章の作成スキルを習得する。 ③論理的思考力を鍛える。
授業方法と留意点	グループによるプレゼンテーションとディスカッションを中心に授業を進める。各自が責任を持って授業に取り組むことが重要である。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	期間の前半は教科書の輪読、後半は学外の研究プレゼンテーション大会に参加することが主な活動になる。学外の研究プレゼン大会はグループごとに研究調査、企画シート、プレゼンテーション資料の作成、大会におけるプレゼンテーションと質疑応答に取り組む。 尚、経営学分野に関連する不正防止のための研究倫理の習得にも引き続き努める。
関連科目	経営学Ⅰ・Ⅱ、経営戦略論、グローバル経営論
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ケースに学ぶ国際経営	吉原秀樹・白木三秀・新宅純二郎・浅川和宏	有斐閣
2	新興市場ビジネス入門	今井雅和	中央経済社
3			

評価方法（基準）	輪読の取り組み状況（グループプレゼンテーションの内容、.質疑応答における発言、グループディスカッションにおける発言）：20% 研究プレゼンテーション大会の取り組み状況（企画シートの内容、プレゼンテーションの内容）：80%
学生へのメッセージ	ゼミの主役は教員ではなく学生である。「自ら考え行動する力」を身につけるために、主体的にゼミの活動に取り組んで欲しい。
担当者の研究室等	11 号館 8 階　畠山研究室
備考	

科目名	演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	佐井　英子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD3056a0		

授業概要・目的	英語、パソコン、会計（国際）が現代の「三種の神器」である、といわれるがこの三者に共通していることは、どれもグローバルなコミニュケーション手段であるということです。会計は企業活動を計数的に写像したものであり、企業経営そのものを指し示している。経営者による裁量的な会計行動による不祥事が次々と発覚し、近年、会計の重要性が再認識されつつある。本演習では、会計情報を利用する立場から会計の基礎知識の修得に努める。また、レポート作成時など不正防止のための研究倫理についても取り上げ、指導・教育する。
到達目標	・会計情報開示制度と会計の基本を理解する。 ・会計の基本的ルール、財務諸表作成のルール、会計基準等を理解する。 ・会計情報を自ら分析、理解して、会計情報から企業の経営内容を読み取る力を修得する。 ・財務諸表を理解し、使いこなし、説得力のあるプレゼンテーションができるようになる。 ・グループワークを通して、コミュニケーション能力、協同する態度を修得する。 ・研究倫理について理解し、実践する姿勢を身につける。
授業方法と留意点	・基礎的知識を修得するための資料の読解、インターネット等での情報収集。 ・毎回ディスカッションを行うので、自分の意見またはグループの代表としてディスカッションに参加すること。 ・与えられた課題をグループワークや個人で解決し、プレゼンテーションする。 、
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	・会計と経営、経済社会の関わりについて学び、会計の基本的な枠組み、知識を習得する。ゼミでは、毎回、各自の発言を求め、質疑、応答形式で進めていく ・、グループワークでの研究、調査を行い、協同してプレゼン等を行う。 ・実際の経営の現場に触れるために、校外学習を積極的に実施する（工場見学等） ・事前学習は、配布資料等で分からない用語等事前に調べ、自分なりに理解してゼミに参加すること。ただし、内容がどうしても分からないところは、ゼミで必ず質問し、理解するようにする。事後学習は、毎回のゼミで、レポート、さらに調べることなどの課題をその都度、指示する。
関連科目	企業簿記、財務会計論、経営学、
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習への参加（出席、レポートの提出、発表等）
学生へのメッセージ	ゼミは、必ず出席し、積極的に参加してください。一方的に知識が与えられる場としてではなく、活発なディスカッションを通じて教員もゼミ生も互いに切磋琢磨していける場としてゼミを考えています。
担当者の研究室等	11 号館８階
備考	

科目名	演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	佐藤　正志
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD3056a0		

授業概要・目的	テーマ「経営史・経営者の研究・企業経営の歴史的研究」 各自が興味ある経営者（企業家）の経営理念や企業の歴史的な発展過程、現状についての研究を行ないます。 加えて、経営史研究分野に関する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導・教育します。
到達目標	経営事象の本質を歴史的視点から捉える能力を培うことを目標とします。
授業方法と留意点	日本を代表する企業家の経営活動を分析します。基本的には事前学習が大切です。まずは、教科書を読んでおいてください。事後学習は、より詳しく、専門書などにあたり、深く研究してください。 また、経営学分野の研究における不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導・教育しますので、「研究倫理」の重要性を認識してください。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	【授業内容】 ３年次には教科書をもとに、その報告と質疑を行いながら、日本経営史の基礎知識を身につけていきます。 第１回　本演習のオリエンテーション （前期）　近代経営の発展・展開（明治後期～昭和初期）　と経営者 （後期）　企業経営の変容・大企業体制の成立と経営者 情報・消費社会のなかでの経営者活動 12 月前後には「日帰り研修」を実施（名古屋のトヨタ産業技術記念館予定）
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	研究発表の内容・方法（50%）、ゼミ活動への積極的参加態度（50%）。
学生へのメッセージ	楽しく充実したゼミにするには、ひとえにゼミ生の意気込みにかかってます。3 年次は日帰りの校外研修やゼミコンパなどの行事を予定しています。積極的に活動計画や企画を出すなどして、これらのゼミ活動にも参加してください。また、卒業研究に向かって、各自の興味関心のある事柄についての研究テーマを設定して臨んでください。
担当者の研究室等	11 号館 8 階
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	企業家に学ぶ日本経営史	宇田川勝	有斐閣
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	西之坊　穂
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD3056a0		

授業概要・目的	【授業概要】 組織とヒトのマネジメントについて研究します。 【目的】 本演習では、戦略、組織、人のマネジメントについて基礎から段階的に学び、自らの問題意識をもって様々な組織やヒトに関する経営現象を考察できるようになることを目的としています。
到達目標	①様々な経営現象に広く関心を持つ。 ②経営学の理論に関する知識をディスカッションやプレゼンテーションを通じて習得する。 ③論理的に自分の考えをまとめ、他者に伝えられるようになる。 ④他者の意見を聞き、また他者に自分の考えを伝えられるようになる。 ⑤ワークでは、企業で実際に働く人にアポイントを取る必要があるため、その際に必要なビジネスマナーを習得する。 演習Ⅱの終わりには、4年次に提出する卒業論文序論を作成します。
授業方法と留意点	①ゼミをグループに分けてテーマを決め、ゼミ生の知人が働く会社における関心テーマについて調査、分析、考察する。最後はグループ別プレゼンテーション大会を行います。 ②実務家をゼミに招いたり、休みを利用して企業訪問することがよくあります。 ③西日本インカレに参加します。 ④卒業研究テーマを選定します。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ】 「組織とヒトのマネジメントに関する基本的考察」 【授業内容】 ①問題意識、文献調査・実地調査、プレゼンテーション、フィードバックを繰り返し行います。 ②報告者は、事前に文献・新聞・ウェブ検索を参考に報告者間での議論をレジュメにまとめます。次に、用意したレジュメをもとにプレゼンテーションを行います。 ③報告者以外の人は、意見・質問等の発言ができるようにプレゼンテーションをしっかり聞いて準備すること。発言等、授業への参画がない場合、欠席扱いにします。 【事前、事後学習課題】 新聞等でのニュースで経営に関する情報を常に入手し、ゼミ等で関わったどの経営現象で説明できるか考察すること。 ゼミでも随時、日経新聞記載のニュースを中心に取り上げ、ディスカッションを行います。 なお、上記を進めるにあたり、不正防止のため研究倫理も併せて指導・教育します。
関連科目	演習Ⅰ、卒業研究

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席、提出物、プレゼンテーション、ディスカッション、参加意欲の総合評価（発言等がない場合、欠席扱いにする場合があります）
学生へのメッセージ	ゼミへの主体的な参加は必須のゼミです。
担当者の研究室等	11号館8F　西之坊研究室
備考	①参考書等については、演習の中で紹介し、必要に応じて購入してもらう場合がある。 ②随時、企業家を招いてディスカッションを行う。招く場合は事前に伝えますので、所属組織について事前調査を必ず行うこと。 ③ゼミ活動は基本的に全員参加することを通じて社会人基礎力を養います。 ④ゼミの懇親会およびゼミ合宿等を行い、集団凝集性を高めます。

科目名	演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	杉本　篤信
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD3056a0		

授業概要・目的	テーマ　経済データの利用 　日本経済に関する様々な問題を分析するため、基本的なデータの利用の仕方をを身に付ける。そして以下のような目標を達成する。 （1）現状をよく知るために、新聞などを読む。 （2）理論的な知識をつけるために、多くの本を読む。 （3）論理的な思考をする。 （4）自分の考えを、口頭で発表する。 （5）形式の整った、内容のあるレポートを書く。 演習１を踏まえて、卒業研究のテーマを決め、研究を深める。
到達目標	自分で問題を設定できる。 　その問題を分析するための情報を収集できる。 　情報、データを有効に活用できる。 　卒業研究の作成の準備を完了する。
授業方法と留意点	【授業内容】 [授業内容] データの意味。利用の仕方。経済の現状の把握。 [授業方法と留意点] テキストを利用した、発表と討論。出席と授業中の発言が、最も重視される。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	日本の企業、経済、社会に関する問題を分析するためのデータを利用する方法やその意義について考えていく。テキストなどの担当項目の報告を通じ、理論的に思考し、また自分の考えを表現する力をつけていく。 上記を進めるにあたり、不正防止のため研究倫理も併せて指導・教育する。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	若者は本当にお金がないのか？－統計データが語る意外な真実－	久我尚子	光文社新書
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高校生からの経済データ入門	吉本佳生	ちくま新書
2			
3			

評価方法（基準）	平常点、授業での取り組み、レポートなどで総合的に評価。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	【学生へのメッセージ】 上にも書いたように、できるだけ多くの本を読むようにしてほしい。基本的知識をつけることは、どのような分野を勉強するにも大事なことである。また自分の考えをまとめ、人に伝える技量をつけてほしい。

科目名	演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	高尾　裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD3056a0		

授業概要・目的	３年間の演習（ゼミナール）の２年目として、「財務諸表を読む」ことに主眼をおく。つまり、財務諸表の分析方法を修得し、その修得した手法を用いて、実際の企業の財務諸表について財務分析を行い、その結果をもとに、当該企業の財務面からみた強味・弱みを自ら判断できる力を養う。 前期・後期とも、グループワークおよびABDなどのアクティブラーニングを取り入れ、、またプレゼンテーションを課すことによって、専門分野におけるコミュニケーション能力の養成にも配慮する。
到達目標	①専門書を輪読し、担当箇所のプレゼンを行うことにより、財務比率など、財務分析の基本的な手法をしっかりと身につける。 ②身につけたそれらの手法を用いて、企業を分析し、自分なりに企業の多様な側面を評価をすることができる。 ③専門分野（当ゼミでは、会計学、コーポレート・ファイナンス、財務分析）に関するアクティブラーニングの手法も一部取り入れることにより、、ディスカッション能力を身に着けることができる。
授業方法と留意点	①については、各自、担当箇所の内容について、パワー・ポイントを用いてプレゼンし、質疑応答を行う。 ②については、各自が選択した企業３社について、エクセルを用いて、実際に財務分析を行う
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	授業テーマは、会計学およびコーポレート・ファイナンスの基礎知識の習得とその応用である。 そのため、一部、グループワーク、ABD も取り入れるとともに、①については、担当者には、レジュメの作成、プレゼンを課す。また担当者以外の者については、質問を課す。それゆえ、取り上げる各章も内容について、事前学習が不可欠である。 ②については、一部、グループワーク、ABD も取り入れるとともに毎回、与える課題に従って作業を行うことになるが、時間内で終了しなかった場合には、次週までに残ったさ作業を終了させておくことという事後学習が必要である。 なお、①におけるプレゼンおよび②における作業内容については、前期・後期の最終授業において講評を行う。 演習Ⅱにおいて身につけた知識と応用能力を、卒業論文に繋げていくことも望ましい。 会計学・ファイナンス分野における不正防止のための研究倫理についても合わせてて取り上げ、指導する。
関連科目	簿記入門、財務諸表論入門、財務会計論、管理会計論、会計情報分析論、企業分析（財務戦略ケース分析）、コーポレート・ファイナンス
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席状況（50%）と課題への取り組み姿勢・態度・課題の進捗状況（50%）にもとづいて評価する。
学生へのメッセージ	毎回のゼミにおいて、少なくとも一つ、新たな理解といった、会計学・ファイナンスに関する発見があるといった形で、一歩一歩、自ら前進するよう努力してほしい。 一部、グループワーク、ADBといったアクティブラーニングを取り入れ、ゼミ生間での積極的なコミュニケーションも期待する。
担当者の研究室等	高尾研究室（１１号館８階）
備考	

科目名	演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	大田　住吉
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD3056a0		

授業概要・目的	・学ぶのは、「戦略」です。演習Ⅱでは、卒業研究および就職後、実社会におけるビジネス・リーダー育成へ向けて、各自の研究ターゲットとなる業界および関連企業等について、徹底的に調査・研究します。 ①前期は、自分の研究ターゲットとする業界または関連企業を絞り込み、文献資料、データ等の先行研究を収集し、各自 10 分程度のプレゼンを実施します。 ②後期は、前期の成果を踏まえ、卒業研究論文「第 2 章　先行研究の課題」の執筆に着手します。 ③当然ながら、これまで演習Ⅰにおいて体験したビジネス・スクール形式の授業（グループディスカッション、プレゼン、質疑応答など）は、演習Ⅱにおいても継続します。つまり、上記②～③は個人作業に加え、グループワークも合わせて実施します。 ・なお、この科目は、「実務経験のある教員による授業科目」です。民間企業、経済団体、シンクタンク等に通算 29 年間勤務し、また経営コンサルタント(中小企業診断士)として 150 社以上の企業経営支援に携わった実務経験を活かし、実践的な授業を行います。
到達目標	・実社会で「戦力」として通用するビジネスリーダーを養成することが、この授業の到達目標です。 ・様々な業界(業種、業態等)の現状、課題およびビジネス戦略について分析し、判断し、表現する、実践的な知識および能力を身につけることが出来ます。
授業方法と留意点	①この授業は、座学ではありません。卒業研究および就職後、実社会におけるビジネス・リーダー育成へ向けて、各自の研究ターゲットとなる業界および関連企業等について、徹底的に調査・研究します。 ②これまで演習Ⅰにおいて体験したビジネススクール形式の授業（グループディスカッション、プレゼン、質疑応答など）は、演習Ⅱにおいても継続します。 ③なお、企業経営、経営戦略等に関連した研究活動における不正防止のための研究倫理教育を併せて実施します。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業の具体的内容は、以下のとおりです。 ＜前期＞ ①約 1,500 の業種別資料の中から、自分の研究ターゲットとする業界または関連企業を複数選択し、文献資料、統計データ、ネット資料等の先行研究を収集します。 ②個人作業に加え、関連業種毎のグループワーク等を通じて、最終的には各自 10 分程度のプレゼンを実施します。 ＜後期＞ ①前期の研究成果を踏まえ、卒業研究論文「第 2 章　先行研究の課題」の執筆に着手します。 ②論文に引用する先行研究を吟味しながら、各自の研究テーマに沿った執筆を進めます。 ③各自の作業進捗度に応じ、さらなる研究深化についての具体的手法を検討します。
関連科目	生産管理論、ＣＳＲ経営論、企業論ほか

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	とくに指定しません		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	各自の研究テーマに応じ、適宜指示します		
2			
3			

評価方法（基準）	・結果が全てですが、そこに至るプロセス（仕事振り）も評価対象とします。 ・個人の研究成果（プレゼン含む）80%、研究への取り組み姿勢およびグループワーク等への貢献度 20%
学生へのメッセージ	・３回生からは、いよいよ「個」の力勝負となります。指導も個人指導が中心となります。 ・プロのビジネスリーダーは、「結果」が全てです。卒業および実社会での活躍を常に念頭に置き、逆算して自身の研究活動に励まれることを期待します。
担当者の研究室等	11 号館 7 階　大田研究室
備考	

科目名	演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	岩坪　加紋
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD3056a0		

授業概要・目的	金融・ファイナンスで扱う事象は、わたしたちの身の回りにある。端的に言えばお金に関する事で、財布の中の現金をはじめ、電子マネーやクレジットカード、銀行、証券会社、保険、国債、株式、資産運用、借入等々、延々と続くお金の通り道で起こる様々な事象を体系的に論じるのが学問としての金融・ファイナンスである。日頃の生活はもちろん、ビジネスとも密接な関係にある。本ゼミでは、そのようなお金に関する事象や問題を『研究・探究』し、金融・ファイナンスの考え方を修得するとともに、客観的な根拠に基づき主張する能力の修得を目的とする。本ゼミ希望者には成績の良し悪しは問わないが、自律的で能動的な姿勢を求めたい。
到達目標	金融・ファイナンスを中心とした経済・経営問題に関心を持ち、客観的視点から問題を把握し、解決する能力を身につけること
授業方法と留意点	本演習では卒業論文の作成を行う。発表・質疑応答形式（プレゼンテーション）で進める。発表の準備をする人はいうまでもないが、聞き手の学生にも積極性を求める。問題意識に沿って資料収集と仮説設定を行い、教員や他の学生との討論を通して問題解決の“コツ”を掴んで欲しい。 また年末には卒研生（4回生）の卒論報告会への参加とルーブリック評価基準に基づく卒論の評価をしてもらう予定である。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	４月から６月にかけてテーマを選定し、順次作成する。１２月末までに８０％の完成を目指す。加えて該当する分野に関連する不正防止のための研究倫理についても合わせて取り上げ、指導・教育する。
関連科目	ミクロ経済学、マクロ経済学、ファイナンス等
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学習態度やプレゼンテーションの出来映えなどを総合的に判断する。
学生へのメッセージ	就職率が高くなったとはいえ、企業の採用スタンスは依然として厳しい。易きに流れるは世の常なれど、後悔するのは自分自身である。その点、覚悟願う。
担当者の研究室等	１１号館８階（岩坪教授室）
備考	

科目名	演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	三木　僚祐
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD3056a0		

授業概要・目的	本演習では、演習Ⅰで学んだことを踏まえて、さらに進んだ管理会計の理論や実務について学ぶ。1980 年代後半以降、伝統的な管理会計の理論や実務の限界が指摘されるようになり、戦略管理会計という新しい管理会計の研究が行われるようになった。そこで、本演習では、この戦略管理会計に焦点を当てて、授業を行う。
到達目標	①　伝統的な管理会計の限界を踏まえて、戦略管理会計の意義を理解する。 ②　ABC やバランスト・スコアカードなど戦略管理会計の諸技法が実務でどのように活用されているのかを知る。
授業方法と留意点	戦略管理会計に関する教科書を用いて授業を行なう。毎回当番を決めて、事前に演習参加者に教科書の内容についてまとめた資料を作成してもらう。その資料を授業中にプレゼンテーションし、発表後は、その内容についてディスカッションを行う。活発な議論を期待する。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	教科書を用いて、授業を進める。毎回の進度は、教科書 1 章分。前期は、戦略管理会計の理論について書かれた教科書を用いて、ABC やバランス・スコアカードなど戦略管理会計の諸技法について学ぶ。後期は、ABC やバランス・スコアカードなどのケース・スタディが書かれた本を教科書として用いて、実務において戦略管理会計の諸技法がどのように活用されているのかを学ぶ。授業での発表者以外の人も、当日の授業内容について事前に自分なりにまとめておくこと(90 分)。また、事後にその日の授業内容について復習もしておくこと(30 分)。加えて、会計分野に関連する不正防止のための研究倫理についても併せて取り上げ、指導教育する。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	発表資料 40%、プレゼン 30%、授業中の態度 30%
学生へのメッセージ	授業の無断欠席や遅刻は認めません。授業には、真剣に取り組んで下さい。また、授業中は、積極的に発言することを期待します。演習参加者全員の努力で、演習での学びを、充実した実りのあるものにしましょう。
担当者の研究室等	11 号館 7 階(三木准教授室)
備考	教科書については第 1 回目の授業の際に指示する。 発表資料の作成の時間は 3 時間程度を考えている。

科目名	演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	呉　重和
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD3056a0		

授業概要・目的	企業（または，世の中で経済活動をおこなう経済主体）に関連する社会問題を発見し，問題を解決する方法を学習し，分析をおこない，わかった知識を発信することを自ら行える能力を習得する。
到達目標	①　研究テーマを決定し，研究目的を明らかにする。 ②　研究目的に関連する背景（新聞記事，関連書籍）を調べる。 ③　研究論文の序論を作成する。（目的，背景，先行研究，予想結果） ④　研究目的が達成できる分析を実施する。 ⑤　簿記関連資格を取得する。 ⑥　将来の夢と希望就職先を具体的に決める。 ⑦　希望就職先に関連する情報を収集する。
授業方法と留意点	演習２では，学生自ら決めた研究テーマを用いて，研究目的，背景，先行研究，分析過程と結果について，プレゼンを行う。また，分析の客観的な根拠となるデータ分析に関する知識について学習する。 ①　ゼミの活動に積極的に参加すること ②　やむを得ない事情を除き，出席すること ③　ディスカッションに積極的に参加すること ④　学内で生じた問題については素早く相談すること
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	＋　前期では， 1. 研究目的，背景，演習①で指定した関連書籍の内容を発表する。 2. データ分析に関する知識について学習する。 3. 希望就職先に関する情報を収集する。 ＋　後期では， 1. 研究目的に合わせた分析を実施し，その結果を報告する。 2. 就職活動について，就職部，先輩の話を伺い，希望就職先を具体化する。 ＋　データ分析については，事前に課題などが提示される。提示された課題については，報告者でなくても事前に内容を読んでおき，わからない用語等を調べるなどし，ディスカッションに参加できるようにする。（詳細な計画については初日の演習で告知する）
関連科目	経営学に関連する授業全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特に指定しない		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門経営分析	倉田三郎	同文館出版
2	なぜ、会計嫌いのあいつが会社の数字に強くなった？	村上裕太郎	東洋経済新聞社
3	ビジネススクールで教える経営分析	太田康弘	日経文庫

評価方法（基準）	研究論文の序論作成 30% 分析内容の報告 30% 毎回のゼミ参加，グループワーク・ディスカッションのへの参加，発表，報告，などの総合評価 40%
学生へのメッセージ	ゼミは教員主導の講義ではなく，学生主導の学習の場であります。教員はあくまでも学習の補助者であります。皆さんが希望するゼミ活動があれば積極的に提案し，参加するなど，イメージしていたゼミを作り上げていきましょう。
担当者の研究室等	11 号館 7 階
備考	課題の提出は DROPBOX を利用します。提出課題については，DROPBOX でフィードバックする予定です。

科目名	応用簿記	科目名（英文）	Applied Bookkeeping
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高尾　裕二
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	１年次の「簿記入門」の内容をさらに発展させた簿記論・会計学の知識と能力を習得する。２級の商業簿記を修得することは、実際の企業の経理業務を行うにたるかなりの知識を有することを意味する。
到達目標	平成３１年度以降の日本商工会議所簿記検定２級（商業簿記）レベルの簿記論・会計学の知識と応用能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	全体としてかなりのボリュームになることから、商業簿記３級では全く取り上げらず、商業簿記２級で初めて取り上げられるテーマを優先する。本講義は演習形式で行う。毎回、演習問題と解答例を配布する。毎回の取り上げるテーマの説明・解説はごく簡潔なものに止め、教科書での事前の「予習「」を前提に、毎回、ほとんどの時間を記帳練習に充てる。事前の「予習」がなければ、その時間を有意義なものにすることができない点に特に注意してほしい。質問は歓迎する。解答に向けた受講生同士のディスカッションも認める。毎回、電卓を必ず持参すること。
科目学習の効果（資格）	日本商工会議所簿記検定２級の合格を目指す。 ただし、同検定２級に合格するには、本講義に加えて、２級工業簿記も習得する必要がある。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション―「簿記一巡の手続と財務諸表」	簿記一巡の手続を復習し、全体の流れを改めて確認する。加えて、授業の進め方、評価方法等について説明する。配布するワークブックの第１章の問題に取り組む。	「簿記入門」で学んだ「全体の会計処理の流れ」を改めて復習認する。教科書の第１章をしっかり「予習」しておくこと（1.5 時間）。また質問があれば準備しておくこと。
2	現金預金	配布するワークブックの第２章の問題に取り組む。	教科書の第２章をしっかり「予習」しておくこと（1.5 時間）。また質問があれば準備しておくこと。解答例の配布後、正答を確認し、間違った問題・未完成の問題は確実に仕上げておくこと（1.5 時間）
3	手形	配布するワークブックの第３章の問題に取り組む。	教科書の第３章をしっかり「予習」しておくこと（1.5 時間）。また質問があれば準備しておくこと。解答例の配布後、正答を確認し、間違った問題・未完成の問題は確実に仕上げておくこと（1.5 時間）
4	有価証券	配布するワークブックの第 4 章の問題に取り組む。	教科書の第４章をしっかり「予習」しておくこと（1.5 時間）。また質問があれば準備しておくこと。解答例の配布後、正答を確認し、間違った問題・未完成の問題は確実に仕上げておくこと（1.5 時間）
5	その他の債権・債務	配布するワークブックの第 5 章の問題に取り組む。	教科書の第５章をしっかり「予習」しておくこと（1.5 時間）。また質問があれば準備しておくこと。解答例の配布後、正答を確認し、間違った問題・未完成の問題は確実に仕上げておくこと（1.5 時間）
6	商品売買	配布するワークブックの第６章の問題に取り組む。	教科書の第６章をしっかり「予習」しておくこと（1.5 時間）。また質問があれば準備しておくこと。解答例の配布後、正答を確認し、間違った問題・未完成の問題は確実に仕上げておくこと（1.5 時間）
7	固定資産	配布するワークブックの第７章の問題に取り組む。	教科書の第７章をしっかり「予習」しておくこと(1.5 時間)。また質問があれば準備しておくこと。 解答例の配布後、正答を確認し、間違った問題・未完成の問題は確実に仕上げておくこと（1.5 時間）
8	引当金	配布するワークブックの第８章の問題に取り組む。	教科書の第８章をしっかり「予習」しておくこと（1.5 時間）。また質問があれば準備しておくこと。解答例の配布後、正答を確認し、間違った問題・未完成の問題は確実に仕上げておくこと（1.5 時間）
9	収益・費用	配布するワークブックの第９章の問題に取り組む。	教科書の第９章をしっかり「予習」しておくこと（1.5 時間）。また質問があれば準備しておくこと。解答例の配布後、正答を確認し、間違った問題・未完成の問題は確実に仕上げておくこと（1.5 時間）
10	株式会社の純資産（資本）	配布するワークブックの第 10 章の問題に取り組む。	教科書の第 10 章をしっかり「予習」しておくこと（1.5 時間）。また質問があれば準備しておくこと。解答例の配布後、正答を確認し、間違った問題・未完成の問題は確実に仕上げておくこと（1.5 時間）
11	税金	配布するワークブックの第 11 章の問題に取り組む。	教科書の第 11 章をしっかり「予習」しておくこと（1.5 時間）。また質問があれば準備しておくこと。解答例の配布後、正答を確認し、間違った問題・未完成の問題は確実に仕上げておくこと（1.5 時間）
12	リース会計	配布するワークブックの第 12 章の問題に取り組む。	教科書の第 12 章をしっかり「予習」しておくこと（1.5 時間）。また質問があれば準備しておくこと。解答例の配布後、正答を確認し、間違った問題・未完成の問題は確実に仕上げておくこと（1.5 時間）
13	外貨建取引	配布するワークブックの第 13 章の問題に取り組む。	教科書の第 13 章をしっかり「予習」しておくこと（1.5 時間）。また質問があれば準備しておくこと。解答例の配布後、正答を確認し、間違った問題・未完成の問題は確実に仕上げておくこと（1.5 時間）
14	税効果会計	配布するワークブックの第 14 章の問題に取り組む。	教科書の第 14 章をしっかり「予習」しておくこと（1.5 時間）。また質問があれば準備しておくこと。解答例の配布後、正答を確認し、間違った問題・未完成の問題は確実に仕上げておくこと（1.5 時間）
15	本支店会計	配布するワークブックの第 16 章の問題に取り組む。	教科書の第 16 章をしっかり「予習」しておくこと（1.5 時間）。また質問があれば準備しておくこと。解答例の配布後、正答を確認し、間違った問題・未完成の問題は確実に仕上げておくこと（1.5 時間）

関連科目	簿記入門、財務諸表論入門、財務会計論
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	検定簿記講義／2 級商業簿記（平成 31 ページ年度版）あるいは最新版	渡部裕亘／片山覚／北村敬子	中央経済社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験　９５%、中間時点における演習レポートの提出（事前に通知する）５%
学生へのメッセージ	「簿記入門」の知識を前提としたとしても、商業簿記２級で新たに求められる知識量はかなり多い。よって、各テーマごとに多少の相違はあるが、各授業時間内で問題を完全に仕上げることが困難なことも多い。事前の「予習」に加えて、事後の「復習」が不可欠である。いずれにせよ、かなハードであるとをあらかじめ念頭においておくこと。 演習問題に熱心に取り組むこと。取り組みにあたっては、他の学生に迷惑にならない範囲での学生同士のディスカッションは認める。分からない箇所は積極的に質問すること
担当者の研究室等	高尾研究室（１１号館８階）
備考	講義の内容が前後するなど変更等がある時は、可能な限り事前に伝える。 これまでの理解度を測るための中間時点で提出を求める演習レポートについては、結果を公表し、正解率の低い問題については改めて説明する。

科目名	会計学入門	科目名（英文）	Intoroduction to Accounting
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐井　英子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	会計情報は、債権者や投資家など特定の人々にのみ有用なものではない。今日の経済社会においては、すべての人々が企業活動と何らかの関係を持っている。企業は、地域社会をはじめ多くの関係者と利害関係を有しており、会計情報は、誰にとっても必要で有用な情報である。また、会計はビジネスの言語といわれ、ビジネスに不可欠になっている。会計を知らずして、経済社会を理解することはできないといえる。本講義では、会計の意義、目的、規範、会計情報開示制度等に関する基礎的知識・用語を初心者向けに分かり易く解説し、公表されている会計情報、財務諸表をから企業の経営内容を読み取り、理解できるようになり、また、2年生以降に履修することになる上級科目のより円滑な理解に結びつくことを目的とする。
到達目標	・会計の目的、役割を理解する。 ・我が国の会計制度、会計情報開示制度の概要を理解する。 ・自ら必要な会計情報を入手できるようになる。 ・財務諸表の内容、作成ルールを理解し、会計情報から企業内容を推察することができる。
授業方法と留意点	・配布資料にに基づいて解説し、その後、講義内容を確認するために、グループワーク、または個人で、課題を解き、自分たちの解をプレゼンテーションし、授業終了後に提出する。
科目学習の効果（資格）	・ビジネスマンとして必要なビジネス言語である会計リテラシィーが修得できる。 ・組織（主として企業）に関する会計情報を読み取る力を修得することにより２年次以降の学びに有用できる。 ・経営学部に関連する一連の各種資格取得のための受験準備スタートのよい契機になる。 ・会計と資格、職業についての理解が得られる。（公認会計士、税理士、国税専門官、不動産鑑定士、中小企業診断士等）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	会計の意義と目的	会計の意義、財務会計と管理会計、会計の役割・機能	配布資料の復讐と整理（1 時間）
2	わが国の会計制度	トライアングル体制、会社法会計、金融商品取引法会計、税務会計	事前学習（30 分） 前回の講義、練習問題の復習 事後学習（1 時間） 当日の配布資料、練習問題 の見直し
3	会計情報開示制度	ディスクロージャーとは、電子開示システム	事前学習（30 分） 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(1 時間) 当日の配布資料、練習問題 の見直し
4	会計基準	企業会計原則、会計基準の国際的統合	事前学習(30 分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習（1 時間） 当日の配布資料、練習問題 の見直し
5	会計情報の内容（1）	会計情報の入手方法、個別財務諸表と連結財務諸表	事前学習(30 分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習（90 分） 当日の配布資料の見直しと提示された課題レポートの作成
6	会計情報の内容（2）	貸借対照表 様式、基本原則、分類基準	事前学習(30 分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(1 時間) 当日の配布資料、練習問題 の見直し
7	会計情報の内容（3）	貸借対照表 資産について	事前学習（30 分） 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(90 分) 当日の配布資料の見直しと提示された課題レポートの作成
8	会計情報の内容（4）	貸借対照表 負債について	事前学習（30 分） 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(1 時間) 当日の配布資料、練習問題 の見直し
9	会計情報の内容（5）	貸借対照表 純資産について	事前学習(30 分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習（1 時間） 当日の配布資料、練習問題の見直し
10	まとめと確認テスト	まとめと小テスト	事前学習（９０分） 今までの配付資料、練習問題の復習 事後学習（３０分） まとめテストの見直し
11	会計情報の内容（6）	損益計算書 収益の認識と測定	事前学習(30 分) まとめてストで理解できないところを調べる 事後学習(1 時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し の見直し
12	会計情報の内容（7）	損益計算書 費用の認識と測定	事前学習(30 分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(1 時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
13	会計情報の内容（8）	損益計算書	事前学習(30 分)

		営業損益、経常損益、純損益	前回の講義、練習問題の復習 事後学習(90 分) 当日の配布資料の見直しと提示された課題レポートの作成
14	会計と職業・資格	日商簿記検定、ビジネス会計検定試験、BATIC、公認会計士、税理士、国税専門官、不動産鑑定士、中小企業診断士	事前学習(30 分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習（1 時間） 当日の配布資料、練習問題の見直し
15	まとめ	講義の復習とまとめ 質問の受付	事前学習（1 時間） 今までの講義でどこが理解できていないか箇条書きにする。 事後学習（5 時間） 試験に備え、今までの復習

関連科目	経営学、企業簿記

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	アカウンティング	笹倉　淳史他	同分館出版
2	１からの会計	桜井　久勝	中央経済社
3			

評価方法 （基準）	授業への参加と課題の提出（３０％）、確認テスト（２０％）、定期テスト（５０％）
学生への メッセージ	毎回授業に出席して下さい。
担当者の 研究室等	佐井研究室（１１号館８階）
備考	

科目名	会計情報分析論	科目名（英文）	Financial Statements Analysis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	呉　重和
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2034a0		

授業概要・目的	企業の経営活動は会計情報（財務諸表）として記録され，報告され，会計情報を理解すれば，企業の利益獲得の仕組みが理解できる。本講座では，貸借対照表と損益計算書の２つの財務諸表を用いて，企業がどのように経営活動をおこない，利益を生み出しているのかについて学習する。
到達目標	①　企業活動を理解するために最低限必要とする会計の基礎知識が習得できる。 ②　その知識を用いて企業の問題点を把握・評価できる。 ③　経営者の観点から、改善策を提案できる。
授業方法と留意点	①貸借対照表，②損益計算書，③貸借対照表と損益計算書，の３つのテーマに分けて講義を進める。各テーマについては講義後，グループワークを３回実施する。グループワークの内容は，与えられる問題に解答した後，各テーマに関連する問題点と改善策についてグループ内で議論し，指定用紙にその内容を書いて提出する。また，第１回と２回のグループワークの内容は，報告資料を作成し，プレゼンテーションを実施する予定である。グループ内でディスカッションを行い，課題を解決する必要があるため，グループワークに積極的に参加することが望ましい。 科目の性格上，計算問題を解くことがある。電卓などを持参してほしい。
科目学習の効果（資格）	中小企業診断士，証券アナリスト，ファイナンシャルプランナー，簿記検定など，会計関連資格取得に必要な基礎知識を提供する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	資金の流れと財務諸表	資金の流れと財務諸表の関係について理解する。	・配布資料と講義計画を読み，講義全体の構成を把握する。(30 分)
2	貸借対照表	経営活動の準備物リストについて把握する。EDINET を利用し，企業の有価証券報告書を入手する。	・予習資料の該当内容を読み，簡単な計算問題を解く。(30 分) ・関心企業を選定し，貸借対照表を入手し，経営者の立場で資産の状態を把握する。(30 分)
3	百分率貸借対照表と推移比分析	企業の財政状態と安全性について評価する。百分率貸借対照表の作成と推移比分析を行う。また，流動比率，固定比率，自己資本比率の 3 つの安全性指標を計算する。	・予習資料の該当内容を読み，簡単な計算問題を解く。(30 分) ・関心企業の安全性指標を計算する。(30 分)
4	貸借対照表と安全性指標	企業の安全性を改善する方法について検討・考察する。	・予習資料の該当内容を読み，簡単な計算問題を解く。(30 分) ・関心企業の安全性を高める改善策を提案する。(30 分)
5	安全性と改善策①	同産業内の企業２社を選定し，同時点の貸借対照表を入手し，グループワークを実施する。	・貸借対照表に関連するレジュメの内容を復習する。(60 分) ・選定企業の安全性を評価し，改善する方法について議論する。(60 分)
6	安全性と改善策②	グループワークの内容を用いて報告資料を作成し，安全性を改善する方法についてプレゼンテーションする。	・選定企業の貸借対照表の内容を確認する。(30 分) ・報告時，答えられなかった質問について確認・議論する。(60 分)
7	損益計算書	一定期間の経営成績をあらわす損益計算書について理解する。収益のみ，または，利益のみでは把握できない経営成績について考察する。	・予習資料の該当内容を読み，簡単な計算問題を解く。(30 分) ・関心企業の損益計算書を入手し，経営者の立場から企業の経営成績について把握する。(30 分)
8	百分率損益計算書と利益率	損益計算書を用いて企業の経営成績を把握する。百分率損益計算書を作成する。	・予習資料の該当内容を読み，簡単な計算問題を解く。(30 分) ・関心企業の百分率損益計算書を作成する。(30 分)
9	産業別損益計算書	産業内競争相手との比較分析をおこなう。産業別損益計算書の特徴について理解する。	・予習資料の該当内容を読み，簡単な計算問題を解く。(30 分) ・関心企業の同業他社の損益計算書を入手し，比較する。(30 分)
10	収益性と改善策①	利益率が高いと予想される産業の企業２社を選定し，損益計算書を入手し、グループワークを実施する。	・損益計算書に関連するレジュメの内容を復習する。(60 分) ・選定企業の収益性を評価し，改善する方法について議論する。(60 分)
11	収益性と改善策②	グループワークの内容を用いて報告資料を作成し，収益性を改善する方法についてプレゼンテーションする。	・選定企業の尊敬計算書の内容を確認する。(30 分) ・報告時，答えられなかった質問について確認・議論する。(60 分)
12	投下資本利益率	貸借対照表と損益計算書の両方を用いた収益性分析について学習する。	・予習資料の該当内容を読み，簡単な計算問題を解く。(30 分) ・関心企業の貸借対照表と損益計算書の内容を確認する。(30 分)
13	投下資本利益率の要因分解	投下資本利益率を分解し、要因分析を実施する。	・予習資料の該当内容を読み，簡単な計算問題を解く。(30 分) ・関心企業の投下資本利益率を計算し，分解する。(30 分)
14	収益性と効率性①	企業１社の３年分の貸借対照表と損益計算書を入手し，グループワークを実施する。	・これまでのレジュメの内容を復習する。(60 分) ・選定企業の投下資本利益率を評価し，分解する。(60 分)
15	収益性と効率性②	ROA を改善する方法についてグループ内でディスカッションし，提案する。	・これまでのグループワークの内容を確認する。(30 分) ・投下資本利益率を改善する方法について議論し，提案する。(60 分)

関連科目	企業簿記（簿記入門），財務会計論，管理会計論，企業分析（財務戦略ケース分析）など
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	特に指定しないが、以下の参考書の内容を反映し，各テーマについてレジュメを配布する。また，初回に講義全体の内容に関連する予習資料を配布する。		
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネス・アカウンティング	山根節・太田康広・村上祐太郎	中央経済社
2	財務諸表分析	桜井久勝	中央経済社
3	財務諸表分析	乙政正太	同文館出版

評価方法（基準）

基準①：グループワーク 40%＋プレゼンテーション 20%＋定期試験 40%＝100%
基準②：定期試験 80%
+ グループワーク（1 回 10%，2 回 10%，3 回 20%）：配布する解答用紙に，与えられる課題について回答する。
+ プレゼンテーション（2 回×10%）：第 1 回と 2 回のグループワークの課題を報告資料にまとめ，プレゼンテーションする。
+ 定期試験（40% or 80%）：予習資料＋グループワーク＋レジュメの内容を反映した定期試験
+ 基準②は，やむを得ない事情でグループワークなどに参加できなかった方のための基準です。基準①を基本的に適用します。
+ 出席率が全体講義の 3 分の 2 を満たさない場合，成績評価対象外とします。

学生へのメッセージ

会計情報分析論では，経営者の立場から，企業経営の問題点について検討し，改善策を提案できることを目標とする。経営者になる・なったつもりで講義に挑んでほしい。

担当者の研究室等

11 号館 7 階

備考

グループワークで解決した課題については，事前に解答用紙を配布し，各グループで 1 部のみを提出してもらいます。複数の解答用紙を作成し，提出しなかった課題用紙は復習の材料として活用してください。各グループの評価結果については，最終回の講義で公表します。また，報告資料については，ホワイトシートなどを利用して作成してもらい，回収しますが，必要であるグループは申し出てください。申し出たグループの報告資料については採点後返却します。

科目名	会社法	科目名（英文）	Corporate Law
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高田　尚彦
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IDD3050a0		

授業概要・目的	会社法（会社法Ｉ）では、各種会社のうち株式会社を中心に会社法の講義を行います。株式会社の設立、株式、株式会社の機関について、その基本的な制度および概念を理解することに主眼を置き、理解しやすいように具体例を示しながら解説します。もちろん、法律科目であるから、条文についても適宜参照し、理解を深めることができるように説明を行います。
到達目標	この授業を通じて学生には、会社法における各種会社の概念を理解し、その構成員たる社員の責任について異同点を理解し、とくに株式会社における株主の権利や会社の機関とその役割について理解するようになることが期待される。 その際には、必ず条文を確認して、理解するように努めること。
授業方法と留意点	会社法の教科書に合わせて授業を進行します。必要に応じて補足資料を配布します。
科目学習の効果（資格）	会社就職後に必要な知識を習得できるとともに、各種試験（法学検定、法科大学院、公務員、公認会計士など）の対策となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション、会社法総論	授業内容、授業の進め方、評価方法についての説明。 会社法の概要、会社の概念、会社の種類、会社法総則。	教科書 p. 1～p. 19 を読んでおくこと。（約 60 分）
2	株式会社の設立	株式会社の設立総説、設立手続、設立の無効。	教科書 p. 20～p. 37 を読んでおくこと。（約 60 分）
3	株式（１）	株式総説、株主名簿、株式の譲渡。	教科書 p. 37～p. 47 を読んでおくこと。（約 60 分）
4	株式（２）	自己株式、株式の併合・分割・無償割当て、単元株式数、募集株式の発行、株券。	教科書 p. 47～p. 60 を読んでおくこと。（約 60 分）
5	新株予約権	新株予約権の意義、新株予約権原簿、新株予約権の譲渡。	教科書 p. 60～p. 65 を読んでおくこと。（約４５分）
6	株式会社の機関（１）	株式会社の機関総説、株主総会、種類株主総会。	教科書 p. 66～p. 83 を読んでおくこと。（約 60 分）
7	株式会社の機関（２）	役員等の選任および終任、取締役、取締役会、会計参与、監査役・監査役会、会計監査人。	教科書 p. 83～p. 115 を読んでおくこと。（約 60 分）
8	株式会社の機関（３）	指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社。	教科書p. 115～p. 122 を読んでおくこと。(約４５分)
9	役員等の責任、株主による役員等の責任追及訴訟	役員等の責任、株主の差止請求権、株主代表訴訟、多重代表訴訟。	教科書 p. 122～p. 137 を読んでおくこと。(約 60 分)
10	計算、定款の変更、解散、清算	会計帳簿、計算書類、資本金と準備金、剰余金の配当、定款の変更、解散原因、解散の効果、通常清算、特別清算。	教科書 p. 137～p. 156 を読んでおくこと。(約 60 分)
11	持分会社	持分会社の設立、社員、計算等。	教科書 p. 157～p. 175 を読んでおくこと。(約 60 分)
12	社債	社債の種類、社債の発行、社債権者の権利、社債権者集会。	教科書 p. 176～p. 186 を読んでおくこと。(約 60 分)
13	組織再編（１）	組織再編総説、合併の手続き、簡易合併、合併無効の訴え、合併対価の柔軟化、会社分割の意義、吸収分割と新設分割、分割手続、会社分割無効の訴え。	教科書 p. 187～p. 205 を読んでおくこと。(約 60 分)
14	組織再編（２）	株式交換の意義、手続、株式交換の無効の訴え、株式移転の意義、手続、株式移転の無効の訴え、事業譲渡、事業の譲受け、組織変更。	教科書 p. 205～p. 213 を読んでおくこと。(約 60 分)
15	外国会社・雑則、会社法まとめ	外国会社、会社の解散命令、公告、会社法の総括。	教科書 p. 214～p. 223 を読んでおくこと。 会社法で学習したことを見直しておくこと。（約５時間）

関連科目	民法、商法。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	会社法の基礎	加藤徹・伊勢田道仁編	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として、定期試験の結果によって評価する（７０%）。 その他出席状況・講義中の発言・小テストなども加味する（３０%）。
学生へのメッセージ	会社法は、条文が多く複雑な印象を受けますが、理解が進むにつれて経済に深く関わる新聞記事も理解できるようになってきます。積極的に授業に参加し、基本的知識を習得してください。最新版六法を必携のこと。
担当者の研究室等	11 号館６階　法学部事務室
備考	授業内の小テストについては、当該授業か次の授業内で解説をする。 授業時間外の質問はメールにて受け付けて、後日回答する。 n-takada@pp.iij4u.or.jp まで、件名に科目名・学籍番号・氏名を入れて送信すること。

科目名	会社法Ⅰ	科目名（英文）	Corporate Law Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高田　尚彦
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	会社法（会社法Ⅰ）では、各種会社のうち株式会社を中心に会社法の講義を行います。株式会社の設立、株式、株式会社の機関について、その基本的な制度および概念を理解することに主眼を置き、理解しやすいように具体例を示しながら解説します。もちろん、法律科目であるから、条文についても適宜参照し、理解を深めることができるように説明を行います。
到達目標	この授業を通じて学生には、会社法における各種会社の概念を理解し、その構成員たる社員の責任について異同点を理解し、とくに株式会社における株主の権利や会社の機関とその役割について理解するようになることが期待される。 その際には、必ず条文を確認して、理解するように努めること。
授業方法と留意点	会社法の教科書に合わせて授業を進行します。必要に応じて補足資料を配布します。
科目学習の効果（資格）	会社就職後に必要な知識を習得できるとともに、各種試験（法学検定、法科大学院、公務員、公認会計士など）の対策となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション、会社法総論	授業内容、授業の進め方、評価方法についての説明。 会社法の概要、会社の概念、会社の種類、会社法総則。	教科書 p. 1～p. 19 を読んでおくこと。（約 60 分）
2	株式会社の設立	株式会社の設立総説、設立手続、設立の無効。	教科書 p. 20～p. 37 を読んでおくこと。（約 60 分）
3	株式（１）	株式総説、株主名簿、株式の譲渡。	教科書 p. 37～p. 47 を読んでおくこと。（約 60 分）
4	株式（２）	自己株式、株式の併合・分割・無償割当て、単元株式数、募集株式の発行、株券。	教科書 p. 47～p. 60 を読んでおくこと。（約 60 分）
5	新株予約権	新株予約権の意義、新株予約権原簿、新株予約権の譲渡。	教科書 p. 60～p. 65 を読んでおくこと。（約４５分）
6	株式会社の機関（１）	株式会社の機関総説、株主総会、種類株主総会。	教科書 p. 66～p. 83 を読んでおくこと。（約 60 分）
7	株式会社の機関（２）	役員等の選任および終任、取締役、取締役会、会計参与、監査役・監査役会、会計監査人。	教科書 p. 83～p. 115 を読んでおくこと。（約 60 分）
8	株式会社の機関（３）	指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社。	教科書p. 115～p. 122 を読んでおくこと。(約４５分)
9	役員等の責任、株主による役員等の責任追及訴訟	役員等の責任、株主の差止請求権、株主代表訴訟、多重代表訴訟。	教科書 p. 122～p. 137 を読んでおくこと。(約 60 分)
10	計算、定款の変更、解散、清算	会計帳簿、計算書類、資本金と準備金、剰余金の配当、定款の変更、解散原因、解散の効果、通常清算、特別清算。	教科書 p. 137～p. 156 を読んでおくこと。(約 60 分)
11	持分会社	持分会社の設立、社員、計算等。	教科書 p. 157～p. 175 を読んでおくこと。(約 60 分)
12	社債	社債の種類、社債の発行、社債権者の権利、社債権者集会。	教科書 p. 176～p. 186 を読んでおくこと。(約 60 分)
13	組織再編（１）	組織再編総説、合併の手続き、簡易合併、合併無効の訴え、合併対価の柔軟化、会社分割の意義、吸収分割と新設分割、分割手続、会社分割無効の訴え。	教科書 p. 187～p. 205 を読んでおくこと。(約 60 分)
14	組織再編（２）	株式交換の意義、手続、株式交換の無効の訴え、株式移転の意義、手続、株式移転の無効の訴え、事業譲渡、事業の譲受け、組織変更。	教科書 p. 205～p. 213 を読んでおくこと。(約 60 分)
15	外国会社・雑則、会社法まとめ	外国会社、会社の解散命令、公告、会社法の総括。	教科書 p. 214～p. 223 を読んでおくこと。 会社法で学習したことを見直しておくこと。（約５時間）

関連科目	民法、商法。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	会社法の基礎	加藤徹・伊勢田道仁編	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として、定期試験の結果によって評価する（７０%）。 その他出席状況・講義中の発言・小テストなども加味する（３０%）。
学生へのメッセージ	会社法は、条文が多く複雑な印象を受けますが、理解が進むにつれて経済に深く関わる新聞記事も理解できるようになってきます。積極的に授業に参加し、基本的知識を習得してください。最新版六法を必携のこと。
担当者の研究室等	11 号館６階　法学部事務室
備考	授業内の小テストについては、当該授業か次の授業内で解説をする。 授業時間外の質問はメールにて受け付けて、後日回答する。 n-takada@pp.iij4u.or.jp まで、件名に科目名・学籍番号・氏名を入れて送信すること。

科目名	会社法Ⅱ	科目名（英文）	Corporate Law　II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高田　尚彦
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	会社法Ⅱでは、各種会社のうち株式会社を中心に会社法の講義を行います。株式会社の設立、株式、株式会社の機関について、その基本的な制度および概念を理解することに主眼を置き、理解しやすいように具体例を示しながら解説します。もちろん、法律科目であるから、条文についても適宜参照し、理解を深めることができるように説明を行います。
到達目標	この授業を通じて学生には、会社法における各種会社の概念を理解し、その構成員たる社員の責任について異同点を理解し、とくに株式会社における株主の権利や会社の機関とその役割について理解するようになることが期待される。 その際には、必ず条文を確認して、理解するように努めること。
授業方法と留意点	会社法の教科書に合わせて授業を進行します。必要に応じて補足資料を配布します。
科目学習の効果（資格）	会社就職後に必要な知識を習得できるとともに、各種試験（法学検定、法科大学院、公務員、公認会計士など）の対策となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション、会社法総論	授業内容、授業の進め方、評価方法についての説明。 会社法の概要、会社の概念、会社の種類、会社法総則。	教科書 p. 1～p. 19 を読んでおくこと。（約 60 分）
2	株式会社の設立	株式会社の設立総説、設立手続、設立の無効。	教科書 p. 20～p. 37 を読んでおくこと。（約 60 分）
3	株式（１）	株式総説、株主名簿、株式の譲渡。	教科書 p. 37～p. 47 を読んでおくこと。（約 60 分）
4	株式（２）	自己株式、株式の併合・分割・無償割当て、単元株式数、募集株式の発行、株券。	教科書 p. 47～p. 60 を読んでおくこと。（約 60 分）
5	新株予約権	新株予約権の意義、新株予約権原簿、新株予約権の譲渡。	教科書 p. 60～p. 65 を読んでおくこと。（約４５分）
6	株式会社の機関（１）	株式会社の機関総説、株主総会、種類株主総会。	教科書 p. 66～p. 83 を読んでおくこと。（約 60 分）
7	株式会社の機関（２）	役員等の選任および終任、取締役、取締役会、会計参与、監査役・監査役会、会計監査人。	教科書 p. 83～p. 115 を読んでおくこと。（約 60 分）
8	株式会社の機関（３）	指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社。	教科書p. 115～p. 122 を読んでおくこと。(約４５分)
9	役員等の責任、株主による役員等の責任追及訴訟	役員等の責任、株主の差止請求権、株主代表訴訟、多重代表訴訟。	教科書 p. 122～p. 137 を読んでおくこと。(約 60 分)
10	計算、定款の変更、解散、清算	会計帳簿、計算書類、資本金と準備金、剰余金の配当、定款の変更、解散原因、解散の効果、通常清算、特別清算。	教科書 p. 137～p. 156 を読んでおくこと。(約 60 分)
11	持分会社	持分会社の設立、社員、計算等。	教科書 p. 157～p. 175 を読んでおくこと。(約 60 分)
12	社債	社債の種類、社債の発行、社債権者の権利、社債権者集会。	教科書 p. 176～p. 186 を読んでおくこと。(約 60 分)
13	組織再編（１）	組織再編総説、合併の手続き、簡易合併、合併無効の訴え、合併対価の柔軟化、会社分割の意義、吸収分割と新設分割、分割手続、会社分割無効の訴え。	教科書 p. 187～p. 205 を読んでおくこと。(約 60 分)
14	組織再編（２）	株式交換の意義、手続、株式交換の無効の訴え、株式移転の意義、手続、株式移転の無効の訴え、事業譲渡、事業の譲受け、組織変更。	教科書 p. 205～p. 213 を読んでおくこと。(約 60 分)
15	外国会社・雑則、会社法まとめ	外国会社、会社の解散命令、公告、会社法の総括。	教科書 p. 214～p. 223 を読んでおくこと。 会社法で学習したことを見直しておくこと。（約５時間）

関連科目	民法、商法。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	会社法の基礎	加藤徹・伊勢田道仁編	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として、定期試験の結果によって評価する（７０%）。 その他出席状況・講義中の発言・小テストなども加味する（３０%）。
学生へのメッセージ	会社法は、条文が多く複雑な印象を受けますが、理解が進むにつれて経済に深く関わる新聞記事も理解できるようになってきます。積極的に授業に参加し、基本的知識を習得してください。最新版六法を必携のこと。
担当者の研究室等	11 号館６階　法学部事務室
備考	授業内の小テストについては、当該授業か次の授業内で解説をする。 授業時間外の質問はメールにて受け付けて、後日回答する。 n-takada@pp.iij4u.or.jp まで、件名に科目名・学籍番号・氏名を入れて送信すること。

科目名	環境と経営	科目名（英文）	Environmental Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	井上　尚之
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	日本における環境経営を歴史的に辿ると、「環境経営」⇒「ＣＳＲ経営」⇒「サステナビリティ経営」という系譜である。本講義では、この歴史的流れを追うと共に、サステナビリティ経営とは何かを探る。
到達目標	サステナビリティ経営に関して自分なりの意見が言え、プレゼンテーションするレベルを目指す。
授業方法と留意点	授業中に教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う双方向の授業を目指す。
科目学習の効果（資格）	サステナビリティ経営を学ぶことによって、経営の基礎及び企業の CSR 部門における必須知識の獲得を目指す。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第 1 回　日米の環境政策の歴史	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
2	第 2 回　日本における環境経営の本格開始―ISO14001:1996 発行	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
3	第 3 回　トヨタの環境経営	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
4	第 4 回　３Ｒからゼロエミッションへ	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
5	第 5 回　環境経営とサスティナビリティ経営の相違	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
6	第 6 回　社会的な影響に配慮するとはどういうことか―トリプルボトムラインの登場	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
7	第 7 回　2003 年は日本のＣＳＲ元年	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
8	第 8 回　ISO26000 とサステナビリティ経営―ＣＳＲの国際規格 ISO26000 の発行	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
9	第 9 回　ISO26000 の社会的責任を果たすための 7 つの原則	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
10	第 10 回　社会的責任の 7 つの中核主題	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
11	第 11 回　組織にとっての ISO26000 を順守するメリットは何か？	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
12	第 12 回　ISO26000 の具体例	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
13	第 13 回　中小企業に ISO26000 を広め、定着させる企業市民制度	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
14	第 14 回　ＧＲＩとは何か？	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
15	第 15 回　国連主導のＣＳＲ―ＳＤＧｓ	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する（９０分）。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	サステナビリティ経営	井上尚之	大阪公立大学共同出版会

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	積極的授業参加・発表・レポートが４５％、定期試験が５５％
学生へのメッセージ	サステナビリティ経営・環境経営は今や企業の常識となっています。この講義で環境経営の概要を知ることが重要です。
担当者の研究室等	
備考	レポートは採点して返却。

科目名	管理会計論Ⅰ	科目名（英文）	Management AccountingI
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	三木　僚祐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2032a0		

授業概要・目的	管理会計は、企業内部の各階層の経営管理者が適切な意思決定や業績管理を行う上で役に立つ会計情報の提供を目的とする会計領域である。本講義では、管理会計の意義・役割について学んだ上で、標準原価計算や予算管理など伝統的な管理会計の諸技法の基礎知識を身につける。
到達目標	日商簿記検定２級レベル以上の工業簿記・原価計算の知識(戦略の策定と遂行のための原価計算を除く)を身につける。
授業方法と留意点	教科書を用いて講義形式で授業を進める。また、受講者の理解度を知るため、授業の最後に毎回小テスト(15 分程度)を行う予定である。教科書を用いて授業を行うが、必要に応じて適宜補助プリントを配布する。授業中に電卓を用いることがあるので、常に電卓を持参すること。
科目学習の効果（資格）	日商簿記検定２級以上や公認会計士試験の受験のための基礎となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスおよび原価計算の基本事項の確認	授業内容・授業の進め方・評価基準等についての説明、原価計算の基本事項の確認	事前：教科書の「第１章　原価計算の意義」を読んでおく(1 時間)。 事後：教科書の「第１章　原価計算の意義」の内容をノートに整理する(30 分)
2	管理会計の意義(1)	企業会計とは何か、財務会計と管理会計の相違	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30 分)。
3	管理会計の意義(2)	管理会計の体系(業績管理会計と意思決定会計)	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30 分)。
4	標準原価計算(1)	原価管理の意味、標準原価計算の意義と目的、標準原価の種類	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30 分)。
5	標準原価計算(2)	原価標準の設定、原価差異の分析(直接材料費、直接労務費)	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30 分)。
6	標準原価計算(3)	原価差異の分析(製造間接費)	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30 分)。
7	損益分岐点分析	損益分岐点分析の意義、損益分岐点の計算方法、原価の固変分解	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30 分)。
8	直接原価計算	直接原価計算の意義、直接原価計算の計算構造、直接原価計算と経営管理	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30 分)。
9	予算管理(1)	予算管理の意義、予算管理の機能	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30 分)。
10	予算管理(2)	予算の種類と体系、予算の編成、参加的予算管理	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30 分)。
11	予算管理(3)	予算統制と予算実績差異分析	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30 分)。
12	差額原価収益分析(1)	経営意思決定の意義と分類、経営意思決定のプロセス、特殊原価概念	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30 分)。
13	差額原価収益分析(2)	業務執行的意思決定と差額原価収益分析	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30 分)。
14	設備投資の経済性計算	戦略的意思決定の意義、設備投資案の評価方法	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30 分)。
15	まとめ	授業全体のまとめ	事前：今までやった内容を教科書でざっと確認する(30 分)。 事後：今までやった内容の中で特に苦手な部分の復習をする(2 時間)。

関連科目	工業簿記、財務会計論など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	原価・管理会計の基礎	山田庫平ほか	中央経済社

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	定期試験の点数(70%)と毎回の授業で行う小テストの合計点数(30%)に基づいて評価する。
学生へのメッセージ	授業中の私語は周りの受講生の迷惑になりますので慎んで下さい。また、講義の内容で分からないところがあれば、遠慮なく質問して下さい。
担当者の研究室等	11 号館 7 階(三木准教授室)
備考	授業の最後に行う小テストの答え合わせは、次回の授業の最初に行う。最終回の授業の小テストに関しては、小テスト終了後に模範解答を渡す。

科目名	管理会計論Ⅱ	科目名（英文）	Management AccountingII
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	三木　僚祐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2033a0		

授業概要・目的	管理会計は、企業内部の各階層の経営管理者が適切な意思決定や業績管理を行う上で役に立つ会計情報の提供を目的とする会計領域である。本講義では、管理会計論Ⅰの内容を理解していることを前提にして、原価企画や ABC など 1980 年代後半から登場してきた戦略管理会計と呼ばれる新しい管理会計の領域の諸技法について学んでいく。
到達目標	日商簿記検定１級の工業簿記・原価計算で出題される「戦略の策定と遂行のための原価計算」に関する知識を身につける。
授業方法と留意点	教科書を用いて講義形式で授業を進める。また、受講者の理解度を知るため、授業の最後に毎回小テスト行う予定である(15 分程度)。教科書を用いて授業を行うが、必要に応じて適宜補助プリントを配布する。授業の際に、電卓を用いることがあるので、常に電卓を持参すること。
科目学習の効果（資格）	日商簿記検定１級以上や公認会計士試験の受験のための基礎となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスおよび管理会計の基本事項の確認	授業内容・授業の進め方・評価基準等の説明、管理会計の基本事項の確認	事前：教科書の「第２章　管理会計の意義」を読んでおく(1 時間) 事後：教科書の「第２章　管理会計の意義」の内容をノートに整理する(30 分)。
2	原価企画(1)	原価企画の定義、原価企画の目的と特徴	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30 分)。
3	原価企画(2)	原価企画の基礎概念とプロセス	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30 分)。
4	原価企画(3)	目標原価の設定方法	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30 分)。
5	原価企画(4)	VE による目標原価の達成活動	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30 分)。
6	原価企画(5)	原価見積による設計代替案に対する経済性の評価、マイルストーン管理	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30 分)。
7	ABC(1)	ABC の意義、ABC の特質、ABC の基礎概念	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30 分)。
8	ABC(2)	ABC の計算構造、ABC による製品原価の計算	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30 分)。
9	ABC(3)	ABM の意義、活動分析、原価作用因分析、業績分析	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30 分)。
10	ABC(4)	ABB の意義、ABB における予算編成プロセス	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30 分)。
11	バランスト・スコアカード(1)	バランスト・スコアカードの意義、バランスト・スコアカードの基本構造	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30 分)。
12	バランスト・スコアカード(2)	因果連鎖、戦略マップ	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30 分)。
13	バランスト・スコアカード(3)	バランスト・スコアカードによる戦略の具体化と監視、バランスト・スコアカードによる戦略のコントロール	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30 分)。
14	ライフサイクル・コスティング	ライフサイクル・コスティングの意義、ライフサイクル・コストの特徴、ライフサイクル・コストのマネジメント	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30 分)。
15	まとめ	授業全体のまとめ	事前：今までやった内容を教科書でざっと確認する(30 分)。 事後：特に苦手な分野を復習する(2 時間)。

関連科目	工業簿記、管理会計論Ⅰ、財務会計論など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	原価・管理会計の基礎	山田庫平ほか	中央経済社

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	定期試験の点数(70%)と毎回の授業で行う小テストの合計点数(30%)に基づいて評価する。
学生へのメッセージ	授業中の私語は周りの受講生の迷惑になりますので慎んで下さい。また、講義の内容で分からないところがあれば、遠慮なく質問して下さい。
担当者の研究室等	11 号館 7 階(三木准教授室)
備考	授業の最後に行う小テストの答え合わせは、次回の授業の最初に行う。最終回の授業の小テストに関しては、小テスト終了後に模範解答を渡す。

科目名	企業金融論	科目名（英文）	Corporate Finance
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩坪　加紋
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義の目的は、ファイナンスＩの知識をもとに、個人・家計レベルでのファイナンスに関する初歩的な実践力の修得にある。すなわち、「お金を借りる・返す」、「資産運用」について、可能な限り実践に則した事例や考え方について解説する。
到達目標	１．資金の借り入れを理解すること ２．資産の形成・運用に関する基礎的ではあるが実践的な考え方が分かること
授業方法と留意点	授業は配布資料と参考書を用い、講義と演習を併用して進める。講義に臨むにあたり、当日に用いる資料は前週講義にて配布するので予め目を通しておき、別途指示する方法で事前学習をしておくこと。なお、資料の再配布はしないので、紛失した場合や休んだ場合には出席者から資料を借り、コピーすること。 また、本講義の内容は極めて積み重ねの性質が強いため、休んだり分からないことがあると、のちの講義についてゆくのが難しくなる。もしも欠席した場合には、出席者から情報収集を行うこと。疑問点があれば遠慮なく教員に質問すること。 できうる限り学生と対話しながら進めるので、恐れず恥ずかしがらずに参加して欲しい。 なお教員は、バブル経済の絶頂・崩壊前期を銀行渉外課員として過ごしたため、当時と現時との差異を考慮しつつ金融界の現実について適宜言及する。
科目学習の効果（資格）	資金借入や資産形成・運用に関する初歩的かつ実践的な能力が身につく。 FP 資格の基礎知識が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	ファイナンス II で学ぶこと	特になし
2	お金の時間価値	機会費用、複利の効果、将来価値と現在価値	前週に配布の資料を読み、指定された方法で事前学習のこと。また理解の促進や不明な点を洗い出す目的で復習のこと。　（１時間）
3	資産と信用の管理	ライフイベントと金融商品、家計のバランスシート	前週に配布の資料を読み、指定された方法で事前学習のこと。また理解の促進や不明な点を洗い出す目的で復習のこと。（１時間）
4	住宅購入を考える	持ち家と賃貸住宅、持ち家の資金計画	前週に配布の資料を読み、指定された方法で事前学習のこと。また理解の促進や不明な点を洗い出す目的で復習のこと。（１時間）
5	資産運用の基礎知識（１）	不確実性とリスク、リスク指標、資産価格	前週に配布の資料を読み、指定された方法で事前学習のこと。また理解の促進や不明な点を洗い出す目的で復習のこと。（１時間）
6	資産運用の基礎知識（２）	現代ポートフォリオ理論	前週に配布の資料を読み、指定された方法で事前学習のこと。また理解の促進や不明な点を洗い出す目的で復習のこと。（１時間）
7	資産運用の基礎知識（３）	理論の限界、より実践へ	前週に配布の資料を読み、指定された方法で事前学習のこと。また理解の促進や不明な点を洗い出す目的で復習のこと。（１時間）
8	情報源と銘柄選び	情報収集の仕方	前週に配布の資料を読み、指定された方法で事前学習のこと。また理解の促進や不明な点を洗い出す目的で復習のこと。（１時間）
9	株式投資（１）	日本の株式市場、投資とトレード	前週に配布の資料を読み、指定された方法で事前学習のこと。また理解の促進や不明な点を洗い出す目的で復習のこと。（１時間）
10	株式投資（２）	資金管理	前週に配布の資料を読み、指定された方法で事前学習のこと。また理解の促進や不明な点を洗い出す目的で復習のこと。（１時間）
11	株式投資（３）	リスク管理	前週に配布の資料を読み、指定された方法で事前学習のこと。また理解の促進や不明な点を洗い出す目的で復習のこと。（１時間）
12	株式投資（４）	エッジについて	前週に配布の資料を読み、指定された方法で事前学習のこと。また理解の促進や不明な点を洗い出す目的で復習のこと。（１時間）
13	株式投資（５）	理論的根拠について	前週に配布の資料を読み、指定された方法で事前学習のこと。また理解の促進や不明な点を洗い出す目的で復習のこと。（１時間）
14	株式投資（６）	分析手法について	前週に配布の資料を読み、指定された方法で事前学習のこと。また理解の促進や不明な点を洗い出す目的で復習のこと。（１時間）
15	再考：資産運用	富裕層の資産運用、老後資金の計画	前週に配布の資料を読み、指定された方法で事前学習のこと。参考書の第 15、16 章を読んでおくこと。また理解の促進や不明な点を洗い出す目的で復習のこと。　（１時間）

関連科目：経済学入門、ミクロ経済学、マクロ経済学、コーポレートファイナンス I, II,

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	パーソナルファイナンス入門	榊原茂樹・城下賢吾・姜喜永・砂川伸幸	中央経済社
2			

	3			
評価方法 （基準）	原則としてレポート５回（40%）と期末試験(60%）で評価する。ただし、学習意欲（注意：出席率ではない）の顕著な者には加点して評価する。詳しくは初回講義時に述べる。			
学生への メッセージ	人手不足と言われているものの、企業が学生に求める能力は以前にも増して高くなっている。単位を稼ぐためだけの受動的な受講姿勢ではなく、能力向上のための能動的な受講姿勢を希望する。			
担当者の 研究室等	１１号館８階（岩坪教授室）			
備考	レポートの解説は文章として別途配布する			

科目名	企業分析（経営戦略ケース分析）	科目名（英文）	Analysis of Strategic Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北　真収
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD3042a0		

授業概要・目的	企業戦略の基本についてケース分析を通じて学ぶことに主眼を置いています。有形資源だけでなく無形資源の重要性に言及しながら講義を進めます。 企業での企画調査やコンサルティングの実務経験を講義に取り入れます。
到達目標	経営資源を前提にして、中長期的に、どの事業に、どの程度、資源を配分するべきなのか。こうした基本的枠組み（フレームワーク）や関係する経営知識を組み合わせて課題を深く考えられることが目標です。
授業方法と留意点	事例を分析しながら経営理論を講義します。高い出席率と学習課題に対する応答を毎回求めます。
科目学習の効果（資格）	経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価について説明します	事前：シラバスを読んでおくこと 事後：講義内容を復習する
2	統合、分化の動機	価値連鎖などについて説明します	事前：コンビニの一連の業務をイメージすること、教科書 7 章を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
3	内製か購買か	内製か購買かを選択する要因を説明します	事前：教科書 7 章を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
4	モジュール化	デジタル化とモジュール部品などについて説明します	事前：組み立てブロック玩具のレゴの特徴を考えておくこと、教科書 7 章を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
5	多角化のタイプ、動機	成長ベクトルなどについて説明します	事前：なぜ、大企業は多角化するのか、教科書 8 章を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
6	資源配分と PPM	PPM について説明します	事前：PPM の考え方を理解すること、教科書 8 章を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
7	PPM の作図	PPM を Excel で作図します	事前：PPM を作図できるようになること、教科書 8 章を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
8	M&A	メリットとデメリットについて説明します	事前：銀行、石油、鉄鋼など大企業同士の合併がなぜ行われるのか、教科書 9 章を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
9	技術変化	普及モデルなどについて説明します	事前：携帯電話とテレビの普及速度はなぜ違うのか、教科書 10 章を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
10	転換・移行の遅れ	組織慣性などについて説明します	事前：なぜ、コダック社は経営破綻したのか、教科書 10 章を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
11	ビジネスモデル	ロングテールモデルなどについて説明します	事前：アマゾンのビジネスモデルについて考えておくこと、教科書 12 章を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
12	ビジネスモデル 2	定番のビジネスモデルを説明します	事前：配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
13	ターンアラウンド	縮小と回復について説明します	再生は雇用リストラが避けられないのか、教科書 11 章を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
14	持続的競争優位	主要成功要因などについて説明します	事前：コンビニの主要成功要因は何だろうか、教科書 12 章を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
15	戦略の実行	クロスファンクショナル・チームなどについて説明します	事前：戦略は計画よりも実行が重要か、教科書終章を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）

関連科目	経営組織論、グローバル経営論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	テキストブック　経営戦略	北　真収	岡山大学出版会
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

評価方法（基準）	期末試験６０％、グループワークなどの４０％で評価します。
学生へのメッセージ	事例を使って経営理論を解説します。事例に興味を持って取り組んでください。
担当者の研究室等	11 号館８階　北　真収　研究室（相談時は事前に連絡してください）
備考	

科目名	企業分析（経営組織ケース分析）	科目名（英文）	Analysis of Organizational Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西之坊　穂
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD3044a0		

授業概要・目的	【概要】 本講義は、これまで学んできた専門的な知識を再確認するためのものである。講義方法は(1)実際の企業活動の実態に触れることによって、より深く企業について理解し、(2)テキストに基づく企業事例についてグループプレゼンテーションやレポートを発表する講義である。 なお、多忙な実務家を講師として招いて講義いただくことを強く認識すること。遅刻、居眠り、スマホ操作等は厳禁である。また、学外から来られた先生方に失礼な態度や行為があった場合、退室を命ずる場合がある。 　なお、授業担当者の企業人事における実務経験を通じた解説および体験談を用いて説明することで、より深い学生の理解を促します。 【目的】 企業の経済的・社会的な役割を認識し、「ヒト・モノ・カネ・情報」などの経営資源をどのように活用し、社会の発展に貢献しているのか等、企業の実態を理解する。
到達目標	１．企業トップの経営理念および経営管理を理解する ２．企業における人的資源管理、労務管理を理解する ３．企業における人材育成、リーダーシップ、マーケティングを理解する ４．ベンチャー企業のチャレンジ精神および事業の多角化を理解する
授業方法と留意点	本講義は、(1)実務家をお招きし、具体的な事例を通して、企業分析のための実践的な知識を得ること。(2)テキストに基づく企業事例を学習し、プレゼンテーションおよびレポートを課すことで知識を得ること。である。 なお、講師の都合によって講義内容の順序を変更する場合がある。
科目学習の効果（資格）	組織の管理と運営に関する具体的な課題と企業の抱える現実的問題を学ぶことができ、就職活動の参考になることが期待される。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業ガイダンス:講師の紹介と講義の進め方	講義担当者を紹介し、本講義の目的・目標および授業の進め方や成績評価法について説明する。(小西先生・久保田先生・北山先生・山下先生・巽先生)	事前課題:シラバスおよび外部講師が所属する企業を 1 時間程度調べておくこと。 事後課題:外部講師が所属する企業に関する疑問点を 1 時間程度でまとめ、質問等ができる準備を行うこと。
2	グループプレゼンテーション等に関する説明およびグループ分け	プレゼンテーションを行うためのグループ分けを行います。プレゼンテーションに漏れた学生は、レポートを割り当てます。	事前課題:テキストを購入して 1 時間程度読み、プレゼンテーションまたはレポートを行いたい章を見つけること。 事後課題:担当となった章をじっくり読み、関連する内容を 1 時間程度調べておくこと。
3	松下電器産業の組織変革(教科書 12 章)	担当グループが授業テーマをプレゼンテーション資料をパワーポイントにまとめて発表します。また、レポートを提出すること。	事前課題:教科書 12 章を 1 時間程度読むこと。また、プレゼンテーション担当グループは資料を作成し、発表準備をすること。12 章のテーマでレポートを書きたい人はレポートを作成すること。 事後課題:教科書 5 章を 1 時間程度読むこと。
4	中小企業の事業の多角化	経営資源がない中、どのようにしてベンチャー企業が基板試作事業の開発の経営判断を行ったのかについて学びます。(北山先生) また、次回のテーマでレポートを書きたい学生は第 4 回目に提出すること。	事前課題:電子技販株式会社について 1 時間程度企業研究を行うこと。 事後課題:本日学んだ事業の多角化が、どの理論で説明できるのか復習すること。
5	シャープの製品開発マネジメント（教科書 13 章）	担当グループが授業テーマをプレゼンテーション資料をパワーポイントにまとめて発表します。	事前課題:教科書 13 章を 1 時間程度読むこと。また、プレゼンテーション担当グループは資料を作成し、発表準備をすること。13 章のテーマでレポートを書きたい人はレポートを作成すること。 事後課題:教科書 1 章を 1 時間程度読むこと。
6	女性が起業するには	講師がどのような背景で、どのような会社を起業したのかについて学びます。(巽先生) また、次回のテーマでレポートを書きたい学生は第 6 回目に提出すること。	事前課題:これまで学んだ教科書でアントレプレナーシップについて 1 時間程度調べておくこと。 事後課題:起業家の事例について 1 時間程度調べてまとめること。
7	ブラザー工業の進化と見えざる資産（教科書 14 章）	担当グループが授業テーマをプレゼンテーション資料をパワーポイントにまとめて発表します。	事前課題:教科書 14 章を 1 時間程度読むこと。また、プレゼンテーション担当グループは資料を作成し、発表準備をすること。12 章のテーマでレポートを書きたい人はレポートを作成すること。 事後課題:教科書 19 章を 1 時間程度読むこと。
8	キャリアを見据えた企業分析の必要性と手法について	リクナビ副編集長による学生の就職活動と企業の採用活動、およびこれからのリクルートにおけるビジネスについて学習する。(山下先生) また、次回のテーマでレポートを書きたい学生は第 8 回目に提出すること。	事前課題:これまで学んだ教科書で企業の雇用管理について 1 時間程度調べておくこと。 事後課題:講師が取り上げた企業分析を 1 時間程度で実施すること。
9	セブン-イレブン・ジャパンの単品管理（教科書 15 章）	担当グループが授業テーマをプレゼンテーション資料をパワーポイントにまとめて発表します。	事前課題:教科書 15 章を 1 時間程度読むこと。また、プレゼンテーション担当グループは資料を作成し、発表準備をすること。15 章のテーマでレポートを書きたい人はレポートを作成すること。 事後課題:教科書 16 章を 1 時間程度読むこと。

10	マーケティングの基本 STP	マーケティングの基本 STP に関して、講師が実務での体験談通じてわかりやすく解説します。（久保田先生）	事前課題：これまで学んだ教科書でマーケティングについて 1 時間程度調べておくこと。 事後課題：講師が取り上げたマーケティングの事例について 1 時間程度調べてまとめること。
11	マネジメントとリーダーシップ	マネジメントとリーダーシップの違いについて、講師が経験した事例を交えながら学びます。（久保田先生） また、次回のテーマでレポートを書きたい学生は第 11 回目に提出すること。	事前課題：これまで学んだ教科書でリーダーシップについて 1 時間程度調べておくこと。 事後課題：講師が取り上げたリーダーシップの事例について 1 時間程度調べてまとめること。
12	ライオン「部屋干しトップ」のマーケティング（教科書 16 章）	担当グループが授業テーマをプレゼンテーション資料をパワーポイントにまとめて発表します。	事前課題：教科書 16 章を 1 時間程度読むこと。また、プレゼンテーション担当グループは資料を作成し、発表準備をすること。16 章のテーマでレポートを書きたい人はレポートを作成すること。 事後課題：教科書 6 章を 1 時間程度読むこと。
13	企業の労務管理	企業で行っている労務管理や、実際に発生している労務問題を取り上げ、働き方や労働関係法令について学びます。（小西先生）	事前課題：労働基準法を 1 時間程度目を通しておくこと。 事後課題：1 時間程度労働問題の事例を探し、復習すること。
14	労務問題事例と企業の見方	労働問題事例から企業の特徴がどのように分かるのかについて学びます。（小西先生）	事前課題：これまで学習したリーダーシップ理論を 1 時間程度復習して講義に臨むこと。 事後課題：1 時間程度企業の労務問題記事を探し、考えをまとめること。
15	授業のまとめ	これまでの講義をどのように今後のキャリアに役立てるのかグループワークを行います。	事前課題：これまでの資料を事前に目を通しておくこと。 事後課題：教科書および配付資料全体を 1 時間程度目を通すこと。

関連科目

企業経営コースのすべての科目と関係する。特に、組織論や人的資源管理論との関係が深い。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ケースに学ぶ経営学【新版】	東北大学経営学グループ（著）	有斐閣ブックス
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

・リレー式の講義を 7 回行い、毎回小レポートを課します。7 回×8 点＝56 点
・プレゼンテーションまたはレポート 34 点
・期末テスト 10 点
これらの合計で成績をつけます。
なお、8 割以上出席がないと単位を認めない場合があります。ただし、就職活動や慶弔関係でやむを得ず欠席した時は、証拠を現認した上で配慮する場合があります。

学生へのメッセージ

講師の先生は実務家です。本講義をビジネスの現場として捉え、遅刻、私語、居眠り、途中の入退室、スマホ操作を厳禁とする。決してマナーに反しないように心掛けてください。出席管理システムのデータは成績評価に用いないが、必ず学生証でチェックすること。

担当者の研究室等

11 号館８階　西之坊研究室

備考

科目名	企業分析（財務戦略ケース分析）	科目名（英文）	Analysis of Financial Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	呉　重和
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD3043a0		

授業概要・目的	企業は生まれてから消滅するまで会計情報を生み出す存在であり、会計情報を読み取ることで企業が行った経営活動を理解することができる。本講座では，企業の経営活動を記録した会計情報，特に，損益計算書，貸借対照表，キャッシュフロー計算書という財務３表を用いて、利益を生み出す企業の経営戦略について理解し，分析・評価する。
到達目標	会計情報から利益を創出する企業の経営戦略を読み取り，投資家として企業活動を分析・評価することができる。 ①　損益計算書を用いて，売上高に対する各利益率が算出でき，利益マップを作成し，量（利益額）と質（利益率）の側面で，企業の業績を評価することができる。 ②　貸借対照表を用いて，企業の資金調達と資金運用の状態が理解でき，産業ごと（企業ごと）の特徴が把握できる。 ③　キャッシュフロー計算書を用いて，3 つの企業の活動によるキャッシュフローが理解でき，8 つのパターンから企業の経営戦略が予測できる。また，財務 3 表の関係が理解でき，予測した経営戦略が会計情報から確認できる。
授業方法と留意点	①貸借対照表，②損益計算書，③キャッシュフロー計算書，の 3 つのテーマに分けて講義を進める。各テーマは与えられる課題を用いたグループワークが 3 回実施される。グループ内のディスカッションを通じて課題を解決する必要があるため，皆さんの積極的な参加が必要となることを念頭にしてほしい。また，グループワークの成果は報告資料を作成し，プレゼンテーションを 3 回実施する予定である。
科目学習の効果（資格）	中小企業診断士，証券アナリスト，ファイナンシャルプランナー，簿記検定など，会計関連資格取得に必要な基礎知識を提供する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	財務諸表の関係	企業活動と財務 3 表との関係について理解する。	・配布資料と講義計画を読み，講義全体の構成を把握する。(10 分)
2	資本市場と情報開示	株式会社と資本市場との関係について理解する。	・インターネットで，「株式会社」,「発行市場」,「流通市場」の 3 つのキーワードを検索し，内容を読んでおく。(30 分) ・EDINET で指定企業の連結貸借対照表と連結損益計算書を入手し，課題に解答する。(30 分)
3	損益計算書と利益	営業利益を生み出す企業活動について理解する。産業別損益計算書の特徴について把握する。	・関連書籍やインターネットで段階別利益の算出方法について検索し，把握する。(30 分) ・原価率が高い産業と低い産業を予想し，各産業に属する企業の損益計算書を入手する。(30 分)
4	損益計算書と利益率	利益と利益率の関係を理解し，利益マップを作成する。	・前回レジュメの内容を復習する。(30 分) ・利益率は低いが，利益が高い企業を予想し，企業の損益計算書を入手する。(30 分)
5	利益と利益率①	同産業内の企業 5 社の損益計算書を入手し，グループワークを実施する。	・前回レジュメの内容を復習する。(30 分) ・次回報告内容（選定理由，利益マップの解釈，投資意思決定）について議論する（60 分）
6	利益と利益率②	グループワークの内容を用いて報告資料を作成し，プレゼンテーションする。	・選定 5 社の損益計算書の内容を確認する。(30 分) ・報告時，答えられなかった質問について確認・議論する。(60 分)
7	貸借対照表と負債	企業の資金調達の状態について理解する。	・関連書籍やインターネットで負債の分類とその内容について検索し，把握する。(30 分) ・有利子負債の比率が高い企業を予想し，貸借対照表と損益計算書を入手する。(30 分)
8	貸借対照表と資産	企業の資金運用の状態について理解する。また，貸借対照表と損益計算書の関係について理解する。	・関連書籍やインターネットで資産の分類とその内容について検索し，把握する。(30 分) ・指定企業の貸借対照表を入手し，百分率貸借対照表を作成する。(30 分)
9	財政状態①	同産業内の企業 2 社の貸借対照表と損益計算書を入手し，グループワークを実施する。	・前回レジュメの内容を復習する。(30 分) ・選定企業の要約貸借対照表，比例縮尺貸借対照表を作成する。(60 分)
10	財政状態②	グループワークの内容を用いて報告資料を作成し，プレゼンテーションする。	・選定 2 社の貸借対照表と損益計算書の内容を確認する。(30 分) ・報告時，答えられなかった質問について確認・議論する。(60 分)
11	キャッシュフロー計算書とキャッシュフローのパターン	3 つの活動によるキャッシュフローと成長パターンについて理解する。	・関連書籍やインターネットで「営業 CF」,「投資 CF」,「財務 CF」の 3 つのキーワードについて検索し，読んでおく。(30 分) ・指定企業 3 社の経営戦略について議論・予想する。(60 分)
12	キャッシュフロー計算書と経営戦略	キャッシュフロー計算書と貸借対照表，損益計算書の関係について理解する。	・前回レジュメの内容を復習する。(30 分) ・企業 1 社を選定し，過去 5 年分の財務 3 表を入手する。(30 分)
13	財務諸表と経営戦略①	企業 1 社の財務 3 表を入手し，グループワークを実施する。	・前回レジュメの内容を復習する。(30 分) ・選定企業の利益マップ，要約貸借対照表，3 つのキャッシュフローのグラフを作成する。(60 分)
14	財務諸表と経営戦略②	グループワークの内容を用いて報告資料を作成し，プレゼンテーションする。	・選定企業の財務 3 表の内容を確認する。(30 分) ・報告時，答えられなかった質問について確認・議論する。(60 分)
15	まとめ	財務 3 表の関係について再確認する。	・これまでのレジュメ，グループワークの内容を確認する。(60 分)

関連科目	簿記入門，財務会計論，会計情報分析論，経営財務論など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特に指定しないが、以下，参考書を反映し，各テーマについてレジュメを配布する。		

2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネス・アカウンティング	山根節・太田康広・村上祐太郎	中央経済社
2	財務諸表分析	桜井久勝	中央経済社
3	なぜ、会計嫌いのあいつが会社の数字に強くなった？	村上祐太郎	東洋経済新報社

評価方法（基準）

基準①：グループワーク 30%＋プレゼンテーション 20%＋定期試験 50%＝100%
基準②：定期試験 80%
+ グループワーク（3 回×10%）：課題を配布する。
+ プレゼンテーション（1 回 5%，2 回 5%，3 回 10%）：グループワークの課題を報告資料にまとめ，プレゼンテーションする。（非常に高いレベルの報告は望んでおりません。5%または 10%の評価に対応する報告を行ってください）
+ 定期試験：グループワーク＋レジュメの内容を反映した定期試験
+ 基準②は，やむを得ない事情でグループワークなどに参加できなかった方のための基準です。基準①を基本的に適用しますので，注意してください。
+ 出席率が全体講義の 3 分の 2 を満たさない場合，成績評価対象外とします。

学生へのメッセージ

企業分析論では，企業の活動を記録した会計情報を用いて，利益につながる企業の財務戦略について理解することを目標とする。投資家またはアナリストになる・なったつもりで講義に挑んでほしい。

担当者の研究室等

11 号館 7 階

備考

グループワークで解決した課題については，事前に解答用紙を配布し，各グループで 1 部のみを回収します。複数の解答用紙を作成し，提出しなかった課題用紙は復習の材料として活用してください。各グループの評価結果については，最終回の講義で公表します。また，報告資料については，ホワイトシートを利用して作成してもらい，講師が回収しますが，必要であるグループは申し出てください。申し出たグループの報告資料については採点後返却します。

科目名	企業簿記	科目名（英文）	Book keeping
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	三木　僚祐
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	簿記とは、企業などの経済活動をお金の動きで捉え記録・整理する技術的な手法である。本講義では、簿記の基本的な仕組みから簿記一巡の手続きまでわかりやすく解説し、練習問題を多く解くことによって受講者が容易に理解し、簿記の基礎的能力を身に付けることを目的とする。
到達目標	簿記一巡の手続きを理解し、日商簿記３級試験に合格できる程度の知識を身に付ける。
授業方法と留意点	最初に講義形式で教科書に沿って説明し、練習問題を実際に各自で解いてみる。その後解答を確認しながら解説を行う。必要に応じて配布プリント等で補足説明する。なお、練習問題を解く際に、電卓が必要になるので、授業時には各自電卓を持参すること。また、学生の理解度に応じて進行を調整するので、授業計画を変更することがある。
科目学習の効果（資格）	日本商工会議所簿記検定、公認会計士試験、税理士試験を受験するためには必要不可欠な科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	簿記の基礎①	簿記の目的、貸借対照表、損益計算書	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
2	簿記の基礎②	取引と勘定	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
3	簿記の基礎③	仕訳と転記	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
4	簿記の基礎④	試算表	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
5	簿記の基礎⑤	決算の意味と手続き	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
6	簿記の基礎⑥	財務諸表の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
7	まとめ	第 1 回から第 6 回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(45 分)。 事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(45 分)。
8	現金・預金①	現金・現金過不足	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
9	現金・預金②	当座預金・当座借越・小口現金	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
10	商品売買	三分法と売上原価の算定	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
11	商品有高帳	先入先出法、移動平均法	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
12	売掛金・買掛金	売掛金元帳、買掛金元帳	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
13	貸し倒れと貸倒引当金	貸倒引当金の処理	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
14	手形	手形の処理、手形の裏書・割引	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
15	その他の債権・債務①	貸付金・借入金、未収金・未払金、前払金・前受金	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
16	その他の債権・債務②	立替金・預り金、仮払金・借受金、商品券、他店商品券	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
17	有価証券、固定資産	有価証券の購入・売却、固定資産の取得・減価償却・売却	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
18	資本金・引出金、税金	資本金と引出金、税金の記帳	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
19	まとめ	第 8 回から第 18 回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(45 分)。 事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(45 分)。
20	決算①	費用・収益の繰り延べ	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
21	決算②	費用・収益の見越し	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
22	決算③	試算表の作成 1(合計残高試算表の作成)	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
23	決算④	試算表の作成 2(合計残高試算の作成及び売掛金明細表・買掛金明細表の作成)	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
24	決算⑤	精算表の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
25	財務諸表の作成①	損益計算書の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
26	財務諸表の作成②	貸借対照表の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
27	伝票会計	伝票の起票、伝票の集計・管理	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
28	まとめ	第 20 回から第 27 回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(45 分)。 事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く

			(45 分)。
29	日商簿記検定問題①	仕訳、帳簿の問題	事前：教科書の仕訳、帳簿の問題を解く(60 分)。 事後：間違えた問題を再度解く(30 分)
30	日商簿記検定問題②	試算表、精算表の問題	事前：教科書の試算表、精算表の問題を解く(60 分)。 事後：間違えた問題を再度解く(30 分)

関連科目	財務諸表論入門、財務会計論、管理会計論等。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	最新段階式　日商簿記検定問題集　3 級　三訂版	渡辺正直　ほか	実教出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	学期末試験の結果により評価する。
学生への メッセージ	簿記は借方・貸方などの専門用語があって最初はややこしく感じるかもしれませんが、慣れれば足し算・引き算のみで決して難しいものではありません。基本的な知識をしっかり身に付けて、簿記力を積み上げていきましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 7 階(三木准教授室)
備考	

科目名	企業論	科目名（英文）	Theory of Corporate Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大田　住吉
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2024a0		

授業概要・目的	・学ぶのは、「戦略」です。ビジネス社会における「企業」にフォーカスし、その「戦略」を「ビジネス・スクール形式」で学びます。 ・主な学習テーマは、以下のとおりです。 ①「企業」とは何か？　経営学部の学生にとって、「企業」の何を学ぶべきなのか？ ②企業の様々な「戦略」は、なぜ生まれるのか？　また何が目的なのか？ ③激動の時代変遷の中で、企業は今後どうあるべきなのか？ ・なお、この科目は、「実務経験のある教員による授業科目」です。民間企業、経済団体、シンクタンク等に通算 29 年間勤務し、また経営コンサルタント(中小企業診断士)として 150 社以上の企業経営支援に携わった実務経験を活かし、アクティブラーニング（ケースメソッド形式）による実践的な授業を行います。
到達目標	・実社会で「戦力」として通用するビジネスリーダーを養成することが、この授業の到達目標です。 ・企業のしくみ・社会的役割や将来像について分析し、判断し、表現する、実践的な知識および能力を身につけることができます。 ・その到達目標をクリアできているか検証するため、毎回の授業においてケースメソッドによる個人作業、グループワーク、プレゼン、質疑応答等を実施し、その到達度合いを一人一人判定します。
授業方法と留意点	・この授業は、座学ではありません。授業の特徴は、以下のとおり。 ① 企業を取り巻く様々なテーマについて、毎回ショートケースメソッド（仮想企業による事例分析）を準備し、学生同士でディスカッションを行う「ビジネス・スクール形式」の授業です。 ② 毎回の授業においてグループ討議、プレゼン、質疑応答などを徹底的に繰り返し、明るく、楽しく、わかりやすく、学びます。 ③ グループメンバー、役割分担は定期的に交替し、自分の考えを主張するとともに、他人の考え方との違いを体感します。 ・なお、授業ではスマホ等を使ったキーワード検索等があります。教科書の他、スマホ等は必ず持参して下さい。
科目学習の効果（資格）	・販売士または中小企業診断士等の資格取得に向けた基礎知識の習得に効果があります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス　～この授業で何を学ぶのか？～	本科目の目標とテーマ、授業の進め方・ルール、成績評価基準等について説明します	＜予習＞ テキストを熟読し、分からない専門用語等は事前に調べておくように(1 時間) ＜復習＞ 授業の最後に必ず「本日のポイント」を説明します。その内容について、しっかり復習して下さい(1 時間)
2	企業はどのようにして生まれるのか？	企業の様々な種類 個人経営、組合、ＮＰＯ法人等との違い	＜予習＞ 教科書 p3-18(1 時間) ＜復習＞ 個人経営と法人では何が違うのか、各々のメリット、デメリットについて復習し、小レポートにまとめて下さい(1 時間)
3	企業を創るのに、どれくらい資金が必要なのか？	企業設立登記、資本金 開業準備と資金調達	＜予習＞ 教科書 p20-24(1 時間) ＜復習＞ 企業設立に関わるイニシャルコストとランニングコストの違い等について復習し、小レポートにまとめて下さい(1 時間)
4	なぜ、企業は上場するのか？	株式上場のメリット、デメリット	＜予習＞ 教科書 p26-28(1 時間) ＜復習＞ 株式上場のメリット、デメリットについて復習し、小レポートにまとめて下さい(1 時間)
5	なぜ、株式総会が必要なのか？	株主総会の役割、 株主の権利と責任	＜予習＞ 教科書 p30-32(1 時間) ＜復習＞ 株主総会の開催理由について企業、株主双方の立場から復習し、小レポートにまとめて下さい(1 時間)
6	〔所有と経営の分離」とは、何か？	経営と所有の分離 外部・内部ののステークホルダー	＜予習＞ 教科書 p34-36(1 時間) ＜復習＞ なぜ、所有と経営を分離する必要があるのか等について復習し、小レポートにまとめて下さい(1 時間)
7	２通りの取締役会とは、何か？	マネジメント・ボードとモニタリング・モデル	＜予習＞ 教科書 p38-40(1 時間) ＜復習＞ 2 つの制度の違い、誕生の背景等について復習し、小レポートにまとめて下さい(1 時間)
8	大企業と中小企業、何が違うのか？	中小企業の定義と経営戦略	＜予習＞ 教科書 p46-48(1 時間) ＜復習＞ 大企業と中小企業では何が違うのか、各々のメリット、デメリットについて復習し、小レポートにまとめて下さい(1 時間)
9	なぜ、企業は連携するのか？	アライアンス戦略、 競争と連携、多角化経営	＜予習＞ 教科書 p50-52(1 時間) ＜復習＞ 「アライアンス」には、必ず理由がある。それは何か、それぞれの事例において何が違うのか等について復習し、小レポートにまとめて下さい(1 時間)

10	なぜ、企業はリストラするのか？	事業の選択と集中	＜予習＞ 教科書 p54-56(1 時間) ＜復習＞ 「リストラ」とは、本来どういう意味か、企業はなぜリストラをする必要があるのか等について復習し、小レポートにまとめて下さい(1 時間)
11	なぜ、企業は倒産するのか？	企業倒産の原因・種類とその社会的影響	＜予習＞ 教科書 p58-60(1 時間) ＜復習＞ 企業の倒産理由と自社や社会的影響等について復習し、小レポートにまとめて下さい(1 時間)
12	なぜ、企業は国際化を目指すのか？	グローバル経営、 国際化のメリット・デメリット	＜予習＞ 教科書 p62-64(1 時間) ＜復習＞ 国際化のメリット、デメリット、注意すべき点などについて復習し、小レポートにまとめて下さい(1 時間)
13	なぜ、後継者育成計画が必要なのか？	サクセッションプラン、事業承継	＜予習＞ 教科書 p66-68(1 時間) ＜復習＞ サクセッションプランとは何か、なぜそれが必要なのか等について復習し、小レポートにまとめて下さい(1 時間)
14	なぜ、グループ内部統制が必要なのか？	子会社の定義、グループ内部統制	＜予習＞ 教科書 p70-72(1 時間) ＜復習＞ 子会社の範囲はどこまでか？親会社の経営に何が影響するのか等について復習し、小レポートにまとめて下さい(1 時間)
15	企業の社会的責任とは何か？	リスクマネジメントとＣＳＲ経営	＜予習＞ 教科書 p74-76(1 時間) ＜復習＞ 本来のCSRとは何か？　様々なリスクをどう防ぐのか等について復習し、小レポートにまとめて下さい(1 時間)

関連科目

経営学ほか

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	アクティブラーニング(ケースメソッド)授業テキスト 企業論[第 2 版]	大田住吉、佐々木公之	デザインエッグ社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	会社のしくみ	坂田　岳史	日本実業出版社
2	よくわかる企業論	佐久間　信夫	ミネルヴァ書房
3			

評価方法（基準）

①グループワークへの貢献度(参加意欲、役割分担、個人作業、呼応発言内容など)（35%）
②制限時間内におけるプレゼン用シートの記載内容・分析力（15%）
③プレゼン力および質疑応答対応力（15%）
④毎回の授業における理解度チェック小テスト(30%)
⑤定期試験（論述式）(5%)
による総合評価。
ただし、①～④は、毎回の授業の都度採点し、集計します。

学生へのメッセージ

・通算 35 年間の民間企業・公的機関等でのビジネス経験やコンサルティング経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！
・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。

担当者の研究室等

11 号館 7 階　大田住吉研究室

備考

・理解度チェック小テストの結果については、授業の中で適宜フィードバックします。
・事前事後学習は、各々概ね 60 分程度を目安に行って下さい。

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	A
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北　真収
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4○,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1053a0		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。
到達目標	・毎回ディスカッションを行うので、自分の意見またはグループの代表としてディスカッションに参加すること。 ・与えられた課題をグループワークや個人で解決し、プレゼンテーションすることにより、協同する力、コミニケーション能力を修得する。 ・大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスッカション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子(『FIRST　YEAR　STUDY　GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び､図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。 ・授業後、課題を提示するので、図書館等で調べ、プレゼンテーションのための資料を作成し、プレゼンする。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、協同できているか、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館８階　北　真収　研究室（相談時は事前に連絡してください）
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	杉本　篤信
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4○,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1053a0		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。
到達目標	・毎回ディスカッションを行うので、自分の意見またはグループの代表としてディスカッションに参加すること。 ・与えられた課題をグループワークや個人で解決し、プレゼンテーションすることにより、協同する力、コミニケーション能力を修得する。 ・大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスッカション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。 ・授業後、課題を提示するので、図書館等で調べ、プレゼンテーションのための資料を作成し、プレゼンする。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、協同できているか、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 6 階　杉本准教授室
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	C
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岩坪　加紋
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4○,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1053a0		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。
到達目標	・毎回ディスカッションを行うので、自分の意見またはグループの代表としてディスカッションに参加すること。 ・与えられた課題をグループワークや個人で解決し、プレゼンテーションすることにより、協同する力、コミニケーション能力を修得する。 ・大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスッカション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。 ・授業後、課題を提示するので、図書館等で調べ、プレゼンテーションのための資料を作成し、プレゼンする。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、協同できているか、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館８階　岩坪教授室（相談時は事前に連絡してください）
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	D
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	三木　僚祐
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4○,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1053a0		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。
到達目標	・毎回ディスカッションを行うので、自分の意見またはグループの代表としてディスカッションに参加すること。 ・与えられた課題をグループワークや個人で解決し、プレゼンテーションすることにより、協同する力、コミニケーション能力を修得する。 ・大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスッカション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。 ・授業後、課題を提示するので、図書館等で調べ、プレゼンテーションのための資料を作成し、プレゼンする。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、協同できているか、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 7 階　三木准教授室
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	E
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	呉　重和
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4○,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1053a0		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。
到達目標	・毎回ディスカッションを行うので、自分の意見またはグループの代表としてディスカッションに参加すること。 ・与えられた課題をグループワークや個人で解決し、プレゼンテーションすることにより、協同する力、コミニケーション能力を修得する。 ・大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスッカション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。 ・授業後、課題を提示するので、図書館等で調べ、プレゼンテーションのための資料を作成し、プレゼンする。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、協同できているか、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 7 階　呉准教授室
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	F
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林　正浩
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4○,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1053a0		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。
到達目標	・毎回ディスカッションを行うので、自分の意見またはグループの代表としてディスカッションに参加すること。 ・与えられた課題をグループワークや個人で解決し、プレゼンテーションすることにより、協同する力、コミニケーション能力を修得する。 ・大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスッカション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。 ・授業後、課題を提示するので、図書館等で調べ、プレゼンテーションのための資料を作成し、プレゼンする。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、協同できているか、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 7 階　林教授室
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	G
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大田　住吉
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4○,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1053a0		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。
到達目標	・毎回ディスカッションを行うので、自分の意見またはグループの代表としてディスカッションに参加すること。 ・与えられた課題をグループワークや個人で解決し、プレゼンテーションすることにより、協同する力、コミニケーション能力を修得する。 ・大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスッカション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。 ・授業後、課題を提示するので、図書館等で調べ、プレゼンテーションのための資料を作成し、プレゼンする。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、協同できているか、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 7 階　大田教授室
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	H
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	畠山　俊宏
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4○,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1053a0		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。
到達目標	・毎回ディスカッションを行うので、自分の意見またはグループの代表としてディスカッションに参加すること。 ・与えられた課題をグループワークや個人で解決し、プレゼンテーションすることにより、協同する力、コミニケーション能力を修得する。 ・大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスッカション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。 ・授業後、課題を提示するので、図書館等で調べ、プレゼンテーションのための資料を作成し、プレゼンする。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、協同できているか、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 8 階　畠山講師室
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	J
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西之坊　穂
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4○,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1053a0		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。
到達目標	・毎回ディスカッションを行うので、自分の意見またはグループの代表としてディスカッションに参加すること。 ・与えられた課題をグループワークや個人で解決し、プレゼンテーションすることにより、協同する力、コミニケーション能力を修得する。 ・大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスッカション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。 ・授業後、課題を提示するので、図書館等で調べ、プレゼンテーションのための資料を作成し、プレゼンする。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、協同できているか、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 8 階　西之坊准教授室
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	L
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中　祥司
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4○,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1053a0		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。
到達目標	・毎回ディスカッションを行うので、自分の意見またはグループの代表としてディスカッションに参加すること。 ・与えられた課題をグループワークや個人で解決し、プレゼンテーションすることにより、協同する力、コミニケーション能力を修得する。 ・大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスッカション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。 ・授業後、課題を提示するので、図書館等で調べ、プレゼンテーションのための資料を作成し、プレゼンする。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、協同できているか、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 8 階　田中准教授室
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	M
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	高尾　裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4○,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1053a0		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。
到達目標	・毎回ディスカッションを行うので、自分の意見またはグループの代表としてディスカッションに参加すること。 ・与えられた課題をグループワークや個人で解決し、プレゼンテーションすることにより、協同する力、コミニケーション能力を修得する。 ・大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスッカション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。 ・授業後、課題を提示するので、図書館等で調べ、プレゼンテーションのための資料を作成し、プレゼンする。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、協同できているか、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 8 階　高尾教授室
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	基礎演習	科目名（英文）	Reference Studies
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	N
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	塚田　義典
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4○,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1053a0		

授業概要・目的	基礎演習は、大学教育に入るための導入的な授業（reference studies）です。基礎演習では、経営学部における勉学のためのガイダンスを行うとともに、経営学部の学生として身につけるべき基本的能力の修得と後続学年での専門的な学びへの学習意欲を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。
到達目標	・毎回ディスカッションを行うので、自分の意見またはグループの代表としてディスカッションに参加すること。 ・与えられた課題をグループワークや個人で解決し、プレゼンテーションすることにより、協同する力、コミニケーション能力を修得する。 ・大学における学習、調査・研究活動の基礎・基本をしっかり身につけた自立した大学生となる
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、ディスッカション、資料収集・分析、レポートの作成・、討論プレゼンテーションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部における勉学のためのガイダンスを行う。前半では本学が作成した初年次教育ガイド冊子(『FIRST YEAR STUDY GUIDE』)を用いて、大学生が身につけるべきマナー、研究上の不正を防止するためのあるべき研究倫理、大学での授業の特徴や学習法、講義の受け方、ノートの取り方やレポートの書き方等を学び、図書館やメディアセンター等大学の施設のサービスや利用方法に関して学ぶ。後半は、現代社会や経済・経営の動きに関心をもち目的意識をもって充実した学生生活を送れるよう、雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。 ・授業後、課題を提示するので、図書館等で調べ、プレゼンテーションのための資料を作成し、プレゼンする。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、協同できているか、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 8 階　塚田講師室
備考	【学生へのメッセージ】 基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べる場として開講されている。実りある大学生活を送るための基礎づくりの授業です。基礎演習が有意義な学生生活の第一歩となることを期待しています。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	金融商品取引法	科目名（英文）	Financial Instrument and Exchange Law
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高田　尚彦
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IDD3052a0		

授業概要・目的	株式会社が証券市場を通じて資金調達をするため株式を公開すれば金融商品取引法による規制をうける。また、金融商品取引法は、投資者が株式や社債など資産を運用する手段となっている投資信託等の勧誘・販売等について規制している。本講義では、このような金融商品取引法の基本を理解することを目的とする。
到達目標	金融商品取引法の基本を理解するにとどまらず、具体的な問題点も意識しつつ知識を習得する。また、裁判例や時事問題にも関心を持ち、講義で習得した知識に基づきどのように解決することができるのかを考えることも重要である。
授業方法と留意点	教科書に合わせて授業を進行します。必要に応じて補足資料を配布します。
科目学習の効果（資格）	上場会社や金融商品取引業者に就職する者にとって必須の講義である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 金融商品取引法の全体像	金融商品市場の基本的な仕組み	特になし
2	金融商品取引法総論	金融商品取引法の目的と規制内容・適用範囲	教科書 p.1～24
3	「有価証券」の意義と機能	有価証券の上場 有価証券取引の仕組み 金融商品取引所	教科書 p.25～39
4	企業の情報開示（ディスクロージャー）（１）	有価証券の発行開示制度	教科書 p.40～62
5	企業の情報開示（ディスクロージャー）（２）	有価証券の継続開示制度	教科書 p.62～68
6	企業の情報開示（ディスクロージャー）（３）	情報開示の正確性確保と内部統制	教科書 p.68～73
7	企業の情報開示（ディスクロージャー）（４）	情報開示義務違反と民事および刑事責任	教科書 p.73～87
8	金融商品取引業者の規制	金融商品取引業者の開業規制と登録制度、誠実公正義務	教科書 p.88～115
9	企業支配に関する開示制度（１）	株式公開買付（TOB）の規制	教科書 p.116～133
10	企業支配に関する開示制度（２）	大量保有報告制度（5%ルール）	教科書 p.133～148
11	不公正な取引の規制（１）	内部者取引（インサイダー取引）規制（１）	教科書 p.165～185
12	不公正な取引の規制（２）	内部者取引（インサイダー取引）規制（２）	教科書 p.165～185
13	不公正な取引の規制（３）	相場操縦の規制	教科書 p.185～209
14	デリバティブ取引	デリバティブ取引とは	教科書 p.210～217
15	まとめ	これまでの授業の復習	これまで学習した箇所

関連科目：会社法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎から学べる金融商品取引法（第４版）	近藤光男・志谷匡史・石田眞得・釜田薫子	弘文堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として、定期試験の結果によって評価する（７０%）。 その他出席状況・講義中の発言・小テストなども加味する（３０%）。
学生へのメッセージ	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。また、金融商品取引法に関連する新聞記事を読んでおくとよい。
担当者の研究室等	11 号館６階　法学部
備考	授業時間外の質問はメールにて受け付けて、後日回答する。 n-takada@pp.iij4u.or.jp　まで、件名に科目名を入れて送信すること。

科目名	金融論	科目名（英文）	Theory of Money and Banking
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩坪　加紋
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	好むと好まざるとにかかわらず、人は生きていく上でお金を利用する。働いてお金を受け取り、モノやサービスの消費に使う。また消費以外にも投資という形でお金に働かせる。さらに借入により消費や投資のお金を賄うこともある。ファイナンスとは端的に言えばお金の管理を意味し、学問としてのファイナンスとは消費や投資、借入に関わるお金をいかに管理すべきかを論じたものである。お金の管理と言えば企業のそれを想起するかもしれないが、個人や家計レベルでも重要である。たとえ今はその重要性が分からなくても、社会に出れば否応なくファイナンスの重要性を認識するようになる。本講義はそのようなファイナンスの基礎知識の修得を目的としている。 なお教員は、バブル経済の絶頂・崩壊前期を銀行渉外課員として過ごしたため、当時と現時との差異を考慮しつつ金融界の現実についても適宜言及する。
到達目標	１．金利や貨幣、リスクの初歩的知識を得ること ２．資金を借りるもしくは資産を運用する際の窓口である金融機関や借入・運用の場である金融市場の初歩的知識を習得すること ３．長期の資産運用に関する理論的な考え方が分かること
授業方法と留意点	講義は、期間前半は板書を主とし、後半は配布資料を用いながら進める。教科書は事前・事後学習教材として用いる。講義に臨むにあたって事前に指定箇所を熟読し、不明箇所を明確にし、適宜教員に質問すること。また、ノートや配布資料を元に復習し、不明な箇所を明確にし、適宜教員に質問すること。なお、理解度を確かめる目的で、できうる限り学生との対話しながら進めるので、恐れず恥ずかしがらずに受講して欲しい。
科目学習の効果（資格）	金融経済動向を考えるための基礎的能力が身につく。 FP 資格の基礎知識が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	ファイナンスＩで学ぶ内容を概観する	特になし
2	ファイナンスの重要性	ライフイベントにおけるお金の問題について考えてもらい、解説も加える	配布プリントを元に復習のこと
3	お金（貨幣）とは	現代の貨幣（通貨）について解説し、貨幣と物価の関係について考察する	教科書第２章(pp.25-38)を事前に読んでおくこと。ノートを整理し復習し、不明箇所が無いか確認すること。 (1.5 時間)
4	お金と時間の仲介役：金利（１）	キャピタルゲインとインカムゲイン、単利と複利、実質利子率と名目利子率、利回り（収益率）、債券の残存期間と金利の関係等を解説する	教科書第３章(pp.39-48)を事前に読んでおくこと。ノートを整理し復習し、不明箇所が無いか確認すること。 (1 時間)
5	お金と時間の仲介役：金利（２）	債券価格の決定と金利の関係等を解説する	教科書第３章(pp.48-51)を事前に読んでおくこと。ノートを整理し復習し、不明箇所が無いか確認すること。 (1 時間)
6	代表的な金融市場	重要な指標の確認と、マーケットデータを読む際の注意点を述べる	教科書第３章(pp.51-56)を事前に読んでおくこと。配布プリントを整理し復習し、不明箇所が無いか確認すること。(1 時間)
7	金融商品	リスクや分散投資、金融商品の特徴を解説する	教科書第 12,13 章（pp.186-208）を事前に読んでおくこと。配布プリントを整理し復習し、不明箇所が無いか確認すること。(2 時間)
8	中間試験	前回までのまとめとして試験を行う	
9	金融システム概観	金融システムの役割や日本の金融システムについて解説する。なお、講義冒頭で前回中間試験について解説する。	教科書第 1,7 章（pp.9-19,105-106）を事前に読んでおくこと。配布プリントを整理し復習し、不明箇所が無いか確認すること。(1 時間)
10	日本の金融サービス業（１）	保険会社の機能や実態について解説する	教科書第 7,8 章（pp.105-106,124）を事前に読んでおくこと。配布プリントを整理し復習し、不明箇所が無いか確認すること。 こと（1 時間）
11	日本の金融サービス業（２）	銀行の機能や実態について解説する。また公的金融機関についても解説する。	教科書第 7,8 章（pp.106-123,131-136）を事前に読んでおくこと。配布プリントを整理し復習し、不明箇所が無いか確認すること。 (2 時間)
12	日本の金融サービス業（３）	証券会社、証券取引所、格付け機関等、株式や債券といった有価証券を取り扱う機関について解説する	教科書第 8 章（pp.124-131）を事前に読んでおくこと。配布プリントを整理し復習し、不明箇所が無いか確認すること。 (1 時間)
13	ファイナンスの基礎理論（１）	ポートフォリオ理論の前提となる期待収益率、リスク、投資機会集合について解説する	教科書第 14 章を事前に読んでおくこと（pp.217-221）。ノートを整理し復習し、不明箇所が無いか確認すること。 (2 時間)
14	ファイナンスの基礎理論（２）	ポートフォリオ理論の前提となる投資家の選好を解説し、資産運用の基礎を解説する	教科書第 14 章（pp.217-221）を事前に読んでおくこと。ノートを整理し復習し、不明箇所が無いか確認すること。 (1 時間)
15	ファイナンスの基礎理論（３）	現代ファイナンス論の基礎となる CAPM について言及の後、現代ファイナンス論の論点である効率的市場仮説やアノマリーについて述べる	教科書第 14 章（pp.221-224）を事前に読んでおくこと。ノートを整理し復習し、不明箇所が無いか確認すること。 (1 時間)

関連科目	経済学入門、ミクロ経済学、マクロ経済学、ファイナンスⅡ、コーポレートファイナンスⅠ,Ⅱ,

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	金融論　ベーシックプラス	家森信善	中央経済社

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	原則として中間試験(40%)と期末試験(60%) で評価する。ただし、学習意欲（注意：出席率ではない）の顕著な者については加点して評価する。詳しくは初回講義時に述べる。
学生へのメッセージ	人手不足と言われているものの、企業が学生に求める能力は以前にも増して高くなっている。単位を稼ぐためだけの受動的な受講姿勢ではなく、能力向上のための能動的な受講姿勢を希望する。
担当者の研究室等	１１号館８階（岩坪教授室）
備考	中間試験については結果を返却し解説を行う

科目名	グローバル経営論	科目名（英文）	Global Business
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	畠山　俊宏
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2026a0		

授業概要・目的	本講義の目的は、多国籍企業の経営活動を分析する能力を習得することである。本講義では、教員による講義と学生同士のグループディスカッションを通じて国際経営論に関する理論の発展や経営機能の国際化要因について学習する。 企業の海外進出は活発に行われており、多国籍企業で活躍できる人材になるためには国際経営論に関する基礎的知識を習得することは不可欠である。 授業担当者は、民間企業における経理業務の経験から多国籍企業の経営活動の実践的な分析方法を教授する。
到達目標	①海外直接投資の理論の概要を説明できる。 ②企業がマーケティング・生産・研究開発などの経営機能を国際化する論理を説明できる。 ③国際経営論の理論に基づいて多国籍企業の経営活動を分析できる。
授業方法と留意点	パワーポイントによる解説を中心に授業を行う。学習内容に関連したグループディスカッションを適宜実施する。また、複数回の学習内容を踏まえた応用的なグループディスカッションやゲストスピーカーによる講義も行う。
科目学習の効果（資格）	経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	本講義のガイダンスと国際経営論の概要、海外進出の理由について学習する。	事前：シラバスと教科書の第１章を事前に読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
2	海外直接投資の理論	海外直接投資の代表的な理論とその発展の歴史について学習する。	事前：教科書の第２章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
3	多国籍企業の組織デザイン	多国籍企業の経営組織の概要とその進化について学習する。	事前：教科書の第４章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
4	トランスナショナル経営	I-R フレームワークとトランスナショナル経営について学習する。	事前：教科書の第５章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
5	ゲストスピーカーによる講義	グローバルビジネス、女性のキャリア形成、ファッション業界のテクノロジーおよびビジネスに関する講義を聴講する。 講師：アギレラ中野和代様	事前：これまでの学習内容を読み返しておくこと（1 時間） 事後：講演資料を読み返しておくこと（1 時間）
6	海外子会社の経営	海外子会社の類型化や成長のプロセスについて学習する。	事前：教科書の第６章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
7	日本企業による海外進出	第２回から第５回までの学習内容を踏まえて、日本企業の海外進出に関するビデオを視聴してグループディスカッションを行う。	事前：第２回から第５回の講義資料を読み返しておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
8	国際マーケティング（1）	国際マーケティングのプロセスについて学習する。	事前：教科書の第７章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
9	国際マーケティング（2）	新興国における国際マーケティングについて学習する。	事前：教科書の第７章と第７回の学習内容を読み返しておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
10	国際マーケティング（3）	第７回と第８回の学習内容を踏まえて、日本企業の新興国向け製品開発に関するビデオを視聴してグループディスカッションを行う。	事前：第７回、第８回の学習内容を読み返しておくこと（1 時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
11	ものづくりの国際拠点展開（1）	海外生産拠点の設立・運営や知識移転について学習する。	事前：教科書の第８章を読んでおくこと（1 時間） 事後：事後：講義資料を読み返しておくこと（1 時間）
12	ものづくりの国際拠点展開（2）	第 11 回の学習内容を踏まえて、海外生産拠点の設立と知識移転に関するビデオを視聴してグループディスカッションを行う。	事前：教科書の第８章と第 11 回の講義資料を読み返しておくこと（1 時間） 事後：グループディスカッションの内容と解説について読み返しておくこと（1 時間）
13	研究開発の国際化	海外研究開発の要因や海外研究開発拠点のマネジメントについて学習する。	事前：教科書の第９章を読んでおくこと（1 時間） 事後：講演資料を読み返しておくこと（1 時間）
14	国際的な人的資源管理	海外駐在員や現地従業員のマネジメントについて学習する。	事前：教科書の第９章を読んでおくこと。小テストに解答しておくこと（1.5 時間） 事後：講演資料を読み返しておくこと（1 時間）
15	グローバル製品開発と国際人的資源管理	第 13 回と第 14 回の学習内容を踏まえて、グローバル製品開発と国際人的資源管理に関するビデオを視聴してグループディスカッションを行う。	事前：第 13 回と第 14 回の講義資料を読み返しておくこと。小テストに解答しておくこと（1.5 時間） 事後：教科書と講義資料を読み返しておくこと（1 時間）

関連科目：経営学Ⅰ・Ⅱ、経営戦略論、経営組織論、人的資源管理論Ⅰ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	はじめての国際経営	中川功一　・林正・多田　和美・大木清弘	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	第 14 回の講義後に Moodle で実施する小テスト 20%、期末試験 80%で評価する。
学生への メッセージ	予習・復習を行い、グループディスカッションに積極的に参加して欲しい。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階　畠山研究室
備考	①グループディスカッションを円滑に行うために、前から詰めて 2 人ずつで座ること。できていない場合は座席指定に変更する。 ②小テストは、第 14 回の講義終了後から第 15 回の講義の前日 23 時までに回答しなければならない。得点は、回答終了後に Moodle で表示されるので各自で確認すること。 ③講義資料は配布しないので各自で印刷して持参すること。講義資料の保存場所は初回の講義で説明する。

科目名	経営学	科目名（英文）	Business Administration
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	北　真収.畠山　俊宏
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	前期：本講義の目的は、経営学部で学習する各分野の基本的な知識を習得し、それらの知識に基づいて企業の活動を分析する能力を習得することである。本講義では、教員による講義と経営学検定の過去問題の演習を通じて、経営学の基本的な内容について学習する。 本講義で学ぶ内容は、2回生以降で受講する企業論、経営戦略論、経営組織論、グローバル経営論等を深く学習するための基礎となる。 授業担当者は、民間企業における経理業務の経験から企業の経営活動の実践的な分析方法を教授する。 後期： 経営学の基本について全体を網羅して講義を行います。授業で紹介する代表的な事例を通じて、経営学への理解を深めます。企業での企画調査やコンサルティングの実務経験を講義に取り入れます。
到達目標	前期：①企業論、経営戦略論、経営組織論、グローバル経営論の基礎的な内容を説明できる。 ②経営理論に基づいて企業の活動を分析できる。 後期：経営とは何か、何が課題なのかなど、現実に即して経営への疑問を広く理解することが目標です。
授業方法と留意点	前期：授業の前半は、パワーポイントによる解説を行う。後半は、学習内容に関連した経営学検定の過去問題の演習を行う。 後期：事例を紹介しながら経営知識を講義します。学習課題への応答を求めるなど参加を重視します。
科目学習の効果（資格）	経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	本講義のガイダンスと経営学の概要について学習する。	事前：シラバスを事前に読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
2	企業と経営	企業と経営の概要について学習する。	事前：教科書の第1部第1章を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
3	企業･会社の概念と諸形態	様々な企業の形態について学習する。	事前：教科書の第1部第2章を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
4	所有・経営・支配と経営目的	株式会社の所有と経営の関係について学習する。	事前：教科書の第1部第3章を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
5	会社機関とコーポレート・ガバナンス	株式会社の様々な機関とコーポレートガバナンスについて学習する。	事前：教科書の第1部第4章を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
6	経営戦略の体系と理論	経営戦略の概念や経営戦略論の発展について学習する。	事前：教科書の第2部第1章を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
7	全社戦略（1）	全社戦略の概要やドメインについて学習する。	事前：教科書の第2部第2章を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
8	全社戦略（2）	成長のための戦略について学習する。	事前：教科書の第2部第2章を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
9	事業戦略	事業戦略や競争戦略について学習する。	事前：教科書の第2部第3章を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
10	機能別戦略	研究開発、生産、マーケティング、人事等の機能別の戦略について学習する。	事前：教科書の第2部第4章を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
11	経営組織の基本形態	ライン組織、ファンクショナル組織、ライン・アンド・スタッフ組織等の経営組織の基本形態について学習する。	事前：教科書の第3部第2章を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
12	企業組織の諸形態（1）	職能部門制組織、事業部制組織等の企業組織の様々な形態について学習する。	事前：教科書の第3部第3章を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
13	企業組織の諸形態（2）	マトリックス組織等の企業組織の様々な形態について学習する。	事前：教科書の第3部第3章を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
14	経営のグローバリゼーション	経営の国際化、グローバリゼーションについて学習する。	事前：教科書の第5部第2章を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
15	企業経営と情報化	企業経営における情報化の進展、情報ビジネスについて学習する。	事前：教科書の第5部第3章を読んでおくこと。小テストに解答しておくこと（1.5時間） 事後：教科書と講義資料を読み返しておくこと（1時間）
16	ガイダンス	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価について説明します	事前：シラバスを読んでおく 事後：講義内容を復習する
17	日本型企業システム	日本型経営の特徴について説明します	事前：教科書1部5章を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
18	人事管理と組織文化	人事制度や文化、それらに及ぼす影響について説明します	事前：教科書3部4章を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
19	動機づけとリーダーシ	組織のモチベーションと成果の点から説	事前：教科書4部1章を読んでおく（1時間）

	ップ	明します	事後：講義内容を復習する（1時間）
20	M&A と買収防衛策	目的や手法について説明します	事前：教科書5部1章を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
21	社会的責任と企業倫理	CSR の考え方、企業倫理について説明します	事前：教科書5部4章を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
22	環境経営	環境経営、環境ビジネスについて説明します	事前：教科書5部5章を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
23	起業家	事業のスタートで必要な起業家としての条件について説明します	事前：配付資料を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
24	イノベーション	技術革新だけではないイノベーションについて説明します	事前：配付資料を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
25	ビジネスモデル	身近なところからビジネスモデルを取り上げて説明します	事前：配付資料を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
26	標準化と適応化	それぞれの特徴、相違点について説明します	事前：配付資料を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
27	見えざる資産	有形資産にない特徴について説明します	事前：配付資料を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
28	サービスマネジメント	ものとの違いを中心にサービス特有の特徴について説明します	事前：配付資料を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
29	顧客満足	サービスの顧客満足を中心にして説明します	事前：配付資料を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
30	非営利組織の経営	NPO などの非営利組織、コミュニティビジネスについて説明します	事前：配付資料を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）

関連科目

前期：企業論、経営戦略論、経営組織論、人的資源管理論、グローバル経営論
後期：経営管理論、経営組織論、経営戦略論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	経営学検定試験公式テキスト1　経営学の基本	経営能力開発センター	中央経済社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	テキストブック　経営戦略	北　真収	岡山大学出版会
2			
3			

評価方法（基準）

前期：第14回の講義後にMoodleで実施する小テスト20%、期末試験80%で評価する。

後期：期末試験70%、2ウエイシートなど30%で評価します。

学生へのメッセージ

前期：予習・復習を行い、問題演習に積極的に取り組んで欲しい。

後期：代表的な事例を使って経営知識を解説します。事例に興味を持って取り組んでください。

担当者の研究室等

前期：11号館8階　畠山研究室

後期：11号館8階　北　真収研究室（相談時は事前に連絡してください）

備考

前期：①小テストは、第14回の講義終了後から第15回の講義の前日23時までに回答しなければならない。得点は、回答終了後にMoodleで表示されるので各自で確認すること。
②講義資料は配布しないので各自で印刷して持参すること。講義資料の保存場所は初回の講義で説明する。

後期：2（two）ウエイシートを使用します。毎回記入し提出して下さい。翌週に返却します。

科目名	経営学Ⅰ	科目名（英文）	Introduction to Business Administration Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	畠山　俊宏
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1001a0		

授業概要・目的	本講義の目的は、経営学部で学習する各分野の基本的な知識を習得し、それらの知識に基づいて企業の活動を分析する能力を習得することである。本講義では、教員による講義と経営学検定の過去問題の演習を通じて、経営学の基本的な内容について学習する。 本講義で学ぶ内容は、2回生以降で受講する企業論、経営戦略論、経営組織論、グローバル経営論等を深く学習するための基礎となる。 授業担当者は、民間企業における経理業務の経験から企業の経営活動の実践的な分析方法を教授する。
到達目標	①企業論、経営戦略論、経営組織論、グローバル経営論の基礎的な内容を説明できる。 ②経営理論に基づいて企業の活動を分析できる。
授業方法と留意点	授業の前半は、パワーポイントによる解説を行う。後半は、学習内容に関連した経営学検定の過去問題の演習を行う。
科目学習の効果（資格）	経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	本講義のガイダンスと経営学の概要について学習する。	事前：シラバスを事前に読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
2	企業と経営	企業と経営の概要について学習する。	事前：教科書の第1部第1章を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
3	企業・会社の概念と諸形態	様々な企業の形態について学習する。	事前：教科書の第1部第2章を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
4	所有・経営・支配と経営目的	株式会社の所有と経営の関係について学習する。	事前：教科書の第1部第3章を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
5	会社機関とコーポレート・ガバナンス	株式会社の様々な機関とコーポレートガバナンスについて学習する。	事前：教科書の第1部第4章を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
6	経営戦略の体系と理論	経営戦略の概念や経営戦略論の発展について学習する。	事前：教科書の第2部第1章を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
7	全社戦略（1）	全社戦略の概要やドメインについて学習する。	事前：教科書の第2部第2章を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
8	全社戦略（2）	成長のための戦略について学習する。	事前：教科書の第2部第2章を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
9	事業戦略	事業戦略や競争戦略について学習する。	事前：教科書の第2部第3章を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
10	機能別戦略	研究開発、生産、マーケティング、人事等の機能別の戦略について学習する。	事前：教科書の第2部第4章を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
11	経営組織の基本形態	ライン組織、ファンクショナル組織、ライン・アンド・スタッフ組織等の経営組織の基本形態について学習する。	事前：教科書の第3部第2章を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
12	企業組織の諸形態（1）	職能部門制組織、事業部制組織等の企業組織の様々な形態について学習する。	事前：教科書の第3部第3章を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
13	企業組織の諸形態（2）	マトリックス組織等の企業組織の様々な形態について学習する。	事前：教科書の第3部第3章を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
14	経営のグローバリゼーション	経営の国際化、グローバリゼーションについて学習する。	事前：教科書の第5部第2章を読んでおくこと（1時間） 事後：講義資料を読み返しておくこと（1時間）
15	企業経営と情報化	企業経営における情報化の進展、情報ビジネスについて学習する。	事前：教科書の第5部第3章を読んでおくこと。小テストに解答しておくこと（1.5時間） 事後：教科書と講義資料を読み返しておくこと（1時間）

関連科目：企業論、経営戦略論、経営組織論、人的資源管理論、グローバル経営論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	経営学検定試験公式テキスト１　経営学の基本	経営能力開発センター	中央経済社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法：第14回の講義後にMoodleで実施する小テスト20%、期末試験80%で評価する。

（基準）	
学生への メッセージ	予習・復習を行い、問題演習に積極的に取り組んで欲しい。
担当者の 研究室等	11 号館 8 階　畠山研究室
備考	①小テストは、第 14 回の講義終了後から第 15 回の講義の前日 23 時までに回答しなければならない。得点は、回答終了後に Moodle で表示されるので各自で確認すること。 ②講義資料は配布しないので各自で印刷して持参すること。講義資料の保存場所は初回の講義で説明する。

科目名	経営学Ⅱ	科目名（英文）	Introduction to Business Administration II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北　真収
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1002a0		

授業概要・目的	経営学の基本について全体を網羅して講義を行います。授業で紹介する代表的な事例を通じて、経営学への理解を深めます。企業での企画調査やコンサルティングの実務経験を講義に取り入れます。
到達目標	経営とは何か、何が課題なのかなど、現実に即して経営への疑問を広く理解することが目標です。
授業方法と留意点	事例を紹介しながら経営知識を講義します。理解を助けるために DVD なども活用します。 学習課題への応答を求めるなど参加を重視します。
科目学習の効果（資格）	経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価について説明します	事前：シラバスを読んでおく 事後：講義内容を復習する
2	日本型企業システム	日本型経営の特徴について説明します	事前：教科書１部５章を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
3	人事管理と組織文化	人事制度や文化、それらに及ぼす影響について説明します	事前：教科書３部４章を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
4	動機づけとリーダーシップ	組織のモチベーションと成果の点から説明します	事前：教科書４部１章を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
5	M&A と買収防衛策	目的や手法について説明します	事前：教科書５部１章を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
6	社会的責任と企業倫理	CSR の考え方、企業倫理について説明します	事前：教科書５部４章を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
7	環境経営	環境経営、環境ビジネスについて説明します	事前：教科書５部５章を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
8	起業家	事業のスタートで必要な起業家としての条件について説明します	事前：配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
9	イノベーション	技術革新だけではないイノベーションについて説明します	事前：配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
10	ビジネスモデル	身近なところからビジネスモデルを取り上げて説明します	事前：配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
11	標準化と適応化	それぞれの特徴、相違点について説明します	事前：配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
12	見えざる資産	有形資産にない特徴について説明します	事前：配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
13	サービスマネジメント	ものとの違いを中心にサービス特有の特徴について説明します	事前：配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
14	顧客満足	サービスの顧客満足を中心にして説明します	事前：配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
15	非営利組織の経営	NPO などの非営利組織、コミュニティビジネスについて説明します	事前：配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）

関連科目：経営管理論、経営組織論、経営戦略論、グローバル経営論など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	経営学の基本	経営能力開発センター編	中央経済社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	テキストブック　経営戦略	北　真収	岡山大学出版会
2			
3			

評価方法（基準）	期末試験 70%、2 ウエイシートなど 30%で評価します。
学生へのメッセージ	代表的な事例を使って経営知識を解説します。事例に興味を持って取り組んでください。
担当者の研究室等	11 号館 8 階　北　真収研究室（相談時は事前に連絡してください）
備考	2（two）ウエイシートを使用します。毎回記入し提出して下さい。翌週に返却します。

科目名	経営学特講Ⅰ	科目名（英文）	Up-to-date Topics of Business Administration Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鶴坂　貴恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1046a0		

授業概要・目的	IoT 時代を迎え、経営情報学は新たな局面を迎えている。そこで本授業は、IoT 時代の経営情報学の本質や有効性を、実践例を交えながら学ぶ機会を提供することを目的としている。 IoT の到来により、企業経営だけでなく、まちづくりや教育現場などでも、効果的な ICT 利用が求められている。さらに企業経営においては、これまで以上に IT、ICT を活かした戦略構築など、新たな課題が生まれており、経営情報学のさらなる発展が期待されるところである。 上記のことをふまえて、本授業では、各界で活躍するビジネス・パーソンをお招きし、今後の IoT 時代について考察する。
到達目標	①IoT について理解を深める。 ②IoT が社会に与える影響を理解する。 ③IoT によって創出される可能性について理解する。
授業方法と留意点	この授業は、経営情報学科の教員が毎回交代し、ゲストスピーカーをお招きするなどして講義をするオムニバス授業である。 ゲストスピーカー等の詳細は未定のため、確定次第通知する。
科目学習の効果（資格）	情報系各種資格

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 担当：高尾裕二 経営学部長	この講義が登場した時代背景と本学部の学生が卒業時に求められている IT 系人材としての素養について示し、本講義の中で学び取るべきことについて伝える。授業による学習効果を測定するために事前アンケートを実施する。	【事前学習】ICT の現状を自分なりにまとめておく。 【事後学習】学んだことをまとめる。
2	未定		
3	未定		
4	未定		
5	未定		
6	未定		
7	未定		
8	未定		
9	未定		
10	未定		
11	未定		
12	未定		
13	未定		
14	未定		
15	未定		

関連科目	情報系科目、および、経営戦略系科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（毎回のレポート等）70%、グループワークなど 30%
学生へのメッセージ	経営情報学の最先端を学ぶための良い機会です。積極的に受講して下さい。
担当者の研究室等	鶴坂貴恵　11 号館 7 階 久保貞也　11 号館 7 階
備考	

科目名	経営学特講Ⅱ	科目名（英文）	Up-to-date Topics of Business Administration II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中　祥司
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2047a0		

授業概要・目的	本科目は、企業や組織が直面する問題を主体的に解決するための能力を身につけることを目指します。 とりわけ、マーケティング概論で学んだことをさらに発展させ、「消費者」の視点からマーケティングをとらえなおし、学んでいきます。 つまり、消費者の立場から企業活動を考察します。 なお、授業担当者の旅行会社での実務経験から、モノだけではなくサービスを含めた多様な事例を紹介しながら授業を進めます。
到達目標	・消費者の購買意思決定プロセスについて説明することができる。 ・消費者視点で複数の企業のマーケティング戦略を比較することができる。
授業方法と留意点	講義が中心です。授業の後半にクイズを行います。そのクイズの解答は次週の授業時に行います。 授業時、および次の授業までにしっかりと復習をしておいてください。
科目学習の効果（資格）	リテール・マーケティング（販売士）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	消費者行動とマーケティング	消費者の行動を理解する意義について説明します。	【事前学習】マーケティング論の復習、教科書第１章の読解(30 分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30 分)。
2	消費者行動の分析フレーム	消費者の行動を分析するための代表的なフレームについて紹介します。	【事前学習】教科書第２章の読解(30 分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30 分)。
3	マーケティング研究･消費者行動研究の系譜	研究系譜について理解しながら、消費者視点で企業活動を捉える意義について理解を深めます。	【事前学習】教科書第３章の読解(30 分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30 分)。
4	消費行動と消費パターンの分析	消費者の代表的な消費パターンについて理解します。	【事前学習】教科書第４章の読解(30 分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30 分)。
5	消費者行動の変化とその諸相	消費者を取り巻く環境について理解します。	【事前学習】教科書第５章の読解(30 分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30 分)。
6	情報処理のメカニズム	消費者情報処理について理解を深めます。	【事前学習】教科書第６章の読解(30 分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30 分)。
7	情報処理の動機づけ	消費者の購買に対する動機や関与について理解を深めます。	【事前学習】教科書第７章の読解(30 分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30 分)。
8	情報処理の能力	認知構造と消費者行動との関係について説明します。	【事前学習】教科書第８章の読解(30 分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30 分)。
9	購買意思決定の分析	消費者の購買意思決定プロセスの概要について理解します。	【事前学習】教科書第９章の読解(30 分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30 分)。
10	購買前の情報処理	消費者の内部探索･外部探索について理解を深めます。	【事前学習】教科書第１０章の読解(30 分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30 分)。
11	購買時の情報処理	製品やサービスに対する態度について説明します。	【事前学習】教科書第１１章の読解(30 分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30 分)。
12	購買後の情報処理	購買後の満足の仕組みについて説明します。	【事前学習】教科書第１２章の読解(30 分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30 分)。
13	購買意思決定プロセスとマーケティング	消費者の購買意思決定プロセスに応じた企業のマーケティングについて考えます。	【事前学習】教科書第１３章の読解(30 分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30 分)。
14	購買意思決定の特性とマーケティング	消費者の情報処理と企業のマーケティング活動との関係について理解を深めます。	【事前学習】教科書第１４章の読解(30 分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30 分)。
15	ブランド構築とＩＭＣ	記憶とブランドとの関係について説明します。	【事前学習】教科書第１５章の読解(30 分)。 【事後学習】これまでの学習範囲を復習し、期末レポートに備える(30 分)。

関連科目：マーケティング概論、マーケティング戦略、リテールマーケティング

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	消費者行動論	青木幸弘・新倉貴士・佐々木壮太郎・松下光司	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	平常点（ミニッツペーパー、中間レポート等）４０％ 期末レポート６０％
学生への メッセージ	新しい製品やサービスに関心をもってください。 その製品やサービスが世の中に出てきた背景について考える癖をつけてください。
担当者の 研究室等	田中祥司研究室　１１号館８階
備考	各回、予習・復習をあわせて１時間程度の準備が必要になります。

科目名	経営学特講Ⅲ	科目名（英文）	Up-to-date Topics of Business Administration III
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐井　英子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD3048a0		

授業概要・目的

会計情報とは、企業の経済活動という現実の事象を、会計ルールに従って加工ないし写像したものである。ゆえに会計情報を解釈し、その背後にある現実の事象を正しく把握するには、会計ルールすなわち会計固有の用語とその仕組みに関する知識が不可欠である。特に近年、企業活動の多様化、グローバル化に伴い会計ルールは、さまざまな形で新設、変近年、企業経営において、連結グループとしての戦略に基づいて経営をすすめていくという連結経営が主流となっている。
それに伴い、証券取引法（現金融証券取引法）では、平成 12 年 3 月以降、個別ベースであった有価証券等の記載が、連結ベースとなる改正がおこなわれ、会社法でも連結計算書類が導入された。したがって現代会計の知識を修得するには、個別財務諸表に加えて連結財務諸表を理解っしなければならない。
　本講義では、連結会計の全体像、資本連結や成果連結といった基本事項、持分法や在外古賀者の処理、連結キャッシュフロー計算書、セグメント情報等の開示などに関連する論点,企業結合会計等ににについてわかりやすく解説する。本。

到達目標

・連結財務諸表作成の基本的ルールを理解する。
・子会社、関連会社、関係会社等グループ経営について理解する。
・持分法に関する手続きを理解する。
・キャッシュフロー計算書作成の基本的ルールを理解する。
・企業結合会計について理解する。
・連結損益計算書、連結貸借対照表、連結キャッシュフロー計算書等を理解でき、実際に作成できるようになる表されている会計情報を、自ら利用できるようになる。

授業方法と留意点

配・連結損益計算書、連結貸借対照表、連結キャッシュフロー計算書等を理解でき、実際に作成できるようになる布資料を文献、資料を中心に解説のあと、練習問題、課題を提示するので、グループワークあるいは個人を解決し、プレゼンテーションする。講義内容の理解を深めるために練習問題、課題レポートの提出を求める。

科目学習の効果（資格）

公認会計士試験、税理士試験、証券アナリスト試験等の会計資格取得に有用である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	連結財務諸表の作成①	連結財務諸表とは、連結主体論、	当配布プリントの内容を復習し整理する。理解できないところは図書館で調べる（1 時間）習問題（講義後に配布）を解く
2	連結財務諸表の作成②	連結範囲、子会社、関連会社	当日の配布プリントの内容を復習し整理する。理解できないところは図書館で調べる（1 時間
3	連結財務諸表の作成③	少数株主持分、のれんの処理	当日の配布プリントの内容を復習し整理する。当日提示する練習問題を解く（90 分）
4	連結財務諸表の作成④	連結貸借対照表の作成①	当日の配布プリントの内容を復習し整理する。当日提示する練習問題を解く（90 分）
5	連結財務諸表の作成⑤	連結貸借対照表の作成②	当日の配布プリントの内容を復習し整理する。当日提示する練習問題を解く（90 分）
6	連結損益計算書の作成①	連結損益計算書の作成①	当日の配布プリントの内容を復習し整理する。当日提示する練習問題を解く（90 分）
7	連結損益計算書の作成②	連結損益計算書の作成②	当日の配布プリントの内容を復習し整理する。当日提示する課題を解きレポートを作成する（90 分）
8	連結まとめ	確認テスト	今までの内容を復習し、確認テストの準備をする。
9	事業別セグメント、地域別セグメント算会計	事業別セグメント、地域別セグメント算会計の意義とセグメンターション	
10	外貨換算会計①	在外支店、在外子会社の財務諸表項目の換算	当日の配布プリントの内容を復習し整理する。当日提示する課題を解きレポートを作成する（90 分）
11	外貨換算会計②	在外支店、在外子会社の財務諸表項目の換算	外貨換算会計のもとめ(90 分)
12	キャッシュ・フロー計算書①	キャッシュとは	当日の配布プリントの内容を復習し整理する。当日提示する練習問題を解く（90 分）
13	キャッシュ・フロー計算書②	営業キャッシュフロー計算	当日の配布プリントの内容を復習し整理する。当日提示する練習問題を解く（90 分）
14	キャッシュ・フロー計算書③	キャッシュフロー計算書の作成	今までの内容を復習し、理解でき所を箇条書きにし、次回の授業で質問する、(90 分)
15	まとめ	総復習	配布した資料、練習問題の復讐 定期試験の準備（6 時間）

関連科目

企業簿記システム、財務会計論、管理会計論、会計情報分析論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			植野　清貴

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	連結会計の基礎	植野　清貴	植野　清貴
2	連結会計入門	ビジネスアカウンティング研究会	同文館出版
3	連結会計	一法師「　信武	同文館出版

評価方法（基準）

課題提出（３０％）と、確認テスト（２０％）定期テスト（５０％）
講義の進捗度により、確認テストを復習問題として、評価に含めないこともあります。(事前に説明します)

学生へのメッセージ

会計情報を分析し、活用するためには、会計ルール（基準）やその作成プロセスを理解することが必要です。企業活動の多様化、グローバルに伴い、会計ルールも複雑化しています。本講義では、連結財務諸表や外貨換算会計、企業結合会計などより高度な会計情報について学びます。

担当者の研究室等

11 号館 8 階(佐井教授室)

備考

科目名	経営管理論	科目名（英文）	Business Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林　正浩
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1003a0		

授業概要・目的	企業活動に必要な経営資源でふる「ヒト・モノ・カネ・情報・技術」等を最大限に活かし、企業活動の効率向上と社会への貢献力強化を図るための戦略と管理手法を学びます。 【担当教員実務経歴】 ①金融機関勤務（本部企画部経営企画・本店営業部融資与信審査業務） ②ベンチャー投資財団（企業投資業務） ③監査法人（株式上場コンサルティング） ④ベンチャー企業監査役兼務（複数社）
到達目標	企業内人材および社会人として必要な基礎知識を学ぶとともに、当該知識を知恵として様々な事象に応用しうる人材の育成を目指します。
授業方法と留意点	毎回、当該授業内容に関するキーワードを記載した「講義メモ」と付属資料を配付します。 「講義メモ」のキーワードについては、授業後の復習として活用してください。 またスライドで説明した内容について、自身で「講義メモ」に必要な点のみを記載する、効率的で効果的なノートの取り方を身に付けてください（板書の習慣を変えてください）。 毎回、講義内容に関する質問（アンケート表）を配布します。講義終了時に提出してもらいます。
科目学習の効果（資格）	卒業後、ビジネスパーソンとして求められる基本的・実践的な経営知識を習得すると共に、業務を通じ自己表現を図り、社会人として戦略的・主体的に挑戦する意欲が醸成される。 自身にとっての必要事項をまとめて記録する（メモを取る）能力を身に付けてもらいます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講座ガイダンス 社会へ巣立つための心構え	講座ガイダンス（勉強方法・評価方法） 社会とは？　企業とは？　そこで求められる人材とは？	＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
2	知識社会で活躍する人材とは	社会で必要な能力と意思決定のプロセス 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
3	株式会社の機能	株式会社の構造と管理手法 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
4	企業内新規事業プロジェクトの考え方	新規事業プロジェクト企画の考え方と戦略事例 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
5	企業を取り巻く経営環境分析	経営環境の見方とガバナンス体制の事例研究 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
6	戦略的企業組織とは？	企業組織の戦略思考と事例研究 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
7	中小企業、ベンチャー企業の光と影	中小企業・ベンチャー企業における戦略思考とビジネスモデル事例 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
8	戦略経営と事業リスク	戦略経営の考え方とリスクマネジメント手法 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（各自）（1 時間）
9	企業財務の視点	企業財務の捉え方と管理会計の考え方 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（各自）（1 時間）
10	企業財務の実態把握	財務諸表の基本的な見方と分析法。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（各自）（1 時間）
11	経営分析の基本 個人資産形成	経営指標を用いた分析手法と個人資産形成 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（各自）（1 時間）
12	投資の基本的考え方	株式投資・債券投資の基本的知識 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（各自）（1 時間）
13	リーガルマネジメント	企業法務と営業秘密管理手法	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を

	配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（各自）（1 時間）
14	プレゼンテーション技法	プレゼンテーションの効果的手法と社会人基礎力養成 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（各自）（1 時間）
15	プレゼンテーション発表（演習）	学生による発表（希望者のみ） 発表学生のプレゼンを聴講し、質問等を積極的にすること。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞プレゼン発表資料の策定（２時間：希望者のみ） ＜事後＞授業で学んだ事項の再認識（各自）（1 時間）

関連科目

経営学、経営組織論、ベンチャービジネス論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

①毎回のアンケート内の［設問１］に対する回答評価（評価割合：50%）
授業内容のお復習いとして設定してある設問について、授業から学んだ手法を用いた自身の考え方を評価します（正解／不正解を問うものではありません）。またアンケート内の［設問２］（授業内容に関する質問および要望）について、積極的に質問または提案した場合は加点評価とします。なお、当該質問や要望については、次回以降の授業時に解説文を付けて一覧表にして学習者全員に資料配付します。
②定期試験（評価割合：50%）
授業全般にわたっての課題を提示します。

学生へのメッセージ

現在、起こっている事例を参考に、自身の専門分野にとらわれない、将来企業人の一員となるために必要な産業界（実務）の知識を習得してください。
普段より新聞等の経営事象に目を通すこと（社会人として習慣化することを勧めます）。

担当者の研究室等

１１号館７階　林研究室

備考

第１５回の「プレゼンテーション発表」では積極的な発表を望みます。また発表者への質疑も積極的にお願いします。

科目名	経営財務論Ⅰ	科目名（英文）	Business Finance Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高尾　裕二
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	一般に企業は、ヒト、モノ、カネ、情報・技術から構成されるといわれることがある。コーポレート・ファイナンス（わが国では、「経営財務論」とよばれることも多い）は、株主の立場に立って、これら４つの企業構成要素のうち、主にカネの流れ（キャッシュフロー）から企業の行動ないし意思決定のあり方を分析し、どのような資金の調達と運用が企業価値の創造に結びつくのかを検討する経営学分野におけるの一つの主要な領域である。 コーポレート・ファイナンスⅠでは、コーポレート・ファイナンスおける一連の主要な基礎概念なり、その算定方法（例えば、企業の資金調達方法、期待収益率（リターン）、リスク、資本コスト、アセット・プライシング、キャッシュフローと現在価値、企業価値評価など）を学ぶ。現在の企業行動を理解するために必要不可欠なこれらの基礎概念・算定方法およびそれらの相互の関係を十分に理解し体得することが、本講義の目標である。
到達目標	現在の経済社会において不可欠なコーポレート・ファイナンス（経営財務）における基礎概念（期待収益率、リスク、資本コスト、現在価値、資本資産評価モデルなど）に関する知識を修得し、簡単な企業価値評価を自ら行うことができる。 企業財務部門の主要な戦略的業務の概要を理解する。
授業方法と留意点	配布する講義資料に沿って講義を進める。コーポレート・ファイナンスにおける論点を十分に理解するためには、実際に数値例に取り組み、自分自身で計算してみることが不可欠であることから、原則として、講義の後半３０分程度は、配布した演習問題の取組みおよび質問の時間に充てる。演習問題解答に向けての受講生同士でディスカッションも大いに推奨する。 原則として講義資料はほぼ講義 1～2 回分について１回のペースで配布する。配布する資料は本講義のテキストであり、ファイルしておき、講義に際して持参すること。とりわけ最後まで説明が終了しなかった講義資料については、翌週に必ず持参することが必要である。また欠席した場合の過去の配布資料の提供にはどのような理由であれ応じないので、注意すること。
科目学習の効果（資格）	企業への就職希望者にとって企業の財務活動に関する基本的な知識が得られ、また専門的職業人（とくに公認会計士、証券アナリスト、ファイナンシャルプランナーなど）の資格取得にも密接に関連する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	コーポレート・ファイナンスの目的を理解し、コーポレートファイナンスで取り上げられる主要な論点の概観を得る。同時に、授業の進め方、評価方法等について説明する。	「会社は誰のものか」について、学生同士でディスカッションしておくこと（2 時間）
2	企業の資金調達（１）	現行制度のもとでの企業の主要な資金調達な手段を自己資金調達と負債資本調達に分類して、概観する。	企業はなぜ資金調達が必要になるのか」について、学生同士でディスカッションしておくこと（1 時間）。ｍｔネットや参考文献から、具体的な企業の資金調達方法を調べておくこと（1 時間）
3	企業の資金調達（２）	自己資本調達および負債資本調達について、直接金融・間接金融の視点も加味して、企業（経営者）の観点ｋら、その性格を比較する。	第 2 回に配布した資料をに目を通しておくこと（1 時間）。企業の資金調達方法について、自分なりに整理しておくこと（1 時間）
4	資本コストと期待収益率（リターン）	コーポレートファイナンスにおけるキーワードの一つである、企業サイドからの「資本コスト」および資金提供者サイドからの「期待収益率（リターン）」の意味とその計算方法の基礎を学ぶ。	期待収益率および資本コストの意味について、ネットや参考文献から、調べておくこと（1 時間）。演習問題を完成し、期待収益率の算定がキチンとできることを確認しておくこと（1 時間）
5	リスクと期待収益率（リターン）	コーポレートファイナンスのキーワードの一つである「リスク」の意味を学び、リスクと期待収益率（リターン）の関係、さらに、「リスク・プレミアム」の意味を理解する。	一般的に、リスクは、どのような意味で用いられているのか、またコーポレートファイナンスにおけるリスクについてはどうかを、ネットや参考文献から、事前に調べておくこと（1 時間）。演習問題を通じて、収益率の期待、リスク・プレミアムが正しく算定できることを確認してこと（1 時間）
6	企業の資本コスト（１）	前々回・前回の講義内容を前提に、企業が資金調達するうえで極めて重要な資本コストを、リスクと関連づけながら、その意味を理解する。	資本コストについて、リスクと関連づけながら、改めて、自分なりに理解しておくこと。そんため、ネットや参考文献を参照し、資本コストの意味を自分なりに整理しておくこと（2 時間）。
7	企業の資本コスト（２）	前回の講義内容を前提に、今回は、資本コストには、「負債の資本コスト」・「株式の資本コスト」・「総資本コスト」の 3 つに分類されることおよびそれらの算定方法を学ぶ。	演習問題を学生同士でディスカッションしながら完成し、レポートとして提出する（2 時間）。3 つの資本コストの算定を確実に体得するため、相互の関係を踏まえ、自分なりに整理しておく（1 時間）
8	株式資本コストの推定と資本資産評価モデル（１）	リスクとリターンの関係を理解し、株式の資本コストを推計するうえで極めて重要な資本資産評価モデル（ＣＡＰＭ）の基礎的な考え方を説明する。	「株価「」はどのように決まるのかについて、学生同士でディスカッションしておく（２時間）。
9	株式資本コストの推定と資本資産評価モデル（2）	前回の講義に引き続き、資本資産評価モデル（ＣＡＰＭ）を取り上げ、CAPM がどのような視点から構築されたモデルなのかを理解する。	復習として、演習問題を完成し、「β値」の意味をしっかり理解する。加えて、関心のある企業の「β値」はどの程度なのか、また異なる産業間でどの程度異なるのかなど、「β値」に関して、関連するネットや HP から情報を収集する（2 時間）。
10	株式資本コストの推定と資本資産評価モデル（3）	実際に、現実のデータを用いて、株式資本コストをどのように求めるのかを学び、加えて、我が国の企業の資本資本コストの現状を説明する。	CAPM の構造を理解し、あたえれ与えられたデータから、確実に、企業の株式資本コストが算定することができるよう、演習問題を完成する。完成に向けて、学生同士のディスカッションも大いに奨励する（２時間）。
11	キャッシュフローと現在価値計算（１）	コーポレート・ファイナンスの根幹をなすキャッシュフローの（割引）現在価値の計算方法の基礎を、リスクがない場合とリスクがある場合の２つのケースについて学ぶ。	現在価値（PV）とは何かについて、ネットや参考文献を用いて、その意義・意味について予習しておく（2 時間）。演習問題を完成し、単年度の現在価値の算定方法を整理しておく（１時間）

12	キャッシュフローと現在価値計算（２）	前回の講義に引き続き、キャッシュフローの(割引)現在価値の計算方法を学ぶ。今回の講義で取りあげるのは、多期間キャシュフローを前提とした現在価値計算の方法である。	多期間キャッシュフローの現在価値の求め方について、演習問題に取り組み、学生同士でディスカッションしながら、理解を確実なものにする(２時間)
13	企業価値と DCF 法（1）	前回の講義内容をもとに、負債価値と株主資本価値の合計としての「企業価値」がどのように求められるのかを学ぶ。	予習の意味で、企業価値とは何かについて、学生同士でディスカッションしておく（１時間)。演習問題を完成し、企業価値の算定に向けた２つの方法をしっかり自分のものとするる（２時間)。
14	企業価値と DCF 法（2）	前回の講義に引き続き、より現実に即した形での、企業価値の算定方法を理解する。	現在価値計算の簡便法を体得するため、演習問題を、学生同士でディスカッションも踏まえて完成しする（２時間)
15	整理と復習	コーポレート・ファイナンスＩの全体について簡潔に復習し、特に、演習問題についての質問を受ける。	これまでの講義全体を通じて（特に、演習問題について）理解不十分な箇所について、自分なりに整理しておくこと（３時間)

関連科目

簿記入門、ミクロ経済学、財務会計論、ファイナンス、会計情報分析論、企業分析（財務戦略ケース分析）など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネスゼミナール　経営財務入門	井出正介・高橋文郎	日本経済新聞社出版局
2			
3			

評価方法（基準）

定期試験　95%、中間時点における１回の演習レポートの提出（提出の場合は事前に通知する）　5%

学生へのメッセージ

コーポレート・ファイナンスの議論は、経済学の分析枠組みを基礎に展開されることが多く、そのためもあって、経営学部の学生にとっては見慣れない専門用語が多く登場し、またかなり難解な内容も含まれることをあらかじめ念頭においておくこと。私語は他の熱心な受講生の迷惑となることから絶対に慎むこと。演習問題の取り組みにおける学士同士のディスカッションおよび質問は大いに歓迎する。

担当者の研究室等

高尾研究室（１１号館８階）

備考

講義の内容が前後するなど若干の変更等がある場合は、可能な限り事前に伝える。
これまでの理解度を測るために行われる中間時点で提出を求める演習レポートについては、全体として講評し、正解率の低い問題については、改めてその後の授業において解説する。

科目名	経営財務論Ⅱ	科目名（英文）	Business Finance II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高尾　裕二
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	一般に企業は、ヒト、モノ、カネ、情報・技術から構成されるといわれることがある。コーポレート・ファイナンス（わが国では、「経営財務論」とよばれることも多い）は、株主の立場に立って、これら４つの企業構成要素のうち、主にカネ（資金）の流れ（キャッシュフロー）から企業の意思決定ないし行動を分析し、どのような資金の調達と運用が企業価値の創造に結びつくのかを検討する経営学関連の主要領域の一つである。 コーポレート・ファイナンスⅡではコーポレート・ファイナンスⅠで学んだ知識を前提として、（１）企業の投資行動、（２）企業の資金調達と資本構成、（３）企業の配当政策、というコーポレート・ファイナンスの 3 つの主要課題を、順次取り上げ、それらが企業価値や株主価値にどのような影響を与えるのかという観点から検討する。 本講義の目標は、企業の財務行動を理解し分析するうえで不可欠な知識・分析手法を十分に理解し、実践の場において、企業価値創造に向けて、自分なりに考えることができる基礎知識を提供することである。
到達目標	資金（カネ）の流れ（キャッシュフロー）という視点から、企業の行動をキチンと理解することができ、さらに、基礎的なレベルではあるとはいえ、企業における現実のさまざまな意思決定や行動が、企業価値の向上につながるものであるかどうかを、自分なりに、評価し、判断することができる。
授業方法と留意点	配布する講義資料に沿って講義を進めるコーポレート・ファイナンスにおける論点を十分に理解するためには、実際に数値例に取り組み、自分自身で計算してみることが不可欠であることから、原則として、講義の後半３０分程度を配布した演習問題に取組み、質問に答える時間に当てる。なお、演習問題の取り組みに当たっては、受講生同士のディスカッションも大いに奨励する。電卓等の計算機器を携帯すること。 原則として、講義資料はほぼ講義 1～2 回分について１回のペースで配布する。配布する講義資料は本講義のテキストであり、配布のつどファイルし、毎回の講義に持参すること。とりわけ最後まで説明が終了しなかった講義資料は翌週に必ず持参すること。また欠席した場合の過去の配布資料の提供には、どのような理由であれ応じないので注意すること。
科目学習の効果（資格）	民間企業への就職希望者にとって、企業の財務行動に関する必要な知識が得られ、また専門的職業人（特に、証券アナリスト、公認会計士、ファイナンシャルプランナーなど）の資格取得にも密接に関連する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	企業の投資決定と正味現在価値（ＮＰＶ）	経営財務論の目的を理解し、特に経営財務論Ⅱで取り上げられる 3 つの主要な論点を概観する。加えて、授業の進め方、評価方法等について説明する。	コーポレート・ファイナンスⅠにおいて説明した現在価値の意味とその算定方法を復習しておくこと（2 時間）。演習問題を通じて、正味現在価値の算定方法を体得する（1 時間）
2	ＮＰＶ法(正味現在価値法)の検討（1）	企業の投資決定の判断基準として用いられる「正味現在価値」（ＮＰＶ）の意味を理解するとともに、その算定方法を理解する。	演習問題を通じて、正味現在価値の基礎的な算定方法を体得する（1.5 時間）。
3	ＮＰＶ法(正味現在価値法)の検討（2）	複数のプロジェクトの選択を選択含む具体例にもとづいて、正味現在価値法（ＮＰＶ法）が実際にどのように用いられるのかを理解し、より実践に即した形での正味現在価値の算定を学ぶ。	投資決定基準として、正味現在価値法を用いるためには、どのようなデータが必要となるのかを考え、整理しておく（1 時間）。学生同士でディスカッションしながら、演習問題を完成する（1 時間）。
4	ＮＰＶ法（正味現在価値法）の検討（3）	特に、「株主価値」への影響という観点から、企業の投資決定ルールとしての正味現在価値法の特徴を探る。	正味現在価値と株主価値がどのような関係にあるのかを、演習問題の取り組みを通じて、しっかりと納得する（２時間）
5	もう一つの投資決定基準－ＩＲＲ法（内部収益率法）	正味現在価値法（ＮＰＶ法）とともに、企業の投資決定基準とされる内部収益率法（ＩＲＲ法）を学ぶ。	投資決定基準には、どのようなものがあるのかを参考文献やネットで整理しておくこと（1.5 時間）。学士同士でディスカッションしながら、演習問題を通じて、内部収益率の求め方を理解する（１時間）。
6	正味現在価値法（ＮＰＶ法）と内部収益率法（ＩＲＲ法）の比較検討	二つの主要な企業の投資決定基準である正味現在価値法（ＮＰＶ法）と内部収益率法（ＩＲＲ法）を比較し、その長所・短所を検討する。加えて、実社会において用いられている、これら２つ以外の投資決定ルールについても簡単に取り上げる。	演習問題に取り組み、投資決定基準としての正味現在価値法と内部収益率法の違いを理解し、いずれがより望ましい決定基準であるのかを納得する（２時間）
7	リアル・オプション分析の基礎	リアル・オプションの意義を説明するとともに、企業の投資決定判断において、リアル・オプション分析が用いられる場合の企業投資判断への影響を検討する。	ネットや参考文献から、オプションについての知識を整理しておく（１時間）。演習問題に取り組み、リアル・オプションの意義および利用方法をしっかりと理解する（1.5 時間）。
8	企業の資金調達と投資行動（1）	投資決定に続く、コーポレート・ファイナンスⅡの主要テーマのである企業の資金調達行動について、わが国企業の現状もふまえて、概観する。	企業は、いつ、どのような状況のもとで、資金調達が必要になるのかを、学生同士でディスカッションしておく（１時間）?。
9	企業の資金調達と投資行動（2）	今回は、企業価値に与える影響という観点から、企業の投資行動と資金調達行動の関係を説明する。	演習問題に取り組み、投資行動は資金調達行動に影響を与えるが、資金調達行動は投資行動に影響を与えないのかを、自分なりに整理しておくこと（1.5 時間）
10	企業の資本構成と企業価値（１）	企業の資金調達行動の違い、よって資本構成のあり方は「企業価値」に影響するのかどうかに関する有名な「MMの無関連命題」の意義とメカニズム説明する。	コーポレート・ファイナンスにおける「MM 命題」とは何か。参考文献やネットで調べておく（1.5 時間）
11	企業の資本構成と企業価値（２）	今回は、企業の資金調達が「株主価値」にどのような影響を与えるのかという観点から、企業の資金調達を検討する。	資本構成は、企業価値には影響を与えないが、株主価値には影響を与える、という主張を、学生同士でディスカッションしながら、演習問題を通じてキチンと理解する（２時間）
12	企業の最適資本構成	これまでの企業の資金調達行動の検討を踏まえたうえで、法人税の存在といった現実的・制度的な状況のもとで、企業にとって望ましい資本構成のあり方を検討する。	最適資本構成に影響を与えると思われる現実的・制度的な一連の要因について、復習として、自分なりに整理しておく（２時間）。演習問題に取り組み、負債の）節税効果を納得する（１時間）。

13	企業の配当政策	企業の配当政策が「株主価値」にどのように影響するのかについて、現金配当を念頭に置き、まず①有名な「MMの配当政策無関連命題」を取り上げ議論し、次いで②所得税の存在といった現実的・制度的な状況を前提に配当政策について検討する。	配当政策とは何か、また具体的には後のような方法があるのかを、ネットや参考文献で調べておく（1時間）。
14	自社株買い（自己株式の取得）	今回は、配当政策の一つとみなされる「自社株買い」を念頭に置き、「株主価値」にどのような影響を与えるのかについて検討する。	復習として、学生同士でディスカッションしながら、自社株買いがなぜ現金配当と同じ株主への利益還元という効果を持つのか、整理しておく（1.5時間）。
15	整理と復習	コーポレート・ファイナンスⅡの全体について簡潔に復習し、特に、演習問題についての質問を受ける。	これまでの講義全体を通じて（特に、演習問題について）、疑問点・理解不十分な箇所について自分なりに整理しておくこと。質問を受ける（3時間）

関連科目

簿記入門、ミクロ経済学、財務会計論、ファイナンス、会計情報分析論、企業分析（財務戦略ケース分析）など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネスゼミナ経営財務入門	井出正介・高橋文郎	日本経済新聞社出版局
2			
3			

評価方法（基準）

定期試験　95%、中間時点における１回の演習レポートの提出（提出の場合は事前に通知する）　5%

学生へのメッセージ

コーポレート・ファイナンスの議論は、経済学の分析枠組みを用いて展開されることも多く、そのため、経営学部の学生にとっては見慣れない専門用語が多く登場し、またかなり難解な内容も含まれることをあらかじめ念頭においておくこと。
私語は他の熱心な受講者の迷惑となることから絶対に慎むこと。授業中に与えられた演習課題に熱心に取り組むこと。その際の受講生同士のディスカッションおよび質問は大いに歓迎する。

担当者の研究室等

高尾研究室（１１号館８階）

備考

講義の内容が前後するなど若干の変更等がある場合は、可能な限り事前に伝える。
これまでの講義に関する理解度を測るための中間時点での演習レポートについては、その後の授業において、全体として講評し、正解率の低い問題のついては、改めて説明する。

科目名	経営史	科目名（英文）	Business History
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐藤　正志
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1009a0		

授業概要・目的

企業経営の歴史的発展を英・米・日の事例を中心として比較史的に考察します。

前半は、経営史学の方法論や資本主義経済を生み出したイギリスの産業革命期の経営を取り上げます。とくに、技術の発展や規格化・標準化が企業経営のあり方を大きく規定することを考察します。
後半はアメリカの大量生産システムの形成について概観して、1920～30 年代に現代の生産システムや消費社会の原型が誕生したことを、考えていきます。

到達目標

経営事象の本質を歴史的な視点から把握する能力をつけます。

授業方法と留意点

講義形式の授業。資料を配付して説明します。アメリカや日本の幅広い事例が出てきますので、板書事項をノートにとりながら、まとめてください。

科目学習の効果（資格）

企業経営に関する基本事項を歴史的視点から学びますので、他の専門科目の理解を深めるのに役立つと思います。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	経営史の方法論（1）	マックス・ウェーバーの「エートス」論	ウェーバーの「エートス」概念について事前学習する（2 時間）。講義後に講義内容をレポートにまとめる（2 時間）。
2	経営史の方法論（2）	シュンペーター理論と企業者の役割	シュンペーターのイノベーション理論の概要を事前学習する（2 時間）。講義後にイノベーション理論のついてレポートにまとめる（2 時間）。
3	技術の発展と企業（1）	マニュファクチュア経営と産業革命	マニュファクチュア、問屋制家内工業について事典等で調べる（2 時間）、講義後にそのマニュ経営の歴史的役割についてレポートにまとめる（2 時間）。
4	技術の発展と企業（2）	産業革命期の経営	英国の産業革命の流れを事前学習する（2 時間）。講義後に英国の産業革命の特質についてレポートにまとめる（2 時間）。
5	技術の発展と企業（3）	規格の標準化が勝敗を決める（家庭用ビデオ録画機、ベータとＶＨＳの争い）	技術の発展が経営に与えた影響の事例について調べる（2 時間）。講義後、講義内容をふまえ、「規格の標準化」と企業の経営戦略との関連性についてレポートを作成する（2 時間）。
6	技術の発展と企業（4）	後進国の産業革命（工業化）とガーシェンクロン・モデルの有効性	日本の産業革命の特質について英国と比較して考える（2 時間）。講義後に講義内容をレポートにまとめる（2 時間）。
7	英国経済の「衰退」の経営的要因	英国経済は「衰退」したのか。「ジェントルマン資本主義論」から考察。	イギリス近代の経済史についての概要を把握する。また、文化と経営の関連性について調べる（2 時間）。「ジェントルマン資本主義論」について、講義内容をふまえレポートにまとめる（2 時間）。
8	「アメリカ式生産システム」とフォード・システム（1）	互換性部品生産方式と「科学的管理法」	「アメリカ式生産システム」について事前学習する（2 時間）、講義後に講義内容をレポートにまとめる（2 時間）。
9	「アメリカ式生産システム」とフォード・システム（2）	自動車産業の発展とフォード・システムの形成	フォード・システムについて事前学習する（2 時間）、講義後に講義内容をレポートにまとめる（2 時間）。
10	「アメリカ式生産システム」とフォード・システム（3）	「フォーディズム」と現代資本主義	現代資本主義の特質について、さまざまな理論を事前学習する（2 時間）、講義後に「フォーディズム」と現代資本主義の関連性をレポートにまとめる（2 時間）。
11	独占企業の形成	独占とは何か。アメリカにおける独占企業の形成から学ぶ。	事前に独占の類型について調べる（２時間）。講義後、講義内容についてレポートにまとめる（２時間）。
12	消費社会の成立と企業経営（1）	「消費」の変容と現代社会の成立	「消費社会」に関する議論について調べる（2 時間）。講義後に講義内容をレポートにまとめる（2 時間）。
13	消費社会の成立と企業経営（2）	マーケティング活動とブランド	ブランドの発展について事前学習する（2 時間）、講義後に現代の経営にとってマーケティング活動とブランドとの関連性についてレポートにまとめる（2 時間）。
14	消費社会の成立と企業経営（3）	ブランド商品の誕生	具体的なブランド商品の事例について事前に調べる（2 時間）。講義後に講義内容をレポートにまとめる（2 時間）。
15	まとめ	講義全般のまとめと質疑応答	事前事後に練習問題（合計４時間）

関連科目

現代日本経営史

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）

定期試験結果（７０％）、レポート（２０％）、講義への積極的な取り組み姿勢・態度（10%）

学生へのメッセージ

講義内容に関して不明な点や疑問点は、遠慮せずに質問してください。
なお、紹介する参考文献にはできるだけ目をとおして、より理解を深めていただきたい。

担当者の研究室等

11 号館 8 階

備考

科目名	経営戦略論	科目名（英文）	Strategic Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北　真収
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2019a0		

授業概要・目的	競争戦略の基本を学ぶことに主眼を置いています。基本戦略や考え方の枠組み（フレームワーク）だけでなく、最近のトピックスも含めて講義します。 企業での企画調査やコンサルティングの実務経験を講義に取り入れます。
到達目標	競争優位に通じるような思考方法や参考点を学ぶことによって、自分なりに課題解決のアイデアを考えたり、提案ができるような能力を習得することが目標です。
授業方法と留意点	事例を紹介しながら経営理論を講義します。理解を助けるためにDVDなども活用します。 学習課題への応答を求めるなど参加を重視します。
科目学習の効果（資格）	経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価について説明します	事前：シラバスを読んでおく 事後：講義内容を復習する
2	経営戦略とは何か	企業ドメインなどについて説明します	事前：企業ドメインの果たす役割は何か、教科書序章を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
3	業界構造分析	５フォース分析について説明します	事前：自動車業界を分析してみよう、教科書6章を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
4	競争の基本戦略	コスト、差異化、集中の戦略について説明します	事前：それぞれの戦略の違いを理解しよう、配付資料を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
5	コストリーダーシップ戦略	規模の経済などについて説明します	事前：低価格政策を意味しないことを理解しよう、教科書1章を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
6	垂直的、水平的差異化	差異化戦略について説明します	事前：両者の違いを理解しよう、教科書2章を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
7	製品以外での差異化	カスタマイゼーションについて説明します。	事前：カスタマイゼーションとは何か、教科書2章を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
8	コストと差異化の両立	ブルー・オーシャン戦略について説明します	事前：レッド・オーシャンとどう違うのか、教科書2章を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
9	先発優位の源泉	ネットワーク外部性などについて説明します	事前：ICTの普及とネットワーク外部性の関係を理解すること、教科書3章を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
10	先発企業の戦略	同質化戦略などについて説明します	事前：模倣も重要な手法であるのか、教科書3章を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
11	後発優位と逆転	サンク・コストなどについて説明します	事前：先発企業の弱みは何か考えてみよう、教科書4章を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
12	後発企業の戦略	チャレンジャーの戦略などについて説明します	事前：競争上の位置によってとる戦略が違うことを理解しよう、教科書4章を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
13	公的標準、事実上の標準	国際標準などについて説明します	事前：標準がどのようにして決まるのだろうか、教科書5章を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
14	オープン化戦略	オープン・イノベーションについて説明します	どこまでをオープンにするのか理解しておこう、教科書5章を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
15	GAFAの戦略	戦略の実際例を説明します	事前：配付資料を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）

関連科目：経営組織論、グローバル経営論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	テキストブック　経営戦略	北　真収	岡山大学出版会

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	経営戦略入門	網倉久永・新宅純二郎	日本経済新聞出版社

評価方法（基準）	期末試験６０％、学期半ばの課題レポートなどの４０％で評価します。
学生へのメッセージ	事例を使って経営理論を解説します。事例に興味を持って取り組んでください。
担当者の研究室等	11号館８階　北　真収　研究室（相談時は事前に連絡してください）
備考	2（two）ウエイシートを使用します。毎回記入し提出して下さい。適宜コメントし翌週に返却します。

科目名	経営組織論	科目名（英文）	Organizational Buhavior
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	ＧＨＪＫＬＭ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北　真収
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2017a0		

授業概要・目的	組織理論の基本を学ぶことに主眼を置いています。組織現象はどのようにして生じるのか、どんな影響を与えるのか、そうしたメカニズムを事例や体験を通じて平易に講義します。 企業での企画調査やコンサルティングの実務経験を講義に取り入れます。
到達目標	組織現象について理解し、その背景的知識や思考方法を習得することを目標とします。
授業方法と留意点	事例を紹介しながら経営理論を講義します。理解を助けるために DVD なども活用します。学習課題への応答を求めるなど参加を重視します。
科目学習の効果（資格）	経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価について説明します	事前：シラバスを読んでおくこと 事後：講義内容を復習する
2	経営組織の特徴	分業の原理、調整の原理について説明します	事前：役割分担について考えておくこと、配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
3	経営組織の構造	事業部制、持ち株会社制、プロジェクト組織、海外展開の組織を説明します	事前：会社はどのように組織化しているのか、配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
4	グループワーク（経営組織の構造）	ネットワーク組織に関するビデオを視聴した後、グループワークを行います	事前：企業間で協働する利点を考えておくこと、配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
5	モチベーション	達成欲求、内発的動機づけについて説明します	事前：勉強意欲が高まるのはどのような時か、配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
6	キャリア	キャリア開発、ガラスの天井について説明します	事前：キャリアについて考えてみよう、配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
7	リーダーシップ１	リーダーの役割、リーダーの行動について説明します	事前：リーダーについてどんな人を連想するか、配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
8	リーダーシップ２	カリスマ、アントレプルナーについて説明します	事前：起業家に必要なものは何か、配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
9	組織文化	組織文化の機能、逆機能について説明します	事前：組織文化は仕事のやり方に影響を与えるか、配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
10	組織のライフサイクル	組織の成長モデルについて説明します	事前：組織が大きくなるにつれて特性はどのように変わるか、配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
11	組織の変革１	変革への抵抗、組織慣性について説明します	事前：人はなぜ、変革に抵抗するのだろうか、配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
12	組織の変革２	変革型ミドルについて説明します	事前：変革はトップだけでなく、ミドルも主導できるのだろうか、配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
13	組織学習	高次学習、低次学習について説明します	事前：どんな時に高次学習が必要になるのか、配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
14	人的資源管理	人事評価、エンパワーメントについて説明します	事前：人事評価はどのように行われるべきか、配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
15	非営利組織	NPO など非営利組織の経営について説明します	事前：配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）

関連科目：経営戦略論、経営管理論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	経営組織論	十川廣國	中央経済社

評価方法（基準）	期末試験 70%、2（two）ウエイシートなど 30%で評価します。
学生へのメッセージ	事例を使って経営理論を解説します。事例に興味を持って取り組んでください。
担当者の研究室等	11 号館８階　北　真収　研究室（相談時は事前に連絡してください）
備考	2（two）ウエイシートを使用します。毎回記入し提出して下さい。翌週に返却します。

科目名	経営組織論	科目名（英文）	Organizational Buhavior
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	ＡＢＣＤＥＦ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北　真収
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2017a0		

授業概要・目的	組織理論の基本を学ぶことに主眼を置いています。組織現象はどのようにして生じるのか、どんな影響を与えるのか、そうしたメカニズムを事例や体験を通じて平易に講義します。 企業での企画調査やコンサルティングの実務経験を講義に取り入れます。
到達目標	組織現象について理解し、その背景的知識や思考方法を習得することを目標とします。
授業方法と留意点	事例を紹介しながら経営理論を講義します。理解を助けるために DVD なども活用します。学習課題への応答を求めるなど参加を重視します。
科目学習の効果（資格）	経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価について説明します	事前：シラバスを読んでおくこと 事後：講義内容を復習する
2	経営組織の特徴	分業の原理、調整の原理について説明します	事前：役割分担について考えておくこと、配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
3	経営組織の構造	事業部制、持ち株会社制、プロジェクト組織、海外展開の組織を説明します	事前：会社はどのように組織化しているのか、配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
4	グループワーク（経営組織の構造）	ネットワーク組織に関するビデオを視聴した後、グループワークを行います	事前：企業間で協働する利点を考えておくこと、配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
5	モチベーション	達成欲求、内発的動機づけについて説明します	事前：勉強意欲が高まるのはどのような時か、配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
6	キャリア	キャリア開発、ガラスの天井について説明します	事前：キャリアについて考えてみよう、配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
7	リーダーシップ１	リーダーの役割、リーダーの行動について説明します	事前：リーダーについてどんな人を連想するか、配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
8	リーダーシップ２	カリスマ、アントレプルナーについて説明します	事前：起業家に必要なものは何か、配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
9	組織文化	組織文化の機能、逆機能について説明します	事前：組織文化は仕事のやり方に影響を与えるか、配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
10	組織のライフサイクル	組織の成長モデルについて説明します	事前：組織が大きくなるにつれて特性はどのように変わるか、配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
11	組織の変革１	変革への抵抗、組織慣性について説明します	事前：人はなぜ、変革に抵抗するのだろうか、配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
12	組織の変革２	変革型ミドルについて説明します	事前：変革はトップだけでなく、ミドルも主導できるのだろうか、配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
13	組織学習	高次学習、低次学習について説明します	事前：どんな時に高次学習が必要になるのか、配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
14	人的資源管理	人事評価、エンパワーメントについて説明します	事前：人事評価はどのように行われるべきか、配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）
15	非営利組織	NPO など非営利組織の経営について説明します	事前：配付資料を読んでおく（1 時間） 事後：講義内容を復習する（1 時間）

関連科目：経営戦略論、経営管理論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	経営組織論	十川廣國	中央経済社
2			

評価方法（基準）	期末試験 70%、2（two）ウエイシートなど 30%で評価します。
学生へのメッセージ	事例を使って経営理論を解説します。事例に興味を持って取り組んでください。
担当者の研究室等	11 号館８階　北　真収　研究室（相談時は事前に連絡してください）
備考	2（two）ウエイシートを使用します。毎回記入し提出して下さい。翌週に返却します。

科目名	経営組織論Ⅰ	科目名（英文）	Theory of Business Organization Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北　真収
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	組織理論の基本を学ぶことに主眼を置いています。組織現象はどのようにして生じるのか、どんな影響を与えるのか、そうしたメカニズムを事例や体験を通じて平易に講義します。 企業での企画調査やコンサルティングの実務経験を講義に取り入れます。
到達目標	組織現象について理解し、その背景的知識や思考方法を習得することを目標とします。
授業方法と留意点	事例を紹介しながら経営理論を講義します。理解を助けるためにDVDなども活用します。学習課題への応答を求めるなど参加を重視します。
科目学習の効果（資格）	経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価について説明します	事前：シラバスを読んでおくこと 事後：講義内容を復習する
2	経営組織の特徴	分業の原理、調整の原理について説明します	事前：役割分担について考えておくこと、配付資料を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
3	経営組織の構造	事業部制、持ち株会社制、プロジェクト組織、海外展開の組織を説明します	事前：会社はどのように組織化しているのか、配付資料を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
4	グループワーク（経営組織の構造）	ネットワーク組織に関するビデオを視聴した後、グループワークを行います	事前：企業間で協働する利点を考えておくこと、配付資料を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
5	モチベーション	達成欲求、内発的動機づけについて説明します	事前：勉強意欲が高まるのはどのような時か、配付資料を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
6	キャリア	キャリア開発、ガラスの天井について説明します	事前：キャリアについて考えてみよう、配付資料を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
7	リーダーシップ１	リーダーの役割、リーダーの行動について説明します	事前：リーダーについてどんな人を連想するか、配付資料を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
8	リーダーシップ２	カリスマ、アントレプルナーについて説明します	事前：起業家に必要なものは何か、配付資料を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
9	組織文化	組織文化の機能、逆機能について説明します	事前：組織文化は仕事のやり方に影響を与えるか、配付資料を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
10	組織のライフサイクル	組織の成長モデルについて説明します	事前：組織が大きくなるにつれて特性はどのように変わるか、配付資料を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
11	組織の変革１	変革への抵抗、組織慣性について説明します	事前：人はなぜ、変革に抵抗するのだろうか、配付資料を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
12	組織の変革２	変革型ミドルについて説明します	事前：変革はトップだけでなく、ミドルも主導できるのだろうか、配付資料を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
13	組織学習	高次学習、低次学習について説明します	事前：どんな時に高次学習が必要になるのか、配付資料を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
14	人的資源管理	人事評価、エンパワーメントについて説明します	事前：人事評価はどのように行われるべきか、配付資料を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）
15	非営利組織	NPOなど非営利組織の経営について説明します	事前：配付資料を読んでおく（1時間） 事後：講義内容を復習する（1時間）

関連科目	経営戦略論、経営管理論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	経営組織論	十川廣國	中央経済社
2			

評価方法（基準）	期末試験70%、2（two）ウエイシートなど30%で評価します。
学生へのメッセージ	事例を使って経営理論を解説します。事例に興味を持って取り組んでください。
担当者の研究室等	11号館８階　北　真収　研究室（相談時は事前に連絡してください）
備考	2（two）ウエイシートを使用します。毎回記入し提出して下さい。翌週に返却します。

科目名	経営統計学	科目名（英文）	Business Statistics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉本　篤信
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1014a0		

授業概要・目的	「統計学」という言葉を聞くと、多くの学生は難しいのではないかという印象を持つであろうが、手元にあるデータからその特徴を見つけ出すために必要となる学問で ある。統計学の考え方は、企業における意思決定支援のためのデータ解析手法として多くの場面で利用されている。本科目では、初めて統計学を学ぶ学生を対象に、統計学の基本的な考え方を学び、統計データの解析に必要となる基礎的知識を身につける。
到達目標	統計データの整理の仕方や表・グラフでの表し方、基本統計量の求め方とその意味について理解し、実際のデータを客観的に解釈し活用するための基礎的な知識と技術を習得する。
授業方法と留意点	配布資料をもとに説明を行い、パソコンを使った演習により理解を深める。配布資料に含まれる演習問題を、表計算ソフトの Excel を使って解くことで理解を深める。
科目学習の効果（資格）	実用的な学問であるため、将来様々な分野の仕事で生かすことができる。 社会調査士資格の取得に必要となる科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、統計学とはどのような学問か	――――
2	統計学の基礎的発想（1）	変数、尺度水準	授業中に課した練習問題に解答（３０分） 事前配布資料を読んでおく（３０分）
3	統計学の基礎的発想（2）	標本空間と事象、確率分布	授業中に課した練習問題に解答（３０分） 事前配布資料を読んでおく（３０分）
4	統計資料の整理（1）	統計資料の収集と読み方	授業中に課した練習問題に解答（３０分） 事前配布資料を読んでおく（３０分）
5	統計資料の整理（2）	統計資料のまとめ方、提示の方法	授業中に課した練習問題に解答（３０分） 事前配布資料を読んでおく（３０分）
6	データの集計（1）	代表値について、平均値、分散、標準偏差	授業中に課した練習問題に解答（３０分） 事前配布資料を読んでおく（３０分）
7	データの集計（2）	度数分布、ヒストグラム、標準化	授業中に課した練習問題に解答（３０分） 事前配布資料を読んでおく（３０分）
8	前半のまとめ･学力診断テスト１	前半部分のまとめと確認テスト	前半部分の内容を見直しておく
9	データの集約（1）	クロス表とクロス集計	授業中に課した練習問題に解答（３０分） 事前配布資料を読んでおく（３０分）
10	データの集約（2）	クロス集計の実践	授業中に課した練習問題に解答（３０分） 事前配布資料を読んでおく（３０分）
11	データの相関関係（1）	散布図と相関関係、相関関係と因果関係	授業中に課した練習問題に解答（３０分） 事前配布資料を読んでおく（３０分）
12	データの相関関係（2）	共分散と相関係数、相関係数の解釈、擬似相関	授業中に課した練習問題に解答（３０分） 事前配布資料を読んでおく（３０分）
13	経営における統計学	経営分野で用いられる統計学の手法	授業中に課した練習問題に解答（３０分） 事前配布資料を読んでおく（３０分）
14	後半のまとめ･学力診断テスト２	後半部分のまとめと確認テスト	後半部分の内容を見直しておく
15	統計学の応用	統計的検定・推定について、全体復習	全体復習の内容を整理しておく

関連科目：数学基礎 I、数学基礎 II、ビジネス情報処理Ⅱ、ビジネスデータ分析

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義内の課題（50%）、小テスト（50%）の結果により総合的に評価する。 私語、スマートフォンの使用など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。
学生へのメッセージ	経営統計学は、数学を基礎とする学問ですので、数学が苦手な学生については、予習・復習が不可欠となります。積極的な講義への参加を心がけてください。
担当者の研究室等	11 号館 6 階（杉本研究室）
備考	必要に応じて資料を配布する。

科目名	経営統計学	科目名（英文）	Business Statistics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＧＨＪＫＬＭＮ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	樋口　友紀
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1014a0		

授業概要・目的	「統計学」という言葉を聞くと、多くの学生は難しいのではないかという印象を持つであろうが、手元にあるデータからその特徴を見つけ出すために必要となる学問で ある。統計学の考え方は、企業における意思決定支援のためのデータ解析手法として多くの場面で利用されている。本科目では、初めて統計学を学ぶ学生を対象に、統計学の基本的な考え方を学び、統計データの解析に必要となる基礎的知識を身につける。
到達目標	統計データの整理の仕方や表・グラフでの表し方、基本統計量の求め方とその意味について理解し、実際のデータを客観的に解釈し活用するための基礎的な知識と技術を習得する。
授業方法と留意点	配布資料をもとに説明を行い、パソコンを使った演習により理解を深める。配布資料に含まれる演習問題を、表計算ソフトの Excel を使って解くことで理解を深める。
科目学習の効果（資格）	実用的な学問であるため、将来様々な分野の仕事で生かすことができる。 社会調査士資格の取得に必要となる科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、統計学とはどのような学問か	――――
2	統計学の基礎的発想（1）	変数、尺度水準	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
3	統計学の基礎的発想（2）	標本空間と事象、確率分布	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
4	統計資料の整理（1）	統計資料の収集と読み方	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
5	統計資料の整理（2）	統計資料のまとめ方、提示の方法	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
6	データの集計（1）	代表値について、平均値、分散、標準偏差	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
7	データの集計（2）	度数分布、ヒストグラム、標準化	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
8	前半のまとめ･学力診断テスト１	前半部分のまとめと確認テスト	前半部分の内容を見直しておく
9	データの集約（1）	クロス表とクロス集計	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
10	データの集約（2）	クロス集計の実践	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
11	データの相関関係（1）	散布図と相関関係、相関関係と因果関係	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
12	データの相関関係（2）	共分散と相関係数、相関係数の解釈、擬似相関	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
13	経営における統計学	経営分野で用いられる統計学の手法	授業中に課した練習問題に解答 事前配布資料を読んでおく
14	後半のまとめ･学力診断テスト２	後半部分のまとめと確認テスト	後半部分の内容を見直しておく
15	統計学の応用	統計的検定・推定について、全体復習	全体復習の内容を整理しておく

関連科目：数学基礎 I、数学基礎 II、ビジネス情報処理Ⅱ、ビジネスデータ分析

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義内の課題（50%）、小テスト（50%）の結果により総合的に評価する。 私語、スマートフォンの使用など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。
学生へのメッセージ	経営統計学は、数学を基礎とする学問ですので、数学が苦手な学生については、予習・復習が不可欠となります。積極的な講義への参加を心がけてください。
担当者の研究室等	11 号館 8 階（樋口研究室）
備考	必要に応じて資料を配布する。 毎週の事前・事後学習にかける時間の目安は 4～5 時間程度とする。

科目名	経営とマーケティング	科目名（英文）	Marketing
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中　祥司
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目は、企業や組織が直面する問題を主体的に解決するための基礎的な能力を身につけることを目指します。 とりわけ、マーケティングの基礎的な枠組みを説明しながら、企業活動を考察します。 つまり、売れ続けている製品やサービス、その仕組みについて理解を深めます。 なお、授業担当者の旅行会社での実務経験から、モノだけではなくサービスを含めた多様な事例を紹介しながら授業を進めます。
到達目標	・マーケティングの基礎的な枠組みについて説明することができる。 ・その枠組みを用いて複数の企業の取り組み事例を比較することができる。
授業方法と留意点	講義が中心です。授業の後半にクイズを行います。そのクイズの解答は次週の授業時に行います。 授業時、および次の授業までにしっかりと復習をしておいてください。
科目学習の効果（資格）	リテール・マーケティング（販売士）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	マーケティング発想の経営	売れる製品についてマーケティングの概要を紹介しながら説明します。	【事前学習】第１章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
2	マーケティング論のなりたち	マーケティングの必要性について事例を用いて理解を深めます。	【事前学習】教科書第２章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
3	マーケティングの基本概念	STP、４P をはじめとした枠組みの概要について説明します。	【事前学習】教科書第３章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
4	戦略的マーケティング	競争地位別のマーケティングについて理解します。	【事前学習】教科書第４章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
5	製品のマネジメント	市場機会の分析から製品戦略への展開について考察します。	【事前学習】教科書第５章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
6	価格のマネジメント	身近な事例を挙げながら価格の組み立てを読み解きます。	【事前学習】教科書第６章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
7	広告のマネジメント	広告の効果や表現のパターンについて理解を深めます。	【事前学習】教科書第７章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
8	チャネルのマネジメント	製品やサービスの多様なチャネルについて説明します。	【事前学習】教科書第８章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
9	営業のマネジメント	営業活動の基本について事例を用いて説明します。	【事前学習】教科書第９章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
10	顧客関係のマネジメント	顧客との関係構築の意義や課題について理解を深めます。	【事前学習】教科書第１０章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
11	顧客理解のマネジメント	マーケティング・リサーチの基本について説明します。	【事前学習】教科書第１１章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
12	ブランド構築のマネジメント	ブランドの意義やその構築方法について理解を深めます。	【事前学習】教科書第１２章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
13	ブランド組織のマネジメント	ブランドマネージャーの役割について事例を用いて説明します。	【事前学習】教科書第１３章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
14	事例研究１	企業事例を通じて、マーケティングの実際を学びます。	【事前学習】事例の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
15	事例研究２	企業事例を通じて、マーケティングの実際を学びます。	【事前学習】事例の読解 【事後学習】これまでの学習範囲を復習し、期末テストに備える。

関連科目	消費者行動論、リテールマーケティング

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	１からのマーケティング	石井淳蔵・廣田章光	碩学舎

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	わかりやすいマーケティング戦略	沼上幹	有斐閣アルマ

評価方法（基準）	平常点（ミニッツペーパー、中間レポート等）４０％ 期末テスト６０％
学生へのメッセージ	新しい製品やサービスに関心をもってください。 その製品やサービスが世の中に出てきた背景について考える癖をつけてください。
担当者の研究室等	田中祥司研究室　１１号館８階
備考	各回、予習・復習をあわせて１時間程度の準備が必要になります。

科目名	経営分析論	科目名（英文）	Business Analysis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	呉　重和
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	企業の経営活動は会計情報（財務諸表）として記録され，報告され，会計情報を理解すれば，企業の利益獲得の仕組みが理解できる。本講座では，貸借対照表と損益計算書の２つの財務諸表を用いて，企業がどのように経営活動をおこない，利益を生み出しているのかについて学習する。
到達目標	①　企業活動を理解するために最低限必要とする会計の基礎知識が習得できる。 ②　その知識を用いて企業の問題点を把握・評価できる。 ③　経営者の観点から、改善策を提案できる。
授業方法と留意点	①貸借対照表，②損益計算書，③貸借対照表と損益計算書，の３つのテーマに分けて講義を進める。各テーマについては講義後，グループワークを３回実施する。グループワークの内容は，与えられる問題に解答した後，各テーマに関連する問題点と改善策についてグループ内で議論し，指定用紙にその内容を書いて提出する。また，第１回と２回のグループワークの内容は，報告資料を作成し，プレゼンテーションを実施する予定である。グループ内でディスカッションを行い，課題を解決する必要があるため，グループワークに積極的に参加することが望ましい。 科目の性格上，計算問題を解くことがある。電卓などを持参してほしい。
科目学習の効果（資格）	中小企業診断士，証券アナリスト，ファイナンシャルプランナー，簿記検定など，会計関連資格取得に必要な基礎知識を提供する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	資金の流れと財務諸表	資金の流れと財務諸表の関係について理解する。	・配布資料と講義計画を読み，講義全体の構成を把握する。(30 分)
2	貸借対照表	経営活動の準備物リストについて把握する。EDINET を利用し，企業の有価証券報告書を入手する。	・予習資料の該当内容を読み，簡単な計算問題を解く。(30 分) ・関心企業を選定し，貸借対照表を入手し，経営者の立場で資産の状態を把握する。(30 分)
3	百分率貸借対照表と推移比分析	企業の財政状態と安全性について評価する。百分率貸借対照表の作成と推移比分析を行う。また，流動比率，固定比率，自己資本比率の 3 つの安全性指標を計算する。	・予習資料の該当内容を読み，簡単な計算問題を解く。(30 分) ・関心企業の安全性指標を計算する。(30 分)
4	貸借対照表と安全性指標	企業の安全性を改善する方法について検討・考察する。	・予習資料の該当内容を読み，簡単な計算問題を解く。(30 分) ・関心企業の安全性を高める改善策を提案する。(30 分)
5	安全性と改善策①	同産業内の企業２社を選定し，同時点の貸借対照表を入手し，グループワークを実施する。	・貸借対照表に関連するレジュメの内容を復習する。(60 分) ・選定企業の安全性を評価し，改善する方法について議論する。(60 分)
6	安全性と改善策②	グループワークの内容を用いて報告資料を作成し，安全性を改善する方法についてプレゼンテーションする。	・選定企業の貸借対照表の内容を確認する。(30 分) ・報告時，答えられなかった質問について確認・議論する。(60 分)
7	損益計算書	一定期間の経営成績をあらわす損益計算書について理解する。収益のみ，または，利益のみでは把握できない経営成績について考察する。	・予習資料の該当内容を読み，簡単な計算問題を解く。(30 分) ・関心企業の損益計算書を入手し，経営者の立場から企業の経営成績について把握する。(30 分)
8	百分率損益計算書と利益率	損益計算書を用いて企業の経営成績を把握する。百分率損益計算書を作成する。	・予習資料の該当内容を読み，簡単な計算問題を解く。(30 分) ・関心企業の百分率損益計算書を作成する。(30 分)
9	産業別損益計算書	産業内競争相手との比較分析をおこなう。産業別損益計算書の特徴について理解する。	・予習資料の該当内容を読み，簡単な計算問題を解く。(30 分) ・関心企業の同業他社の損益計算書を入手し，比較する。(30 分)
10	収益性と改善策①	利益率が高いと予想される産業の企業２社を選定し，損益計算書を入手し、グループワークを実施する。	・損益計算書に関連するレジュメの内容を復習する。(60 分) ・選定企業の収益性を評価し，改善する方法について議論する。(60 分)
11	収益性と改善策②	グループワークの内容を用いて報告資料を作成し，収益性を改善する方法についてプレゼンテーションする。	・選定企業の尊敬計算書の内容を確認する。(30 分) ・報告時，答えられなかった質問について確認・議論する。(60 分)
12	投下資本利益率	貸借対照表と損益計算書の両方を用いた収益性分析について学習する。	・予習資料の該当内容を読み，簡単な計算問題を解く。(30 分) ・関心企業の貸借対照表と損益計算書の内容を確認する。(30 分)
13	投下資本利益率の要因分解	投下資本利益率を分解し、要因分析を実施する。	・予習資料の該当内容を読み，簡単な計算問題を解く。(30 分) ・関心企業の投下資本利益率を計算し，分解する。(30 分)
14	収益性と効率性①	企業１社の３年分の貸借対照表と損益計算書を入手し，グループワークを実施する。	・これまでのレジュメの内容を復習する。(60 分) ・選定企業の投下資本利益率を評価し，分解する。(60 分)
15	収益性と効率性②	ROA を改善する方法についてグループ内でディスカッションし，提案する。	・これまでのグループワークの内容を確認する。(30 分) ・投下資本利益率を改善する方法について議論し，提案する。(60 分)

関連科目	企業簿記（簿記入門），財務会計論，管理会計論，企業分析（財務戦略ケース分析）など
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	特に指定しないが、以下の参考書の内容を反映し，各テーマについてレジュメを配布する。また，初回に講義全体の内容に関連する予習資料を配布する。		
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネス・アカウンティング	山根節・太田康広・村上祐太郎	中央経済社
2	財務諸表分析	桜井久勝	中央経済社
3	財務諸表分析	乙政正太	同文館出版

評価方法（基準）

基準①：グループワーク 40%＋プレゼンテーション 20%＋定期試験 40%＝100%
基準②：定期試験 80%
+ グループワーク（1 回 10%，2 回 10%，3 回 20%）：配布する解答用紙に，与えられる課題について回答する。
+ プレゼンテーション（2 回×10%）：第 1 回と 2 回のグループワークの課題を報告資料にまとめ，プレゼンテーションする。
+ 定期試験（40% or 80%）：予習資料＋グループワーク＋レジュメの内容を反映した定期試験
+ 基準②は，やむを得ない事情でグループワークなどに参加できなかった方のための基準です。基準①を基本的に適用します。
+ 出席率が全体講義の 3 分の 2 を満たさない場合，成績評価対象外とします。

学生へのメッセージ

会計情報分析論では，経営者の立場から，企業経営の問題点について検討し，改善策を提案できることを目標とする。経営者になる・なったつもりで講義に挑んでほしい。

担当者の研究室等

11 号館 7 階

備考

グループワークで解決した課題については，事前に解答用紙を配布し，各グループで 1 部のみを提出してもらいます。複数の解答用紙を作成し，提出しなかった課題用紙は復習の材料として活用してください。各グループの評価結果については，最終回の講義で公表します。また，報告資料については，ホワイトシートなどを利用して作成してもらい，回収しますが，必要であるグループは申し出てください。申し出たグループの報告資料については採点後返却します。

科目名	経営倫理Ⅰ	科目名（英文）	Management Ethics Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤木　健史
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	社会における情報化は非常に速いスピードで浸透し、情報技術は我々の生活の中で欠かせないものとなっている。その一方で、インターネットを使用した犯罪や事件は後を絶たたず、利用者は被害者となるだけでなく、巧妙な手口から意図しないまま加害者となってしまうことさえある。こうした情報化社会における影の部分を踏まえて、さまざまなトラブル事例から組織や個人としてどのように情報倫理を考えるかを学び、インターネット犯罪に対して防止・対応できる能力を養っていく。
到達目標	インターネットやソーシャルメディアなどを使用するなかで、情報に接する際の倫理的な思考を養い、組織や個人としての行動規範を修得することができる。
授業方法と留意点	この授業は、講義とグループワークをセットで行う。講義を受けた後に事例研究を行い、グループワークで課題を発見する。次に、この課題に対する倫理観、防止・対応策を考え、レポートとしてまとめる。授業のなかでは、この内容を２回に分けて発表し、全体討論を行う。また，最終回には、情報倫理についての理解度を確認するテストを実施する。
科目学習の効果（資格）	IT パスポート試験、基本情報技術者試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	情報セキュリティとサイバー犯罪	・情報倫理の必要性 ・不正アクセス・なりすまし ・情報の改ざん ・クラウドサービスのリスク ・ネットウィルス・マルウェア ・レポート課題（講義内容穴埋め）	事前学習：なし 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
2	事例研究(1)	・グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査 ・レポート課題（グループワークによる討論・まとめ）	事前学習：グループワークに向けて要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
3	ソーシャルメディアと情報	・ネット時代のコミュニケーション ・ブログ・SNS・電子メール ・拡散と炎上 ・ネット依存・誹謗・中傷 ・ソーシャルゲーム ・レポート課題（講義内容穴埋め）	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
4	事例研究(2)	・グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査 ・レポート課題（グループワークによる討論・まとめ）	事前学習：グループワークに向けて要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
5	個人情報管理とプライバシー保護	・個人情報の漏えい ・プライバシー侵害 ・組織と個人の守秘義務 ・レポート課題（講義内容穴埋め）	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
6	事例研究(3)	・グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査 ・レポート課題（グループワークによる討論・まとめ）	事前学習：グループワークに向けて要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
7	発表と全体討論	・提示テーマの資料作成および発表	事前学習：発表準備（2 時間） 事後学習：なし
8	E-commerce（電子商取引）	・電子決済・取引 ・個人情報のためのネット認証 ・ネット広告 ・ネットオークション・ショッピング ・売買トラブル（悪徳商法・詐欺） ・レポート課題（講義内容穴埋め）	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
9	事例研究(4)	・グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査 ・レポート課題（グループワークによる討論・まとめ）	事前学習：グループワークに向けて要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
10	企業における情報倫理	・コンプライアンスと法令遵守 ・事業と内部統制の両立 ・IT システムと企業倫理 ・レポート課題（講義内容穴埋め）	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
11	事例研究(5)	・グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査 ・レポート課題（グループワークによる討論・まとめ）	事前学習：グループワークに向けて要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
12	科学技術と情報倫理･知的財産権	・知的財産の侵害 ・著作物と著作権 ・参考文献と引用 ・マルチメディアコンテンツの複製 ・レポート課題（講義内容穴埋め）	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
13	事例研究(6)	・グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査 ・レポート課題（グループワークによる討論・まとめ）	事前学習：グループワークに向けて要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
14	発表と全体討論	・提示テーマの資料作成および発表	事前学習：発表準備（2 時間） 事後学習：なし
15	まとめと理解の確認テスト	・総括	事前学習：レポート課題の復習（2 時間）

		・確認テスト	事後学習：なし

関連科目	情報処理関連の基礎科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	事例でわかる情報モラル 30 テーマ	実教出版編修部	実教出版(株)
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ネット炎上対策の教科書	小林 直樹	日経 BP 社
2	情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー	高橋慈子、原田隆史ほか	技術評論社
3			

評価方法 （基準）	平常点（出席態度、レポート課題）40%、発表(レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容)40%、理解の確認テスト 20%を総合的に評価する。
学生への メッセージ	この授業では、グループワークでの討論、提出課題の作成、発表など出席しなければ達成できないことが非常に多くあります。必ず、毎回授業に参加すること。
担当者の 研究室等	11 号館 6 階 経営学部非常勤講師室
備考	課題やレポートについては，実施した次の授業で講評する。

科目名	経営倫理Ⅱ	科目名（英文）	Management Ethics II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大田　住吉
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	・学ぶのは、「戦略」です。企業倫理の視点から今日的なテーマであるＣＳＲ（企業の社会的責任）を取り上げ、「ビジネス・スクール形式」で学びます。 主な学習テーマは、以下のとおりです。 ①ＣＳＲとは何か？　経営学部の学生にとって、なぜそれを学ぶことが必要なのか？ ②企業にとって、なぜＣＳＲが必要なのか？ ③ＣＳＲを実践するにあたり、企業は具体的に何をすれば良いのか？ ④内部統制、リスクマネジメント、コンプライアンスとＣＳＲは、どんな関連性があるのか？ ⑤ＣＳＲを、ビジネス戦略や企業の持続的成長にどう活かせば良いのか？ ・なお、この科目は、「実務経験のある教員による授業科目」です。民間企業、経済団体、シンクタンク等に通算 29 年間（CSR 部門含む）勤務し、また経営コンサルタント(中小企業診断士)として 150 社以上の企業経営支援（CSR に関わる支援を含む）に携わった実務経験を活かし、アクティブラーニング（ケースメソッド形式）による実践的な授業を行います。
到達目標	・実社会で「戦力」として通用するビジネスリーダーを養成することが、この授業の到達目標です。 ・ＣＳＲとビジネス戦略の関連性について分析し、判断し、表現する、実践的な知識および能力を身につけることができます。 ・その到達目標をクリアできているか検証するため、毎回の授業においてケースメソッドによる個人作業、グループワーク、プレゼン、質疑応答等を実施し、その到達度合いを一人一人判定します。
授業方法と留意点	・この授業は、座学ではありません。授業の特徴は、以下のとおり。 ① 基本的なＣＳＲの企業事例について、実際のビジネス現場で起きるケースメソッド（仮想企業による事例研究）を準備し、学生同士でディスカッションを行う「ビジネス・スクール形式」の授業です。 ② 毎回の授業においてグループ討議、プレゼン、質疑応答などを徹底的に繰り返し、明るく、楽しく、わかりやすく、学びます。 ③ グループメンバー、役割分担は定期的に交替し、自分の考えを主張するとともに、他人の考え方との違いを体感します。 ・なお、授業ではスマホ等を使ったキーワード検索等があります。教科書の他、スマホ等は必ず持参して下さい。
科目学習の効果（資格）	・販売士または中小企業診断士等の資格取得に向けた基礎知識の習得に効果があります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス　～この授業で何を学ぶのか？～	本科目の目標とテーマ、授業の進め方・ルール、成績評価基準等について説明します	＜予習＞ テキストを熟読し、分からない専門用語等は事前に調べておくように(1 時間) ＜復習＞ 授業の最後に必ず「本日のポイント」を説明します。その内容について、しっかり復習して下さい(1 時間)
2	ケースメソッドⅠ： 失敗の美学	企業事例研究：水産加工食品メーカーY 社 ～①企業は、なぜ失敗するのか？～	＜予習＞ 教科書 p3-12(1 時間) ＜復習＞ 「失敗」とは何か？、CSR とどんな関係があるのか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
3	同上②	企業事例研究：水産加工食品メーカーY 社 ～②リスクダメージの原因分析とその対策～	＜予習＞ 教科書 p3-12(1 時間) ＜復習＞ 「失敗」には必ず原因がある。それをどうやって分析するか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
4	同上③	企業事例研究：水産加工食品メーカーY 社 ～③全社的内部統制とは？～	＜予習＞ 教科書 p3-12(1 時間) ＜復習＞ リスクマネジメントの 3 点セットとは何か？、CSR とどんな関係があるのか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
5	ケースメソッドⅡ： コンプラって、何だろう？	企業事例研究：加工食品メーカーN 社 ～①コンプライアンスの判定基準	＜予習＞ 教科書 p13-36(1 時間) ＜復習＞ 「コンプライアンス」とは何か？、CSR とどんな関係があるのか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
6	同上②	企業事例研究：加工食品メーカーN 社 ～②企業風土とコンプライアンス～	＜予習＞ 教科書 p13-36(1 時間) ＜復習＞ 企業風土とコンプライアンスはどんな関係があるのか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
7	同上③	企業事例研究：加工食品メーカーN 社 ～③営業取引とコンプライアンス～	＜予習＞ 教科書 p13-36(1 時間) ＜復習＞ 営業取引、営業接待と CSR とどんな関係があるのか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
8	同上④	企業事例研究：加工食品メーカーN 社 ～④大企業と中小企業のコンプライアンス比較～	＜予習＞ 教科書 p13-36(1 時間) ＜復習＞ 大企業と中小企業でコンプラダメージにどんな違いがあるのか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
9	ケースメソッドⅢ： ものも？のための BCP	企業事例研究：企業の事業継続と CSR ～①自然災害によるダメージと CSR～	＜予習＞ 教科書 p37-50(1 時間) ＜復習＞

			自然災害による企業ダメージは、CSR とどんな関係があるのか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
10	同上②	企業事例研究：企業の事業継続と CSR ～②自社の中核事業と CSR～	＜予習＞ 教科書 p37-50(1 時間) ＜復習＞ 災害時における「中核事業」とは何か？、CSR とどんな関係があるのか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
11	同上③	企業事例研究：企業の事業継続と CSR ～③災害からの早期復旧と CSR～	＜予習＞ 教科書 p37-50(1 時間) ＜復習＞ 災害からの早期復旧を目指す際の「ボトルネック」とは何か等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
12	同上④	企業事例研究：企業の事業継続と CSR ～④BCP の具体的内容と CSR～	＜予習＞ 教科書 p37-50(1 時間) ＜復習＞ CSR を果たす上で、BCP の具体的内容はどうあるべきか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
13	ケースメソッドⅣ： いま、なぜ、ＣＳＲ？	企業事例研究：監査法人Ｆ社 ～①同族経営とＣＳＲ～	＜予習＞ 教科書 p51-68(1 時間) ＜復習＞ 「同族経営」とは何か？、CSR とどんな関係があるのか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
14	同上②	企業事例研究：監査法人Ｆ社 ～②監査法人とＣＳＲ～	＜予習＞ 教科書 p51-68(1 時間) ＜復習＞ 「監査法人」とは何か？、CSR とどんな関係があるのか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
15	同上③	～企業事例研究：監査法人Ｆ社 ～③企業不祥事と J-SOX 法～	＜予習＞ 教科書 p51-68(1 時間) ＜復習＞ J-SOX 法、インセンティブのねじれとは何か？、CSR とどんな関係があるのか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)

関連科目

企業論、生産管理論ほか

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	アクティブラーニング（ケースメソッド）授業テキスト　ＣＳＲ経営戦略［第３版］	大田住吉、佐々木公之	デザインエッグ社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ＣＳＲ経営戦略	伊吹 英子	東洋経済新報社
2	内部統制のポイント	三浦　太	中経出版
3	中小企業のための「内部統制」制度の確立	武田　隆二	ＴＫＣ出版

評価方法（基準）

①グループワークへの貢献度(参加意欲、個人作業、役割分担、呼応発言内容など)（35%）
②制限時間内におけるプレゼン用シートの記載内容・分析力（15%）
③プレゼン力および質疑応答対応力（15%）
④毎回の授業における理解度チェック小テスト(30%)
⑤定期試験（論述式）(5%)
による総合評価。
ただし、①～④は、毎回の授業の都度採点し、集計します。

学生へのメッセージ

・通算 35 年間の民間企業・公的機関等でのビジネス経験やコンサルティング経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！
・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。

担当者の研究室等

11 号館 7 階　大田住吉研究室

備考

・理解度チェック小テストの結果については、授業の中で適宜フィードバックします。
・事前事後学習は、各々概ね 60 分程度を目安に行って下さい。

科目名	経済学入門	科目名（英文）	Introduction to Economics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩坪　加紋
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1007a0		

授業概要・目的	本講義は経済に関する基礎的な考え方の修得を目的とする。モノやサービスを売ったり買ったりすることを経済という。例えば通学の際には電車やバスという交通サービスを購入し、学食で定食を食べるにもお金を払って定食というモノを購入している。また、アルバイトをすれば月々お金をもらうが、それは諸君が自らの労働力をバイト先に売っているからである。経済がいかに身近な現象であるかが分かるだろう。問題は、この身近な経済が私たちの目の届きにくい世界と密接に繋がっているということである。例えば数年前、太平洋を挟んだアメリカで住宅ローン市場に問題が発生し、多くの先輩達が就職に難儀した経緯がある。したがって私たちは、これら経済を積極的に理解し、自力で対処する能力が必要なのである。本講義では基礎的ながらも経済に対する重要な考え方を学生の理解度を重視しながら進める予定である。
到達目標	経済問題を考えるための初歩的なスキルの修得
授業方法と留意点	教科書中心の講義形式で進める。ただし、受動的な受講姿勢とならないよう、“声を出す”ことを重視する。例えば教科書の音読、臨機応変な質疑応答などである。言うまでもなく教科書は必携である。私語への対処は、他の講義よりも厳しいと心得ておいて欲しい。また高校と異なり、大学の講義では板書よりも口頭説明が多く、自分なりのノートの取り方を工夫しておくこと。
科目学習の効果（資格）	日々のくらしの中で遭遇する経営・経済問題を深く理解し、対処するスキルを身につけることができる。また多くの社会科学系専門科目をより深く理解するための基礎となり、資格取得・公務員試験などにも役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	経済現象と日々のくらしとの結びつきについて概説し、本講義で何を考え学ぶのかを解説する。	復習すること
2	分業の利益	分業、比較優位、機会費用について解説する。	教科書第１章（pp.19-32）を予習復習のこと　(1時間)
3	需要と供給	需要曲線、供給曲線について解説する。	教科書第２章（pp.33-48）を予習復習のこと　(1時間)
4	価格メカニズム	市場取引や価格決定のメカニズムについて解説する。	教科書第３章（pp.49-64）を予習復習のこと　(1時間)
5	市場の効率性	望ましい経済の基準として効率性について解説する。	教科書第４章（pp.65-81）を予習復習のこと　(1時間)
6	市場の失敗	市場は万能ではない。市場の失敗について解説する。	教科書第５章（pp.83-98）を予習復習のこと　(1時間)
7	市場の限界	市場の失敗の原因の一つである情報の非対称性や市場の限界について解説する。	教科書第６章（pp.99-113）を予習復習のこと　(1時間)
8	中間試験	前回までの内容について試験を行う。	復習を行っておくこと
9	労働市場	学生にとって最も身近な労働市場について解説する。	教科書第７章（pp.115-132）を予習復習のこと　(1時間)
10	ＧＤＰについて	国の豊かさを測るＧＤＰにについて解説する。	教科書第８、９章（pp.137-163）を予習復習のこと（２時間）
11	消費需要と投資需要	ＧＤＰ構成要素の消費と投資について解説する。	教科書第１０章（pp.165-178）を予習復習のこと（1時間）
12	貨幣と金融	経済取引に欠かせない貨幣と経済取引の大半を占める金融について解説する。	教科書第１１章（pp.179-194）を予習復習のこと（1時間）
13	政府の役割	市場は万能ではなく、政府の存在意義の一つもそこにある。政府の経済的な役割について解説する。	教科書第１２章(pp.195-212)を予習復習のこと（1時間）
14	外国貿易と為替レート	資源小国かつ技術立国日本は海外諸国との貿易で生計を立てている。日本の貿易の状況や為替レートの決定について解説する。	教科書第１３章（pp.213-227）を予習復習のこと（1時間）
15	経済成長と国民生活	経済の成長は豊かさの維持と密接に関わる。経済成長率の表し方やその分析方法について解説する。	教科書第１４章（pp.229-244）を予習復習のこと（1時間）

関連科目：ミクロ経済学、マクロ経済学など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	１からの経済学	中谷武、中村保 編著	碩学舎・中央経済社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として中間試験(50%)と期末試験(50%)で評価する。ただし、学習意欲（注意：出席率ではない）の顕著な者には加点して評価する。詳細は初回講義で述べる。
学生へのメッセージ	単位取得のためではなく、自身の能力向上のために受講するんだ、という姿勢であって欲しい。疑問点は積極的に質問して、一歩ずつ着実に前進願いたい。
担当者の研究室等	１１号館８階(岩坪教授室)
備考	中間試験については結果を返却し解説を行う。

科目名	原価計算論Ⅰ	科目名（英文）	Cost Accounting Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	三木　僚祐
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	商業簿記は、卸売店、小売店などの商品売買業を対象とする簿記であるが、工業簿記は、製造業(メーカー)を対象とする簿記である。製造業では、商品売買業では行われない製造活動が行われる。そこで、工業簿記では、外部取引に関する記録・計算の他に、外部から購入した材料、労働力、機械設備などの経営資源を利用して、企業内部で製品を造り出していく製造活動から生じる様々な内部取引の記録・計算が必要となる。また、製造活動の記録・計算のためには、工業簿記に加えて原価計算の利用も必要不可欠となる。本講義は、この工業簿記および原価計算の基礎知識を身につけることを目的としている。
到達目標	工業簿記および原価計算の基本事項を理解し、日商簿記検定２級程度の工業簿記の記帳ができることを目標とする。
授業方法と留意点	教科書を用いて講義形式で授業を進める。また、受講者の理解度を知るため、授業の最後に毎回小テスト(15 分程度)を行う予定である。小テストの際に電卓を使うことがあるので、各自電卓を持参すること。また、教科書を用いて授業を行うが、必要に応じて適宜補助プリントも配布する。
科目学習の効果（資格）	日商簿記検定２級以上や公認会計士試験の受験のための基礎となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスと簿記の基本事項の確認	授業の内容・授業の進め方・評価基準等についての説明、複式簿記の基本事項の確認(仕訳など)	事前：借方・貸方の区別や仕訳などの簿記の基本事項を復習しておく(1 時間) 事後：簿記の基本事項のうち苦手箇所を再度復習する(30 分)
2	工業簿記の基礎(1)	工業簿記と原価計算、原価計算の目的、原価計算の手続過程、原価計算の形態	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30 分)。
3	工業簿記の基礎(2)	原価の一般概念、原価の諸概念、原価要素	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30 分)。
4	材料費の計算(1)	材料費の分類、材料購入原価の計算	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった例題の復習をする(30 分)。
5	材料費の計算(2)	材料消費量の把握、材料消費価格の計算、棚卸減耗費の把握	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった例題の復習をする(30 分)。
6	労務費の計算(1)	労務費の分類、支払賃金の計算	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった例題の復習をする(30 分)。
7	労務費の計算(2)	消費賃金の計算	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった例題の復習をする(30 分)。
8	経費の計算	経費の分類、経費の計算	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった例題の復習をする(30 分)。
9	部門別計算(1)	部門別計算の目的、原価部門の設定	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30 分)。
10	部門別計算(2)	部門個別費と部門共通費の区分、原価要素の各部門への集計	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった例題の復習をする(30 分)。
11	部門別計算(3)	補助部門費の配賦	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった例題の復習をする(30 分)。
12	個別原価計算	個別原価計算の意義、個別原価計算の手続	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった例題の復習をする(30 分)。
13	総合原価計算(1)	総合原価計算の意義、単純総合原価計算	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった例題の復習をする(30 分)。
14	総合原価計算(2)	組別総合原価計算、等級別総合原価計算	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった例題の復習をする(30 分)。
15	まとめ	授業全体のまとめ	事前：今までやった内容を教科書でざっと確認する(30 分)。 事後：特に苦手な部分を復習する(3 時間)。

関連科目：簿記入門、財務会計論、管理会計論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	原価・管理会計の基礎	山田庫平他	中央経済社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験の点数(70%)と毎回の授業で行う小テストの合計点数(30%)に基づいて評価する。
学生へのメッセージ	授業中の私語は周りの受講生の迷惑になるので絶対に慎んで下さい。また、講義内容で分からないところがあれば、遠慮なく質問して下さい。
担当者の研究室等	11 号館 7 階(三木准教授室)
備考	授業の最後に行う小テストの答え合わせは、次回の授業の最初に行う。最終回の授業では、小テスト終了後に模範解答を渡す。

科目名	現代社会論	科目名（英文）	Challenges of Modern Society
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有馬　善一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	いわゆる日本の高度成長期には「消費は美徳」という言葉が流行した。「大量生産／大量消費社会」を賛美したものである。しかし、現在ではこれはもはや死語である。代わって、時代をリードしているのは「Mottainai」（もったいない）であるが、現代社会は本当にエコロジーを主軸に転換することに成功しているだろうか。この講義では、20 世紀の半ば以降、今日に至るまで社会を動かしている経済のシステムを理解した上で、それを変革するための道を探る。
到達目標	資本主義の精神的基盤について理解する。 古典的資本主義の限界と現代資本主義の特徴を理解する。 現代資本主義の限界、特に「外部問題」について理解する。 「成長の限界」において何が問われているのかを理解する。 資本主義に代わる社会のあり方について、自分なりの考えをまとめる。
授業方法と留意点	テキストを用いない「ノート講義」方式。適宜プリントを配布する。
科目学習の効果（資格）	現代社会の根幹をなす資本主義を理解することによって、自分たちが混沌の時代に生きていること、また、これにどう対処すべきかのヒントが得られるはず。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業への導入	・現代＝近代の特徴とは何か ・〈熱い〉社会と〈冷たい〉社会（レヴィ＝ストロース） ・資本主義と成長の「神話」	現代社会の特徴と問題点を自分なりに考えてみる。
2	資本主義社会の成立（1）	・冒険商人と資本家 ・「倫理」としての資本主義（マックス・ウェーバー）	配付資料について自分なりの考えをまとめる。
3	資本主義社会の成立（２）	・恋愛と贅沢と資本主義（ゾンバルト） ・禁欲的生産と享楽的消費の関係	ウェーバーとゾンバルトの着眼点の違いを整理して、現代の商品開発に当てはめてみる。
4	古典的資本主義の限界と現代資本主義	・資本主義の帰結としての恐慌と帝国主義 ・現代資本主義の登場（フォードと GM の経営戦略）	『現代社会の理論』の該当箇所を読んでおく。
5	現代資本主義社会の特徴	・大量生産／大量消費社会 ・情報化／消費化社会におけるゆたかさ	『現代社会の理論』の該当箇所を読んでおく。
6	産業の文明論的進化と情報化社会	・梅棹忠夫の「情報産業論」 ・情報化と脱工業化 ・情報化と消費化	『情報の文明学』の該当箇所を読んでおく。
7	情報化と人間社会	・インターネットの発達とコミュニケーションの変質 ・ネット社会の光と影	ネット社会の問題点を自分なりに考えてくる。
8	大衆社会と消費文化	・社会の大衆化と文化としての消費 ・情報の消費としてのマス・コミュニケーション ・消費と消尽（バタイユ）	社会の大衆化によって形成されてきた消費文化の事例を考えてみる。
9	現代社会の「外部問題」（1）	・経済システムと物理システム ・資源・エネルギーと環境の経済的「価値」	『現代社会の理論』の該当箇所を読んでおく。
10	現代社会の「外部問題」（2）	・貨幣の謎とエントロピー ・エコロジー経済学の可能性	エントロピー概念についての資料を理解する。
11	現代社会の「外部問題」（3）	・社会システムの限界としての「共有地の悲劇」 ・外部問題としての南北問題 ・途上国の人口爆発と先進国の少子高齢化	「共有地の悲劇」について調べてくる。
12	「成長の限界」をめぐって（1）	・『成長の限界』の予測とそれに対する様々な評価 ・エネルギー・資源の限界と「2050 年問題」	「算術級数的増加」と「幾何級数的増加」の意味について調べてくる。
13	「成長の限界」をめぐって（2）	・成長神話からの脱却 ・江戸時代における循環型社会 ・循環型社会の構築のための条件	フローとストックについて調べてくる。
14	グローバル化と自由主義	・グローバル化の様々な局面 ・市場主義と経済の自由 ・リバタリアンとコミュニタリアン	グローバル化の事例について調べてみる。
15	まとめ	・講義全体のまとめ	これまでの講義ノートをまとめておく。

関連科目：環境倫理Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プロテスタンティズムの倫理と資本主義の〈精神〉	M・ウェーバー	岩波文庫
2	情報の文明学	梅棹忠夫	中公文庫

	3	現代社会の理論	見田宗介	岩波新書
評価方法（基準）	授業内のレポート・平常点（15%）、授業後のレポート（50%）、期末試験（35%）			
学生へのメッセージ	環境問題の解決のためには現代社会全体の変革が必要です。21 世紀のあるべき企業の姿もそこに重なっていきます。			
担当者の研究室等	7 号館 4 階（有馬研究室）			
備考	事前事後学習に全部で 60 時間程度必要。			

科目名	現代日本経営史	科目名（英文）	Business History of Modern Japan
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐藤　正志
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2022a0		

授業概要・目的	第２次大戦後の日本経済・産業の発展過程をたどりながら、各時代を代表する企業と企業者（経営者）を取り上げ、その経営活動と経営理念を分析します。 企業の形成過程を、経済の発展段階との関連をふまえて考察し、これからの企業・企業者像を考えていきます。
到達目標	経営事象の本質を歴史的な視点から把握することができる力をつけます。
授業方法と留意点	学習内容の理解を深めるために、資料の配付や視聴覚教材（ビデオ等）を用いながら講義形式で実施します。ビデオはしっかり鑑賞してください。
科目学習の効果（資格）	企業経営に関する基本的事項を歴史的観点から、また企業者の行動や考えを通して学びますので、他の専門科目の理解を深めるのに役立つと思います。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	戦後の経済発展の枠組みと企業経営（1）	戦時経済の「遺産」と戦後企業経営	第２次大戦後の経済発展と戦時経済との関わりについて予習する（2 時間。講義後に戦時経済の「遺産」とは何か、レポートにまとめる（2 時間）。
2	戦後の経済発展の枠組みと企業経営（2）	高度経済成長と企業経営の変容	事前に戦後を代表する企業とその経営者をリストアップする（2 時間）。講義後、彼らの共通点について、講義内容をふまえてレポートにまとめる（2 時間）。
3	高度経済成長と企業（1）	家電メーカーの発展と生活の変化	家電メーカーの発展の類型をについて事前に調べる（2 時間）、講義後に講義内容についてレポートにまとめる（2 時間）。
4	高度経済成長と企業（2）	パナソニックの発展と松下幸之助の経営哲学	松下の経営理念「水道哲学」とは何か、またそれは現在のパナソニックにどのように引き継がれているのか、事前に調べる（2 時間）、講義後にレポートにまとめる（2 時間）。
5	高度経済成長と企業（3）	二輪車メーカーの叢生とホンダ	戦後、二輪車メーカーが多数誕生するが、最終的にホンダなど数社に集約された要因について事前に調べる（2 時間）。講義後レポートにまとめる（2 時間）
6	高度経済成長と企業（4）	「二人三脚」経営：本田宗一郎と藤沢武夫	事前に本田宗一郎と藤沢の関係について調べる（2 時間）。講義後に「二人三脚」経営の他の事例を調べ、なぜそれが有効なのかレポートにまとめる（2 時間）。
7	高度経済成長と企業（5）	SONY：井深大と盛田昭夫	事前に SONY の発展をもたらした要因について予習する（2 時間）。井深や盛田の理念が現在の SONY の経営のなかで活かされているのか、講義後にレポートにまとめる（2 時間）。
8	流通革命と企業経営（1）	戦後流通業の変化：「繁盛店」からコンビニ、ネット販売へ	事前に流通業界の主役の移り変わりを調べる（2 時間）、講義後に「繁盛店」の事例をレポートにまとめる（2 時間）。
9	流通革命と企業経営（2）	中内・ダイエーの「流通革命」	事前に中内の「流通革命」論の内容について予習する（2 時間）。講義後に講義内容をレポートにまとめる（2 時間）。
10	流通革命と企業経営（3）	ダイエーの挫折：多角化と消費者の変容	ダイエーの経営の失敗について、その要因を事前に調べる（2 時間）。中内の「流通革命」の成果は現在どのような形で流通業界に引き継がれているのかを考え、レポートにまとめる（2 時間）。
11	流通革命と企業経営（4）	セブンイレブン・鈴木敏文の発想	事前に、セブンイレブンが成功した要因を調べる（2 時間）。鈴木による小売業の革新は、海外においても通用するのか、考え、まとめる（2 時間）。
12	IT 革命と企業（1）	インターネットの発展と企業経営のと消費の変容	事前にインターネットの発展がもたらした企業経営の変容について調べる（２時間）。講義後、講義内容をレポートにまとめる（2 時間）。
13	IT 革命と企業（2）	孫正義の経営理念と経営行動：「マイノリティ」としての存在	孫正義がどのような理念で経営行動を行っているのか、事前に調べて（2 時間）、講義後に講義内容をレポートにまとめる（2 時間）。
14	ゲーム産業の発展と展望	任天堂のゲーム機の開発思想と「ビジネスモデル」	日本のゲーム産業の歴史について、事前に調べる（2 時間）。講義後、任天堂の強さの要因をレポートにまとめる（2 時間）。
15	まとめ	本講義の重要ポイントのまとめと質疑応答	練習問題を事前事後に行う（計 4 時間）。

関連科目：経営史、企業者史Ⅰ（Ｓ科科目）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			
評価方法 （基準）	定期試験結果（７０%）、レポート内容（２０%）、講義への積極的な取り組み姿勢・態度（10%）で評価。			
学生への メッセージ	講義内容に対する不明点や疑問は遠慮なく質問してください。また、紹介する参考文献にはできる限り目を通してください。			
担当者の 研究室等	１１号館８階（佐藤研究室）			
備考				

科目名	工業簿記	科目名（英文）	Industry Bookkeeping
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	三木　僚祐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2029a0		

授業概要・目的	商業簿記は、卸売店、小売店などの商品売買業を対象とする簿記であるが、工業簿記は、製造業(メーカー)を対象とする簿記である。製造業では、商品売買業では行われない製造活動が行われる。そこで、工業簿記では、外部取引に関する記録・計算の他に、外部から購入した材料、労働力、機械設備などの経営資源を利用して、企業内部で製品を造り出していく製造活動から生じる様々な内部取引の記録・計算が必要となる。また、製造活動の記録・計算のためには、工業簿記に加えて原価計算の利用も必要不可欠となる。本講義は、この工業簿記および原価計算の基礎知識を身につけることを目的としている。
到達目標	工業簿記および原価計算の基本事項を理解し、日商簿記検定２級程度の工業簿記の記帳ができることを目標とする。
授業方法と留意点	教科書を用いて講義形式で授業を進める。また、受講者の理解度を知るため、授業の最後に毎回小テスト(15 分程度)を行う予定である。小テストの際に電卓を使うことがあるので、各自電卓を持参すること。また、教科書を用いて授業を行うが、必要に応じて適宜補助プリントも配布する。
科目学習の効果（資格）	日商簿記検定２級以上や公認会計士試験の受験のための基礎となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスと簿記の基本事項の確認	授業の内容・授業の進め方・評価基準等についての説明、複式簿記の基本事項の確認(仕訳など)	事前：借方・貸方の区別や仕訳などの簿記の基本事項を復習しておく(1 時間) 事後：簿記の基本事項のうち苦手箇所を再度復習する(30 分)
2	工業簿記の基礎(1)	工業簿記と原価計算、原価計算の目的、原価計算の手続過程、原価計算の形態	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30 分)。
3	工業簿記の基礎(2)	原価の一般概念、原価の諸概念、原価要素	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30 分)。
4	材料費の計算(1)	材料費の分類、材料購入原価の計算	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった例題の復習をする(30 分)。
5	材料費の計算(2)	材料消費量の把握、材料消費価格の計算、棚卸減耗費の把握	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった例題の復習をする(30 分)。
6	労務費の計算(1)	労務費の分類、支払賃金の計算	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった例題の復習をする(30 分)。
7	労務費の計算(2)	消費賃金の計算	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった例題の復習をする(30 分)。
8	経費の計算	経費の分類、経費の計算	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった例題の復習をする(30 分)。
9	部門別計算(1)	部門別計算の目的、原価部門の設定	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった内容をノートに整理する(30 分)。
10	部門別計算(2)	部門個別費と部門共通費の区分、原価要素の各部門への集計	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった例題の復習をする(30 分)。
11	部門別計算(3)	補助部門費の配賦	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった例題の復習をする(30 分)。
12	個別原価計算	個別原価計算の意義、個別原価計算の手続	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった例題の復習をする(30 分)。
13	総合原価計算(1)	総合原価計算の意義、単純総合原価計算	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった例題の復習をする(30 分)。
14	総合原価計算(2)	組別総合原価計算、等級別総合原価計算	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(30 分)。 事後：授業でやった例題の復習をする(30 分)。
15	まとめ	授業全体のまとめ	事前：今までやった内容を教科書でざっと確認する(30 分)。 事後：特に苦手な部分を復習する(3 時間)。

関連科目：簿記入門、財務会計論、管理会計論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	原価・管理会計の基礎	山田庫平他	中央経済社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験の点数(70%)と毎回の授業で行う小テストの合計点数(30%)に基づいて評価する。
学生へのメッセージ	授業中の私語は周りの受講生の迷惑になるので絶対に慎んで下さい。また、講義内容で分からないところがあれば、遠慮なく質問して下さい。
担当者の研究室等	11 号館 7 階(三木准教授室)
備考	授業の最後に行う小テストの答え合わせは、次回の授業の最初に行う。最終回の授業では、小テスト終了後に模範解答を渡す。

科目名	コーポレート・ファイナンスⅠ	科目名（英文）	Corporate Finance Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高尾　裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2037a0		

授業概要・目的	一般に企業は、ヒト、モノ、カネ、情報・技術から構成されるといわれることがある。コーポレート・ファイナンス（わが国では、「経営財務論」とよばれることも多い）は、株主の立場に立って、これら４つの企業構成要素のうち、主にカネの流れ（キャッシュフロー）から企業の行動ないし意思決定のあり方を分析し、どのような資金の調達と運用が企業価値の創造に結びつくのかを検討する経営学分野におけるの一つの主要な領域である。 コーポレート・ファイナンスⅠでは、コーポレート・ファイナンスおける一連の主要な基礎概念なり、その算定方法（例えば、企業の資金調達方法、期待収益率（リターン）、リスク、資本コスト、アセット・プライシング、キャッシュフローと現在価値、企業価値評価など）を学ぶ。現在の企業行動を理解するために必要不可欠なこれらの基礎概念・算定方法およびそれらの相互の関係を十分に理解し体得することが、本講義の目標である。
到達目標	現在の経済社会において不可欠なコーポレート・ファイナンス（経営財務）における基礎概念（期待収益率、リスク、資本コスト、現在価値、資本資産評価モデルなど）に関する知識を修得し、簡単な企業価値評価を自ら行うことができる。 企業財務部門の主要な戦略的業務の概要を理解する。
授業方法と留意点	配布する講義資料に沿って講義を進める。コーポレート・ファイナンスにおける論点を十分に理解するためには、実際に数値例に取り組み、自分自身で計算してみることが不可欠であることから、原則として、講義の後半３０分程度は、配布した演習問題の取組みおよび質問の時間に充てる。演習問題解答に向けての受講生同士でディスカッションも大いに推奨する。 原則として講義資料はほぼ講義 1～2 回分について１回のペースで配布する。配布する資料は本講義のテキストであり、ファイルしておき、講義に際して持参すること。とりわけ最後まで説明が終了しなかった講義資料については、翌週に必ず持参することが必要である。また欠席した場合の過去の配布資料の提供にはどのような理由であれ応じないので、注意すること。
科目学習の効果（資格）	企業への就職希望者にとって企業の財務活動に関する基本的な知識が得られ、また専門的職業人（とくに公認会計士、証券アナリスト、ファイナンシャルプランナーなど）の資格取得にも密接に関連する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	コーポレート・ファイナンスの目的を理解し、コーポレートファイナンスで取り上げられる主要な論点の概観を得る。同時に、授業の進め方、評価方法等について説明する。	「会社は誰のものか」について、学生同士でディスカッションしておくこと（2 時間）
2	企業の資金調達（１）	現行制度のもとでの企業の主要な資金調達な手段を自己資金調達と負債資本調達に分類して、概観する。	企業はなぜ資金調達が必要になるのか」について、学生同士でディスカッションしておくこと（1 時間）。ｍｔネットや参考文献から、具体的な企業の資金調達方法を調べておくこと（1 時間）
3	企業の資金調達（２）	自己資本調達および負債資本調達について、直接金融・間接金融の視点も加味して、企業（経営者）の観点ｋら、その性格を比較する。	第 2 回に配布した資料をに目を通しておくこと（1 時間）。企業の資金調達方法について、自分なりに整理しておくこと（1 時間）
4	資本コストと期待収益率（リターン）	コーポレートファイナンスにおけるキーワードの一つである、企業サイドからの「資本コスト」および資金提供者サイドからの「期待収益率（リターン）」の意味とその計算方法の基礎を学ぶ。	期待収益率および資本コストの意味について、ネットや参考文献から、調べておくこと（1 時間）。演習問題を完成し、期待収益率の算定がキチンとできることを確認しておくこと（1 時間）
5	リスクと期待収益率（リターン）	コーポレートファイナンスのキーワードの一つである「リスク」の意味を学び、リスクと期待収益率（リターン）の関係、さらに、「リスク・プレミアム」の意味を理解する。	一般的に、リスクは、どのような意味で用いられているのか、またコーポレートファイナンスにおけるリスクについてはどうかを、ネットや参考文献から、事前に調べておくこと（1 時間）。演習問題を通じて、収益率の期待、リスク・プレミアムが正しく算定できることを確認してこと（1 時間）
6	企業の資本コスト（１）	前々回・前回の講義内容を前提に、企業が資金調達するうえで極めて重要な資本コストを、リスクと関連づけながら、その意味を理解する。	資本コストについて、リスクと関連づけながら、改めて、自分なりに理解しておくこと。そんため、ネットや参考文献を参照し、資本コストの意味を自分なりに整理しておくこと（2 時間）。
7	企業の資本コスト（２）	前回の講義内容を前提に、今回は、資本コストには、「負債の資本コスト」・「株式の資本コスト」・「総資本コスト」の 3 つに分類されることおよびそれらの算定方法を学ぶ。	演習問題を学生同士でディスカッションしながら完成し、レポートとして提出する（2 時間）。3 つの資本コストの算定を確実に体得するため、相互の関係を踏まえ、自分なりに整理しておく（1 時間）
8	株式資本コストの推定と資本資産評価モデル（１）	リスクとリターンの関係を理解し、株式の資本コストを推計するうえで極めて重要な資本資産評価モデル（ＣＡＰＭ）の基礎的な考え方を説明する。	「株価「」はどのように決まるのかについて、学生同士でディスカッションしておく（２時間）。
9	株式資本コストの推定と資本資産評価モデル（2）	前回の講義に引き続き、資本資産評価モデル（ＣＡＰＭ）を取り上げ、CAPM がどのような視点から構築されたモデルなのかを理解する。	復習として、演習問題を完成し、「β値」の意味をしっかり理解する。加えて、関心のある企業の「β値」はどの程度なのか、また異なる産業間でどの程度異なるのかなど、「β値」に関して、関連するネットや HP から情報を収集する（2 時間）。
10	株式資本コストの推定と資本資産評価モデル（3）	実際に、現実のデータを用いて、株式資本コストをどのように求めるのかを学び、加えて、我が国の企業の資本資本コストの現状を説明する。	CAPM の構造を理解し、あたえれ与えられたデータから、確実に、企業の株式資本コストが算定することができるよう、演習問題を完成する。完成に向けて、学生同士のディスカッションも大いに奨励する（２時間）。
11	キャッシュフローと現在価値計算（１）	コーポレート・ファイナンスの根幹をなすキャッシュフローの（割引）現在価値の計算方法の基礎を、リスクがない場合とリスクがある場合の２つのケースについて学ぶ。	現在価値（PV）とは何かについて、ネットや参考文献を用いて、その意義・意味について予習しておく（2 時間）。演習問題を完成し、単年度の現在価値の算定方法を整理しておく（１時間）

12	キャッシュフローと現在価値計算（２）	前回の講義に引き続き、キャッシュフローの(割引)現在価値の計算方法を学ぶ。今回の講義で取りあげるのは、多期間キャシュフローを前提とした現在価値計算の方法である。	多期間キャッシュフローの現在価値の求め方について、演習問題に取り組み、学生同士でディスカッションしながら、理解を確実なものにする(２時間)
13	企業価値と DCF 法（1）	前回の講義内容をもとに、負債価値と株主資本価値の合計としての「企業価値」がどのように求められるのかを学ぶ。	予習の意味で、企業価値とは何かについて、学生同士でディスカッションしておく（１時間)。演習問題を完成し、企業価値の算定に向けた２つの方法をしっかり自分のものとするる（２時間)。
14	企業価値と DCF 法（2）	前回の講義に引き続き、より現実に即した形での、企業価値の算定方法を理解する。	現在価値計算の簡便法を体得するため、演習問題を、学生同士でディスカッションも踏まえて完成しする（２時間)
15	整理と復習	コーポレート・ファイナンスＩの全体について簡潔に復習し、特に、演習問題についての質問を受ける。	これまでの講義全体を通じて（特に、演習問題について）理解不十分な箇所について、自分なりに整理しておくこと（３時間)

関連科目

簿記入門、ミクロ経済学、財務会計論、ファイナンス、会計情報分析論、企業分析（財務戦略ケース分析）など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネスゼミナール　経営財務入門	井出正介・高橋文郎	日本経済新聞社出版局
2			
3			

評価方法（基準）

定期試験　95%、中間時点における１回の演習レポートの提出（提出の場合は事前に通知する）　5%

学生へのメッセージ

コーポレート・ファイナンスの議論は、経済学の分析枠組みを基礎に展開されることが多く、そのためもあって、経営学部の学生にとっては見慣れない専門用語が多く登場し、またかなり難解な内容も含まれることをあらかじめ念頭においておくこと。私語は他の熱心な受講生の迷惑となることから絶対に慎むこと。演習問題の取り組みにおける学士同士のディスカッションおよび質問は大いに歓迎する。

担当者の研究室等

高尾研究室（１１号館８階）

備考

講義の内容が前後するなど若干の変更等がある場合は、可能な限り事前に伝える。
これまでの理解度を測るために行われる中間時点で提出を求める演習レポートについては、全体として講評し、正解率の低い問題については、改めてその後の授業において解説する。

科目名	コーポレート・ファイナンスⅡ	科目名（英文）	Corporate Finance II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高尾　裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2038a0		

授業概要・目的	一般に企業は、ヒト、モノ、カネ、情報・技術から構成されるといわれることがある。コーポレート・ファイナンス（わが国では、「経営財務論」とよばれることも多い）は、株主の立場に立って、これら４つの企業構成要素のうち、主にカネ（資金）の流れ（キャッシュフロー）から企業の意思決定ないし行動を分析し、どのような資金の調達と運用が企業価値の創造に結びつくのかを検討する経営学関連の主要領域の一つである。 コーポレート・ファイナンスⅡではコーポレート・ファイナンスⅠで学んだ知識を前提として、（１）企業の投資行動、（２）企業の資金調達と資本構成、（３）企業の配当政策、というコーポレート・ファイナンスの３つの主要課題を、順次取り上げ、それらが企業価値や株主価値にどのような影響を与えるのかという観点から検討する。 本講義の目標は、企業の財務行動を理解し分析するうえで不可欠な知識・分析手法を十分に理解し、実践の場において、企業価値創造に向けて、自分なりに考えることができる基礎知識を提供することである。
到達目標	資金（カネ）の流れ（キャッシュフロー）という視点から、企業の行動をキチンと理解することができ、さらに、基礎的なレベルではあるとはいえ、企業における現実のさまざまな意思決定や行動が、企業価値の向上につながるものであるかどうかを、自分なりに、評価し、判断することができる。
授業方法と留意点	配布する講義資料に沿って講義を進めるコーポレート・ファイナンスにおける論点を十分に理解するためには、実際に数値例に取り組み、自分自身で計算してみることが不可欠であることから、原則として、講義の後半３０分程度を配布した演習問題に取組み、質問に答える時間に当てる。 なお、演習問題の取り組みに当たっては、受講生同士のディスカッションも大いに奨励する。電卓等の計算機器を携帯すること。 原則として、講義資料はほぼ講義 1～2 回分について１回のペースで配布する。配布する講義資料は本講義のテキストであり、配布のつどファイルし、毎回の講義に持参すること。とりわけ最後まで説明が終了しなかった講義資料は翌週に必ず持参すること。また欠席した場合の過去の配布資料の提供には、どのような理由であれ応じないので注意すること。
科目学習の効果（資格）	民間企業への就職希望者にとって、企業の財務行動に関する必要な知識が得られ、また専門的職業人（特に、証券アナリスト、公認会計士、ファイナンシャルプランナーなど）の資格取得にも密接に関連する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	企業の投資決定と正味現在価値（ＮＰＶ）	経営財務論の目的を理解し、特に経営財務論Ⅱで取り上げられる 3 つの主要な論点を概観する。加えて、授業の進め方、評価方法等について説明する。	コーポレート・ファイナンスⅠにおいて説明した現在価値の意味とその算定方法を復習しておくこと（2 時間）。演習問題を通じて、正味現在価値の算定方法を体得する（1 時間）
2	ＮＰＶ法(正味現在価値法)の検討（1）	企業の投資決定の判断基準として用いられる「正味現在価値」（ＮＰＶ）の意味を理解するとともに、その算定方法を理解する。	演習問題を通じて、正味現在価値の基礎的な算定方法を体得する（1.5 時間）。
3	ＮＰＶ法(正味現在価値法)の検討（2）	複数のプロジェクトの選択を選択含む具体例にもとづいて、正味現在価値法（ＮＰＶ法）が実際にどのように用いられるのかを理解し、より実践に即した形での正味現在価値の算定を学ぶ。	投資決定基準として、正味現在価値法を用いるためには、どのようなデータが必要となるのかを考え、整理しておく（1 時間）。学生同士でディスカッションしながら、演習問題を完成する（1 時間）。
4	ＮＰＶ法（正味現在価値法）の検討（3）	特に、「株主価値」への影響という観点から、企業の投資決定ルールとしての正味現在価値法の特徴を探る。	正味現在価値と株主価値がどのような関係にあるのかを、演習問題の取り組みを通じて、しっかりと納得する（２時間）
5	もう一つの投資決定基準－ＩＲＲ法（内部収益率法）	正味現在価値法（ＮＰＶ法）とともに、企業の投資決定基準とされる内部収益率法（ＩＲＲ法）を学ぶ。	投資決定基準には、どのようなものがあるのかを参考文献やネットで整理しておくこと（1.5 時間）。学士同士でディスカッションしながら、演習問題を通じて、内部収益率の求め方を理解する（１時間）。
6	正味現在価値法（ＮＰＶ法）と内部収益率法（ＩＲＲ法）の比較検討	二つの主要な企業の投資決定基準である正味現在価値法（ＮＰＶ法）と内部収益率法（ＩＲＲ法）を比較し、その長所・短所を検討する。加えて、実社会において用いられている、これら２つ以外の投資決定ルールについても簡単に取り上げる。	演習問題に取り組み、投資決定基準としての正味現在価値法と内部収益率法の違いを理解し、いずれがより望ましい決定基準であるのかを納得する（２時間）
7	リアル・オプション分析の基礎	リアル・オプションの意義を説明するとともに、企業の投資決定判断において、リアル・オプション分析が用いられる場合の企業投資判断への影響を検討する。	ネットや参考文献から、オプションについての知識を整理しておく（１時間）。演習問題に取り組み、リアル・オプションの意義および利用方法をしっかりと理解する（1.5 時間）。
8	企業の資金調達と投資行動（1）	投資決定に続く、コーポレート・ファイナンスⅡの主要テーマのである企業の資金調達行動について、わが国企業の現状もふまえて、概観する。	企業は、いつ、どのような状況のもとで、資金調達が必要になるのかを、学生同士でディスカッションしておく（１時間）?。
9	企業の資金調達と投資行動（2）	今回は、企業価値に与える影響という観点から、企業の投資行動と資金調達行動の関係を説明する。	演習問題に取り組み、投資行動は資金調達行動に影響を与えるが、資金調達行動は投資行動に影響を与えないのかを、自分なりに整理しておくこと（1.5 時間）
10	企業の資本構成と企業価値（１）	企業の資金調達行動の違い、よって資本構成のあり方は「企業価値」に影響するのかどうかに関する有名な「MMの無関連命題」の意義とメカニズム説明する。	コーポレート・ファイナンスにおける「MM 命題」とは何か。参考文献やネットで調べておく（1.5 時間）
11	企業の資本構成と企業価値（２）	今回は、企業の資金調達が「株主価値」にどのような影響を与えるのかという観点から、企業の資金調達を検討する。	資本構成は、企業価値には影響を与えないが、株主価値には影響を与える、という主張を、学生同士でディスカッションしながら、演習問題を通じてキチンと理解する（２時間）
12	企業の最適資本構成	これまでの企業の資金調達行動の検討を踏まえたうえで、法人税の存在といった現実的・制度的な状況のもとで、企業にとって望ましい資本構成のあり方を検討する。	最適資本構成に影響を与えると思われる現実的・制度的な一連の要因について、復習として、自分なりに整理しておく（２時間）。演習問題に取り組み、負債の）節税効果を納得する（１時間）。

13	企業の配当政策	企業の配当政策が「株主価値」にどのように影響するのかについて、現金配当を念頭に置き、まず①有名な「MMの配当政策無関連命題」を取り上げ議論し、次いで②所得税の存在といった現実的・制度的な状況を前提に配当政策について検討する。	配当政策とは何か、また具体的には後のような方法があるのかを、ネットや参考文献で調べておく（1時間）。
14	自社株買い（自己株式の取得）	今回は、配当政策の一つとみなされる「自社株買い」を念頭に置き、「株主価値」にどのような影響を与えるのかについて検討する。	復習として、学生同士でディスカッションしながら、自社株買いがなぜ現金配当と同じ株主への利益還元という効果を持つのか、整理しておく（1.5時間）。
15	整理と復習	コーポレート・ファイナンスⅡの全体について簡潔に復習し、特に、演習問題についての質問を受ける。	これまでの講義全体を通じて（特に、演習問題について）、疑問点・理解不十分な箇所について自分なりに整理しておくこと。質問を受ける（3時間）

関連科目	簿記入門、ミクロ経済学、財務会計論、ファイナンス、会計情報分析論、企業分析（財務戦略ケース分析）など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネスゼミナ経営財務入門	井出正介・高橋文郎	日本経済新聞社出版局
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験　95%、中間時点における１回の演習レポートの提出（提出の場合は事前に通知する）　5%
学生へのメッセージ	コーポレート・ファイナンスの議論は、経済学の分析枠組みを用いて展開されることも多く、そのため、経営学部の学生にとっては見慣れない専門用語が多く登場し、またかなり難解な内容も含まれることをあらかじめ念頭においておくこと。 私語は他の熱心な受講者の迷惑となることから絶対に慎むこと。授業中に与えられた演習課題に熱心に取り組むこと。その際の受講生同士のディスカッションおよび質問は大いに歓迎する。
担当者の研究室等	高尾研究室（１１号館８階）
備考	講義の内容が前後するなど若干の変更等がある場合は、可能な限り事前に伝える。 これまでの講義に関する理解度を測るための中間時点での演習レポートについては、その後の授業において、全体として講評し、正解率の低い問題のついては、改めて説明する。

科目名	財務会計論Ⅰ	科目名（英文）	Financial Accounting Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐井　英子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2030a0		

授業概要・目的	会計とは、経済主体の経済活動を一定のルールに従って、計数的に認識し、測定し、報告することである。このルールとは、商法、証券取引法等の法律の他に、各種の省令や通達および会計基準や会計慣行を意味している。今日、企業を取り巻く環境の多様化、国際化に伴い、この会計ルールもより複雑に、国際的統一化の方向へ変化している。財務諸表を理解するためには、この会計ルールの理解が不可欠となる。この講義では、会計情報開示制度と財務諸表の作成方法に重点を置き、財務会計の基礎的知識の修得に努める。
到達目標	・会計の役割、機能を理解する。 ・会計情報開示制度の基本的ルール、会計基準を理解する。 ・貸借対照表の作成の会計基準、ルールを理解する。 ・資産、負債、純資産の内容、本質を理解する。 ・実際の企業の貸借対照表を理解し、自ら企業の経営内容や財政状態を分析することができるようになる。
授業方法と留意点	配布資料にに基づいて解説し、その後、講義内容を確認するために、グループワーク、または個人で、課題を解き、自分たちの解をプレゼンテーションし、授業終了後に提出する。
科目学習の効果（資格）	簿記検定試験２級以上、税理士試験、公認会計士試験には不可欠である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	会計の意義,	財務会計の目的と役割	当日の配布プリントと板書を整理し、わからない所は図書館で調べる（1 時間）
2	会計制度	会社法、金融商品取引法、法人税法の会計規則	当日の配布プリントと板書を整理し、授業終了時に提示する練習問題を解く（90 分）
3	会計基準と企業会計原則	企業会計原則（一般原則） 会計基準の国際的統合	当日の配布プリントと板書を整理し、わからない所は図書館で調べる（1 時間）
4	資産会計（1）	資産の内容と分類、 現金預金の会計 債権の会計	当日の配布プリントと板書を整理し、授業終了後に提示されたレポートを作成する（2 時間）
5	資産会計（2）	有価証券の会計 棚卸資産の会計	当日の配布プリントと板書を整理し、授業終了時に提示する練習問題を解く（90 分）
6	資産会計（3）	有形固定資産の会計 固定資産の減損会計	当日の配布プリントと板書を整理し、わからない所は図書館で調べる（1 時間）
7	資産会計（4）	無形固定資産の会計 のれん、研究開発費、	当日の配布プリントと板書を整理し、授業終了後に提示されたレポートを作成する（2 時間
8	資産会計（5）	繰延資産の会計	当日の配布プリントと板書を整理し、授業終了時に提示する練習問題を解く（90 分）
9	まとめと確認テスト	進捗度により、まとめと確認テストを省略する場合もあります。	今までの復讐と確認テストの準備（3 時間）
10	負債会計（1）	負債の本質と分類	当日の配布プリントと板書を整理し、授業終了時に提示する練習問題を解く（90 分）
11	負債会計（2）	引当金の会計 退職給付引当金	当日の配布プリントと板書を整理し、授業終了時に提示する練習問題を解く（90 分）
12	純資産会計（1）	純資産の本質と分類	当日の配布プリントと板書を整理し、わからない所は図書館で調べる（1 時間）
13	純資産会計（2）	株主資本の会計	当日の配布プリントと板書を整理し、わからない所は図書館で調べる（1 時間）
14	純資産会計（3）	その他資本の会計	当日の配布プリントと板書を整理し、授業終了時に提示する練習問題を解く（90 分）
15	まとめ	今までの復習と練習問題	今までの復習と練習問題の見直し（3 時間）

関連科目：企業簿記システム、会計情報論、管理会計論、経営分析論、国際会計論、税務会計論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	まなびの入門会計	谷　武幸他	中央経済社
2	財務会計	広瀬　義州	中央経済社
3	財務会計・入門	櫻井　久勝	有斐閣アルマ

評価方法（基準）	定期試験の評価（５０％）、課題（練習問題）提出（３０％）、確認テスト（２０％）、進捗度により確認テストを実施しない時は、定期試験の評価を７０％とする。
学生へのメッセージ	講義に出席して、その後必ず配布プリント、講義ノートを読み直して、講義の内容を整理して理解してください。その上ので理解できないところは、どんどん質問して下さい。
担当者の研究室等	11 号館 8 階(佐井教授室)
備考	

科目名	財務会計論Ⅱ	科目名（英文）	Financial Accounting II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐井　英子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2031a0		

授業概要・目的	財務会計論Ⅰに引き続き,損益計算書、株主資本等変動計算書についてその意義と内容、作成方法を解説する。
到達目標	・損益計算書、株主資本等変動計算書の作成に関する会計基準、ルールを理解する。 ・実際の企業の損益計算書、株主資本等変動計算書を理解し、企業の経営内容や財務状況の分析ができるようになる。 ・株式会社の純資産（資本）について理解する。 ・会計をめぐる国際的動向について理解する。
授業方法と留意点	配布資料に基づいた解説の後、その日の講義内容を確認するために、グループワークまたは個人で課題を解き。 自分たちの解をプレゼンテーションする。また講義終了後提出する。 財務会計論Ⅰからの続きですから、必ず財務会計論Ⅰを受講して下さい。
科目学習の効果（資格）	簿記検定２級以上、税理士試験、公認会計士試験には不可欠である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	損益計算書（1）	損益計算書の基礎概念 本質、基本原則、報告様式	当日の配布プリントの内容を復習し整理する。理解できないところは図書館で調べる（1 時間）
2	損益計算書（2）	収益の認識、測定基準 実現主義の適用	当日の配布プリントの内容を復習し整理する。理解できないところは図書館で調べる（1 時間
3	損益計算書（3）	割賦販売、工事契約における収益認識	当日の配布プリントの内容を復習し整理する。当日提示する練習問題を解く（90 分）
4	損益計算書（4）	費用の認識、測定基準	当日の配布プリントの内容を復習し整理する。当日提示するレポートを作成する（90 分）
5	損益計算書（5）	純損益計算	今までの復習と確認テストの準備（2 時間）
6	まとめと確認テスト	まとめと復習 進捗度により確認テストを省略する場合があります	確認テストの見直し（90 分）
7	株主資本等変動計算書（1）	株主資本等変動計算書とは	当日の配布プリントの内容を復習し整理する。理解できないところは図書館で調べる（1 時間）
8	株主資本等変動計算書（2）	株主資本等変動計算書の作成 株主資本とは	当日の配布プリントの内容を復習し整理する。当日提示する練習問題を解く（90 分）
9	株主資本等変動計算書(3))	株主資本等変動計算書の作成その他の資本とは	当日の配布プリントの内容を復習し整理する。当日提示する練習問題を解く（90 分）
10	包括利益計算書	包括利益計算書とは	当日の配布プリントの内容を復習し整理する。理解できないところは図書館で調べる（1 時間）
11	貸借対照表の復習	資産、負債、純資産とは	当日の配布プリントの内容を復習し整理する。当日提示するレポートを作成する（90 分）
12	損益計算書の復習	営業損益、経常損益、純損益とは	当日の配布プリントの内容を復習し整理する。理解できないところは図書館で調べる（1 時間）
13	会計をめぐる国際的動向（1）	国際会計の台頭と会計基準の国際的コンバージェンス	当日の配布プリントの内容を復習し整理する。理解できないところは図書館で調べる（1 時間）
14	会計をめぐる国際的動向（2）	コンバージェシーからアドプションへ	当日の配布プリントの内容を復習し整理する。当日提示する練習問題を解く（90 分）
15	まとめ	まとめと復習	今までの復習と練習問題の見直し（3 時間）

関連科目	企業簿記システム、会計情報論、管理会計論、経営分析論、国際会計論、税務会計論、財務会計論Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	まなびの入門会計学	谷　武幸	中央経済社
2	財務会計	広瀬　義州	中央経済社
3	財務会計入門	桜井　久勝	有斐閣アルマ

評価方法（基準）	定期試験の評価（５０％）、課題（練習問題）の提出（３０％）、テスト（２０％） 進捗度により確認テストを省略した場合は、定期試験の評価を７０％とします。
学生へのメッセージ	講義に出席して、ノートをとり、その後教科書を読み直して下さい。わからないところは、どんどん質問して下さい。
担当者の研究室等	11 号館 8 階(佐井教授室)
備考	授業の進捗度に応じて、期中にシラバスを変更することがあります。

科目名	財務諸表論入門	科目名（英文）	Introduction to Accounting
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐井　英子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1005a0		

授業概要・目的	会計情報は、債権者や投資家など特定の人々にのみ有用なものではない。今日の経済社会においては、すべての人々が企業活動と何らかの関係を持っている。企業は、地域社会をはじめ多くの関係者と利害関係を有しており、会計情報は、誰にとっても必要で有用な情報である。また、会計はビジネスの言語といわれ、ビジネスに不可欠になっている。会計を知らずして、経済社会を理解することはできないといえる。本講義では、会計の意義、目的、規範、会計情報開示制度等に関する基礎的知識・用語を初心者向けに分かり易く解説し、公表されている会計情報、財務諸表をから企業の経営内容を読み取り、理解できるようになり、また、2年生以降に履修することになる上級科目のより円滑な理解に結びつくことを目的とする。
到達目標	・会計の目的、役割を理解する。 ・我が国の会計制度、会計情報開示制度の概要を理解する。 ・自ら必要な会計情報を入手できるようになる。 ・財務諸表の内容、作成ルールを理解し、会計情報から企業内容を推察することができる。
授業方法と留意点	・配布資料にに基づいて解説し、その後、講義内容を確認するために、グループワーク、または個人で、課題を解き、自分たちの解をプレゼンテーションし、授業終了後に提出する。
科目学習の効果（資格）	・ビジネスマンとして必要なビジネス言語である会計リテラシィーが修得できる。 ・組織（主として企業）に関する会計情報を読み取る力を修得することにより２年次以降の学びに有用できる。 ・経営学部に関連する一連の各種資格取得のための受験準備スタートのよい契機になる。 ・会計と資格、職業についての理解が得られる。（公認会計士、税理士、国税専門官、不動産鑑定士、中小企業診断士等）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	会計の意義と目的	会計の意義、財務会計と管理会計、会計の役割・機能	配布資料の復讐と整理（1時間）
2	わが国の会計制度	トライアングル体制、会社法会計、金融商品取引法会計、税務会計	事前学習（30分） 前回の講義、練習問題の復習 事後学習（1時間） 当日の配布資料、練習問題の見直し
3	会計情報開示制度	ディスクロージャーとは、電子開示システム	事前学習（30分） 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
4	会計基準	企業会計原則、会計基準の国際的統合	事前学習(30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習（1時間） 当日の配布資料、練習問題の見直し
5	会計情報の内容（1）	会計情報の入手方法、個別財務諸表と連結財務諸表	事前学習(30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習（90分） 当日の配布資料の見直しと提示された課題レポートの作成
6	会計情報の内容（2）	貸借対照表 様式、基本原則、分類基準	事前学習(30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
7	会計情報の内容（3）	貸借対照表 資産について	事前学習（30分） 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(90分) 当日の配布資料の見直しと提示された課題レポートの作成
8	会計情報の内容（4）	貸借対照表 負債について	事前学習（30分） 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
9	会計情報の内容（5）	貸借対照表 純資産について	事前学習(30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習（1時間） 当日の配布資料、練習問題の見直し
10	まとめと確認テスト	まとめと小テスト	事前学習（９０分） 今までの配付資料、練習問題の復習 事後学習（３０分） まとめテストの見直し
11	会計情報の内容（6）	損益計算書 収益の認識と測定	事前学習(30分) まとめてストで理解できないところを調べる 事後学習(1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し の見直し
12	会計情報の内容（7）	損益計算書 費用の認識と測定	事前学習(30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
13	会計情報の内容（8）	損益計算書	事前学習(30分)

		営業損益、経常損益、純損益	前回の講義、練習問題の復習 事後学習(90 分) 当日の配布資料の見直しと提示された課題レポートの作成
14	会計と職業・資格	日商簿記検定、ビジネス会計検定試験、BATIC、公認会計士、税理士、国税専門官、不動産鑑定士、中小企業診断士	事前学習(30 分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習（1 時間） 当日の配布資料、練習問題の見直し
15	まとめ	講義の復習とまとめ 質問の受付	事前学習（1 時間） 今までの講義でどこが理解できていないか箇条書きにする。 事後学習（5 時間） 試験に備え、今までの復習

関連科目	経営学、企業簿記

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	アカウンティング	笹倉　淳史他	同分館出版
2	１からの会計	桜井　久勝	中央経済社
3			

評価方法 （基準）	授業への参加と課題の提出（３０％）、確認テスト（２０％）、定期テスト（５０％）
学生への メッセージ	毎回授業に出席して下さい。
担当者の 研究室等	佐井研究室（１１号館８階）
備考	

科目名	ＣＳＲ経営論	科目名（英文）	Corporate Social Responsibility Manegement
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大田　住吉
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2025a0		

授業概要・目的	・学ぶのは、「戦略」です。企業倫理の視点から今日的なテーマであるＣＳＲ（企業の社会的責任）を取り上げ、「ビジネス・スクール形式」で学びます。 主な学習テーマは、以下のとおりです。 ①ＣＳＲとは何か？　経営学部の学生にとって、なぜそれを学ぶことが必要なのか？ ②企業にとって、なぜＣＳＲが必要なのか？ ③ＣＳＲを実践するにあたり、企業は具体的に何をすれば良いのか？ ④内部統制、リスクマネジメント、コンプライアンスとＣＳＲは、どんな関連性があるのか？ ⑤ＣＳＲを、ビジネス戦略や企業の持続的成長にどう活かせば良いのか？ ・なお、この科目は、「実務経験のある教員による授業科目」です。民間企業、経済団体、シンクタンク等に通算 29 年間（CSR 部門含む）勤務し、また経営コンサルタント(中小企業診断士)として 150 社以上の企業経営支援（CSR に関わる支援を含む）に携わった実務経験を活かし、アクティブラーニング（ケースメソッド形式）による実践的な授業を行います。
到達目標	・実社会で「戦力」として通用するビジネスリーダーを養成することが、この授業の到達目標です。 ・ＣＳＲとビジネス戦略の関連性について分析し、判断し、表現する、実践的な知識および能力を身につけることができます。 ・その到達目標をクリアできているか検証するため、毎回の授業においてケースメソッドによる個人作業、グループワーク、プレゼン、質疑応答等を実施し、その到達度合いを一人一人判定します。
授業方法と留意点	・この授業は、座学ではありません。授業の特徴は、以下のとおり。 ① 基本的なＣＳＲの企業事例について、実際のビジネス現場で起きるケースメソッド（仮想企業による事例研究）を準備し、学生同士でディスカッションを行う「ビジネス・スクール形式」の授業です。 ② 毎回の授業においてグループ討議、プレゼン、質疑応答などを徹底的に繰り返し、明るく、楽しく、わかりやすく、学びます。 ③ グループメンバー、役割分担は定期的に交替し、自分の考えを主張するとともに、他人の考え方との違いを体感します。 ・なお、授業ではスマホ等を使ったキーワード検索等があります。教科書の他、スマホ等は必ず持参して下さい。
科目学習の効果（資格）	・販売士または中小企業診断士等の資格取得に向けた基礎知識の習得に効果があります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス　～この授業で何を学ぶのか？～	本科目の目標とテーマ、授業の進め方・ルール、成績評価基準等について説明します	＜予習＞ テキストを熟読し、分からない専門用語等は事前に調べておくように(1 時間) ＜復習＞ 授業の最後に必ず「本日のポイント」を説明します。その内容について、しっかり復習して下さい(1 時間)
2	ケースメソッドⅠ： 失敗の美学	企業事例研究：水産加工食品メーカーY 社 ～①企業は、なぜ失敗するのか？～	＜予習＞ 教科書 p3-12(1 時間) ＜復習＞ 「失敗」とは何か？、CSR とどんな関係があるのか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
3	同上②	企業事例研究：水産加工食品メーカーY 社 ～②リスクダメージの原因分析とその対策～	＜予習＞ 教科書 p3-12(1 時間) ＜復習＞ 「失敗」には必ず原因がある。それをどうやって分析するか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
4	同上③	企業事例研究：水産加工食品メーカーY 社 ～③全社的内部統制とは？～	＜予習＞ 教科書 p3-12(1 時間) ＜復習＞ リスクマネジメントの 3 点セットとは何か？、CSR とどんな関係があるのか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
5	ケースメソッドⅡ： コンプラって、何だろう？	企業事例研究：加工食品メーカーN 社 ～①コンプライアンスの判定基準	＜予習＞ 教科書 p13-36(1 時間) ＜復習＞ 「コンプライアンス」とは何か？、CSR とどんな関係があるのか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
6	同上②	企業事例研究：加工食品メーカーN 社 ～②企業風土とコンプライアンス～	＜予習＞ 教科書 p13-36(1 時間) ＜復習＞ 企業風土とコンプライアンスはどんな関係があるのか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
7	同上③	企業事例研究：加工食品メーカーN 社 ～③営業取引とコンプライアンス～	＜予習＞ 教科書 p13-36(1 時間) ＜復習＞ 営業取引、営業接待と CSR とどんな関係があるのか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
8	同上④	企業事例研究：加工食品メーカーN 社 ～④大企業と中小企業のコンプライアンス比較～	＜予習＞ 教科書 p13-36(1 時間) ＜復習＞ 大企業と中小企業でコンプラダメージにどんな違いがあるのか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
9	ケースメソッドⅢ： ものも？のための BCP	企業事例研究：企業の事業継続と CSR ～①自然災害によるダメージと CSR～	＜予習＞ 教科書 p37-50(1 時間) ＜復習＞

			自然災害による企業ダメージは、CSR とどんな関係があるのか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
10	同上②	企業事例研究：企業の事業継続と CSR ～②自社の中核事業と CSR～	＜予習＞ 教科書 p37-50(1 時間) ＜復習＞ 災害時における「中核事業」とは何か？、CSR とどんな関係があるのか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
11	同上③	企業事例研究：企業の事業継続と CSR ～③災害からの早期復旧と CSR～	＜予習＞ 教科書 p37-50(1 時間) ＜復習＞ 災害からの早期復旧を目指す際の「ボトルネック」とは何か等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
12	同上④	企業事例研究：企業の事業継続と CSR ～④BCP の具体的内容と CSR～	＜予習＞ 教科書 p37-50(1 時間) ＜復習＞ CSR を果たす上で、BCP の具体的内容はどうあるべきか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
13	ケースメソッドⅣ： いま、なぜ、ＣＳＲ？	企業事例研究：監査法人Ｆ社 ～①同族経営とＣＳＲ～	＜予習＞ 教科書 p51-68(1 時間) ＜復習＞ 「同族経営」とは何か？、CSR とどんな関係があるのか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
14	同上②	企業事例研究：監査法人Ｆ社 ～②監査法人とＣＳＲ～	＜予習＞ 教科書 p51-68(1 時間) ＜復習＞ 「監査法人」とは何か？、CSR とどんな関係があるのか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
15	同上③	～企業事例研究：監査法人Ｆ社 ～③企業不祥事と J-SOX 法～	＜予習＞ 教科書 p51-68(1 時間) ＜復習＞ J-SOX 法、インセンティブのねじれとは何か？、CSR とどんな関係があるのか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)

関連科目

企業論、生産管理論ほか

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	アクティブラーニング（ケースメソッド）授業テキスト　ＣＳＲ経営戦略［第３版］	大田住吉、佐々木公之	デザインエッグ社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ＣＳＲ経営戦略	伊吹 英子	東洋経済新報社
2	内部統制のポイント	三浦　太	中経出版
3	中小企業のための「内部統制」制度の確立	武田　隆二	ＴＫＣ出版

評価方法（基準）

①グループワークへの貢献度(参加意欲、個人作業、役割分担、呼応発言内容など)（35%）
②制限時間内におけるプレゼン用シートの記載内容・分析力（15%）
③プレゼン力および質疑応答対応力（15%）
④毎回の授業における理解度チェック小テスト(30%)
⑤定期試験（論述式）(5%)
による総合評価。
ただし、①～④は、毎回の授業の都度採点し、集計します。

学生へのメッセージ

・通算 35 年間の民間企業・公的機関等でのビジネス経験やコンサルティング経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！
・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。

担当者の研究室等

11 号館 7 階　大田住吉研究室

備考

・理解度チェック小テストの結果については、授業の中で適宜フィードバックします。
・事前事後学習は、各々概ね 60 分程度を目安に行って下さい。

科目名	市場調査入門	科目名（英文）	Introduction to Marketing Research
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧野　幸志
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1015a0		

授業概要・目的	社会調査の意義やその歴史、調査倫理、調査類型など、社会調査全般に関して講義を行う。さまざまな種類の社会調査によってなされた代表的研究を紹介しつつ、それぞれの調査の特徴や相違点について学んでいく。
到達目標	社会調査の基礎知識を得ることができる。社会調査の基礎を知り、簡単な調査をすることができる。
授業方法と留意点	担当者が毎回パワーポイントによるプレゼンテーション形式で講義を行う。各自，ノートを取ること。 授業中にグループワークや作業をすることもある。 第１回授業で授業ルールなどについて説明をするので必ず参加すること。 グループ・ワークやディスカッションなどのアクティブ・ラーニングを取り入れているので、授業中の課題には積極的に取り組むこと。
科目学習の効果（資格）	社会調査士資格の取得に履修が必要な科目のうち「【 A 】 社会調査の基本的事項に関する科目」に対応。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 市場調査とは？	授業の概要について	事前学習課題：市場調査とは何か？事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2 時間)
2	社会調査とは	社会調査とは何か。なぜ社会調査が必要なのか。	事前学習課題：社会調査の必要性について事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2 時間)
3	社会調査の歴史	社会調査はいつからおこなわれ、どのように発展してきたか。	事前学習課題：社会調査の歴史について調べまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2 時間)
4	社会調査の種類	さまざまな社会調査の種類について。市場調査、世論調査など。	事前学習課題：社会調査の種類とその内容について調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2 時間)
5	調査倫理	調査をおこなう際の心得について。ラポールなど。	事前学習課題：ラポールとは何か？事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2 時間)
6	量的調査と質的調査――それぞれの特徴	量的調査と質的調査の特徴と違いについて。	事前学習課題：量的調査と質的調査の違いについてまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2 時間)
7	官庁統計1――官庁統計の利用と統計法	行政機関がおこなう社会調査には何があるか。統計法とは何か。	事前学習課題：官庁統計とは何か？事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2 時間)
8	官庁統計2――官庁統計による諸研究	官庁統計のデータを用いた研究の紹介。	事前学習課題：官庁統計を使った研究の事例を調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2 時間)
9	量的調査1――統計学と質問紙調査（1）	質問紙調査の概要について。統計学との関係。	事前学習課題：質問紙調査とは何か？事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2 時間)
10	量的調査2――統計学と質問紙調査（2）	質問紙調査の方法について。 統計的手法	事前学習課題：調査で使う統計の知識について調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2 時間)
11	量的調査3――質問紙調査による諸研究	質問紙調査のデータを用いた研究を紹介する。	事前学習課題：質問紙調査を利用した研究を見つけて読むこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2 時間)
12	質的調査1――聞き取り調査	聞き取り調査の方法について。聞き取り調査をおこなった研究の紹介。	事前学習課題：聞き取り調査とは何か？事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2 時間)
13	質的調査 2――参与観察	参与観察の方法について。参与観察をおこなった研究の紹介。	事前学習課題：参与観察とは何か？事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2 時間)
14	質的調査3――ドキュメント分析	ドキュメント分析の方法について。ドキュメント分析をおこなった研究の紹介。	事前学習課題：ドキュメント分析の研究論文を探して読んでおくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること(2 時間)
15	まとめ	社会調査の基礎的な知識を身につけることができたかを確認。	事前学習課題：社会調査の基礎について総復習しておくこと(1 時間) 事後学習課題：授業終了時に出す課題について最終レポートを作成すること(2 時間)

関連科目	.「市場調査法」,「市場調査実習Ⅰ・Ⅱ」

教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門・社会調査法―2 ステップで基礎から学ぶ	轟亮・杉野勇	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業態度と授業内課題（上限 10 ％）と定期試験（90 ％）の割合で，総合的に判断する。
学生への メッセージ	市場調査を含む社会調査全般について学ぶ基礎的な講義です。 グループワークなどのアクティブ・ラーニングを取り入れているので、課題に対しては積極的・主体的に取り組むこと。
担当者の 研究室等	.11 号館 7 階(牧野(幸)准教授室)
備考	他人の迷惑となる行為(遅刻，私語，居眠り，内職，不必要な教室への出入り、スマホ，携帯電話など電子機器の使用など)はすべて禁止とします。 遅刻は減点の対象となります。 以上のことを承知して受講すること。 事前学習には毎回 1 時間以上、事後学習には毎回 2 時間以上をかけること。 授業内で課された課題については，授業中か次週の授業で解説してフィードバックを行う。

科目名	商業簿記	科目名（英文）	Commercial Bookkeeping
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高尾　裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2028a0		

授業概要・目的	１年次の「簿記入門」の内容をさらに発展させた簿記論・会計学の知識と能力を習得する。２級の商業簿記を修得することは、実際の企業の経理業務を行うにたるかなりの知識を有することを意味する。
到達目標	平成３１年度以降の日本商工会議所簿記検定２級（商業簿記）レベルの簿記論・会計学の知識と応用能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	全体としてかなりのボリュームになることから、商業簿記３級では全く取り上げらず、商業簿記２級で初めて取り上げられるテーマを優先する。本講義は演習形式で行う。毎回、演習問題と解答例を配布する。毎回の取り上げるテーマの説明・解説はごく簡潔なものに止め、教科書での事前の「予習「」を前提に、毎回、ほとんどの時間を記帳練習に充てる。事前の「予習」がなければ、その時間を有意義なものにすることができない点に特に注意してほしい。質問は歓迎する。解答に向けた受講生同士のディスカッションも認める。毎回、電卓を必ず持参すること。
科目学習の効果（資格）	日本商工会議所簿記検定２級の合格を目指す。 ただし、同検定２級に合格するには、本講義に加えて、２級工業簿記も習得する必要がある。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション―「簿記一巡の手続と財務諸表」	簿記一巡の手続を復習し、全体の流れを改めて確認する。加えて、授業の進め方、評価方法等について説明する。配布するワークブックの第１章の問題に取り組む。	「簿記入門」で学んだ「全体の会計処理の流れ」を改めて復習認する。教科書の第１章をしっかり「予習」しておくこと（1.5 時間）。また質問があれば準備しておくこと。
2	現金預金	配布するワークブックの第２章の問題に取り組む。	教科書の第２章をしっかり「予習」しておくこと（1.5 時間）。また質問があれば準備しておくこと。解答例の配布後、正答を確認し、間違った問題・未完成の問題は確実に仕上げておくこと（1.5 時間）
3	手形	配布するワークブックの第３章の問題に取り組む。	教科書の第３章をしっかり「予習」しておくこと（1.5 時間）。また質問があれば準備しておくこと。解答例の配布後、正答を確認し、間違った問題・未完成の問題は確実に仕上げておくこと（1.5 時間）
4	有価証券	配布するワークブックの第 4 章の問題に取り組む。	教科書の第４章をしっかり「予習」しておくこと（1.5 時間）。また質問があれば準備しておくこと。解答例の配布後、正答を確認し、間違った問題・未完成の問題は確実に仕上げておくこと（1.5 時間）
5	その他の債権・債務	配布するワークブックの第 5 章の問題に取り組む。	教科書の第５章をしっかり「予習」しておくこと（1.5 時間）。また質問があれば準備しておくこと。解答例の配布後、正答を確認し、間違った問題・未完成の問題は確実に仕上げておくこと（1.5 時間）
6	商品売買	配布するワークブックの第６章の問題に取り組む。	教科書の第６章をしっかり「予習」しておくこと（1.5 時間）。また質問があれば準備しておくこと。解答例の配布後、正答を確認し、間違った問題・未完成の問題は確実に仕上げておくこと（1.5 時間）
7	固定資産	配布するワークブックの第７章の問題に取り組む。	教科書の第７章をしっかり「予習」しておくこと(1.5 時間)。また質問があれば準備しておくこと。 解答例の配布後、正答を確認し、間違った問題・未完成の問題は確実に仕上げておくこと（1.5 時間）
8	引当金	配布するワークブックの第８章の問題に取り組む。	教科書の第８章をしっかり「予習」しておくこと（1.5 時間）。また質問があれば準備しておくこと。解答例の配布後、正答を確認し、間違った問題・未完成の問題は確実に仕上げておくこと（1.5 時間）
9	収益・費用	配布するワークブックの第９章の問題に取り組む。	教科書の第９章をしっかり「予習」しておくこと（1.5 時間）。また質問があれば準備しておくこと。解答例の配布後、正答を確認し、間違った問題・未完成の問題は確実に仕上げておくこと（1.5 時間）
10	株式会社の純資産（資本）	配布するワークブックの第 10 章の問題に取り組む。	教科書の第 10 章をしっかり「予習」しておくこと（1.5 時間）。また質問があれば準備しておくこと。解答例の配布後、正答を確認し、間違った問題・未完成の問題は確実に仕上げておくこと（1.5 時間）
11	税金	配布するワークブックの第 11 章の問題に取り組む。	教科書の第 11 章をしっかり「予習」しておくこと（1.5 時間）。また質問があれば準備しておくこと。解答例の配布後、正答を確認し、間違った問題・未完成の問題は確実に仕上げておくこと（1.5 時間）
12	リース会計	配布するワークブックの第 12 章の問題に取り組む。	教科書の第 12 章をしっかり「予習」しておくこと（1.5 時間）。また質問があれば準備しておくこと。解答例の配布後、正答を確認し、間違った問題・未完成の問題は確実に仕上げておくこと（1.5 時間）
13	外貨建取引	配布するワークブックの第 13 章の問題に取り組む。	教科書の第 13 章をしっかり「予習」しておくこと（1.5 時間）。また質問があれば準備しておくこと。解答例の配布後、正答を確認し、間違った問題・未完成の問題は確実に仕上げておくこと（1.5 時間）
14	税効果会計	配布するワークブックの第 14 章の問題に取り組む。	教科書の第 14 章をしっかり「予習」しておくこと（1.5 時間）。また質問があれば準備しておくこと。解答例の配布後、正答を確認し、間違った問題・未完成の問題は確実に仕上げておくこと（1.5 時間）
15	本支店会計	配布するワークブックの第 16 章の問題に取り組む。	教科書の第 16 章をしっかり「予習」しておくこと（1.5 時間）。また質問があれば準備しておくこと。解答例の配布後、正答を確認し、間違った問題・未完成の問題は確実に仕上げておくこと（1.5 時間）

関連科目	簿記入門、財務諸表論入門、財務会計論
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	検定簿記講義／2 級商業簿記（平成 31 ページ年度版）あるいは最新版	渡部裕亘／片山覚／北村敬子	中央経済社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験　９５%、中間時点における演習レポートの提出（事前に通知する）５%
学生へのメッセージ	「簿記入門」の知識を前提としたとしても、商業簿記２級で新たに求められる知識量はかなり多い。よって、各テーマごとに多少の相違はあるが、各授業時間内で問題を完全に仕上げることが困難なことも多い。事前の「予習」に加えて、事後の「復習」が不可欠である。いずれにせよ、かなハードであるとをあらかじめ念頭においておくこと。 演習問題に熱心に取り組むこと。取り組みにあたっては、他の学生に迷惑にならない範囲での学生同士のディスカッションは認める。分からない箇所は積極的に質問すること
担当者の研究室等	高尾研究室（１１号館８階）
備考	講義の内容が前後するなど変更等がある時は、可能な限り事前に伝える。 これまでの理解度を測るための中間時点で提出を求める演習レポートについては、結果を公表し、正解率の低い問題については改めて説明する。

科目名	情報倫理	科目名（英文）	Information and Morals
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	ＡＢＣＤＥＦ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤木　健史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1013a0		

授業概要・目的	社会における情報化は非常に速いスピードで浸透し、情報技術は我々の生活の中で欠かせないものとなっている。その一方で、インターネットを使用した犯罪や事件は後を絶たたず、利用者は被害者となるだけでなく、巧妙な手口から意図しないまま加害者となってしまうことさえある。こうした情報化社会における影の部分を踏まえて、さまざまなトラブル事例から組織や個人としてどのように情報倫理を考えるかを学び、インターネット犯罪に対して防止・対応できる能力を養っていく。
到達目標	インターネットやソーシャルメディアなどを使用するなかで、情報に接する際の倫理的な思考を養い、組織や個人としての行動規範を修得することができる。
授業方法と留意点	この授業は、講義とグループワークをセットで行う。講義を受けた後に事例研究を行い、グループワークで課題を発見する。次に、この課題に対する倫理観、防止・対応策を考え、レポートとしてまとめる。授業のなかでは、この内容を 2 回に分けて発表し、全体討論を行う。また，最終回には、情報倫理についての理解度を確認するテストを実施する。
科目学習の効果（資格）	IT パスポート試験、基本情報技術者試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	情報セキュリティとサイバー犯罪	・情報倫理の必要性 ・不正アクセス・なりすまし ・情報の改ざん ・クラウドサービスのリスク ・ネットウィルス・マルウェア ・レポート課題（講義内容穴埋め）	事前学習：なし 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
2	事例研究(1)	・グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査 ・レポート課題（グループワークによる討論・まとめ）	事前学習：グループワークに向けて要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
3	ソーシャルメディアと情報	・ネット時代のコミュニケーション ・ブログ・SNS・電子メール ・拡散と炎上 ・ネット依存・誹謗・中傷 ・ソーシャルゲーム ・レポート課題（講義内容穴埋め）	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
4	事例研究(2)	・グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査 ・レポート課題（グループワークによる討論・まとめ）	事前学習：グループワークに向けて要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
5	個人情報管理とプライバシー保護	・個人情報の漏えい ・プライバシー侵害 ・組織と個人の守秘義務 ・レポート課題（講義内容穴埋め）	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
6	事例研究(3)	・グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査 ・レポート課題（グループワークによる討論・まとめ）	事前学習：グループワークに向けて要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
7	発表と全体討論	・提示テーマの資料作成および発表	事前学習：発表準備（2 時間） 事後学習：なし
8	E-commerce（電子商取引）	・電子決済・取引 ・個人情報のためのネット認証 ・ネット広告 ・ネットオークション・ショッピング ・売買トラブル（悪徳商法・詐欺） ・レポート課題（講義内容穴埋め）	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
9	事例研究(4)	・グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査 ・レポート課題（グループワークによる討論・まとめ）	事前学習：グループワークに向けて要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
10	企業における情報倫理	・コンプライアンスと法令遵守 ・事業と内部統制の両立 ・IT システムと企業倫理 ・レポート課題（講義内容穴埋め）	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
11	事例研究(5)	・グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査 ・レポート課題（グループワークによる討論・まとめ）	事前学習：グループワークに向けて要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
12	科学技術と情報倫理･知的財産権	・知的財産の侵害 ・著作物と著作権 ・参考文献と引用 ・マルチメディアコンテンツの複製 ・レポート課題（講義内容穴埋め）	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
13	事例研究(6)	・グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査 ・レポート課題（グループワークによる討論・まとめ）	事前学習：グループワークに向けて要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
14	発表と全体討論	・提示テーマの資料作成および発表	事前学習：発表準備（2 時間） 事後学習：なし
15	まとめと理解の確認テスト	・総括	事前学習：レポート課題の復習（2 時間）

	・確認テスト	事後学習：なし	

関連科目	情報処理関連の基礎科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	事例でわかる情報モラル 30 テーマ	実教出版編修部	実教出版(株)
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ネット炎上対策の教科書	小林 直樹	日経 BP 社
2	情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー	高橋慈子、原田隆史ほか	技術評論社
3			

評価方法（基準）	平常点（出席態度、レポート課題）40%、発表(レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容)40%、理解の確認テスト 20%を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	この授業では、グループワークでの討論、提出課題の作成、発表など出席しなければ達成できないことが非常に多くあります。必ず、毎回授業に参加すること。
担当者の研究室等	11 号館 6 階 経営学部非常勤講師室
備考	課題やレポートについては，実施した次の授業で講評する。

科目名	情報倫理	科目名（英文）	Information and Morals
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	ＧＨＪＫＬＭＮ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤木　健史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1013a0		

授業概要・目的	社会における情報化は非常に速いスピードで浸透し、情報技術は我々の生活の中で欠かせないものとなっている。その一方で、インターネットを使用した犯罪や事件は後を絶たたず、利用者は被害者となるだけでなく、巧妙な手口から意図しないまま加害者となってしまうことさえある。こうした情報化社会における影の部分を踏まえて、さまざまなトラブル事例から組織や個人としてどのように情報倫理を考えるかを学び、インターネット犯罪に対して防止・対応できる能力を養っていく。
到達目標	インターネットやソーシャルメディアなどを使用するなかで、情報に接する際の倫理的な思考を養い、組織や個人としての行動規範を修得することができる。
授業方法と留意点	この授業は、講義とグループワークをセットで行う。講義を受けた後に事例研究を行い、グループワークで課題を発見する。次に、この課題に対する倫理観、防止・対応策を考え、レポートとしてまとめる。授業のなかでは、この内容を２回に分けて発表し、全体討論を行う。また，最終回には、情報倫理についての理解度を確認するテストを実施する。
科目学習の効果（資格）	IT パスポート試験、基本情報技術者試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	情報セキュリティとサイバー犯罪	・情報倫理の必要性 ・不正アクセス・なりすまし ・情報の改ざん ・クラウドサービスのリスク ・ネットウィルス・マルウェア ・レポート課題（講義内容穴埋め）	事前学習：なし 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
2	事例研究(1)	・グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査 ・レポート課題（グループワークによる討論・まとめ）	事前学習：グループワークに向けて要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
3	ソーシャルメディアと情報	・ネット時代のコミュニケーション ・ブログ・SNS・電子メール ・拡散と炎上 ・ネット依存・誹謗・中傷 ・ソーシャルゲーム ・レポート課題（講義内容穴埋め）	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
4	事例研究(2)	・グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査 ・レポート課題（グループワークによる討論・まとめ）	事前学習：グループワークに向けて要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
5	個人情報管理とプライバシー保護	・個人情報の漏えい ・プライバシー侵害 ・組織と個人の守秘義務 ・レポート課題（講義内容穴埋め）	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
6	事例研究(3)	・グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査 ・レポート課題（グループワークによる討論・まとめ）	事前学習：グループワークに向けて要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
7	発表と全体討論	・提示テーマの資料作成および発表	事前学習：発表準備（2 時間） 事後学習：なし
8	E-commerce（電子商取引）	・電子決済・取引 ・個人情報のためのネット認証 ・ネット広告 ・ネットオークション・ショッピング ・売買トラブル（悪徳商法・詐欺） ・レポート課題（講義内容穴埋め）	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
9	事例研究(4)	・グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査 ・レポート課題（グループワークによる討論・まとめ）	事前学習：グループワークに向けて要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
10	企業における情報倫理	・コンプライアンスと法令遵守 ・事業と内部統制の両立 ・IT システムと企業倫理 ・レポート課題（講義内容穴埋め）	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
11	事例研究(5)	・グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査 ・レポート課題（グループワークによる討論・まとめ）	事前学習：グループワークに向けて要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
12	科学技術と情報倫理･知的財産権	・知的財産の侵害 ・著作物と著作権 ・参考文献と引用 ・マルチメディアコンテンツの複製 ・レポート課題（講義内容穴埋め）	事前学習：次回の指定教材を通読し、要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
13	事例研究(6)	・グループワークによる課題発見、防止・対応策の調査 ・レポート課題（グループワークによる討論・まとめ）	事前学習：グループワークに向けて要点を整理しておく（30 分） 事後学習：レポート課題を完成する(1 時間)
14	発表と全体討論	・提示テーマの資料作成および発表	事前学習：発表準備（2 時間） 事後学習：なし
15	まとめと理解の確認テスト	・総括	事前学習：レポート課題の復習（2 時間）

		・確認テスト	事後学習：なし

関連科目	情報処理関連の基礎科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	事例でわかる情報モラル 30 テーマ	実教出版編修部	実教出版(株)
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ネット炎上対策の教科書	小林 直樹	日経 BP 社
2	情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー	高橋慈子、原田隆史ほか	技術評論社
3			

評価方法 （基準）	平常点（出席態度、レポート課題）40%、発表(レジュメの達成度、プレゼンテーション、討論の内容)40%、理解の確認テスト 20%を総合的に評価する。
学生への メッセージ	この授業では、グループワークでの討論、提出課題の作成、発表など出席しなければ達成できないことが非常に多くあります。必ず、毎回授業に参加すること。
担当者の 研究室等	11 号館 6 階 経営学部非常勤講師室
備考	課題やレポートについては，実施した次の授業で講評する。

科目名	人的資源管理論Ⅰ	科目名（英文）	Human Resources Management Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西之坊　穂
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2020a0		

授業概要・目的

［授業概要］

働き方が多様化した現代の企業経営において、人のマネジメントはますます重要な意義を有するようになっています。本講義では、「人のマネジメント」として人的資源管理の基本的な考え方を学ぶことによって、組織を活かし個人も活きるための知的・実践的スキルを身につけることを目指します。人的資源管理Ⅰでは、組織や戦略と人的資源管理の関わりなど人的資源管理の総論を中心に講義します。

なお、授業担当者の企業人事における実務経験を通じた解説および体験談を用いて説明することで、より深い学生の理解を促します。

［授業目的］

企業経営における人的資源とそのマネジメントに関する理解を深めることを目的としています。

到達目標

［到達目標］

①人的資源管理の基礎的な概念について理解できるようになる。

②組織と人に関わる経営現象について、人のマネジメントの視点から説明できるようになる。

授業方法と留意点

主として講義形式になります。必要に応じてパワーポイントやプリントを活用し、企業における人的資源管理の実態についても紹介します。

この授業を受講するには、経営学の基礎を理解していることが望まれます。

科目学習の効果（資格）

中小企業診断士、社会保険労務士

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	この講義の概要、進め方について説明します。	シラバスを読んできて下さい。
2	人的資源管理入門	「人を管理する」ということの意味を考えます。	事前課題：配付資料および教科書の第 1 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第 1 章を 1 時間程度読むこと
3	人間モデル	人はなぜなんのために働くのでしょうか。人事管理が対象としてきた人間観の変容について説明します。	事前課題：配付資料および教科書の第 2 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第 2 章を 1 時間程度読むこと
4	戦略的人的資源管理	企業の戦略と人的資源管理の関係について説明します。	事前課題：配付資料および教科書の第 3 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第 3 章を 1 時間程度読むこと
5	組織構造	組織・職場のデザインという観点から人的資源管理を検討します。	事前課題：配付資料および教科書の第 5 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第 5 章を 1 時間程度読むこと
6	リーダーシップ(1)	働く人のモチベーションを引き出す様々なリーダーシップの考え方を説明します。	事前課題：配付資料および教科書の第 7 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第 7 章を 1 時間程度読むこと
7	リーダーシップ(2)	自律型人材には、どういったリーダーシップが有効だと考えられるでしょうか。現代の人的資源管理の課題として検討します。	事前課題：配付資料および教科書の第 7 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第 7 章を 1 時間程度読むこと
8	LMX、フォロワーシップ	組織の成果はリーダーとフォロワーの相互作用のプロセスで生まれます。したがって、リーダーとフォロワーを 1 対 1 で見る LMX とリーダーに影響を与えるフォロワーについて説明します。	事前課題：配付資料を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料を 1 時間程度読むこと
9	組織コミットメントと心理的契約	コミットメントおよび心理的契約の内容を理解し、各々がどのように規定され（独立変数）、各々が何に影響を与えるのか（成果変数）について学びます。	事前課題：シラバスおよび教科書の第 8 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第 8 章を 1 時間程度読むこと
10	中間テスト	前回までの講義内容について中間テストを行います。テスト終了後、解説をします。	事前課題：これまでの配付資料および学習した教科書の章を 1 時間程度読むこと
11	雇用	人と職務のマッチングにはどのような種類があり、それぞれどのような特徴があるのかを学びます。また、グローバル化が進展している昨今、企業はどのような工夫をしているのか学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第 9 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第 9 章を 1 時間程度読むこと
12	評価	人事評価の目的は何でしょうか。また、誰が誰をどのように評価するのでしょうか。評価にはどのような種類があるのか等について学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第 11 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第 11 章を 1 時間程度読むこと

13	昇進・賃金	前回で学んだ評価は、昇進・昇格や賃金にどのように反映されるのでしょうか。また、それぞれにはどのような特徴や機能があるのかについて学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第 12, 13 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第 12, 13 章を 1 時間程度読むこと
14	労使関係、国際人的資源管理	労使関係は人的資源管理の中でどのような役割を担っているのでしょうか。また、グローバル化している現在、企業はこれまでと違ってどのような人的資源管理をしているのかについて学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第 14, 15 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第 14, 15 章を 1 時間程度読むこと
15	まとめ	これまでの学習内容を踏まえ、企業はどのような人的資源管理を行うべきなのか考えます。	事前課題：これまでの資料を 1 時間程度読むこと 事後学習：これまでの配付資料および学習したテキストの章を 1 時間程度読むこと

関連科目

経営学、経営管理論、経営組織論、経営戦略論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	人的資源管理	上林憲雄	中央経済社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	経験から学ぶ人的資源管理	上林憲雄他	有斐閣ブックス
2	入門人的資源管理	奥林康司他	中央経済社
3			

評価方法（基準）

中間テスト(30%)、定期試験（70%）で評価します。ただし、授業態度やグループワークの参加具合によって加点・減点をする場合があります。なお、出席が 8 割に満たないと単位を認めない場合がある。

学生へのメッセージ

人的資源管理論の対象は、「人」そのものです。そのため、講義を受けるにあたっては、日頃から組織と人間に対する関心を持ち続けることが何より大切になってきます。自分自身の感性も磨きながら、主体的に受講するようにしてください。

担当者の研究室等

11 号館 8 階(西之坊研究室)

備考

科目名	人的資源管理論Ⅱ	科目名（英文）	Human Resources Management II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西之坊　穂
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2021a0		

授業概要・目的	[授業概要] 現代の企業経営において、ヒトのマネジメントはますます重要な位置づけになっています。人的資源管理の中でも「採用」にフォーカスし、実在する企業の採用広報・学生への動機づけ・選考方法の企画立案を通じて人的資源管理の理解を促します。 なお、授業担当者の企業人事における実務経験を通じた解説および体験談を用いて説明することで、より深い学生の理解を促します。 [授業目的] 実在する企業の採用における広報・学生への動機づけ・選考方法の企画立案を通じてヒトのマネジメントに関する理解を深めることを目的としています。
到達目標	[到達目標] ①人的資源管理の基礎的な概念について理解できるようになる。 ②組織と人に関わる経営現象について、ヒトのマネジメントの視点から説明できるようになる。
授業方法と留意点	主としてグループワーク形式の授業です。人的資源管理論の中でも「採用」にフォーカスし、実在する企業の採用広報・学生への動機づけ・選考方法をグループ単位で企画立案し、当該企業の前でプレゼンテーションを行います。 この授業を受講するには、人的資源管理Ⅰ、経営学の単位を取得していることが望ましい。
科目学習の効果（資格）	中小企業診断士、社会保険労務士

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	この授業の概要と進め方について説明します。	シラバスを読んできてください
2	・グループおよび役割の決定 ・人的資源管理における企業の採用活動に関する講義(1)	グループを決め、グループ内でリーダーと出欠・評価係を決める。次に、企業における採用の位置づけと採用戦略を学習します。	事前課題：人的資源管理論Ⅰの教科書における「採用」の章を１時間程度読んでおくこと 事後課題：配付資料を１時間程度読むこと
3	企業の採用活動に関する講義(2)	企業における採用の位置づけと採用戦略を学習します。	事前課題：身近な人が勤めている企業の採用活動について１時間程度調査すること 事後課題：配付資料を１時間程度読んでおくこと
4	対象企業の割当と当該企業の分析方法解説	各グループに、どの企業を担当するのか割当てを行い、次回以降行うべき課題および講義の評価方法の説明を行います。また、最終発表会までのタイムスケジュールをリーダー中心に作成します。	事前課題：特徴的な採用活動を行っている企業を１時間程度調べてくること 事後課題：割り当てられた企業の研究を１時間程度行うこと
5	グループワーク(1)	リーダーを中心としてグループワークを行います。まず、スケジュール管理表を作成し、今後の活動計画をできるだけ詳細に作成します。	事前課題：リーダーが指示した調査および資料作成を１時間程度行うこと 事後課題：スケジュールの進捗を確認した上で、リーダーが指示した作業を１時間程度行うこと
6	グループワーク(2)	リーダーを中心としてグループワークを行います。講義終了前にリーダーは本日の進捗と課題を報告してください。また、リーダーは出欠とメンバー評価および根拠を授業担当者に報告する。	事前課題：リーダーが指示した調査および資料作成を１時間程度行うこと 事後課題：スケジュールの進捗を確認した上で、リーダーが指示した作業を１時間程度行うこと
7	グループワーク(3)	リーダーを中心としてグループワークを行います。講義終了前にリーダーは本日の進捗と課題を報告してください。また、リーダーは出欠とメンバー評価および根拠を授業担当者に報告する。	事前課題：リーダーが指示した調査および資料作成を１時間程度行うこと 事後課題：スケジュールの進捗を確認した上で、リーダーが指示した作業を１時間程度行うこと
8	グループワーク(4)	リーダーを中心としてグループワークを行います。講義終了前にリーダーは本日の進捗と課題を報告してください。また、リーダーは出欠とメンバー評価および根拠を授業担当者に報告する。	事前課題：リーダーが指示した調査および資料作成を１時間程度行うこと 事後課題：スケジュールの進捗を確認した上で、リーダーが指示した作業を１時間程度行うこと
9	グループワーク(5)	リーダーを中心としてグループワークを行います。講義終了前にリーダーは本日の進捗と課題を報告してください。また、リーダーは出欠とメンバー評価および根拠を授業担当者に報告する。	事前課題：リーダーが指示した調査および資料作成を１時間程度行うこと 事後課題：スケジュールの進捗を確認した上で、リーダーが指示した作業を１時間程度行うこと
10	グループワーク(6)	リーダーを中心としてグループワークを行います。講義終了前にリーダーは本日の進捗と課題を報告してください。また、リーダーは出欠とメンバー評価および根拠を授業担当者に報告する。	事前課題：リーダーが指示した調査および資料作成を１時間程度行うこと 事後課題：スケジュールの進捗を確認した上で、リーダーが指示した作業を１時間程度行うこと
11	グループワーク(7)	リーダーを中心としてグループワークを行います。講義終了前にリーダーは本日の進捗と課題を報告してください。また、リーダーは出欠とメンバー評価および根拠を授業担当者に報告する。	事前課題：リーダーが指示した調査および資料作成を１時間程度行うこと 事後課題：スケジュールの進捗を確認した上で、リーダーが指示した作業を１時間程度行うこと
12	グループワーク(8)	リーダーを中心としてグループワークを行います。講義終了前にリーダーは本日の進捗と課題を報告してください。また、リーダーは出欠とメンバー評価お	事前課題：リーダーが指示した調査および資料作成を１時間程度行うこと 事後課題：スケジュールの進捗を確認した上で、リ

		よび根拠を授業担当者に報告する。一と一緒に報告する。	ーダーが指示した作業を1時間程度行うこと
13	グループワーク(9)	リーダーを中心としてグループワークを行います。講義終了前にリーダーは本日の進捗と課題を報告してください。また、リーダーは出欠とメンバー評価および根拠を授業担当者に報告する。	事前課題：リーダーが指示した調査および資料作成を1時間程度行うこと 事後課題：スケジュールの進捗を確認した上で、リーダーが指示した作業を1時間程度行うこと
14	最終プレゼンテーション(1)	グループ別にプレゼンテーションを行い、評価を行います。	企業の方が評価に来る予定です
15	最終プレゼンテーション(2)	グループ別にプレゼンテーションを行い、評価を行います。	企業の方が評価に来る予定です

関連科目	人的資源管理Ⅰ、経営学、経営管理論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	採用学	服部泰宏	新潮選書
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	人的資源管理	上林憲雄	中央経済社
2	日本企業の採用革新	服部泰宏	中央経済社
3			

評価方法 （基準）	ワークへの貢献およびプレゼンテーションの内容(80%)、定期試験（20%）で評価します。 なお、継続したグループワークを行うため、出席重視の科目です。従って、出席または遅刻が2割を上回る場合は、単位を認めない場合があります。
学生への メッセージ	グループ別に特定企業の募集方法および選考手法の立案を行い、当該企業の前でプレゼンテーションを行います。したがって、「出席が大前提」の授業となります。
担当者の 研究室等	11号館8階(西之坊研究室)
備考	情報処理室を利用する関係から、定員を100名とします。

科目名	生産管理論	科目名（英文）	Production and Operations Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大田　住吉
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2023a0		

授業概要・目的	・学ぶのは、「戦略」です。企業ビジネスの視点から「ものづくり」にフォーカスし、その「戦略」を「ビジネス・スクール形式」で学びます。 ・主な学習テーマは、以下のとおりです。 ①「ものづくり」の戦略とは何か？　経営学部の学生にとって、なぜそれを学ぶことが必要なのか？ ②「ものづくり」を行う製造業は、日頃どんな課題を抱え、どのように解決しているのか？ ③「ものづくり」を行う製造業は、卸売業、小売業、サービス業とはどんな違いがあるのか？ ④「ものづくり」を、ビジネス戦略や企業の持続的成長にどう活かせば良いのか？ ・なお、この科目は、「実務経験のある教員による授業科目」です。民間企業、経済団体、シンクタンク等に通算 29 年間（生産管理部門含む）勤務し、また経営コンサルタント(中小企業診断士)として 150 社以上（うち製造業 90 社以上）の企業経営支援に携わった実務経験を活かし、アクティブラーニング（ケースメソッド形式）による実践的な授業を行います。
到達目標	・実社会で「戦力」として通用するビジネスリーダーを養成することが、この授業の到達目標です。 ・「ものづくり」とビジネス戦略の関連性について分析し、判断し、表現する、実践的な知識および能力を身につけることができます。 ・その到達目標をクリアできているか検証するため、毎回の授業においてケースメソッドによる個人作業、グループワーク、プレゼン、質疑応答等を実施し、その到達度合いを一人一人判定します。
授業方法と留意点	・この授業は、座学ではありません。授業の特徴は、以下のとおり。 ① 基本的な「ものづくり」の企業事例について、実際のビジネス現場で起きるケースメソッド（仮想企業による事例研究）を準備し、学生同士でディスカッションを行う「ビジネス・スクール形式」の授業です。 ② 毎回の授業においてグループ討議、プレゼン、質疑応答などを徹底的に繰り返し、明るく、楽しく、わかりやすく、学びます。 ③ グループメンバー、役割分担は定期的に交替し、自分の考えを主張するとともに、他人の考え方との違いを体感します。 ・なお、授業ではスマホ等を使ったキーワード検索等があります。教科書の他、スマホ等は必ず持参して下さい。
科目学習の効果（資格）	・販売士または中小企業診断士等の資格取得に向けた基礎知識の習得に効果があります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス　～この授業で何を学ぶのか？～	本科目の目的とテーマ、授業の進め方・ルール、成績評価基準等について説明します	＜予習＞ テキストを熟読し、分からない専門用語等は事前に調べておくように(1 時間)。 ＜復習＞ 「本日のポイント」の内容について、自分の「武器」として使えるようにまとめておいて下さい（1 時間)。
2	ケースメソッドⅠ： ものづくりをマネジメントする	企業事例研究：和菓子メーカーＳ社～①生産方法、生産形態、作業標準書～	＜予習＞ 教科書 p3-22(1 時間) ＜復習＞ 生産方法・形態の違い、作業標準書がなぜ必要か等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
3	同上②	企業事例研究：和菓子メーカーＳ社～②生産工程マネジメント～	＜予習＞ 教科書 p3-22(1 時間) ＜復習＞ 生産計画の遅れを生じさせる原因分析と、それが取引先にどれだけ迷惑をかけるのか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
4	同上③	企業事例研究：和菓子メーカーＳ社～③不良品発生とその解決策～	＜予習＞ 教科書 p3-22(1 時間) ＜復習＞ 1 個の不良品発生が生産工程全体にどんな影響を及ぼすのか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
5	同上④	企業事例研究：和菓子メーカーＳ社～④工程間のムダの排除～	＜予習＞ 教科書 p3-22(1 時間) ＜復習＞ 生産の進捗を遅らせる「揺らぎ」を解決するために何が必要か等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
6	同上⑤	企業事例研究：和菓子メーカーＳ社～⑤ロット生産と 1 個流し～	＜予習＞ 教科書 p3-22(1 時間) ＜復習＞ 製造業にとって、市場で生き残るための「ものづくり」とは何か等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
7	ケースメソッドⅡ： アジアの中で生き残れ！	企業事例研究：プリント基板メーカーＹ社～①企業の海外進出理由～	＜予習＞ 教科書 p23-38(1 時間) ＜復習＞ 業種や進出先によって理由が異なる点について復習し、まとめて下さい(1 時間)
8	同上②	企業事例研究：プリント基板メーカーＹ社～②国内回帰とマザー工場～	＜予習＞ 教科書 p23-38(1 時間) ＜復習＞ せっかく海外進出したのに、なぜ戻って来るのか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
9	同上③	企業事例研究：プリント基板メーカーＹ社～③ライン生産とセル生産～	＜予習＞ 教科書 p23-38(1 時間) ＜復習＞ 2 つの生産方法のメリット、デメリット、国際立地戦略における使い分けい等について復習し、まとめ

			て下さい(1 時間)
10	同上④	企業事例研究:プリント基板メーカーＹ社～④ライン生産のボトルネック～	＜予習＞ 教科書 p23-38(1 時間) ＜復習＞ ライン生産のボトルネックについて、実例と試算による検証等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
11	同上⑤	企業事例研究：プリント基板メーカーY 社～⑤アジアとの競争の中で生き残り戦略～	＜予習＞ 教科書 p23-38(1 時間) ＜復習＞ アジアとの競争の中で、生産の 3 要素をどのように戦略化すべきか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
12	ケースメソッドⅢ： 目指せ！「匠」のマネジメント	企業事例研究：食品調味料メーカーU 社～①力量進捗・判定表～	＜予習＞ 教科書 p39-56(1 時間) ＜復習＞ なぜ、力量進捗・判定表が必要なのか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
13	同上②	企業事例研究:プラスチック製造加工業 H 社～②従業員の労務管理と CSR～	＜予習＞ 教科書 p39-56(1 時間) ＜復習＞ 従業員の欠勤リスクと生産能力の社会的責任等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
14	同上③	企業事例研究:プラスチック製造加工業 H 社～③労災リスクと危険防止～	＜予習＞ 教科書 p39-56(1 時間) ＜復習＞ 労災リスクの実態と危険防止方法等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
15	同上④	～企業事例研究:プラスチック製造加工業 H 社～④コンタミネーションと食品表示～	＜予習＞ 教科書 p39-56(1 時間) ＜復習＞ 食品のアレルギーコンタミネーション管理方法と食品表示等について復習し、まとめて下さい(1 時間)

関連科目

ＣＳＲ経営論、企業論ほか

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	アクティブラーニング（ケースメソッド）授業テキスト　ものづくりと経営戦略[第 3 版]	大田住吉、佐々木公之	デザインエッグ社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	イラスト図解 工場のしくみ	松林光男、渡部弘	日本実業出版社
2	工場コストダウン事典	五十嵐瞭	日刊工業新聞社
3	現場のムダどり事典	山田日登志	日刊工業新聞社

評価方法（基準）

①グループワークへの貢献度合い(役割分担、ワーク作業、呼応発言内容等)（35%）
②制限時間内におけるプレゼン用シートの記載内容・分析力（15%）
③プレゼン力および質疑応答対応力（15%）
④毎回の授業における理解度チェック小テスト(30%)
⑤定期試験（論述式）(5%)
による総合評価。
ただし、①～④は、毎回の授業の都度採点し、集計します。

学生へのメッセージ

・通算 35 年間の民間企業等でのビジネス経験やコンサルティング経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！
・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。

担当者の研究室等

11 号館 7 階　大田住吉研究室

備考

・理解度チェック小テストの結果については、授業の中で適宜フィードバックします。

・事前事後学習は、各々概ね 60 分程度を目安に行って下さい。

科目名	税務会計論Ⅱ	科目名（英文）	Tax Accounting II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	呉　重和
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	金融証券取引所に株式を上場することで出資を行う上場会社（大企業）は，投資者の保護を目的とする金融証券取引法にもとづいた会計処理が行われる。一方で，株式を一般に公開することを目的としない中小企業は，会社法と税法にもとづいた会計処理が行われる。本講義では，「中小企業の会計に関する基本要領（以下，基本要領）」を用いて，中小企業に対して最低限求められる会計処理について学習する。特に，基本要領に優先し中小企業が採用すべき「中小企業の会計に関する指針（以下，中小指針）」や法人税法における会計処理と相違点なんどについても理解する。
到達目標	①　中小企業の経営者，経理担当者，管理者として最低限必要である基本要領の会計処理ができる。 ②　中小指針及び法人税法の会計処理の共通点と相違点について理解できる。 ③　日本の企業会計基準の体系について把握できる。
授業方法と留意点	本講義では，初回配布する「基本要領」を用いて，総論の 9 つの事項，14 の各論の中，7 つの各論の会計処理について学習する。毎回の講義では，事前に各テーマに関するレジュメが配布され，小テストに解答することで理解した内容を確認する。また，本講義では，中小企業に対して最低限求められる会計処理について学習するが，簿記入門レベルの会計知識が必要となる。受講者が簿記入門（企業簿記）を受講したことを前提とし，講義を行うことに注意してほしい。
科目学習の効果（資格）	中小企業診断士，税理士，簿記検定など，会計関連資格取得に必要な基礎知識を習得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	基本要領の概要	・基本要領の概要 ・資料配布	・配布資料と講義計画を確認する。(20 分) ・配布資料（基本要領）の目次を読んで確認する。(30 分)
2	総論	・基本要領の目的，対象，他会計基準との関係，留意事項 ・講義＋小テスト＋解答・解説	・基本要領の総論の 9 つの事項を読んでおく。(20 分) ・解答を用いて，小テストの内容を復習する。(30 分)
3	収益と費用の基本的な会計処理	・収益と費用の基本的な会計処理 ・講義＋小テスト＋解答・解説	・基本要領の各論 1 と解説を読んでおく。(20 分) ・解答を用いて，小テストの内容を復習する。(30 分)
4	資産と負債の基本的な会計処理	・資産と負債の基本的な会計処理 ・講義＋小テスト＋解答・解説	・基本要領の各論 2 と解説を読んでおく。(20 分) ・解答を用いて，小テストの内容を復習する。(30 分)
5	金銭債権と金銭債務①	・金銭債権と取得価額	・基本要領の次回の各論 3 と解説を読んでおく。(20 分) ・レジュメの練習問題の内容を復習する。(30 分)
6	金銭債権と金銭債務②	・金銭債務と債務額 ・講義＋小テスト＋解答・解説	・解答を用いて，小テストの内容を復習する。(30 分)
7	貸倒損失と貸倒引当金	・倒産と倒産の可能性 ・講義＋小テスト＋解答・解説	・基本要領の次回の各論 4 と解説を読んでおく。(20 分) ・解答を用いて，小テストの内容を復習する。(30 分)
8	有価証券①	・有価証券と取得原価	・基本要領の次回の各論 5 と解説を読んでおく。(20 分) ・レジュメの練習問題の内容を確認する。(30 分)
9	有価証券②	・有価証券の評価方法 ・講義＋小テスト＋解答・解説	・解答を用いて，小テストの内容を復習する。(30 分)
10	有価証券③	・有価証券の評価替え ・講義＋小テスト＋解答・解説	・解答を用いて，小テストの内容を復習する。(30 分) ・レジュメの練習問題の内容を復習する。(30 分)
11	中間テスト	・これまでの内容のまとめ＋中間テスト	・これまでの基本要領の内容，小テストおよびレジュメの練習問題の内容を復習する。(60 分) ・中間テストの問題で解けなかった部分を確認する。(60 分)
12	棚卸資産①	・棚卸資産と取得原価	・基本要領の次回の各論 6 と解説を読んでおく。(20 分) ・解答を用いて，小テストの内容を復習する。(30 分)
13	棚卸資産②	・棚卸資産の評価方法と評価基準 ・講義＋小テスト＋解答・解説	・解答を用いて，小テストの内容を復習する。(30 分)
14	経過勘定	・当期の損益と時期の損益 ・講義＋小テスト＋解答・解説	・基本要領の次回の各論 7 と解説を読んでおく。(20 分) ・解答を用いて，小テストの内容を復習する。(30 分)
15	まとめ	これまでの内容のまとめ	・これまでの配布資料を確認する（30 分） ・これまでの基本要領の内容，小テスト，レジュメの練習問題の内容を復習する。(60 分)

関連科目：簿記入門，財務会計論，管理会計論，会計情報分析論，企業分析（財務戦略ケース分析），経営財務論など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特に指定しないが、初回「中小企業の会計に関する基本要領」を配布する。また，各テーマについては，以下の参考書を反映し，毎回レジュメを配布する。		
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 最新中小企業会計論 / 河崎照行 / 中央経済社 2 / 中小企業の税務の仕事 / 飯田聡一郎 / 中央経済社 3 / 入門税務会計 / 谷川喜美江 / 税務経理協会
評価方法 （基準）	基準①：小テスト 30%＋中間テスト 30%＋定期試験 40%＝100% 基準②：小テスト 30%＋定期試験 70%＝100% + 小テスト：各テーマの会計処理に関する問題 + 中間テスト：総論から各論 5 までの会計処理に関する問題 + 定期試験：総論から各論 7 までの会計処理に関する問題 + 基準①と②の内，高い点数を基準として適用する。 + 出席率が全講義数の 3 分の 2 を満たさない場合，成績評価の対象外とする。
学生への メッセージ	中小企業会計論では，中小企業にとって最低限必要となる会計処理の知識を提供します。将来，中小企業の経営者，経理担当者，管理者としての活躍を希望される方はぜひ受講してもらいたいと思います。また，簿記入門などを受講された方は，複式簿記の内容が中小企業でどのように実践されているのかを確認できる機会になると思います。
担当者の 研究室等	11 号館 7 階
備考	テーマごとに実施される小テストは，実施後回収し，成績評価に反映します。解答については，講義内で解説し，復習が必要である小テストについては，解答を配布しますので，復習の材料として活用してください。中間テストについては 2 週間以内に採点した後，答案を返却しますので，定期試験に向けての復習の材料として活用してください。

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	A
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北　真収
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4○,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1054a0		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、ディスカッションへのの内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館８階　北　真収　研究室（相談時は事前に連絡してください）
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	杉本　篤信
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4○,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1054a0		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、ディスカッションへのの内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 6 階　杉本准教授室
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	C
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	岩坪　加紋
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4○,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1054a0		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、ディスカッションへのの内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館８階　岩坪教授室（相談時は事前に連絡してください）
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	D
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	三木　僚祐
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4○,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1054a0		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、ディスカッションへのの内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 7 階　三木准教授室
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	E
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	呉　重和
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4○,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1054a0		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、ディスカッションへのの内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 7 階　呉准教授室
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	F
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林　正浩
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4○,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1054a0		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、ディスカッションへのの内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 7 階　林教授室
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	G
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大田　住吉
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4○,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1054a0		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、ディスカッションへのの内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 7 階　大田教授室
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	H
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	畠山　俊宏
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4○,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1054a0		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、ディスカッションへのの内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 8 階　畠山講師室
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	J
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西之坊　穂
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4○,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1054a0		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、ディスカッションへのの内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 8 階　西之坊准教授室
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	L
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中　祥司
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4○,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1054a0		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、ディスカッションへのの内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 8 階　田中准教授室
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	M
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	高尾　裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4○,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1054a0		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、ディスカッションへのの内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 8 階　高尾教授室
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門基礎演習	科目名（英文）	Information Seminar
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	N
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	塚田　義典
ディプロマポリシー(DP)	DP3○,DP4○,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD1054a0		

授業概要・目的	専門基礎演習は、後続学年における専門教育に入るための導入的な授業です。専門基礎演習では、基礎教養としての文章力、読解力、コミュニケーション能力などの基本的能力をさらに向上させるとともに後続学年での専門教育を具体的にイメージでき、興味・関心を高め、目的意識をもって有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることを目的としています。２年次以降のゼミを選択する際に役立てるため、各先生方の専攻分野などゼミの概要を紹介することも予定している。
到達目標	大学生としての基本的能力をさらに向上させ、また経営学科の先生方および先生方の専門領域、関心事、最近の研究テーマなどを知ることを通じて、学科が提供する各科目の内容・特徴を概観し、自身の興味・関心を見出すことができる。
授業方法と留意点	少人数ゼミ形式での講義、グループワークによる課題の発見、資料収集・分析、レポートの作成・プレゼンテーション、ディスカッションなどをクラス制で行う。 演習には、毎回、必ず出席して、無断欠席・遅刻は謹んで下さい。やむを得ず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に担当教員まで連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	経営学部での専門教育に関心を高め、具体的なイメージが想起できるような雑誌・新聞記事、課題図書などを用いて、輪読、発表、討議などを体験する。これらを通じて、読解力、作文能力を身につけるとともに、社会で役立つコミュニケーション技法や、多面的で柔軟な思考方法を学習する。また、卒業後の進路と大学生活での目標とスケジュールなど各自が自覚し、有意義な学生生活を過ごせるよう支援する。例えば公務員試験対策、税理士や会計士試験対策、就職への心構え、大学院進学など、早い段階から準備できるよう相談にのり、適切なアドバイスを行う。 なお、初回の授業において、初年次教育ガイド（『FIRST YEAR STUDY GUIDE』）を用いて、大学生が身につけるべき研究倫理についても改めて指導する。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	平常点、すなわち授業への参加、課題へ取り組む姿勢、レポート・レジュメの達成度、プレゼンテーション、ディスカッションへのの内容等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 8 階　塚田講師室
備考	【学生へのメッセージ】 専門基礎演習は、大学における教育の目標を理解するとともに、多様な社会問題を捉え、考え、意見を述べ、さらに専門教育に進むための心構えをする場であり、将来の進路を模索する場として開講されている。専門基礎演習は、教員が学生の皆さんの個々の希望にできるだけ対応しながら実りある大学生活を送れるよう道筋を示すことをめざしています。必ず出席して下さい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	畠山　俊宏
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD4057a0		

授業概要・目的	企業経営について関心のあるテーマを選定し、経営学の理論を用いて分析して卒業論文を作成する。
到達目標	①論理的文章の作成スキルを習得する。 ②論理的思考力を習得する。 ③情報収集能力と情報分析能力を習得する。
授業方法と留意点	卒業論文の作成と最終発表会を行う。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各自でスケジュールを立てて卒業論文を作成する。適宜、ゼミ内での進捗報告とディスカッションを行い、内容を深めていく。提出を許可するまで定期的にゼミに出席して対面で指導を受けることが必要である。 尚、経営学分野に関連する不正防止のための研究倫理の習得にも引き続き努める。
関連科目	演習Ⅰ・Ⅱ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	最終発表会で発表したうえで、経営学部のルーブリックに基づいて卒業論文の内容（100%）で評価する。
学生へのメッセージ	ゼミの主役は教員ではなく学生である。「自ら考え行動する力」を身につけるために、主体的にゼミの活動に取り組んで欲しい。
担当者の研究室等	11 号館 8 階　畠山研究室
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	佐藤　正志
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD4057a0		

授業概要・目的	テーマ「経営者の研究・企業経営の歴史的研究（経営史)」 各自が興味ある経営者（企業家）の経営理念や企業の歴史的発展・現状についての研究をおこない、 卒業論文の作成をめざすゼミです。 加えて、卒業論文作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。 習得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒論を作成すること。
到達目標	卒論をまとめる作業を通して、さまざまな資料の分析方法、論文やレポートなどのテーマの設定、論述の仕方などの技術的能力を高める。
授業方法と留意点	企業家の経営活動が彼らが経営した企業の発展過程といかに関わったのか分析します。レベルが高くオリジナリティのある卒論執筆のために、関連論文や専門書などにあたり、深く研究していきます。 なお、卒論作成に当たって配慮すべき不正防止のための研究倫理について改めて指導します。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を踏まえ、論文作成に当たらなければなりません。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業内容】 卒論執筆の基本的な方法について全体的に説明し、個別指導を経て、各自締め切りまでに研究をまとめます。最終的な論文内容等の個別指導の後、卒論を完成させ、提出します。 （前期）　（１）卒業論文のテーマの確定と章立ての確認 （２）論文作成の関する具体的な方法（目次、内容の展開、資料収集・分析、文献引用など） についての指導・説明 （後期）　（１）論文執筆に関する個別指導（データベースの利用） （２）卒論内容の発表、質疑
関連科目	経営史

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	企業家に学ぶ日本経営史	宇田川勝	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	卒論内容で評価する。その際、研究の独自性（30%)、資料の適切な引用と分析(30%)、論理的展開(20%)、論文の完成度(20%)に関して基準を示し、その達成度についてルーブリック評価を行う。.
学生へのメッセージ	就活と卒論作成の時間が重なります。計画的・効率的な時間の使い方を行い、なるべく多くの参考文献を読みこなし、独創性のある論文を作成してもらいたいと思っています。
担当者の研究室等	11 号館 8 階
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	杉本　篤信
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD4057a0		

授業概要・目的	テーマ　日本経済の分析 　日本経済に関する様々な問題を分析するため、基本的な経済理論を身に付ける。そして以下のような目標を達成する。 （1）現状をよく知るために、新聞などを読む。 （2）理論的な知識をつけるために、多くの本を読む。 （3）論理的な思考をする。 （4）自分の考えを、口頭で発表する。 （5）形式の整った、内容のあるレポートを書く。
到達目標	形式と内容が伴った卒業研究を完成させる。 　充実した発表を行う。
授業方法と留意点	【授業内容】 [授業内容] 各自の卒業研究のテーマに関する発表。個人的な論文の指導。 [授業方法と留意点] 個人発表と討論。出席と授業中の発言などが、最も重視される。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	卒業研究の製作。加えて、卒業論文作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒論を作成すること。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	平常点、授業での取り組み、卒研レポート、報告などで総合的に評価。 （1）日本語として成立しているか？（2）内容の充実（3）文献リスト（4）過去の研究の総括（5）独自性が卒業研究の採点ポイントとなる（詳細は経営学部のルーブリック評価に従う） 具体的採点基準は授業中にお知らせします。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	【学生へのメッセージ】 上にも書いたように、できるだけ多くの本を読むようにしてほしい。基本的知識をつけることは、どのような分野を勉強するにも大事なことである。また自分の考えをまとめ、人に伝える技量をつけてほしい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	西之坊　穂
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD4057a0		

授業概要・目的	卒業研究テーマに関連する経営現象について、今まで学んできた経営学の諸理論・諸概念を用いながら分析し、卒業研究論文を執筆していきます。 自分自身で研究テーマを見つけ、文献・資料を収集し、研究テーマの理解を深めていきます。自分自身でしっかりと理解した内容をもとに、「論文」と呼ぶにふさわしい内容と形式を整えた卒業論文を完成させること。さらに、完成した卒業論文の内容を中間発表会および最終発表会でプレゼンテーションを行います。
到達目標	①課題と解決方法を自ら探究することを通して、主体性とクリティカル・シンキング力を養う。 ②他メンバーとのディスカッションを通してコミュニケーション能力を養う。 ③論文の正しい書き方やルールを学び、研究能力を養う。 ④研究倫理を養う。
授業方法と留意点	文献研究及び事例分析
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	[授業内容] 各自の研究テーマに沿って、文献、事例を分析していきます。 当該分野に関連する不正防止のための研究倫理についても、併せて取り上げ、教育・指導します。 [研究テーマ] 戦略、組織、人に関わる組織マネジメントの諸課題に取り組んでいきます。 [学習課題] 常に新聞や専門雑誌に目を通し、研究テーマに関わる経営現象をチェックしておきましょう。 なお、卒業論文の作成にあたって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を踏まえて卒業論文を作成すること。
関連科目	経営管理論、経営戦略論、経営組織論、人的資源管理論、組織行動論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	中間発表会 25%、最終発表会 50%、学部ルーブリックに基づいた評価を 25%の割合で評価する。 また、中間発表会および最終発表会では、それぞれ発表したところまでの卒業論文提出を必須とする。 なお、就職活動および慶弔関係以外でゼミの講義を８割以上出席しないと単位は認めない。
学生へのメッセージ	他メンバーとの意見交換を積極的に行い、切磋琢磨しながら卒業研究論文に取り組んでいきましょう。
担当者の研究室等	１１号館８階　西之坊研究室
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	高尾　裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD4057a0		

授業概要・目的	卒業研究は、演習（ゼミナール）の締め括りである。これまで学んだ会計学やコーポレート・ファイナイスの領域から、自身で研究テーマを見つけ、自身で文献・資料を収集し、研究テーマの理解を深め、自身の理解のもとに、「論文」と呼ぶにふさわしい内容と形式を整えた卒業論文を完成する。加えて、完成した卒業論文の内容をパワーポイントによって各自プレゼンする
到達目標	経営学部のルーブリック評価表に基づいて、論理的な内容をもち、形式の整った研究論文を仕上げる。 論文内容を他人に説明するプレゼン能力を身につける。 他人の報告について、質問・コメントすることのできる能力を身につける。
授業方法と留意点	卒業論文について、テーマの選択から、使用する資料、ストーリーなど、卒業論文完成に向けて、その都度、相談に応じ、進捗に沿った各段階での経過報告とプレゼンに対して個別指導する。 コツコツと少しずつ、着実に、卒業論文完成に向けて前進することが必要である。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	卒業論文のテーマに関しては、財務会計学・コーポレート・ファイナンスに含まれるものが望ましいが、特にこだわらない。企業ないし産業に関連するテーマであればよい。 卒業論文の完成と卒業論文発表会での口頭報告を目指して、割り当てられた日時に、経過報告・予備的なプレゼンを行い、今後の作業についての指導を受ける、という作業を繰り返す。 加えて、卒業論文の作成に際しての研究不正行為に改めて注意を促す。
関連科目	財務会計論、コーポレート・ファイナンス（経営財務論）、会計情報分析論（経営分析論）、企業分析（財務戦略ケース分析）など
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	卒業論文の内容と形式に関するルーブリック評価（50%）および卒業論文発表会での口頭報告の実施とその内容（５０%）
学生へのメッセージ	自ら、テーマを選定し、資料を収集し、形式を整えた論文の作成と報告という経験を通じて、自立した社会人（会社人）となるための第一歩にしてほしい。
担当者の研究室等	高尾研究室（11 号館８階）
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	佐井　英子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD4057a0		

授業概要・目的	・3 年時後期から各自進めている企業分析をさらに進め、卒業論文を完成させる。また、実際の企業、経営、経済の動向について、会計領域に限定せずにその内容等を調べ、経営学全般の知識の修得に努めるとともに、社会人基礎力を身につける。加えて、不正防止のための研究倫理についても取り上げ、指導・教育する。
到達目標	・自分自身で、研究テーマを決める。何が分からないのか、何を調べたいのか、明らかにしたいのか、問題意識を明確に持つ。 ・研究のプロセス管理がきちんとできる。 ・研究内容を論文として書き上げる。 ・研究内容を、他人に分かりやすく説明、プレゼンできる。 ・卒業後の自らの学びの糧となるものを修得する。
授業方法と留意点	基本的には、各自の進捗度の沿った個人指導が中心となるが、全員で中間発表、最終発表を行う卒業論文の経過発表を行い、必要に応じて修正、加筆を行う。 卒業論文完成後にゼミで発表会を開催する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	・各自のテーマにそって卒論を作成し、ゼミでプレゼンテーションを行う。 ・論文の内容はもちろんですが、そのまとめ方、論文の概要を分かりやすくまとめ、きちんと相手に伝わるようにプレゼンテーションができる、自分の意見をきちんと説明できるコミュニケーション能力の修得に努める。そのために、通常のゼミ室ではなく、プチテアトルで２，３，年次生の前でプレゼンテーションする機会を設ける。 ・実際の経営の現場を体験するために、校外学習（工場見学等）を実施する。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（演習の参加）と卒業論文を経営学部ルーブリック評価に基づき総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ゼミは、必ず出席し、積極的に参加してください。一方的に知識が与えられる場としてではなく、活発な討論を通じて教員もゼミ生も互いに切磋琢磨していける場としてゼミを考えています。
担当者の研究室等	11 号館８階
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	岩坪　加紋
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD4057a0		

授業概要・目的	金融・ファイナンスで扱う事象は、わたしたちの身の回りにある。端的に言えばお金に関する事で、財布の中の現金をはじめ、電子マネーやクレジットカード、銀行、証券会社、保険、国債、株式、資産運用、借入等々、延々と続くお金の通り道で起こる様々な事象を体系的に論じるのが学問としての金融・ファイナンスである。日頃の生活はもちろん、ビジネスとも密接な関係にある。本ゼミでは、そのようなお金に関する事象や問題を『研究・探究』し、金融・ファイナンスの考え方を修得するとともに、客観的な根拠に基づき主張する能力の修得を目的とする。
到達目標	金融・ファイナンスを中心とした経済・経営問題に関心を持ち、客観的視点から問題を把握し、解決する能力を身につけること
授業方法と留意点	学生による発表形式（プレゼンテーション）で進める。発表の準備をする人はいうまでもないが、聞き手の学生にも積極性を求める。問題意識に沿って資料収集と仮説設定を行い、他の学生との討論を通して問題解決の“コツ”を掴んで欲しい。年末には卒論報告会を開催し、ルーブリック評価基準に基づき卒論の評価を受ける。易きに流されれば、そのツケは必ず自分に跳ね返ってくると肝に銘じること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	卒業論文の完成に向けて、主として個人別に指導していく。年度末には学部主催の報告会があるので、それに向けた準備も行う。なお、卒業論文の作成に当って配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	日頃の学習状況と卒業論文については、経営学部のルーブリック評価を基準とし、これら結果を総合して評価する。
学生へのメッセージ	就職率が高くなったとはいえ、企業の採用スタンスは依然として厳しい。易きに流れるは世の常なれど、後悔するのは自分自身である。その点、覚悟願う。
担当者の研究室等	１１号館８階（岩坪教授室）
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	三木　僚祐
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD4057a0		

授業概要・目的	各自選定したテーマに基づいて作成していく卒業論文の指導を行う。卒業論文は、各自がテーマを設定し、文献・資料を収集し、論文を完成させていく。授業では、毎週交代で数人に卒業論文の中間報告をしてもらい、教員や他の受講生と意見交換をしながら、内容面・形式面の充実を図っていく。 並行して、各人の進捗状況に応じて、個別指導も行う。
到達目標	問題発見能力、論理的思考力および問題解決能力を身につける。
授業方法と留意点	卒業論文の作成に真摯に取り組み、４年間の大学生活の集大成となるような卒業論文を完成させてほしい。 また、1月上旬頃(予定)に卒業論文の発表会を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	卒業論文の完成度を高めていく。なお、卒業論文の作成に当たって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。ゼミ生は習得した不正防止のための研究倫理を十分に踏まえて卒業論文を作成すること。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	論文 80%、発表 20%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 7 階(三木准教授室)
備考	論文の評価は、経営学部のルーブリック評価基準表を用いて行う。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Senior Thesis
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	大田　住吉
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎,DP4◎,DP5◎		
科目ナンバリング	IDD4057a0		

授業概要・目的	・本授業は、学生の研究テーマにもとづき、卒業論文（以下、「卒論」）を作成します。授業の主役はあくまで学生です。学生自身が自らの研究計画（ロードマップ）と自己責任にもとづいて研究を遂行し、教員が指導・サポートします。 ・学生と十分な議論を行い、何が課題なのかについて、様々な資料をもとに徹底的に分析し、課題を抽出します。 ・とくに、企業経営や経営戦略に関する過去の事例研究を踏まえ、また今日的な外部および内部環境等を考慮した上で、新規性、進歩性、有用性に優れた卒論の完成を目指します。 ・なお、この科目は、「実務経験のある教員による授業科目」です。民間企業、経済団体、シンクタンク等に通算 29 年間勤務し、また経営コンサルタント(中小企業診断士)として 150 社以上の企業経営支援に携わった実務経験を活かし、実践的な授業を行います。
到達目標	・卒論を執筆し、完成させるだけでは目標到達ではありません。それを対外公表し、外部からの評価を受けることが最終到達目標です。 ・研究計画（ロードマップ）にもとづき、卒論完成までにどのような視点で研究を立案し、どのような手順で進めれば良いのか、その効果的な解決手法を習得します。
授業方法と留意点	・学生本人と十分な議論を行い、研究計画（ロードマップ）作成について指導します。 ・文献やネット情報だけでなく、実際のビジネス現場を視察するフィールドワーク調査を原則実施します。 ・なお、研究活動における不正防止のための研究倫理教育を併せて実施します。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	＜前期＞業種･業界先行研究① ＜後期＞個別企業比較①	＜前期＞ 文献、企業ヒアリング等により、業種・業界について先行研究の課題を明らかにします。 ＜後期＞ 個別企業 2～3 社について比較し、同じ業界の中でも個々の企業戦略の違いを明らかにします。	＜予習＞ 毎回必ず、次回までの作業内容、提出期限等を指示します。期限までに提出して下さい。(1 時間) ＜復習＞ 毎回の授業において、修正点、課題等を指示します。次回授業に向けた課題として取り組んで下さい(1 時間)
2	＜前期＞業種･業界先行研究② ＜後期＞個別企業比較②	＜前期＞ 文献、企業ヒアリング等により、業種・業界について先行研究の課題を明らかにします。 ＜後期＞ 個別企業 2～3 社について比較し、同じ業界の中でも個々の企業戦略の違いを明らかにします。	＜予習＞ 毎回必ず、次回までの作業内容、提出期限等を指示します。期限までに提出して下さい。(1 時間) ＜復習＞ 毎回の授業において、修正点、課題等を指示します。次回授業に向けた課題として取り組んで下さい(1 時間)
3	＜前期＞業種･業界先行研究③ ＜後期＞個別企業比較③	＜前期＞ 文献、企業ヒアリング等により、業種・業界について先行研究の課題を明らかにします。 ＜後期＞ 個別企業 2～3 社について比較し、同じ業界の中でも個々の企業戦略の違いを明らかにします。	＜予習＞ 毎回必ず、次回までの作業内容、提出期限等を指示します。期限までに提出して下さい。(1 時間) ＜復習＞ 毎回の授業において、修正点、課題等を指示します。次回授業に向けた課題として取り組んで下さい(1 時間)
4	＜前期＞業種･業界先行研究④ ＜後期＞個別企業比較④	＜前期＞ 文献、企業ヒアリング等により、業種・業界について先行研究の課題を明らかにします。 ＜後期＞ 個別企業 2～3 社について比較し、同じ業界の中でも個々の企業戦略の違いを明らかにします。	＜予習＞ 毎回必ず、次回までの作業内容、提出期限等を指示します。期限までに提出して下さい。(1 時間) ＜復習＞ 毎回の授業において、修正点、課題等を指示します。次回授業に向けた課題として取り組んで下さい(1 時間)
5	＜前期＞業種･業界先行研究⑤ ＜後期＞個別企業比較⑤	＜前期＞ 文献、企業ヒアリング等により、業種・業界について先行研究の課題を明らかにします。 ＜後期＞ 個別企業 2～3 社について比較し、同じ業界の中でも個々の企業戦略の違いを明らかにします。	＜予習＞ 毎回必ず、次回までの作業内容、提出期限等を指示します。期限までに提出して下さい。(1 時間) ＜復習＞ 毎回の授業において、修正点、課題等を指示します。次回授業に向けた課題として取り組んで下さい(1 時間)
6	＜前期＞業種･業界先行研究① ＜後期＞仮説と検証①	＜前期＞ 文献、企業ヒアリング等により、業種・業界について先行研究の課題を明らかにします。 ＜後期＞ 先行研究からどんな仮説を導いたのか、その仮説を個別企業でどのように検証したのかを明らかにします。	＜予習＞ 毎回必ず、次回までの作業内容、提出期限等を指示します。期限までに提出して下さい。(1 時間) ＜復習＞ 毎回の授業において、修正点、課題等を指示します。次回授業に向けた課題として取り組んで下さい(1 時間)
7	＜前期＞業種･業界先行研究① ＜後期＞仮説と検証②	＜前期＞ 文献、企業ヒアリング等により、業種・業界について先行研究の課題を明らかにします。 ＜後期＞先行研究からどんな仮説を導いたのか、その仮説を個別企業でどのように検証したのかを明らかにします。	＜予習＞ 毎回必ず、次回までの作業内容、提出期限等を指示します。期限までに提出して下さい。(1 時間) ＜復習＞ 毎回の授業において、修正点、課題等を指示します。次回授業に向けた課題として取り組んで下さい(1 時間)
8	＜前期＞業種･業界先行研究①	＜前期＞ 文献、企業ヒアリング等により、業種・	＜予習＞ 毎回必ず、次回までの作業内容、提出期限等を指示

	＜後期＞仮説と検証③	業界について先行研究の課題を明らかにします。 ＜後期＞ 先行研究からどんな仮説を導いたのか、その仮説を個別企業でどのように検証したのかを明らかにします。	します。期限までに提出して下さい。(1 時間) ＜復習＞ 毎回の授業において、修正点、課題等を指示します。次回授業に向けた課題として取り組んで下さい(1 時間)
9	＜前期＞業種・業界先行研究① ＜後期＞研究の背景、総括①	＜前期＞ 文献、企業ヒアリング等により、業種・業界について先行研究の課題を明らかにします。 ＜後期＞ 研究の目的・背景と執筆内容が合致しているか、結論として何が言えるのか等について明らかにします。	＜予習＞ 毎回必ず、次回までの作業内容、提出期限等を指示します。期限までに提出して下さい。(1 時間) ＜復習＞ 毎回の授業において、修正点、課題等を指示します。次回授業に向けた課題として取り組んで下さい(1 時間)
10	＜前期＞業種・業界先行研究① ＜後期＞研究の背景、総括②	＜前期＞ 文献、企業ヒアリング等により、業種・業界について先行研究の課題を明らかにします。 ＜後期＞ 研究の目的・背景と執筆内容が合致しているか、結論として何が言えるのか等について明らかにします。	＜予習＞ 毎回必ず、次回までの作業内容、提出期限等を指示します。期限までに提出して下さい。(1 時間) ＜復習＞ 毎回の授業において、修正点、課題等を指示します。次回授業に向けた課題として取り組んで下さい(1 時間)
11	＜前期＞業種・業界先行研究① ＜後期＞研究の背景、総括③	＜前期＞ 文献、企業ヒアリング等により、業種・業界について先行研究の課題を明らかにします。 ＜後期＞ 研究の目的・背景と執筆内容が合致しているか、結論として何が言えるのか等について明らかにします。	＜予習＞ 毎回必ず、次回までの作業内容、提出期限等を指示します。期限までに提出して下さい。(1 時間) ＜復習＞ 毎回の授業において、修正点、課題等を指示します。次回授業に向けた課題として取り組んで下さい(1 時間)
12	＜前期＞業種・業界先行研究① ＜後期＞研究の背景、総括④	＜前期＞ 文献、企業ヒアリング等により、業種・業界について先行研究の課題を明らかにします。 ＜後期＞ 研究の目的・背景と執筆内容が合致しているか、結論として何が言えるのか等について明らかにします。	＜予習＞ 毎回必ず、次回までの作業内容、提出期限等を指示します。期限までに提出して下さい。(1 時間) ＜復習＞ 毎回の授業において、修正点、課題等を指示します。次回授業に向けた課題として取り組んで下さい(1 時間)
13	＜前期＞業種・業界先行研究① ＜後期＞梗概、目次	＜前期＞ 文献、企業ヒアリング等により、業種・業界について先行研究の課題を明らかにします。 ＜後期＞ 梗概、目次を作成し、研究論文として完成させます。	＜予習＞ 毎回必ず、次回までの作業内容、提出期限等を指示します。期限までに提出して下さい。(1 時間) ＜復習＞ 毎回の授業において、修正点、課題等を指示します。次回授業に向けた課題として取り組んで下さい(1 時間)
14	＜前期＞業種・業界先行研究① ＜後期＞最終発表会①	＜前期＞ 文献、企業ヒアリング等により、業種・業界について先行研究の課題を明らかにします。 ＜後期＞ 卒業研究内容について、Power Point でプレゼンしてもらい、他のゼミ生からの質疑応答に回答してもらいます。	＜予習＞ 毎回必ず、次回までの作業内容、提出期限等を指示します。期限までに提出して下さい。(1 時間) ＜復習＞ 毎回の授業において、修正点、課題等を指示します。次回授業に向けた課題として取り組んで下さい(1 時間)
15	＜前期＞業種・業界先行研究① ＜後期＞最終発表会②	＜前期＞ 文献、企業ヒアリング等により、業種・業界について先行研究の課題を明らかにします。 ＜後期＞ 卒業研究内容について、Power Point でプレゼンしてもらい、他のゼミ生からの質疑応答に回答してもらいます。	＜予習＞ 毎回必ず、次回までの作業内容、提出期限等を指示します。期限までに提出して下さい。(1 時間) ＜復習＞ 毎回の授業において、修正点、課題等を指示します。次回授業に向けた課題として取り組んで下さい(1 時間)

関連科目

・企業論、CSR 経営論、生産管理論など。
・なお、研究テーマによっては、大学４年間で受講した全ての科目が関連します。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）

・毎回の事業における学生自身のプレゼン内容（40%）、研究計画の新規性・進歩性（30%）、研究成果の完成度（30%）による総合評価。
・ただし、毎回の授業の都度採点し、集計します。

学生へのメッセージ

・卒論は、大学４年間の学修総括であり、自身の研究成果物として一生残ります。
・「君の卒論のテーマは何か？」「どんな内容か？」－実社会においてそう聞かれた時、胸を張って答えられるような卒論を教員やゼミ仲間と一緒になって完成させましょう！

担当者の研究室等

11 号館 7 階　大田住吉研究室

備考

科目名	中小企業会計論	科目名（英文）	Accounting for Small and Medium-Sized Entites
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	呉　重和
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD3041a0		

授業概要・目的	金融証券取引所に株式を上場することで出資を行う上場会社（大企業）は，投資者の保護を目的とする金融証券取引法にもとづいた会計処理が行われる。一方で，株式を一般に公開することを目的としない中小企業は，会社法と税法にもとづいた会計処理が行われる。本講義では，「中小企業の会計に関する基本要領（以下，基本要領）」を用いて，中小企業に対して最低限求められる会計処理について学習する。特に，基本要領に優先し中小企業が採用すべき「中小企業の会計に関する指針（以下，中小指針）」や法人税法における会計処理と相違点なんどについても理解する。
到達目標	①　中小企業の経営者，経理担当者，管理者として最低限必要である基本要領の会計処理ができる。 ②　中小指針及び法人税法の会計処理の共通点と相違点について理解できる。 ③　日本の企業会計基準の体系について把握できる。
授業方法と留意点	本講義では，初回配布する「基本要領」を用いて，総論の 9 つの事項，14 の各論の中，7 つの各論の会計処理について学習する。毎回の講義では，事前に各テーマに関するレジュメが配布され，小テストに解答することで理解した内容を確認する。また，本講義では，中小企業に対して最低限求められる会計処理について学習するが，簿記入門レベルの会計知識が必要となる。受講者が簿記入門（企業簿記）を受講したことを前提とし，講義を行うことに注意してほしい。
科目学習の効果（資格）	中小企業診断士，税理士，簿記検定など，会計関連資格取得に必要な基礎知識を習得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	基本要領の概要	・基本要領の概要 ・資料配布	・配布資料と講義計画を確認する。(20 分) ・配布資料（基本要領）の目次を読んで確認する。(30 分)
2	総論	・基本要領の目的，対象，他会計基準との関係，留意事項 ・講義＋小テスト＋解答・解説	・基本要領の総論の 9 つの事項を読んでおく。(20 分) ・解答を用いて，小テストの内容を復習する。(30 分)
3	収益と費用の基本的な会計処理	・収益と費用の基本的な会計処理 ・講義＋小テスト＋解答・解説	・基本要領の各論 1 と解説を読んでおく。(20 分) ・解答を用いて，小テストの内容を復習する。(30 分)
4	資産と負債の基本的な会計処理	・資産と負債の基本的な会計処理 ・講義＋小テスト＋解答・解説	・基本要領の各論 2 と解説を読んでおく。(20 分) ・解答を用いて，小テストの内容を復習する。(30 分)
5	金銭債権と金銭債務①	・金銭債権と取得価額	・基本要領の次回の各論 3 と解説を読んでおく。(20 分) ・レジュメの練習問題の内容を復習する。(30 分)
6	金銭債権と金銭債務②	・金銭債務と債務額 ・講義＋小テスト＋解答・解説	・解答を用いて，小テストの内容を復習する。(30 分)
7	貸倒損失と貸倒引当金	・倒産と倒産の可能性 ・講義＋小テスト＋解答・解説	・基本要領の次回の各論 4 と解説を読んでおく。(20 分) ・解答を用いて，小テストの内容を復習する。(30 分)
8	有価証券①	・有価証券と取得原価	・基本要領の次回の各論 5 と解説を読んでおく。(20 分) ・レジュメの練習問題の内容を確認する。(30 分)
9	有価証券②	・有価証券の評価方法 ・講義＋小テスト＋解答・解説	・解答を用いて，小テストの内容を復習する。(30 分)
10	有価証券③	・有価証券の評価替え ・講義＋小テスト＋解答・解説	・解答を用いて，小テストの内容を復習する。(30 分) ・レジュメの練習問題の内容を復習する。(30 分)
11	中間テスト	・これまでの内容のまとめ＋中間テスト	・これまでの基本要領の内容，小テストおよびレジュメの練習問題の内容を復習する。(60 分) ・中間テストの問題で解けなかった部分を確認する。(60 分)
12	棚卸資産①	・棚卸資産と取得原価	・基本要領の次回の各論 6 と解説を読んでおく。(20 分) ・解答を用いて，小テストの内容を復習する。(30 分)
13	棚卸資産②	・棚卸資産の評価方法と評価基準 ・講義＋小テスト＋解答・解説	・解答を用いて，小テストの内容を復習する。(30 分)
14	経過勘定	・当期の損益と時期の損益 ・講義＋小テスト＋解答・解説	・基本要領の次回の各論 7 と解説を読んでおく。(20 分) ・解答を用いて，小テストの内容を復習する。(30 分)
15	まとめ	これまでの内容のまとめ	・これまでの配布資料を確認する（30 分） ・これまでの基本要領の内容，小テスト，レジュメの練習問題の内容を復習する。(60 分)

関連科目：簿記入門，財務会計論，管理会計論，会計情報分析論，企業分析（財務戦略ケース分析），経営財務論など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特に指定しないが、初回「中小企業の会計に関する基本要領」を配布する。また，各テーマについては，以下の参考書を反映し，毎回レジュメを配布する。		
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 最新中小企業会計論 / 河崎照行 / 中央経済社 2 / 中小企業の税務の仕事 / 飯田聡一郎 / 中央経済社 3 / 入門税務会計 / 谷川喜美江 / 税務経理協会
評価方法 （基準）	基準①：小テスト 30%＋中間テスト 30%＋定期試験 40%＝100% 基準②：小テスト 30%＋定期試験 70%＝100% + 小テスト：各テーマの会計処理に関する問題 + 中間テスト：総論から各論 5 までの会計処理に関する問題 + 定期試験：総論から各論 7 までの会計処理に関する問題 + 基準①と②の内，高い点数を基準として適用する。 + 出席率が全講義数の 3 分の 2 を満たさない場合，成績評価の対象外とする。
学生への メッセージ	中小企業会計論では，中小企業にとって最低限必要となる会計処理の知識を提供します。将来，中小企業の経営者，経理担当者，管理者としての活躍を希望される方はぜひ受講してもらいたいと思います。また，簿記入門などを受講された方は，複式簿記の内容が中小企業でどのように実践されているのかを確認できる機会になると思います。
担当者の 研究室等	11 号館 7 階
備考	テーマごとに実施される小テストは，実施後回収し，成績評価に反映します。解答については，講義内で解説し，復習が必要である小テストについては，解答を配布しますので，復習の材料として活用してください。中間テストについては 2 週間以内に採点した後，答案を返却しますので，定期試験に向けての復習の材料として活用してください。

科目名	ビジネス情報処理Ⅰ	科目名（英文）	Business Information Processing Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本　はる美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1010a0		

授業概要・目的	コンピュータとネットワークを利用して、課題やレポートを作成するために必要となる情報活用能力を習得する。本科目では、Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信する能力や情報セキュリティに関するさまざまな知識・技術を学び、ビジネスの場面で求められる情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、コンピュータを目的に応じて利用できるようになるための基礎的な知識と技術を修得することができる。本授業では、コンピュータの機能を知るとともに、情報セキュリティ、Word を用いた文書作成、PowerPoint を用いたプレゼンテーション資料作成に関する技能を身につけることができる。
授業方法と留意点	パソコンを使った実習形式を中心とした授業を行い、適宜学生によるプレゼンテーション、相互評価を取り入れる。履修に際してパソコン活用に関する予備知識は特に必要としないが、実習の習熟度にはかなりの個人差があるので、各自必ず復習すること。
科目学習の効果（資格）	IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	基礎的な技術の確認、パソコンの概要と日本語変換	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
2	インターネットの活用とセキュリティ（1）	インターネット環境と情報検索	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
3	インターネットの活用とセキュリティ（2）	インターネットの光と影	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
4	パソコンの活用（1）	ファイルとフォルダーの操作、フリーソフトの活用	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
5	パソコンの活用（2）	アプリケーションの利用	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
6	文書作成（1）	Word の基礎知識、文書作成・編集・保存	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
7	文書作成（2）	文書のスタイル、図・表の挿入	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
8	前半のまとめ、学力診断テスト	前半のまとめ、確認テストと解説	前半の内容を復習しておく（90 分） タイピング練習（5 分）
9	文書作成応用（1）	表現力アップのための応用技術１、オブジェクトの処理	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
10	文書作成応用（2）	表現力アップのための応用技術２、応用操作	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
11	文書作成応用（3）	論文やレポート作成に必要な技術、文書作成のまとめ	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
12	プレゼンテーション（1）	PowerPoint の概要、スライド作成の基本	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
13	プレゼンテーション（2）	図表の挿入と編集、スライドの視覚効果、テーマ別スライド作成１	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
14	プレゼンテーション応用	テーマ別スライド作成２・相互評価、スライド作成のまとめ	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
15	前半のまとめ、学力診断テスト	後半のまとめ、確認テストと解説	後半の内容を復習しておく（90 分） タイピング練習（5 分）

関連科目	ＩＣＴ概論、ビジネス情報処理Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Windows10・Office2016 による情報処理入門	監修：高橋敏夫　執筆：安積淳、杉山靖彦、八野真弓	実教出版

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	授業中の演習課題（40%）、確認テスト（50%）、授業への取組姿勢（10%）をもとに総合的に評価する。 この授業は演習中心であるため、出席が単位取得の必要条件となる。
学生へのメッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の研究室等	11 号館 8 階(橋本講師室)
備考	確認テストは回収後、解答の解説を行います。また、授業中の課題は適宜コメントを返します。

科目名	ビジネス情報処理Ⅰ	科目名（英文）	Business Information Processing Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＧＨＪＫＬＭＮ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	塚田　義典
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1010a0		

授業概要・目的	コンピュータとネットワークを利用して、課題やレポートを作成するために必要となる情報活用能力を習得する。本科目では、Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信する能力や情報セキュリティに関するさまざまな知識・技術を学び、ビジネスの場面で求められる情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、コンピュータを目的に応じて利用できるようになるための基礎的な知識と技術を修得することができる。本授業では、コンピュータの機能を知るとともに、情報セキュリティ、Word を用いた文書作成、PowerPoint を用いたプレゼンテーション資料作成に関する技能を身につけることができる。
授業方法と留意点	パソコンを使った実習形式を中心とした授業を行い、適宜学生によるプレゼンテーション、相互評価を取り入れる。履修に際してパソコン活用に関する予備知識は特に必要としないが、実習の習熟度にはかなりの個人差があるので、各自必ず復習すること。
科目学習の効果（資格）	IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	基礎的な技術の確認、パソコンの概要と日本語変換	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
2	インターネットの活用とセキュリティ（1）	インターネット環境と情報検索	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
3	インターネットの活用とセキュリティ（2）	インターネットの光と影	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
4	パソコンの活用（1）	ファイルとフォルダーの操作、フリーソフトの活用	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
5	パソコンの活用（2）	アプリケーションの利用	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
6	文書作成（1）	Word の基礎知識、文書作成・編集・保存	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
7	文書作成（2）	文書のスタイル、図・表の挿入	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
8	前半のまとめ、学力診断テスト	前半のまとめ、確認テストと解説	前半の内容を復習しておく（90 分） タイピング練習（5 分）
9	文書作成応用（1）	表現力アップのための応用技術１、オブジェクトの処理	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
10	文書作成応用（2）	表現力アップのための応用技術２、応用操作	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
11	文書作成応用（3）	論文やレポート作成に必要な技術、文書作成のまとめ	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
12	プレゼンテーション（1）	PowerPoint の概要、スライド作成の基本	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
13	プレゼンテーション（2）	図表の挿入と編集、スライドの視覚効果、テーマ別スライド作成１	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
14	プレゼンテーション応用	テーマ別スライド作成２・相互評価、スライド作成のまとめ	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
15	前半のまとめ、学力診断テスト	後半のまとめ、確認テストと解説	後半の内容を復習しておく（90 分） タイピング練習（5 分）

関連科目	ＩＣＴ概論、ビジネス情報処理Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Windows10・Office2016 による情報処理入門	監修：高橋敏夫　執筆：安積淳、杉山靖彦、八野真弓	実教出版

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	授業中の演習課題（40%）、確認テスト（50%）、授業への取組姿勢（10%）をもとに総合的に評価する。 この授業は演習中心であるため、出席が単位取得の必要条件となる。
学生へのメッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の研究室等	11 号館 8 階(塚田講師室)
備考	確認テストは回収後、解答の解説を行います。また、授業中の課題は適宜コメントを返します。

科目名	ビジネス情報処理Ⅱ	科目名（英文）	Business Information Processing II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本　はる美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1011a0		

授業概要・目的	コンピュータとネットワークを利用して、Excel を用いたデータの加工、およびマクロを使った自動処理を習得する。本科目では、Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信するために必要で適切なデータの加工方法やマクロを使って処理を自動化する方法を学び、ビジネスの場面で求められる情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、コンピュータを目的に応じて利用できるようになるための基礎的な知識と技術を修得することができる。本科目では、Excel を用いた表計算の基本的な使い方から応用に関する技能を身につけることができる。
授業方法と留意点	ビジネス情報処理Ⅰ受講後の履修が望ましい。パソコンを使った実習形式を中心とした授業を行う。 分析結果や Excel マクロをグループで共有するなど相互に評価する機会を持つ。 パソコン活用に関する予備知識は特に必要としないが、実習の習熟度にはかなりの個人差があるので、各自必ず復習すること。
科目学習の効果（資格）	IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、Excel の基礎知識、データの入力・編集	タイピング練習（5 分） 授業の内容を復習しておく（30 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
2	表計算（1）	表の作成・編集、罫線の作成・編集	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
3	表計算（2）	グラフの種類と作成	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
4	表計算（3）	印刷設定、基本的な関数の利用	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
5	表計算応用（1）	相対参照と絶対参照、応用的な関数の利用	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
6	表計算応用（2）	Excel の応用利用１	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
7	表計算応用（3）	Excel の応用利用２（ピボットテーブルなど）	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
8	前半のまとめ、確認テスト	確認テストと解説	前半の内容を復習しておく（60 分） タイピング練習（5 分）
9	データベースの利用	Excel データベース	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
10	データ分析（1）	代表値について、データの整理	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストおよび配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分）
11	データ分析（2）	Excel を活用した様々な分析	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストおよび配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分）
12	Excel によるマクロの利用（1）	マクロを使った自動処理	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） マクロに関する指定した教材を確認する（30 分）
13	Excel によるマクロの利用（2）	マクロの応用１	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） マクロに関する指定した教材を確認する（30 分）
14	Excel によるマクロの利用（3）	マクロの応用２	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） マクロに関する指定した教材を確認する（30 分）
15	後半のまとめ、確認テスト	確認テストと解説	後半の内容を復習しておく（60 分） タイピング練習（5 分）

関連科目	ICT 概論、ビジネス情報処理Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Windows10・Office2016 による情報処理入門	監修：高橋敏夫　執筆：安積淳、杉山靖彦、八野真弓	実教出版

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	授業中の演習課題（40%）、確認テスト（50%）、授業への取組姿勢（10%）をもとに総合的に評価する。 この授業は演習中心であるため、出席が単位取得の必要条件となる。
学生へのメッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の研究室等	11 号館 8 階(橋本研究室)
備考	確認テストは回収後、解説する（場合によって、Moodle を使って解説を掲載することもある）

科目名	ビジネス情報処理Ⅱ	科目名（英文）	Business Information Processing II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＧＨＪＫＬＭＮ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	塚田　義典
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1011a0		

授業概要・目的	コンピュータとネットワークを利用して、Excel を用いたデータの加工、およびマクロを使った自動処理を習得する。本科目では、Windows パソコンとビジネスアプリケーションを用いた演習を通して、情報を表現・発信するために必要で適切なデータの加工方法やマクロを使って処理を自動化する方法を学び、ビジネスの場面で求められる情報処理に関する実践力を身につけることを目指す。
到達目標	コンピュータの動作を制御するオペレーティング・システムについて理解し、コンピュータを目的に応じて利用できるようになるための基礎的な知識と技術を修得することができる。本科目では、Excel を用いた表計算の基本的な使い方から応用に関する技能を身につけることができる。
授業方法と留意点	ビジネス情報処理Ⅰ受講後の履修が望ましい。パソコンを使った実習形式を中心とした授業を行う。 分析結果や Excel マクロをグループで共有するなど相互に評価する機会を持つ。 パソコン活用に関する予備知識は特に必要としないが、実習の習熟度にはかなりの個人差があるので、各自必ず復習すること。
科目学習の効果（資格）	IT パスポート試験、基本情報処理技術者試験などの IT 系の資格に関わる基本的事項について学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、Excel の基礎知識、データの入力・編集	タイピング練習（5 分） 授業の内容を復習しておく（30 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
2	表計算（1）	表の作成・編集、罫線の作成・編集	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
3	表計算（2）	グラフの種類と作成	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
4	表計算（3）	印刷設定、基本的な関数の利用	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
5	表計算応用（1）	相対参照と絶対参照、応用的な関数の利用	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
6	表計算応用（2）	Excel の応用利用１	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
7	表計算応用（3）	Excel の応用利用２（ピボットテーブルなど）	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
8	前半のまとめ、確認テスト	確認テストと解説	前半の内容を復習しておく（60 分） タイピング練習（5 分）
9	データベースの利用	Excel データベース	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストの該当箇所を読んでおく（30 分）
10	データ分析（1）	代表値について、データの整理	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストおよび配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分）
11	データ分析（2）	Excel を活用した様々な分析	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） テキストおよび配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分）
12	Excel によるマクロの利用（1）	マクロを使った自動処理	タイピング練習（5 分） 授業中に課した課題を進めておく（60 分） マクロに関する指定した教材を確認する（30 分）
13	Excel によるマクロの利用（2）	マクロの応用１	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） マクロに関する指定した教材を確認する（30 分）
14	Excel によるマクロの利用（3）	マクロの応用２	タイピング練習（5 分） 授業の内容をまとめた演習問題に解答する（60 分） マクロに関する指定した教材を確認する（30 分）
15	後半のまとめ、確認テスト	確認テストと解説	後半の内容を復習しておく（60 分） タイピング練習（5 分）

関連科目	ICT 概論、ビジネス情報処理Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Windows10・Office2016 による情報処理入門	監修：高橋敏夫　執筆：安積淳、杉山靖彦、八野真弓	実教出版

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	授業中の演習課題（40%）、確認テスト（50%）、授業への取組姿勢（10%）をもとに総合的に評価する。 この授業は演習中心であるため、出席が単位取得の必要条件となる。
学生へのメッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の研究室等	11 号館 8 階(橋本研究室)
備考	確認テストは回収後、解説する（場合によって、Moodle を使って解説を掲載することもある）

科目名	ビジネスプラン	科目名（英文）	Business Plan
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林　正浩
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	企業における戦略的経営手法、事業成長施策の基本的プロセスの考え方を学ぶと共に、チーム制による起業化シミュレーションを行います。 　シミュレーション（成果物）は、「創業事業計画書」と「資金繰り計画表（４期分）の作成です。最終回にて各チームのプレゼン発表を開催します。 【担当教員実務経歴】 ①金融機関（本部企画部経営企画・本店営業部融資与信審査業務） ②ベンチャー投資財団（企業投資業務） ③監査法人（株式上場コンサルティング） ④ベンチャー企業監査役兼務（複数社） ⑤文部科学省「EDGE-NEXT（ベンチャー創出）事業　実務担当者
到達目標	将来、企業におけるプロジェクトリーダー、プロジェクトデベロッパーを目指します。特に、昨今多く見られる企業内ベンチャーの創出、または新規事業プロジェクトの企画業務、製品企画等のノウハウとして役立ちます。
授業方法と留意点	チームを編成し、チーム別にベンチャー企業設立シミュレーション（演習）を行ういます。 各自、チーム内での役割に従い、チーム自治でディスカッションによる演習作業を進めてもらいます。したがって、欠席が多いと見込まれる学生は、チームメンバーへ負荷が掛かりますので履修にあたっては留意してください。
科目学習の効果（資格）	ニーズ嗜好での製品・商品企画力の養成。 販売市場分析能力。 組織の一員としての役割認識と遂行能力。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講座ガイダンス 事業プランニングとは？	講座ガイダンス（演習方法・評価方法） 事業計画策定の留意点および考え方。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事後＞ビジネスアイデアの提示（身の回りにある不具合を改善するための提案等）（1 時間）
2	ビジネスアイデア、コアコンピタンスの選定	チーム単位で検討するビジネスアイデア、コアコンピタンスの決定とチーム編成。 チーム内での各自役割分担。	＜事前＞ビジネスアイデアの提示（身の回りにある不具合を改善するための提案等）（1 時間） ＜事後＞チーム内での自身の役割に基づく考え方の整理（30 分）
3	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	＜事前＞ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査（30 分）。 ＜事後＞ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業（1 時間）。
4	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	＜事前＞ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査（30 分）。 ＜事後＞ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業（1 時間）。
5	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	＜事前＞ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査（30 分）。 ＜事後＞ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業（1 時間）。
6	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	＜事前＞ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査（30 分）。 ＜事後＞ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業（1 時間）。
7	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	＜事前＞ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査（30 分）。 ＜事後＞ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業（1 時間）。
8	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	＜事前＞ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査（30 分）。 ＜事後＞ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業（1 時間）。
9	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	＜事前＞ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査（30 分）。 ＜事後＞ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業（1 時間）。
10	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	＜事前＞ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査（30 分）。 ＜事後＞ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業（1 時間）。
11	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	＜事前＞ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査（30 分）。 ＜事後＞ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業（1 時間）。
12	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。 「創業事業計画書」・「資金繰り計画表」の提出・修正	＜事前＞チームでの成果物（創業事業計画書、資金繰り表）の提出（１時間：チーム単位） ＜事後＞プレゼンテーションデータの作成（１時間：チーム単位）
13	事業プランニングシミュレーション演習実施 プレゼンテーション事前練習	チーム単位でのプレゼンテーションデータの作成および修正	＜事前＞プレゼンデータの確認（１時間） ＜事後＞プレゼン発表練習（各自担当部分）（１時間）

14	プレゼン発表（1） （2～3 チーム）	各チーム単位でのベンチャー企業の事業プレゼンを実施 他チームプレゼン発表に対する質疑および相互評価	＜事前＞プレゼン練習（1 時間）。 ＜事後＞審査による指摘点の検討（1 時間）]。
15	プレゼン発表（2） （2～3 チーム）	各チーム単位でのベンチャー企業の事業プレゼンを実施 他チームプレゼン発表に対する質疑および相互評価	＜事前＞プレゼン練習（1 時間）。 ＜事後＞審査による指摘点の検討（1 時間）]。

関連科目

ベンチャービジネス論、ビジネスインターンシップⅠ・II

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

①プレゼン発表によるチーム単位での評価（評価割合：６0%）
「事業計画書」「資金繰り表」「プレゼンデータ」等の提出期限厳守を基準として評価します。
なお、他チームの発表後、積極的に質問し自らも理解を深める者は加点評価とします。
②最終レポート（評価割合：４0%）
チーム単位での自身における役割の遂行度の自己評価、および当該演習（シミュレーション）により企業内人材として何を得られたのか、など授業習得度に対する評価。

学生へのメッセージ

通常の大学講義では得られない貴重な体験をしてもらいたい。
就活の面接時における有効な武器（履修実績）として活用してもらいたい。

担当者の研究室等

１１号館７階　林研究室

備考

必須ではありませんが、自身のノートパソコン持参での履修が可能な学生を望みます。
「簿記」を履修した学生の参加を多く望みます。

科目名	ビジネスプランニング	科目名（英文）	Business Planning
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林　正浩
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD3040a0		

授業概要・目的	企業における戦略的経営手法、事業成長施策の基本的プロセスの考え方を学ぶと共に、チーム制による起業化シミュレーションを行います。 　シミュレーション（成果物）は、「創業事業計画書」と「資金繰り計画表（４期分）の作成です。最終回にて各チームのプレゼン発表を開催します。 【担当教員実務経歴】 ①金融機関（本部企画部経営企画・本店営業部融資与信審査業務） ②ベンチャー投資財団（企業投資業務） ③監査法人（株式上場コンサルティング） ④ベンチャー企業監査役兼務（複数社） ⑤文部科学省「EDGE-NEXT（ベンチャー創出）事業　実務担当者
到達目標	将来、企業におけるプロジェクトリーダー、プロジェクトデベロッパーを目指します。特に、昨今多く見られる企業内ベンチャーの創出、または新規事業プロジェクトの企画業務、製品企画等のノウハウとして役立ちます。
授業方法と留意点	チームを編成し、チーム別にベンチャー企業設立シミュレーション（演習）を行ういます。 各自、チーム内での役割に従い、チーム自治でディスカッションによる演習作業を進めてもらいます。したがって、欠席が多いと見込まれる学生は、チームメンバーへ負荷が掛かりますので履修にあたっては留意してください。
科目学習の効果（資格）	ニーズ嗜好での製品・商品企画力の養成。 販売市場分析能力。 組織の一員としての役割認識と遂行能力。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講座ガイダンス 事業プランニングとは？	講座ガイダンス（演習方法・評価方法） 事業計画策定の留意点および考え方。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事後＞ビジネスアイデアの提示（身の回りにある不具合を改善するための提案等）（1 時間）
2	ビジネスアイデア、コアコンピタンスの選定	チーム単位で検討するビジネスアイデア、コアコンピタンスの決定とチーム編成。 チーム内での各自役割分担。	＜事前＞ビジネスアイデアの提示（身の回りにある不具合を改善するための提案等）（1 時間） ＜事後＞チーム内での自身の役割に基づく考え方の整理（30 分）
3	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	＜事前＞ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査（30 分）。 ＜事後＞ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業（1 時間）。
4	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	＜事前＞ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査（30 分）。 ＜事後＞ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業（1 時間）。
5	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	＜事前＞ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査（30 分）。 ＜事後＞ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業（1 時間）。
6	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	＜事前＞ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査（30 分）。 ＜事後＞ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業（1 時間）。
7	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	＜事前＞ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査（30 分）。 ＜事後＞ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業（1 時間）。
8	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	＜事前＞ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査（30 分）。 ＜事後＞ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業（1 時間）。
9	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	＜事前＞ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査（30 分）。 ＜事後＞ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業（1 時間）。
10	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	＜事前＞ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査（30 分）。 ＜事後＞ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業（1 時間）。
11	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。	＜事前＞ネットや新聞等を活用したアイデアの事業化調査（30 分）。 ＜事後＞ディスカッションの内容整理と次回までの各自分担作業（1 時間）。
12	事業プランニングシミュレーション演習実施	チーム単位での事業化ディスカッション。 「創業事業計画書」・「資金繰り計画表」の提出・修正	＜事前＞チームでの成果物（創業事業計画書、資金繰り表）の提出（１時間：チーム単位） ＜事後＞プレゼンテーションデータの作成（１時間：チーム単位）
13	事業プランニングシミュレーション演習実施 プレゼンテーション事前練習	チーム単位でのプレゼンテーションデータの作成および修正	＜事前＞プレゼンデータの確認（１時間） ＜事後＞プレゼン発表練習（各自担当部分）（１時間）

14	プレゼン発表（1） （2～3 チーム）	各チーム単位でのベンチャー企業の事業プレゼンを実施 他チームプレゼン発表に対する質疑および相互評価	＜事前＞プレゼン練習（1 時間）。 ＜事後＞審査による指摘点の検討（1 時間）]。
15	プレゼン発表（2） （2～3 チーム）	各チーム単位でのベンチャー企業の事業プレゼンを実施 他チームプレゼン発表に対する質疑および相互評価	＜事前＞プレゼン練習（1 時間）。 ＜事後＞審査による指摘点の検討（1 時間）]。

関連科目

ベンチャービジネス論、ビジネスインターンシップⅠ・II

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

①プレゼン発表によるチーム単位での評価（評価割合：６0%）
「事業計画書」「資金繰り表」「プレゼンデータ」等の提出期限厳守を基準として評価します。
なお、他チームの発表後、積極的に質問し自らも理解を深める者は加点評価とします。
②最終レポート（評価割合：４0%）
チーム単位での自身における役割の遂行度の自己評価、および当該演習（シミュレーション）により企業内人材として何を得られたのか、など授業習得度に対する評価。

学生へのメッセージ

通常の大学講義では得られない貴重な体験をしてもらいたい。
就活の面接時における有効な武器（履修実績）として活用してもらいたい。

担当者の研究室等

１１号館７階　林研究室

備考

必須ではありませんが、自身のノートパソコン持参での履修が可能な学生を望みます。
「簿記」を履修した学生の参加を多く望みます。

科目名	ファイナンシャル・プランニング	科目名（英文）	Financial Planning
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	植杉　大
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	FP3 級取得レベルの知識の習得
到達目標	FP 技能士の資格試験は毎年５月・９月・１月に実施されますが、夏期休暇中の授業の復習を通じて、９月試験の合格を目指します。
授業方法と留意点	・原則的に講義形式です。 ・講義内で頻繁に問題演習を行います。 ・おおよそ講義２回に１回は確認テストを行います。成績評価にも関連しますので、確認テストは必ず受けるようにしてください。
科目学習の効果（資格）	FP3 級の取得、FP2 級の学習への予備的学習

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ファイナンシャル・プランニングとは何か	ファイナンシャルプランニングおよびファイナンシャルプランナー（以下 FP）に関する概要	特になし
2	ライフプランニングと資金計画（1）	ライフプランニングの考え方・手法	第 2 回の復習
3	ライフプランニングと資金計画（2）	公的年金制度	第 3 回の復習
4	ライフプランニングと資金計画（3）	ライフプラン策定上の資金計画	第 2 回から第 4 回までの復習（第 5 回に確認テスト①）
5	確認テスト①　＋　リスク管理（1）	生命保険	第 5 回の復習
6	リスク管理（2）	損害保険　第三の保険	第 5 回から第 6 回までの復習（第 7 回に確認テスト②）
7	確認テスト②　＋　金融資産運用（1）	各種経済指標　マーケット環境の理解 投資信託	第 7 回の復習
8	金融資産運用（2）	債券・株式　その他金融商品　金融資産に係る税金　ポートフォリオ運用	第 7 回から第 8 回までの復習（第 9 回に確認テスト③）
9	確認テスト③　＋　タックスプランニング（1）	所得税制度　各種所得①	第 9 回の復習
10	タックスプランニング（2）	各種所得②　所得税計算	第 9 回から第 10 回までの復習（第 11 回に確認テスト④）
11	確認テスト④　＋　不動産（1）	不動産の価格　不動産取引に係る法律 不動産登記	第 11 回の復習
12	不動産（2）	不動産に係る関連法規（都市計画法・建築基準法など）　不動産に係る税金	第 11 回から第 12 回までの復習（第 13 回に確認テスト⑤）
13	確認テスト⑤　＋　相続・事業承継（1）	贈与・相続制度	第 13 回の復習
14	相続・事業承継（2）	贈与・相続に係る税金	第 13 回から第 14 回までの復習（第 15 回に確認テスト⑥）
15	確認テスト⑥　＋　今後の学習について	期末テストについて 今後の FP 学習について	特になし

関連科目	金融論・地域金融論など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	確認テスト（計６回）60%、定期試験 40%
学生へのメッセージ	FP 試験の範囲は非常に広範ですが、それだけ幅広いファイナンスや経済学の学習が可能です。これまで学んだ事項を、現実の生活に応用するための基礎力を学ぶことができますので、資格取得を目指すきっかけとして積極的に参加してください。
担当者の研究室等	１号館７階　植杉教授室(経済学部)
備考	病欠その他都合により確認テストが受けられない場合には、理由を添えて、後日受けるようにしてください（もし受けないと、その回のテストは 0 点扱いとします）。 FP 試験は年間３回あります（5 月・9 月・1 月）ので、積極的に受験することを勧めます。

科目名	ファイナンスⅠ	科目名（英文）	Finance Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	ＡＢＣＤＥＦ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩坪　加紋
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2035a0		

授業概要・目的	好むと好まざるとにかかわらず、人は生きていく上でお金を利用する。働いてお金を受け取り、モノやサービスの消費に使う。また消費以外にも投資という形でお金に働かせる。さらに借入により消費や投資のお金を賄うこともある。ファイナンスとは端的に言えばお金の管理を意味し、学問としてのファイナンスとは消費や投資、借入に関わるお金をいかに管理すべきかを論じたものである。お金の管理と言えば企業のそれを想起するかもしれないが、個人や家計レベルでも重要である。たとえ今はその重要性が分からなくても、社会に出れば否応なくファイナンスの重要性を認識するようになる。本講義はそのようなファイナンスの基礎知識の修得を目的としている。 なお教員は、バブル経済の絶頂・崩壊前期を銀行渉外課員として過ごしたため、当時と現時との差異を考慮しつつ金融界の現実についても適宜言及する。
到達目標	１．金利や貨幣、リスクの初歩的知識を得ること ２．資金を借りるもしくは資産を運用する際の窓口である金融機関や借入・運用の場である金融市場の初歩的知識を習得すること ３．長期の資産運用に関する理論的な考え方が分かること
授業方法と留意点	講義は、期間前半は板書を主とし、後半は配布資料を用いながら進める。教科書は事前・事後学習教材として用いる。講義に臨むにあたって事前に指定箇所を熟読し、不明箇所を明確にし、適宜教員に質問すること。また、ノートや配布資料を元に復習し、不明な箇所を明確にし、適宜教員に質問すること。なお、理解度を確かめる目的で、できうる限り学生との対話しながら進めるので、恐れず恥ずかしがらずに受講して欲しい。
科目学習の効果（資格）	金融経済動向を考えるための基礎的能力が身につく。 FP 資格の基礎知識が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	ファイナンスⅠで学ぶ内容を概観する	特になし
2	ファイナンスの重要性	ライフイベントにおけるお金の問題について考えてもらい、解説も加える	配布プリントを元に復習のこと
3	お金（貨幣）とは	現代の貨幣（通貨）について解説し、貨幣と物価の関係について考察する	教科書第２章(pp.25-38)を事前に読んでおくこと。ノートを整理し復習し、不明箇所が無いか確認すること。 (1.5 時間)
4	お金と時間の仲介役：金利（１）	キャピタルゲインとインカムゲイン、単利と複利、実質利子率と名目利子率、利回り（収益率）、債券の残存期間と金利の関係等を解説する	教科書第３章(pp.39-48)を事前に読んでおくこと。ノートを整理し復習し、不明箇所が無いか確認すること。 (1 時間)
5	お金と時間の仲介役：金利（２）	債券価格の決定と金利の関係等を解説する	教科書第３章(pp.48-51)を事前に読んでおくこと。ノートを整理し復習し、不明箇所が無いか確認すること。 (1 時間)
6	代表的な金融市場	重要な指標の確認と、マーケットデータを読む際の注意点を述べる	教科書第３章(pp.51-56)を事前に読んでおくこと。配布プリントを整理し復習し、不明箇所が無いか確認すること。(1 時間)
7	金融商品	リスクや分散投資、金融商品の特徴を解説する	教科書第 12,13 章（pp.186-208）を事前に読んでおくこと。配布プリントを整理し復習し、不明箇所が無いか確認すること。(2 時間)
8	中間試験	前回までのまとめとして試験を行う	
9	金融システム概観	金融システムの役割や日本の金融システムについて解説する。なお、講義冒頭で前回中間試験について解説する。	教科書第 1,7 章（pp.9-19,105-106）を事前に読んでおくこと。配布プリントを整理し復習し、不明箇所が無いか確認すること。(1 時間)
10	日本の金融サービス業（１）	保険会社の機能や実態について解説する	教科書第 7,8 章（pp.105-106,124）を事前に読んでおくこと。配布プリントを整理し復習し、不明箇所が無いか確認すること。 こと（1 時間）
11	日本の金融サービス業（２）	銀行の機能や実態について解説する。また公的金融機関についても解説する。	教科書第 7,8 章（pp.106-123,131-136）を事前に読んでおくこと。配布プリントを整理し復習し、不明箇所が無いか確認すること。 (2 時間)
12	日本の金融サービス業（３）	証券会社、証券取引所、格付け機関等、株式や債券といった有価証券を取り扱う機関について解説する	教科書第 8 章（pp.124-131）を事前に読んでおくこと。配布プリントを整理し復習し、不明箇所が無いか確認すること。 (1 時間)
13	ファイナンスの基礎理論（１）	ポートフォリオ理論の前提となる期待収益率、リスク、投資機会集合について解説する	教科書第 14 章を事前に読んでおくこと（pp.217-221）。ノートを整理し復習し、不明箇所が無いか確認すること。 (2 時間)
14	ファイナンスの基礎理論（２）	ポートフォリオ理論の前提となる投資家の選好を解説し、資産運用の基礎を解説する	教科書第 14 章（pp.217-221）を事前に読んでおくこと。ノートを整理し復習し、不明箇所が無いか確認すること。 (1 時間)
15	ファイナンスの基礎理論（３）	現代ファイナンス論の基礎となる CAPM について言及の後、現代ファイナンス論の論点である効率的市場仮説やアノマリーについて述べる	教科書第 14 章（pp.221-224）を事前に読んでおくこと。ノートを整理し復習し、不明箇所が無いか確認すること。 (1 時間)

関連科目	経済学入門、ミクロ経済学、マクロ経済学、ファイナンスⅡ、コーポレートファイナンスⅠ,Ⅱ,

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	金融論　ベーシックプラス	家森信善	中央経済社

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	原則として中間試験(40%)と期末試験(60%) で評価する。ただし、学習意欲（注意：出席率ではない）の顕著な者については加点して評価する。詳しくは初回講義時に述べる。
学生へのメッセージ	人手不足と言われているものの、企業が学生に求める能力は以前にも増して高くなっている。単位を稼ぐためだけの受動的な受講姿勢ではなく、能力向上のための能動的な受講姿勢を希望する。
担当者の研究室等	１１号館８階（岩坪教授室）
備考	中間試験については結果を返却し解説を行う

科目名	ファイナンスⅠ	科目名（英文）	Finance Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	ＧＨＪＫＬＭ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩坪　加紋
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2035a0		

授業概要・目的	好むと好まざるとにかかわらず、人は生きていく上でお金を利用する。働いてお金を受け取り、モノやサービスの消費に使う。また消費以外にも投資という形でお金に働かせる。さらに借入により消費や投資のお金を賄うこともある。ファイナンスとは端的に言えばお金の管理を意味し、学問としてのファイナンスとは消費や投資、借入に関わるお金をいかに管理すべきかを論じたものである。お金の管理と言えば企業のそれを想起するかもしれないが、個人や家計レベルでも重要である。たとえ今はその重要性が分からなくても、社会に出れば否応なくファイナンスの重要性を認識するようになる。本講義はそのようなファイナンスの基礎知識の修得を目的としている。 なお教員は、バブル経済の絶頂・崩壊前期を銀行渉外課員として過ごしたため、当時と現時との差異を考慮しつつ金融界の現実についても適宜言及する。
到達目標	１．金利や貨幣、リスクの初歩的知識を得ること ２．資金を借りるもしくは資産を運用する際の窓口である金融機関や借入・運用の場である金融市場の初歩的知識を習得すること ３．長期の資産運用に関する理論的な考え方が分かること
授業方法と留意点	講義は、期間前半は板書を主とし、後半は配布資料を用いながら進める。教科書は事前・事後学習教材として用いる。講義に臨むにあたって事前に指定箇所を熟読し、不明箇所を明確にし、適宜教員に質問すること。また、ノートや配布資料を元に復習し、不明な箇所を明確にし、適宜教員に質問すること。なお、理解度を確かめる目的で、できうる限り学生との対話しながら進めるので、恐れず恥ずかしがらずに受講して欲しい。
科目学習の効果（資格）	金融経済動向を考えるための基礎的能力が身につく。 FP 資格の基礎知識が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	ファイナンスⅠで学ぶ内容を概観する	特になし
2	ファイナンスの重要性	ライフイベントにおけるお金の問題について考えてもらい、解説も加える	配布プリントを元に復習のこと
3	お金（貨幣）とは	現代の貨幣（通貨）について解説し、貨幣と物価の関係について考察する	教科書第２章(pp.25-38)を事前に読んでおくこと。ノートを整理し復習し、不明箇所が無いか確認すること。 (1.5 時間)
4	お金と時間の仲介役：金利（１）	キャピタルゲインとインカムゲイン、単利と複利、実質利子率と名目利子率、利回り（収益率）、債券の残存期間と金利の関係等を解説する	教科書第３章(pp.39-48)を事前に読んでおくこと。ノートを整理し復習し、不明箇所が無いか確認すること。 (1 時間)
5	お金と時間の仲介役：金利（２）	債券価格の決定と金利の関係等を解説する	教科書第３章(pp.48-51)を事前に読んでおくこと。ノートを整理し復習し、不明箇所が無いか確認すること。 (1 時間)
6	代表的な金融市場	重要な指標の確認と、マーケットデータを読む際の注意点を述べる	教科書第３章(pp.51-56)を事前に読んでおくこと。配布プリントを整理し復習し、不明箇所が無いか確認すること。(1 時間)
7	金融商品	リスクや分散投資、金融商品の特徴を解説する	教科書第 12,13 章（pp.186-208）を事前に読んでおくこと。配布プリントを整理し復習し、不明箇所が無いか確認すること。(2 時間)
8	中間試験	前回までのまとめとして試験を行う	
9	金融システム概観	金融システムの役割や日本の金融システムについて解説する。なお、講義冒頭で前回中間試験について解説する。	教科書第 1,7 章（pp.9-19,105-106）を事前に読んでおくこと。配布プリントを整理し復習し、不明箇所が無いか確認すること。(1 時間)
10	日本の金融サービス業（１）	保険会社の機能や実態について解説する	教科書第 7,8 章（pp.105-106,124）を事前に読んでおくこと。配布プリントを整理し復習し、不明箇所が無いか確認すること。 こと（1 時間）
11	日本の金融サービス業（２）	銀行の機能や実態について解説する。また公的金融機関についても解説する。	教科書第 7,8 章（pp.106-123,131-136）を事前に読んでおくこと。配布プリントを整理し復習し、不明箇所が無いか確認すること。 (2 時間)
12	日本の金融サービス業（３）	証券会社、証券取引所、格付け機関等、株式や債券といった有価証券を取り扱う機関について解説する	教科書第 8 章（pp.124-131）を事前に読んでおくこと。配布プリントを整理し復習し、不明箇所が無いか確認すること。 (1 時間)
13	ファイナンスの基礎理論（１）	ポートフォリオ理論の前提となる期待収益率、リスク、投資機会集合について解説する	教科書第 14 章を事前に読んでおくこと（pp.217-221）。ノートを整理し復習し、不明箇所が無いか確認すること。 (2 時間)
14	ファイナンスの基礎理論（２）	ポートフォリオ理論の前提となる投資家の選好を解説し、資産運用の基礎を解説する	教科書第 14 章（pp.217-221）を事前に読んでおくこと。ノートを整理し復習し、不明箇所が無いか確認すること。 (1 時間)
15	ファイナンスの基礎理論（３）	現代ファイナンス論の基礎となる CAPM について言及の後、現代ファイナンス論の論点である効率的市場仮説やアノマリーについて述べる	教科書第 14 章（pp.221-224）を事前に読んでおくこと。ノートを整理し復習し、不明箇所が無いか確認すること。 (1 時間)

関連科目	経済学入門、ミクロ経済学、マクロ経済学、ファイナンスⅡ、コーポレートファイナンスⅠ,Ⅱ,

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	金融論　ベーシックプラス	家森信善	中央経済社

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	原則として中間試験(40%)と期末試験(60%) で評価する。ただし、学習意欲（注意：出席率ではない）の顕著な者については加点して評価する。詳しくは初回講義時に述べる。
学生へのメッセージ	人手不足と言われているものの、企業が学生に求める能力は以前にも増して高くなっている。単位を稼ぐためだけの受動的な受講姿勢ではなく、能力向上のための能動的な受講姿勢を希望する。
担当者の研究室等	１１号館８階（岩坪教授室）
備考	中間試験については結果を返却し解説を行う

科目名	ファイナンスⅡ	科目名（英文）	Finance II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩坪　加紋
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2036a0		

授業概要・目的	本講義の目的は、ファイナンスⅠの知識をもとに、個人・家計レベルでのファイナンスに関する初歩的な実践力の修得にある。すなわち、「お金を借りる・返す」、「資産運用」について、可能な限り実践に則した事例や考え方について解説する。
到達目標	１．資金の借り入れを理解すること ２．資産の形成・運用に関する基礎的ではあるが実践的な考え方が分かること
授業方法と留意点	授業は配布資料と参考書を用い、講義と演習を併用して進める。講義に臨むにあたり、当日に用いる資料は前週講義にて配布するので予め目を通しておき、別途指示する方法で事前学習をしておくこと。なお、資料の再配布はしないので、紛失した場合や休んだ場合には出席者から資料を借り、コピーすること。 また、本講義の内容は極めて積み重ねの性質が強いため、休んだり分からないことがあると、のちの講義についてゆくのが難しくなる。もしも欠席した場合には、出席者から情報収集を行うこと。疑問点があれば遠慮なく教員に質問すること。 できうる限り学生と対話しながら進めるので、恐れず恥ずかしがらずに参加して欲しい。 なお教員は、バブル経済の絶頂・崩壊前期を銀行渉外課員として過ごしたため、当時と現時との差異を考慮しつつ金融界の現実について適宜言及する。
科目学習の効果（資格）	資金借入や資産形成・運用に関する初歩的かつ実践的な能力が身につく。 FP 資格の基礎知識が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	ファイナンス II で学ぶこと	特になし
2	お金の時間価値	機会費用、複利の効果、将来価値と現在価値	前週に配布の資料を読み、指定された方法で事前学習のこと。また理解の促進や不明な点を洗い出す目的で復習のこと。　（１時間）
3	資産と信用の管理	ライフイベントと金融商品、家計のバランスシート	前週に配布の資料を読み、指定された方法で事前学習のこと。また理解の促進や不明な点を洗い出す目的で復習のこと。（１時間）
4	住宅購入を考える	持ち家と賃貸住宅、持ち家の資金計画	前週に配布の資料を読み、指定された方法で事前学習のこと。また理解の促進や不明な点を洗い出す目的で復習のこと。（１時間）
5	資産運用の基礎知識（１）	不確実性とリスク、リスク指標、資産価格	前週に配布の資料を読み、指定された方法で事前学習のこと。また理解の促進や不明な点を洗い出す目的で復習のこと。（１時間）
6	資産運用の基礎知識（２）	現代ポートフォリオ理論	前週に配布の資料を読み、指定された方法で事前学習のこと。また理解の促進や不明な点を洗い出す目的で復習のこと。（１時間）
7	資産運用の基礎知識（３）	理論の限界、より実践へ	前週に配布の資料を読み、指定された方法で事前学習のこと。また理解の促進や不明な点を洗い出す目的で復習のこと。（１時間）
8	情報源と銘柄選び	情報収集の仕方	前週に配布の資料を読み、指定された方法で事前学習のこと。また理解の促進や不明な点を洗い出す目的で復習のこと。（１時間）
9	株式投資（１）	日本の株式市場、投資とトレード	前週に配布の資料を読み、指定された方法で事前学習のこと。また理解の促進や不明な点を洗い出す目的で復習のこと。（１時間）
10	株式投資（２）	資金管理	前週に配布の資料を読み、指定された方法で事前学習のこと。また理解の促進や不明な点を洗い出す目的で復習のこと。（１時間）
11	株式投資（３）	リスク管理	前週に配布の資料を読み、指定された方法で事前学習のこと。また理解の促進や不明な点を洗い出す目的で復習のこと。（１時間）
12	株式投資（４）	エッジについて	前週に配布の資料を読み、指定された方法で事前学習のこと。また理解の促進や不明な点を洗い出す目的で復習のこと。（１時間）
13	株式投資（５）	理論的根拠について	前週に配布の資料を読み、指定された方法で事前学習のこと。また理解の促進や不明な点を洗い出す目的で復習のこと。（１時間）
14	株式投資（６）	分析手法について	前週に配布の資料を読み、指定された方法で事前学習のこと。また理解の促進や不明な点を洗い出す目的で復習のこと。（１時間）
15	再考：資産運用	富裕層の資産運用、老後資金の計画	前週に配布の資料を読み、指定された方法で事前学習のこと。参考書の第 15、16 章を読んでおくこと。また理解の促進や不明な点を洗い出す目的で復習のこと。　（１時間）

関連科目：経済学入門、ミクロ経済学、マクロ経済学、コーポレートファイナンス I, II,

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	パーソナルファイナンス入門	榊原茂樹・城下賢吾・姜喜永・砂川伸幸	中央経済社
2			

	3			
評価方法 （基準）	原則としてレポート５回（40%）と期末試験(60%）で評価する。ただし、学習意欲（注意：出席率ではない）の顕著な者には加点して評価する。詳しくは初回講義時に述べる。			
学生への メッセージ	人手不足と言われているものの、企業が学生に求める能力は以前にも増して高くなっている。単位を稼ぐためだけの受動的な受講姿勢ではなく、能力向上のための能動的な受講姿勢を希望する。			
担当者の 研究室等	１１号館８階（岩坪教授室）			
備考	レポートの解説は文章として別途配布する			

科目名	ベンチャービジネス論	科目名（英文）	Venture Business
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林　正浩
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD3039a0		

授業概要・目的	新規事業の着想から，ビジネスモデルの構築，そして実際の起業に至るまでの諸課題や実務についての講義，並びに各界における起業経験者の体験談を聞き，起業の実際，事業の維持・継続と発展に不可欠な諸要素について学びます。 【担当教員実務経歴】 ①金融機関（本部企画部経営企画・本店営業部融資与信審査業務） ②ベンチャー投資財団（企業投資業務） ③監査法人（株式上場コンサルティング） ④ベンチャー企業監査役兼務（複数社）
到達目標	「起業」そのものを自身の将来の照準として身近に捉えられるよう、新規ビジネスの必要性について学び、将来の選択肢として自身のアイデアをビジネスに転換するための知恵を習得する起業家育成を目指します。
授業方法と留意点	毎回、当該授業内容に関するキーワードを記載した「講義メモ」と付属資料を配付します。 「講義メモ」のキーワードについては、授業後の復習として活用してください。 またスライドで説明した内容について、自身で「講義メモ」に必要な点のみを記載する、効率的で効果的なノートの取り方を身に付けてください（板書の習慣を変えてください）。 毎回、講義内容に関する質問（アンケート表）を配布します。講義終了時に提出してもらいます。
科目学習の効果（資格）	「起業」に必要な挑戦意欲の醸成と、起業アイデアの創出 企業就職後における製品企画、商品アイデアなどの創出ノウハウ 中小企業、ベンチャー企業の実態把握と自らの将来像の分析

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講座ガイダンス 起業家とは？	講座ガイダンス（勉強方法・評価方法） 起業家教育を受ける理由	＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
2	起業家の目指すべき方向性とその役割	事業化に至るまでの指針 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
3	起業家としての経営的視点と意思決定	トラブルシューターとしての起業家の役割 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
4	参入市場の環境分析能力	大手企業との関係と目指すべき市場の選定 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
5	ベンチャー企業における組織体制	起業から成熟企業に至るまでのガバナンス体制の維持 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
6	事業ドメインの設定と知財戦略	事業コアコンピタンスの重要性と科学的見地での探索 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
7	起業成長に必要な収益モデリング	起業家としての管理会計の考え方と株主対応 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
8	事業プランニングの考え方	創業事業計画書作成の意義と構築の考え方 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（各自）（1 時間）
9	起業家実体験談① 【外部講師】 マネックスグループ（株） 福島 健太　氏	ＩＴ系マーケティング調査企業の実態 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞講師企業についてネット等を活用した質問事項の用意（30 分）。 ＜事後＞授業で聴講したキーワードを調べることによる再認識（1 時間）
10	起業家実体験談? 【外部講師】 （株）Laft 代表取締役 CEO 古田 紀之　氏	サービス事業における起業。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞講師企業についてネット等を活用した質問事項の用意（30 分） ＜事後＞授業で聴講したキーワードを調べることによる再認識（1 時間）
11	起業家実体験談? 【外部講師】 株式会社Ｓ＆Ｆ PARTNERS 代表取締役社長 櫻木 翔太　氏	教育ビジネス起業の実態談 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞講師企業についてネット等を活用した質問事項の用意（30 分）。 ＜事後＞授業で聴講したキーワードを調べることによる再認識（1 時間）

12	起業支援機関業務の実態? 【外部講師】 日本政策金融公庫大阪創業支援センター 上席所長代理 向笠 大樹　氏	起業支援事業（金融支援） 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞講師機関についてネット等を活用した質問事項の用意（30 分）。 ＜事後＞授業で聴講したキーワードを調べることによる再認識（1 時間）
13	起業支援機関業務の実態? 【外部講師】 【前】中小企業基盤整備機構 【現】流通科学大学 商学部 長坂 泰之　氏	起業支援事業（行政支援） 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞講師機関（中小企業基盤整備機構）についてネット等を活用した質問事項の用意（30 分）。 ＜事後＞授業で聴講したキーワードを調べることによる再認識（1 時間）
14	起業支援機関業務の実態? 【外部講師】 大阪府商工労働部中小企業支援室ものづくり支援課産学官連携推進グループ 総括主査 椿野 将　氏	起業支援事業（中小企業支援）配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞講師機関についてネット等を活用した質問事項の用意（30 分）。 ＜事後＞授業で聴講したキーワードを調べることによる再認識（1 時間
15	事業継続ノウハウ	起業から成長段階に至るまでの事業継続措置の考え方 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（各自）（1 時間）

関連科目

ビジネスプランニング

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

①毎回のアンケート内の［設問１］に対する回答評価（評価割合：50%）
授業内容のお復習いとして設定してある設問について、授業から学んだ手法を用いた自身の考え方を評価します。またアンケート内の［設問２］（授業内容に関する質問および要望）について、積極的に質問または提案した場合は加点評価とします。なお、当該質問や要望については、次回以降の授業時に解説文を付けて一覧表にして学習者全員に資料配付します
②定期試験（評価割合：50%）
授業全般にわたっての課題を提示します。

学生へのメッセージ

自身の将来（やりたい事）が実現できるのか、自己分析を含め授業により認識してください。

【注意：外部講師の授業回について】
第９回～第１４回予定の外部講師の授業については、講師の都合等により開講回が変更となることがあります。
また外部講師に失礼の無い態勢で授業に臨んでください。

担当者の研究室等

１１号館７階　林研究室

備考

学生のうちに起業を目指したいと考えている学生は、自身のアイデアについて個別に相談してください。

科目名	簿記入門	科目名（英文）	Introduction to Bookkeeping
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦＧＨＪ
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	三木　僚祐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1004a0		

授業概要・目的	簿記とは、企業などの経済活動をお金の動きで捉え記録・整理する技術的な手法である。本講義では、簿記の基本的な仕組みから簿記一巡の手続きまでわかりやすく解説し、練習問題を多く解くことによって受講者が容易に理解し、簿記の基礎的能力を身に付けることを目的とする。
到達目標	簿記一巡の手続きを理解し、日商簿記３級試験に合格できる程度の知識を身に付ける。
授業方法と留意点	最初に講義形式で教科書に沿って説明し、練習問題を実際に各自で解いてみる。その後解答を確認しながら解説を行う。必要に応じて配布プリント等で補足説明する。なお、練習問題を解く際に、電卓が必要になるので、授業時には各自電卓を持参すること。また、学生の理解度に応じて進行を調整するので、授業計画を変更することがある。
科目学習の効果（資格）	日本商工会議所簿記検定、公認会計士試験、税理士試験を受験するためには必要不可欠な科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	簿記の基礎①	簿記の目的、貸借対照表、損益計算書	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
2	簿記の基礎②	取引と勘定	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
3	簿記の基礎③	仕訳と転記	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
4	簿記の基礎④	試算表	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
5	簿記の基礎⑤	決算の意味と手続き	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
6	簿記の基礎⑥	財務諸表の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
7	まとめ	第 1 回から第 6 回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(45 分)。 事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(45 分)。
8	現金・預金①	現金・現金過不足	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
9	現金・預金②	当座預金・当座借越・小口現金	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
10	商品売買	三分法と売上原価の算定	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
11	商品有高帳	先入先出法、移動平均法	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
12	売掛金・買掛金	売掛金元帳、買掛金元帳	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
13	貸し倒れと貸倒引当金	貸倒引当金の処理	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
14	手形	手形の処理、手形の裏書・割引	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
15	その他の債権・債務①	貸付金・借入金、未収金・未払金、前払金・前受金	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
16	その他の債権・債務②	立替金・預り金、仮払金・借受金、商品券、他店商品券	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
17	有価証券、固定資産	有価証券の購入・売却、固定資産の取得・減価償却・売却	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
18	資本金・引出金、税金	資本金と引出金、税金の記帳	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
19	まとめ	第 8 回から第 18 回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(45 分)。 事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(45 分)。
20	決算①	費用・収益の繰り延べ	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
21	決算②	費用・収益の見越し	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
22	決算③	試算表の作成 1(合計残高試算表の作成)	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
23	決算④	試算表の作成 2(合計残高試算の作成及び売掛金明細表・買掛金明細表の作成)	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
24	決算⑤	精算表の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
25	財務諸表の作成①	損益計算書の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
26	財務諸表の作成②	貸借対照表の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
27	伝票会計	伝票の起票、伝票の集計・管理	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
28	まとめ	第 20 回から第 27 回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(45 分)。 事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く

			(45 分)。
29	日商簿記検定問題①	仕訳、帳簿の問題	事前：教科書の仕訳、帳簿の問題を解く(60 分)。 事後：間違えた問題を再度解く(30 分)
30	日商簿記検定問題②	試算表、精算表の問題	事前：教科書の試算表、精算表の問題を解く(60 分)。 事後：間違えた問題を再度解く(30 分)

関連科目

財務諸表論入門、財務会計論、管理会計論等。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	最新段階式　日商簿記検定問題集　3 級　三訂版	渡辺正直　ほか	実教出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

学期末試験の結果により評価する。

学生へのメッセージ

簿記は借方・貸方などの専門用語があって最初はややこしく感じるかもしれませんが、慣れれば足し算・引き算のみで決して難しいものではありません。基本的な知識をしっかり身に付けて、簿記力を積み上げていきましょう。

担当者の研究室等

11 号館 7 階(三木准教授室)

備考

科目名	簿記入門	科目名（英文）	Introduction to Bookkeeping
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＫＬＭＮ
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	呉　重和
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1004a0		

授業概要・目的	簿記とは、企業などの経済活動をお金の動きで捉え記録・整理する技術的な手法である。本講義では、簿記の基本的な仕組みから簿記一巡の手続きまでわかりやすく解説し、練習問題を多く解くことによって受講者が容易に理解し、簿記の基礎的能力を身に付けることを目的とする。
到達目標	簿記一巡の手続きを理解し、日商簿記３級試験に合格できる程度の知識を身に付ける。
授業方法と留意点	最初に講義形式で教科書に沿って説明し、練習問題を実際に各自で解いてみる。その後解答を確認しながら解説を行う。必要に応じて配布プリント等で補足説明する。学生の理解度に応じて進行を調整するので、授業計画を変更することがある。
科目学習の効果（資格）	日本商工会議所簿記検定、公認会計士試験、税理士試験を受験するためには必要不可欠な科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	簿記の基礎①	簿記の目的、貸借対照表、損益計算書	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
2	簿記の基礎②	取引と勘定	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
3	簿記の基礎③	仕訳と転記	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
4	簿記の基礎④	試算表	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
5	簿記の基礎⑤	決算の意味と手続き	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
6	簿記の基礎⑥	財務諸表の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
7	まとめ	第 1 回から第 6 回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(45 分)。 事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(45 分)。
8	現金・預金①	現金・現金過不足	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
9	現金・預金②	当座預金・当座借越・小口現金	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
10	商品売買	三分法と売上原価の算定	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
11	商品有高帳	先入先出法、移動平均法	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
12	売掛金・買掛金	売掛金元帳、買掛金元帳	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
13	貸し倒れと貸倒引当金	貸倒引当金の処理	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
14	手形	手形の処理、手形の裏書・割引	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
15	その他の債権・債務①	貸付金・借入金、未収金・未払金、前払金・前受金	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
16	その他の債権・債務②	立替金・預り金、仮払金・借受金、商品券、他店商品券	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
17	有価証券、固定資産	有価証券の購入・売却、固定資産の取得・減価償却・売却	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
18	資本金・引出金、税金	資本金と引出金、税金の記帳	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
19	まとめ	第 8 回から第 18 回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(45 分)。 事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(45 分)。
20	決算①	費用・収益の繰り延べ	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
21	決算②	費用・収益の見越し	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
22	決算③	試算表の作成１	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
23	決算④	試算表の作成２	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
24	決算⑤	精算表の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
25	財務諸表の作成①	貸借対照表、損益計算書の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
26	財務諸表の作成②	貸借対照表、損益計算書の作成	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
27	伝票会計	伝票の起票、伝票の集計・管理	事前：教科書の該当箇所を読んでおく(45 分)。 事後：教科書の該当箇所の練習問題を解く(45 分)。
28	まとめ	第 20 回から第 27 回の授業内容の復習	事前：今までの授業内容の中で苦手な部分を復習する(45 分)。 事後：今までやった練習問題で苦手な問題を再度解く(45 分)。

29	日商簿記検定問題①	仕訳、帳簿の問題	事前：教科書の仕訳、帳簿の問題を解く(60 分)。 事後：間違えた問題を再度解く(30 分)
30	日商簿記検定問題②	試算表、精算表の問題	事前：教科書の試算表、精算表の問題を解く(60 分)。 事後：間違えた問題を再度解く(30 分)

関連科目	財務諸表論入門、財務会計論、管理会計論等。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	最新段階式　日商簿記検定問題集　3 級　三訂版	渡辺正直　ほか	実教出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	学期末試験の結果により評価する。
学生への メッセージ	簿記は借方・貸方などの専門用語があって最初はややこしく感じるかもしれませんが、慣れれば足し算・引き算のみで決して難しいものではありません。基本的な知識をしっかり身に付けて、簿記力を積み上げていきましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 7 階(呉研究室)
備考	回収した練習問題については，講義内で解答を解説し，必要に応じて解答を配布する。

科目名	マーケティング概論	科目名（英文）	Introduction to Marketing Manegement
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中　祥司
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1006a0		

授業概要・目的	本科目は、企業や組織が直面する問題を主体的に解決するための基礎的な能力を身につけることを目指します。 とりわけ、マーケティングの基礎的な枠組みを説明しながら、企業活動を考察します。 つまり、売れ続けている製品やサービス、その仕組みについて理解を深めます。 なお、授業担当者の旅行会社での実務経験から、モノだけではなくサービスを含めた多様な事例を紹介しながら授業を進めます。
到達目標	・マーケティングの基礎的な枠組みについて説明することができる。 ・その枠組みを用いて複数の企業の取り組み事例を比較することができる。
授業方法と留意点	講義が中心です。授業の後半にクイズを行います。そのクイズの解答は次週の授業時に行います。 授業時、および次の授業までにしっかりと復習をしておいてください。
科目学習の効果（資格）	リテール・マーケティング（販売士）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	マーケティング発想の経営	売れる製品についてマーケティングの概要を紹介しながら説明します。	【事前学習】第１章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
2	マーケティング論のなりたち	マーケティングの必要性について事例を用いて理解を深めます。	【事前学習】教科書第２章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
3	マーケティングの基本概念	STP、４P をはじめとした枠組みの概要について説明します。	【事前学習】教科書第３章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
4	戦略的マーケティング	競争地位別のマーケティングについて理解します。	【事前学習】教科書第４章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
5	製品のマネジメント	市場機会の分析から製品戦略への展開について考察します。	【事前学習】教科書第５章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
6	価格のマネジメント	身近な事例を挙げながら価格の組み立てを読み解きます。	【事前学習】教科書第６章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
7	広告のマネジメント	広告の効果や表現のパターンについて理解を深めます。	【事前学習】教科書第７章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
8	チャネルのマネジメント	製品やサービスの多様なチャネルについて説明します。	【事前学習】教科書第８章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
9	営業のマネジメント	営業活動の基本について事例を用いて説明します。	【事前学習】教科書第９章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
10	顧客関係のマネジメント	顧客との関係構築の意義や課題について理解を深めます。	【事前学習】教科書第１０章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
11	顧客理解のマネジメント	マーケティング・リサーチの基本について説明します。	【事前学習】教科書第１１章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
12	ブランド構築のマネジメント	ブランドの意義やその構築方法について理解を深めます。	【事前学習】教科書第１２章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
13	ブランド組織のマネジメント	ブランドマネージャーの役割について事例を用いて説明します。	【事前学習】教科書第１３章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
14	事例研究１	企業事例を通じて、マーケティングの実際を学びます。	【事前学習】事例の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
15	事例研究２	企業事例を通じて、マーケティングの実際を学びます。	【事前学習】事例の読解 【事後学習】これまでの学習範囲を復習し、期末テストに備える。

関連科目	消費者行動論、リテールマーケティング

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	１からのマーケティング	石井淳蔵・廣田章光	碩学舎

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	わかりやすいマーケティング戦略	沼上幹	有斐閣アルマ

評価方法（基準）	平常点（ミニッツペーパー、中間レポート等）４０％ 期末テスト６０％
学生へのメッセージ	新しい製品やサービスに関心をもってください。 その製品やサービスが世の中に出てきた背景について考える癖をつけてください。
担当者の研究室等	田中祥司研究室　１１号館８階
備考	各回、予習・復習をあわせて１時間程度の準備が必要になります。

科目名	マーケティング概論	科目名（英文）	Introduction to Marketing Manegement
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＧＨＪＫＬＭＮ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中　祥司
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1006a0		

授業概要・目的	本科目は、企業や組織が直面する問題を主体的に解決するための基礎的な能力を身につけることを目指します。 とりわけ、マーケティングの基礎的な枠組みを説明しながら、企業活動を考察します。 つまり、売れ続けている製品やサービス、その仕組みについて理解を深めます。 なお、授業担当者の旅行会社での実務経験から、モノだけではなくサービスを含めた多様な事例を紹介しながら授業を進めます。
到達目標	・マーケティングの基礎的な枠組みについて説明することができる。 ・その枠組みを用いて複数の企業の取り組み事例を比較することができる。
授業方法と留意点	講義が中心です。授業の後半にクイズを行います。そのクイズの解答は次週の授業時に行います。 授業時、および次の授業までにしっかりと復習をしておいてください。
科目学習の効果（資格）	リテール・マーケティング（販売士）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	マーケティング発想の経営	売れる製品についてマーケティングの概要を紹介しながら説明します。	【事前学習】第１章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
2	マーケティング論のなりたち	マーケティングの必要性について事例を用いて理解を深めます。	【事前学習】教科書第２章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
3	マーケティングの基本概念	STP、４P をはじめとした枠組みの概要について説明します。	【事前学習】教科書第３章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
4	戦略的マーケティング	競争地位別のマーケティングについて理解します。	【事前学習】教科書第４章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
5	製品のマネジメント	市場機会の分析から製品戦略への展開について考察します。	【事前学習】教科書第５章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
6	価格のマネジメント	身近な事例を挙げながら価格の組み立てを読み解きます。	【事前学習】教科書第６章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
7	広告のマネジメント	広告の効果や表現のパターンについて理解を深めます。	【事前学習】教科書第７章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
8	チャネルのマネジメント	製品やサービスの多様なチャネルについて説明します。	【事前学習】教科書第８章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
9	営業のマネジメント	営業活動の基本について事例を用いて説明します。	【事前学習】教科書第９章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
10	顧客関係のマネジメント	顧客との関係構築の意義や課題について理解を深めます。	【事前学習】教科書第１０章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
11	顧客理解のマネジメント	マーケティング・リサーチの基本について説明します。	【事前学習】教科書第１１章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
12	ブランド構築のマネジメント	ブランドの意義やその構築方法について理解を深めます。	【事前学習】教科書第１２章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
13	ブランド組織のマネジメント	ブランドマネージャーの役割について事例を用いて説明します。	【事前学習】教科書第１３章の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
14	事例研究１	企業事例を通じて、マーケティングの実際を学びます。	【事前学習】事例の読解 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える。
15	事例研究２	企業事例を通じて、マーケティングの実際を学びます。	【事前学習】事例の読解 【事後学習】これまでの学習範囲を復習し、期末テストに備える。

関連科目	消費者行動論、リテールマーケティング

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	１からのマーケティング	石井淳蔵・廣田章光	碩学舎

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	わかりやすいマーケティング戦略	沼上幹	有斐閣アルマ

評価方法（基準）	平常点（ミニッツペーパー、中間レポート等）４０％ 期末テスト６０％
学生へのメッセージ	新しい製品やサービスに関心をもってください。 その製品やサービスが世の中に出てきた背景について考える癖をつけてください。
担当者の研究室等	田中祥司研究室　１１号館８階
備考	各回、予習・復習をあわせて１時間程度の準備が必要になります。

科目名	マーケティング戦略論	科目名（英文）	Marketing Strategy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中　祥司
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2018a0		

授業概要・目的	本科目は、企業や組織が直面する問題を主体的に解決するための能力を身につけることを目指します。 とりわけ、マーケティング概論で学んだことをさらに発展させ、「戦略」という視点からマーケティングをとらえなおし、学んでいきます。 つまり、実際のビジネス社会で役立つマーケティング戦略論の考え方について理解を深めます。 なお、授業担当者の旅行会社での実務経験から、モノだけではなくサービスを含めた多様な事例を紹介しながら授業を進めます。
到達目標	・マーケティング戦略の考え方について説明することができる。 ・複数の企業の取り組み事例をマーケティング戦略の視点で比較することができる。
授業方法と留意点	講義が中心です。授業の後半にクイズを行います。そのクイズの解答は次週の授業時に行います。 授業時、および次の授業までにしっかりと復習をしておいてください。
科目学習の効果（資格）	リテール・マーケティング（販売士）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	競争環境をとらえる	競争環境とは何か。いかに対処すべきかを考察します	【事前学習】マーケティング論の復習、教科書第１章の読解(30 分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30 分)。
2	市場環境をとらえる	消費者行動の理解を図ります。	【事前学習】教科書第２章の読解(30 分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30 分)。
3	流通環境をとらえる	小売業者や卸売業者の役割、インターネットの影響などを考えます。	【事前学習】教科書第３章の読解(30 分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30 分)。
4	市場機会の探索と評価	事業機会を探し出し、評価するための枠組みを紹介します。	【事前学習】教科書第４章の読解(30 分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30 分)。
5	需要多様性への対応	探しだされた市場機会への対応方法について考察します。	【事前学習】教科書第５章の読解(30 分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30 分)。
6	価値提供と競争優位	競争相手に対して有利な立場に立てるようなやり方で顧客に価値を提供するための枠組みについて考察します。	【事前学習】教科書第６章の読解(30 分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30 分)。
7	新製品開発戦略	新製品開発課程とマーケティング戦略構築とを関連づけて考察します。	【事前学習】教科書第７章の読解(30 分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30 分)。
8	製品ライフサイクルとマーケティング戦略	製品ライフサイクルの各段階でどのようなマーケティング施策を必要とするかを考えます。	【事前学習】教科書第８章の読解(30 分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30 分)。
9	製品戦略	提供価値と提供方法をどのような製品で実現し、どのようなサービスを付加するのかを考えます。	【事前学習】教科書第９章の読解(30 分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30 分)。
10	ブランド戦略	ブランディングについて考えます。	【事前学習】教科書第１０章の読解(30 分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30 分)。
11	価格戦略	価格設定に影響を与える要因や価格の使い分けなどについて考えます。	【事前学習】教科書第１１章の読解(30 分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30 分)。
12	プロモーション戦略	消費者とのコミュニケーションを図る方法であるプロモーション手段の組み合わせなどを考察します。	【事前学習】教科書第１２章の読解(30 分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30 分)。
13	流通チャネル戦略	標的市場に提供価値を届けるための最適な流通チャネルの選択と管理について考察します。	【事前学習】教科書第１３章の読解(30 分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30 分)。
14	事例研究１	企業事例を通じて、マーケティング戦略の実際を学びます。	【事前学習】事例の読解(30 分)。 【事後学習】教科書を参考に授業時に出したクイズについて考える(30 分)。
15	事例研究２	企業事例を通じて、マーケティング戦略の実際を学びます。	【事前学習】事例の読解(30 分)。 【事後学習】これまでの学習範囲を復習し、期末テストに備える(30 分)。

関連科目：マーケティング概論、消費者行動論、リテールマーケティング

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門マーケティング戦略	池尾恭一	有斐閣

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	わかりやすいマーケティング戦略	沼上幹	有斐閣アルマ

評価方法（基準）	平常点（ミニッツペーパー、中間レポート等）４０％ 期末テスト６０％
学生へのメッセージ	新しい製品やサービスに関心をもってください。 その製品やサービスが世の中に出てきた背景について考える癖をつけてください。
担当者の研究室等	田中祥司研究室　１１号館８階
備考	各回、予習・復習をあわせて１時間程度の準備が必要になります。

科目名	マクロ経済学	科目名（英文）	Macro Economics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉本　篤信
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD2027a0		

授業概要・目的	現代経済学は体系化された科学としてマクロ経済学とミクロ経済学に大別されます。マクロ経済学では，国家レベルの経済問題や社会全体など大きな動きについて論じます。なお，ミクロ経済学では，経済主体の意思決定プロセスや市場について議論することを目的とします。これによりビジネスニュースや新聞の経済面をより深く読むことが出来るようになることを目指します。
到達目標	マクロ経済学の理論を通して、日本経済の問題を理解、説明できる。
授業方法と留意点	教科書を中心にして行うが，適宜，新聞や TV で取り上げられたトピックも用いる。
科目学習の効果（資格）	公務員試験・経済学検定試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	経済学とは何か	経済学とはどのような学問か？ マクロ経済学とミクロ経済学の違い	経済記事や経済ニュースを普段から読んだり聞いたりする習慣を付けてください。
2	ＧＤＰとは何だろうか？	付加価値、三面等価の原則 GDP の範囲、GNI (GNP)との違い、名目値と実質値	テキスト第１章を読んでおくこと。(60分)
3	消費と貯蓄はどのようにして決まるか？（1）	ケインズ型の消費関数	テキスト第２章「ケインズ型の消費関数」を読んでおくこと。（６０分）
4	消費と貯蓄はどのようにして決まるか？（2）	ライフサイクル仮説、恒常所得仮説、流動性制約、日本の貯蓄率の動向	テキスト第２章「ライフサイクル仮説、恒常所得仮設」「貯蓄の決定」を読んでおくこと。（６０分）
5	設備投資と在庫投資（1）	資本ストックと設備投資、投資の決定理論、新古典派の投資理論	テキスト第３章「投資の決定要因」「資本の限界生産性と資本の使用者費用」を読んでおくこと。（６０分）
6	設備投資と在庫投資（2）	調整費用モデル、在庫投資	テキスト第３章「調整費用モデル」を読んでおくこと。（６０分）
7	金融と株価（1）	企業の資金調達手段、家計の資産選択	テキスト第４章「企業の資金仲達手段」「家計の資産選択」を読んでおくこと。（６０分）
8	金融と株価（2）	株価の決定理論、トービンのｑ	テキスト第４章｛株価の決定理論」「トービンのｑ理論」を復習しておくこと。（６０分）
9	貨幣の需要と供給（1）	貨幣の機能、貨幣ストックの概念、	テキスト第５章「貨幣のの３つの機能」「貨幣の概念「貨幣需要動機を読んでおくこと。（６０分）
10	貨幣の需要と供給（2）	貨幣需要関数、貨幣量のコントロール、金融政策の手段、利子率の決定	テキスト第５章「貨幣需要関数」「ハイパワードマネーと貨幣の供給」「貨幣乗数」を読んでおくこと。（６０分）
11	乗数理論と IS-LM 理論（1）	有効需要の原理、乗数理論	テキスト第６章「有効需要の原理」「乗数理論」を予習しておくこと。（６０分）
12	乗数理論と IS-LM 理論（2）	財市場と IS 曲線、貨幣市場と LM 曲線、IS-LM 分析	テキスト第６章「IS 曲線と LM 曲線」「IS-LM 分析」、７章「IS-LM 分析における金融政策の有効性」を読んでおくこと。（６０分）
13	経済政策、財政赤字と国債	非伝統的金融政策、ルーカス批判、日本の財政赤字、国債の中立命題	テキスト第７「IS-LM 分析における金融政策の有効性」、８章を読んでおくこと。（６０分）
14	インフレと失業	インフレとデフレ、失業率、フィリップス曲線、自然失業率仮説	テキスト第９章「ディマンドプル・インフレ」「予想されないインフレのコスト」，１０章「フィリップス曲線」「自然失業率仮説」を読んでおくこと。(６０分)
15	まとめ		これまでの復習、練習問題の予習（６０分）

関連科目	ミクロ経済学、貿易と金融

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	マクロ経済学入門	福田慎一、照山博司	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験　75% 平常点（レポート提出,小テストなど）　25%
学生へのメッセージ	授業中は私語厳禁，携帯電話の利用禁止。 テキストやノートでの復習は必ずすること。
担当者の研究室等	11 号館 6 階(杉本研究室) sugimoto@kjo.setsunan.ac.jp
備考	

科目名	マネジメントサイエンス	科目名（英文）	Management Science
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	ＫＬＭ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	栢木　紀哉
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1016a0		

授業概要・目的	マネジメントサイエンス（経営科学、オペレーションズ・リサーチ）とは、経営活動にかかわる種々の課題をモデル化して数学的に解析を行うことにより、経営の意思決定を科学的な方法で支援するための知識の体系である。本科目では、日程計画、線形計画法、待ち行列や意思決定理論を中心とした基本的な知識と技法（解法）について修得することが目的である。
到達目標	数式、あるいはワークシート形式で定義された経営の諸問題についてのモデルを理解し、電卓等を用いた数値計算で最適解を見つけることができる。
授業方法と留意点	配布資料を中心に手法や理論を解説し、ゲームやシミュレーション形式の例題を用いた演習課題を解くことで理解を深める。課題に取り組む中で、経営における問題の発見やその構造のあらましを把握する能力を養ってほしい。
科目学習の効果（資格）	ＩＴパスポート、基本情報技術者などの情報系の資格試験をはじめ、販売士や中小企業診断士などの経営関係の資格試験にも関連する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、マネジメントサイエンスの概要	次回の内容を確認する（30 分） 配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分）
2	在庫管理（1）	在庫管理の考え方、最適発注量	授業中に課した練習問題に解答（60 分） 配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分）
3	在庫管理（2）	発注システム、将来を見据えた在庫管理の方法	授業中に課した練習問題に解答（60 分） 配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分）
4	グラフ理論	グラフ理論の考え方、最適な経路を見つける方法	授業中に課した練習問題に解答（60 分） 配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分）
5	日程計画（1）	日程計画の考え方、作業を効率よく進める方法	授業中に課した練習問題に解答（60 分） 配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分）
6	日程計画（2）	PERT による日程計画、作業の進捗管理	授業中に課した練習問題に解答（60 分） 配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分）
7	待ち行列理論	待ち行列の基礎、到着時間とサービス時間の分布	授業中に課した練習問題に解答（60 分） 配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分）
8	前半のまとめ、学力診断テスト	前半のまとめ、確認テストと解説	前半の学習内容を復習しておく（60 分）
9	線形計画法（1）	線形計画法の考え方、問題の定式化と図式解法	授業中に課した練習問題に解答（60 分） 配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分）
10	線形計画法（2）	シンプレックス法による最適解法、出荷・輸送計画を事例とした演習	授業中に課した練習問題に解答（60 分） 配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分）
11	整数計画法	整数計画法の考え方、人員の最適配置計画	授業中に課した練習問題に解答（60 分） 配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分）
12	決定理論（1）	決定理論の考え方、複数候補からの意思決定	授業中に課した練習問題に解答（60 分） 配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分）
13	決定理論（2）	不確実性下の意思決定（ミニマックス原理など）	授業中に課した練習問題に解答（60 分） 配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分）
14	決定理論（3）	ゲーム理論（囚人のジレンマ、安定マッチングなど）	授業中に課した練習問題に解答（60 分） 配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分）
15	全体のまとめ	全体のまとめと経営学分野における実用例	全体の学習内容を復習しておく（120 分）

関連科目：数学基礎 I、数学基礎 II、経営統計学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験（40%）、授業中の課題（20%）、確認テスト（30%）、授業への取組姿勢（10%）により総合的に評価する。 私語、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。
学生へのメッセージ	高度な数学は用いませんが、演習を中心とした授業を行いますので、８割以上の出席が必要です。毎回、数値を扱うので電卓（関数電卓でなくてよい）を持参してください。また、授業の最初から聞かないと理解できませんので、遅れないようにしてください。
担当者の研究室等	11 号館 8 階(栢木教授室)
備考	必要に応じて資料を配布します。 確認テストは回収後、解答の解説を行います。また、授業中の課題は適宜コメントを返します。

科目名	マネジメントサイエンス	科目名（英文）	Management Science
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	ＡＢＣＤＥＦＧＨＪ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	栢木　紀哉
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1016a0		

授業概要・目的	マネジメントサイエンス（経営科学、オペレーションズ・リサーチ）とは、経営活動にかかわる種々の課題をモデル化して数学的に解析を行うことにより、経営の意思決定を科学的な方法で支援するための知識の体系である。本科目では、日程計画、線形計画法、待ち行列や意思決定理論を中心とした基本的な知識と技法（解法）について修得することが目的である。
到達目標	数式、あるいはワークシート形式で定義された経営の諸問題についてのモデルを理解し、電卓等を用いた数値計算で最適解を見つけることができる。
授業方法と留意点	配布資料を中心に手法や理論を解説し、ゲームやシミュレーション形式の例題を用いた演習課題を解くことで理解を深める。課題に取り組む中で、経営における問題の発見やその構造のあらましを把握する能力を養ってほしい。
科目学習の効果（資格）	ＩＴパスポート、基本情報技術者などの情報系の資格試験をはじめ、販売士や中小企業診断士などの経営関係の資格試験にも関連する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、マネジメントサイエンスの概要	次回の内容を確認する（30 分） 配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分）
2	在庫管理（1）	在庫管理の考え方、最適発注量	授業中に課した練習問題に解答（60 分） 配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分）
3	在庫管理（2）	発注システム、将来を見据えた在庫管理の方法	授業中に課した練習問題に解答（60 分） 配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分）
4	グラフ理論	グラフ理論の考え方、最適な経路を見つける方法	授業中に課した練習問題に解答（60 分） 配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分）
5	日程計画（1）	日程計画の考え方、作業を効率よく進める方法	授業中に課した練習問題に解答（60 分） 配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分）
6	日程計画（2）	PERT による日程計画、作業の進捗管理	授業中に課した練習問題に解答（60 分） 配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分）
7	待ち行列理論	待ち行列の基礎、到着時間とサービス時間の分布	授業中に課した練習問題に解答（60 分） 配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分）
8	前半のまとめ、学力診断テスト	前半のまとめ、確認テストと解説	前半の学習内容を復習しておく（60 分）
9	線形計画法（1）	線形計画法の考え方、問題の定式化と図式解法	授業中に課した練習問題に解答（60 分） 配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分）
10	線形計画法（2）	シンプレックス法による最適解法、出荷・輸送計画を事例とした演習	授業中に課した練習問題に解答（60 分） 配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分）
11	整数計画法	整数計画法の考え方、人員の最適配置計画	授業中に課した練習問題に解答（60 分） 配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分）
12	決定理論（1）	決定理論の考え方、複数候補からの意思決定	授業中に課した練習問題に解答（60 分） 配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分）
13	決定理論（2）	不確実性下の意思決定（ミニマックス原理など）	授業中に課した練習問題に解答（60 分） 配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分）
14	決定理論（3）	ゲーム理論（囚人のジレンマ、安定マッチングなど）	授業中に課した練習問題に解答（60 分） 配付資料の該当箇所を読んでおく（30 分）
15	全体のまとめ	全体のまとめと経営学分野における実用例	全体の学習内容を復習しておく（120 分）

関連科目：数学基礎 I、数学基礎 II、経営統計学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験（40%）、授業中の課題（20%）、確認テスト（30%）、授業への取組姿勢（10%）により総合的に評価する。 私語、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。
学生へのメッセージ	高度な数学は用いませんが、演習を中心とした授業を行いますので、８割以上の出席が必要です。毎回、数値を扱うので電卓（関数電卓でなくてよい）を持参してください。また、授業の最初から聞かないと理解できませんので、遅れないようにしてください。
担当者の研究室等	11 号館 8 階(栢木教授室)
備考	必要に応じて資料を配布します。 確認テストは回収後、解答の解説を行います。また、授業中の課題は適宜コメントを返します。

科目名	ミクロ経済学	科目名（英文）	Micro Economics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩坪　加紋
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP2◎		
科目ナンバリング	IDD1008a0		

授業概要・目的	現代経済学の理論は、体系化された科学としてミクロ経済学とマクロ経済学に大別される。そのうち、ミクロ経済学は、皆が納得しうる仮定を起点とした論理に基づく消費者と企業の行動原理を説明する理論である。本講義では、ミクロ経済学を現実事象と照らし合わせながら解説し、使えるミクロ経済学の修得を目的とする。
到達目標	１．経済主体の意思決定や市場について理解できるようになる ２．経済学的思考の使い方が分かるようになる
授業方法と留意点	講義は極力教科書に沿って行うので、必ず教科書を購入のこと。理解度を重視して進めるので、講義計画の変更もある。漠然と講義に出席するのではなく、予習・復習を行い、発言することを求める。発言は学習意欲の表れとして評価の対象である。
科目学習の効果（資格）	TV や新聞、インターネットから無造作に流される経済的事象を自らで整理し、自らで判断するための初歩的な能力が身につく。さらに、教員免許状取得・公務員試験・中小企業診断士試験など資格取得に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ミクロ経済学で学ぶこと	経済学を学ぶ理由、ミクロ経済学とマクロ経済学の違い、価格メカニズムの働き、図とグラフ	事前に教科書第１章(pp.13-28)を読んでおくこと。復習も行うこと。　(1 時間)
2	需要の理論（１）	市場需要曲線	事前に教科書第２章(pp.31-36)を読んでおくこと。復習も行うこと。　(0.5 時間)
3	需要の理論（２）	需要曲線のシフト、消費者余剰	事前に教科書第３章(pp.36-46)を読んでおくこと。復習も行うこと。　(1 時間)
4	需要の理論（３）	無差別曲線	事前に教科書第３章(pp.51-52)を読んでおくこと。復習も行うこと。　(0.5 時間)
5	需要の理論（４）	予算制約、最適消費	事前に教科書第３章（pp.49-51,53-58）を読んでおくこと。復習も行うこと。　(1 時間)
6	供給の理論	限界費用、市場供給曲線、生産者余剰、供給曲線のシフト要因	事前に教科書第４章(pp.59-72)を読んでおくこと。復習も行うこと。　(1.5 時間)
7	限界概念と微分	限界概念と微分との関係について	予習はできないが、復習をしっかりと行うこと。(1 時間)
8	需給曲線と弾力性	需要の価格弾力性、弾力性を左右する要因、差別価格	事前に教科書第５章(pp.73-88)を読んでおくこと。復習も行うこと。　(1.5 時間)
9	ここまでのまとめ	まとめとして中間試験を行う	事前に復習を行っておくこと
10	市場の理論	様々な市場構造、価格メカニズム、社会的余剰、効率性、分配の公正性	事前に教科書第６章（pp.89-102）を読んでおくこと。復習も行うこと。　(2 時間)
11	需要と供給で解く経済問題	需給曲線を用い経済問題を考える	事前に教科書第７章（pp.103-118）を読んでおくこと。復習も行うこと。　(1.5 時間)
12	余剰分析で解く経済問題	余剰を用い経済問題を考える	事前に教科書第８章（pp.119-137）を読んでおくこと。復習も行うこと。　(1.5 時間)
13	市場の失敗（１）	外部効果、公共財	事前に教科書第９章（pp.139-156）を読んでおくこと。復習も行うこと。　(1.5 時間)
14	市場の失敗（２）	情報の非対称性 独占市場の特徴	事前に教科書第 10,11 章（pp.157-179）を読んでおくこと。復習も行うこと。　(1.5 時間)
15	市場の失敗（３）	独占企業の価格決定	事前に教科書第１１章（pp.179-186）を読んでおくこと。復習も行うこと。　(1 時間)

関連科目	経済学入門、マクロ経済学、ファイナンス、コーポレートファイナンス　等々

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ミクロ経済学の基礎　ベーシックプラス	小川光、家森信善	中央経済社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として中間試験(40%)と期末試験(60%)で評価する。ただし、学習意欲（注意：出席率ではない）の顕著な者には加点して評価する。詳細は初回講義で述べる。
学生へのメッセージ	経済の基本的な考え方を身につけておくことは、社会人としてだけでなく日常生活においても“身を守る”という意味で極めて重要である。疑問点は積極的に質問して、一歩ずつ着実に前進することを期待する。
担当者の研究室等	11 号館 8 階（岩坪教授室）
備考	

科目名	民法	科目名（英文）	Civil Law
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IDD2049a0		

授業概要・目的	法律は、社会において生じる問題を解決するために使われるものある。そのような法律も、いくつかの形に分類がなされる。本講義で扱う民法とは、私人の間の問題等を規律するための法律であり、特に財産問題と家族問題を扱っている。すなわち、財産と家族の問題を扱う一番基本となる法律が民法である。 本講義では、この民法を理解するために、まず概論として、法律学とはどのような学問であるのか、そして、その法律学の中で民法がどのように扱われているのかなど、法学を概観し、その後に、具体的な民法の中身を簡単にではあるが把握していくことを予定している。
到達目標	この講義を通じて、学生には民法全般および民事法と呼ばれる私人間に問題について適用される法律の概観をつかむことができるようになること、ならびに社会における法的問題がいかなることであるかを理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式で行う予定である。レジュメおよび資料を配布する。 法律科目であるので、六法（書籍の一種）が必要。六法を入手する予定のない方は受講しないこと（学習内容を理解することができないため）。
科目学習の効果（資格）	社会生活の基本法である民法の学習方法を知ることができ、民事法（民法、民事訴訟法、破産法等）が出題科目となっている各種資格試験の基礎となる知識を習得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法律学および民法	法律科目というもののガイダンス、法律一般および民法の概要について確認する予定です。	予習：新聞などから、目次も含め、教科書から興味を持てる部分を見つけ、整理すること。 復習：講義部分の教科書を確認すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
2	民法と財産法総論	法律というものが対象としているものなどを大きく捉え、その中で民法典の役割を確認し、さらに財産法の内容を確認していく予定です。	予習：1 回目の内容から、自分の周りに存在する財産法と関連する問題を考えること。 復習：財産法と家族法の役割の違いを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
3	民法と契約という制度	契約という制度を通して、社会における法律関係を確認していく予定です。	予習：現実の生活の中で、どのような契約をしているのかなどを検討すること。 復習：契約成立と申し込み・承諾お関係を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
4	民法における人という存在	契約をすることができるのは誰なのか、また単独では契約ができない人がいるのかなどを確認する予定です。	予習：これまでの経験から、法的に自分が置かれてきた立場を整理すること。 復習：親の同意を必要とする契約がいかなるものであるのかを見直すこと。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
5	代理・時効	契約も単独でできない場合があります。その場合に、代わりに契約を行ってくれる人などの代理についてを確認し、また時効制度も確認する。	予習：他人が自分のために契約をしてくれる場面を確認すること。 復習：法的な意味における代理と、日常用語に言う代理の違いを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
6	契約の締結	契約を締結するとはどのようなことなのかを確認する予定です。	予習：友達との約束についての法的意味を検討・議論すること。 復習：契約内容に違反した場合における損害の意味を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
7	所有権を通しての物権	人が物を所持すること、すなわち支配することを、法律はどのように考えているのかを見ていく予定です。	予習：他人が自分の物を返さないという場合を法的に考えてみること。 復習：物的担保がいかなる意味を有し、どのような種類があるのかを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
8	不法行為①	他人に損害を与えてしまい、賠償をしなければならないことを、法的に見ていきます。	予習：交通事故や約束違反によって生じた損害は、いかなる賠償により回復することができるのかを検討すること。 復習：損害の意味を、判例を通じて整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
9	不法行為②	現代社会は進歩が激しく、法律も新しい局面に向かいあう必要が生じています。そこで、不法行為の制度をより多角的に見ていく予定です。	予習：他人に損害賠償を請求するために必要となる事情・要件を整理すること。 復習：特別な場合における不法行為制度を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
10	事務管理・不当利得	契約や不法行為とは異なった形で、他人との間で法的な関係が生じる場合をみます。	予習：人情を法律でとらえることや、契約終了後の関係について検討すること。 復習：不当利得の形を判例を通じせて入りすること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
11	婚姻	婚姻がどのようにすると成立し、その結	予習：誰とでも婚姻できるのか、婚姻する意味を考

	果どのような義務が生じるのかなどを見ていく予定です。	えること。 復習：婚姻とそれと類似する形を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
12	離婚	離婚原因を確認し、離婚の際に生じる問題を確認していく。	予習：国家が認める婚姻関係を解消することの重大性を今一度確認すること。 復習：離婚の形と要件を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
13	親子関係	親子は互いにどのような権利義務関係があるのか、また、子の扱いが異なる現状を確認する。	予習：非嫡出子には法的にいかなる取扱いの違いがあるのかを確認すること。 復習：親子関係が形成される場面を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
14	相続	相続の意義や誰が相続できるのかについて確認する。	予習：法律がどのような範囲で相続を認めているのかを確認すること。 復習：相続できる範囲はいかなるものかを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
15	遺言および講義のまとめ	相続における被相続人の意思を遺す方法やその問題点を確認する。	予習：遺言の形を整理すること。 復習：全体の確認を行うこと。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。

関連科目

憲法、商法、会社法など、法律に関連する科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ロードマップ民法入門	小川・西内・大川	一学舎
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

講義数と時間の関係から、定期試験・期末試験で結果で評価を行う（100%）。

学生へのメッセージ

民事法は日常生活に関する規範である。したがって、民事法を学習することは、日常生活を法的観点から検討することでもある。

担当者の研究室等

11 号館 9 階　大川研究室

備考

大学の講義は、予習・講義・復習の３つから成り立っています。それぞれにつき、90 分を確保して学習をする必要がある。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てくるため、必ず講義でそれらの対象を聞くこと。
近年、受講態度のひどい学生が散見されることから、受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外す予定である。

科目名	民法Ⅰ	科目名（英文）	Civil Law Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	法律は、社会において生じる問題を解決するために使われるものある。そのような法律も、いくつかの形に分類がなされる。本講義で扱う民法とは、私人の間の問題等を規律するための法律であり、特に財産問題と家族問題を扱っている。すなわち、財産と家族の問題を扱う一番基本となる法律が民法である。 本講義では、この民法を理解するために、まず概論として、法律学とはどのような学問であるのか、そして、その法律学の中で民法がどのように扱われているのかなど、法学を概観し、その後に、具体的な民法の中身を簡単にではあるが把握していくことを予定している。
到達目標	この講義を通じて、学生には民法全般および民事法と呼ばれる私人間に問題について適用される法律の概観をつかむことができるようになること、ならびに社会における法的問題がいかなることであるかを理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式で行う予定である。レジュメおよび資料を配布する。 法律科目であるので、六法（書籍の一種）が必要。六法を入手する予定のない方は受講しないこと（学習内容を理解することができないため）。
科目学習の効果（資格）	社会生活の基本法である民法の学習方法を知ることができ、民事法（民法、民事訴訟法、破産法等）が出題科目となっている各種資格試験の基礎となる知識を習得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法律学および民法	法律科目というもののガイダンス、法律一般および民法の概要について確認する予定です。	予習：新聞などから、目次も含め、教科書から興味を持てる部分を見つけ、整理すること。 復習：講義部分の教科書を確認すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
2	民法と財産法総論	法律というものが対象としているものなどを大きく捉え、その中で民法典の役割を確認し、さらに財産法の内容を確認していく予定です。	予習：1 回目の内容から、自分の周りに存在する財産法と関連する問題を考えること。 復習：財産法と家族法の役割の違いを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
3	民法と契約という制度	契約という制度を通して、社会における法律関係を確認していく予定です。	予習：現実の生活の中で、どのような契約をしているのかなどを検討すること。 復習：契約成立と申し込み・承諾お関係を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
4	民法における人という存在	契約をすることができるのは誰なのか、また単独では契約ができない人がいるのかなどを確認する予定です。	予習：これまでの経験から、法的に自分が置かれてきた立場を整理すること。 復習：親の同意を必要とする契約がいかなるものであるのかを見直すこと。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
5	代理・時効	契約も単独でできない場合があります。その場合に、代わりに契約を行ってくれる人などの代理についてを確認し、また時効制度も確認する。	予習：他人が自分のために契約をしてくれる場面を確認すること。 復習：法的な意味における代理と、日常用語に言う代理の違いを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
6	契約の締結	契約を締結するとはどのようなことなのかを確認する予定です。	予習：友達との約束についての法的意味を検討・議論すること。 復習：契約内容に違反した場合における損害の意味を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
7	所有権を通しての物権	人が物を所持すること、すなわち支配することを、法律はどのように考えているのかを見ていく予定です。	予習：他人が自分の物を返さないという場合を法的に考えてみること。 復習：物的担保がいかなる意味を有し、どのような種類があるのかを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
8	不法行為①	他人に損害を与えてしまい、賠償をしなければならないことを、法的に見ていきます。	予習：交通事故や約束違反によって生じた損害は、いかなる賠償により回復することができるのかを検討すること。 復習：損害の意味を、判例を通じて整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
9	不法行為②	現代社会は進歩が激しく、法律も新しい局面に向かいあう必要が生じています。そこで、不法行為の制度をより多角的に見ていく予定です。	予習：他人に損害賠償を請求するために必要となる事情・要件を整理すること。 復習：特別な場合における不法行為制度を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
10	事務管理・不当利得	契約や不法行為とは異なった形で、他人との間で法的な関係が生じる場合をみます。	予習：人情を法律でとらえることや、契約終了後の関係について検討すること。 復習：不当利得の形を判例を通じせて入りすること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
11	婚姻	婚姻がどのようにすると成立し、その結	予習：誰とでも婚姻できるのか、婚姻する意味を考

	果どのような義務が生じるのかなどを見ていく予定です。	えること。 復習：婚姻とそれと類似する形を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
12	離婚	離婚原因を確認し、離婚の際に生じる問題を確認していく。	予習：国家が認める婚姻関係を解消することの重大性を今一度確認すること。 復習：離婚の形と要件を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
13	親子関係	親子は互いにどのような権利義務関係があるのか、また、子の扱いが異なる現状を確認する。	予習：非嫡出子には法的にいかなる取扱いの違いがあるのかを確認すること。 復習：親子関係が形成される場面を整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
14	相続	相続の意義や誰が相続できるのかについて確認する。	予習：法律がどのような範囲で相続を認めているのかを確認すること。 復習：相続できる範囲はいかなるものかを整理すること。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。
15	遺言および講義のまとめ	相続における被相続人の意思を遺す方法やその問題点を確認する。	予習：遺言の形を整理すること。 復習：全体の確認を行うこと。 予習・復習それぞれにつき、90 分を確保して学習をすること。

関連科目

憲法、商法、会社法など、法律に関連する科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ロードマップ民法入門	小川・西内・大川	一学舎
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

講義数と時間の関係から、定期試験・期末試験で結果で評価を行う（100%）。

学生へのメッセージ

民事法は日常生活に関する規範である。したがって、民事法を学習することは、日常生活を法的観点から検討することでもある。

担当者の研究室等

11 号館 9 階　大川研究室

備考

大学の講義は、予習・講義・復習の３つから成り立っています。それぞれにつき、90 分を確保して学習をする必要がある。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てくるため、必ず講義でそれらの対象を聞くこと。
近年、受講態度のひどい学生が散見されることから、受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外す予定である。

科目名	ものづくりと経営	科目名（英文）	Manufacturing Management
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大田　住吉
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	・学ぶのは、「戦略」です。企業ビジネスの視点から「ものづくり」にフォーカスし、その「戦略」を「ビジネス・スクール形式」で学びます。 ・主な学習テーマは、以下のとおりです。 ①「ものづくり」の戦略とは何か？　経営学部の学生にとって、なぜそれを学ぶことが必要なのか？ ②「ものづくり」を行う製造業は、日頃どんな課題を抱え、どのように解決しているのか？ ③「ものづくり」を行う製造業は、卸売業、小売業、サービス業とはどんな違いがあるのか？ ④「ものづくり」を、ビジネス戦略や企業の持続的成長にどう活かせば良いのか？ ・なお、この科目は、「実務経験のある教員による授業科目」です。民間企業、経済団体、シンクタンク等に通算 29 年間（生産管理部門含む）勤務し、また経営コンサルタント(中小企業診断士)として 150 社以上（うち製造業 90 社以上）の企業経営支援に携わった実務経験を活かし、アクティブラーニング（ケースメソッド形式）による実践的な授業を行います。
到達目標	・実社会で「戦力」として通用するビジネスリーダーを養成することが、この授業の到達目標です。 ・「ものづくり」とビジネス戦略の関連性について分析し、判断し、表現する、実践的な知識および能力を身につけることができます。 ・その到達目標をクリアできているか検証するため、毎回の授業においてケースメソッドによる個人作業、グループワーク、プレゼン、質疑応答等を実施し、その到達度合いを一人一人判定します。
授業方法と留意点	・この授業は、座学ではありません。授業の特徴は、以下のとおり。 ① 基本的な「ものづくり」の企業事例について、実際のビジネス現場で起きるケースメソッド（仮想企業による事例研究）を準備し、学生同士でディスカッションを行う「ビジネス・スクール形式」の授業です。 ② 毎回の授業においてグループ討議、プレゼン、質疑応答などを徹底的に繰り返し、明るく、楽しく、わかりやすく、学びます。 ③ グループメンバー、役割分担は定期的に交替し、自分の考えを主張するとともに、他人の考え方との違いを体感します。 ・なお、授業ではスマホ等を使ったキーワード検索等があります。教科書の他、スマホ等は必ず持参して下さい。
科目学習の効果（資格）	・販売士または中小企業診断士等の資格取得に向けた基礎知識の習得に効果があります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス　～この授業で何を学ぶのか？～	本科目の目的とテーマ、授業の進め方・ルール、成績評価基準等について説明します	＜予習＞ テキストを熟読し、分からない専門用語等は事前に調べておくように(1 時間)。 ＜復習＞ 「本日のポイント」の内容について、自分の「武器」として使えるようにまとめておいて下さい（1 時間)。
2	ケースメソッドⅠ： ものづくりをマネジメントする	企業事例研究：和菓子メーカーＳ社～①生産方法、生産形態、作業標準書～	＜予習＞ 教科書 p3-22(1 時間) ＜復習＞ 生産方法・形態の違い、作業標準書がなぜ必要か等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
3	同上②	企業事例研究：和菓子メーカーＳ社～②生産工程マネジメント～	＜予習＞ 教科書 p3-22(1 時間) ＜復習＞ 生産計画の遅れを生じさせる原因分析と、それが取引先にどれだけ迷惑をかけるのか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
4	同上③	企業事例研究：和菓子メーカーＳ社～③不良品発生とその解決策～	＜予習＞ 教科書 p3-22(1 時間) ＜復習＞ 1 個の不良品発生が生産工程全体にどんな影響を及ぼすのか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
5	同上④	企業事例研究：和菓子メーカーＳ社～④工程間のムダの排除～	＜予習＞ 教科書 p3-22(1 時間) ＜復習＞ 生産の進捗を遅らせる「揺らぎ」を解決するために何が必要か等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
6	同上⑤	企業事例研究：和菓子メーカーＳ社～⑤ロット生産と 1 個流し～	＜予習＞ 教科書 p3-22(1 時間) ＜復習＞ 製造業にとって、市場で生き残るための「ものづくり」とは何か等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
7	ケースメソッドⅡ： アジアの中で生き残れ！	企業事例研究：プリント基板メーカーＹ社～①企業の海外進出理由～	＜予習＞ 教科書 p23-38(1 時間) ＜復習＞ 業種や進出先によって理由が異なる点について復習し、まとめて下さい(1 時間)
8	同上②	企業事例研究：プリント基板メーカーＹ社～②国内回帰とマザー工場～	＜予習＞ 教科書 p23-38(1 時間) ＜復習＞ せっかく海外進出したのに、なぜ戻って来るのか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
9	同上③	企業事例研究：プリント基板メーカーＹ社～③ライン生産とセル生産～	＜予習＞ 教科書 p23-38(1 時間) ＜復習＞ 2 つの生産方法のメリット、デメリット、国際立地戦略における使い分けい等について復習し、まとめ

			て下さい(1 時間)
10	同上④	企業事例研究:プリント基板メーカーＹ社～④ライン生産のボトルネック～	＜予習＞ 教科書 p23-38(1 時間) ＜復習＞ ライン生産のボトルネックについて、実例と試算による検証等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
11	同上⑤	企業事例研究：プリント基板メーカーY 社～⑤アジアとの競争の中で生き残り戦略～	＜予習＞ 教科書 p23-38(1 時間) ＜復習＞ アジアとの競争の中で、生産の 3 要素をどのように戦略化すべきか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
12	ケースメソッドⅢ： 目指せ！「匠」のマネジメント	企業事例研究：食品調味料メーカーU 社～①力量進捗・判定表～	＜予習＞ 教科書 p39-56(1 時間) ＜復習＞ なぜ、力量進捗・判定表が必要なのか等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
13	同上②	企業事例研究:プラスチック製造加工業 H 社～②従業員の労務管理と CSR～	＜予習＞ 教科書 p39-56(1 時間) ＜復習＞ 従業員の欠勤リスクと生産能力の社会的責任等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
14	同上③	企業事例研究:プラスチック製造加工業 H 社～③労災リスクと危険防止～	＜予習＞ 教科書 p39-56(1 時間) ＜復習＞ 労災リスクの実態と危険防止方法等について復習し、まとめて下さい(1 時間)
15	同上④	～企業事例研究:プラスチック製造加工業 H 社～④コンタミネーションと食品表示～	＜予習＞ 教科書 p39-56(1 時間) ＜復習＞ 食品のアレルギーコンタミネーション管理方法と食品表示等について復習し、まとめて下さい(1 時間)

関連科目

ＣＳＲ経営論、企業論ほか

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	アクティブラーニング（ケースメソッド）授業テキスト　ものづくりと経営戦略[第 3 版]	大田住吉、佐々木公之	デザインエッグ社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	イラスト図解 工場のしくみ	松林光男、渡部弘	日本実業出版社
2	工場コストダウン事典	五十嵐瞭	日刊工業新聞社
3	現場のムダどり事典	山田日登志	日刊工業新聞社

評価方法（基準）

①グループワークへの貢献度合い(役割分担、ワーク作業、呼応発言内容等)（35%）
②制限時間内におけるプレゼン用シートの記載内容・分析力（15%）
③プレゼン力および質疑応答対応力（15%）
④毎回の授業における理解度チェック小テスト(30%)
⑤定期試験（論述式）(5%)
による総合評価。
ただし、①～④は、毎回の授業の都度採点し、集計します。

学生へのメッセージ

・通算 35 年間の民間企業等でのビジネス経験やコンサルティング経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！
・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。

担当者の研究室等

11 号館 7 階　大田住吉研究室

備考

・理解度チェック小テストの結果については、授業の中で適宜フィードバックします。

・事前事後学習は、各々概ね 60 分程度を目安に行って下さい。

科目名	労働法	科目名（英文）	Labor Law
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	川谷　道郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IDD3051a0		

授業概要・目的	労働法は労働者と使用者との契約関係を規律する「労働保護法」と労働組合の団体行動を規律する「労働団体法」の２分野に大きく分けられますが、この授業では労働保護法をその対象とします。具体的には労働契約法、労働基準法を中心として、必要に応じて雇用機会均等法、派遣労働者法といった周辺の法律の規定にも触れていきます。 契約関係の基本となるのは「民法」ですが、民法が個人の自由・独立、契約自由の原則といった市民法の原理に貫かれているのに対し、労働法は労働者の保護を基調とした社会法としての性格を持っています。そのような労働法の性格を実際の法規定に照らして実感してもらうことがこの講義の目的です。
到達目標	この授業を通じて学生は労働者の保護という法律の目的が、具体的にどのような規定によって実現されているのかを理解し、低賃金労働、長時間労働、労働災害、外国人労働者問題といった現実の社会で生起している問題を法律の観点からとらえ、問題の解決の方向を見出すことができるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義は後記教科書を使用するほか、適宜レジュメを配布して行います。また、関連する判例や資料を指定することもあります。授業には教科書および六法を必ず携行してください。少なくとも１度は、授業中に確認のためのテストを行います。
科目学習の効果（資格）	労働基準監督官や公務員試験での出題が考えられます。学生の多くは卒業後に就職することになるでしょうが、労働法の知識は社会生活を送るうえで極めて有用なものであるはずです。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	労働法の意義と体系	・労働法の全体像、規律構造 ・法の中で労働法がどのような位置を占めるのかについて述べる。	教科書第１編の第１、２章（２頁－１４頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
2	労働法の基本構造	・労働者が持つ憲法上の権利	教科書第１編第３章（１５頁－２２頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
3	労働者保護の一般原則	・労働者、使用者の概念 ・労働基準法の適用範囲	教科書第２編第１、２章（２４頁-６３頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（２時間）
4	労働契約の成立	・労働契約の基本 ・採用の意味	教科書第２編第３章の１、２（64 頁-79 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（２時間）
5	労働契約の規制	・労働契約の法的規制 ・労働契約における権利と義務	教科書第２編第３章の３、４（79 頁-96 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（２時間）
6	使用者の業務命令権と配転	・配転、出向、転籍 ・使用者の業務命令権 ・人事考課	教科書第２編第３章の５、６（96 頁-109 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（２時間）
7	賃金	・賃金と退職金 ・賃金支払の原則 ・休業手当	教科書第２編第４章（110 頁-131 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
8	労働時間	・労働時間の意味 ・労働時間規制の原則と例外	教科書第２編第５章の１から６（132 頁-154 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
9	休憩・休日 年次有給休暇	・休憩に関する規制 ・年休権の内容	教科書第２編第５章の７から第６章まで（154 頁-174 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
10	年少者と女性労働者の保護	・年少者と女性労働者の労働規制	教科書第２編第７章（175 頁-184 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
11	安全衛生と災害補償	・使用者の安全配慮義務 ・労働災害の補償	教科書第２編第８章（185 頁-204 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
12	就業規則	・就業規則の意義とその効果	教科書第２編第９章（205 頁-223 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
13	懲戒	・使用者の懲戒権の法的根拠 ・懲戒処分の内容	教科書第２編第１０章（224 頁-242 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
14	解雇・定年・退職	・解雇の法理	教科書第２編第１１章（243 頁-271 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
15	まとめ・追補	これまでのまとめと、あまり触れられなかった問題の補足	今まで学んだことで自分がわかりにくかった部分がどこかを確認しておくこと（1 時間）

関連科目：日本国憲法、民法Ⅰ、民法Ⅱ、労働法Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	労働法［第１２版］	安枝英訷・西村健一郎	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	労働判例百選［第９版］		有斐閣
2			
3			

評価方法（基準）	期末テスト（７割）、授業中の小テスト（2 割）、出席状況（1 割）を総合して評価します。受講者が少ない場合、学期末テストに代えてレポートを実施する可能性があります。
学生へのメッセージ	労働法は近い将来の皆さんの生活に極めて身近なものとなる法律です。意識的・主体的に学習に取り組んで下さい。
担当者の研究室等	11 号館９階　川谷研究室
備考	小テストを行った場合、次回講義時にその解説をします。

科目名	労働法Ⅰ	科目名（英文）	Labor Law Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	川谷　道郎
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	労働法は労働者と使用者との契約関係を規律する「労働保護法」と労働組合の団体行動を規律する「労働団体法」の２分野に大きく分けられますが、この授業では労働保護法をその対象とします。具体的には労働契約法、労働基準法を中心として、必要に応じて雇用機会均等法、派遣労働者法といった周辺の法律の規定にも触れていきます。 契約関係の基本となるのは「民法」ですが、民法が個人の自由・独立、契約自由の原則といった市民法の原理に貫かれているのに対し、労働法は労働者の保護を基調とした社会法としての性格を持っています。そのような労働法の性格を実際の法規定に照らして実感してもらうことがこの講義の目的です。
到達目標	この授業を通じて学生は労働者の保護という法律の目的が、具体的にどのような規定によって実現されているのかを理解し、低賃金労働、長時間労働、労働災害、外国人労働者問題といった現実の社会で生起している問題を法律の観点からとらえ、問題の解決の方向を見出すことができるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義は後記教科書を使用するほか、適宜レジュメを配布して行います。また、関連する判例や資料を指定することもあります。授業には教科書および六法を必ず携行してください。少なくとも１度は、授業中に確認のためのテストを行います。
科目学習の効果（資格）	労働基準監督官や公務員試験での出題が考えられます。学生の多くは卒業後に就職することになるでしょうが、労働法の知識は社会生活を送るうえで極めて有用なものであるはずです。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	労働法の意義と体系	・労働法の全体像、規律構造 ・法の中で労働法がどのような位置を占めるのかについて述べる。	教科書第１編の第１、２章（２頁－１４頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
2	労働法の基本構造	・労働者が持つ憲法上の権利	教科書第１編第３章（１５頁－２２頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
3	労働者保護の一般原則	・労働者、使用者の概念 ・労働基準法の適用範囲	教科書第２編第１、２章（２４頁-６３頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（２時間）
4	労働契約の成立	・労働契約の基本 ・採用の意味	教科書第２編第３章の１、２（64 頁-79 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（２時間）
5	労働契約の規制	・労働契約の法的規制 ・労働契約における権利と義務	教科書第２編第３章の３、４（79 頁-96 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（２時間）
6	使用者の業務命令権と配転	・配転、出向、転籍 ・使用者の業務命令権 ・人事考課	教科書第２編第３章の５、６（96 頁-109 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（２時間）
7	賃金	・賃金と退職金 ・賃金支払の原則 ・休業手当	教科書第２編第４章（110 頁-131 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
8	労働時間	・労働時間の意味 ・労働時間規制の原則と例外	教科書第２編第５章の１から６（132 頁-154 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
9	休憩・休日 年次有給休暇	・休憩に関する規制 ・年休権の内容	教科書第２編第５章の７から第６章まで（154 頁-174 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
10	年少者と女性労働者の保護	・年少者と女性労働者の労働規制	教科書第２編第７章（175 頁-184 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
11	安全衛生と災害補償	・使用者の安全配慮義務 ・労働災害の補償	教科書第２編第８章（185 頁-204 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
12	就業規則	・就業規則の意義とその効果	教科書第２編第９章（205 頁-223 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
13	懲戒	・使用者の懲戒権の法的根拠 ・懲戒処分の内容	教科書第２編第１０章（224 頁-242 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
14	解雇・定年・退職	・解雇の法理	教科書第２編第１１章（243 頁-271 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
15	まとめ・追補	これまでのまとめと、あまり触れられなかった問題の補足	今まで学んだことで自分がわかりにくかった部分がどこかを確認しておくこと（1 時間）

関連科目：日本国憲法、民法Ⅰ、民法Ⅱ、労働法Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	労働法［第１２版］	安枝英訷・西村健一郎	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	労働判例百選［第９版］		有斐閣
2			
3			

評価方法（基準）	期末テスト（７割）、授業中の小テスト（2 割）、出席状況（1 割）を総合して評価します。受講者が少ない場合、学期末テストに代えてレポートを実施する可能性があります。
学生へのメッセージ	労働法は近い将来の皆さんの生活に極めて身近なものとなる法律です。意識的・主体的に学習に取り組んで下さい。
担当者の研究室等	11 号館９階　川谷研究室
備考	小テストを行った場合、次回講義時にその解説をします。

科目名	労働法Ⅱ	科目名（英文）	Labor Law II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	川谷　道郎
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	労働法は労働者と使用者との契約関係を規律する「労働保護法」と労働組合の団体行動を規律する「労働団体法」の２分野に大きく分けられますが、この授業では双方の分野を含めて労働法を概観します。
到達目標	この授業を通じて、学生は労働者の保護という法律の目的が具体的にどのような規定によって実現されているのかを理解し、低賃金労働、長時間労働、労働災害、外国人労働者問題といった現実の社会で生起している問題を法律の観点からとらえ、問題の解決の方向を見出すことができるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義は後記教科書を使用するほか、適宜レジュメを配布して行います。また、関連する判例や資料を指定することもあります。授業には教科書および六法を必ず携行してください。期間中に小テストを行うことがあります。
科目学習の効果（資格）	労働基準監督官や公務員試験での出題が考えられます。学生の多くは卒業後に就職することになるでしょうが、労働法の知識は社会生活を送るうえで極めて有用なものであるはずです。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	労働法の意義と基本構造	・労働法の全体像、規律構造 ・労働者の権利について	教科書第１編（2 頁－22 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
2	労働者保護の一般原則 労働契約	・労基法の適用範囲 ・労働契約の基本	教科書第２編第１章から第３章の２まで(２４頁-79 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（２時間）
3	労働契約の当事者の権利義務	・労働契約の法的規制 ・労働契約における権利と義務 ・配転と使用者の業務命令権	教科書第２編第３章の３から６まで（79 頁-109 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（２時間）
4	賃金	・賃金と退職金 ・賃金支払の原則 ・休業手当	教科書第２編第４章（110 頁-131 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
5	労働時間	・労働時間の意味 ・労働時間規制の原則と例外	教科書第２編第５章の１から６（132 頁-154 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
6	休憩・休日 年次有給休暇 年少者と女性労働者の保護	・休憩に関する規制 ・年休権の内容 ・年少者と女性労働者の労働規制	教科書第２編第５章の７から第７章まで（154 頁-184 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
7	安全衛生と災害補償	・使用者の安全配慮義務 ・労働災害の補償	教科書第２編第８章（185 頁-204 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
8	就業規則	・就業規則の意義とその効果	教科書第２編第９章（205 頁-223 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
9	懲戒	・使用者の懲戒権の法的根拠 ・懲戒処分の内容	教科書第２編第１０章(224 頁-242 頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
10	解雇・定年・退職 多様な働き方	・解雇の法理 ・パート労働、派遣労働	教科書第２編第１１、１２章（243 頁-286 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること(１時間)
11	労働組合の基本	労働組合の意義と目的	教科書第４編第１、２章（312 頁-329 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
12	団体交渉と労働協約	・団体交渉権の保障とその範囲 ・労働協約の効力	教科書第４編第３、４章（330 頁-354 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
13	労働争議	・争議行為の意義と限界	教科書第４編第５章（355 頁-379 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
14	組合活動と不当労働行為	・就業時間中の組合活動 ・不当労働行為の意義と救済	教科書第４編第６、７章（380 頁-418 頁）を予め読み、事後には配布資料を検討すること（１時間）
15	まとめ・追補	これまでのまとめと、あまり触れられなかった問題の補足	今まで学んだことで自分がわかりにくかった部分がどこかを確認しておくこと（1 時間）

関連科目：日本国憲法、民法Ⅰ、民法Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	労働法［第１２版］	安枝英訷・西村健一郎	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	労働判例百選［第９版］		有斐閣
2			
3			

評価方法（基準）	期末テスト（7 割）、授業中の小テスト（2 割）、授業への参加状況（1 割）を総合して評価します。受講者が少ない場合、学期末テストに代えてレポートを実施する可能性があります。
学生へのメッセージ	現実社会では、労働の場面において、様々な問題が生じています。そして、それは、経営者側からも、労働者側からも、問題解決の必要性があります。労働関係に関する法律を学ぶことは、企業経営に不可欠といえますので、意識的・主体的に学習に取り組んでいただければと思います。
担当者の研究室等	11 号館９階　川谷研究室
備考	小テストを実施した場合、次回講義で問題の解説を行います。

基　礎　科　目

科目名	英語Ⅰa	科目名（英文）	English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ｸﾞﾗﾝﾄ ﾊﾞｰﾐﾝﾊﾑ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Course introduction	Syllabus will be explained. Textbook layout and purposes will be discussed. Getting to know each other Communication activity,	
2	Unit1 Meeting and greeting people.	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework/review prints provided.
3	Unit 1&2. Daily Life	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework/review prints provided.
4	Unit 2 Free Time Activities.	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework/review prints provided.
5	Unit 3 Hobbies and sports.	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework/review prints provided.
6	Unit 3 & Review	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework/review prints provided.
7	Quiz: Midterm Assessment Activity and review.	Test and review.	
8	Unit 4 Cities and Towns.	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework/review prints provided.
9	Unit 4 & 5 Getting around.	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework/review prints provided.
10	Unit 5 Directions.	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to	Homework/review prints provided.

		introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	
11	Unit 6 Shopping.	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework/review prints provided.
12	Unit 6 and Review.	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework/review prints provided.
13	Quiz: End of Term Assessment Activity and review.	Presentation Skills will be examined including posture, voice inflection, and the appropriate use of gestures and visuals.	Homework/review prints provided.
14	Communication activities.	Group activity.	
15	Issues and review.	Communication activity.	

関連科目

他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Breakthrough Plus 1	Miles Craven	MACMILLAN
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

全学共通英語課題 A　20%
全学共通英語課題 B　10%
授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　70%

学生へのメッセージ

You need to come on time with your text book and completed homework open on the desk ready to learn. Students who participate fully will do well.

担当者の研究室等

7 号館 2 階非常勤講師室

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅰa	科目名（英文）	English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョン　カール
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Course introduction Unit 1	Syllabus will be explained. Textbook layout and purposes will be discussed. Getting to Know You	
2	Unit 1 continued	Getting to Know You	Homework
3	Unit 2	Food & Drink	Homework
4	Unit 3	Your Neighborhood	Homework
5	Unit 4	Daily Routines	Homework
6	Unit 5	Entertainment	Homework
7	Review /Preparation / Quiz		Homework
8	Midterm Assessment Activity /Quiz		
9	Unit 6	Friends & Dating	Homework
10	Unit 7	Fashion & Style	Homework
11	Unit 8	University Life	Homework
12	Unit 9	Shopping	Homework
13	Unit 10	Travel	Homework
14	Review / Preparation / Quiz		Homework
15	End of Term Assessment Activity / Quiz		

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　70%
学生へのメッセージ	Bring your textbook to every class. Let's enjoy speaking in English together!
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅰa	科目名（英文）	English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ブルース　ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Course introduction	Syllabus will be explained. Textbook layout and purposes will be discussed. Getting to know each other Communication activity,	
2	Unit1	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework/review prints provided.
3	Unit 1	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework/review prints provided.
4	Unit 2	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework/review prints provided.
5	Unit 2	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework/review prints provided.
6	Unit 3	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework/review prints provided.
7	Unit 3	Test and review.	
8	Test	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework/review prints provided.
9	Unit 4	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework/review prints provided.
10	Unit 4	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials.	Homework/review prints provided.

		Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	
11	Unit 5	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework/review prints provided.
12	Unit 5	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework/review prints provided.
13	Unit 6	Presentation Skills will be examined including posture, voice inflection, and the appropriate use of gestures and visuals.	Homework/review prints provided.
14	Unit 6	Group activity.	
15	Test (Units 1-6)		

関連科目

他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand 1	Helgesen, Brown, and Wiltshier	Pearson Longman
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

全学共通英語課題 A　20%
全学共通英語課題 B　10%
授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　70%

学生へのメッセージ

Do your best and enjoy the class.
Remember, participating in class activities is very important.

担当者の研究室等

7 号館 2 階非常勤講師室

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅰa	科目名（英文）	English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	スコット　ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation	Orientation	Follow orientation instructions.
2	Conversation Strategies	Students will learn how to make comments, follow-up questions, and how to add detail in their speaking. Pair and group work activities will be used.	Follow instructions as provided in class.
3	Unit 1	Text and pair work activities. Vocabulary and Grammar will be emphasised.	Follow instructions as provided in class.
4	Unit 1	Students will combine the vocabulary and grammar of the unit with speaking strategies to take part in conversation based activities.	Follow instructions as provided in class.
5	Unit 2	Text and pair work activities. Vocabulary and Grammar will be emphasised.	Follow instructions as provided in class.
6	Unit 2	Students will combine the vocabulary and grammar of the unit with speaking strategies to take part in conversation based activities.	Follow instructions as provided in class.
7	Unit 4	Text and pair work activities. Vocabulary and Grammar will be emphasised.	Follow instructions as provided in class.
8	Midterm Writing Assessment	Students will complete a small group written task to demonstrate their knowledge of the materials learned.	Follow assessment instructions
9	Midterm Speaking Assessment	Students will complete a small group speaking task to demonstrate their knowledge of the materials learned.	Follow assessment instructions.
10	Unit 5	Text and pair work activities. Vocabulary and Grammar will be emphasised.	Follow instructions as provided in class.
11	Unit 5	Students will combine the vocabulary and grammar of the unit with speaking strategies to take part in conversation based activities.	Follow instructions as provided in class.
12	Unit 6	Text and pair work activities. Vocabulary and Grammar will be emphasised.	Follow instructions as provided in class.
13	Unit 6	Students will combine the vocabulary and grammar of the unit with speaking strategies to take part in conversation based activities.	Follow instructions as provided in class.
14	Final Writing Assessment	Students will complete a small group written task to demonstrate their knowledge of the materials learned.	Follow assessment instructions.
15	Final Speaking Assessment	Students will complete a small group speaking task to demonstrate their knowledge of the materials learned.	Follow assessment instructions.

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Stretch 1 (ISBN 9780194603126)	Susan Stempleski	Oxford
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　70%
学生への メッセージ	I'm looking forward to teaching you this year. Please participate fully in pair and group work, and enjoy the class.
担当者の 研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅰa	科目名（英文）	English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	山本　尚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1301c1		

基礎科目

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、プリント教材	授業の進め方を説明した後、プリント教材を使った学習を行う。	テキストの予習と単語の学習
2	That's Ashley Brown!	様々な be 動詞の使い方の確認	テキストの予習と単語の学習
3	Ashley, Where Are You?	命令文を使った表現	テキストの予習と単語の学習
4	Sorry Tom	現在形、現在進行形の使い分け	テキストの予習と単語の学習
5	Talk to You Later	様々な代名詞の使い方	テキストの予習と単語の学習
6	Lunch at Karen's Place	過去形、過去進行形の使い分け	テキストの予習と単語の学習
7	I'm Really Excited	過去形、現在完了形を使った表現	テキストの予習と単語の学習
8	Here I Am	様々な時を表す前置詞の使い分け	テキストの予習と単語の学習
9	What Did You Make?	可算名詞、不可算名詞の確認	テキストの予習と単語の学習
10	I'm So Tired!	未来についての表現	テキストの予習と単語の学習
11	Just Relax and Have Fun (1)	様々な助動詞の使い分け	テキストの予習と単語の学習
12	Just Relax and Have Fun (2)	様々な助動詞の使い分け	テキストの予習と単語の学習
13	I'll Have Water	様々な接続詞の使い分け	テキストの予習と単語の学習
14	A Hot Dog Would Be Great!	様々な疑問文	テキストの予習と単語の学習
15	まとめテスト、復習	これまでの内容の復習およびまとめテストを行う。	前期の内容の復習

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Upload	.Robert Hickling 他	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　70%
学生へのメッセージ	辞書を持参して毎回出席するように心がけること。積極的に授業に参加し、課題に取り組むこと、しっかりメモをとることが大切です。解らないことがあれば、必ず質問して下さい。
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅰa	科目名（英文）	English Ia
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中野　華子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の説明、自己紹介	テキストの予習と単語の学習
2	Unit 1 I'm a Big Fan　（1）	Be 動詞（1）	テキストの予習と単語の学習
3	Unit 1 I'm a Big Fan　（2）	Be 動詞（2）	テキストの予習と単語の学習
4	Unit 2 He's Kissing Her (1)	現在進行形（1）	テキストの予習と単語の学習
5	Unit 2 He's Kissing Her (2)	現在進行形（2）	テキストの予習と単語の学習
6	Unit 3 I Don't Have Any Money (1)	現在形・肯定文と否定文（1）	テキストの予習と単語の学習
7	Unit 3 I Don't Have Any Money (2)	現在形・肯定文と否定文（2）	テキストの予習と単語の学習
8	Unit 4 What Do You Do Every Day? (1)	現在形・疑問文（1）	テキストの予習と単語の学習
9	Unit 4 What Do You Do Every Day? (2)	現在形・疑問文（2）	テキストの予習と単語の学習 暗唱テストの予習
10	暗唱テスト	会話文をペアで暗唱	テキストの予習と単語の学習
11	Unit 5 Wow! Is That Your Car? (1)	代名詞（1）	テキストの予習と単語の学習
12	Unit 5 Wow! Is That Your Car? (2)	代名詞（2）	テキストの予習と単語の学習
13	Unit 6 Be Careful! (1)	命令文（1）	テキストの予習と単語の学習
14	Unit 6 Be Careful! (2)	命令文（2）	テキストの予習と単語の学習
15	まとめテスト・復習	これまでの内容の復習とまとめのテスト	これまでの内容の復習

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Charge	Robert Hickling、市川泰弘	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　70%
学生へのメッセージ	辞書を持参して必ず毎回出席すること、指定された個所を予習しておくことを心掛けてください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅰb	科目名（英文）	English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル　マリンズ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1302c1		

基礎科目

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれ ば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれ ば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting a stranger.
2	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting people you know. You will use these phrases at the beginning of every class from next lesson onward!
3	Unit 1: Describing hobbies (using present perfect continuous tense). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouponlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
4	Unit 1: Describing hobbies (using present perfect continuous tense). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouponlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
5	Unit 2: Describing TV shows (using indirect questions). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouponlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
6	Unit 2: Describing TV shows (using indirect questions). / Units 1&2 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouponlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
7	Unit 3: Talking about art (using passive tense). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation,	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading	Complete online homework (sc3e.ouponlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.

		listening and reading exercises in pairs and groups.	and listening tasks.	
	8	Unit 3: Talking about art (using passive tense). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouponlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	9	Unit 4: Describing people (using relative clauses). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouponlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	10	Unit 4: Describing people (using relative clauses). / Units 3&4 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouponlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	11	Unit 5: Discussing technology (using infinitives and gerunds). Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouponlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	12	Unit 5: Discussing technology (using infinitives and gerunds). Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouponlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	13	Unit 6: Describing events (using the past perfect tense). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouponlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
	14	Unit 6: Describing events (using the past perfect tense) / Units 5 & 6 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Correct incorrect answers and reflect on unit test feedback.
	15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Practice English level 'maintenance' methods.
関連科目				

基礎科目

教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Smart Choice: 3rd Edition Level 2 Student Book with Online Practice, ISBN-13: 9780194602730)	Wilson, K.	Oxford University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	Class participation / Online homework sc3e.ouponlinepractice.com (10%) Unit review tests (3x30%) In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks.
学生への メッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays', particularly in Australia, should you have any. N.B.: Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. If you are more than 30 minutes late for a class, it will be counted as an absence.
担当者の 研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する 事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内 で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅰb	科目名（英文）	English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー　ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction オリエンテーション テキスト Getting to Know You, Class Rules, Evaluation, etc.	Introduction exercises Getting to Know You	Students should study the content of the day's lesson
2	単語テスト Exercises－Getting to Know You Pt 2	次回の単語テストの予習 テキスト Getting to Know You	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	単語テスト Exercises - Food & Drink	次回の単語テストの予習 テキスト Eating Habits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	単語テスト Exercises - Your Neighbourhood	テキスト Living Conditions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises－Daily Routines	次回の単語テストの予習 テキスト Personal Schedules	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
6	単語テスト Exercises－Daily Routines	次回の単語テストの予習 テキスト Personal Schedules	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	単語テスト Exercises - Entertainment	次回の単語テストの予習 テキスト Movies, TV, Music	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	単語テスト Exercises - Friends & Dating	テキスト Relationships, Going Out	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises－Fashion & Style	次回の単語テストの予習 テキスト Dress for Success	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
10	単語テスト Exercises - University Life	次回の単語テストの予習 テキスト Education, Club Activities	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	単語テスト Exercises - University Life	テキスト Student Life	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises - Shopping	次回の単語テストの予習 テキスト Clothes, Supermarket, On-line	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
13	単語テスト Exercises - Travel	次回の単語テストの予習 テキスト Travel Experience	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	単語テスト Exercises - Summer Vacation	テキスト Summer Activities	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	Review Test and Feedback Session	Feedback session	Students should prepare for review test

関連科目：なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	PASSPORT SECOND EDITION	Angela Buckingham	OXFORD
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）
25% of Grade on class participation, attendance and attitude
25% of Grade on end-of-unit quizzes

	50% of Grade on Review Test (in-class Final Test)
学生への メッセージ	興味のもてる内容のテキストを選びました。言葉とは文化と密接な関係にあるもの。文化的知識を楽しみながらリスニング、や音読を練習しましょう。語彙も増やして行きましょう。 Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です。辞書を必ず持参し、配布物をしっかり整理してよく復習する事。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅰb	科目名（英文）	English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ﾘﾁｬｰﾄﾞ ﾀﾞｨｱｰｽ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introductions	Reading, writing, listening and speaking exercises	
2	Unit 1Introductions and personal information.	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
3	Unit 1	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
4	Unit 2 Descriptions of people and families	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
5	Unit 2	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
6	Unit 3 Schedules and routines	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
7	Unit 3	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
8	Unit 4 Locations	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
9	Unit 4	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
10	Unit 5 Giving directions	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
11	Unit 5	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
12	Unit 6 Past experiences	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
13	Unit 6	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
14	Review	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
15	Test	Test	....

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Hand 1　Fifth Edition	Marc Helgesen	Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Attendance 40%, Participation 30%, test 30%
学生へのメッセージ	Please bring the textbook, pen, pencil, paper and a dictionary (or use an online dictionary on your cell phone) to every class.
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅰb	科目名（英文）	English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ｼﾞｪｰﾝ ﾊﾟｰﾒﾝﾀｰ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1302c1		

基礎科目

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction　オリエンテーション	Introductions, explaining the class..	No preparation required. 準備は必要ありません。
2	Unit 1　Lifestyles.	Asking people about themselves. Telling about yourself.	Pages 4 - 5.
3	Unit 1　Lifestyles continued.	Exchanging personal information.	Pages 6 - 8.
4	Unit 2　Student Life.	Describing your student life.	Pages 10 - 11.
5	Unit 2　Student Life continued.	Describing daily routines.	Pages 12 - 14.
6	Unit 3　Hobbies and interests.	Talking about people's interests.	Pages 16 - 17.
7	Unit 3　Leisure time and abilities.	How you spend your free time.	Pages 18 - 20.
8	Mid-term test of unts 1-3. Special topic.	Mid-term test of unts 1-3. Special topic.	Review of grammar and vocabulary of units 1 - 3.
9	Unit 4　Neighborhoods.	Talking about your hometown.	Pages　24 - 25.
10	.Unit 4　Neighborhoods continued.	Neighborhood facilities.	Pages　26 - 28.
11	Unit 5　Directions and travel	How to describe where things are.	Pages 30 - 31.
12	Unit 5　Direction and travel continued.	Finding places when you travel.	Pages 32 - 34.
13	Unit 6　Shopping and money.	Expressions for money and travel.	Pages 36 - 37.
14	Unit 6　Shopping and money continued.	Talking about shopping.	Pages 38 - 39.
15	Test of units 4 - 6.	Test of units 4 - 6.	Review of grammar and vocabulary of units 4 - 6.

関連科目：なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Breakthrough Plus 1, 2nd edition	Miles Craven	MacMillan　ISBN: 9781380003089
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	辞書		
2			
3			

評価方法（基準）	出席授業参加態度: 40%. 中間テスト: 30% 期末テスト: 30%
学生へのメッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。 I'm looking forward to meeting you in April! Please relax and don't worry about making mistakes! I hope you will enjoy our English classes!
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。　※専任教員は「・・・行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。」とする。

科目名	英語Ⅰb	科目名（英文）	English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	マーティン　オイクル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1302c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction　オリエンテーション	Introductions, explaining the class..	No preparation required. 準備は必要ありません。
2	Unit 1　Greetings.	Countries and nationalities.	Pages 6 - 8.
3	Unit 1　Greetings.	Countries and nationalities.	Pages 7, 9, 102.
4	Unit 2　Personal information.	Exchanging personal details.	Pages 12 - 14.
5	Unit 2　Personal information.	Exchanging personal details.	Pages 13, 15, 103.
6	Unit 3　Friends and family.	Talking about your family.	Pages 18 - 20.
7	Unit 3　Friends and family.	Talking about your family.	Pages 19, 21, 104.
8	Mid-term test. Units 1 - 3. Special topic.	Mid-term test. Units 1 - 3. Special topic.	Review of grammar and vocabulary of units 1 - 3.
9	Unit 4　Personal possessions.	Identifying personal possessions.	Pages 26 - 28.
10	Unit 4　Personal possessions.	Identifying personal possessions.	Pages 27, 29, 105.
11	Unit 5　Interests.	Talking about things you like.	Pages 32 - 34.
12	Unit 5　Interests.	Talking about things you like.	Pages 33, 35, 106.
13	Unit 6　Lifestyles.	Talking about your lifestyle.	Pages 38 - 40.
14	Unit 6　Lifestyles.	Talking about your lifestyle.	Pages 39, 41, 107.
15	Test of units 4 - 6.	Test of units 4 - 6.	Review of grammar and vocabulary of units 4 - 6.

関連科目：なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Breakthrough Plus Intro, 2nd edition	Miles Craven	MacMillan ISBN: 9781380003287
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	辞書		
2			
3			

評価方法（基準）	出席授業参加態度: 50%. 中間テスト: 25% 期末テスト: 25%
学生へのメッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。　※専任教員は「・・・行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。」とする。

科目名	英語Ｉｂ	科目名（英文）	English Ib
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦　茂寿
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1302c1		

基礎科目

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題などの授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	高校までの基本的英文法の復習及び英検や TOEIC 等の検定・資格試験にも役立つ知識の養成。 ＴＯＥＩＣテストに有効な単語力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明	――――
2	Unit1　My Hometown　故郷を紹介しよう	be 動詞	教科書 p.1-6
3	Unit2　Hobbies　趣味もいろいろ	一般動詞	教科書 p.7-12
4	Unit3　Shopping　買い物に行くならどこ？	名詞、代名詞	教科書 p.13-18
5	Unit4　Nature Quiz　クイズに挑戦	Wh 疑問文	教科書 p.19-24
6	Unit5　Dream House　理想的な住まいとは？	前置詞	教科書 p.25-30
7	Unit6　Food　好きな食べ物は何!?	接続詞	教科書 p.31-36
8	Unit 7 First Date デートは最初が肝心	過去形	教科書 p.37-42
9	Unit8　Detective Story 探偵は真実を求める	進行形	教科書 p.43-48
10	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	――――
11	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	――――
12	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	――――
13	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	――――
14	資格、検定などの問題またはリスニング演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	――――
15	総合復習	定期試験対策	――――

関連科目：英語Ｉ、英語ＩＩ、英語ＩＶ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Ace	山本厚子、大須賀直子、真野千佳子、岡本京子、Benedict ROwlett	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test　学校語彙で学ぶ TOEIC テスト（単語集）	西谷悟志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験(70%)、 授業中の小テスト(5%)、平常点(提出物、授業への参加、貢献度含め 25%)の点数を総合評価します。また、日頃の授業態度も重視します。
学生へのメッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。また折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
担当者の研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅰc	科目名（英文）	English Ic
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ｸﾞﾗﾝﾄ ﾊﾞｰﾐﾝﾊﾑ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1303c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Course Introduction Taking about summer break Start Unit 7	Course Pre-view and explanation.	
2	Unit 7 What is happening.	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework review sheets will be provided.
3	Unit 7 & 8 People	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework review sheets will be provided.
4	Unit 8 appearance and character.	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework review sheets will be provided.
5	Unit 9 Making arrangements	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework review sheets will be provided.ue
6	Unit 9 Socializing and review	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Review Units 7-9
7	Midterm Quiz Assessment Activity and review.	Material from Lessons 2-6 will reviewed and students' competence will be assessed	
8	Unit 10 Vacations	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework review sheets will be provided.
9	Unit 10 and 11 Sightseeing and Important Events in Life.	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework review sheets will be provided.
10	Unit 11 Life stories.	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials.	Homework review sheets will be provided.

		Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	
11	Unit 12 Hopes and Intentions.	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework review sheets will be provided.
12	Unit 12 Intentions and Review.	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework review sheets will be provided.
13	Seasonal Activities.	Songs and stories.	
14	Review.		Studied Units 10-12
15	Quiz (Units 10-12) and Review.		

関連科目

他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	BreakThrough Plus 1	Miles Craven	MACMILLAN
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

全学共通英語課題 A　20%
全学共通英語課題 B　10%
授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　70%
※2019 年 11 月下旬に実施される TOEIC Bridge の受験が本科目の単位取得要件となる。

学生へのメッセージ

Come to class on time with your textbook and completed homework open on your desk ready to start.
Joining in class activities and following instructions given in English is very important.

担当者の研究室等

7 号館 2 階非常勤講師室

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅰc	科目名（英文）	English Ic
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョン　カール
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1303c1		

授業概要・目的

比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。

到達目標

(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。
(2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。
(3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。

授業方法と留意点

演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。

科目学習の効果（資格）

TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Course Review Taking about summer break Start Unit 7	Summer Vacation	
2	Unit 11	Summer Vacation continued	Homework
3	Unit 12	Family & Home	Homework
4	Unit 13	Eating Out	Homework
5	Unit 14	Work (Part-time Jobs & Future Career)	Homework
6	Unit 15	Marriage & Family Life	Homework
7	Review /Preparation / Quiz		Homework
8	Midterm Assessment Activity /Quiz		
9	Unit 16	People	Homework
10	Unit 17	Sightseeing in Japan	Homework
11	Unit 18	Holidays & Special Days	Homework
12	Unit 19	Big Issues	Homework
13	Unit 20	Future Plans	Homework
14	Review / Preparation / Quiz		Homework
15	End of Term Assessment Activity / Quiz		

関連科目

他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

全学共通英語課題 A　20%
全学共通英語課題 B　10%
TOEIC Bridge　10%
授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　60%
※2019 年 11 月下旬に実施される TOEIC Bridge の受験が本科目の単位取得要件となる。

学生へのメッセージ

Bring your textbook to every class. Let’s enjoy speaking in English together!

担当者の研究室等

7 号館 2 階非常勤講師室

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅰc	科目名（英文）	English Ic
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ブルース　ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1303c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Term Introduction	Term Pre-view and explanation.	
2	Unit 7	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework review sheets will be provided.
3	Unit 7	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework review sheets will be provided.
4	Unit 8	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework review sheets will be provided.
5	Unit 8	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework review sheets will be provided.ue
6	Unit 9	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Review Units 7-9
7	Unit 9	Material from Lessons 2-6 will reviewed and students' competence will be assessed	
8	Test	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework review sheets will be provided.
9	Unit 10	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework review sheets will be provided.
10	Unit 10	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the	Homework review sheets will be provided.

		language.	
11	Unit 11	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework review sheets will be provided.
12	Unit 11	Vocabulary introduction. Individual/Pair listening and speaking tasks will be used to introduce new materials. Group work and role plays will be used extensively to practice using the language.	Homework review sheets will be provided.
13	Unit 12	Review	
14	Unit 12		Studied Units 7-12
15	Quiz (Units 7-12)		

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Firsthand English 1	Helgesen, Brown, and Wiltshier	Pearson Longman
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　70% ※2019 年 11 月下旬に実施される TOEIC Bridge の受験が本科目の単位取得要件となる。
学生への メッセージ	Do your best and enjoy the class. Remember, joining in class activities and following instructions given in English is very important.
担当者の 研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅰc	科目名（英文）	English Ic
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	スコット　ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1303c1		

基礎科目

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation	Orientation	Follow orientation instructions.
2	Conversation Strategies	Students will learn strategies to help them communicate when difficulties arise. These include asking clarification questions and making comprehension checks.	Follow instructions as provided in class.
3	Unit 7	Text and pair work activities. Vocabulary and Grammar will be emphasised.	Follow instructions as provided in class.
4	Unit 7	Students will combine the vocabulary and grammar of the unit with speaking strategies to take part in conversation based activities.	Follow instructions as provided in class.
5	Unit 9	Text and pair work activities. Vocabulary and Grammar will be emphasised.	Follow instructions as provided in class.
6	Unit 9	Students will combine the vocabulary and grammar of the unit with speaking strategies to take part in conversation based activities.	Follow instructions as provided in class.
7	Conversation Stategy	Students will learn how to give their opinions, as well as how to agree and disagree with others opinions. Pair and group work activities will be used.	Follow instructions as provided in class.
8	Midterm Writing Assessment	Students will complete a small group written task to demonstrate their knowledge of the materials learned.	Follow assessment instructions
9	Midterm Speaking Assessment	Students will complete a small group speaking task to demonstrate their knowledge of the materials learned.	Follow assessment instructions.
10	Unit 10	Text and pair work activities. Vocabulary and Grammar will be emphasised.	Follow instructions as provided in class.
11	Unit 10	Students will combine the vocabulary and grammar of the unit with speaking strategies to take part in conversation based activities.	Follow instructions as provided in class.
12	Unit 12	Text and pair work activities. Vocabulary and Grammar will be emphasised.	Follow instructions as provided in class.
13	Unit 12	Students will combine the vocabulary and grammar of the unit with speaking strategies to take part in conversation based activities.	Follow instructions as provided in class.
14	Final Writing Assessment	Students will complete a small group written task to demonstrate their knowledge of the materials learned.	Follow assessment instructions.
15	Final Speaking Assessment	Students will complete a small group speaking task to demonstrate their knowledge of the materials learned.	Follow assessment instructions.

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Stretch 1 (ISBN 9780194603126)	Susan Stempleski	Oxford
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　70% ※2019 年 11 月下旬に実施される TOEIC Bridge の受験が本科目の単位取得要件となる。
学生への メッセージ	I'm looking forward to teaching you this year. Please participate fully in pair and group work, and enjoy the class.
担当者の 研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅰc	科目名（英文）	English Ic
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	山本　尚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1303c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期の内容の復習、プリント教材	前期の内容の復習をした後、プリント教材を使った学習を行う。	テキストの予習と単語の学習
2	Did You Bring the DVD?	場所と移動を表す前置詞	テキストの予習と単語の学習
3	Meat, Corn, Fruit and Drinks	様々な Wh-疑問文	テキストの予習と単語の学習
4	We Look Pretty Silly	冠詞、one, ones の使い方	テキストの予習と単語の学習
5	It Was Professor Goodman	他動詞と自動詞の使い分け	テキストの予習と単語の学習
6	Are You Free on Monday?	能動態と受動態	テキストの予習と単語の学習
7	I Think I'll Buy It	様々な形容詞を使った表現	テキストの予習と単語の学習
8	For Your Legs and Heart (1)	動名詞と不定詞	テキストの予習と単語の学習
9	For Your Legs and Heart (2)	動名詞と不定詞	テキストの予習と単語の学習
10	My Dad's Old Desktop	形容詞の比較級、最上級を使った表現	テキストの予習と単語の学習
11	Ladies First	様々な副詞を使った表現	テキストの予習と単語の学習
12	I Just Hope We Get There	従位接続詞を使った表現	テキストの予習と単語の学習
13	Let's Get Over There, Quick!	関係詞を使った表現	テキストの予習と単語の学習
14	Let's Do That!	So do I　や Neither do I 等の表現	テキストの予習と単語の学習
15	まとめテスト、復習	これまでの内容の復習およびまとめテストを行う。	後期の内容の復習

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Upload	Robert Hickling 他	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　70% 2019 年 11 月に実施される TOEIC Bridge の受験が本科目の単位取得要件となる。必ず受験すること。
学生へのメッセージ	辞書を持参して毎回出席するように心がけること。積極的に授業に参加し、課題に取り組むこと、しっかりメモをとることが大切です。解らないことがあれば、必ず質問して下さい。
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅰc	科目名（英文）	English Ic
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中野　華子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1303c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期の復習　プリント教材	前期内容のポイントのチェックとプリントを使った課題	テキストの予習と単語の学習
2	Unit 7 let's Meet at the Station (1)	場所を示す前置詞（1）	テキストの予習と単語の学習
3	Unit 7 let's Meet at the Station (2)	場所を示す前置詞（2）	テキストの予習と単語の学習
4	Unit 8 How Was Rome? (1)	was/were (1)	テキストの予習と単語の学習
5	Unit 8 How Was Rome? (2)	was/were (2)	テキストの予習と単語の学習
6	Unit 9 I Read it in a Magazine (1)	過去形・肯定文（1）	テキストの予習と単語の学習
7	Unit 9 I Read it in a Magazine (2)	過去形・肯定文（2）	テキストの予習と単語の学習
8	Unit 10 What Did You Do on Sunday? (1)	過去形・否定文と疑問文（1）	テキストの予習と単語の学習
9	Unit 10 What Did You Do on Sunday? (2)	過去形・否定文と疑問文（2）	テキストの予習と単語の学習 暗唱テストの予習
10	ミニプレゼン	簡単なスピーチを暗記して発表する	テキストの予習と単語の学習
11	Unit 11 The Goats Were Dancing (1)	過去進行形（1）	テキストの予習と単語の学習
12	Unit 11 The Goats Were Dancing (2)	過去進行形（2）	テキストの予習と単語の学習
13	Unit 12 If Animals Could Tali (1)	接続詞（1）	テキストの予習と単語の学習
14	Unit 12 If Animals Could Tali (2)	接続詞（2）	テキストの予習と単語の学習
15	まとめテスト、復習	これまでの内容の復習、まとめのテスト	これまでの内容の復習

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Charge	Robert Hickling, 市川康弘	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　70% ※2019 年 11 月下旬に実施される TOEIC Bridge の受験が本科目の単位取得要件となる。必ず受験すること。
学生へのメッセージ	辞書を持参して必ず毎回出席すること、指定された個所を予習しておくことを心掛けてください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅰd	科目名（英文）	English Id
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル　マリンズ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1304c1		

基礎科目

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力 を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれ ば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれ ば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業 外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めな い。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation, review greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	After the class, practice common phrases used when greeting people you know. You will use these phrases at the beginning of every class from next lesson onward!
2	Unit 7: Describing appearance (using have/get something done). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouponlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
3	Unit 7: Describing appearance (using have/get something done). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouponlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
4	Unit 8: Describing places (using second conditional). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouponlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
5	Unit 8: Describing places (using second conditional). Units 7 & 8 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouponlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
6	Unit 9: Talking about regrets and solutions (using should/would have). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouponlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
7	Unit 9: Talking about regrets and solutions (using should/would have). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouponlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.

8	Unit 10: Speculating on the past (using may, might, could couldn't, and must have). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouponlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
9	Unit 10: Speculating on the past (using may, might, could couldn't, and must have). / Units 9&10 test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouponlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
10	Unit 11: Describing inventions (using the third conditional). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouponlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
11	Unit 11: Describing inventions (using the third conditional). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouponlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
12	Unit 12: Discussing the news (using reported speech). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouponlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
13	Unit 12: Discussing the news (using reported speech). Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (sc3e.ouponlinepractice.com) corresponding to the unit studied in class. Repeat each exercise until you get a score of 100%.
14	Unit 12 review. Units 11 & 12 Test. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Correct incorrect answers and reflect on unit test feedback.
15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Practice English level 'maintenance' methods.

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Smart Choice: 3rd Edition Level 2 Student Book with Online Practice, ISBN-13: 9780194602730)	Wilson, K.	Oxford University Press
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	Class Participation / Online homework assignments (10%) Unit review tests (3x30%) In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks.
学生への メッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays', particularly in Australia, should you have any. N.B.: Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. If you are more than 30 minutes late for a class, it will be counted as an absence.
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　(非常勤講師室)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅰd	科目名（英文）	English Id
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー　ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1304c1		

授業概要・目的

比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。

到達目標

(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。
(2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。
(3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
(4) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。

授業方法と留意点

演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。

科目学習の効果（資格）

TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	First semester final test review	Review of First semester final test	Students should study the content of the day's lesson
2	単語テスト Exercises - Family & Home	次回の単語テストの予習 テキスト Family Life	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	単語テスト Exercises - Eating Out	次回の単語テストの予習 テキスト Restaurant Culture	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	単語テスト Exercises - Work	テキスト Part-time, Career	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises - Work Future	次回の単語テストの予習 テキスト Part-time, Career	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
6	単語テスト Exercises - Marriage, Family Life	次回の単語テストの予習 テキスト Future Plans	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	単語テスト Exercises - People	次回の単語テストの予習 テキスト Appearances	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	単語テスト Exercises - Sightseeing in Japan	テキスト Where to Visit in Japan	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises - Holidays	次回の単語テストの予習 テキスト Japanese & North American Holidays Comparison	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
10	単語テスト Exercises - Big Issues	次回の単語テストの予習 テキスト Global Warming, Natural Disasters, etc.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	単語テスト Exercises - Big Issues	テキスト Global Warming, Natural Disasters, etc.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises - Future Plans	次回の単語テストの予習 テキスト Future Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
13	単語テスト Exercises - Future Plans	次回の単語テストの予習 テキスト Post Graduation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	単語テスト Exercises - Class Review	テキスト Text Review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	Review Test (in-class final test) and Feedback Session	Feedback session	Students should prepare for final test

関連科目

なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press ISBN 978-4-9909741-0-7

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）

25% of Grade on class participation, attendance and attitude
25% of Grade on end-of-unit quizzes
50% of Grade on Review Test (in-class final test)

学生へのメッセージ

興味のもてる内容のテキストを選びました。言葉とは文化と密接な関係にあるもの。文化的知識を楽しみながらリスニング、や音読を練習しましょう。語彙も増やして行きましょう。
Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です。辞書を必ず持参し、配布物をしっかり整理してよく復習する事。

担当者の研究室等

７号館２階　非常勤講師室

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅰd	科目名（英文）	English Id
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ﾘﾁｬｰﾄﾞ ﾀﾞｨｱｰｽ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1304c1		

基礎科目

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Summer Vacation	Reading, writing, listening and speaking exercises	
2	Unit 7 Jobs and Skills	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
3	Unit 7	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
4	Unit 8 Entertainment and Opinions	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
5	Unit 2	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
6	Unit 9 Future Plans and Activities	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
7	Unit 9	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
8	Unit 10 Shopping	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
9	Unit 10	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
10	Unit 11 Giving Instructions	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
11	Unit 11	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
12	Unit 12 Expressing Opinions	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
13	Unit 12	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
14	Review	Reading, writing, listening and speaking exercises	Review this weeks lesson
15	Test	Test	....

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Hand 1Fifth Edition	Marc Helgesen	Pearson
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Attendance 40%, Participation 30%, test 30%
学生へのメッセージ	Please bring the textbook, pen, pencil, paper and a dictionary (or use an online dictionary on your cell phone) to every class.
担当者の研究室等	7 号館 2 階　(非常勤講師室)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅰd	科目名（英文）	English Id
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ｼﾞｪｰﾝ ﾊﾟｰﾒﾝﾀｰ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1304c1		

授業概要・目的

比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。

到達目標

(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。
(2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。
(3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
(4) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。

授業方法と留意点

演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。

科目学習の効果（資格）

TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 7　Your Life.	Describing daily routines.	Pages　44 - 45.
2	Unit 7　Your Life continued.	Talking about what you do. Asking what others do.	Pages 46 - 48.
3	Unit 8　Describing People.	Words and expressions for describing people.	Pages 50 - 51.
4	Unit 8　Describing People continued.	Asking others about people in their lives.	Pages 52　- 54.
5	Unit 9　Future plans.	Talking about what you will do in the future.	Pages 56 - 57.
6	Unit 9　Future plans continued.	How you spend your free time.	Pages 58 - 60.
7	Mid-term test of units 7 - 9. Special topic.	Mid-term test of units 7 - 9. Special topic.	Review of words and grammar of units 7 - 9.
8	Unit 10　Vacations.	Words to describe travel.	Pages 64 - 65.
9	Unit 10　Vacations continued.	Where you like to go on vacation and what you like to do.	Pages 66 - 68.
10	Unit 11　Early Memories.	Describing events in your life.	Pages 70 - 71.
11	Unit 11　Early Memories continued.	Asking about people's lives.	Pages 72 - 74.
12	Unit 12　Hopes and Dreams.	What you would like to do in the future.	Pages 76 - 77.
13	Unit 12　Hopes and dreams continued.	Asking others about their dreams.	Pages 78 - 80.
14	Review	Review of units 10 - 12.	No preparation required.
15	Test of units 10 - 12.	Test of units 10 - 12.	Review of words and grammar of units 10 - 12.

関連科目

なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Breakthrough Plus 1, 2nd edition	Miles Craven	MacMillan　ISBN: 9781380003089
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	辞書		
2			
3			

評価方法（基準）

出席授業参加態度: 40%.
中間テスト: 30%
期末テスト: 30%

学生へのメッセージ

良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。 I'm looking forward to our classes. Please relax and don't worry about making mistakes!

担当者の研究室等

7 号館 2 階 非常勤講師室

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ｉｄ	科目名（英文）	English Id
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	マーティン　オイクル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1304c1		

基礎科目

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 7　Home.	Talking about where you live.	Pages　46 - 48.
2	Unit 7　Home.	Talking about where you live.	Pages 47, 49, 108.
3	Unit 8　Daily routines.	Talking about daily routines.	Pages 52 - 54.
4	Unit 8　Daily routines	Talking about daily routines.	Pages 53, 55,109.
5	Unit 9　Leisure.	Talking about what you do in your free time.	Pages 58 - 60.
6	Unit 9　Leisure.	Talking about what you do in your free time.	Pages 59, 61, 110.
7	Mid-term test. Units 7 - 9. Special topic.	Mid-term test. Units 7 - 9. Special topic.	Review of words and grammar of units 7 - 9.
8	Unit 10　Sports.	Asking about sports.	Pages 66 - 69.
9	Unit 10　Sports.	Asking about sports.	Pages 67, 69, 111.
10	Unit 11　Food.	Talking about food.	Pages 72 - 74.
11	Unit 11 Food	Talking about food.	Pages 73, 75, 112.
12	Unit 12　Vacations.	Talking about vacation activities.	Pages 78 - 80.
13	Unit 12　Vacations.	Talking about vacation activities.	Pages 79, 81, 113.
14	Review	Review of units 10 - 12.	No preparation required.
15	Test of units 10 - 12.	Test of units 10 - 12.	Review of words and grammar of units 10 - 12.

関連科目：なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Breakthrough Plus Intro, 2nd edition	Miles Craven	MacMillan ISBN: 9781380003287
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	辞書		
2			
3			

評価方法（基準）	出席授業参加態度: 50%. 中間テスト: 25% 期末テスト: 25%
学生へのメッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ｉｄ	科目名（英文）	English Id
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦　茂寿
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN1304c1		

基礎科目

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	高校までの基本的英文法の復習及び英検や TOEIC 等の検定・資格試験にも役立つ知識の養成。 ＴＯＥＩＣテストに有効な単語力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションと前期の復習	授業方法、提出物、評価方法についての説明と復習	――――
2	Unit9 Career 経歴を話そう	現在完了形	教科書 p.49-54
3	Unit10 Parties パーティーに行こう！	未来表現	教科書 p.55-60
4	Unit11 Rules and Regulations ルールにもお国柄	助動詞	教科書 p.61-66
5	Unit12 Invention and Discovery 発明、発見にはひらめきが大切	受動態	教科書 p.67-72
6	Unit13 Movie Reviews 映画評論	形容詞、副詞	教科書 p.73-78
7	Unit14 Worls Records 世界記録もさまざま	比較級、最上級	教科書 p.79-84
8	Unit15 Future Dream 将来の夢を語ろう	不定詞、動名詞	教科書 p.85-89
9	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	――――
10	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	――――
11	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	――――
12	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	――――
13	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	――――
14	資格、検定などの問題またはリスニング演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	――――
15	総合復習	定期試験対策	――――

関連科目：英語Ｉ、英語ＩＩ、英語ＩＩＩ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Ace	山本厚子、大須賀直子、真野千佳子、岡本京子、Benedict ROwlett	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 学校語彙で学ぶ TOEIC テスト（単語集）	西谷悟志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験(70%)、 授業中の小テスト(5%)、平常点(提出物、授業への参加、貢献度含め 25%)の点数を総合評価します。また、日頃の授業態度も重視します。
学生へのメッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。また折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
担当者の研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

基礎科目

科目名	英語Ⅱa	科目名（英文）	English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ﾘﾁｬｰﾄﾞ ﾀﾞｨｱｰｽ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2305c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introductions	Meeting other class members	
2	Unit 1 Introducing People	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
3	Unit 1:	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
4	Unit 2: Invitations	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
5	Unit 2	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
6	Unit 2	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
7	Unit 3 Checking Travel Information	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
8	Unit 3	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
9	Unit 3	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
10	Unit 4 Giving and getting directions	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
11	Unit 4	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
12	Unit 4	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
13	Unit 5 Offers and requests	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
14	Unit 5	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
15	Unit 5	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	International Express Elementary	Angela Buckingham	Oxford
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　70%
学生へのメッセージ	予習・復習を怠らないようにし、必ず辞書を持って積極的な授業への参加を期待しています。
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱa	科目名（英文）	English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	湊　由妃子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2305c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業のガイダンス	授業の進め方と評価方法の説明 短いニュースの聴きとりと内容把握	教科書と辞書を持参
2	Unit 1 Sprouting New Sushi Ideas	語彙問題と聴きとり	当該 Unit の予習と復習
3	Unit 1:Sprouting New Sushi Ideas	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit 1 の小テストの準備
4	Unit 2: In the Pole Position	語彙問題と聴きとり Unit 1 の小テスト	当該 Unit の予習と復習
5	Unit 2: In the Pole Position	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit 2 の小テストの準備
6	Unit 3: Easing Off	語彙問題と聴きとり Unit 2 の小テスト	当該 Unit の予習と復習
7	Unit 3 Easing Off	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit3 の小テストの準備
8	Unit 4: In Memory of Monty	語彙問題と聴きとり Unit3 の小テスト	当該 Unit の予習と復習
9	Unit 4: In Memory of Monty	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit 4 の小テストの準備
10	Unit 5: Dating the AI Way	語彙問題と聴きとり Unit4 の小テスト	当該 Unit の予習と復習
11	Unit 5: Dating the AI Way	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit5 の小テストの準備
12	Unit 6: Floating on a Dream	語彙問題と聴きとり Unit 5 の小テスト	当該 Unit の予習と復習
13	Unit 6: Floating on a Dream	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit 6 の小テストの準備
14	Unit 7: Japan Adventurer Completes Grand Slam	語彙問題と聴きとり Unit 6 の小テスト	当該 Unit の予習と復習 前期内容の総復習
15	前期のまとめ	前期の学習範囲の習熟度をテストの形で実施	前期内容の学習

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	NHK NEWSLINE 2	山﨑達朗・Stella M. Yamazaki・Erika C. Yamazaki	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　70%
学生へのメッセージ	予習・復習を怠らないようにし、必ず辞書を持って積極的な授業への参加を期待しています。
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱa	科目名（英文）	English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	山本　尚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2305c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業についての注意事項や進め方の説明をした後プリント教材を使った授業を行う。	テキストを購入して、目を通しておくこと。
2	College Sports (1)	アメリカの大学スポーツについて読む。現在時制の使い方をチェックする。	テキストの予習
3	College Sports (2)	アメリカの大学スポーツについて読む。現在時制の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
4	Hip Hop Music (1)	ヒップホップミュージックの成り立ちについて読む。過去時制の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
5	Hip Hop Music (2)	ヒップホップミュージックの成り立ちについて読む。過去時制の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
6	Travel (1)	人がなぜ旅に出るのかについて読む。進行形の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
7	Travel (2)	人がなぜ旅に出るのかについて読む。進行形の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
8	Video Games (1)	テレビゲームの功罪について読む。完了形の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
9	Video Games (2)	テレビゲームの功罪について読む。完了形の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
10	Recycling (1)	リサイクルによる環境保全について読む。冠詞、代名詞の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
11	Recycling (2)	リサイクルによる環境保全について読む。冠詞、代名詞の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
12	Fast Food (1)	ファーストフードの問題点について読む。可算名詞、不可算名詞をチェックする。	テキストの予習・復習
13	Fast Food (2)	ファーストフードの問題点について読む。可算名詞、不可算名詞をチェックする。	テキストの予習・復習
14	TOEIC の練習	プリント教材を使って、TOEIC の練習問題を行う。	テキストの復習
15	復習、まとめテスト	前期の内容の復習をし、まとめテストを行う。	前期の復習

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Indicator 3 (Intermediate)	Joshua Cohen 他	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　70%
学生へのメッセージ	毎回予習復習をして、積極的に授業に参加することを心がけてください。授業中はしっかりメモを取り、わからないことがあれば必ず質問するようにしてください。予習をチェックする課題提出を求めますので、長文は事前に必ず読んで内容を把握しておいてください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱa	科目名（英文）	English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大江　麻里子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2305c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation	授業の進め方の説明	テキストにさっと目を通しておくこと
2	Chapter 1	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
3	Chapter 1	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
4	Chapter 2	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
5	Chapter 2	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
6	Chapter 3	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
7	Chapter 3	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
8	Chapter 4	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
9	Chapter 4	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
10	Chapter 5	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
11	Chapter 5	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
12	Chapter 6	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
13	Chapter 6	単語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
14	前期の総復習	質疑応答	前期の範囲で分からなかった点などをまとめておく
15	まとめのテスト	これまでの内容の総復習	テキストのこれまでの内容の復習

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Trend Watching２	Jonathan Lynch　他	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　70%
学生へのメッセージ	英語の学習は地道な努力が必要です。授業中にだす指示に従って、積極的に参加してください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱa	科目名（英文）	English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	鈴木　三千代
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2305c1		

基礎科目

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。３回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation	授業の進め方の説明	テキストの予習
2	Welcome to the "Big Apple"	お礼を伝える 動詞の現在形を理解する 自己紹介をする	テキストの予習と単語の学習
3	Welcome to the "Big Apple"	お礼を伝える 動詞の現在形を理解する 自己紹介をする	テキストの予習と単語の学習
4	What's the Boss Like?	感想を述べる 代名詞の使い方に慣れる 友人を紹介する	テキストの予習と単語の学習
5	What's the Boss Like?	感想を述べる 代名詞の使い方に慣れる 友人を紹介する	テキストの予習と単語の学習
6	Masa's First Day on the Job	勤務時間についてたずねる 前置詞の使い方に慣れる 行動予定について書く	テキストの予習と単語の学習
7	Masa's First Day on the Job	勤務時間についてたずねる 前置詞の使い方に慣れる 行動予定について書く	テキストの予習と単語の学習
8	Summer Fun	週末にしたことを述べる 動詞の過去形を理解する ある１日を振り返る	テキストの予習と単語の学習
9	Summer Fun	週末にしたことを述べる 動詞の過去形を理解する ある１日を振り返る	テキストの予習と単語の学習
10	Hotel Guest Satisfaction	相手を励ます 可算名詞・不可算名詞を理解する 大学で必要な物について書く	テキストの予習と単語の学習
11	Hotel Guest Satisfaction	相手を励ます 可算名詞・不可算名詞を理解する 大学で必要な物について書く	テキストの予習と単語の学習
12	Brainstorming	これからすることを提案する 進行形の使い方に慣れる 健康状態について書く	テキストの予習と単語の学習
13	Brainstorming	これからすることを提案する 進行形の使い方に慣れる 健康状態について書く	テキストの予習と単語の学習
14	Glad to Be of Service	助けを求める WH 疑問文の使い方に慣れる 好きな人物を紹介する	テキストの予習と単語の学習
15	まとめテスト、復習	まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Missions!　Basic	Robert Hickling　他	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法	全学共通英語課題 A　20%

（基準）	全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　70%
学生への メッセージ	辞書を持参して毎回出席すること、指定された個所を必ず予習しておくことを心がけてください。授業中は積極的に発表することだけでなく、クラスメートの発表をしっかり聞くことも大切です。今日のように身の回りに英語が溢れているという現状では、英語能力を向上させることによってあらゆる可能性が広がる。英語をより身近に感じ、親しむように心がけて欲しい。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱa	科目名（英文）	English IIa
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	内山　知美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2305c1		

基礎科目

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 教員の指示、注意に従わない行為は、減点、警告の上欠席扱いとする。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション Pre-Unit?? 品詞と語順	授業のすすめかたや成績のつけ方について詳しく説明する。	教科書を購入して、目を通しておく。
2	Unit 1? Jobs & Careers?　現在時制	教科書 Unit 前半を進む。 また、英語の音楽をきいたり、映画を一部観たりする。 さらにその歌詞、台詞にでてくる英語表現の文法、語彙などを学習する。	授業範囲の予習と復習
3	Unit 1　Complicated	教科書 Unit 後半を進む。 前の週に学習した短い英文を復習する。	授業範囲の予習と復習
4	Unit 2? Entertainment?　可算名詞／不可算名詞	教科書 Unit 前半を進む。 また、英語の音楽をきいたり、映画を一部観たりする。 さらにその歌詞、台詞にでてくる英語表現の文法、語彙などを学習する。	授業範囲の予習と復習
5	Unit 2	教科書 Unit 後半を進む。 前の週に学習した短い英文を復習する。	授業範囲の予習と復習
6	Unit 3? Work Schedule?　前置詞	教科書 Unit 前半を進む。 また、英語の音楽をきいたり、映画を一部観たりする。 さらにその歌詞、台詞にでてくる英語表現の文法、語彙などを学習する。	授業範囲の予習と復習
7	Unit 3	教科書 Unit 後半を進む。 前の週に学習した短い英文を復習する。	授業範囲の予習と復習
8	Unit 4? Health & Fitness?　過去時制	教科書 Unit 前半を進む。 また、英語の音楽をきいたり、映画を一部観たりする。 さらにその歌詞、台詞にでてくる英語表現の文法、語彙などを学習する。	授業範囲の予習と復習
9	Unit 4	教科書 Unit 後半を進む。 前の週に学習した短い英文を復習する。	授業範囲の予習と復習
10	Unit 5? Shopping?　進行形	教科書 Unit 前半を進む。 また、英語の音楽をきいたり、映画を一部観たりする。 さらにその歌詞、台詞にでてくる英語表現の文法、語彙などを学習する。	授業範囲の予習と復習
11	Unit 5	教科書 Unit 後半を進む。 前の週に学習した短い英文を復習する。	授業範囲の予習と復習
12	Unit 6? Business Meeting?　代名詞	教科書 Unit 前半を進む。 また、英語の音楽をきいたり、映画を一部観たりする。 さらにその歌詞、台詞にでてくる英語表現の文法、語彙などを学習する。	授業範囲の予習と復習
13	Unit 6	教科書 Unit 後半を進む。 前の週に学習した短い英文を復習する。	授業範囲の予習と復習
14	Unit 7? Recruitment?　現在完了	教科書 Unit7 を進む。 また、英語の音楽をきいたり、映画を一部観たりする。	今までに学習した範囲の、難しかった点や疑問点をまとめておく。
15	まとめのテスト	学習の習得状況を確認する。	前期の範囲の重要事項をまとめて、おぼえてくること。

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Switch	Robert Hickling / 臼倉美里	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂

	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　70%
学生への メッセージ	英語学習は続けることが大切です。授業に出席して英語に触れる時間が増えると、英語力は伸びていきます。楽しい授業にしたいと思っています。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱb	科目名（英文）	English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	ルッケル瀬本　阿矢
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2306c1		

基礎科目

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	・「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、日常生活の様々な場面を想定したトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができることを目標とする。 ・「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、日常生活に関連する英文の基本的な情報を理解できるようになることを目標とする。 ・「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、大学生が英語を使用する具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力と、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	・演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加し、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 ・e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 ・3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation, Questionnaire, Self-Introduction	授業の進め方や予習・復習の仕方、評価方法、英語共通課題などについて説明を行う。また、教科書の内容について導入を行う。	教科書の内容や構成を確認する。（１時間）
2	Unit 1　English Studies (1) 写真描写・会話	・リスニングを中心に、発音の特徴などにも注目しながら学習する。 ・場面に応じた表現や語彙について習得する。	Unit 1 の単・熟語や構文に関する予習と、授業（教科書）内容の復習をする。（１時間）
3	Unit 1　English Studies (2) 語法・文法・語彙 長文読解	・リーディングをを中心に、語法や文法などにも注目しながら学習する。 ・場面に応じた表現や語彙について習得する。	Unit 2 の単・熟語や構文に関する予習と、授業（教科書）内容の復習をする。（１時間）
4	Unit 2　Scheduling and Planning (1) 写真描写・対話・説明文	・リスニングを中心に、発音の特徴などにも注目しながら学習する。 ・場面に応じた表現や語彙について習得する。	Unit 2 の単・熟語や構文に関する予習と、授業（教科書）内容の復習をする。（１時間）
5	Unit 2　Scheduling and Planning (2) 語法・文法・語彙 長文読解	・リーディングをを中心に、語法や文法などにも注目しながら学習する。 ・場面に応じた表現や語彙について習得する。	Unit 2 の単・熟語や構文に関する予習と、授業（教科書）内容の復習をする。（１時間）
6	Unit 3 English Language Proficiency Tests and Business (1) 写真描写・会話	・リスニングを中心に、発音の特徴などにも注目しながら学習する。 ・場面に応じた表現や語彙について習得する。	Unit 3 の単・熟語や構文に関する予習と、授業（教科書）内容の復習をする。（１時間）
7	Unit 3 English Language Proficiency Tests and Business (2) 語法・文法・語彙 長文読解	・リーディングをを中心に、語法や文法などにも注目しながら学習する。 ・場面に応じた表現や語彙について習得する。	Unit 3 の単・熟語や構文に関する予習と、授業（教科書）内容の復習をする。（１時間）
8	Unit 4 Dating, Relationships, and Advice (1) 写真描写・対話・説明文	・リスニングを中心に、発音の特徴などにも注目しながら学習する。 ・場面に応じた表現や語彙について習得する。	Unit 4 の単・熟語や構文に関する予習と、授業（教科書）内容の復習をする。（１時間）
9	Unit 4 Dating, Relationships, and Advice (2) 語法・文法・語彙 長文読解	・リーディングをを中心に、語法や文法などにも注目しながら学習する。 ・場面に応じた表現や語彙について習得する。	Unit 4 の単・熟語や構文に関する予習と、授業（教科書）内容の復習をする。（１時間）
10	Unit 5 Music and Style (1) 写真描写・会話	・リスニングを中心に、発音の特徴などにも注目しながら学習する。 ・場面に応じた表現や語彙について習得する。	Unit 5 の単・熟語や構文に関する予習と、授業（教科書）内容の復習をする。（１時間）
11	Unit 5　Music and Style (2) 語法・文法・語彙 長文読解	・リーディングをを中心に、語法や文法などにも注目しながら学習する。 ・場面に応じた表現や語彙について習得する。	Unit 5 の単・熟語や構文に関する予習と、授業（教科書）内容の復習をする。（１時間）
12	Unit 6 Jobs and Employment (1) 写真描写・対話・説明文	・リスニングを中心に、発音の特徴などにも注目しながら学習する。 ・場面に応じた表現や語彙について習得する。	Unit 6 の単・熟語や構文に関する予習と、授業（教科書）内容の復習をする。（１時間）
13	Unit 6 Jobs and Employment (2) 語法・文法・語彙 長文読解	・リーディングをを中心に、語法や文法などにも注目しながら学習する。 ・場面に応じた表現や語彙について習得する。	Unit 6 の単・熟語や構文に関する予習と、授業（教科書）内容の復習をする。（１時間）
14	Mini Test	これまでの授業で学習した内容について復習テストを行う。	復習テストの準備を行う。（２時間）
15	総括（まとめ）	復習テストのフィードバックなどを行うとともに、今後の英語学習について考える。	復習テストの振り返りを行う。（１時間）

関連科目	他の英語科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	TOEICR Test Success: 新 TOEICR 形式で読む総合英語	寺西　雅之他	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加・貢献度（小テスト、復習テスト等も含む）　70%
学生への メッセージ	・ペアワークやグループワークの多い授業ですので、パートナーのためにもできる限り出席し、授業に積極的に参加してください。 ・授業内容は進度によって変更する場合があります。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

基礎科目

科目名	英語Ⅱb	科目名（英文）	English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦　茂寿
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2306c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明	――――――
2	Unit 1 Lions　百獣の王ライオン	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.1-4
3	Unit 2 Ramen ラーメン	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.5-8
4	Unit 3 The Leaning Tower ピサの斜塔	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.9-12
5	Unit 4 A Smart Dog 賢いワンちゃん	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.13-16
6	Unit 5 Twenty-First Century Books 電子書籍	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.17-20
7	Unit 6 Valentine's Day バレンタインデー	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.21-24
8	Unit 7 The Taj Mahal ある愛の形	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.25-28
9	Unit 8 A Computer Problem コンピューターのホットな問題	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.29-32
10	Unit 9 The Mobius Band 不思議な輪	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.33-36
11	Unit 10 A Long Weekend 休日の落とし穴	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.37-40
12	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう
13	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう
14	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう
15	総合復習	試験に向けた復習	教科書など前期範囲一通り

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Basic Faster Reading New Edition　速読の基礎演習　最新版	Casey Malarcher、原田慎一	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

全学共通英語課題 A	20%
全学共通英語課題 B	10%
定期試験	45%
授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）	25%

学生へのメッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱb	科目名（英文）	English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	植村　真未
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2306c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。３回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方の詳細な説明。扱う映画 The Devil Wears Prada を紹介。	予習：シラバスを読む。 復習：教科書を入手し、i,ii ページにあたる Who's who in The Devil Wears Prada を読む。
2	Unit1 Job Interview (1)	Previewing Activities 、 Viewing Activities を補助教材とし、映画の一場面を字幕なしで観る。	予習：Vocabulary Checkup を英和・英英辞典等を用いて解く。 復習：授業内で扱った英語で分からないものは辞書で調べる。映画の場面の中で、登場人物の行動や、背景等で分からないことがあれば、辞書やインターネットを駆使して調べる。
3	Unit1 Job Interview (2)	Post-viewing Activities を補助教材とし、映画の理解を深める。	予習：Discussion Topics に挙げられている質問の答えを英語で書いてくる。 復習：授業内で扱った英語で分からないものは辞書で調べる。映画の場面の中で、登場人物の行動や、背景等で分からないことがあれば、辞書やインターネットを駆使して調べる。
4	Unit2 First Day on the Job (1)	Previewing Activities 、 Viewing Activities を補助教材とし、映画の一場面を字幕なしで観る。	予習：Vocabulary Checkup を英和・英英辞典等を用いて解く。 復習：授業内で扱った英語で分からないものは辞書で調べる。映画の場面の中で、登場人物の行動や、背景等で分からないことがあれば、辞書やインターネットを駆使して調べる。
5	Unit2 First Day on the Job (2)	Post-viewing Activities を補助教材とし、映画の理解を深める。	予習：Discussion Topics に挙げられている質問の答えを英語で書いてくる。 復習：授業内で扱った英語で分からないものは辞書で調べる。映画の場面の中で、登場人物の行動や、背景等で分からないことがあれば、辞書やインターネットを駆使して調べる。
6	Unit3 Hurricane on the Weekend (1)	Previewing Activities 、 Viewing Activities を補助教材とし、映画の一場面を字幕なしで観る。	予習：Vocabulary Checkup を英和・英英辞典等を用いて解く。 復習：授業内で扱った英語で分からないものは辞書で調べる。映画の場面の中で、登場人物の行動や、背景等で分からないことがあれば、辞書やインターネットを駆使して調べる。
7	Unit3 Hurricane on the Weekend (2)	Post-viewing Activities を補助教材とし、映画の理解を深める。	予習：Discussion Topics に挙げられている質問の答えを英語で書いてくる。 復習：授業内で扱った英語で分からないものは辞書で調べる。映画の場面の中で、登場人物の行動や、背景等で分からないことがあれば、辞書やインターネットを駆使して調べる。
8	中間課題	Unit1～3 で扱った場面の中から、受講者が一場面を選び、その場面をペアで実演する（中間課題）。これまでの映画の内容についても議論を進める。	予習：演じる場面を選び、滑らかに台詞が言えるようになるまで訓練する。時間を見つけ、ペアの人と練習すること。 復習：予習に時間を使って欲しいので不要。
9	Unit4 Andy's Makeover (1)	Previewing Activities 、 Viewing Activities を補助教材とし、映画の一場面を字幕なしで観る。	予習：Vocabulary Checkup を英和・英英辞典等を用いて解く。 復習：授業内で扱った英語で分からないものは辞書で調べる。映画の場面の中で、登場人物の行動や、背景等で分からないことがあれば、辞書やインターネットを駆使して調べる。
10	Unit4 Andy's Makeover (2)	Post-viewing Activities を補助教材とし、映画の理解を深める。	予習：Discussion Topics に挙げられている質問の答えを英語で書いてくる。 復習：授業内で扱った英語で分からないものは辞書で調べる。映画の場面の中で、登場人物の行動や、背景等で分からないことがあれば、辞書やインターネットを駆使して調べる。
11	Unit5 Andy Meets Christian (1)	Previewing Activities 、 Viewing Activities を補助教材とし、映画の一場面を字幕なしで観る。	予習：Vocabulary Checkup を英和・英英辞典等を用いて解く。 復習：授業内で扱った英語で分からないものは辞書

			で調べる。映画の場面の中で、登場人物の行動や、背景等で分からないことがあれば、辞書やインターネットを駆使して調べる。
12	Unit5 Andy Meets Christian (2)	Post-viewing Activities を補助教材とし、映画の理解を深める。	予習：Discussion Topics に挙げられている質問の答えを英語で書いてくる。 復習：授業内で扱った英語で分からないものは辞書で調べる。映画の場面の中で、登場人物の行動や、背景等で分からないことがあれば、辞書やインターネットを駆使して調べる。
13	Unit6 Miranda's Request (1)	Previewing Activities 、 Viewing Activities を補助教材とし、映画の一場面を字幕なしで観る。	予習：Vocabulary Checkup を英和・英英辞典等を用いて解く。 復習：授業内で扱った英語で分からないものは辞書で調べる。映画の場面の中で、登場人物の行動や、背景等で分からないことがあれば、辞書やインターネットを駆使して調べる。
14	Unit6 Miranda's Request (2)	Post-viewing Activities を補助教材とし、映画の理解を深める。	予習：Discussion Topics に挙げられている質問の答えを英語で書いてくる。 復習：授業内で扱った英語で分からないものは辞書で調べる。映画の場面の中で、登場人物の行動や、背景等で分からないことがあれば、辞書やインターネットを駆使して調べる。
15	総括	学期中で扱った全範囲の試験を行い、その解説をする。	予習：まとめテストの準備。

関連科目

他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『プラダを着た悪魔』で学ぶコミュニケーション英語	角山 照彦ほか編著	松柏社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

全学共通英語課題 A　20%
全学共通英語課題 B　10%
授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　70%

学生へのメッセージ

詳細な授業の進め方を説明するので、初回の授業には必ず出席してください。

原則、出席率 80%以上の学生を成績評価の対象とする。

担当者の研究室等

7 号館 2 階非常勤講師室
連絡先：mami.uemura@edu.setsunan.ac.jp

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱb	科目名（英文）	English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田村　康子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2306c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 1: The United Kingdom	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.6-7 練習問題を行うこと。
2	Unit 1: The United Kingdom	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.8-９練習問題を行うこと。
3	Unit 2: Germany	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.10-11 練習問題を行うこと。
4	Unit 2: Germany	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.12-13 練習問題を行うこと。
5	Unit 3: France	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.14-15 練習問題を行うこと。
6	Unit 3: France	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.16-17 練習問題を行うこと。
7	Unit 4: Switzerland	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.18-19 練習問題を行うこと。
8	復習、臨時テスト	復習と臨時テスト	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
9	Unit 4: Switzerland	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.20-21 練習問題を行うこと。
10	Unit 5: Finland	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.22-23 練習問題を行うこと。
11	Unit 5: Finland	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.24-25 練習問題を行うこと。
12	Unit 6: Sweden	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.26-27 練習問題を行うこと。
13	Unit 6: Sweden	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.28-29 練習問題を行うこと。
14	Unit 7: Russia	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.30-33 練習問題を行うこと。
15	復習、臨時テスト	復習と臨時テスト	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Global Business Trends	Iwao Yamashita ほか	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　70%
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず出席し、授業内容を復習すること。 ＴＯＥＩＣを受験することを勧める。さらに単語力を増強するため、リンガポルテを活用し、積極的に自習すること。 リンガポルテの取り組みも成績評価に反映されます。
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱb	科目名（英文）	English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小倉　永慈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2306c1		

基礎科目

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、予習・復習の内容、成績の基準、受講にあたっての心構えなどについて説明する。また、教科書の構成を紹介する。	教科書:Unit 1
2	Unit 1: Stand by Me／Ben E. King	単語小テスト及び教科書演習	教科書:Unit 1
3	Unit 1: Stand by Me／Ben E. King	単語小テスト及び教科書演習	教科書:Unit　2
4	Unit 2: Jailhouse Rock／Elvis Presley	単語小テスト及び教科書演習	教科書:Unit　2
5	Unit 2: Jailhouse Rock／Elvis Presley	単語小テスト及び教科書演習	教科書:Unit　3
6	Unit 3: Blowin' in the Wind／Bob Dylan	単語小テスト及び教科書演習	教科書:Unit　3
7	Unit 3: Blowin' in the Wind／Bob Dylan	単語小テスト及び教科書演習	教科書:Unit　4
8	Unit 4: Puff, the Magic Dragon／Peter, Paul and Mary	単語小テスト及び教科書演習	教科書:Unit　4
9	Unit 4: Puff, the Magic Dragon／Peter, Paul and Mary	単語小テスト及び教科書演習	教科書:Unit　5
10	Unit 5: I've Gotta Get a Message to You／Bee Gees	単語小テスト及び教科書演習	教科書:Unit　5
11	Unit 5: I've Gotta Get a Message to You／Bee Gees	単語小テスト及び教科書演習	教科書:Unit　6
12	Unit 6: Bridge Over Troubled Water／Simon & Garfunkel	単語小テスト及び教科書演習	教科書:Unit　6
13	Unit 6: Bridge Over Troubled Water／Simon & Garfunkel	単語小テスト及び教科書演習	教科書:Unit　7
14	Unit 7: Take Me Home, Country Roads／John Denver	単語小テスト及び教科書演習	教科書:Unit　7
15	Unit 7: Take Me Home, Country Roads／John Denver	単語小テスト及び教科書演習	教科書総復習

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ソングス＆カルチャー － ポップソングで学ぶ初級英語 － Enjoying English through Pop Songs	関戸冬彦 /小林愛明 /山中章子 /吉田要	朝日出版社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 定期試験　45% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　25%
学生へのメッセージ	この授業ではポップソングを通して英語に触れます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱb	科目名（英文）	English IIb
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	黒田　絢香
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2306c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義	
2	Chapter 1: Things Young People Are Less Interested in	リスニング、リーディング	第一回講義にて指示した方法で予習・復習を行い、練習問題を解く。
3	Chapter 2: What's in a Name?	リスニング、リーディング	第一回講義にて指示した方法で予習・復習を行い、練習問題を解く。
4	Chapter 3: Throwing It All Away	リスニング、リーディング	第一回講義にて指示した方法で予習・復習を行い、練習問題を解く。
5	Chapter 4: Everything Caught on Video	リスニング、リーディング	第一回講義にて指示した方法で予習・復習を行い、練習問題を解く。
6	Chapter 5: Employers Checking Facebook	リスニング、リーディング	第一回講義にて指示した方法で予習・復習を行い、練習問題を解く。
7	Chapter 6: LCCs	リスニング、リーディング	第一回講義にて指示した方法で予習・復習を行い、練習問題を解く。
8	Chapter 7: Young People Don't Travel Abroad	リスニング、リーディング	第一回講義にて指示した方法で予習・復習を行い、練習問題を解く。
9	Chapter 8: Foreign Views of Japanese Culture	リスニング、リーディング	第一回講義にて指示した方法で予習・復習を行い、練習問題を解く。
10	Chapter 9: Rethinking University Education	リスニング、リーディング	第一回講義にて指示した方法で予習・復習を行い、練習問題を解く。
11	Chapter 10: Graffiti	リスニング、リーディング	第一回講義にて指示した方法で予習・復習を行い、練習問題を解く。
12	Chapter 11: Asian Dust and PM2. 5	リスニング、リーディング	第一回講義にて指示した方法で予習・復習を行い、練習問題を解く。
13	Chapter 12: Tsunami Countermeasures	リスニング、リーディング	第一回講義にて指示した方法で予習・復習を行い、練習問題を解く。
14	Chapter 13: Bright White Teeth for Everybody	リスニング、リーディング	第一回講義にて指示した方法で予習・復習を行い、練習問題を解く。
15	期末テスト	期末テスト	

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Trend Watching	Jonathan Lynch ほか	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　70%
学生へのメッセージ	授業の進め方や毎回の課題、評価方法など重要事項を連絡するため、第一回講義には必ず出席すること。 以降も必ず予習・復習を行った上で講義に臨んでください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱc	科目名（英文）	English IIc
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ﾘﾁｬｰﾄﾞ ﾀﾞｨｱｰｽ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2307c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 6 Welcoming a visitor	Meeting other class members	
2	Unit 6	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
3	Unit 6	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
4	Unit 7 Making arrangements	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
5	Unit 7	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
6	Unit 7	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
7	Unit 8 Recommending places to visit	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
8	Unit 8	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
9	Unit 8	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
10	Unit 9 Giving opinions	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
11	Unit 9	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
12	Unit 9	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
13	Unit 10 Discussing progress	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
14	Unit 10	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.
15	Unit 10	Reading, writing, listening and speaking tasks	Homework. Review previous class material.

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	International Express Elementary	Angela Buckingham	Oxford
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　70%
学生へのメッセージ	予習・復習を怠らないようにし、必ず辞書を持って積極的な授業への参加を期待しています。
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱc	科目名（英文）	English IIc
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	湊　由妃子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2307c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 7: Japan Adventurer Completes Grand Slam	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit 7の小テストの準備
2	Unit 8: Sorting It Out	語彙問題と聴きとり Unit 7の小テスト	当該Unitの予習と復習
3	Unit 8: Sorting It Out	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit 8の小テストの準備
4	Unit 9: Haircuts for Charity	語彙問題と聴きとり Unit 8の小テスト	当該Unitの予習と復習
5	Unit 9: Haircuts for Charity	内容把握と練習問題	予習と復習 Usnit 9の小テストの準備
6	Unit 10: Peer Group Consumption	語彙問題と聴きとり Unit 9の小テスト	当該Unitの予習と復習.
7	Unit 10: Peer Group Consumption	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit 10の小テストの準備
8	Unit 11: Taste of Temple Life	語彙問題と聴きとり Unit 10の小テスト	当該Unitの予習と復習
9	Unit 11: Taste of Temple Life	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit 11の小テストの準備
10	Unit 12: New Take on Tatami	語彙問題と聴きとり Unit 11の小テスト	当該Unitの予習と復習
11	Unit 12: New Take on Tatami	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit 12の小テストの準備
12	Unit 13: Traveling with Confidence	語彙問題と聴きとり Unit 12の小テスト	当該Unitの予習と復習
13	Unit 13: Traveling with Confidence	内容把握と練習問題	予習と復習 Unit 13の小テストの準備
14	Unit 14: Tanzanian Students Discover Japan	語彙問題と聴きとり Unit 13の小テスト	当該Unitの予習 後期内容の総復習
15	後期内容のまとめのテスト	後期学習範囲の習熟度をテストの形で復習する	後期学習範囲の習熟度

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	NHK NEWSLINE 2	山﨑達朗・Stella M. Yamazaki・Erika C. Yamazaki	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題A　20% 全学共通英語課題B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　70%
学生へのメッセージ	予習・復習を怠らないようにし、必ず辞書を持って積極的な授業への参加を期待しています。
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱc	科目名（英文）	English IIc
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	山本　尚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2307c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。３回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期の内容の復習	前期の内容の復習をした後プリント教材を使った授業を行う。	テキストの復習
2	Extreme Weather (1)	異常気象について読む。形容詞、副詞の使い方をチェックする。	テキストの予習
3	Extreme Weather (2)	異常気象について読む。形容詞、副詞の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
4	Medical Tourism (1)	医療ツーリズムのリスクについて読む。比較表現の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
5	Medical Tourism (2)	医療ツーリズムのリスクについて読む。比較表現の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
6	Adveratising (1)	広告の影響について読む。前置詞、接続詞をチェックする。	テキストの予習・復習
7	Advertisingl (2)	広告の影響について読む。前置詞、接続詞をチェックする。	テキストの予習・復習
8	Business Travel (1)	出張の準備とコツについて読む。不定詞、動名詞をチェックする。	テキストの予習・復習
9	Business Travel (2)	出張の準備とコツについて読む。不定詞、動名詞をチェックする。	テキストの予習・復習
10	Coffee Shop (1)	コーヒーチェーン店について読む。受動態の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
11	Coffee Shops (2)	コーヒーチェーン店について読む。受動態の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
12	E-Commerce (1)	オンラインショッピングの利便性について読む。助動詞の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
13	E-Commerce (2)	オンラインショッピングの利便性について読む。助動詞の使い方をチェックする。	テキストの予習・復習
14	SNS	様々な SNS について読む。関係詞の使い方をチェックする。	テキストの復習
15	復習、まとめテスト	後期の内容の復習をし、まとめテストを行う。	前期の復習

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Indicator 3 (Intermediate)	Joshua Cohen 他	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　70%
学生へのメッセージ	毎回予習復習をして、積極的に授業に参加することを心がけてください。授業中はしっかりメモを取り、わからないことがあれば必ず質問するようにしてください。予習をチェックする課題提出を求めますので、長文は事前に必ず読んで内容を把握しておいてください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱc	科目名（英文）	English IIc
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大江　麻里子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2307c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation	テキスト前期の内容の確認と後期の進め方の説明	テキストの予習
2	Chapter 7	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
3	Chapter 7	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
4	Chapter 8	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
5	Chapter 8	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
6	Chapter 9	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
7	Chapter 9	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
8	Chapter 10	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
9	Chapter 10	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
10	Chapter 11	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
11	Chapter 11	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
12	Chapter 12	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
13	Chapter 12	英語学習・読解・英作	テキストの予習と単語の学習
14	後期の総復習	質疑応答	後期の範囲で分からなかった点をまとめておく
15	まとめのテスト	これまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Trend Watching　2	Jonathan Lynch　他	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　70%
学生へのメッセージ	英語学習は地道な努力が必要です。授業中に出される指示に従い、積極的に参加してください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱc	科目名（英文）	English IIc
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	鈴木　三千代
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2307c1		

基礎科目

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation	授業の進め方の説明	テキストの予習
2	Socializing with Co-Workers	パーティーに誘う 動名詞・不定詞を理解する 好きなこと・嫌いなことについて書く	テキストの予習と単語の学習
3	Socializing with Co-Workers	パーティーに誘う 動名詞・不定詞を理解する 好きなこと・嫌いなことについて書く	テキストの予習と単語の学習
4	Vacation Spots	相手に約束する 未来形の使い方に慣れる 未来の自分について書く	テキストの予習と単語の学習
5	Vacation Spots	相手に約束する 未来形の使い方に慣れる 未来の自分について書く	テキストの予習と単語の学習
6	Sports Talk	好みを伝える 比較級・最上級を理解する 自分の価値観について書く	テキストの予習と単語の学習
7	Sports Talk	好みを伝える 比較級・最上級を理解する 自分の価値観について書く	テキストの予習と単語の学習
8	Tour Day	同僚に確認する 助動詞の使い方に慣れる 大学の規則について書く	テキストの予習と単語の学習
9	Tour Day	同僚に確認する 助動詞の使い方に慣れる 大学の規則について書く	テキストの予習と単語の学習
10	Party Time!	喜びを伝える 現在完了形を理解する 最近したことについて書く	テキストの予習と単語の学習
11	Party Time!	喜びを伝える 現在完了形を理解する 最近したことについて書く	テキストの予習と単語の学習
12	Office Meeting	滞在先の感想をたずねる 関係詞を理解する 尊敬する人物について書く	テキストの予習と単語の学習
13	A Bit of History	観光名所を案内する 受動態を理解する 通っている大学について書く	テキストの予習と単語の学習
14	farewell, Masa and Lucy	お礼の言葉を述べる 接続詞の使い方に慣れる 普段の習慣について書く	テキストの予習と単語の学習
15	まとめテスト、復習	まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Missions!　Basic	Robert Hickling　他	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法：全学共通英語課題 A　20%

（基準）	全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　70%
学生への メッセージ	辞書を持参して毎回出席すること、指定された個所を必ず予習しておくことを心がけてください。授業中は積極的に発表することだけでなく、クラスメートの発表をしっかり聞くことも大切です。今日のように身の回りに英語が溢れているという現状では、英語能力を向上させることによってあらゆる可能性が広がる。英語をより身近に感じ、親しむように心がけて欲しい。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱc	科目名（英文）	English IIc
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	内山　知美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2307c1		

基礎科目

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 教員の指示、注意に従わない行為は、減点、警告の上欠席扱いとする。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション Unit 8? Customer Needs?　接続詞	前期の確認後、後期授業の進め方や成績について説明する。その後、教科書 Unit ８前半を進む。	教科書にさっと目を通しておく。
2	U8	教科書 Unit 後半を進む。 前の週に学習した短い英文を復習する。	授業範囲の予習と復習
3	Unit 9? Business Trip?　will／be going to	教科書 Unit 前半を進む。 また、英語の音楽をきいたり、映画を一部観たりする。 さらにその歌詞、台詞にでてくる英語表現の文法、語彙などを学習する。	授業範囲の予習と復習
4	U9	教科書 Unit 後半を進む。 前の週に学習した短い英文を復習する。	授業範囲の予習と復習
5	Unit 10? Advertising?　比較	教科書 Unit 前半を進む。 また、英語の音楽をきいたり、映画を一部観たりする。 さらにその歌詞、台詞にでてくる英語表現の文法、語彙などを学習する。	授業範囲の予習と復習
6	U10	教科書 Unit 後半を進む。 前の週に学習した短い英文を復習する。	授業範囲の予習と復習
7	Unit 11? Factory Tour?　受動態	教科書 Unit 前半を進む。 また、英語の音楽をきいたり、映画を一部観たりする。 さらにその歌詞、台詞にでてくる英語表現の文法、語彙などを学習する。	授業範囲の予習と復習
8	U11	教科書 Unit 後半を進む。 前の週に学習した短い英文を復習する。	授業範囲の予習と復習
9	Unit 12? Money Matters?　動名詞／不定詞	教科書 Unit 前半を進む。 また、英語の音楽をきいたり、映画を一部観たりする。 さらにその歌詞、台詞にでてくる英語表現の文法、語彙などを学習する。	授業範囲の予習と復習
10	U12	教科書 Unit 後半を進む。 前の週に学習した短い英文を復習する。	授業範囲の予習と復習
11	Unit 13? Leisure?　助動詞	教科書 Unit 前半を進む。 また、英語の音楽をきいたり、映画を一部観たりする。 さらにその歌詞、台詞にでてくる英語表現の文法、語彙などを学習する。	授業範囲の予習と復習
12	Unit1３	教科書 Unit 後半を進む。 前の週に学習した短い英文を復習する。	授業範囲の予習と復習
13	Unit 14? Environment?　分詞	教科書 Unit14 を進む。 また、英語の音楽をきいたり、映画を一部観たりする。	授業範囲の予習と復習
14	Unit 15? Business Tie-Up?　関係詞節	教科書 Unit15 を進む。 また、英語の音楽をきいたり、映画を一部観たりする。	今までに学習した範囲の、難しかった点や疑問点をまとめておく。
15	まとめのテスト	学習の習得状況を確認する。	前期の範囲の重要事項をまとめて、おぼえてくること。

関連科目	他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Switch	Robert Hickling / 臼倉美里	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　70%
学生への メッセージ	英語学習は続けることが大切です。授業に出席して英語に触れる時間が増えると、英語力は伸びていきます。楽しい授業にしたいと思っています。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱd	科目名（英文）	English IId
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ルッケル瀬本　阿矢
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2308c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	・「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、ビジネスの現場を想定したトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができることを目標とする。 ・「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、ビジネスに関連する英文の基本的な情報を理解できるようになることを目標とする。 ・「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、社会人が英語を使用する場面を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力と、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	・演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加し、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 ・e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 ・3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation, Questionnaire, Self-Introduction	授業の進め方や予習・復習の仕方、評価方法、英語共通課題などについて説明を行う。また、教科書の内容について導入を行う。	教科書の内容や構成を確認する。（１時間）
2	Unit 7　Health and Fitness (1) 写真描写・会話	・リスニングを中心に、発音の特徴などにも注目しながら学習する。 ・場面に応じた表現や語彙について習得する。	Unit 8 の単・熟語や構文に関する予習と、授業（教科書）内容の復習をする。（１時間）
3	Unit 7　Health and Fitness (2) 語法・文法・語彙 長文読解	・リーディングをを中心に、語法や文法などにも注目しながら学習する。 ・場面に応じた表現や語彙について習得する。	Unit 8 の単・熟語や構文に関する予習と、授業（教科書）内容の復習をする。（１時間）
4	Unit 8　Finding Purpose and Setting Life Goals (1) 写真描写・対話・説明文	・リスニングを中心に、発音の特徴などにも注目しながら学習する。 ・場面に応じた表現や語彙について習得する。	Unit 9 の単・熟語や構文に関する予習と、授業（教科書）内容の復習をする。（１時間）
5	Unit 8　Finding Purpose and Setting Life Goals (2) 語法・文法・語彙 長文読解	・リーディングをを中心に、語法や文法などにも注目しながら学習する。 ・場面に応じた表現や語彙について習得する。	Unit 9 の単・熟語や構文に関する予習と、授業（教科書）内容の復習をする。（１時間）
6	Unit 9 Money and Happiness (1) 写真描写・会話	・リスニングを中心に、発音の特徴などにも注目しながら学習する。 ・場面に応じた表現や語彙について習得する。	Unit 10 の単・熟語や構文に関する予習と、授業（教科書）内容の復習をする。（１時間）
7	Unit 9 Money and Happiness (2) 語法・文法・語彙 長文読解	・リーディングをを中心に、語法や文法などにも注目しながら学習する。 ・場面に応じた表現や語彙について習得する。	Unit 10 の単・熟語や構文に関する予習と、授業（教科書）内容の復習をする。（１時間）
8	Unit 10 Travel and Adventure (1) 写真描写・対話・説明文	・リスニングを中心に、発音の特徴などにも注目しながら学習する。 ・場面に応じた表現や語彙について習得する。	Unit 11 の単・熟語や構文に関する予習と、授業（教科書）内容の復習をする。（１時間）
9	Unit 10 Travel and Adventure (2) 語法・文法・語彙 長文読解	・リーディングをを中心に、語法や文法などにも注目しながら学習する。 ・場面に応じた表現や語彙について習得する。	Unit 11 の単・熟語や構文に関する予習と、授業（教科書）内容の復習をする。（１時間）
10	Unit 11 Movies and Preferences (1) 写真描写・会話	・リスニングを中心に、発音の特徴などにも注目しながら学習する。 ・場面に応じた表現や語彙について習得する。	Unit 12 の単・熟語や構文に関する予習と、授業（教科書）内容の復習をする。（１時間）
11	Unit 11 Movies and Preferences (2) 語法・文法・語彙 長文読解	・リーディングをを中心に、語法や文法などにも注目しながら学習する。 ・場面に応じた表現や語彙について習得する。	Unit 12 の単・熟語や構文に関する予習と、授業（教科書）内容の復習をする。（１時間）
12	Unit 12 Museums and Culture (1) 写真描写・対話・説明文	・リスニングを中心に、発音の特徴などにも注目しながら学習する。 ・場面に応じた表現や語彙について習得する。	Unit 13 の単・熟語や構文に関する予習と、授業（教科書）内容の復習をする。（１時間）
13	Unit 12 Museums and Culture (2) 語法・文法・語彙 長文読解	・リーディングをを中心に、語法や文法などにも注目しながら学習する。 ・場面に応じた表現や語彙について習得する。	Unit 13 の単・熟語や構文に関する予習と、授業（教科書）内容の復習をする。（１時間）
14	Unit 13 Disabilities and Access 写真描写・会話 語法・文法・語彙、長文読解	・リスニングとリーディングを交えて、場面に応じた表現や語彙について習得する。	Unit 14 の単・熟語や構文に関する予習と、授業（教科書）内容の復習をする。（１時間）
15	Mini Test	これまでの授業で学習した内容について復習テストを行う。	復習テストの準備と振り返りを行う。（３時間）

関連科目	他の英語科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	TOEIC(R) Test Success: 新 TOEICR 形式で読む総合英語	寺西　雅之他	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加・貢献度（小テスト、復習テスト等も含む）　70%
学生への メッセージ	・ペアワークやグループワークの多い授業ですので、パートナーのためにもできる限り出席し、授業に積極的に参加してください。 ・授業内容は、授業の進度により変更する可能性があります。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

基礎科目

科目名	英語Ⅱd	科目名（英文）	English IId
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦　茂寿
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2308c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期の復習	前期に習った内容の復習	――――――
2	Unit 11 Breakfast in America　アメリカの朝食	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.41-44
3	Unit 12 The World Cup ワールドカップ	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.45-48
4	Unit 13 Blood Types 血液型で性格判断	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.49-52
5	Unit 14 Reality TV リアリティー番組	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.53-56
6	Unit 15 Rodeos ロデオ	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.57-60
7	Unit 16 Women's Sumo 女子相撲	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.61-64
8	Unit 17 Studying Abroad 海外で学ぼう	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.65-68
9	Unit 18 The Palace of Salt しょっぱいホテル	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.69-72
10	Unit 19 The Mona Lisa モナリザの微笑	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.73-76
11	Unit 20 Lizards トカゲは好きですか	新出単語及び熟語の意味、本文の意味確認、内容読解	教科書 p.77-80
12	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう
13	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう
14	資格・検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	習った内容を何度も復習して覚えよう
15	総合復習	試験に向けた復習	教科書など後期範囲一通り

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Basic Faster Reading New Edition　速読の基礎演習　最新版	Casey Malarcher、原田慎一	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

全学共通英語課題 A	20%
全学共通英語課題 B	10%
定期試験	45%
授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）	25%

学生へのメッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱd	科目名（英文）	English IId
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	植村　真未
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2308c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。３回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方の詳細な説明。扱う映画 The Devil Wears Prada を紹介。 前期から引き続き受講する者には、映画の概要説明をしてもらう。	予習：シラバスを読む。 復習：教科書を入手し、i,ii ページにあたる Who's who in The Devil Wears Prada を読む。
2	Unit7 Nate's Birthday (1)	Previewing Activities 、 Viewing Activities を補助教材とし、映画の一場面を字幕なしで観る。	予習：Vocabulary Checkup を英和・英英辞典等を用いて解く。 復習：授業内で扱った英語で分からないものは辞書で調べる。映画の場面の中で、登場人物の行動や、背景等で分からないことがあれば、辞書やインターネットを駆使して調べる。
3	Unit7 Nate's Birthday (2)	Post-viewing Activities を補助教材とし、映画の理解を深める。	予習：Discussion Topics に挙げられている質問の答えを英語で書いてくる。 復習：授業内で扱った英語で分からないものは辞書で調べる。映画の場面の中で、登場人物の行動や、背景等で分からないことがあれば、辞書やインターネットを駆使して調べる。
4	Unit8 Andy's Decision (1)	Previewing Activities 、 Viewing Activities を補助教材とし、映画の一場面を字幕なしで観る。	予習：Vocabulary Checkup を英和・英英辞典等を用いて解く。 復習：授業内で扱った英語で分からないものは辞書で調べる。映画の場面の中で、登場人物の行動や、背景等で分からないことがあれば、辞書やインターネットを駆使して調べる。
5	Unit8 Andy's Decision (2)	Post-viewing Activities を補助教材とし、映画の理解を深める。	予習：Discussion Topics に挙げられている質問の答えを英語で書いてくる。 復習：授業内で扱った英語で分からないものは辞書で調べる。映画の場面の中で、登場人物の行動や、背景等で分からないことがあれば、辞書やインターネットを駆使して調べる。
6	Unit9 Breakup with Nate(1)	Previewing Activities 、 Viewing Activities を補助教材とし、映画の一場面を字幕なしで観る。	予習：Vocabulary Checkup を英和・英英辞典等を用いて解く。 復習：授業内で扱った英語で分からないものは辞書で調べる。映画の場面の中で、登場人物の行動や、背景等で分からないことがあれば、辞書やインターネットを駆使して調べる。
7	Unit9 Breakup with Nate(2)	Post-viewing Activities を補助教材とし、映画の理解を深める。	予習：Discussion Topics に挙げられている質問の答えを英語で書いてくる。 復習：授業内で扱った英語で分からないものは辞書で調べる。映画の場面の中で、登場人物の行動や、背景等で分からないことがあれば、辞書やインターネットを駆使して調べる。
8	中間課題	Unit7～9 で扱った場面の中から、受講者が一場面を選び、その場面をペアで実演する（中間課題）。これまでの映画の内容についても議論を進める。	予習：演じる場面を選び、滑らかに台詞が言えるようになるまで訓練する。時間を見つけ、ペアの人と練習すること。 復習：予習に時間を使って欲しいので不要。
9	Unit10 The Dream Job(1)	Previewing Activities 、 Viewing Activities を補助教材とし、映画の一場面を字幕なしで観る。	予習：Vocabulary Checkup を英和・英英辞典等を用いて解く。 復習：授業内で扱った英語で分からないものは辞書で調べる。映画の場面の中で、登場人物の行動や、背景等で分からないことがあれば、辞書やインターネットを駆使して調べる。
10	Unit10 The Dream Job(2)	Post-viewing Activities を補助教材とし、映画の理解を深める。	予習：Discussion Topics に挙げられている質問の答えを英語で書いてくる。 復習：授業内で扱った英語で分からないものは辞書で調べる。映画の場面の中で、登場人物の行動や、背景等で分からないことがあれば、辞書やインターネットを駆使して調べる。
11	Unit11 Announcement at the Party (1)	Previewing Activities 、 Viewing Activities を補助教材とし、映画の一	予習：Vocabulary Checkup を英和・英英辞典等を用いて解く。

		場面を字幕なしで観る。	復習：授業内で扱った英語で分からないものは辞書で調べる。映画の場面の中で、登場人物の行動や、背景等で分からないことがあれば、辞書やインターネットを駆使して調べる。
12	Unit11 Announcement at the Party (2)	Post-viewing Activities を補助教材とし、映画の理解を深める。	予習：Discussion Topics に挙げられている質問の答えを英語で書いてくる。 復習：授業内で扱った英語で分からないものは辞書で調べる。映画の場面の中で、登場人物の行動や、背景等で分からないことがあれば、辞書やインターネットを駆使して調べる。
13	Unit12 Andy's Final Choice (1)	Previewing Activities 、 Viewing Activities を補助教材とし、映画の一場面を字幕なしで観る。	予習：Vocabulary Checkup を英和・英英辞典等を用いて解く。 復習：授業内で扱った英語で分からないものは辞書で調べる。映画の場面の中で、登場人物の行動や、背景等で分からないことがあれば、辞書やインターネットを駆使して調べる。
14	Unit12 Andy's Final Choice (2)	Post-viewing Activities を補助教材とし、映画の理解を深める。	予習：Discussion Topics に挙げられている質問の答えを英語で書いてくる。 復習：授業内で扱った英語で分からないものは辞書で調べる。映画の場面の中で、登場人物の行動や、背景等で分からないことがあれば、辞書やインターネットを駆使して調べる。
15	総括	学期中で扱った全範囲の試験を行い、その解説をする。	予習：まとめテストの準備。

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『プラダを着た悪魔』で学ぶコミュニケーション英語	角山 照彦ほか編著	松柏社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

全学共通英語課題 A　20%
全学共通英語課題 B　10%
授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　70%

学生へのメッセージ

詳細な授業の進め方を説明するので、初回の授業には必ず出席してください。

原則、出席率 80%以上の学生を成績評価の対象とする。

担当者の研究室等

7 号館 2 階非常勤講師室
連絡先：mami.uemura@edu.setsunan.ac.jp

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱd	科目名（英文）	English IId
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田村　康子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2308c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 8: South Korea	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.34-35 練習問題を行うこと。
2	Unit 8: South Korea	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.36-37 練習問題を行うこと。
3	Unit 9: Vietnam	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.38-39 練習問題を行うこと。
4	Unit 9: Vietnam	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.40-41 練習問題を行うこと。
5	Unit 10: China	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.42-43 練習問題を行うこと。
6	Unit 10: China	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.44-45 練習問題を行うこと。
7	Unit 11: Thailand	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.46-47 練習問題を行うこと。
8	復習、臨時テスト	復習と臨時テスト	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。
9	Unit 11: Thailand	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.48-49 練習問題を行うこと。
10	Unit 12: India	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.50-51 練習問題を行うこと。
11	Unit 12: India	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.52-53 練習問題を行うこと。
12	Unit 13: Brazil	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p54-55 練習問題を行うこと。
13	Unit 13: Brazil	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.56-57 練習問題を行うこと。
14	Unit 14: The United States of America	リスニング、リーディング	授業で指示した箇所を予習・復習しておく。テキスト p.58-61 練習問題を行うこと。
15	復習、臨時テスト	復習と臨時テスト	授業で指示した箇所を復習しておく。

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Global Business Trends	Iwao Yamashita ほか	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　70%
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず出席し、授業内容を復習すること。 ＴＯＥＩＣを受験することを勧める。さらに単語力を増強するため、リンガポルテを活用し、積極的に自習すること。 リンガポルテの取り組みも成績評価に反映されます。
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱd	科目名（英文）	English IId
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小倉　永慈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2308c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 8: Imagine ／ John Lennon	単語小テスト及び教科書演習	教科書： Unit 8
2	Unit 8: Imagine ／ John Lennon	単語小テスト及び教科書演習	教科書： Unit 9
3	Unit 9: I Need to Be in Love ／The Carpenters	単語小テスト及び教科書演習	教科書： Unit 9
4	Unit 9: I Need to Be in Love ／The Carpenters	単語小テスト及び教科書演習	教科書： Unit 10
5	Unit 10: Honesty ／ Billy Joel	単語小テスト及び教科書演習	教科書： Unit 10
6	Unit 10: Honesty ／ Billy Joel	単語小テスト及び教科書演習	教科書： Unit 11
7	Unit 11: Hotel California ／Eagles	単語小テスト及び教科書演習	教科書： Unit 11
8	Unit 11: Hotel California ／Eagles	単語小テスト及び教科書演習	教科書： Unit 12
9	Unit 12: I Just Called to Say I Love You ／ Stevie Wonder	単語小テスト及び教科書演習	教科書： Unit 12
10	Unit 12: I Just Called to Say I Love You ／ Stevie Wonder	単語小テスト及び教科書演習	教科書： Unit 13
11	Unit 13: Pride (In the Name of Love)／U2	単語小テスト及び教科書演習	教科書： Unit 13
12	Unit 13: Pride (In the Name of Love)／U2	単語小テスト及び教科書演習	教科書： Unit 14
13	Unit 14: Like a Virgin／ Madonna	単語小テスト及び教科書演習	教科書： Unit 14
14	Unit 14: Like a Virgin／ Madonna	単語小テスト及び教科書演習	教科書： Unit 15
15	Unit 15: Worlds Apart ／ Bruce Springsteen	単語小テスト及び教科書演習	教科書総復習

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ソングス＆カルチャー ― ポップソングで学ぶ初級英語 ― Enjoying English through Pop Songs	関戸冬彦 /小林愛明 /山中章子 /吉田要	朝日出版社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

評価方法（基準）

全学共通英語課題 A	20%
全学共通英語課題 B	10%
定期試験	45%
授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）	25%

学生へのメッセージ	この授業ではポップソングを通して英語に触れます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱｄ	科目名（英文）	English IId
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤　一章
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2308c1		

授業概要・目的	１年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な４技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、 CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法などを説明	教科書の予習（1時間）、英単語の暗記１２９７－１３１１（1時間）
2	Ｄｒｉｌｌ 1～2 Vocabulary	単語テスト 読解、文法、演習問題	教科書の予習復習（1時間）、英単語の暗記１３１２－１３２６（1時間）
3	Ｄｒｉｌｌ 3～4 Grammar	単語テスト 読解、文法、演習問題	教科書の予習復習（1時間）、英単語の暗記１３２７－１３４１（1時間）
4	Ｄｒｉｌｌ 5～6 Idioms	単語テスト 読解、文法、演習問題	教科書の予習復習（1時間）、英単語の暗記１３４２－１３５６（1時間）
5	Ｄｒｉｌｌ 7～8 Reading Comprehension	単語テスト 読解、文法、演習問題	教科書の予習復習（1時間）、英単語の暗記１３５７－１３７１（1時間）
6	Ｄｒｉｌｌ 9～10 Vocabulary	単語テスト 読解、文法、演習問題	教科書の予習復習（1時間）、英単語の暗記１３７２－１３８６（1時間）
7	Ｄｒｉｌｌ 11～12 Grammar	単語テスト 読解、文法、演習問題	教科書の予習復習（1時間）、英単語の暗記１３８７－１４０１（1時間）
8	Ｄｒｉｌｌ 13～14 Idioms	単語テスト 読解、文法、演習問題	教科書の予習復習（1時間）、英単語の暗記１４０２－１４１６（1時間）
9	Ｄｒｉｌｌ 15～16 Reading Comprehension	単語テスト 読解、文法、演習問題	教科書の予習復習（1時間）、英単語の暗記１４１７－１４３１（1時間）
10	Ｄｒｉｌｌ 17～18 Vocabulary	単語テスト 読解、文法、演習問題	教科書の予習復習（1時間）、英単語の暗記１４３２－１４４６（1時間）
11	Ｄｒｉｌｌ 19～20 Grammar	単語テスト 読解、文法、演習問題	教科書の予習復習（1時間）、英単語の暗記１４４７－１４６１（1時間）
12	Ｄｒｉｌｌ 21～22 Idioms	単語テスト 読解、文法、演習問題	教科書の予習復習（1時間）、英単語の暗記１４６２－１４７６（1時間）
13	Ｄｒｉｌｌ 23～24 Reading Comprehension	単語テスト 読解、文法、演習問題	教科書の予習復習（1時間）、英単語の暗記１４７７－１４９１（1時間）
14	Ｄｒｉｌｌ 25～26 Mixed	単語テスト 読解、文法、演習問題	教科書の予習復習（1時間）、英単語の暗記１４９２－１５００（1時間）
15	まとめテスト	まとめテスト 答え合わせと解説	これまでの復習（2時間）

関連科目：他の英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 2	David E. Bramley	松柏社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題Ａ　20% 全学共通英語課題Ｂ　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）　70%
学生へのメッセージ	目標を高く持って頑張ってください。
担当者の研究室等	7号館5階(後藤研究室)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語コミュニケーションⅠ	科目名（英文）	English Conversation Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ｱｰｻｰ ﾛﾘﾝｸﾞｽﾝ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN3311c1		

基礎科目

授業概要・目的	海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	（1）実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 （2）前期はCEFR-J[A2.1]、後期はCEFR-J[A2.2]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。３回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	総合的な英語力の向上

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Class introducation	ガイダンス	課題、小テスト対策
2	Cerf Topic #1	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
3	Cerf Topic #2	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
4	Cerf Topic #3	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
5	Cerf Topic #4	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
6	Presentation Prep	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
7	Cerf Topic #5	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
8	Presentation	Presentation	課題、小テスト対策
9	Group Game Activity	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
10	Cerf Topic #6	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
11	Cerf Topic #7	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
12	Cerf Topic #8	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
13	Presentation Prep	prep	課題、小テスト対策
14	Cerf Topic #9	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
15	Presentation	presentation	試験対策

関連科目：英語科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Presentations 30 Attendance 50 Participation 20
学生へのメッセージ	語学学習は「継続は力なり」です。苦手な人も多いかもしれませんが、就職活動の際にも英語は重要な科目です。こつこつ続けることによって徐々にスコアアップを狙いましょう。 また、授業には辞書を持参するようにして下さい。
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語コミュニケーションⅡ	科目名（英文）	English Conversation II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ｱｰｻｰ ﾛﾘﾝｸﾞｽﾝ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN3312c1		

授業概要・目的	海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	（1）実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 （2）前期は CEFR-J[A2.1]、後期は CEFR-J[A2.2]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。３回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	総合的な英語力の向上

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Class introducation	ガイダンス	課題、小テスト対策
2	Cerf Topic #1	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
3	Cerf Topic #2	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
4	Cerf Topic #3	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
5	Cerf Topic #4	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
6	Presentation Prep	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
7	Cerf Topic #5	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
8	Presentation	Presentation	課題、小テスト対策
9	Group Game Activity	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
10	Cerf Topic #6	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
11	Cerf Topic #7	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
12	Cerf Topic #8	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
13	Presentation Prep	prep	課題、小テスト対策
14	Cerf Topic #9	リーディング、英作文演習	課題、小テスト対策
15	Presentation	presentation	試験対策

関連科目：英語科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Presentations 30 Attendance 50 Participation 20
学生へのメッセージ	語学学習は「継続は力なり」です。苦手な人も多いかもしれませんが、就職活動の際にも英語は重要な科目です。こつこつ続けることによって徐々にスコアアップを狙いましょう。 また、授業には辞書を持参するようにして下さい。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	海外語学研修	科目名（英文）	Overseas Language Training
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鳥居　祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN2313c1		

基礎科目

授業概要・目的	外国語の運用能力（語学力）と、異文化環境で適切なコミュニケーションと行動をとる力（異文化間能力）の向上を目的とする。募集ガイダンスへの参加からはじまる事前学習、海外研修先での実地学習、帰国後の成果報告を含む事後学習で構成される。研修先での授業は月曜日から金曜日に開講され、語学力別に分けたクラス内で行われる。宿泊・費用等の詳細は募集ガイダンスで周知する。
到達目標	・語学力については、基礎的な会話への不安を解消し、TOEIC スコア等の客観的指標の自己ベストを更新すること。また、事前学習と現地での実践、そして帰国後の反省を通じて、自らにとって最も効果的な自学自習の方法と教材を発見し、自律的な語学学習を継続できるようになることを目標とする。 ・異文化間能力については、渡航先の社会事情、歴史、文化についての基礎的な知識と理解を身につけ、現地で出会う人々と積極的に交流し、交流の成果と反省点を客観的に整理して報告できるようになること。さらには帰国後も国際社会と異文化への好奇心を高め、広く多様な国・地域の人々と積極的に協力し合う姿勢と適応力を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	参加学生は教員およびスタッフの指導を受けながら事前学習、実地学習、事後学習を行う。講義を聞いてメモをとるだけで完結する授業はなく、常に自発的な語学学習と現地事情の情報収集に励む必要がある。また、現地において安全で効果的な実習を行うためには参加学生同士の協同が不可欠であるので、事前授業の段階からチームとして情報を共有し、学び合う姿勢が求められる。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	次のスケジュールと内容が予定されている。(8 月出発の場合。春出発の場合の日程は、ガイダンスで確認のこと。) ４月 募集ガイダンス（日時等の詳細はポータルおよび掲示で連絡する)、事前学習としては事前のガイダンス出席、指示された学習課題が義務付けられている。また、事後には成果報告会における発表とレポート提出が求められる。 ５月 申込書の提出 ５月下旬 派遣学生の決定および履修申請 ６月～８月 事前ガイダンスを実施（全３回） ８月上旬 結団式 ＜研修スケジュール＞ ［２週間コース］ ８月中旬～８月下旬（予定） ［３週間コース］ ８月中旬～９月上旬（予定） 9 月下旬～10 月上旬（予定） 成果報告会 事前学習 ・海外研修の目的と安全管理に関するガイダンスの受講と内容理解の確認 ・多読、会話演習など、学内の教材や設備を使った語学演習、ICT を活用した自主練習（ガイダンス時に説明） ・渡航先の社会事情、歴史、文化に関する情報収集（ガイダンス時に説明） ・研修中の目標と行動計画の策定。漠然と「語学力を上げたい」「話せるようになりたい」ではなく、「滞在中に・・・をする」という具体的な行動目標を立てること。 海外研修中 ・目標と行動計画に従い、授業に真摯に取り組むことはもちろん、授業外でも積極的に講師、スタッフ、ホストファミリーなど周囲の人々に話しかけ、コミュニケーションを進めること。 ・事前に情報収集して得た知識を活用して目標に向けて行動し、日々の成果と反省点について記録をつけながら過ごすこと。 事後学習課題 ・同時期に開催される他の研修参加者と合同での成果報告会が開催されるので、そこで研修の成果と反省点についてのプレゼンテーションを行う。 ・成果と反省点をまとめたレポート（報告書）を作成して提出する。
関連科目	英語その他外国語科目、研修先の地域に関する科目
教科書	
参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
評価方法 （基準）	事前・事後学習と成果報告会のプレゼン・レポートの評価（３０％） 研修先での成績（７０％）
学生への メッセージ	大学生になったら早い段階で一度は海外に出ましょう。少しでも興味があれば、まずは国際交流センターへ足を運んで下さい。
担当者の 研究室等	国際交流センター
備考	・参加学生は事前ガイダンスに必ず出席すること。やむを得ない事情で出席できない場合は事前に国際交流センターへ連絡し相談すること。 ・事前に参加申込みを行い許可を得た者に限り履修できる科目であり、通常の履修申請とは手続きが異なるので注意。 ・各学部の期末試験等のスケジュールを確認の上で履修を検討すること。学部・学年によって、また個々の学生の事情よって当該年度は受講できない場合がある。

科目名	生涯スポーツ実習	科目名（英文）	Lifetime Sports
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山　喬之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IPH2328a1		

基礎科目

授業概要・目的	スポーツの基礎知識をベースに、より応用的な内容に発展させ、スポーツライフ形成の大切さを学ぶ。スポーツ活動の楽しさや身体活動の重要性を自覚するとともに、生涯スポーツ参加への意識向上と自信を深めることを目的とする。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	実技形式で行う（雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある）。 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第１回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡すること。
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る
3	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り
4	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
5	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
6	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
7	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	活動点５０％、態度点２５％、技能点２５％として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館１Ｆ体育館事務室に来ること。
担当者の研究室等	体育館１Ｆ　体育館事務室
備考	【準備物】 トレーニングウエア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	生涯スポーツ実習（ゴルフ）	科目名（英文）	Lifetime Sports
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	近藤　潤
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IPH2328a1		

授業概要・目的

ゴルフというスポーツを通して生涯スポーツへの参加意識向上と自信を深めることを目的にする。
短期間の練習で最後に実際にコースに出てラウンドするという、ハードスケジュールではあるが、コースでラウンドする経験は、テレビなどで見るだけのゴルフとは違う楽しさや、難しさを体験できる。
また、社会人になってもコミュニケーションツールとしてゴルフをするための基礎となる。
ゴルフを通じて、打つ技術だけではなく、人と人とのコミュニケーションや社会人としてのルール・マナーを身につける。
外部講師の大東将啓は、日本プロゴルフ協会のティーチングプロ A 級、また日本ゴルフ協会で初の博士プロとして活動し、最高レベルの指導を学生に提供できる。

到達目標

①健康の保持増進ができる
②運動技能を向上させることができる
③競技ルール、ラウンドマナーを理解することができる
④学生相互のコミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる

学科の学習・教育目標との対応：[A]

授業方法と留意点

事前ガイダンス（９０分）と集中授業４日間（午前、午後、最終日は午後のみ）合わせて５日間で行う。
日程は、７月に事前ガイダンスを予定（詳細はポータルで連絡）、９月９日（月）～１２日（木）
５日間すべて受講できること。
事前の申し込みが受け付けられることが必要。
申込用紙は履修ガイダンス時に配布。

科目学習の効果（資格）

ゴルフを実践する最低限の打球技術、ルール、マナーを習得できる。
ゴルフを通じて人と人のコミュニケーションを図ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	事前ガイダンス	目的、内容、準備について ゴルフの概要	事後：ゴルフの概要を確認（１時間）
2	ゴルフの基礎知識	ゴルフのルール、マナーについて	事前：ルールの再確認（１時間） 事後：授業内容を実習ノートにまとめる（１時間）
3	ゴルフの基礎技術（１）	グリップ、スウィング	事前：午前中のルール・マナーについて確認（１時間） 事後：技術の反復練習　タオルスイングなど　授業内容を実習ノートにまとめる（１時間）
4	ゴルフの基礎技術（２）	打球練習場での練習 アイアン	事前：前日の技術練習のポイント再確認（１時間） 事後：授業内容を実習ノートにまとめる（１時間）
5	ゴルフの基礎技術（３）	アプローチ、パター練習	事前：前日の技術練習のポイント再確認（１時間） 事後：技術の反復練習　ルールの再確認（１時間）
6	ゴルフの応用技術（１）	打球練習場での練習 ドライバー	事前：前日までの技術練習のポイント再確認（１時間） 事後：技術の反復練習　ルールの再確認（１時間）
7	ゴルフの応用技術（２）	ミニラウンド	事前：前日までの技術練習のポイント再確認（１時間） 事後：ラウンド時のルール・マナーの再確認 授業内容を実習ノートにまとめる（１時間）
8	ゴルフの実践	ラウンド（９Ｈ）	事前：ラウンドのイメージトレーニング（１時間） 事後：授業内容を実習ノートにまとめる（１時間）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目

スポーツ科学実習Ⅰ，Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

評価方法（基準）

態度点５０％、技能点２５％および実習ノート２５％を総合評価する。

学生へのメッセージ

履修までの質問は、総合体育館のスポーツ振興センター事務室に来てください。

担当者の研究室等

総合体育館１階　近藤研究室

備考

ラウンド時の服装は襟付きポロシャツ、スラックス（半ズボンの場合はハイソックス着用）、運動靴（スパイク類は禁止）
ゴルフクラブは大学が用意しますが、ラウンド用のボール、ゴルフ用手袋は各自で用意してください。
雨天でも行いますので、着替えは多めに準備することと、体育館内でも行うことがあるので体育館シューズも用意してください。

科目名	数学基礎Ⅰ	科目名（英文）	Basic Mathematics Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	①②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小泉　耕蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IMA1324a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。 一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。
到達目標	文字式の基本的な演算ができる。 方程式および不等式を解くことができる。 数学的論理に基づいて、数式を立てることができる。 場合の数および確率の考え方を理解できる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果（資格）	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	整式の計算(1)	・計算の法則 ・因数分解	第１章の問　課題レポート
2	整式の計算(2)	・整式の割り算 ・剰余，因数の定理	第１章の問　課題レポート
3	分数式・無理式(1)	・通分の規則	第２章の問　課題レポート
4	分数式・無理式(2)	・平方根，立方根 ・有理化の計算	第２章の問　課題レポート
5	１次方程式(1)	・等式の基本法則	第３章の問　課題レポート
6	１次方程式(2)	・方程式の導き方 ・解き方	第３章の問　課題レポート
7	１次不等式(1)	・不等式の基本法則	第３章の問　課題レポート
8	１次不等式(2)	・不等式の導き方 ・解き方	第３章の問　課題レポート
9	連立１次方程式(1)	・連立方程式の導き方	第４章の問　課題レポート
10	連立１次方程式(2)	・解き方 ・基本法則	第４章の問　課題レポート
11	連立１次方程式(3)	・消去法	第４章の問　課題レポート
12	場合の数(1)	・数え上げの原則	第５章の問　課題レポート
13	場合の数(2)	・並べ方，選び方 ・順列，組み合わせ	第５章の問　課題レポート
14	確率(1)	・確率の計算	第６章の問　課題レポート
15	確率(2)	・くりかえす試行の確率	第６章の問　課題レポート

関連科目：数学基礎 II、経営統計学、ビジネス数学基礎

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習、小テストで 30 パーセント及び期末テストで 70 パーセントで評価する。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。
担当者の研究室等	3 号館 3 階(数学準備室)
備考	

科目名	数学基礎Ⅰ	科目名（英文）	Basic Mathematics Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	③④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野場　啓
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IMA1324a1		

授業概要・目的

高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化，さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。 一方で経営・経済系科目、 情報系科目の多くでは，かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、 最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。

到達目標

この授業を通じて学生には、
（１）式の展開・因数分解ができる。
（２）方程式・不等式を解くことができる。
（３）場合の数・確率の計算ができる。
を中心として、種々の問題を解けるようになることが期待される。

授業方法と留意点

テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。

科目学習の効果（資格）

問題を定式化すること，定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	整式の計算(1)	・計算の法則 ・因数分解	第１章の問 課題レポート
2	整式の計算(2)	・整式の割り算 ・剰余、因数の定理	第１章の問 課題レポート
3	分数式・無理式(1)	・通分の規則	第２章の問 課題レポート
4	分数式・無理式(2)	・平方根，立方根 ・有理化の計算	第２章の問 課題レポート
5	１次方程式(1)	・等式の基本法則	第３章の問 課題レポート
6	１次方程式(2)	・方程式の導き方 ・解き方	第３章の問 課題レポート
7	１次不等式(1)	・不等式の基本法則	第３章の問 課題レポート
8	１次不等式(2)	・不等式の導き方 ・解き方	第３章の問 課題レポート
9	連立１次方程式(1)	・連立方程式の導き方	第４章の問 課題レポート
10	連立１次方程式(2)	・解き方 ・基本法則	第４章の問 課題レポート
11	連立１次方程式(3)	・消去法	第４章の問 課題レポート
12	場合の数(1)	・数え上げの原則	第５章の問 課題レポート
13	場合の数(2)	・並べ方，選び方 ・順列、組み合わせ	第５章の問 課題レポート
14	確率(1)	・確率の計算	第６章の問 課題レポート
15	確率(2)	・くりかえす試行の確率	第６章の問 課題レポート

関連科目

数学基礎 II、経営統計学、ビジネス数学基礎

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学研究室　編	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

演習（３０％）及び期末テスト（７０％）の合計で評価する。

学生へのメッセージ

数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。

担当者の研究室等

３号館３階　数学研究室

備考

事前・事後学習は毎回１時間以上かけること。
課題レポートは採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。

科目名	数学基礎Ⅰ	科目名（英文）	Basic Mathematics Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑤⑥
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	妻鳥　淳彦
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IMA1324a1		

基礎科目

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。 一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。
到達目標	経済学・経営学を学ぶために必要な数学的計算ができること、具体的にはいろいろな場合の数の求め方を理解し、確率の計算ができること、その計算に必要な整式・方程式の計算を身につけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義による説明と問題演習・課題を４対６の時間配分で行う。
科目学習の効果（資格）	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	整式の計算(1)	・計算の法則 ・因数分解	第１章の問　提出課題
2	整式の計算(2)	・整式の割り算 ・剰余，因数の定理	第１章の問　提出課題
3	分数式・無理式(1)	・通分の規則	第２章の問　提出課題
4	分数式・無理式(2)	・平方根，立方根 ・有理化の計算	第２章の問　提出課題
5	１次方程式(1)	・等式の基本法則	第３章の問　提出課題
6	１次方程式(2)	・方程式の導き方 ・解き方	第３章の問　提出課題
7	１次不等式(1)	・不等式の基本法則	第３章の問　提出課題
8	１次不等式(2)	・不等式の導き方 ・解き方	第３章の問　提出課題
9	連立１次方程式(1)	・連立方程式の導き方	第４章の問　提出課題
10	連立１次方程式(2)	・解き方 ・基本法則	第４章の問　提出課題
11	連立１次方程式(3)	・消去法	第４章の問　提出課題
12	場合の数(1)	・数え上げの原則	第５章の問　提出課題
13	場合の数(2)	・並べ方，選び方 ・順列，組み合わせ	第５章の問　提出課題
14	確率(1)	・確率の計算	第６章の問　提出課題
15	確率(2)	・くりかえす試行の確率	第６章の問　提出課題

関連科目：数学基礎 II、経営統計学、ビジネス数学基礎

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学研究室編	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末試験（７０％），演習課題（３０％）の割合で評価する。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。
担当者の研究室等	3 号館 3 階(数学準備室)
備考	

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名（英文）	Basic Mathematics II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	①②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小泉　耕蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IMA1325a1		

授業概要・目的	この授業では，１次関数，２次関数のグラフの復習を出発点として，様々な関数の変化の様子をとらえられることを目標にする。
到達目標	関数の変化の様子を数式から理解し図示することができる。 数列の基本的取り扱いができる。 微分および積分の簡単な計算ができる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果（資格）	数学基礎 I に引き続き，　筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	第7章の問課題レポート
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き，切片	第7章の問課題レポート
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点，対称軸	第7章の問課題レポート
4	2次関数(2)	・最大値，最小値 ・応用例	第7章の問課題レポート
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の問課題レポート
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の問課題レポート
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の問課題レポート
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数，接線	第9章の問課題レポート
9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値，極小値	第9章の問課題レポート
10	整関数の微分(3)	・関数の増加，減少 ・関数のグラフ	第9章の問課題レポート
11	整関数の微分(4)	・最大値，最小値 ・応用問題	第9章の問課題レポート
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の問課題レポート
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の問課題レポート
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の問課題レポート
15	積分(4)	・面積，体積 ・応用問題	第10章の問課題レポート

関連科目：数学基礎Ⅰ、統計学、経営数学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習、小テストで 30 パーセント及び期末テストで 70 パーセントで評価する。
学生へのメッセージ	どのような些細なことでもかまいませんから，遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で，後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。
担当者の研究室等	3 号館 3 階(数学準備室)
備考	

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名（英文）	Basic Mathematics II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	③④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	担当者未定
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IMA1325a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化，さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、 情報系科目の多くでは，かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、 最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	1 次関数、2 次関数のグラフの復習を出発点として、様々な関数の変化の様子をとらえられるようになる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果（資格）	数学基礎 Ⅰ に引き続き， 筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・座標平面 ・点の表し方	第 7 章の問 課題レポート
2	1 次関数	・グラフの書き方 ・傾き，切片	第 7 章の問 課題レポート
3	2 次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点，対称軸	第 7 章の問 課題レポート
4	2 次関数(2)	・最大値，最小値 ・応用例	第 7 章の問 課題レポート
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第 7 章の問 課題レポート
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第 8 章の問 課題レポート
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第 8 章の問 課題レポート
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数，接線	第 9 章の問 課題レポート
9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値，極小値	第 9 章の問 課題レポート
10	整関数の微分(3)	・関数の増加，減少 ・関数のグラフ	第 9 章の問 課題レポート
11	整関数の微分(4)	・最大値，最小値 ・応用問題	第 9 章の問 課題レポート
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第 10 章の問 課題レポート
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第 10 章の問 課題レポート
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第 10 章の問 課題レポート
15	積分(4)	・面積，体積 ・応用問題	第 10 章の問 課題レポート

関連科目：数学基礎Ⅰ、統計学、経営数学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学研究室　編	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習（３０％）・期末テスト（７０％）で評価する。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。
担当者の研究室等	３号館３階　数学研究室
備考	

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名（英文）	Basic Mathematics II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	⑤⑥
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	妻鳥　淳彦
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IMA1325a1		

授業概要・目的	この授業では，１次関数，２次関数のグラフの復習を出発点として、整関数の微分・積分を学習する。微積分学の基本定理による定積分の計算方法を学び、経済系科目に必要な統計の計算ができるようになることを目的としている。
到達目標	関数の概念および微分・積分の考え方を理解したうえで、基礎的な定積分の計算ができることを到達目標とする。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義説明と問題演習・提出課題演習を４対６の時間配分で行う。
科目学習の効果（資格）	数学基礎Ⅰに引き続き，筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・座標平面・点の表し方	第7章の問提出課題
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き，切片	第7章の問提出課題
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点，対称軸	第7章の問提出課題
4	2次関数(2)	・最大値，最小値 ・応用例	第7章の問提出課題
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の問提出課題
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の問提出課題
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の問提出課題
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数，接線	第9章の問提出課題
9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値，極小値	第9章の問提出課題
10	整関数の微分(3)	・関数の増加，減少 ・関数のグラフ	第9章の問提出課題
11	整関数の微分(4)	・最大値，最小値 ・応用問題	第9章の問提出課題
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の問提出課題
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の問提出課題
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の問提出課題
15	積分(4)	・面積，体積 ・応用問題	第10章の問提出課題

関連科目：数学基礎Ⅰ、統計学、経営数学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学研究室編	学術図書出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末試験（７０％），小テスト及び演習（３０％）の割合で評価する。
学生へのメッセージ	どのような些細なことでもかまいませんから，遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で，後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。
担当者の研究室等	3号館3階(数学準備室)
備考	

科目名	スポーツ科学実習Ⅰ	科目名（英文）	Practice of Sports Science Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近藤　潤
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IPH1326a1		

基礎科目

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	実技形式で行う（雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある）。 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第１回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡すること。
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する（30 分） 事後：本実習の理解を深める（30 分）
2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える（30 分） 事後：自身の体力についての振り返り（30 分）
3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える（30 分） 事後：自身の体力についての振り返り（30 分）
4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく（30 分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（30 分）
5	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
6	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
7	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
8	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
9	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：全授業の総括（30 分）

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

評価方法（基準）	活動点５０％、態度点２５％、技能点２５％として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。
学生へのメッセージ	授業内容は、種目毎の例であり、それ以外を行うこともある。また本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館１Ｆ体育館事務室へ来ること。
担当者の研究室等	総合体育館１Ｆ　体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名（英文）	Practice of Sports Science II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近藤　潤
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IPH1327a1		

授業概要・目的	本科目では、スポーツ科学実習Ⅰで培った基礎的な技術を応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	実技形式で行う（雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある）。 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第１回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡すること。
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する（30 分） 事後：本実習の理解を深める（30 分）
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく（30 分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（30 分）
3	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
4	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
5	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
6	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
7	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
15	・ゲーム ・2 年次ガイダンス等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2 年次ガイダンス等を行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：全授業の総括（30 分）

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	活動点５０％、態度点２５％、技能点２５％として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。
学生へのメッセージ	授業内容は、種目毎の例であり、それ以外を行うこともある。また本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館１Ｆ体育館事務室へ来ること。
担当者の研究室等	総合体育館　１Ｆ　体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	専門日本語ＦⅠ	科目名（英文）	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷　尚子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF01322a1		

基礎科目

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、E メールの書き方、自己 PR の書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果（資格）	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
2	E メールの書き方１	E メールの基本	E メールで使われる形式、表現等の復習
3	E メールの書き方２	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
4	E メールの書き方３	依頼メール１	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
5	E メールの書き方４	依頼メール２	依頼メールの書き方の復習
6	E メールの書き方５	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールで必要な語彙、表現の復習
7	話し方１	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
8	話し方２	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
9	話し方３	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
10	自己 PR１	自己 PR とは何か	自己 PR で必要な項目を復習
11	自己 PR２	自己 PR 例の検討、修正１	自己 PR で必要な語彙、表現の復習
12	自己 PR３	自己 PR 例の検討、修正２	自己 PR で必要な語彙、表現の復習
13	自己 PR４	自分の自己 PR を書く１	自己 PR で必要な形式、書き方の復習
14	自己 PR５	自分の自己 PR を書く２	自己 PR の書き方の復習
15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目：専門日本語ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（50%）、提出物（50%）
学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。

科目名	専門日本語ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	塩谷　尚子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF02323a1		

基礎科目

授業概要・目的	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目指す。 ビジネス場面で使用する日本語表現、異文化ビジネスコミュニケーションについて学ぶ。
到達目標	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができる。 ビジネス場面で使用する日本語表現を理解し、使用することができる。 異文化ビジネスコミュニケーションについて理解できる。
授業方法と留意点	教師が準備した資料及びタスクシートをもとに講義、ディスカッション等を行う。
科目学習の効果（資格）	ビジネス日本語・ビジネスマナー・日本の会社についての知識を得ることによって 日本での就職活動及び就職に必要な知識やスキルを身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 日本語のレベルチェック	授業の説明	授業で確認した語彙、表現の復習
2	ビジネス日本語１ 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
3	ビジネス日本語２ 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
4	ビジネス日本語３ 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
5	ビジネス日本語４ 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
6	ビジネス日本語５ 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
7	ビジネス日本語６ 書く	ビジネス文書の書き方	ビジネス文書の形式、表現の復習 授業で提示した課題
8	ビジネス日本語７ 書く	Ｅメールの書き方	ビジネスにおけるＥメールに必要な形式、書き方の復習 授業で提示した課題
9	ビジネス日本語８	履歴書の書き方	履歴書を書く時に必要な表現の復習 授業で提示した課題
10	ビジネスマナー	異文化ビジネスコミュニケーション	異文化ビジネスコミュニケーションで必要な項目、表現の復習 授業で提示した課題
11	日本の会社１	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
12	日本の会社２	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
13	日本の会社３	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
14	日本の会社と仕事	仕事に関するドラマを視聴し、内容をまとめる。また、内容について話し合う。	授業で確認した語彙、表現等の復習
15	総復習・確認テスト	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目：専門日本語ＦⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業の参加度（10%）、課題（30%）、テスト（60%）により総合的に判断する。
学生へのメッセージ	授業では積極的に発言することが求められます。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	(1)事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 (2)授業進度及び参加学生のニーズによって授業内容が多少変更することがある。

科目名	専門日本語Ｒ	科目名（英文）	Japanese for Specific Purposes R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷　尚子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	RRE1332a1		

基礎科目

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、E メールの書き方、自己 PR の書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果（資格）	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
2	E メールの書き方１	E メールの基本	E メールで使われる形式、表現等の復習
3	E メールの書き方２	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
4	E メールの書き方３	依頼メール１	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
5	E メールの書き方４	依頼メール２	依頼メールの書き方の復習
6	E メールの書き方５	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールで必要な語彙、表現の復習
7	話し方１	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
8	話し方２	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
9	話し方３	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
10	自己 PR１	自己 PR とは何か	自己 PR で必要な項目を復習
11	自己 PR２	自己 PR 例の検討、修正１	自己 PR で必要な語彙、表現の復習
12	自己 PR３	自己 PR 例の検討、修正２	自己 PR で必要な語彙、表現の復習
13	自己 PR４	自分の自己 PR を書く１	自己 PR で必要な形式、書き方の復習
14	自己 PR５	自分の自己 PR を書く２	自己 PR の書き方の復習
15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目：専門日本語ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（50%）、提出物（50%）
学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。

科目名	中国語を聞く a	科目名（英文）	Chinese Listening a
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小都　晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH2318e1		

授業概要・目的	前年度に学んだ中国語を基礎に、読む・聞く・話す・書くの四つの力をさらに総合的にバランスよく学習する。中国語の運用能力の準中級レベル、中国語検定試験４級レベルに達することを目指す。
到達目標	中国語の基礎的な能力を身につけ、正しい発音で簡単な日常会話ができるようになる。
授業方法と留意点	授業は演習形式で、学生と教師のインタラクティブな活動を中心に進める。 授業では、聞く・話すの練習に力を入れる。日本語訳や語句・文法を覚えるなどの予習と復習は毎回必ず行ってください。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第 1 課　重逢	1. 反語文“不是～?” 2. 積極的な姿勢を示す“来”	事前に本文を予習（日本語訳）し、事後に語句とポイントを復習してしっかり覚える（各 1 時間）。
2	第 2 課　入学手?	1. 兼語文 2. 介詞“跟～”	事前に本文を予習（日本語訳）し、事後に語句とポイントを復習してしっかり覚える（各 1 時間）。
3	第 3 課　听力?	1. 形容詞の重ね型 2. 助動詞“会”(2)	事前に本文を予習（日本語訳）し、事後に語句とポイントを復習してしっかり覚える（各 1 時間）。
4	第 4 課　?早市	1. 存現文 2. 複文“除了 A, ?B”	事前に本文を予習（日本語訳）し、事後に語句とポイントを復習してしっかり覚える（各 1 時間）。
5	第 1 回単元テスト 第 5 課　?物?	第 1～4 課の単元テスト 1. 様態補語 2. 副詞“再”と“又”	テスト範囲の語句・文法を復習し、しっかりと習得する（2～4 時間）。 事前に本文を予習（日本語訳）し、事後に語句とポイントを復習してしっかり覚える（各 1 時間）。
6	第 6 課　中秋?	1.“快要～了” 2. 複文“一?A, 一?B”	事前に本文を予習（日本語訳）し、事後に語句とポイントを復習してしっかり覚える（各 1 時間）。
7	第 7 課　国??	1. 複文“因?A, 所以 B” 2. 可能補語（1）	事前に本文を予習（日本語訳）し、事後に語句とポイントを復習してしっかり覚える（各 1 時間）。
8	第 8 課　看京?	1.“没想到～” 2. 動詞“像”	事前に本文を予習（日本語訳）し、事後に語句とポイントを復習してしっかり覚える（各 1 時間）。
9	第 9 課　借?	1. 副詞“??” 2. 複文“一 A, 就 B”	事前に本文を予習（日本語訳）し、事後に語句とポイントを復習してしっかり覚える（各 1 時間）。
10	第 2 回単元テスト 第 10 課　互相?助	第 5～9 課の単元テスト 1. 動詞“?得” 2. 指示代名詞“那?”	テスト範囲の語句・文法を復習し、しっかりと習得する（2～4 時間）。 事前に本文を予習（日本語訳）し、事後に語句とポイントを復習してしっかり覚える（各 1 時間）。
11	第 11 課　找??	1. 量詞“～宿” 2. 複合方向補語“～出来”	事前に本文を予習（日本語訳）し、事後に語句とポイントを復習してしっかり覚える（各 1 時間）。
12	第 12 課　端午?	1. 複文“?然 A, 但是 B” 2. 助詞“什?的”	事前に本文を予習（日本語訳）し、事後に語句とポイントを復習してしっかり覚える（各 1 時間）。
13	第 13 課　看日出	1. 動詞“打算” 2. 複文“即使 A, 也 B”	事前に本文を予習（日本語訳）し、事後に語句とポイントを復習してしっかり覚える（各 1 時間）。
14	第 14 課　志愿者	1. 複文“如果 A（的?),（就）B” 2. 助動詞“愿意”	事前に本文を予習（日本語訳）し、事後に語句とポイントを復習してしっかり覚える（各 1 時間）。
15	授業のまとめ 第 3 回単元テスト	授業で学習した文法の復習と確認 第 10～14 課の単元テスト	テスト範囲の語句・文法を復習し、しっかりと習得する（2～4 時間）。

関連科目：「中国語を話す a」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	たのしくできる We Can!中国語　中級	徐送迎	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	継続は力なり。事前・事後の学習に各 60 分を要する。
担当者の研究室等	７号館３階 小都研究室 質問に対しては授業時間内、または担当教員の研究室でフィードバックを行う。
備考	一年生の「ビジネス中国語基礎ａｃ」あるいは「ビジネス中国語基礎ｂｄ」を履修したうえで、「中国語を聞く a」を履修するのが望ましい。 単元テストは返却時（あるいは実施後）に、間違いの多かったところを復習する。

科目名	中国語を聞く b	科目名（英文）	Chinese Listening b
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中西　正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH2319e1		

基礎科目

授業概要・目的	前年次の中国語入門科目の学習に続き，前期の「中国語を聞く a」を学んだうえで，読む・聴く・話す・書くの四つの力をさらに総合的にバランスよく学習する。中国語の運用能力の中級レベル，中国語検定試験４級レベルに達することを目指す。
到達目標	「中国語を聞く a」で学んだ事項を定着させるとともに発展させ，比較的優しい新聞記事などを辞書を使って読めるレベルを目指す。
授業方法と留意点	授業は演習形式で行い、学生と教師のインタラクティブな活動を中心に進める。 日本語を見て中国語を話す練習もする。授業時間内に質疑応答の時間を設ける。事前・事後の学習に各 60 分要する。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第 15 課　??会	1. 介詞“?了～”と“?～” 2. 助動詞“??”〃	事後に語句とポイントを1時間程度かけて復習してしっかり覚える。
2	第 16 課　参拜孔子?	1. 複文“既是 A，又是 B” 2. 挿入語“据?～”	事前に本文を１時間かけて予習し（日本語訳など)、事後には語句とポイントを1時間程度かけて復習してしっかり覚える。
3	第 17 課　演?比?	1. 受身文“被～” 2. 接続詞“可是”	事前に本文を１時間かけて予習し（日本語訳など)、事後には語句とポイントを1時間程度かけて復習してしっかり覚える。
4	第 18 課　???家	1. “把”構文 2. “?A 都（也）B”	事前に本文を１時間かけて予習し（日本語訳など)、事後には語句とポイントを1時間程度かけて復習してしっかり覚える。
5	第 1 回単元テスト(第 15~18 課) 第 19 課　考?	1. 複合方向補語“～起来” 2. 助詞“地”	テスト範囲の語句・文法を復習し、しっかりと習得する。事前に本文を１時間かけて予習し（日本語訳など)、事後には語句とポイントを 1 時間程度かけて復習してしっかり覚える。
6	第 20 課　?大衣	1. 複文“既 A，又 B” 2. 動量補語“一下儿”	事前に本文を１時間かけて予習し（日本語訳など)、事後には語句とポイントを1時間程度かけて復習してしっかり覚える。
7	第 21 課　??会	1. 副詞“早就” 2. 介詞“向～”	事前に本文を１時間かけて予習し（日本語訳など)、事後には語句とポイントを1時間程度かけて復習してしっかり覚える。
8	第 22 課　?路	1. “去～怎?走？” 2. 介詞“往～”	事前に本文を１時間かけて予習し（日本語訳など)、事後には語句とポイントを1時間程度かけて復習してしっかり覚える。
9	第 23 課　九寨?	1. “就像～一?” 2. 助動詞“得”	事前に本文を１時間かけて予習し（日本語訳など)、事後には語句とポイントを1時間程度かけて復習してしっかり覚える。
10	第 2 回単元テスト(第 20~23 課) 第 24 課　兵?俑	1. 動詞“建?” 2. 介詞“通?～”	テスト範囲の語句・文法を復習し、しっかりと習得する。事前に本文を１時間かけて予習し（日本語訳など)、事後には語句とポイントを 1 時間程度かけて復習してしっかり覚える。
11	第 25 課　找工作	1. 指示代名詞“??” 2. “不知道～”	事前に本文を１時間かけて予習し（日本語訳など)、事後には語句とポイントを1時間程度かけて復習してしっかり覚える。
12	第 26 課　?拉 OK	1. 複文“先 A，然后 B” 2. “?是～好”	事前に本文を１時間かけて予習し（日本語訳など)、事後には語句とポイントを1時間程度かけて復習してしっかり覚える。
13	第 27 課　?祝	1. 副詞“才” 2. 動詞“??”	事前に本文を１時間かけて予習し（日本語訳など)、事後には語句とポイントを1時間程度かけて復習してしっかり覚える。
14	第 28 課　送行	1. 可能補語（2） 2. “?～来?”	事前に本文を１時間かけて予習し（日本語訳など)、事後には語句とポイントを1時間程度かけて復習してしっかり覚える。
15	授業のまとめ 第 3 回単元テスト(第 25~28 課)	授業で学習した文法の復習と確認	テスト範囲の語句･文法を1時間程度かけて復習し、しっかりと習得する。事後にはこの授業のまとめを1時間かけて復習する。

関連科目	「中国語を聞く a」「中国語を話す b」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	たのしくできる We Can!中国語 中級	徐送迎	朝日出版社

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	継続は力なり。予習と復習の学習に１時間ずつ要する。
担当者の研究室等	７号館３階 中西研究室 質問に対しては授業時間内、または担当教員の研究室でフィードバックを行う。
備考	一年生の「ビジネス中国語基礎 a/c」あるいは「ビジネス中国語基礎 b/d」を履修し，さらに「中国語を聞く a」を履修済みであることが望ましい。単元テストは返却時(あるいは実施後)に、間違いの多かったところを復習する。

科目名	中国語を話す a	科目名（英文）	Chinese Speaking a
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	段　飛虹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH2320e1		

授業概要・目的	基礎中国語科目で学習した内容を復習しつつ、日頃の会話でよく見られるワンランク上の表現を習得する。話す訓練を中心に、他の読む、聴く、書くと言う総合的な学習をバランスよく行います。
到達目標	中国語を使って日常会話ができるレベルを目指します。
授業方法と留意点	中国語を「話す」、「使う」ことを重視する。大体、前の週に新しい文法と語彙を習い、次の週に完全に覚えるように指導する。毎回、単語小テストを行う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第１課 友達になる①	文法 ・助動詞「会」(1) ・介詞「在～」 ・動量補語 ・「是?的」構文 ・助動詞「想」	事前に、第１課の単語を覚える。 授業後、p.9～p.11 の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
2	友達になる②	・練習問題 ・会話を覚える	練習問題 p.12～p.13 を解答する。 第１課の会話文を覚える。
3	第２課 行きたいところは沢山?①	文法 ・介詞「給～」 ・複文「除了 A、?（也）B」 ・動詞「打算」 ・反語文「不是??」 ・「?A 都（也）B」	事前に、第２課の単語を覚える。 授業後、p.15～p.17 の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
4	行きたいところは沢山?②	・練習問題 ・会話を覚える	練習問題 p.18～p.19 を解答する。 第２課の会話文を覚える。
5	第３課 久しぶり①	文法 ・動態助詞「了」 ・複文「一?A、一?B」 ・様態補語 ・使役文 ・二重目的語	事前に、第３課の単語を覚える。 授業後、p.21～p.23 の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
6	久しぶり②	・練習問題 ・会話を覚える	練習問題 p.24～p.25 を解答する。 第３課の会話文を覚える。
7	復習課	・第１?第３課の復習 ・単元テスト１	第１?第３課の復習すること。 音声を聴いて書き取りをすること。
8	第４課 愛い子に旅をさせる①	文法 ・複文「因?A、所以 B」 ・助動詞「要」 ・助動詞「??」 ・複文「如果 A（的?）、就 B」 ・助動詞「会」(2)	事前に、第４課の単語を覚える。 授業後、p.27～p.29 の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
9	愛い子に旅をさせる②	・練習問題 ・会話を覚える	練習問題 p.30～p.31 を解答する。 第４課の会話文を覚える。
10	第５課 外国人はみなラーメンが好きだよ①	文法 ・複文「先 A、然后 B」 ・複文「A 是 A、不?B」 ・可能補語 ・複文「不管 A、都 B」 ・複文「既 A、又 B」	事前に、第５課の単語を覚える。 授業後、p.33～p.35 の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
11	外国人はみなラーメンが好きだよ②	・練習問題 ・会話を覚える	問題 p.36～p.37 を解答する。 第５課の会話文を覚える。
12	第６課 今日僕がおごる①	文法 ・複文「不但 A、而且 B」 ・複文「要?A、要?B」 ・「提?」の使い方 ・語気助詞「了」 ・結果補語	事前に、第６課の単語を覚える。 授業後、p.39～p.41 の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
13	今日僕がおごる②	・練習問題 ・会話を覚える	問題 p.42～p.43 を解答する。 第６課の会話文を覚える。
14	復習課	・第４?６課の既習語彙、文法や語順、基本文型を復習する	第４?６課の練習問題に出ている文や文法などを覚えているかどうか再度確認する。
15	単元テスト２	・会話文を熟読の上、日本語訳文を見ながら中国語を思い出して言う事で、訳す力、話す力を高める。	事前に、第４?６課の復習すること。

関連科目	「中国語を聞く a」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	仲間で話そう中国語	徐 送迎	朝日出版社
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 中日辞典　第３版 / 北京商務印書館・小学館 / 小学館 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	平常点 40%、単元テスト 60%で評価する。
学生への メッセージ	口から自然と中国語が出てくるように、頑張りましょう。事前・事後学習に１時間ずつ要します。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（７号館２階）
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 講義前の予習（テキストを読む。1 時間 x13 回）、 復習（講義プリントの重要事項をまとめる。1.5 時間 X13 回）、 自己学習（講義プリントに収載されている確認問題を解答する。）

科目名	中国語を話すｂ	科目名（英文）	Chinese Speaking b
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	段　飛虹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH2321e1		

授業概要・目的	基礎中国語科目で学習した内容を復習しつつ、日頃の会話でよく見られるワンランク上の表現を習得する。話す訓練を中心に、他の読む、聴く、書くと言う総合的な学習をバランスよく行います。
到達目標	中国語を使って日常会話ができるレベルを目指します。
授業方法と留意点	中国語を「話す」、「使う」ことを重視する。大体、前の週に新しい文法と語彙を習い、次の週に完全に覚えるように指導する。毎回、単語小テストを行う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第７課 私達の夢①	文法 ・介詞「作?～」 ・「想好了」と「 ?没想好」 ・禁止を表す「?」と「不要」 ・動態助詞「着」 ・複文「?然 A、但是 B」	事前に、第７課の単語を覚える。 授業後、p. 45～p. 47 の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
2	私達の夢②	・練習問題 ・会話を覚える	練習問題 p. 48～p. 49 を解答する。 第７課の会話文を覚える。
3	第８課 僕は一つ願いがある①	文法 ・挿入語「据?～」と「听??」 ・複文「只要 A、就 B」 ・複語方向補語「?出来」 ・複文「不?A、?B」」 ・兼語文	事前に、第８課の単語を覚える。 授業後、p. 51～p. 53 の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
4	僕は一つ願いがある②	・練習問題 ・会話を覚える	練習問題 p. 54～p. 55 を解答する。 第８課の会話文を覚える。
5	第９課 プライペートなお話をしてもいいですか？①	文法 ・介詞「向?」 ・助動詞「可以」と「能」 ・比較文「A 比 B?」 ・複文「即使 A、也 B」 ・時量補語	事前に、第９課の単語を覚える。 授業後、p. 57～p. 59 の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
6	プライペートなお話をしてもいいですか？②	・練習問題 ・会話を覚える	練習問題 p. 60～p. 61 を解答する。 第９課の会話文を覚える。
7	復習課	・第７？９課の復習 ・単元テスト１	第 7?9 課の復習すること。 音声を聴いて書き取りをすること。
8	第１０課 連絡方法①	文法 ・「快?了」 ・助動詞「得」 ・「把」構文 ・副詞「就」と「才」 ・複文「一 A、就 B」	事前に、第 10 課の単語を覚える。 授業後、p. 63～p. 65 の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
9	連絡方法②	・練習問題 ・会話を覚える	練習問題 p. 66～p. 67 を解答する。 第 10 課の会話文を覚える。
10	第１１課 北京で楽しく集う①	文法 ・「越来越?」 ・動作の進行を表わす「在」 ・構造助詞「地」 ・動態助詞「?」 ・受身文「被」	事前に、第 11 課の単語を覚える。 授業後、p. 69～p. 71 の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
11	北京で楽しく集う②	・練習問題 ・会話を覚える	問題 p. 72～p. 73 を解答する。 第 11 課の会話文を覚える。
12	第１２課 我が家にご招待①	文法 ・介詞「跟～」 ・副詞「再」と「又」 ・複文「既然 A、(就) B」 ・介詞「?～」 ・「有点儿」と「一点儿」	事前に、第 12 課の単語を覚える。 授業後、p. 75～p. 77 の語彙練習問題を解くことで、語彙力を高める。
13	我が家にご招待②	・練習問題 ・会話を覚える	問題 p. 78～p. 79 を解答する。 第 12 課の会話文を覚える。
14	復習課	・第１０？１２課の既習語彙、文法や語順、基本文型を復習する	第 10?12 課の練習問題に出ている文や文法などを覚えているかどうか再度確認する。
15	単元テスト２	・会話文を熟読の上、日本語訳文を見ながら中国語を思い出して言う事で、訳す力、話す力を高める。	事前に、第 10?12 課の復習すること。

関連科目：「中国語を聞くａ」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	仲間で話そう中国語	徐 送迎	朝日出版社
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 中日辞典　第３版 / 北京商務印書館・小学館 / 小学館 2 / / /
	3 / / /
評価方法 （基準）	平常点 40%、単元テスト 60%で評価する。
学生への メッセージ	口から自然と中国語が出てくるように、頑張りましょう。事前・事後学習に１時間ずつ要します。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（７号館２階）
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 講義前の予習（テキストを読む。1 時間 x13 回）、 復習（講義プリントの重要事項をまとめる。1.5 時間 X13 回）、 自己学習（講義プリントに収載されている確認問題を解答する。）

科目名	日本語会話ＦⅠ	科目名（英文）	Japanese Conversation FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川　由理子
ディプロマポリシー(DP)	Ｖ科：Ⅲ○,Ⅳ○,Ｒ科：A◎,Ａ科：C◎,Ｍ科：B2◎,Ｅ科：Ｆ○,Ｃ科：Ⅲ○,Ⅵ○,Ｌ科：DP1◎,DP7△,DP8△,Ｄ科：DP1◎,Ｓ科：DP1◎,Ｐ科：DP2△,DP4△,Ｊ科：DP1◎,Ｗ科：DP1◎,DP7◎,Ｎ科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF01324a1		

基礎科目

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。
科目学習の効果（資格）	
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成（残り）
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習（文体に気を付ける）
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師講師室（7 号館 2 階）
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。

科目名	日本語会話ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川　由理子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF02325a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。
科目学習の効果（資格）	
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成（残り）
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習（文体に気を付ける）
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師講師室（7 号館 2 階）
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。

科目名	日本語会話R	科目名（英文）	Japanese Conversation R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川　由理子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	RRE1333a1		

基礎科目

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。
科目学習の効果（資格）	
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成（残り）
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習（文体に気を付ける）
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師講師室（7 号館 2 階）
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。

科目名	日本語総合ＦⅠ	科目名（英文）	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤原　京佳
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF01320a1		

基礎科目

授業概要・目的	授業では特定のテーマに関する資料を用い、以下の４点を行う。 １．資料で使用されている語彙や表現を学ぶ ２．資料の内容を理解する ３．資料の内容について意見交換を行う ４．必要に応じて資料の要約や意見文を書く 日本語の語彙力、読解力、口頭コミュニケーション能力、ライティング力を総合的に養うことを目的とする。
到達目標	１．論説文に特徴的な表現や語彙を理解することができる。 ２．社会的・専門的テーマに関する資料を読んで理解することができる。 ３．特定のテーマについて他者と議論・対話を行うことができる。 ４．適切な文体・表現を用いて文章を書くことができる。
授業方法と留意点	社会的・専門的テーマに関する資料を読んでいくが、内容理解にとどまらず、内容を踏まえた上で自身の考えを深めることが求められる。したがって、授業では語彙・表現等の説明も行うが、意見交換を重視する。また、自分の考えを一方的に述べるだけでなく、異なる意見をもつ他者とどのように話し合いを進めていくかということにも意識的に取り組んでいく。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	自己紹介 授業の概要説明	自己紹介文を書く
2	テーマ１	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する
3	テーマ２	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する
4	テーマ３	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する
5	確認	テーマ１から３の学習内容に関する確認・小テスト	テーマ１から３のうち１つ選んで、意見文を書く
6	テーマ４	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する
7	テーマ５	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する
8	テーマ６	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する
9	確認	テーマ 4 から 6 の学習内容に関する確認・小テスト	テーマ４から６のうち１つ選んで、意見文を書く
10	テーマ７	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する
11	テーマ８	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する
12	テーマ９	資料の読解・テーマに関する話し合い	資料に出てきた語彙・表現等を復習する
13	確認	テーマ 7 から 9 の学習内容に関する確認・小テスト	テーマ７から９のうち１つ選んで、意見文を書く
14	レポート作成準備	レポートの書き方	これまで扱ったテーマの中から１つ選びレポートを作成する
15	発表・フィードバック	レポート内容の発表および話し合い	返却されたレポートの訂正箇所について確認する

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への取り組み 30%、小テスト 30%、レポート 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講者の日本語レベルにより授業内容を調整・変更することがあります。
担当者の研究室等	国際交流センター講師控室（3 号館 4 階）
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 受講者が小人数の場合、要望を取り入れながら授業を行います。 授業では学生同士の話し合いを観察し、教師が適宜フィードバックを行う。

科目名	日本語総合ＦⅡ	科目名（英文）	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原　京佳
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF02321a1		

基礎科目

授業概要・目的	日本や国際社会における社会・時事問題への理解を深めると同時に、問題について日本語で議論する能力を伸ばす。
到達目標	１．社会的な問題について論理的に自分の意見を述べることができる。 ２．他者の意見に耳を傾け、建設的に議論を進めていくことができる。
授業方法と留意点	日本・国際社会の問題に関するニュースや新聞（生教材）を使い、話し合う。 コースの後半は学生各自が興味のある話題を持ち寄って、話し合う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	トピック①	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
2	トピック②	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
3	トピック③	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
4	トピック④	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
5	トピック⑤	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
6	トピック⑥	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
7	トピック⑦	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
8	トピック⑧	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
9	学生持ち寄りのトピック①	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
10	学生持ち寄りのトピック②	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
11	学生持ち寄りのトピック③	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
12	学生持ち寄りのトピック⑤	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
13	学生持ち寄りのトピック⑥	議論	翌週行う自分の持ち寄りトピックに関する資料収集
14	発表準備	自分が持ち寄ったトピックをさらに絞り込み、発表資料を作成する	発表練習
15	発表	口頭発表 質疑応答 振り返り	発表のフィードバックシートを用い、改善点等を確認する

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業で課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。
担当者の研究室等	国際交流センター（３号館４階）
備考	事前事後学習時間の目安は毎週１時間。 受講者が小人数の場合、要望を取り入れながら授業を行います。 議論を行ううえで不明な語彙や表現がある場合は教師が適宜サポート・フィードバックします。

科目名	日本語総合R	科目名（英文）	Comprehensive Japanese R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原　京佳
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	RRE1331a1		

授業概要・目的	日本や国際社会における社会・時事問題への理解を深めると同時に、問題について日本語で議論する能力を伸ばす。
到達目標	１．社会的な問題について論理的に自分の意見を述べることができる。 ２．他者の意見に耳を傾け、建設的に議論を進めていくことができる。
授業方法と留意点	日本・国際社会の問題に関するニュースや新聞（生教材）を使い、話し合う。 コースの後半は学生各自が興味のある話題を持ち寄って、話し合う。
科目学習の効果（資格）	
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	トピック①	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
2	トピック②	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
3	トピック③	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
4	トピック④	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
5	トピック⑤	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
6	トピック⑥	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
7	トピック⑦	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
8	トピック⑧	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
9	学生持ち寄りのトピック①	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
10	学生持ち寄りのトピック②	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
11	学生持ち寄りのトピック③	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
12	学生持ち寄りのトピック⑤	議論	授業内での話し合いをふまえコメントシートを記入する
13	学生持ち寄りのトピック⑥	議論	翌週行う自分の持ち寄りトピックに関する資料収集
14	発表準備	自分が持ち寄ったトピックをさらに絞り込み、発表資料を作成する	発表練習
15	発表	口頭発表 質疑応答 振り返り	発表のフィードバックシートを用い、改善点等を確認する

関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業で課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。
担当者の研究室等	国際交流センター（３号館４階）
備考	事前事後学習時間の目安は毎週１時間。 受講者が小人数の場合、要望を取り入れながら授業を行います。 議論を行ううえで不明な語彙や表現がある場合は教師が適宜サポート・フィードバックします。

科目名	日本語読解ＦⅠ	科目名（英文）	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	Ｖ科：Ⅲ○,Ⅳ○,Ｒ科：A◎,Ａ科：C◎,Ｍ科：B2◎,Ｅ科：Ｆ○,Ｃ科：Ⅲ○,Ⅵ○,Ｌ科：DP1◎,DP7△,DP8△,Ｄ科：DP1◎,Ｓ科：DP1◎,Ｐ科：DP2△,DP4△,Ｊ科：DP1◎,DP8◎,Ｗ科：DP1◎,DP7◎,Ｎ科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF01314a1		

基礎科目

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。
科目学習の効果（資格）	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	復習
8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
12	ローソクの進化①	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	復習
13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	復習
14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目：日本語読解ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週１時間。 (4)小テストの FB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。

基礎科目

科目名	日本語読解ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	Ｖ科：Ⅲ○,Ⅳ○,Ｒ科：A◎,Ａ科：C◎,Ｍ科：B2◎,Ｅ科：Ｆ○,Ｃ科：Ⅲ○,Ⅵ○,Ｌ科：DP1◎,DP7△,DP8△,Ｄ科：DP1◎,Ｓ科：DP1◎,Ｐ科：DP2△,DP4△,Ｊ科：DP1◎,DP8◎,Ｗ科：DP1◎,DP7◎,Ｎ科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF02315a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。
科目学習の効果（資格）	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
2	統計と数字①	読解、内容理解	復習
3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	復習
4	背理法①	読解、内容理解	復習
5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
6	「待つ」こと①	読解、内容理解	復習
7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	復習
8	ついでに何をする？①	読解、内容理解	復習
9	ついでに何をする？②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	復習
10	ウイルス発見！①	読解、内容理解	復習
11	ウイルス発見！②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	復習
13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目：日本語読解ＦＩ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週１時間。 (4)小テストの FB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。

科目名	日本語読解R	科目名（英文）	Japanese Reading R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	RRE1328a1		

基礎科目

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。
科目学習の効果（資格）	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	復習
8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
12	ローソクの進化①	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	復習
13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	復習
14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目：日本語読解ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週１時間。 (4)小テストの FB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。

科目名	日本語表現作文ＦⅠ	科目名（英文）	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	Ｖ科：Ⅲ○,Ⅳ○,Ｒ科：A◎,Ａ科：C◎,Ｍ科：B2◎,Ｅ科：Ｆ○,Ｃ科：Ⅲ○,Ⅵ○,Ｌ科：DP1◎,DP7△,DP8△,Ｄ科：DP1◎,Ｓ科：DP1◎,Ｐ科：DP2△,DP4△,Ｊ科：DP1◎,DP8◎,Ｗ科：DP1◎,DP7◎,Ｎ科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF01318a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。
到達目標	・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。
科目学習の効果（資格）	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習
4	段落①	段落構成について学ぶ	復習
5	段落②	実践練習	復習 作文課題
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習
7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習
9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習
10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題
11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習
13	要約②	実践練習	復習 作文課題
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目：日本語表現作文ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（50%）、提出物（50%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週１時間。 (4)提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。

科目名	日本語表現作文ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：Ｆ○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,DP8◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF02319a1		

基礎科目

授業概要・目的	この授業では、実際にレポートを作成することを通し、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。
到達目標	・レポート・論文の文体で書ける。 ・レポート・論文の書き方を守って書ける。 ・アウトラインに沿って書ける。 ・信頼性の高い資料を集められる。
授業方法と留意点	授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。
科目学習の効果（資格）	レポートが書けるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	復習
2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	復習
3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	復習
4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	復習 資料を集める
5	資料を整理する	集めた資料を整理する	復習
6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	復習
7	序論①	序論の内容と書き方（課題、目的の提示）を学ぶ	復習
8	序論②	序論を書く	復習
9	本論①	本論の内容と書き方（データ、意見提示）を学ぶ	復習
10	本論②	本論の内容と書き方（考察、結論提示）を学ぶ	復習
11	本論③	本論を書く	復習
12	結論①	結論の内容と書き方（全体のまとめ、今後の課題）を学ぶ	復習
13	結論②	結論を書く	復習
14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	復習
15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	復習

関連科目：日本語表現作文ＦＩ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、レポート（30%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週１時間。 (4)提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。

科目名	日本語表現作文R	科目名（英文）	Japanese Reading and Writing R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：F○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	RRE1330a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。
到達目標	・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。
科目学習の効果（資格）	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習
4	段落①	段落構成について学ぶ	復習
5	段落②	実践練習	復習 作文課題
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習
7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習
9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習
10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題
11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習
13	要約②	実践練習	復習 作文課題
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目：日本語表現作文FⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（50%）、提出物（50%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週１時間。 (4)提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。

科目名	日本語表現法Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Reading and Writing Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	澤野　加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IJA1322a1		

授業概要・目的

文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。
大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。
考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。

到達目標

適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。

授業方法と留意点

教科書を使って、文章作成の練習をする。文章表現の基本を再確認し、身につけた上で課題作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。
毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。

科目学習の効果（資格）

文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	教科書・資料の復習（３０分）
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	教科書・資料の復習（３０分）
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	教科書・資料の復習（３０分）
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	事前・教科書・資料の見直し（１時間）
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	教科書・資料の復習（３０分）
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	教科書・資料の復習（３０分）
7	フィードバック	課題１のフィードバック	課題１を見直す（３０分）
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	教科書・資料の復習（３０分）
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	教科書・資料の復習（３０分）
10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	教科書・資料の復習（３０分）
11	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	事前・教科書・資料の見直し（１時間）
12	レポートの書き方１・２	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	教科書・資料の復習（３０分）
13	フィードバック	課題２のフィードバック	課題２を見直す（３０分）
14	【 レポート 】	レポートを提出する	レポートを作成する（２時間）
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	小テストの復習（４０分）

関連科目

ゼミ、卒業研究など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

課題２回（20%×2）、レポート（30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により評価する。
課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。

学生へのメッセージ

日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。

担当者の研究室等

７号館２階（非常勤講師室）

備考

総学習時間の目安は 60 時間。
提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現法Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Reading and Writing Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＧＨＪＫＬＭＮ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上島　誠司
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IJA1322a1		

基礎科目

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。 適切な方法を用いて、１０００字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。 毎回の授業は教科書に沿って講義を進める。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	１時間
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて２時間
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて２時間
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習 事前事後あわせて２時間
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習 事前事後あわせて２時間
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて２時間
7	フィードバック	課題１のフィードバック	課題１を見直す 事前事後あわせて２時間
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて２時間
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて２時間
10	引用の復習 意見を述べる	文章と図表の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習 事前事後あわせて２時間
11	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習 事前事後あわせて２時間
12	レポートの書き方１	レポート作成の方法と体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習 事前事後あわせて２時間
13	レポートの書き方２ フィードバック１	レポート作成の補足 課題２のフィードバック	課題２を見直す 事前事後あわせて２時間
14	フィードバック２ 資料収集の方法	課題２のフィードバック 文献の検索について学ぶ	課題２を見直す 事前事後あわせて２時間
15	レポート提出 小テストの復習テスト	レポートを提出する	小テストの復習 事前事後あわせて２時間

関連科目：ゼミ、卒業研究など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

評価方法（基準）	課題２回（２０％×２）、レポート（３０％）、授業に取り組む姿勢・小テスト（３０％）により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。 ※授業中は教員を含む他人に迷惑をかける行為はやめてください。たとえば、私語や携帯電話は厳禁、寝るなどというのはもってのほかです。真面目に学ぼうとする人の学習権を侵害する行為はやめてください。注意してもやめない場合はそれなりの措置をとることがあります。他人に迷惑をかけない、という最低限の大人のマナーは守ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）　　学習支援センター
備考	そう学習時間の目安は６０時間。 課題提出については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現法Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Reading and Writing II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＦ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	澤野　加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IJA1323a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活で必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、ディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。グループワークのなかから、ディベートする力を養う。
科目学習の効果（資格）	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	――――――
2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題１】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
4	ディスカッション準備	配布された資料をまとめる	前回の復習
5	フィードバック	課題１のフィードバック	課題１を見直す
6	ディスカッション１	グループ分けとディスカッションを行う	テーマの下調べ
7	ディスカッション２	ディスカッションを行う	前回の復習
8	【課題 2】報告文	ディスカッションの経過を文書で報告する	これまでの復習
9	資料作成	プレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
10	フィードバック	課題２のフィードバック	課題２を見直す
11	プレゼンテーション１	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
12	プレゼンテーション２	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	【課題３】報告文	プレゼンテーションの内容を文書で報告する	報告文の準備
14	手紙の書き方	手紙の基本とマナーを学ぶ	前回の復習
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目：ゼミ、卒業研究など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題３回（20%、20%、30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現法Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Reading and Writing II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	ＧＨＪＫＬＭＮ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久田　行雄
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IJA1323a1		

基礎科目

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活で必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。 プリントを配布し、それに基づいて授業を行う。 毎回、授業の冒頭で、語彙力を養う小テストを行う。
科目学習の効果（資格）	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。 日本語に関する関心と知識が深まる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	――――――
2	レポートの書き方①	資料の引用と考察、意見の述べ方を再確認する	教科書「文章を引用する」を復習する
3	レポートの書き方②	グラフ・図表を説明する方法を再確認する	教科書「図表を引用する」を復習する
4	レポートの書き方③	レポートの構成について再確認する	教科書「構成」を復習する
5	課題①	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
6	敬意表現	敬語表現の基本を復習する	プリントを読み、敬語の基本を復習する
7	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	プリントを読み、メールの書き方を復習する
8	ディスカッション①	グループ分けとディスカッションを行う	ディスカッションを踏まえ、自らの考えを深める
9	ディスカッション② 課題②	グループディスカッションを行う ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	ディスカッションを踏まえ、自らの考えを深める
10	プレゼンテーション①	グループ分けをし、プレゼンテーションのテーマを決める	発表のテーマについて調べる
11	プレゼンテーション②	グループ単位でパワーポイントを作成する	パワーポイントの準備 発表の練習
12	プレゼンテーション③	プレゼンテーションを行う	報告文の準備
13	課題③	プレゼンテーションの内容を報告する	他のグループの発表を踏まえ、自らの考えを深める
14	復習テスト	小テストの復習テスト	小テストの復習
15	授業の総括	これまでの授業の再確認	文章の書き方・グループディスカッション・プレゼンテーションの要点を復習する

関連科目：日本語表現Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題３回（20%、20%、30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により総合的に評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	私たちが普段、当たり前のように使っている「日本語」と、あらためてじっくり向き合ってみましょう。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 総学習時間の目安は 60 時間。 事前事後学習には、毎回１時間以上かけること。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語文法ＦⅠ	科目名（英文）	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	Ｖ科：Ⅲ○,Ⅳ○,Ｒ科：A◎,Ａ科：C◎,Ｍ科：B2◎,Ｅ科：Ｆ○,Ｃ科：Ⅲ○,Ⅵ○,Ｌ科：DP1◎,DP7△,DP8△,Ｄ科：DP1◎,Ｓ科：DP1◎,Ｐ科：DP2△,DP4△,Ｊ科：DP1◎,DP8◎,Ｗ科：DP1◎,DP7◎,Ｎ科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF01316a1		

基礎科目

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果（資格）	高度な日本語運用能力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	文法項目の解説と練習	復習
3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	復習
4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	復習
5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	復習
6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	復習
7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	復習
8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	復習
9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	復習
10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	復習
11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	復習
12	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	復習
13	「割り勘」は当然？①	文法項目の解説と練習	復習
14	「割り勘」は当然？②	文法項目の解説と練習	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目：日本語文法ＦⅡ、日本語読解ＦⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)授業内で使用したプリントを使い文法の確認（復習）。目安は毎週１時間。 (4)小テストの FB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。

科目名	日本語文法ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	Ｖ科：Ⅲ○,Ⅳ○,Ｒ科：A◎,Ａ科：C◎,Ｍ科：B2◎,Ｅ科：Ｆ○,Ｃ科：Ⅲ○,Ⅵ○,Ｌ科：DP1◎,DP7△,DP8△,Ｄ科：DP1◎,Ｓ科：DP1◎,Ｐ科：DP2△,DP4△,Ｊ科：DP1◎,DP8◎,Ｗ科：DP1◎,DP7◎,Ｎ科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF02317a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果（資格）	高度な日本語運用能力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
8	ついでに何をする？①	文法項目の解説と練習	復習
9	ついでに何をする？②	文法項目の解説と練習	復習
10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	復習
11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	復習
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目：日本語文法ＦⅠ、日本語読解ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)授業内で使用したプリントを使い文法の確認（復習）。目安は毎週１時間。 (4)小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。

科目名	日本語文法R	科目名（英文）	Japanese Grammar R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木　成美
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：F○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	RRE1329a1		

基礎科目

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果（資格）	高度な日本語運用能力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
8	ついでに何をする？①	文法項目の解説と練習	復習
9	ついでに何をする？②	文法項目の解説と練習	復習
10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	復習
11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	復習
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法ＦⅠ、日本語読解ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)授業内で使用したプリントを使い文法の確認（復習）。目安は毎週１時間。 (4)小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。

科目名	日本事情ＦＩ	科目名（英文）	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	Ｖ科：Ⅲ○,Ⅳ○,Ｒ科：A◎,Ａ科：C◎,Ｍ科：B2◎,Ｅ科：Ｂ○,Ｃ科：Ⅲ○,Ⅵ○,Ｌ科：DP1△,DP2○,Ｄ科：DP1◎,Ｓ科：DP1◎,Ｐ科：DP2△,DP4△,Ｊ科：DP1◎,DP7◎,Ｗ科：DP1◎,DP7◎,Ｎ科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF01312a1		

基礎科目

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。（１）映画についての情報・その他背景知識について説明　（２）映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題　（３）テーマについてディスカッション　（４）「書く」練習
科目学習の効果（資格）	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習(11 章２ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)(1.5 時間)
2	映画１：テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習（11 章２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
3	映画１：テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習（11 章２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
4	映画１：テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（４章２ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　（計２時間）
5	映画２：テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（４章２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計２時間)
6	映画２：テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習（４章２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
7	映画２：テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く）（計２時間）
8	テーマ１・２に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習(10 章２ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）（計２時間）
9	映画３：テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（10 章２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計２時間)
10	映画３：テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習（10 章２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
11	映画３：テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（４章２ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　（計２時間）
12	映画４：「ジェンダー」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（４章２ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　（計２時間）
13	映画４：「ジェンダー」	内容理解、タスク	テキスト予習（４章２～3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5 時間)
14	映画４：「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く）（計２時間）
15	テーマ３・４に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く）（計２時間）

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2			
3			

評価方法 （基準）	各課題及びレポート（80%),授業への参加度（20%）により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	７号館４階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。

基礎科目

科目名	日本事情ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	Ｖ科：Ⅲ○,Ⅳ○,Ｒ科：A◎,Ａ科：C◎,Ｍ科：B2◎,Ｅ科：Ｂ○,Ｃ科：Ⅲ○,Ⅵ○,Ｌ科：DP1△,DP2○,Ｄ科：DP1◎,Ｓ科：DP1◎,Ｐ科：DP2△,DP4△,Ｊ科：DP1◎,DP7◎,Ｗ科：DP1◎,DP7◎,Ｎ科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF02313a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。（１）映画についての情報・その他背景知識について説明　（２）映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題　（３）テーマについてディスカッション　（４）「書く」練習
科目学習の効果（資格）	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習（2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）(1.5時間)
2	映画１：テーマ「民族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習（２～3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
3	映画１：テーマ「民族」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
4	映画１：テーマ「民族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（４章２ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　（計２時間）
5	映画２：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（11章２～3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計２時間)
6	映画２：テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習（11章２～3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
7	映画２：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く）(計２時間)
8	テーマ１・２に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（2章２ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）(計２時間)
9	映画３：テーマ「趣味とスポーツ」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（2章２～3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計２時間)
10	映画３：テーマ「趣味とスポーツ」	内容理解、タスク	テキスト予習（2章２～3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
11	映画３：テーマ「趣味とスポーツ」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習(10章２ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　（計２時間）
12	映画４：「高齢化社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習(10章２ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　（計２時間）
13	映画４：「高齢化社会」	内容理解、タスク	テキスト予習（10章２～3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
14	映画４：「高齢化社会」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く）(計２時間)
15	テーマ３・４に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く）(計２時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2			
3			

評価方法 （基準）	各課題及びレポート（80%),授業への参加度（20%）により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	７号館４階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。

科目名	日本事情ＲＩ	科目名（英文）	Japanese Culture and Society RI
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	Ⅴ科：Ⅲ○,Ⅳ○,Ｒ科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：Ｂ○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1△,DP2○,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,N科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	RRE1326a1		

基礎科目

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。（１）映画についての情報・その他背景知識について説明　（２）映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題　（３）テーマについてディスカッション　（４）「書く」練習
科目学習の効果（資格）	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習(11章２ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)(1.5時間)
2	映画１：テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習（11章２～3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
3	映画１：テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習（11章２～3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
4	映画１：テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（４章２ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　（計２時間）
5	映画２：テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（４章２～3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計２時間)
6	映画２：テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習（４章２～3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
7	映画２：テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く）（計２時間）
8	テーマ１・２に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習(10章２ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）（計２時間）
9	映画３：テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（10章２～3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計２時間)
10	映画３：テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習（10章２～3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
11	映画３：テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（４章２ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　（計２時間）
12	映画４：「ジェンダー」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（４章２ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　（計２時間）
13	映画４：「ジェンダー」	内容理解、タスク	テキスト予習（４章２～3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
14	映画４：「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く）（計２時間）
15	テーマ３・４に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く）（計２時間）

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2			
3			

評価方法 （基準）	各課題及びレポート（80%),授業への参加度（20%）により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	７号館４階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。

科目名	日本事情ＲⅡ	科目名（英文）	Japanese Culture and Society RII
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	Ⅴ科：Ⅲ○,Ⅳ○,Ｒ科：A◎,Ａ科：C◎,Ｍ科：B2◎,Ｅ科：Ｂ○,Ｃ科：Ⅲ○,Ⅵ○,Ｌ科：DP1△,DP2○,Ｄ科：DP1◎,Ｓ科：DP1◎,Ｐ科：DP2△,DP4△,Ｊ科：DP1◎,Ｗ科：DP1◎,Ｎ科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	RRE2327a1		

基礎科目

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。（１）映画についての情報・その他背景知識について説明　（２）映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題　（３）テーマについてディスカッション　（４）「書く」練習
科目学習の効果（資格）	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習（2ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）(1.5時間)
2	映画１：テーマ「民族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習（２～3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
3	映画１：テーマ「民族」	内容理解、タスク	テキスト予習（２～3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
4	映画１：テーマ「民族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（４章２ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　（計２時間）
5	映画２：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（11章２～3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計２時間)
6	映画２：テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習（11章２～3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
7	映画２：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く）(計２時間)
8	テーマ１・２に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（2章２ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）(計２時間)
9	映画３：テーマ「趣味とスポーツ」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習（2章２～3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計２時間)
10	映画３：テーマ「趣味とスポーツ」	内容理解、タスク	テキスト予習（2章２～3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
11	映画３：テーマ「趣味とスポーツ」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習(10章２ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　（計２時間）
12	映画４：「高齢化社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く） テキスト予習(10章２ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる）　（計２時間）
13	映画４：「高齢化社会」	内容理解、タスク	テキスト予習（10章２～3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
14	映画４：「高齢化社会」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く）(計２時間)
15	テーマ３・４に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート（映像視聴、レポートを書く）(計２時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2			
3			

評価方法 （基準）	各課題及びレポート（80%),授業への参加度（20%）により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	７号館４階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。

科目名	ビジネスイングリッシュⅠ	科目名（英文）	Business English Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	李　孝聖
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN3309c1		

基礎科目

授業概要・目的	経済は決して専門分野ではなく、日常生活と密接に結びついているのです。 企業の海外進出、海外企業との合弁、海外での子会社設立などビジネス英語のニーズも高まっています。 この授業では面白いエピソードを交えた文章を読むことによって、お金の役割から経済のシステムまでのビジネス英語の基本的知識を得られ、役に立つ英語表現も無理なく学習できます。 授業計画は進度によって変わる場合がある。
到達目標	この授業を通して短い文章を読解する能力と文法の基礎を習得できます。 毎回行う英単語の小テストによって大学生にとって必要不可欠な英語の語彙力が強化されます。 リスニングとライティングを中心に日常生活に必要な英語の語彙力、表現力、理解力をつける事を目標とする。 又、並行して英語の資格、検定の練習問題を用いて文法事項の復習及び弱点補強も行う。 これらの能力を習得することによってコミュニケーションスキルに念頭を置いた実用的な英語基礎能力が期待されます。
授業方法と留意点	授業を効果的に遂行するため、学生の予習を期待しています。また、学生同士が教え教えられることで active learning にしていきたいと考えています。原則として、4 回以上休んだ場合（正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く）単位が取得できる見込みはありません。 テキスト（教科書）を忘れた場合、また私語などの授業妨害行為、許可のない途中退室などの行為があった場合は、当該の授業を欠席したものとして扱います。 その他の詳細は、第 1 回目の授業で詳しく説明します。受講予定者は必ず出席してください。
科目学習の効果（資格）	基本的文法の復習、リスニング、語彙力、英検や TOEIC 等の検定・資格試験にも役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入。コース全体の組み立て。授業の進め方。成績のつけ方。出席・欠席への注意など。	どうしてこのコースを選択したか。キャリアデザインとの関係。英語はどう役立つか。	Chapter I: Money: The Basics の Chapter I: Money: The Basics を読んでくる。
2	お金の機能について	I-1 Money has three functions.	Chapter I: Money: The Basics の When you borrow money, you have to pay interest. を読んでくる。
3	お金を借りたら利息がつく。	When you borrow money, you have to pay interest.	Chapter I: Money: The Basics の What happens to money you deposit in a bank? を読んでくる。
4	銀行に預けたお金はどうなるのか。	What happens to money you deposit in a bank?	Chapter I: Money: The Basics の Banks aren't the only financial institutions.
5	銀行が唯一の金融機関ではない。	Banks aren't the only financial institutions.	Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Prices are set according to the principle of supply and demand. を読んでくる。
6	価格は需要と供給によって決まる。	Prices are set according to the principle of supply and demand.	Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Foreign trade is a two-way street. を読んでくる。
7	海外貿易は二方向。	Foreign trade is a two-way street.	Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Exchange rates also vary according to supply and demand. を読んでくる。
8	為替レートも需要と供給。	Exchange rates also vary according to supply and demand.	Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Currencies continuously strengthen and weaken against one another. を読んでくる。
9	通貨の強弱。	Currencies continuously strengthen and weaken against one another.	Chapter III: How Companies Work の Joint-stock companies: how they came about を読んでくる。
10	株式会社はどう生まれたか。	Joint-stock companies: how they came about?	Chapter III: How Companies Work の Companies share their profits among their shareholders. を読んでくる。
11	企業は株主と利益を分配する。	Companies share their profits among their shareholders.	Chapter III: How Companies Work の Trading in Stocks has beome a full-fledged market. を読んでくる。
12	株式の取引は本物の市場になった。	Trading in Stocks has beome a full-fledged market.	Chapter III: How Companies Work の E-trading has changed the nature of stock trading dramatically. を読んでくる。
13	E-trading は株式の取引を根本的に変えた。	E-trading has changed the nature of stock trading dramatically.	Chapter III: How Companies Work の A company doesn't belong only to its shareholders. を読んでくる。
14	企業は株主のものだけではない。	A company doesn't belong only to its shareholders.	これまでのまとめ。
15	総復習。	これまでのまとめ。	期末テストへの注意と解説。

関連科目	他の英語関係科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	All About Money and the Economy	池上　彰	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD BOOK（学校語彙で学ぶ TOEIC テスト）	西谷恒志	成美堂
2			

	3			

評価方法 （基準）	定期試験 60%、小テスト 10%、課題レポート 10%、授業態度 10%（授業中の発表）、出席 10%の割合で評価する。
学生への メッセージ	出席と予習を含む宿題を重視。 授業態度を重んじるので受講生はきちんと授業に参加してください。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	【事前事後学習について】 ・特に単語は e-learning 学習など、毎日、平均 1 時間は学習してください。 ・授業の 13 回目までに、単語番号 201～400 までを最低一巡は終わるようにしてください。 【授業中の注意点について】 ・ 辞書を必ず持参してください。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

基礎科目

科目名	ビジネスイングリッシュⅡ	科目名（英文）	Business English II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	李　孝聖
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IEN3310c1		

基礎科目

授業概要・目的	この授業では面白いエピソードを交えた文章を読むことによって、お金の役割から経済のシステムまでのビジネス英語の基本的知識を得られ、役に立つ英語表現も無理なく学習できます。 大学生にとって必要不可欠な英語の語彙力が強化されます。 これらの能力を習得することによってコミュニケーションスキルに念頭を置いた実用的な英語基礎能力が期待されます。
到達目標	この授業ではリスニングとライティングを中心に、英語の４技能の強化を図ります。 到達目標：日常生活で必要とする基礎的な英語の理解力・表現力を身につける。 ビジネスの場で必要とされる読解力、語彙力をつけ、TOEIC のスコアアップを目指します。
授業方法と留意点	授業を効果的に遂行するため、学生の予習を期待しています。また、学生同士が教え教えられることで active learning にしていきたいと考えています。原則として、4 回以上休んだ場合（正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く）単位が取得できる見込みはありません。 テキスト（教科書）を忘れた場合、また私語などの授業妨害行為、許可のない途中退室などの行為があった場合は、当該の授業を欠席したものとして扱います。 その他の詳細は、第１回目の授業で詳しく説明します。受講予定者は必ず出席してください。
科目学習の効果（資格）	リスニング・ライティングの訓練を継続的に行えば、半年でかなりの実力が付きます。 最初は難しいと感じても、根気よく続けてください。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	後期にあたって、新たな気持ちで英語に取り組む姿勢を喚起する。	各レッスンの訳、要約。自発的で積極的な授業への取り組み方を考える。	Chapter III: The State of the Economy の The economy fluctuates in cycle. を読んでくる。 指定単語の学習
2	経済は周期的に変動する。	The economy fluctuates in cycle.	Chapter III: The State of the Economy の There are two basic ways conutries can stimulate their economics. を読んでくる。 指定単語の学習
3	経済を活性化する２方法。	There are two basic ways conutries can stimulate their economics.	Chapter III: The State of the Economy の Sometimes an economy can become too robust. を読んでくる。 指定単語の学習
4	経済はときには強すぎる。	Sometimes an economy can become too robust.	Chapter III: The State of the Economy の In extrem casas, the economy can grow like a bubble. を読んでくる。 指定単語の学習
5	経済は泡のように膨らむ。	In extrem casas, the economy can grow like a bubble.	Chapter v：Economic Systems の There are two main economic systems in operation today. を読んでくる。 指定単語の学習
6	今日の２つの経済システム。	There are two main economic systems in operation today.	これまでの復習。
7	Review, Midterm Exam	復習、期間外試験１	Chapter v：Economic Systems の Socialism largely ended in failure. を読んでくる。 指定単語の学習
8	社会主義の失敗。	Socialism largely ended in failure.	Chapter v：Economic Systems の Globalization has its good points and its bad. を読んでくる。 指定単語の学習
9	グローバリゼーションの良い点と悪い点。	Globalization has its good points and its bad.	Chapter v：Economic Systems の Neo-liberalism is changing the way business done. を読んでくる。 指定単語の学習
10	新自由主義はビジネスを変える。	Neo-liberalism is changing the way business done.	Chapter v：Economic Systems の Economic policies can serve to protect the natural environment. を読んでくる。 指定単語の学習
11	経済政策は自然環境の保護に役立つ。	Economic policies can serve to protect the natural environment.	プリントを用意する。 指定単語の学習
12	食物アレルギー	Food allergies	Food allergies を読んでくる。 指定単語の学習
13	食物アレルギー	Food allergies	プリントを用意する。 指定単語の学習
14	青色発光ダイオード	Blue LED	Blue LED を読んでくる。 指定単語の学習
15	青色発光ダイオード	Blue LED	期末テストの注意と重点項目。

関連科目：英語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	All About Money and the Economy	池上　彰	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD BOOK（学校語彙で学ぶ TOEIC テスト）	西谷恒志	成美堂
	2			
	3			

評価方法 （基準）	定期試験 60%、小テスト 10%、課題レポート 10%、 授業態度 10%（授業中の発表）、出席 10%の割合で評価する。 ※授業態度に問題のある場合（遅刻、居眠り、飲食、私語、携帯電話の使用など）は、教室に来ていても 「欠席」扱いとします。
学生への メッセージ	英語を効果的にマスターしたい人は、少しずつでも必ず毎日英語に触れましょう。 週に一日だけ 1 時間勉強するよりも、毎日 15 分勉強するほうがはるかに効果が上がります。 英語の力は学習時間に比例して伸びてゆきます。 授業以外にも、自分の興味ある分野の英文をどんどん読んでみましょう。 全員参加で活気ある授業を創り上げましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	【事前事後学習について】 ・特に単語は e-learning 学習など、毎日、平均 1 時間は学習してください。 ・授業の 13 回目までに、単語番号 600～800 までを最低一巡は終わるようにしてください。 【授業中の注意点について】 ・ 辞書を必ず持参してください。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	ビジネス中国語基礎ａ	科目名（英文）	Basic Chinese for Business a
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	欒　玉璽
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH1314e1		

基礎科目

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	発音編 第１課　発音１	ピンインと四声，単母音，子音①，複母音①。	発音を練習し、ピンインを書くこと。
2	第２課　発音２	複母音②，鼻母音，子音②。	発音を練習し、ピンインを書くこと。
3	第３課　発音３	複母音③④，子音③。	発音を練習し、ピンインを書くこと。
4	第４課　発音４	子音④⑤。 あいさつ言葉の復習。	発音を練習し、ピンインを書くこと。 テストの準備をすること。
5	本文編 第１課　お名前は？	☆単元テスト１ 人称代名詞，形容詞述語文，疑問文，副詞「也」、「都」、「很」。	練習問題を解答し、会話文を読むこと。
6	第１課　お名前は？	副詞「不」，疑問詞疑問文，名前の言い方。	練習問題を解答し、会話文を読むこと。
7	第２課　僕は日本人だ	「是」構文，疑問詞「?」，副詞「都」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。
8	第２課　僕は日本人だ	助詞「的」，反復疑問文，疑問詞「誰」，指示代名詞。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。 テスト（第１～2課）の準備をすること。
9	第３課　君は大阪人だよね？	☆単元テスト２ 動詞述語文，終助詞「?」，省略疑問文。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。
10	第３課　君は大阪人だよね？	同時進行の表現，二重目的語。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。
11	第４課　おいくら？	単位の言葉「張」「個」，動詞の重ね型，お金の言い方。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。
12	第４課　おいくら？	「二」と「両」,「不太～」，所有の「有」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。 テスト（第3～4課）の準備をすること。
13	第５課　どの先生が好き？	☆単元テスト３ 前置詞「和」，名詞述語文。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。
14	第５課　どの先生が好き？	時間の言い方，前置詞「跟」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。 テスト（第５課）の準備をすること。
15	おさらい	☆単元テスト４ 第１課～第５課の復習。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。

関連科目	「ビジネス中国語基礎ｂ」（前期）、「ビジネス中国語基礎ｃ」（後期）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	摂南大学　中国語入門	摂南大学外国語学部編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

評価方法（基準）	小テスト： 30%、単元テスト： 70%
学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。事前・事後学習に１時間ずつ要します。
担当者の研究室等	非常勤講師室（７号館２階）
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	ビジネス中国語基礎ｂ	科目名（英文）	Basic Chinese for Business b
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大西　紀
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH1315e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。一年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第１課　声調と単母音	単母音　中国語の音節，声調。	ＣＤを聞き発音練習をする。
2	第２課　複母音	複母音　・　会話練習　リスニング練習	ＣＤを聞き発音練習をする。
3	第３課　子音	子音　・　会話練習・リスニング練習	ＣＤを聞き発音練習をする。
4	第４課　鼻母音	鼻母音　・　会話練習・リスニング練習	ＣＤを聞き発音練習をする。 次回の単元テストに備えて、これまでの復習をしておく。
5	発音篇復習	☆　第１回　単元テスト　発音篇の総仕上げ	ＣＤを聞き発音練習をする 。間違えたところをチェックして、練習を繰り返す。
6	第５課　私は日本人です	人称代名詞・　「是」・会話練習	ＣＤを聞き発音練習をする。
7	第６課　私の名前は～です。	姓名の言い方・相手の名前の尋ね方 会話練習・リスニング練習・ペア発表	ＣＤを聞き発音練習をする。
8	第７課　あなたは何を飲む？	動詞述語文　・　疑問詞疑問文　・反復疑問文　・　選択疑問文 会話練習・リスニング練習	ＣＤを聞き発音練習をする。 次回の単元テストに備えて、これまでの復習をしておく。
9	文法篇　復習　（１）	☆　第２回　単元テスト　文法篇の復習	ＣＤを聞き発音練習をする。
10	。第８課　あなたはサッカーが好きですか？	助動詞　「想」　・　連動文　・　動詞「喜歓」	ＣＤを聞き発音練習をする。
11	第９課　黒色のはありますか？	動詞「有」　量詞　数字の言い方	ＣＤを聞き発音練習をする。 次回の単元テストに備えて、これまでの復習をしておく。
12	文法篇　復習　（２）	☆　第３回　単元テスト　文法篇の復習	ＣＤを聞き発音練習をする。
13	第10課　麻婆豆腐はとても辛い	助詞「過」　形容詞述語文	ＣＤを聞き発音練習をする。
14	第11課　博物館はどこですか？	動詞「在」　前置詞（１）	ＣＤを聞き発音練習をする。
15	文法篇　復習（３）	☆第４回　単元テスト	ＣＤを聞き発音練習をする。

関連科目	ビジネス中国語基礎ａ(経Ｓ) ビジネス中国語基礎ａ(経Ｄ)

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	実学実用　初級中国語	陳淑梅・劉光赤	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	単元テスト 80% 授業参加や提出物 20% 出席回数は 10 回以上；単元テストの平均点が 60 点を越えていることを単位認定の基準とします。 音読発表は随時行いますが、その成績も平常評価として重視します。
学生へのメッセージ	教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。 教科書の音読練習は授業時間以外にも時間をとって練習してください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	ビジネス中国語基礎 c	科目名（英文）	Basic Chinese for Business c
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	曹　櫻
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH1316e1		

基礎科目

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1 年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	口語練習を重視し、中国語の発音、フレーズに慣れてもらう。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準 4 級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第６課　今は３時５分前だ	「有」と「在」，時間詞の語順。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。
2	第６課　今は３時５分前だ	不定の数量を表す「些」，時刻の言い方，意見を求める言い方。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。
3	第７課　この前の土曜日映画を見に行った	時間に使う「上/下」，連動文，前置詞「在」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。
4	第７課　この前の土曜日映画を見に行った	標点符号「,」と「、」，文型「是・・・還是・・・」」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。 テスト（第 6-7 課）の準備をすること。
5	第８課　小説は好きなの？	☆単元テスト１ 前置詞「従」と「到」，時量補語とその語順，文型「快～了」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。
6	第８課　小説は好きなの？	前置詞「離」，強調の「是」，副詞「又」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。
7	第９課　ファーストフード店は家から近い	副詞「就」，副詞「才」，動詞の「要」，前置詞「給」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。
8	第９課　ファーストフード店は家から近い	結果補語「完」，文型「一・・・就・・・」，「未完成の「没有～」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。 テスト（第 8-9 課）の準備をすること。
9	第 10 課　北京ダックを食べたことある？	☆単元テスト２ 助詞「過」，助動詞「要」、「想」、「得」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。
10	第 10 課　北京ダックを食べたことある？	助動詞「応該」，副詞「別」、「再」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。
11	第 11 課　一緒に中国語を勉強した方がいいね	「把」構文，助動詞「会」，構造助詞「得」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。
12	第 11 課　一緒に中国語を勉強した方がいいね	助動詞「可以」，比較の「没有」，禁止表現「不要」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。 テスト（第 10-11 課）の準備をすること。
13	第 12 課　もし彼と知り合いになりたいなら	☆単元テスト３ 仮定表現「要是～」，助動詞「能」，可能性の「会」，比較表現「比」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。
14	第 12 課　もし彼と知り合いになりたいなら	使役動詞「叫」，方向補語「～来/去」，複合補語「～進来/進去」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。 テスト（第 12 課）の準備をすること。
15	おさらい	第 6～12 課の復習 ☆単元テスト４	練習問題を解答し、会話文を読み、覚えること。

関連科目	「ビジネス中国語基礎 a」（前期）、「ビジネス中国語基礎 b」（後期）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	摂南大学　中国語入門	摂南大学外国語学部編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

評価方法（基準）	小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してよく読みましょう。事前・事後の学習に１時間ずつ要します。
担当者の研究室等	非常勤講師室（７号館２階）
備考	「ビジネス中国語基礎 a」を履修したうえ、「ビジネス中国語基礎 c」を履修するのが望ましい。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	ビジネス中国語基礎ｄ	科目名（英文）	Basic Chinese for Business d
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大西　紀
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICH1317e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1 年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準 4 級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第 12 課（1）　今日は 11 月 21 日です。	日付・曜日の言い方	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第 1２課（2）　今日は 11 月 21 日です	時刻　・　時間量の言い方	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第１３課（1）　家から学校までどれくらいかかる？	動詞の直後に置く「了」　比較の言い方	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。 次回の単元テストの復習をしておく。
4	第 13 課（2）　家から学校までどれくらいかかる？	前置詞「在」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第１４課　（1）　私は靴を一足、カバンを一つ買った。	方向補語　・　助動詞「可以」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第 14 課（2）　私は靴を一足、カバンを一つ買った。	助動詞「会」　結果補語	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。 次回の単元テストの復習をしておく。
7	文法復習（1）	☆　第 1 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第１５課　（1）　ここで写真を撮ってもかまいませんか	方向補語，完了の助詞「了」。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第１５課　（2）　ここで写真を撮ってもかまいませんか	助動詞　「可以」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第１６課　（1）　私はバドミントンが出来ます。	結果補語	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第１６課　（2）私はバドミントンが出来ます。	主述述語文　助動詞「会」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 17 課（1）　バドミントンが本当におじょうずですね。	様態補語	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第 17 課（2）　バドミントンが本当におじょうずですね。	助動詞「能」　二十目的語構文	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第 18 課　（1）　中国人教師が話すのが早すぎて、理解できません。	可能補語	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。 次回の単元テストの復習をしておく。
15	第 18 課　（2）　中国人教師が話すのが早すぎて、理解できません。 文法復習　（2）	☆　第 2 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	ビジネス中国語基礎ｃ(経 S) ビジネス中国語基礎ｃ(経 D)

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	実学実用　初級中国語	陳淑梅・劉光赤	朝日出版社

評価方法（基準）	単元テスト 80％ 授業参加や提出物 20％ 単元テストの平均点が 60 点以上；出席回数が 10 回以上であることが単位認定の最低条件となります。 音読発表も随時行いますが、その成績も平常点として重視します。
学生へのメッセージ	使用教科書は前期と同じなので、前期購入者は後期購入する必要はない。但し、後期から新しく登録したものは教科書の購入が必要である。 私語を慎むように。他の受講生の迷惑になります。 上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。出席は 10 回以上ないと単位が認定できない。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	保健論	科目名（英文）	Theory of Health
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	吉川　万紀
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IPH2329a1		

基礎科目

授業概要・目的	健康に関する問題や情報が溢れる現代社会において、正しい情報を選択ことが重要である。 そのため本講義では、受講者が生涯にわたって自らの健康の維持増進を実行するための知識を学ぶ。
到達目標	①現代の健康問題について理解できる。 ②様々な健康に関する情報を知り、自身の健康に対する考えを持つことができる。 ③健康づくりのための知識を習得し、実践することができる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。
科目学習の効果（資格）	健康維持・増進に関する知識が身につき、受講者自身の健康管理ができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	保健論とは	ガイダンス 課題・評価について	なし
2	健康とは	健康の定義 平均寿命・健康寿命	健康の定義について復習すること
3	体の構造と機能	骨格筋・脳・神経系などの構造や機能について	骨格筋・脳・神経系などの構造や機能についての復習をしておくこと
4	肥満とは	肥満の要因 ダイエット	肥満の要因について復習すること
5	生活習慣病①	メタボリックシンドローム　生活習慣病、内臓脂肪、診断基準	メタボリックシンドロームの診断基準について復習すること
6	生活習慣病②	高血圧症、糖尿病、脂質異常症、コレステロール、心疾患、脳卒中	高血圧症、糖尿病、脂質異常症などの疾患について復習すること
7	高齢者の健康問題	サルコペニア ロコモティブシンドローム 寝たきり	現在問題となっている、高齢者の健康問題について理解する
8	健康づくりのための運動基準	身体活動量 メッツ 健康日本 21	健康づくりのための運動基準について復習すること
9	自身の健康チェック	除脂肪体重 体脂肪 BMI	自身の身長・体重を測定してくること 健康診断の結果を持参すること
10	運動トレーニング	運動・スポーツ トレーニングの原理・原則 筋力トレーニング	トレーニング方法について復習すること
11	健康に関わる食事	健康な食生活の形成 朝食の必要性	適切な食事について復習すること
12	睡眠と健康	レム睡眠・ノンレム睡眠 睡眠障害 不眠症	健康づくりのための睡眠について、復習すること
13	健康増進計画作成	受講者自身の運動維持・増進のための運動計画を、今までの知識を活用して作成する.	運動計画を実際に実施すること.
14	健康増進計画の実施 保健論まとめ	健康増進計画の実施状況についての確認. 1 回から 10 回までの授業内容の復習	1 回から 10 回までの授業内容を復習してくること.
15	保健論まとめ 確認テスト	11 回から 13 回までの授業内容の復習	これまでの授業の復習をすること

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ 生涯スポーツ実習

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点評価 30%、確認テスト 70%の割合で評価を行う
学生へのメッセージ	質問等がある場合は、事前にアポイントメントをとり、研究室あるいは総合体育館事務室に来ること
担当者の研究室等	総合体育館 1 階 内部講師室
備考	平常点は，毎回の授業のワークシートの内容を評価する. 欠席を 5 回以上した際の単位取得は認めない. 事前事後学習の総時間の目安は６０時間。

教　養　科　目

科目名	海外ビジネスインターンシップ	科目名（英文）	Overseas Business Internship
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	西之坊　穂
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科･R 科･A 科･M 科･E 科･C 科:IT01428a2～IT01432a2,L 科:LT01422a2～LT01426a2,D 科･S 科:IT01428a2～IT01432a2,P 科:YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	本学では、将来グローバル、あるいは地域で活躍する力を身につけた知的職業人の育成を目指している。 そのためには、他者と自分の違いを理解し、相手を尊重するという姿勢が必要である。このような態度は国内においても修得可能であるが、日本とは異なる文化、経済事情、生活習慣、価値観などもつ海外においてインターンシップを体験することにより、相手を正しく理解し、尊重する姿勢、柔軟な発想力の必要性を実感し修得できる。この海外インターンシップでは、ダイバーシティ社会の中で、自分の考えを相手に伝え、また相手の考えを理解できるコミュニケーション能力と自己の責任で自ら考え行動する自律心を育成する。 なお、授業担当者の一人は企業で人事経験を持ち、もう一人は旅行会社での実務経験を持ちます。パラダイス・バリ（旅行会社）の運営責任者は日本人であり、現地人をマネジメントしているため、授業担当者の実務視点から学生に教授する。また、旅行会社の実務視点からも学生に教授する。、
到達目標	・日本と相手国（インドネシア・バリ島）の歴史、文化、経済等の違いを正しく理解する。 ・異なる文化、価値観等を尊重する姿勢を修得する。 ・他国を理解することにより、日本についての理解を深め、日本が抱えている問題について深く考察する。 ・将来、グローバルに活躍するために、自分に欠けているものは何か、大学生活で何を学ぶべきか、体得する。
授業方法と留意点	研修先としてサラスワティ大学、ウブド第一高校、パラダイス・バリ（旅行会社）等を予定している。 研修先により研修内容は異なり、求められる資質、英語能力が異なります。事前学習において各研修先について説明しますが、受講生自身も調査し、研修先を選択します。有意義なインターンシップにするためには、学生の希望と相手先の要望とのマッチングが非常に重要になります。そのため学生の希望は配慮しますが、学生が最初に希望した研修先に配属されるとは限りません。事前に充分面談を行い、話し合いの上決定します。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	事前学習は１０日を予定している。具体的には、ガイダンス、研修先の研修内容の解説、受け入れ先とのマッチング、バリ島の歴史、習慣、経済状況などを各自調べ発表する。 本事前学習では、グループ学習、ディスカッション、プレゼンテーションを繰り返し行う。最終的には、現地での各自の研修内容の事前準備が完了するまで行う。 現地実習　１０日（移動日含む） １日目　移動 ２日目　環境学習　マングローブセンターにて ３日目　サラスワティ大学で国際交流会 ４日目～6 日目　各研修先にて各々インターンシップ研修実施 ７日目～8 日目　ウブド第一高校にてインターンシップ研修実施 ９日目　現地視察 １０日目　移動 研修内容は、研修先により環境問題に対する取り組み、日本語授業の SA、課外活動のサポート、の取り組みなど異なります。なお、研修先のリクエストにより、環境問題、日本の歴史や文化紹介（茶道、書道、空手等）、旅行会社のパッケージツアーの企画など、内容が異なります。 事後学習　３日（資料の作成が間に合わない場合は、追加する） 報告書の作成、指導、報告会に向けたプレゼンテーション資料の作成、指導、全体報告会
関連科目	外国語関連科目、世界の歴史、日本の歴史等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	実習前の事前学習（10%）、海外現地研修 60%（実習記録 10%、実習態度 50%（研修先からの評価を勘案し、引率教員が評価する）、実習報告書（20%）、全体報告会のプレゼン(10%)で評価する。 ただし、災害やテロ等により海外現地に行けなかった場合は単位を認定しない。
学生へのメッセージ	参加を迷っている方は、遠慮なく田中先生や私の研究室に訪問して質問をしてください。
担当者の研究室等	11 号館８階　西之坊研究室 11 号館８階　田中研究室
備考	事前学習は、全体で 10 時間程度行うこと。

科目名	科学技術教養（Ｖ１）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	居場　嘉教
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA2421a2		

授業概要・目的	新聞やテレビが病気・くすりについてのニュースを取り上げることは珍しくないが，その内容を理解することは容易ではない。本講義では，病気・くすりの発見や原因解明の歴史，生命現象との関係などを個体レベルから遺伝子レベルにわたって幅広く平易に概説する。この講義の到達目標は，病気・くすりに関する知識を習得し，新聞やテレビのニュースを理解できるようになることである。 また，病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学研究の意義を理解できるようになることを目指す。
到達目標	(1) 病気・くすりに関する知識を習得し，新聞やテレビのニュースを理解できるようになる。 (2) 病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学研究の意義を理解できるようになる。
授業方法と留意点	一話完結型のオムニバス形式で講義を行い，配付する資料とパワーポイントを用いて解説する。講義ごとに講義メモの提出を求める。その他，レポート，小論文，演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果（資格）	生命科学に関するニュースがより身近になり，明確に理解できるようになる。
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	不妊のしくみ	日本人夫婦（カップル）は 10 組のうち 1 組は不妊と言われており，実際に治療を受けている人が多い。しかし，なぜ不妊になるのかはっきりしない場合も多い。本講義では受精の仕組みから考えられる不妊の原因と現在の治療法について概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
2	病気と遺伝子	我々が持つ DNA は日常生活で頻繁に「傷（変異)」を受けている。しかしながら、ヒトの体内には傷を発見して治療する安全システムが備わっており、「がん」を未然に防いでいる。本講義では、がんの発症に密接に関わる「遺伝子の傷」と体を守る安全システムの仕組みについて概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
3	なぜ肥満は問題なのか？	肥満そのものは病気とは言えない。しかし，糖尿病，高脂血症，高血圧，脳血管障害など様々な「生活習慣病」と呼ばれる疾患のリスクファクターになることが知られている。なぜ肥満が様々な疾患の原因になってしまうのか，そのメカニズムと予防・治療法について解説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
4	免疫が引き起こす病気のしくみ	外敵や内なる敵から自らを守るためにつくられた免疫システムの概要と，がん，ウイルス感染(インフルエンザ，HIV，肝炎)，アレルギー疾患などとの関連について紹介する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
5	がんの発生とその予防法	死因別死亡率のトップはがんであり，約 3 人に 1 人ががんで亡くなっている。自分の意思で調節可能なはずの危険因子である喫煙が，がんの原因の 30%を占めており，単因子要因としては最大である。本講義では，がんの発生機序やその予防法について説明する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
6	ミトコンドリアと病気	太古の昔にヒトの細胞に侵入した細菌が由来のミトコンドリアであるが，我々の生と死はそのミトコンドリアに支配されている。本講義では，ミトコンドリアの特徴，役割およびミトコンドリアに関連した病気について概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
7	くすりと遺伝子工学	ある生物から分離した遺伝子を別の細胞または生物体に導入して，遺伝子産物（タンパク質）を生産したり，新しい形質を作り出すなど，遺伝子を人工的に操作する技術，遺伝子工学について紹介する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
8	くすりと組換え生物	生物が持つ遺伝情報に改変を施した「遺伝子組換え生物」は、再生医療やヒト疾患の治療法を開発するための重要なツールとして利用されていることに加え、バイオ医薬品の開発などにも役立っている。本講義では、遺伝子組換え生物やクローン生物の作製に関する技術と応用について概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
9	くすりとバイオインフォマティクス	遺伝子やタンパク質の配列情報を例にバイオインフォマティクスの概要について説明し，病気と遺伝子，ゲノム創薬への応用について述べる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
10	くすりとタンパク質のかたち	タンパク質構造決定の意義と構造決定法のひとつである X 線結晶構造解析の概要から，インフルエンザ治療薬を例に	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）

		医薬品開発への応用について述べる。	
11	くすりとゲノム	ゲノムとは，創薬とは，遺伝子診断などを解説し，生命倫理，歴史的な背景や将来の課題と発展方向をさぐる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
12	薬物乱用と依存性薬物	社会のルールからはずれた方法や目的で，薬物を使うことを薬物乱用という。薬物依存というと，その人の性格や人格の問題と思われがちであるが，脳内報酬系の異常という生物学的基盤があることを理解する必要がある。本講義では，薬物依存の形成機構および各種の依存性薬物について説明する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
13	遺伝子治療の最前線	遺伝子により治療はできるか，遺伝性疾患，科学・技術の概要，基本的な原理，を解説. 生命倫理や関連した話題のトピックについても触れる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
14	認知症～その原因と治療法	我が国は超高齢化社会へと進行し続けおり，2025 年には高齢者の 5 人に 1 人が認知症患者になると推定されている。そのため，認知症の発症率の低下や進行抑制のための有効な手立てが見つからなければ，社会的な負担が著しく増加すると懸念されている。認知症の原因や治療薬の開発など最新の知見を踏まえて解説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
15	iPS 細胞研究の最前線	京都大学の山中伸弥教授によって作り出された iPS 細胞の基礎・臨床研究は今や国家プロジェクトであり，新聞やテレビでもたびたび登場する。本講義で iPS 細胞の発見から現在までの研究状況を概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）

関連科目	科学技術教養 V2
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義メモ 50%およびレポート・小論文・演習問題などの課題 50%の総合点で評価する。なお，30 分未満の遅刻は欠席 0.5 日，30 分以上の遅刻は欠席 1 日とする。
学生へのメッセージ	病気やくすりはみなさんの身近な問題で，関心も大きいと思います. 本講義では病気やくすりについて，生命科学の観点から具体例を挙げて分かりやすく解説します。本講義は生物・薬を中心とした幅広い分野を含んでおり、各自の専門と関連する講義内容もあります。毎回出席して各自の専門とのつながりを見つけ、幅広い教養を身につけてください。 毎回レポート・課題があるので、毎回出席すること。
担当者の研究室等	1 号館 9 階　川崎，尾山，西村，中嶋，宮崎，船越，井尻，居場研究室
備考	事前事後学習に要する総時間の目安は 15 時間

教養科目

科目名	科学技術教養（Ｖ２）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	長田　武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA2421a2		

授業概要・目的	本講義では、微生物の単離・殺菌技術や化粧品の開発、繊維加工に利用されている遺伝子組換え技術など、我々のくらしを豊かにするバイオテクテクノロジーから、環境リスクの評価、ヒトの健康を守る知識や技術まで、生命科学の分野における最新の研究事例を取り上げ、幅広く解説する。
到達目標	醗酵・腐敗の歴史、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品など、我々の健康とくらしを支えている生命科学について説明できる。
授業方法と留意点	講義内容について資料を配付し、パワーポイントを用いて解説する。講義ごとに受講メモの提出を求める。その他、レポート、小論文、演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果（資格）	遺伝子組換え技術などのバイオテクテクノロジーと、我々のくらしや健康との関わりが理解できる。

教養科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	機能性食品などの新しい食品の形態	食品の一次機能(栄養素)，二次機能(味，触感など)および三次機能(生体機能の調節などの新規機能)について解説し，保健機能食品制度，特定保健用食品，栄養機能食品など新しい食品の形態を講述する．	配布資料を復習する。
2	化粧品とバイオテクノロジー	バイオテクノロジーを化粧品開発に応用した事例を紹介し，実際の商品をとり上げてバイオテクノロジーのメリットを解説する．	配布資料を復習する。
3	繊維とバイオテクノロジー	繊維に反応する酵素を紹介し，これらを用いた繊維加工の応用例および今後の可能性について解説する．	配布資料を復習する。
4	遺伝子組換え植物とその将来	代表的な遺伝子組換え植物の創生方法について簡単に紹介し，世界における遺伝子組換え植物の実際，遺伝子組換え作物の環境への影響，また，日本における組換え作物の安全審査について説明する．さらに，遺伝子組換え賛成派と反対派の主な意見についても触れる．	配布資料を復習する。
5	バイオレメディエーションの可能性	過去，日本であった重金属汚染について簡単に復習し，特に水銀に焦点を合わせて水銀浄化法を説明する．物理化学的浄化法と微生物を用いた生物学的浄化法を対比しながら，適宜遺伝子組換え技術について補足を加え概説し，植物を用いた生物学的浄化法についても説明する．	配布資料を復習する。
6	エネルギーの創生と生物･環境に及ぼす影響	近年，エネルギーの枯渇化問題や生物とこれを取りまく環境との共生の問題を解決する新規エネルギーの創生が強く望まれている．本講義では，これまでに使用されてきたエネルギーから最先端のエネルギーまでの特徴を，生物と環境へ及ぼす影響といった観点から解説する．	配布資料を復習する。
7	バイオエネルギー技術	21 世紀に入り，エネルギー枯渇問題，環境負荷低減の要請から，生物の持つエネルギーを新しい代替エネルギーとして利用する試みが急速に発展している．本講義では，バイオエネルギーの概要から最先端のバイオエネルギー技術まで，現在のエネルギーとの比較や生態系･環境との共生の立場から解説する．	配布資料を復習する。
8	食品の健康障害リスクと対策	微生物，アレルギー性物質，残留農薬などの食品に存在するヒトの健康障害リスクについて具体的な事例を取り上げ，解説する．	配布資料を復習する。
9	動く分子とバイオテクノロジー	ATP 合成酵素や細菌のべん毛モーターなどの動く分子を紹介し、生物がもつ運動機能を生体分子モーターなどへ応用するバイオテクノロジーについて解説する。	配布資料を復習する。
10	モデル生物を用いたバイオテクノロジー	近年の生命科学ではヒトの遺伝子機能や生体機能、遺伝性疾患のメカニズムの解析の方法として様々なモデル生物が盛んに用いられている。それらの応用例を実際の写真等を示しながら、実際の研究例や今後に期待される展望を紹介する。	配布資料を復習する。
11	微生物酵素を用いる物質生産システム ～バイオテクノロジーを支える酵素利用技術～	酵素は優れた機能を有するタンパク質性の触媒であるが、産業で利用されている酵素の殆どは、加水分解酵素、転移酵素、異性化酵素などであり、反応に補酵素やエネルギーを要する酵素の利用に	配布資料を復習する。

		遅れが見られる。かかる酵素の産業への応用を可能にする酵素利用技術（固定化酵素など）と酵素改変技術（分子進化工学、逆進化工学、タンパク質工学など）の現状と将来について概観する。	
12	遺伝子工学からゲノム工学へ ～バイオテクノロジーを支える微生物の形質転換法～	微生物の遺伝子交換法として、形質導入、接合、及び形質転換の３つが知られている。ここでは、真核微生物であり、遺伝子発現などの分子機構において高等動植物と共通性が高い出芽酵母における形質転換法の発展の経緯、方法、及びDNA取り込み機構を概観する。近年、進展の著しい巨大ゲノム DNA を扱う合成生物学やゲノム工学も展望する。	配布資料を復習する。
13	植物を用いた有用タンパク質生産	植物は、安全性、低コスト、分離精製の容易さなどの点から外来タンパク質の生産系として優れている。本講義では、植物を宿主とした生理活性タンパク質・ペプチドや抗体、ワクチン、医療用タンパク質などの生産について解説する。	配布資料を復習する。
14	環境リスクの評価方法	環境汚染物質や食品添加物などの合成化学物質などのヒトに対する安全性評価すなわちリスクアセスメントの考え方を講述し，水道水質基準や環境基準の策定に関する基本的な考え方を述べる．	配布資料を復習する。
15	地球規模の環境破壊と人体への影響	主にオゾン層の破壊，地球の温暖化および酸性雨に関して発生原因，発生機構，人への影響およびその防止対策に関して述べる．	配布資料を復習する。

関連科目	科学技術教養Ｖ１

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	講義メモ 50%およびレポート・小論文・演習問題などの課題 50%の総合点で評価する。30 分未満の遅刻は欠席 0.5 日、30 分以上の遅刻は欠席 1 日とする。
学生への メッセージ	本講義では、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品など、我々の健康とくらしを支えている生命科学について、具体的な事例を取り上げ、分かりやすく解説します。本講義は、生物・環境を中心とした幅広い分野を含んでおり、各自の専門と関連する講義内容もあります。毎回出席して各自の専門とのつながりを見つけ、幅広い教養を身につけてください。 毎回レポート・課題があるので、毎回出席すること。出席および遅刻・欠席の扱いは、一回目の講義で説明します。
担当者の 研究室等	１号館８階　長田講師室
備考	事後学習に要する総時間の目安は 15 時間

教養科目

科目名	科学技術教養（Ｒ１）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩田　三千子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA2421a2		

教養科目

授業概要・目的	古来より人間は、自然の力をかりてこの地球上に暮らしてきたが、祖先が自然と共生するために凝らしたさまざまな工夫は、それぞれの場所での気候風土、地形、材料を活用したものであり、そこには多くの知恵と技術の歴史を見ることができる。このような背景にもとづく、住環境の成り立ちについて、さまざまな事例を紹介しながら講義する。また、それらを踏まえて、具体的な空間やもののデザインに応用するための工夫や実践につながる知識を学ぶ。
到達目標	住環境の成り立ち、空間やもののデザインの実践的な技法を理解し、建築都市インテリアなどの空間を対象とする住環境デザイン全般の基礎を理解できる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題を毎回提出させる。講義を集中して聴く態度が求められる。 15 回目には、まとめテストを行うので、必ず出席すること。
科目学習の効果（資格）	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	（オリエンテーション） 自然の力をかりた住宅デザイン	（科目の内容、授業の進め方、評価基準等を説明する。） 古代より人間は自然と共生するためにさまざまな工夫をこらした。世界各地におけるそれらの住まいの事例を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
2	エコ技術と住宅デザイン-近代の住宅事例	新しい素材、技術、理論の進展に伴い、エコ技術を駆使した近代の住宅デザイン例を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
3	エコ技術と住宅デザイン-現代の住宅事例	自然の力をかりるといった古来の知恵を、最新の科学によって融合させた現代の住宅デザイン例を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
4	環境配慮型デザインプロセス	環境配慮型建築・設備設計のデザインプロセスと、住宅のパッシブ・アクティブ技術を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
5	住環境における換気	換気の考え方の歴史や法などの基準のはなしを基に、住宅における換気の重要性について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
6	健康で快適な生活とにおい対策	心身ともに健康に過ごすための、住宅内でのにおい問題やにおい対策の考え方について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
7	生活の中における香りの活用	屋内外の香りと人との関わりのはなしから、香りの人への心理生理的影響や香りの積極的な利用方法について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
8	いのちを守るあかりとサイン	大規模災害時に避難・誘導を助けるあかりやサインの存在を知り、その有用性とデザイン上の注意点を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
9	安全・快適な照明環境	照明環境のユニバーサルデザイン手法について、基礎的な知識と、最近の調査、デザイン事例を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
10	暮らしの中のさまざまな寸法	身近なモノの寸法がどの様に決められているかを知り、住まいや暮らしをより豊かにするデザインの視点を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
11	地域と景観	地域に居住・生活する人間と景観との関係を、日本の伝統的コミュニティ、景観保護の事例を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
12	野生動物との共存のデザイン	近年獣害が増加する獣害問題及び野生動物と人間が共存するための方策を，具体的事例を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
13	CG と空間デザイン	インテリアや住宅デザインで用いられる CG のしくみと基本知識、その有用性について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
14	かたちとデザイン	身の周りにある家具や住宅などのかたちをコンピュータを用いて表現する方法を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
15	解説 まとめテスト	まとめテストを実施する。	講義内容の復習をして、 まとめテストを受けること。

関連科目：なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	科学技術教養（Ｒ１）　住環境デザイン学科　教科書	摂南大学理工学部住環境デザイン学科	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			
評価方法 （基準）	毎回の課題 15%、まとめテスト 85%で評価する。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	12 号館　6・7 階　各教員研究室			
備考	事前・事後学習にかける学習時間は、授業外の課題やテストの学習時間も含め，毎回 1.5 時間程度とする．			

科目名	科学技術教養（Ｒ２）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩田　三千子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA2421a2		

教養科目

授業概要・目的	日本の伝統的な住宅は、気候風土、地形、材料などに影響を受けて地方色が豊かであり、歴史的、文化的な相違からも地域性が認められる。現代の住まいや暮らしはそれらの影響を受けて、さまざまな技術の発達、社会の変化とともに、かつての住まいや暮らしの形は変容しつつある。このような身近な住まい、まち、暮らしについての知識を得て、今後の持続可能な社会の創造に関わる知識を学ぶ。
到達目標	到達目標：建築都市インテリアなどの空間における歴史的文化的背景による地域性を理解し、持続可能な社会を創造するためのまちづくりや住宅建築など、住環境の未来に向けたデザインの基礎を理解できる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題を毎回提出させる。講義を集中して聴く態度が求められる。 15 回目には、まとめテストを行うので、必ず出席すること。
科目学習の効果（資格）	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	（オリエンテーション） 住まいと生活	（科目の内容、授業の進め方、評価基準等を説明する。） 住まいと何か。家庭生活や社会生活が複雑に多様化する中での住まいの本来の機能や役割について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
2	日本の住まいの地域性	気候風土や歴史、文化などを背景に、地方色豊かな伝統的日本住宅について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
3	住環境とパッシブデザイン	住環境におけるパッシブデザインの変遷を建築家の作品を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
4	住環境と考現学	私たちの身の回りにある住環境を観察・記録することから新しい環境デザインをつくりだす方法を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
5	大規模災害時の避難生活環境	阪神淡路大震災・東日本大震災など大規模災害時の避難生活状況と支援活動を知ることから未来への備えを学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
6	様々な人に配慮した住宅・施設設備	ユニバーサルデザインの観点からの住宅設備や施設設備について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
7	高齢者のための生活空間	高齢者の外出行動、生活環境の広がりと、求められる支援の仕組みについて事例を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
8	高齢者の生活環境の広がりと支援	高齢者の心身機能の特性を踏まえて、高齢者をめぐる住宅行政や、様々な高齢者居住について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
9	学びと遊びの環境デザイン	発達段階にある子どもたちが多くの時間を過ごす学校の新しいデザイン事例を知り、人と空間との密接な関係を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
10	地球共生建築のすすめ	地球共生建築および構造、コンポーネントデザインについて学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
11	バイオミメティックデザイン	自然界における形態と構造とその応用デザインについて学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
12	次世代の住環境を考える	私たちの住環境はどのように進化すべきか、地球共生から宇宙共生についてを考える。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
13	省エネルギーとパッシブデザイン	住宅、オフィスビル等の先進のパッシブデザイン技術を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
14	省エネルギーとアクティブデザイン	住宅、オフィスビル等の先進のアクティブデザイン技術を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
15	解説 まとめテスト	まとめテストを実施する。	講義内容の復習をして、 まとめテストを受けること。

関連科目	なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	科学技術教養（Ｒ２）　住環境デザイン学科　教科書	理工学部住環境デザイン学科	

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	毎回の課題 15%、まとめテスト 85%で評価する。 期末試験は行わない。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	12 号館　6・7 階　各教員研究室
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 事前・事後学習にかける学習時間は、授業外の課題や小テストの学習時間も含めて、毎回 1.5 時間程度とすること。

科目名	科学技術教養（Ａ１）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	宮本　征一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA2421a2		

授業概要・目的	広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築学に関わる学問体系のおおよそについて紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。なお、本授業は建築学科専任教員全員で担当する。授業担当者は、建築の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供します。
到達目標	卒業してからの社会生活のための有用な科学技術に関する教養が身に付きこれからの社会を生き抜くことができるようになる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題・演習・小テストを毎回行う。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果（資格）	身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	建築とは何か	建築の考え方、 建築家の果たす役割	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
2	建築と人間生活	建築の種類と計画空間、 ライフスタイルからみた多様性、民族・地域からみた多様性	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
3	建築と都市環境	建築と都市の関係、 都市環境のデザイン	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
4	建築の歴史	建築の歴史的変遷から建築における多様な「技術」について学ぶ	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
5	建築物のかたちと力の流れ	目に見える建築と目に見えない力がどのように関係しているのかを理解する視点を養います。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
6	建築の内装	インテリア、 家具・内装	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
7	建築の外装・外構	外装材とは エクステリア、造園	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
8	建築のＵＤ	こどもと建築、 バリアフリー、ユニバーサルデザイン	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
9	建築の保存活用	建築と社会の結びつきについて、建築のストック活用事例、保存手法、コンバーションといった建築保存の視点から見る。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
10	建築の温熱環境	建築空間における温熱環境を理解する視点を培います。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
11	建築における設備	採光・照明・通風・熱環境・給排水・騒音・エネルギー、 エレベーター、エスカレーター	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
12	建築の骨組み	構造と力の流れ、構造材料の性能	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
13	建築の材料	構造と仕上げ材料	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
14	建築と防災	災害、避難、防災教育	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
15	建築をつくる新技術	構造、材料、施工の新技術	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう

関連科目：なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	計 15 回の課題（各回、課題レポート・講義メモ・小テスト・課題・グループワークディスカッションの成果により構成され、それぞれの割合の合計が１００%となる）により評価する。期末試験は行わない。
学生へのメッセージ	受講希望者数が定数を超えた場合は、成績などで選択順位を決めることがある。
担当者の研究室等	８号館３階
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部における出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 事前あるいは事後学習として、教科書（配布予定）の当該回の範囲を読み、関連する情報収集を行うなどし、授業１回あたり 1.5 時間以上をかける必要がある。

科目名	科学技術教養（Ａ２）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	宮本　征一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA2421a2		

授業概要・目的	広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築の代表的な計画デザインや実施の事例、およびその手法について紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。なお、本授業は建築学科専任教員全員で担当する。授業担当者は、建築の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供します。
到達目標	卒業後の社会生活において必要な科学技術の教養を身に付けてこれからの社会を生き抜くことができるようになる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題・演習・小テストを毎回行う。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果（資格）	身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	住む建築	住宅、住むことの工夫	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
2	集まって住む建築	集まって住む楽しさ、集まって住むカタチ	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
3	福祉医療の建築	建築と福祉医療	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
4	公共の建築	公共の建築、パブリックスペース、公共性のある都市施設等に着目し、建築の公共性について考える。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
5	商業の建築	商業建築、商店街の歴史と再生	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
6	文化の建築	建築に象徴された様々な文化を読み取る。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
7	交通の建築	陸・海・空の交通 交通建築の特徴	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
8	高層の建築	五重塔と超高層、 超高層建築の性能と設計、耐震要素と構造技術	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
9	地下空間の建築	地下空間のメリット、地下空間の利用、大深度地下、地下都市	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
10	環境共生と建築	環境と共生する建築について考える。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
11	木造の建築	木匠、伝統技術と最新技術 木造建築、木材の使用	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
12	プレハブ建築	種類と概要、 プレハブ化の普及、設計と生産、 災害仮説住宅	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
13	建築とロボット	ロボット導入の経緯、 ロボット化の現状と技術、 今後のロボット	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
14	街並みの建築	ランドスケープと建築、 街並みと要素	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
15	将来の建築	空間条件と心理、ヒューマンスケール、 人はどこに住むか、 近代建築の問題、将来の建替	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう

関連科目：専門科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	計 15 回の課題（各回、課題レポート・講義メモ・小テスト・課題・グループワークディスカッションの成果により構成され、それぞれの割合の合計が１００%となる）により評価する。期末試験は行わない。
学生へのメッセージ	受講者希望者数が定数と超えた場合は、成績などで選択順位を決めることがある。
担当者の研究室等	８号館３階
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部における出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 事前あるいは事後学習として、教科書（配布予定）の当該回の範囲を読み、関連する情報収集を行うなどし、授業 1 回あたり 1.5 時間以上をかける必要がある。

科目名	科学技術教養（Ｍ１）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀江　昌朗
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA2421a2		

授業概要・目的	機械工学は，ヒトが活動する上での効率化，合理化，さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問の体系である。本講義では，ヒトはなぜモノを作ろうとするのか，何を用いてモノを作ってきたのか，どのようにモノを作るのかに注目し，その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること，さらには産業の発展に役立ってきたさまざま機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	機械技術およびものづくり技術全般の基礎知識を身につけ，機械工学と社会・生活との関わりを理解できる。
授業方法と留意点	・各テーマごとにその歴史，基本原理，最先端の話題を２回もしくは３回にわたって提供する。 ・スライドを中心にビデオを用いた講義形式を取る。講義の終盤に講義内容のメモ（ノート）を提出するため，講義の内容をよく聞き，ノートにていねいにまとめていくことが大事。
科目学習の効果（資格）	世の中に存在する工業製品，人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て，知見を広めることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	機械工学とは？	・機械工学の発展の歴史を概観する。 ・「機械工学曼荼羅」を用いて，機械工学の役割，範囲，応用を紹介する。	テキスト第１章に目を通しておくこと。
2	道具を作る(1) － ヒトと道具	・道具の歴史：ヒトの手の動作を補う道具から労働としての道具へ ・農具 漁具 大工道具 手動工具 電動工具	テキスト第２章 2.1-2.3 に目を通しておくこと。
3	道具を作る(2) － 作り方	・鋳造，塑性加工，粉末冶金，材料加工，生産加工 ・刀鍛冶，セラミックス，溶接・切断	テキスト第２章 2.4-2.5 に目を通しておくこと。
4	モノの材料を知る(1) － 金属材料	・金属材料はなぜ素材たり得るか？ ・鉄鋼の製造方法	テキスト第３章（鉄つくりの変遷）に目を通しておくこと。
5	モノの材料を知る(2) － セラミックス・ポリマー	・セラミックス・ポリマーの構造（金属と何が異なるか？） ・高強度・機能性材料の話	テキスト第４章（非金属材料）に目を通しておくこと。
6	モノの材料を知る(3) － 新素材	・新素材と高度産業化社会 ・形状記憶，超伝導，ナノ材料	テキスト第５章（新素材）に目を通しておくこと。
7	ものづくり(1) － 母なる機械	・機械部品を作る機械（工作機械の歴史） ・機械時計，工具と運動，機械部品	テキスト第６章（母なる機械）に目を通しておくこと。
8	ものづくり(2) － 精密に加工する	・精度を追求する（コンピュータと工作機械） ・精密加工，マシニングセル，ナノ加工	テキスト第７章（精密に加工する）に目を通しておくこと。
9	ものづくり(3) － 工場（ファクトリー）	・世界が学ぶ・日本が誇る製造システム ・無人化工場，デジタル屋台，トヨタ生産方式	テキスト第８章（ファクトリー）に目を通しておくこと。
10	大きな力を得る(1) － 車輪	・作業を補助する機械の歴史 ・車輪，滑車，てこ，歯車	テキスト第９章（人間の作業を補助する機械）に目を通しておくこと。
11	大きな力を得る(2) － 建設運搬機械	・巨大な力を得るためのアクチュエータ ・油圧・水圧・空気圧機器，電動機	テキスト第 10 章（力を伝える・増幅する機械）に目を通しておくこと。
12	大きな力を得る(3) － パワーアシスト	・アクチュエータの知能化とパワーアシスト ・パワードスーツ，電動アシスト自転車，人工筋肉	テキスト第 11 章（機械の知能化）に目を通しておくこと。
13	ミクロの機械(1) － 精密機械	・小さくなることで変わる使い方 ・時計，携帯電話，計算機，テレビカメラ，情報機器	テキスト第 12 章（精密機械）に目を通しておくこと。
14	ミクロの機械(2) － 小さく作る	・小さくすることで変わる物理の法則，加工法・アクチュエータ ・微細加工，ナノテク，半導体製造，カーボンナノチューブ，微細気泡	テキスト第 13 章（小さくつくる）に目を通しておくこと。
15	ミクロの機械(3) － 小さくて広大な世界	・半導体製造技術を用いた微細構造を持つ機械 ・カプセル内視鏡，鞭毛モーター	テキスト第 14 章（小さくて広大な世界）に目を通しておくこと。

関連科目	産業技術史

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	科学技術教養Ｍ１		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回，講義メモとレポートを提出する。 講義全体にわたるメモ（50%），講義内容に対する理解と考察に関するレポート（50%）で評価する。
学生へのメッセージ	機械工学が関わる製品や技術を，大きなスケールで幅広く知ることができます。また，道具はどうやって進化してきたのか？ 日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか？ 近未来にどういう乗り物が実現されているか？等々，工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本

	講義を受講し，就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。
担当者の 研究室等	担当教員の居室〔1 号館の 3 階・4 階・5 階〕
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、次のルールを原則とする。 ・出席率 80%以上を成績評価の対象とする。 ・30 分以上の遅刻は欠席扱いとする。 ・遅刻は 2 回で欠席 1 回とみなす。 ※詳細は、初回に配布する『M科開講「科学技術教養 M1・M2」受講の際の注意』を熟読すること。 フィードバック：講義メモ・レポートは翌週に返却します。

科目名	科学技術教養（Ｍ２）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	諏訪　晴彦
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA2421a2		

授業概要・目的	機械工学は，ヒトが活動する上での効率化，合理化，さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問体系である。本講義では，ヒトはなぜモノを作ろうとするのか，何を用いてモノを作ってきたのか，どのようにモノを作るのかに注目し，その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること，さらには産業の発展に役立ってきたさまざま機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	人の活動に貢献し生活を豊かにする機械技術を理解するとともに，機械システムと社会や経済活動，生活・生命との関わりを理解する.
授業方法と留意点	・各テーマごとに，歴史，基本原理，最先端の話題を２回もしくは３回にわたって提供する。 ・スライドを中心にビデオを用いた講義形式を取る。講義の終盤に講義内容のメモ（ノート）を提出するため，講義の内容をよく聞き，ノートにていねいにまとめていくことが大事。
科目学習の効果（資格）	世の中に存在する工業製品，人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て，知見を広めることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	機械工学とは？	・機械工学の発展の歴史を概観する。 ・「機械工学曼荼羅」を用いて，機械工学の役割，範囲，応用を紹介する。	テキスト第１章（機械工学とは）に目を通しておくこと（60 分）
2	活動の源(1) – 動力・エネルギーの世界	・身近なエネルギー利用と動力の歴史 ・人力，蓄力，水力，風力，蒸気力	テキスト第２章（動力）に目を通しておくこと（60 分）
3	活動の源(2) – 発電	・エネルギー利用と発電 ・水力，風力，火力，地熱，原子力発電	テキスト第３章（電力）に目を通しておくこと（60 分）
4	乗り物(1) – エンジン	・熱工学とエンジンシステム ・種々のエンジン（ガソリン等），電気モータ	テキスト第４章（エンジン）に目を通しておくこと（60 分）
5	乗り物(2) – 輸送する	・交通と物流 ・自動車交通，船舶，鉄道	テキスト第５章（輸送する）に目を通しておくこと（60 分）
6	空間を移動する(1) – 空を飛ぶ	・空中を飛ぶことができる機械の機能，種類，歴史と原理 ・飛行機，ヘリコプター，飛行船，揚力	テキスト第６章（空を飛ぶ）に目を通しておくこと（60 分）
7	空間を移動する(2) – 高速移動	・深海に潜ることができる機械の機能，種類，歴史と原理 ・しんかい 6500，深海探査，水圧，チタン合金，生命維持システム	テキスト第７章（深海に潜る）に目を通しておくこと（60 分）
8	空間を移動する(3) – 宇宙へ飛び立つ	・宇宙空間に飛んでいける機械の機能，種類，歴史と原理 ・ロケット，スペースシャトル，宇宙ステーション，高真空，ロケットエンジン	テキスト第８章（宇宙へ飛び立つ）に目を通しておくこと（60 分）
9	物を測る	・測り方を共通にすることで広がる世界 ・度量衡と政治の関係，原器，ものさし，機械的測定	テキスト第９章（物を測る）に目を通しておくこと（60 分）
10	センサで測る	・センサの発達と誤差との戦い ・センサ，センシング技術，計測と誤差	テキスト第 10 章（センサで測る）に目を通しておくこと（60 分）
11	制御する	・制御の成り立ちと発展，自動制御とは？ ・調速機，結果を見て制御する（フィードバック）	テキスト第 11 章（制御するとは？）に目を通しておくこと（60 分）
12	操る・抑える	・サーボ機構とプロセス制御 ・ロボットアーム，ロケット，原子力発電，鉄鋼プラント	テキスト第 12 章（操る・抑える）に目を通しておくこと（60 分）
13	生命･生体に倣う機械(1) バイオエンジニアリング	・バイオエンジニアリング，生体工学の世界 ・生体の模倣と設計，鳥と飛行機，ハコフグと低燃費自動車，サソリと多足ロボット	テキスト第 13 章（バイオエンジニアリング）に目を通しておくこと（60 分）
14	生命・生体に倣う機械(2) – 医療と健康	・人間を援ける医用工学，人間を癒す福祉工学の世界 ・人工臓器，福祉機器，健康機器，スポーツ機器	テキスト第 14 章（医療と健康）に目を通しておくこと（60 分）
15	生命・生体に倣う機械(3) – ヒューマノイド	・人間を測る，診る，まねる世界 ・生体計測，生体力学，医用診断装置，ヒューマノイドロボット	テキスト第 15 章（ヒューマノイド）に目を通しておくこと（60 分）

関連科目：産業技術史

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	毎回，講義メモとレポートを提出する。 講義全体にわたるメモ（50%），講義内容に対する理解と考察を問うレポート（50%）で評価する。
学生への メッセージ	機械工学が関わる製品や技術を，大きなスケールで幅広く知ることができます。また，道具はどうやって進化してきたのか？ 日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか？ 近未来にどういう乗り物が実現されているか？等々，工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し，就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。
担当者の 研究室等	担当教員の居室〔1 号館の 3 階・4 階・5 階〕
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、次のルールを原則とする。 ・出席率 80%以上を成績評価の対象とする。 ・30 分以上の遅刻は欠席扱いとする。 ・遅刻は 2 回で欠席 1 回とみなす。 ※ 詳細は、初回に配布する『M科開講「科学技術教養 M1・M2」受講の際の注意』を熟読すること。 フィードバック：講義メモ・レポートは翌週に返却する。

科目名	科学技術教養（Ｅ１）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	片田　喜章
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA2421a2		

授業概要・目的	電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の簡単な基礎理論を紹介しながら、身の回りにある電気製品を題材として電気電子工学から通信情報分野までの多岐にわたる応用技術を学習させることを目的とする。
到達目標	電気を作る電池の話や電気を力に変えるモータ、半導体や太陽電池の構造、携帯電話やパソコン、インターネットのしくみまで、電気を使った最新技術がどの様なしくみで暮らしの中で活用されているかを理解できることを到達目標とする。
授業方法と留意点	電気電子工学科の教員が各授業テーマを順番に担当する。 授業はスライドを用いて行う。 授業中にメモを取らせて授業後に回収する。次回授業時にメモを返却する。 授業の最後に小テストを行う。 講義は１話完結であるが、相互につながりがある。電気を用いた科学技術の全体像を理解するように努めよう。
科目学習の効果（資格）	計測装置・電気設備など電気工学以外の分野でも電気を使った機器はいたるところで使われている。 これらの原理や特性を知ることで、その性能をフルに引き出すことができる。 また，身近な電気製品のしくみを知ることで、より有効活用することができる。 国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	電気の歴史と電気回路の基礎	科学技術教養の意義 電磁気学の歴史、電気回路の基礎、 抵抗と電気エネルギーの利用、消費電力、交流と直流	電気に関するニュースに注意する。１時間
2	電池の構造と応用技術	交流と直流、電池の種類と電圧発生原理、 １次電池と２次電池	テキストを復習する。１時間
3	モータのしくみと応用	磁石と力、電磁石、 直流モータと交流モータ	テキストを復習する。１時間
4	半導体のお話	半導体とは何か、ｐ形とｎ形、 大規模集積回路、LED 照明とは	テキストを復習する。１時間
5	太陽電池の構造と家庭での利用	半導体で光エネルギーを電気に変換する。 売電のしくみ。	テキストを復習する。１時間
6	様々な電子回路	電子回路の歴史、 真空管と半導体・集積回路、 代表的なアナログ電子回路	テキストを復習する。１時間
7	電波応用技術の変遷	電波と光、マクスウェル理論とヘルツの実験 変調方式、ラジオとテレビ	テキストを復習する。１時間
8	モールス通信から携帯電話へ	モールス電信からベルの電話へ、 電話機と交換機のしくみ、アナログからディジタルへ、 携帯電話とネットワークのしくみ	テキストを復習する。１時間
9	アナログからデジタルへ	アナログとデジタル、２進数とは、論理回路入門	テキストを復習する。１時間
10	パソコン・スマートフォンの内部構造	構成要素と機能、ハードウェアの構成、 ソフトウェアの役割、パソコン・スマートフォンの進化	テキストを復習する。１時間
11	マイコンで制御される家電製品	電気制御の重要性、温度制御、圧力制御 電子レンジやＩＨのしくみ	テキストを復習する。１時間
12	音響機器のしくみ	マイクとスピーカ、録音技術の歴史 ＣＤのしくみ、アナログ録音とデジタル録音、人工音の合成	テキストを復習する。１時間
13	画像表示のしくみ	画像表示の歴史と原理、各種表示デバイスのしくみ、 立体映像表示の原理と実例	テキストを復習する。１時間
14	インターネットのつなぎ方	インターネットのしくみ、ルータとハブ 無線ＬＡＮ、ネットワークセキュリティ	テキストを復習する。１時間
15	医療分野への貢献	ガルバノの実験、義手の制御 電気工学の医療への応用	テキストを復習する。１時間

関連科目：特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	テキストを配付する		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）：受講メモ 50%、小テスト 50%の総合点で評価する。

学生への メッセージ	身の回りの電気製品は日々進化しています。これらを便利な道具としてブラックボックス的に使うのではなく、そのしくみを知って使うことでさらに活用することができます。そういったしくみに興味を持って受講して下さい。
担当者の 研究室等	１号館４階・５階の電気電子工学教員室 責任者： 片田（１号館４階）
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは，理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 原則として出席率 80%以上を成績評価の対象とする。 就職活動中の４年生はとくに注意すること。 受講メモは翌週に返却し、小テストの結果は個別に通知する。

科目名	科学技術教養（Ｅ２）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	片田　喜章
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA2421a2		

授業概要・目的	電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の歴史と簡単な基礎理論を説明した後、電気を発生する発電のしくみとその方法を手始めに、現代社会において応用されている電気電子工学、通信情報工学の最新科学技術について講述する。
到達目標	電車のしくみや放送技術、携帯電話やレーザー光線の原理、最新のナノテクノロジーやロボット工学、また宇宙規模の電気の話などもあり、最終的には電気を使った科学技術がどの様なしくみで我々の暮らしに関わっているかを理解できることを到達目標とする。
授業方法と留意点	電気電子工学科の教員が各授業テーマを順番に担当する。 授業はスライドを用いて行う。 授業中にメモを取らせて授業後に回収する。次回授業時にメモを返却する。 授業の最後に小テストを行う。 講義は１話完結であるが、相互につながりがある。電気を用いた科学技術の全体像を理解するように努めよう。
科目学習の効果（資格）	現代社会を支えている電気エネルギーとその応用について総合的に学ぶことにより、電気への理解を深め、これにより原子力発電も含めた電力供給系と節電に対する正しい考え方を身につけることができる。 また、携帯電話やスマートフォンでどこでも通信ができる社会のしくみ等も知ることができる。 国家資格で電気の基礎の出題がある場合には，その基礎勉強にもなる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	電気の歴史	科学技術教養の意義 磁石の利用、クーロンの法則、アンペールの法則、ファラデーの電磁誘導、マクスウェル理論と電磁波の予言	電気に関するニュースに注意する。１時間
2	発電の原理と発電所	電気エネルギーを発生させるしくみ、発電機、水力、火力 交流発生か直流か、50Hz と 60Hz	テキストを復習する。１時間
3	原子力発電	核エネルギーの発生、原子力発電のしくみ、事故と防災対策、 放射線の性質と測定	テキストを復習する。１時間
4	再生可能エネルギー	太陽光発電、風力発電 地熱発電、海洋エネルギー、宇宙発電、エネルギー効率	テキストを復習する。１時間
5	送電・配電	電気を安定に送る、交流送電か直流送電、周波数変換 送電電圧と家庭電圧への変換、スマートグリッド	テキストを復習する。１時間
6	モータのしくみと電車	磁石と電流による力の発生、モータのしくみ 電車、リニア新幹線、電気ブレーキと電力回生	テキストを復習する。１時間
7	電波と放送	電波の利用と電波法、ラジオ放送、テレビ放送、衛星放送、放送の進化	テキストを復習する。１時間
8	携帯電話のしくみ	固定電話から携帯電話へ、セルラーシステム、携帯電話のつながるしくみ、音声通信からデータ通信へ、携帯電話の進化	テキストを復習する。１時間
9	私たちの生活をささえる電気照明	エジソンによる電灯の発明、蛍光灯のしくみ、青色ＬＥＤの発明、ＬＥＤ照明	テキストを復習する。１時間
10	レーザーの発明	物質からの光放射、線スペクトルと誘導放射 メーザーからレーザーへ、レーザーの特徴	テキストを復習する。１時間
11	光デバイス	さまざまな光デバイスの原理と応用など	テキストを復習する。１時間
12	進化するナノテクノロジー	半導体の動作原理、半導体集積回路の構造、 集積回路技術の歴史と現状、 スマートフォンからウェアラブル計算機へ、今後の発展	テキストを復習する。１時間
13	プログラマブル高速計算機の発達	チューリング機械、手回し計算機と計算尺、最初の電算機 ENIAC 弾道ミサイルの計算、金融計算から天気予報まで	テキストを復習する。１時間
14	ロボット工学	ロボット工学の過去・現在・未来を解説	テキストを復習する。１時間
15	電気と宇宙	第４の状態ープラズマ、放電の原理と応用、雷の発生原理、 太陽プラズマと黒点の関係、オーロラの発光メカニズム	テキストを復習する。１時間

関連科目：特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	テキストを配付する		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	受講メモ 50%、小テスト 50%の総合点で評価する。
学生への メッセージ	我々の暮らしに電気は不可欠です。しかも原子力発電の問題が出てきて、エネルギー問題への関心は節電対策も含め高まっていると思います。しかし、単純に噂などを鵜呑みにするのではなく、電気の発生から伝達までのしくみを詳しく知れば、風評に惑わされることなく、対策を考えることができます。常に様々な電気関連のニュースに注意を払いながら受講して下さい。
担当者の 研究室等	１号館４階・５階電気電子工学科教員室 責任者： 片田（１号館４階）
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 原則として出席率 80%以上を成績評価の対象とする。 就職活動中の４年生はとくに注意すること。 受講メモは翌週に返却し、小テストの結果は個別に通知する。

科目名	科学技術教養（Ｃ１）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤　譲
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA2421a2		

授業概要・目的	授業の目的は，受講者に私たちの生活を支える土木技術に対する興味を持つとともに技術の基本原理を知ってもらうことである．第１回目の授業では，身の回りの土木技術の例を取り上げ，それらが技術者によってどのように守られているのかを説明する．第 2・3 回目は現在にまでつながる国土開発の歴史をそれに従事した人々にも注目して講義する．第 4～7 回は「土木」の由来となる基本的な材料，第 8～11 回は設計方法，第 12～15 回は計画と環境問題について講義する．
到達目標	土木技術全般の基礎知識を有し，土木技術と社会や経済活動，生活との関りを理解できる．
授業方法と留意点	・基本的にパワーポイントを用いた講義形式．授業中はメモを取らせ授業終了時もしくは終了後に提出する． ・歴史と人物と基本原理をセットとして取り扱う．第４回以降は材料や設計の基本原理を扱う．基本的に古くからの基礎的な技術と現在の技術をセットで取り扱う． ・講義だけではイメージを伝えることが困難な場合には，サンプルや簡単な実験を併用する．
科目学習の効果（資格）	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設に関する基礎的な知識が得られ，安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	私たちの日常生活と土木技術	私たちの身の回りの土木技術：・鉄道・道路網，上下水道，エネルギー施設，防災施設，憩い．・私たちの生活にどう関わっているのか？・技術を支える人たち（建設会社，設計コンサルタント，公務員，メーカー・・・）	配布資料講義部分の予習と復習
2	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか①	国土建設の歴史 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦，敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
3	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか②	国土建設を行った人々 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦，敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
4	都市をつくる材料の話① -土木技術は土から始まった-	最も古い材料，土と人類，土と木 締固めて使う，事例１(古くからの技術)，事例２（近代以降の技術）	配布資料講義部分の予習と復習
5	都市をつくる材料の話② -セメントコンクリートの発明-	セメントの発見・発明 耐久性，品質管理	配布資料講義部分の予習と復習
6	都市をつくる材料の話③ -鋼は文明を支える-	産業革命による鉄利用の拡大 鋼構造	配布資料講義部分の予習と復習
7	都市をつくる材料の話④ -循環型社会と土木材料-	新材料，リサイクル材料 産業廃棄物の利用	配布資料講義部分の予習と復習
8	国土を測る技術	広い国土をどうやって測るのか． 歩測から GPS まで，原理，応用	配布資料講義部分の予習と復習
9	都市の造り方① -橋を設計する-	橋はなぜ必要か？橋はどうやって重力に抵抗しているのか． 構造力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
10	都市の造り方② -川を設計する-	治水は国を治める．水と波の力を計算する．川，ダムと港の設計へ． 水理学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
11	都市の造り方③ -地盤とトンネルを設計する-	都市を支える地盤の役割，地下空間． 地盤力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
12	安全で安心な都市へ① -未来の都市を計画する-	都市地域計画 （計画学の基礎）	配布資料講義部分の予習と復習
13	安全で安心な都市へ② -命の水を守る-	衛生工学 （上下水道学の基礎）	配布資料講義部分の予習と復習
14	安全で安心な都市へ③ -持続可能な都市を-	地球規模環境問題，循環型社会 （環境工学）	配布資料講義部分の予習と復習
15	安全で安心な都市へ④ -都市の生命線-	ライフラインと防災	配布資料講義部分の予習と復習

関連科目	特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	配布資料：科学技術教養　C1	都市環境工学科全教員	

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特になし		

評価方法（基準）	受講メモ 50%，レポート 50%の総合点で評価する．※レポートは，授業のまとめとして毎回提出すること．期末試験は行わない．
学生へのメッセージ	豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります．この講義を通じて，自然災害の防災・減災や産業・経済活動支える社会基盤施設に関する基礎知識を身につけていただければ幸いです．
担当者の研究室等	講義担当者居室　１号館３階および４階
備考	事前・事後学習にかける学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含めは，毎回１時間程度としてください．

科目名	科学技術教養（Ｃ２）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊藤　譲
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA2421a2		

教養科目

授業概要・目的	概要：いくつかのプロジェクトを例に，建設事業の流れに沿って，社会的な位置づけ，市民生活との関わりを解説する．第１回目の授業では，事業主体別にプロジェクトの流れを説明する．第 2～3 回目は，高速道路建設を例に地形の調査・土質の調査，環境の調査を解説する．第 4～7 回は高速道路を構成する橋，トンネル，道路の設計と施工の考え方を解説する．第 8～15 回は，安全で潤いのある社会を築く観点からダム・堰，堤防，浸水対策，ライフライン，公園・まちづくり，地震防災など身近なテーマを概説する．
到達目標	土木構造物の計画から施工管理までの流れの概要を理解し土木構造物と社会や経済活動，生活との関りを理解できる．
授業方法と留意点	授業はパワーポイントを用いた講義形式とする．私たちの生活を支える社会基盤がどのようにして計画され，設計・施工されているかを事業の流れに沿って解説する．代表的な構造物や身近なテーマを取り上げ，安全で安心な社会を築くため，何が重要かを理解できるように講義を進める．
科目学習の効果（資格）	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設がどのように計画設計され施工されているかなどの知識が得られ，安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	社会基盤をつくる建設事業の流れ	国家プロジェクト，地域プロジェクト，民間主導プロジェクトなど事業主体別の建設の流れ，計画（意思決定）～調査～設計～施工の概要	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
2	高速道路建設の計画・調査・設計	国土開発や都市計画・地域計画との関連，一般道路や鉄道との関連，需要予測，予算，資本回収の考え方	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
3	建設に必要な調査①（地形の調査・土質の調査）	測量計測技術（地形測量・平板測量・水準測量・写真測量・GPS 測量），地盤の調査	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
4	建設に必要な調査②（環境の調査）	生態系・環境への影響，負荷の軽減策、排ガス規制と大気汚染など環境アセスメント	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
5	橋の設計と施工	コンクリート橋と鋼橋，橋の形式と適用支間長，景観設計，施工法	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
6	トンネル，半地下開削工法	山岳トンネル・都市地下トンネルの設計と施工，地山の強度と工法，半地下開削工法	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
7	道路の設計と施工	盛土形式と高架形式，道路の構造，道路舗装	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
8	ダム・堰の計画と施工	洪水への備え（治水、防災），発電・灌漑・上水などの多目的ダム，ダムの構造と種類	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
9	堰・堤防の計画と設計・施工	洪水・土砂災害への備え（治山・治水、防災），計画雨量，遊水池，親水施設	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
10	都市型洪水への備え	透水性舗装，都市大型地下貯槽，屋上緑化，排水と下水道設計，地下道・地下鉄の浸水対策	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
11	市民の日常生活を支えるライフライン	上下水道，水質管理，水質浄化，下水処理，電気，通信設備	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
12	市民の生活に潤いを与える公園・まちづくり	まちづくりとは，実現するものは，人とのかかわり，技術とのかかわり	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
13	市民の生活環境を守る	地球環境と生態系，人口増加と都市化・食糧生産，・自然エネルギーの問題点，火力発電所と大気汚染・温暖化，原子力発電と放射能問題，温排水問題	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
14	震災から市民を守る	地震の種類と特性，地震に備える構造とは？制震構造と免震構造，ライフラインの耐震，避難体制，緊急地震速報	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
15	津波や台風・高潮から市民を守る	港湾施設・防波堤，津波，避難施設，避難誘導	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．

関連科目：特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	配布資料：科学技術教養　C2	都市環境工学科全教員	
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特になし		
2			

評価方法（基準）	受講メモ 50%，レポート・小論文 50%の総合点で評価する．※レポート・小論文は，授業のまとめとして毎回あるいは 2～3 回に一回程度実施する予定．期末試験は行わない．
学生へのメッセージ	豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります．この講義を通じて，自然災害の防災・減災や産業・経済活動支える社会基盤施設がどのように計画設計され施工されているか知り理解を深めていただければ幸いです．
担当者の研究室等	講義担当者居室　１号館３階および４階
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは，理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする． 事前・事後学習にかける学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め，毎回１時間程度としてください．

科目名	科学技術教養（T１）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	東　武大
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA2421a2		

授業概要・目的	「情念や宗教」においては，時代を超えて人々に事物を伝えるために，「すごくたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を発明したことで，誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し，人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では，科学技術を支える数学や物理学の内容を，時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。数や形状を正確に記述するためのさまざまな手法を概観し，それが最新技術にどのように用いられているかを知る。
到達目標	科学の歴史的な流れを，基礎的事項を踏まえながら説明できる。 科学という学問の背景にある考え方について，各自が意見を持つことができる。
授業方法と留意点	初回に配布するテキスト及び毎回の配布プリントを用いる。各回の最後には講義メモを提出すること。
科目学習の効果（資格）	数学・物理の発展に関する幅広い知識を得て知見を広めることができる。
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	人類にとっての数(1)	太古の昔、物を数えるための道具として「自然数」は生まれた。やがて「自然数」から「分数」へと数の世界は広がっていったが、どのような経緯を経たのか？人類の歴史と共に探る。	教科書１章の予習復習(1 時間)
2	人類にとっての数(2)	「小数」、「無理数」、「ゼロの数」、「負の数」と数の世界は更に広がっていった。これらの歴史を当時の文化や考え方を交えながら紹介する。	教科書１章の予習復習(1 時間)
3	人類にとっての数(3)	更に「実数」から「虚数」、「複素数」へと広がった数の世界。ガウス平面、オイラーの公式など「複素数」に関する先人たちの功績。また「複素数」の登場によって発展した科学について紹介する。	教科書１章の予習復習、レポート課題(1 時間)
4	三角形から始める幾何学	ピタゴラスの定理や三角形の合同と相似、三角比について振り返ることから始め、それらを用いて、私達の身の回りのものを測ってみる。	教科書２章の予習復習(1 時間)
5	平行線の公理	高校までの幾何では扱われていない平行線の公理について、その内容と意義を紹介し、平面とは異なる世界はどのようなものか、想像してみる。	教科書２章の予習復習(1 時間)
6	身近にある曲面	平行線の公理を検討することにより現れてきた、平面とは異なる曲面は結構身近にある。そのような曲面を通して、曲がっている世界を体験してもらう。	教科書２章の予習復習、レポート課題(1 時間)
7	波の数理 (音と光の基礎)	身近な「波」を表現するために、「振幅」、「波長」、「位相」という新たな概念を導入し、波の現象について紹介する。さらに、波の性質をもつ音波と光についても概観する。	教科書 3,4 章の予習復習(1 時間)
8	波としての光	光は粒子の性質と波の性質をあわせ持つ。しかし、この認識は科学者達の長年の研究と論争を経て得られたものである。本講では光が波であることの根拠を示す。そして写真やホログラフィーなどの、波の性質を利用した光の記録方法について述べる。	教科書 3,4 章の予習復習(1 時間)
9	電磁波	光は波である．弦を伝わる波は，弦の振れが大きいところと小さいところが繰り返し現れて波になっている．光が波ならば，いったい何の振動なのだろうか．マックスウェルは理論的に電磁波という波の存在を予言し、さらに光が電磁波の一種であることをつきとめた。本講では電磁波、そして光の正体について述べる。	教科書 3,4 章の予習復習(1 時間)
10	レーザー光	光を発するもの（光源）には様々なのがある。太陽は最も明るい光源である。人口の光源としては、電球、蛍光灯がある。近年では省エネルギーな発光ダイオード（LED）が急速に普及している。本講では人が創りだした「最も高機能な光」を発生するレーザーについて、発振の原理及び応用について述べる。	教科書 3,4 章の予習復習、レポート課題(1 時間)
11	X 線の発見から利用	X 線の発見から発生の原理、さらに X 線の利用について概観する。医療機器としてよく知られているレントゲンや X 線 CT がなぜ体内を見透かすことができるのかなどについても説明する。また、X 線の欠点と安全性についても簡単に紹	教科書 3,4 章の予習復習(1 時間)

		介する。	
12	放射光と未来の光	科学技術の発展によりシンクロトロン放射光という次世代の光を生み出した。放射光の発生原理と科学等への利用を紹介する。さらに、近年の利用されてきている次世代の放射光である自由電子レーザーの特性についても簡単に紹介する。	教科書 3,4 章の予習復習、レポート課題(1 時間)
13	コペルニクス以前の天動説	惑星の運動の法則を考えるうえで、コペルニクス以前の天動説に ついて概観する。	教科書 5 章の予習復習(1 時間)
14	コペルニクスの地動説	天動説から地動説へ、惑星運行の法則、実験で物理法則を実証す る近代自然科学の萌芽を考える。	教科書 5 章の予習復習(1 時間)
15	ガリレオの天文学	望遠鏡を発明した技術が自然観察である天体観測を精密化し宇宙 を理解したい知的好奇心が科学革命を導く過程を考える。	教科書 5 章の予習復習、レポート課題(1 時間)

関連科目

数学・物理の全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	科学技術教養 T1	基礎理工学機構	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

講義メモ 50%、レポート 50%の総合点で評価する。

学生へのメッセージ

科学は現代社会で不可欠な学問の一つです。周囲を見渡せば、皆さんの生活が科学抜きには成立しないことがわかるでしょう。科学は近代になって急速に発展しましたが、古くから人々が自然現象や数に興味を持って考察を進めたことが基礎になっています。本講義で科学の歴史や重大な発見・発明の概要を学び、科学という学問をどう考えるか、さらに、これから科学や人間の活動はどう進んでいくべきか、各自で意見を持てるようになりましょう。

担当者の研究室等

担当教員の居室〔1 号館 2 階，3 号館 3 階，8 号館 2 階〕

備考

遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。事前事後学習は、毎回 1 時間以上かけること。講義メモは毎回採点して返却する。

科目名	科学技術教養（T２）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島田　伸一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA2421a2		

授業概要・目的	「情念や宗教」においては，時代を超えて人々に事物を伝えるために，「すごくたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。 「科学」によって数や式を発明したことで，誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し，人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では，科学技術を支える数学や物理学の内容を，時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。
到達目標	時間や位置とともに変化する量をどのように表すのか，そして，その変化の割合がいったい何を意味し，現代科学につながっていくのかを，歴史的背景も込めて，知る。
授業方法と留意点	座学・説明中心の講義となるので，遅刻・私語は厳禁である。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	微積分学が成立するまでの話	ニュートンとライプニッツという２つ異なる個性が微積分学の成立にどう影響したか，その歴史を概観する。	課題・レポート
2	文字式から単位のない実数の世界へ	微積分の厳密化の過程で，記号法・単位の問題から実数概念をどう獲得していったか振り返る。	課題・レポート
3	ヒルベルトのテーゼ:無矛盾ならば存在する	微積分学が挑んだ無限を無矛盾・選択公理をキーワードにして述べる。	課題・レポート
4	現代科学は力（ちから）F から始まった	ニュートンの運動の法則 F=ma は，なんだか良くわからない力 F を使って，なんだか良くわからない質量 m を定めた。どちらもわかっていないのに，大丈夫なのだろうか。	課題・レポート
5	万有引力の法則の美しいスケール不変性は偶然か	ニュートンが発見した「万有引力の法則」は，巨大なサイズをもった惑星の運動から導き出されたにもかかわらず，人工衛星や，飛行機，果ては雨粒にまで適用できることが分かった。これは，自然科学において貴重な「スケール不変性」をもつといい，人類の科学の発展にとって，計り知れないほど幸運であった。	課題・レポート
6	破壊力，衝撃力はどちらも同じ意味か	物体がもつ「運動の勢い」を考えると，２つの新しい概念が生まれた。一つを運動量といい，他方をエネルギーという。どちらの量が「運動の勢い」を正しく表している尺度なのか人々は５０年間議論した。その結論はどうだったのか。	課題・レポート
7	蒸気機関と熱力学の誕生(1)	18 世紀イギリス産業革命と熱機関。蒸気機関の改良・熱効率・熱素説。	課題・レポート
8	蒸気機関と熱力学の誕生(2)	カルノー登場。カルノーサイクルとそれを用いる思考実験。カルノーの定理の発見。	課題・レポート
9	蒸気機関と熱力学の誕生(3)	カルノーからケルビン，そしてクラウジウスに至る道。エネルギー保存則(熱力学第一法則)v.s.不可逆性。熱力学第二法則とその表現。熱力学的エントロピー。	課題・レポート
10	角の３等分について(1)	歴史的背景，方程式と結びつける，ユークリッド作図，作図できる数・できない数	課題・レポート
11	角の３等分について(2)	60 度は３等分できない，体の考え方	課題・レポート
12	角の３等分について(3)	体の拡大と作図できる数，定理の証明	課題・レポート
13	ニュートンからアインシュタインへ	慣性系、ガリレイ変換、マイケルソン・モーレーの実験等々アインシュタイン登場前に何が謎だったのかを説明する。	課題・レポート
14	特殊相対論--- 原理はたったの２つだけ	２つの基本的な原理を出発点にして、従来の時間や空間に対する考え方がどのように変更されたのか、高校レベルの数学を使って解説する。	課題・レポート
15	一般相対論 ---重力の謎	ニュートンの万有引力の法則はアインシュタインの相対論ではどのように記述されるのか？	課題・レポート

関連科目	数学・物理の全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	科学技術教養 T2		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	講義メモ 50%，レポート 50%で評価する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。

科目名	科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ｖ１）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	居場　嘉教
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	新聞やテレビが病気・くすりについてのニュースを取り上げることは珍しくないが，その内容を理解することは容易ではない。本講義では，病気・くすりの発見や原因解明の歴史，生命現象との関係などを個体レベルから遺伝子レベルにわたって幅広く平易に概説する。この講義の到達目標は，病気・くすりに関する知識を習得し，新聞やテレビのニュースを理解できるようになることである。 また，病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学研究の意義を理解できるようになることを目指す。
到達目標	(1) 病気・くすりに関する知識を習得し，新聞やテレビのニュースを理解できるようになる。 (2) 病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学研究の意義を理解できるようになる。
授業方法と留意点	一話完結型のオムニバス形式で講義を行い，配付する資料とパワーポイントを用いて解説する。講義ごとに講義メモの提出を求める。その他，レポート，小論文，演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果（資格）	生命科学に関するニュースがより身近になり，明確に理解できるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	不妊のしくみ	日本人夫婦（カップル）は 10 組のうち 1 組は不妊と言われており，実際に治療を受けている人が多い。しかし，なぜ不妊になるのかはっきりしない場合も多い。本講義では受精の仕組みから考えられる不妊の原因と現在の治療法について概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
2	病気と遺伝子	我々が持つ DNA は日常生活で頻繁に「傷（変異)」を受けている。しかしながら、ヒトの体内には傷を発見して治療する安全システムが備わっており、「がん」を未然に防いでいる。本講義では、がんの発症に密接に関わる「遺伝子の傷」と体を守る安全システムの仕組みについて概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
3	なぜ肥満は問題なのか？	肥満そのものは病気とは言えない。しかし，糖尿病，高脂血症，高血圧，脳血管障害など様々な「生活習慣病」と呼ばれる疾患のリスクファクターになることが知られている。なぜ肥満が様々な疾患の原因になってしまうのか，そのメカニズムと予防・治療法について解説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
4	免疫が引き起こす病気のしくみ	外敵や内なる敵から自らを守るためにつくられた免疫システムの概要と，がん，ウイルス感染(インフルエンザ，HIV，肝炎)，アレルギー疾患などとの関連について紹介する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
5	がんの発生とその予防法	死因別死亡率のトップはがんであり，約 3 人に 1 人ががんで亡くなっている。自分の意思で調節可能なはずの危険因子である喫煙が，がんの原因の 30%を占めており，単因子要因としては最大である。本講義では，がんの発生機序やその予防法について説明する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
6	ミトコンドリアと病気	太古の昔にヒトの細胞に侵入した細菌が由来のミトコンドリアであるが，我々の生と死はそのミトコンドリアに支配されている。本講義では，ミトコンドリアの特徴，役割およびミトコンドリアに関連した病気について概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
7	くすりと遺伝子工学	ある生物から分離した遺伝子を別の細胞または生物体に導入して，遺伝子産物（タンパク質）を生産したり，新しい形質を作り出すなど，遺伝子を人工的に操作する技術，遺伝子工学について紹介する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
8	くすりと組換え生物	生物が持つ遺伝情報に改変を施した「遺伝子組換え生物」は、再生医療やヒト疾患の治療法を開発するための重要なツールとして利用されていることに加え、バイオ医薬品の開発などにも役立っている。本講義では、遺伝子組換え生物やクローン生物の作製に関する技術と応用について概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
9	くすりとバイオインフォマティクス	遺伝子やタンパク質の配列情報を例にバイオインフォマティクスの概要について説明し，病気と遺伝子，ゲノム創薬への応用について述べる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
10	くすりとタンパク質のかたち	タンパク質構造決定の意義と構造決定法のひとつである X 線結晶構造解析の概要から，インフルエンザ治療薬を例に	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）

		医薬品開発への応用について述べる。	
11	くすりとゲノム	ゲノムとは，創薬とは，遺伝子診断などを解説し，生命倫理，歴史的な背景や将来の課題と発展方向をさぐる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
12	薬物乱用と依存性薬物	社会のルールからはずれた方法や目的で，薬物を使うことを薬物乱用という。薬物依存というと，その人の性格や人格の問題と思われがちであるが，脳内報酬系の異常という生物学的基盤があることを理解する必要がある。本講義では，薬物依存の形成機構および各種の依存性薬物について説明する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
13	遺伝子治療の最前線	遺伝子により治療はできるか，遺伝性疾患，科学・技術の概要，基本的な原理，を解説. 生命倫理や関連した話題のトピックについても触れる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
14	認知症～その原因と治療法	我が国は超高齢化社会へと進行し続けおり，2025 年には高齢者の 5 人に 1 人が認知症患者になると推定されている。そのため，認知症の発症率の低下や進行抑制のための有効な手立てが見つからなければ，社会的な負担が著しく増加すると懸念されている。認知症の原因や治療薬の開発など最新の知見を踏まえて解説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）
15	iPS 細胞研究の最前線	京都大学の山中伸弥教授によって作り出された iPS 細胞の基礎・臨床研究は今や国家プロジェクトであり，新聞やテレビでもたびたび登場する。本講義で iPS 細胞の発見から現在までの研究状況を概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し，講義後に配布資料を復習する（1 時間）

関連科目	科学技術教養 V2
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義メモ 50%およびレポート・小論文・演習問題などの課題 50%の総合点で評価する。なお，30 分未満の遅刻は欠席 0.5 日，30 分以上の遅刻は欠席 1 日とする。
学生へのメッセージ	病気やくすりはみなさんの身近な問題で，関心も大きいと思います. 本講義では病気やくすりについて，生命科学の観点から具体例を挙げて分かりやすく解説します。本講義は生物・薬を中心とした幅広い分野を含んでおり、各自の専門と関連する講義内容もあります。毎回出席して各自の専門とのつながりを見つけ、幅広い教養を身につけてください。 毎回レポート・課題があるので、毎回出席すること。
担当者の研究室等	1 号館 9 階　川崎，尾山，西村，中嶋，宮崎，船越，井尻，居場研究室
備考	事前事後学習に要する総時間の目安は 15 時間

科目名	科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ｖ２）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	長田　武
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義では、微生物の単離・殺菌技術や化粧品の開発、繊維加工に利用されている遺伝子組換え技術など、我々のくらしを豊かにするバイオテクテクノロジーから、環境リスクの評価、ヒトの健康を守る知識や技術まで、生命科学の分野における最新の研究事例を取り上げ、幅広く解説する。
到達目標	醗酵・腐敗の歴史、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品など、我々の健康とくらしを支えている生命科学について説明できる。
授業方法と留意点	講義内容について資料を配付し、パワーポイントを用いて解説する。講義ごとに受講メモの提出を求める。その他、レポート、小論文、演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果（資格）	遺伝子組換え技術などのバイオテクテクノロジーと、我々のくらしや健康との関わりが理解できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	機能性食品などの新しい食品の形態	食品の一次機能(栄養素)，二次機能(味，触感など)および三次機能(生体機能の調節などの新規機能)について解説し，保健機能食品制度，特定保健用食品，栄養機能食品など新しい食品の形態を講述する．	配布資料を復習する。
2	化粧品とバイオテクノロジー	バイオテクノロジーを化粧品開発に応用した事例を紹介し，実際の商品をとり上げてバイオテクノロジーのメリットを解説する．	配布資料を復習する。
3	繊維とバイオテクノロジー	繊維に反応する酵素を紹介し，これらを用いた繊維加工の応用例および今後の可能性について解説する．	配布資料を復習する。
4	遺伝子組換え植物とその将来	代表的な遺伝子組換え植物の創生方法について簡単に紹介し，世界における遺伝子組換え植物の実際，遺伝子組換え作物の環境への影響，また，日本における組換え作物の安全審査について説明する．さらに，遺伝子組換え賛成派と反対派の主な意見についても触れる．	配布資料を復習する。
5	バイオレメディエーションの可能性	過去，日本であった重金属汚染について簡単に復習し，特に水銀に焦点を合わせて水銀浄化法を説明する．物理化学的浄化法と微生物を用いた生物学的浄化法を対比しながら，適宜遺伝子組換え技術について補足を加え概説し，植物を用いた生物学的浄化法についても説明する．	配布資料を復習する。
6	エネルギーの創生と生物･環境に及ぼす影響	近年，エネルギーの枯渇化問題や生物とこれを取りまく環境との共生の問題を解決する新規エネルギーの創生が強く望まれている．本講義では，これまでに使用されてきたエネルギーから最先端のエネルギーまでの特徴を，生物と環境へ及ぼす影響といった観点から解説する．	配布資料を復習する。
7	バイオエネルギー技術	21 世紀に入り，エネルギー枯渇問題，環境負荷低減の要請から，生物の持つエネルギーを新しい代替エネルギーとして利用する試みが急速に発展している．本講義では，バイオエネルギーの概要から最先端のバイオエネルギー技術まで，現在のエネルギーとの比較や生態系･環境との共生の立場から解説する．	配布資料を復習する。
8	食品の健康障害リスクと対策	微生物，アレルギー性物質，残留農薬などの食品に存在するヒトの健康障害リスクについて具体的な事例を取り上げ，解説する．	配布資料を復習する。
9	動く分子とバイオテクノロジー	ATP 合成酵素や細菌のべん毛モーターなどの動く分子を紹介し、生物がもつ運動機能を生体分子モーターなどへ応用するバイオテクノロジーについて解説する。	配布資料を復習する。
10	モデル生物を用いたバイオテクノロジー	近年の生命科学ではヒトの遺伝子機能や生体機能、遺伝性疾患のメカニズムの解析の方法として様々なモデル生物が盛んに用いられている。それらの応用例を実際の写真等を示しながら、実際の研究例や今後に期待される展望を紹介する。	配布資料を復習する。
11	微生物酵素を用いる物質生産システム ～バイオテクノロジーを支える酵素利用技術～	酵素は優れた機能を有するタンパク質性の触媒であるが、産業で利用されている酵素の殆どは、加水分解酵素、転移酵素、異性化酵素などであり、反応に補酵素やエネルギーを要する酵素の利用に	配布資料を復習する。

教養科目

		遅れが見られる。かかる酵素の産業への応用を可能にする酵素利用技術（固定化酵素など）と酵素改変技術（分子進化工学、逆進化工学、タンパク質工学など）の現状と将来について概観する。	
12	遺伝子工学からゲノム工学へ ～バイオテクノロジーを支える微生物の形質転換法～	微生物の遺伝子交換法として、形質導入、接合、及び形質転換の３つが知られている。ここでは、真核微生物であり、遺伝子発現などの分子機構において高等動植物と共通性が高い出芽酵母における形質転換法の発展の経緯、方法、及びDNA取り込み機構を概観する。近年、進展の著しい巨大ゲノム DNA を扱う合成生物学やゲノム工学も展望する。	配布資料を復習する。
13	植物を用いた有用タンパク質生産	植物は、安全性、低コスト、分離精製の容易さなどの点から外来タンパク質の生産系として優れている。本講義では、植物を宿主とした生理活性タンパク質・ペプチドや抗体、ワクチン、医療用タンパク質などの生産について解説する。	配布資料を復習する。
14	環境リスクの評価方法	環境汚染物質や食品添加物などの合成化学物質などのヒトに対する安全性評価すなわちリスクアセスメントの考え方を講述し，水道水質基準や環境基準の策定に関する基本的な考え方を述べる．	配布資料を復習する。
15	地球規模の環境破壊と人体への影響	主にオゾン層の破壊，地球の温暖化および酸性雨に関して発生原因，発生機構，人への影響およびその防止対策に関して述べる．	配布資料を復習する。

関連科目	科学技術教養Ｖ１

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	講義メモ 50%およびレポート・小論文・演習問題などの課題 50%の総合点で評価する。30 分未満の遅刻は欠席 0.5 日、30 分以上の遅刻は欠席 1 日とする。
学生への メッセージ	本講義では、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品など、我々の健康とくらしを支えている生命科学について、具体的な事例を取り上げ、分かりやすく解説します。本講義は、生物・環境を中心とした幅広い分野を含んでおり、各自の専門と関連する講義内容もあります。毎回出席して各自の専門とのつながりを見つけ、幅広い教養を身につけてください。 毎回レポート・課題があるので、毎回出席すること。出席および遅刻・欠席の扱いは、一回目の講義で説明します。
担当者の 研究室等	１号館８階　長田講師室
備考	事後学習に要する総時間の目安は 15 時間

科目名	科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ｒ１）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩田　三千子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	古来より人間は、自然の力をかりてこの地球上に暮らしてきたが、祖先が自然と共生するために凝らしたさまざまな工夫は、それぞれの場所での気候風土、地形、材料を活用したものであり、そこには多くの知恵と技術の歴史を見ることができる。このような背景にもとづく、住環境の成り立ちについて、さまざまな事例を紹介しながら講義する。また、それらを踏まえて、具体的な空間やもののデザインに応用するための工夫や実践につながる知識を学ぶ。
到達目標	住環境の成り立ち、空間やもののデザインの実践的な技法を理解し、建築都市インテリアなどの空間を対象とする住環境デザイン全般の基礎を理解できる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題を毎回提出させる。講義を集中して聴く態度が求められる。 15 回目には、まとめテストを行うので、必ず出席すること。
科目学習の効果（資格）	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	（オリエンテーション） 自然の力をかりた住宅デザイン	（科目の内容、授業の進め方、評価基準等を説明する。） 古代より人間は自然と共生するためにさまざまな工夫をこらした。世界各地におけるそれらの住まいの事例を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
2	エコ技術と住宅デザイン-近代の住宅事例	新しい素材、技術、理論の進展に伴い、エコ技術を駆使した近代の住宅デザイン例を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
3	エコ技術と住宅デザイン-現代の住宅事例	自然の力をかりるといった古来の知恵を、最新の科学によって融合させた現代の住宅デザイン例を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
4	環境配慮型デザインプロセス	環境配慮型建築・設備設計のデザインプロセスと、住宅のパッシブ・アクティブ技術を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
5	住環境における換気	換気の考え方の歴史や法などの基準のはなしを基に、住宅における換気の重要性について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
6	健康で快適な生活とにおい対策	心身ともに健康に過ごすための、住宅内でのにおい問題やにおい対策の考え方について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
7	生活の中における香りの活用	屋内外の香りと人との関わりのはなしから、香りの人への心理生理的影響や香りの積極的な利用方法について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
8	いのちを守るあかりとサイン	大規模災害時に避難・誘導を助けるあかりやサインの存在を知り、その有用性とデザイン上の注意点を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
9	安全・快適な照明環境	照明環境のユニバーサルデザイン手法について、基礎的な知識と、最近の調査、デザイン事例を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
10	暮らしの中のさまざまな寸法	身近なモノの寸法がどの様に決められているかを知り、住まいや暮らしをより豊かにするデザインの視点を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
11	地域と景観	地域に居住・生活する人間と景観との関係を、日本の伝統的コミュニティ、景観保護の事例を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
12	野生動物との共存のデザイン	近年獣害が増加する獣害問題及び野生動物と人間が共存するための方策を，具体的事例を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
13	CG と空間デザイン	インテリアや住宅デザインで用いられる CG のしくみと基本知識、その有用性について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
14	かたちとデザイン	身の周りにある家具や住宅などのかたちをコンピュータを用いて表現する方法を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
15	解説 まとめテスト	まとめテストを実施する。	講義内容の復習をして、 まとめテストを受けること。

関連科目：なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	科学技術教養（Ｒ１）　住環境デザイン学科　教科書	摂南大学理工学部住環境デザイン学科	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			
評価方法 （基準）	毎回の課題 15%、まとめテスト 85%で評価する。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	12 号館　6・7 階　各教員研究室			
備考	事前・事後学習にかける学習時間は、授業外の課題やテストの学習時間も含め，毎回 1.5 時間程度とする．			

科目名	科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ｒ２）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩田　三千子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	日本の伝統的な住宅は、気候風土、地形、材料などに影響を受けて地方色が豊かであり、歴史的、文化的な相違からも地域性が認められる。現代の住まいや暮らしはそれらの影響を受けて、さまざまな技術の発達、社会の変化とともに、かつての住まいや暮らしの形は変容しつつある。このような身近な住まい、まち、暮らしについての知識を得て、今後の持続可能な社会の創造に関わる知識を学ぶ。
到達目標	到達目標：建築都市インテリアなどの空間における歴史的文化的背景による地域性を理解し、持続可能な社会を創造するためのまちづくりや住宅建築など、住環境の未来に向けたデザインの基礎を理解できる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題を毎回提出させる。講義を集中して聴く態度が求められる。 15 回目には、まとめテストを行うので、必ず出席すること。
科目学習の効果（資格）	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	（オリエンテーション） 住まいと生活	（科目の内容、授業の進め方、評価基準等を説明する。） 住まいと何か。家庭生活や社会生活が複雑に多様化する中での住まいの本来の機能や役割について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
2	日本の住まいの地域性	気候風土や歴史、文化などを背景に、地方色豊かな伝統的日本住宅について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
3	住環境とパッシブデザイン	住環境におけるパッシブデザインの変遷を建築家の作品を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
4	住環境と考現学	私たちの身の回りにある住環境を観察・記録することから新しい環境デザインをつくりだす方法を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
5	大規模災害時の避難生活環境	阪神淡路大震災・東日本大震災など大規模災害時の避難生活状況と支援活動を知ることから未来への備えを学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
6	様々な人に配慮した住宅・施設設備	ユニバーサルデザインの観点からの住宅設備や施設設備について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
7	高齢者のための生活空間	高齢者の外出行動、生活環境の広がりと、求められる支援の仕組みについて事例を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
8	高齢者の生活環境の広がりと支援	高齢者の心身機能の特性を踏まえて、高齢者をめぐる住宅行政や、様々な高齢者居住について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
9	学びと遊びの環境デザイン	発達段階にある子どもたちが多くの時間を過ごす学校の新しいデザイン事例を知り、人と空間との密接な関係を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
10	地球共生建築のすすめ	地球共生建築および構造、コンポーネントデザインについて学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
11	バイオミメティックデザイン	自然界における形態と構造とその応用デザインについて学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
12	次世代の住環境を考える	私たちの住環境はどのように進化すべきか、地球共生から宇宙共生についてを考える。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
13	省エネルギーとパッシブデザイン	住宅、オフィスビル等の先進のパッシブデザイン技術を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
14	省エネルギーとアクティブデザイン	住宅、オフィスビル等の先進のアクティブデザイン技術を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習と復習を十分に行う。
15	解説 まとめテスト	まとめテストを実施する。	講義内容の復習をして、 まとめテストを受けること。

関連科目	なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	科学技術教養（Ｒ２）　住環境デザイン学科　教科書	理工学部住環境デザイン学科	

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	毎回の課題 15%、まとめテスト 85%で評価する。 期末試験は行わない。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	12 号館　6・7 階　各教員研究室
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 事前・事後学習にかける学習時間は、授業外の課題や小テストの学習時間も含めて、毎回 1.5 時間程度とすること。

科目名	科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ａ１）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	宮本　征一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築学に関わる学問体系のおおよそについて紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。なお、本授業は建築学科専任教員全員で担当する。授業担当者は、建築の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供します。
到達目標	卒業してからの社会生活のための有用な科学技術に関する教養が身に付きこれからの社会を生き抜くことができるようになる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題・演習・小テストを毎回行う。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果（資格）	身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。

教養科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	建築とは何か	建築の考え方、 建築家の果たす役割	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
2	建築と人間生活	建築の種類と計画空間、 ライフスタイルからみた多様性、民族・地域からみた多様性	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
3	建築と都市環境	建築と都市の関係、 都市環境のデザイン	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
4	建築の歴史	建築の歴史的変遷から建築における多様な「技術」について学ぶ	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
5	建築物のかたちと力の流れ	目に見える建築と目に見えない力がどのように関係しているのかを理解する視点を養います。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
6	建築の内装	インテリア、 家具・内装	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
7	建築の外装・外構	外装材とは エクステリア、造園	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
8	建築のＵＤ	こどもと建築、 バリアフリー、ユニバーサルデザイン	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
9	建築の保存活用	建築と社会の結びつきについて、建築のストック活用事例、保存手法、コンバーションといった建築保存の視点から見る。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
10	建築の温熱環境	建築空間における温熱環境を理解する視点を培います。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
11	建築における設備	採光・照明・通風・熱環境・給排水・騒音・エネルギー、 エレベーター、エスカレーター	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
12	建築の骨組み	構造と力の流れ、構造材料の性能	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
13	建築の材料	構造と仕上げ材料	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
14	建築と防災	災害、避難、防災教育	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
15	建築をつくる新技術	構造、材料、施工の新技術	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう

関連科目：なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	計 15 回の課題（各回、課題レポート・講義メモ・小テスト・課題・グループワークディスカッションの成果により構成され、それぞれの割合の合計が１００%となる）により評価する。期末試験は行わない。
学生へのメッセージ	受講希望者数が定数を超えた場合は、成績などで選択順位を決めることがある。
担当者の研究室等	８号館３階
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部における出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 事前あるいは事後学習として、教科書（配布予定）の当該回の範囲を読み、関連する情報収集を行うなどし、授業１回あたり 1.5 時間以上をかける必要がある。

科目名	科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ａ２）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	宮本　征一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築の代表的な計画デザインや実施の事例、およびその手法について紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。なお、本授業は建築学科専任教員全員で担当する。授業担当者は、建築の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供します。
到達目標	卒業後の社会生活において必要な科学技術の教養を身に付けてこれからの社会を生き抜くことができるようになる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題・演習・小テストを毎回行う。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果（資格）	身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	住む建築	住宅、住むことの工夫	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
2	集まって住む建築	集まって住む楽しさ、集まって住むカタチ	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
3	福祉医療の建築	建築と福祉医療	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
4	公共の建築	公共の建築、パブリックスペース、公共性のある都市施設等に着目し、建築の公共性について考える。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
5	商業の建築	商業建築、商店街の歴史と再生	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
6	文化の建築	建築に象徴された様々な文化を読み取る。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
7	交通の建築	陸・海・空の交通 交通建築の特徴	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
8	高層の建築	五重塔と超高層、 超高層建築の性能と設計、耐震要素と構造技術	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
9	地下空間の建築	地下空間のメリット、地下空間の利用、大深度地下、地下都市	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
10	環境共生と建築	環境と共生する建築について考える。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
11	木造の建築	木匠、伝統技術と最新技術 木造建築、木材の使用	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
12	プレハブ建築	種類と概要、 プレハブ化の普及、設計と生産、 災害仮説住宅	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
13	建築とロボット	ロボット導入の経緯、 ロボット化の現状と技術、 今後のロボット	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
14	街並みの建築	ランドスケープと建築、 街並みと要素	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
15	将来の建築	空間条件と心理、ヒューマンスケール、 人はどこに住むか、 近代建築の問題、将来の建替	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう

関連科目：専門科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	計 15 回の課題（各回、課題レポート・講義メモ・小テスト・課題・グループワークディスカッションの成果により構成され、それぞれの割合の合計が１００%となる）により評価する。期末試験は行わない。
学生へのメッセージ	受講者希望者数が定数と超えた場合は、成績などで選択順位を決めることがある。
担当者の研究室等	８号館３階
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部における出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 事前あるいは事後学習として、教科書（配布予定）の当該回の範囲を読み、関連する情報収集を行うなどし、授業 1 回あたり 1.5 時間以上をかける必要がある。

科目名	科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ｍ１）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀江　昌朗
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

教養科目

授業概要・目的	機械工学は，ヒトが活動する上での効率化，合理化，さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問の体系である。本講義では，ヒトはなぜモノを作ろうとするのか，何を用いてモノを作ってきたのか，どのようにモノを作るのかに注目し，その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること，さらには産業の発展に役立ってきたさまざま機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	機械技術およびものづくり技術全般の基礎知識を身につけ，機械工学と社会・生活との関わりを理解できる。
授業方法と留意点	・各テーマごとにその歴史，基本原理，最先端の話題を２回もしくは３回にわたって提供する。 ・スライドを中心にビデオを用いた講義形式を取る。講義の終盤に講義内容のメモ（ノート）を提出するため，講義の内容をよく聞き，ノートにていねいにまとめていくことが大事。
科目学習の効果（資格）	世の中に存在する工業製品，人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て，知見を広めることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	機械工学とは？	・機械工学の発展の歴史を概観する。 ・「機械工学曼荼羅」を用いて，機械工学の役割，範囲，応用を紹介する。	テキスト第１章に目を通しておくこと。
2	道具を作る(1) － ヒトと道具	・道具の歴史：ヒトの手の動作を補う道具から労働としての道具へ ・農具 漁具 大工道具 手動工具 電動工具	テキスト第２章 2.1-2.3 に目を通しておくこと。
3	道具を作る(2) － 作り方	・鋳造，塑性加工，粉末冶金，材料加工，生産加工 ・刀鍛冶，セラミックス，溶接・切断	テキスト第２章 2.4-2.5 に目を通しておくこと。
4	モノの材料を知る(1) － 金属材料	・金属材料はなぜ素材たり得るか？ ・鉄鋼の製造方法	テキスト第３章（鉄つくりの変遷）に目を通しておくこと。
5	モノの材料を知る(2) － セラミックス・ポリマー	・セラミックス・ポリマーの構造（金属と何が異なるか？） ・高強度・機能性材料の話	テキスト第４章（非金属材料）に目を通しておくこと。
6	モノの材料を知る(3) － 新素材	・新素材と高度産業化社会 ・形状記憶，超伝導，ナノ材料	テキスト第５章（新素材）に目を通しておくこと。
7	ものづくり(1) － 母なる機械	・機械部品を作る機械（工作機械の歴史） ・機械時計，工具と運動，機械部品	テキスト第６章（母なる機械）に目を通しておくこと。
8	ものづくり(2) － 精密に加工する	・精度を追求する（コンピュータと工作機械） ・精密加工，マシニングセル，ナノ加工	テキスト第７章（精密に加工する）に目を通しておくこと。
9	ものづくり(3) － 工場（ファクトリー）	・世界が学ぶ・日本が誇る製造システム ・無人化工場，デジタル屋台，トヨタ生産方式	テキスト第８章（ファクトリー）に目を通しておくこと。
10	大きな力を得る(1) － 車輪	・作業を補助する機械の歴史 ・車輪，滑車，てこ，歯車	テキスト第９章（人間の作業を補助する機械）に目を通しておくこと。
11	大きな力を得る(2) － 建設運搬機械	・巨大な力を得るためのアクチュエータ ・油圧・水圧・空気圧機器，電動機	テキスト第 10 章（力を伝える・増幅する機械）に目を通しておくこと。
12	大きな力を得る(3) － パワーアシスト	・アクチュエータの知能化とパワーアシスト ・パワードスーツ，電動アシスト自転車，人工筋肉	テキスト第 11 章（機械の知能化）に目を通しておくこと。
13	ミクロの機械(1) － 精密機械	・小さくなることで変わる使い方 ・時計，携帯電話，計算機，テレビカメラ，情報機器	テキスト第 12 章（精密機械）に目を通しておくこと。
14	ミクロの機械(2) － 小さく作る	・小さくすることで変わる物理の法則，加工法・アクチュエータ ・微細加工，ナノテク，半導体製造，カーボンナノチューブ，微細気泡	テキスト第 13 章（小さくつくる）に目を通しておくこと。
15	ミクロの機械(3) － 小さくて広大な世界	・半導体製造技術を用いた微細構造を持つ機械 ・カプセル内視鏡，鞭毛モーター	テキスト第 14 章（小さくて広大な世界）に目を通しておくこと。

関連科目：産業技術史

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	科学技術教養Ｍ１		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回，講義メモとレポートを提出する。 講義全体にわたるメモ（50%），講義内容に対する理解と考察に関するレポート（50%）で評価する。
学生へのメッセージ	機械工学が関わる製品や技術を，大きなスケールで幅広く知ることができます。また，道具はどうやって進化してきたのか？ 日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか？ 近未来にどういう乗り物が実現されているか？等々，工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本

	講義を受講し，就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。
担当者の 研究室等	担当教員の居室〔1 号館の 3 階・4 階・5 階〕
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、次のルールを原則とする。 ・出席率 80%以上を成績評価の対象とする。 ・30 分以上の遅刻は欠席扱いとする。 ・遅刻は 2 回で欠席 1 回とみなす。 ※詳細は、初回に配布する『M科開講「科学技術教養 M1・M2」受講の際の注意』を熟読すること。 フィードバック：講義メモ・レポートは翌週に返却します。

科目名	科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ｍ２）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	諏訪　晴彦
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

教養科目

授業概要・目的	機械工学は，ヒトが活動する上での効率化，合理化，さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問体系である。本講義では，ヒトはなぜモノを作ろうとするのか，何を用いてモノを作ってきたのか，どのようにモノを作るのかに注目し，その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること，さらには産業の発展に役立ってきたさまざま機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	人の活動に貢献し生活を豊かにする機械技術を理解するとともに，機械システムと社会や経済活動，生活・生命との関わりを理解する.
授業方法と留意点	・各テーマごとに，歴史，基本原理，最先端の話題を２回もしくは３回にわたって提供する。 ・スライドを中心にビデオを用いた講義形式を取る。講義の終盤に講義内容のメモ（ノート）を提出するため，講義の内容をよく聞き，ノートにていねいにまとめていくことが大事。
科目学習の効果（資格）	世の中に存在する工業製品，人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て，知見を広めることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	機械工学とは？	・機械工学の発展の歴史を概観する。 ・「機械工学曼荼羅」を用いて，機械工学の役割，範囲，応用を紹介する。	テキスト第１章（機械工学とは）に目を通しておくこと（60 分）
2	活動の源(1) – 動力・エネルギーの世界	・身近なエネルギー利用と動力の歴史 ・人力，蓄力，水力，風力，蒸気力	テキスト第２章（動力）に目を通しておくこと（60 分）
3	活動の源(2) – 発電	・エネルギー利用と発電 ・水力，風力，火力，地熱，原子力発電	テキスト第３章（電力）に目を通しておくこと（60 分）
4	乗り物(1) – エンジン	・熱工学とエンジンシステム ・種々のエンジン（ガソリン等），電気モータ	テキスト第４章（エンジン）に目を通しておくこと（60 分）
5	乗り物(2) – 輸送する	・交通と物流 ・自動車交通，船舶，鉄道	テキスト第５章（輸送する）に目を通しておくこと（60 分）
6	空間を移動する(1) – 空を飛ぶ	・空中を飛ぶことができる機械の機能，種類，歴史と原理 ・飛行機，ヘリコプター，飛行船，揚力	テキスト第６章（空を飛ぶ）に目を通しておくこと（60 分）
7	空間を移動する(2) – 高速移動	・深海に潜ることができる機械の機能，種類，歴史と原理 ・しんかい 6500，深海探査，水圧，チタン合金，生命維持システム	テキスト第７章（深海に潜る）に目を通しておくこと（60 分）
8	空間を移動する(3) – 宇宙へ飛び立つ	・宇宙空間に飛んでいける機械の機能，種類，歴史と原理 ・ロケット，スペースシャトル，宇宙ステーション，高真空，ロケットエンジン	テキスト第８章（宇宙へ飛び立つ）に目を通しておくこと（60 分）
9	物を測る	・測り方を共通にすることで広がる世界 ・度量衡と政治の関係，原器，ものさし，機械的測定	テキスト第９章（物を測る）に目を通しておくこと（60 分）
10	センサで測る	・センサの発達と誤差との戦い ・センサ，センシング技術，計測と誤差	テキスト第 10 章（センサで測る）に目を通しておくこと（60 分）
11	制御する	・制御の成り立ちと発展，自動制御とは？ ・調速機，結果を見て制御する（フィードバック）	テキスト第 11 章（制御するとは？）に目を通しておくこと（60 分）
12	操る・抑える	・サーボ機構とプロセス制御 ・ロボットアーム，ロケット，原子力発電，鉄鋼プラント	テキスト第 12 章（操る・抑える）に目を通しておくこと（60 分）
13	生命･生体に倣う機械(1) バイオエンジニアリング	・バイオエンジニアリング，生体工学の世界 ・生体の模倣と設計，鳥と飛行機，ハコフグと低燃費自動車，サソリと多足ロボット	テキスト第 13 章（バイオエンジニアリング）に目を通しておくこと（60 分）
14	生命・生体に倣う機械(2) – 医療と健康	・人間を援ける医用工学，人間を癒す福祉工学の世界 ・人工臓器，福祉機器，健康機器，スポーツ機器	テキスト第 14 章（医療と健康）に目を通しておくこと（60 分）
15	生命・生体に倣う機械(3) – ヒューマノイド	・人間を測る，診る，まねる世界 ・生体計測，生体力学，医用診断装置，ヒューマノイドロボット	テキスト第 15 章（ヒューマノイド）に目を通しておくこと（60 分）

関連科目：産業技術史

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	毎回，講義メモとレポートを提出する。 講義全体にわたるメモ（50%），講義内容に対する理解と考察を問うレポート（50%）で評価する。
学生への メッセージ	機械工学が関わる製品や技術を，大きなスケールで幅広く知ることができます。また，道具はどうやって進化してきたのか？ 日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか？ 近未来にどういう乗り物が実現されているか？等々，工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し，就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。
担当者の 研究室等	担当教員の居室〔1 号館の 3 階・4 階・5 階〕
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、次のルールを原則とする。 ・出席率 80%以上を成績評価の対象とする。 ・30 分以上の遅刻は欠席扱いとする。 ・遅刻は 2 回で欠席 1 回とみなす。 ※ 詳細は、初回に配布する『M科開講「科学技術教養 M1・M2」受講の際の注意』を熟読すること。 フィードバック：講義メモ・レポートは翌週に返却する。

科目名	科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ｅ１）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	片田　喜章
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の簡単な基礎理論を紹介しながら、身の回りにある電気製品を題材として電気電子工学から通信情報分野までの多岐にわたる応用技術を学習させることを目的とする。
到達目標	電気を作る電池の話や電気を力に変えるモータ、半導体や太陽電池の構造、携帯電話やパソコン、インターネットのしくみまで、電気を使った最新技術がどの様なしくみで暮らしの中で活用されているかを理解できることを到達目標とする。
授業方法と留意点	電気電子工学科の教員が各授業テーマを順番に担当する。 授業はスライドを用いて行う。 授業中にメモを取らせて授業後に回収する。次回授業時にメモを返却する。 授業の最後に小テストを行う。 講義は１話完結であるが、相互につながりがある。電気を用いた科学技術の全体像を理解するように努めよう。
科目学習の効果（資格）	計測装置・電気設備など電気工学以外の分野でも電気を使った機器はいたるところで使われている。 これらの原理や特性を知ることで、その性能をフルに引き出すことができる。 また，身近な電気製品のしくみを知ることで、より有効活用することができる。 国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	電気の歴史と電気回路の基礎	科学技術教養の意義 電磁気学の歴史、電気回路の基礎、 抵抗と電気エネルギーの利用、消費電力、交流と直流	電気に関するニュースに注意する。１時間
2	電池の構造と応用技術	交流と直流、電池の種類と電圧発生原理、 １次電池と２次電池	テキストを復習する。１時間
3	モータのしくみと応用	磁石と力、電磁石、 直流モータと交流モータ	テキストを復習する。１時間
4	半導体のお話	半導体とは何か、ｐ形とｎ形、 大規模集積回路、LED 照明とは	テキストを復習する。１時間
5	太陽電池の構造と家庭での利用	半導体で光エネルギーを電気に変換する。 売電のしくみ。	テキストを復習する。１時間
6	様々な電子回路	電子回路の歴史、 真空管と半導体・集積回路、 代表的なアナログ電子回路	テキストを復習する。１時間
7	電波応用技術の変遷	電波と光、マクスウェル理論とヘルツの実験 変調方式、ラジオとテレビ	テキストを復習する。１時間
8	モールス通信から携帯電話へ	モールス電信からベルの電話へ、 電話機と交換機のしくみ、アナログからディジタルへ、 携帯電話とネットワークのしくみ	テキストを復習する。１時間
9	アナログからデジタルへ	アナログとデジタル、２進数とは、論理回路入門	テキストを復習する。１時間
10	パソコン・スマートフォンの内部構造	構成要素と機能、ハードウェアの構成、 ソフトウェアの役割、パソコン・スマートフォンの進化	テキストを復習する。１時間
11	マイコンで制御される家電製品	電気制御の重要性、温度制御、圧力制御 電子レンジやＩＨのしくみ	テキストを復習する。１時間
12	音響機器のしくみ	マイクとスピーカ、録音技術の歴史 ＣＤのしくみ、アナログ録音とデジタル録音、人工音の合成	テキストを復習する。１時間
13	画像表示のしくみ	画像表示の歴史と原理、各種表示デバイスのしくみ、 立体映像表示の原理と実例	テキストを復習する。１時間
14	インターネットのつなぎ方	インターネットのしくみ、ルータとハブ 無線ＬＡＮ、ネットワークセキュリティ	テキストを復習する。１時間
15	医療分野への貢献	ガルバノの実験、義手の制御 電気工学の医療への応用	テキストを復習する。１時間

関連科目：特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	テキストを配付する		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）：受講メモ 50%、小テスト 50%の総合点で評価する。

学生への メッセージ	身の回りの電気製品は日々進化しています。これらを便利な道具としてブラックボックス的に使うのではなく、そのしくみを知って使うことでさらに活用することができます。そういったしくみに興味を持って受講して下さい。
担当者の 研究室等	１号館４階・５階の電気電子工学教員室 責任者： 片田（１号館４階）
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは，理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 原則として出席率 80%以上を成績評価の対象とする。 就職活動中の４年生はとくに注意すること。 受講メモは翌週に返却し、小テストの結果は個別に通知する。

科目名	科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ｅ２）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	片田　喜章
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の歴史と簡単な基礎理論を説明した後、電気を発生する発電のしくみとその方法を手始めに、現代社会において応用されている電気電子工学、通信情報工学の最新科学技術について講述する。
到達目標	電車のしくみや放送技術、携帯電話やレーザー光線の原理、最新のナノテクノロジーやロボット工学、また宇宙規模の電気の話などもあり、最終的には電気を使った科学技術がどの様なしくみで我々の暮らしに関わっているかを理解できることを到達目標とする。
授業方法と留意点	電気電子工学科の教員が各授業テーマを順番に担当する。 授業はスライドを用いて行う。 授業中にメモを取らせて授業後に回収する。次回授業時にメモを返却する。 授業の最後に小テストを行う。 講義は１話完結であるが、相互につながりがある。電気を用いた科学技術の全体像を理解するように努めよう。
科目学習の効果（資格）	現代社会を支えている電気エネルギーとその応用について総合的に学ぶことにより、電気への理解を深め、これにより原子力発電も含めた電力供給系と節電に対する正しい考え方を身につけることができる。 また、携帯電話やスマートフォンでどこでも通信ができる社会のしくみ等も知ることができる。 国家資格で電気の基礎の出題がある場合には，その基礎勉強にもなる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	電気の歴史	科学技術教養の意義 磁石の利用、クーロンの法則、アンペールの法則、ファラデーの電磁誘導、マクスウェル理論と電磁波の予言	電気に関するニュースに注意する。１時間
2	発電の原理と発電所	電気エネルギーを発生させるしくみ、発電機、水力、火力 交流発生か直流か、50Hz と 60Hz	テキストを復習する。１時間
3	原子力発電	核エネルギーの発生、原子力発電のしくみ、事故と防災対策、 放射線の性質と測定	テキストを復習する。１時間
4	再生可能エネルギー	太陽光発電、風力発電 地熱発電、海洋エネルギー、宇宙発電、エネルギー効率	テキストを復習する。１時間
5	送電・配電	電気を安定に送る、交流送電か直流送電、周波数変換 送電電圧と家庭電圧への変換、スマートグリッド	テキストを復習する。１時間
6	モータのしくみと電車	磁石と電流による力の発生、モータのしくみ 電車、リニア新幹線、電気ブレーキと電力回生	テキストを復習する。１時間
7	電波と放送	電波の利用と電波法、ラジオ放送、テレビ放送、衛星放送、放送の進化	テキストを復習する。１時間
8	携帯電話のしくみ	固定電話から携帯電話へ、セルラーシステム、携帯電話のつながるしくみ、音声通信からデータ通信へ、携帯電話の進化	テキストを復習する。１時間
9	私たちの生活をささえる電気照明	エジソンによる電灯の発明、蛍光灯のしくみ、青色ＬＥＤの発明、ＬＥＤ照明	テキストを復習する。１時間
10	レーザーの発明	物質からの光放射、線スペクトルと誘導放射 メーザーからレーザーへ、レーザーの特徴	テキストを復習する。１時間
11	光デバイス	さまざまな光デバイスの原理と応用など	テキストを復習する。１時間
12	進化するナノテクノロジー	半導体の動作原理、半導体集積回路の構造、 集積回路技術の歴史と現状、 スマートフォンからウェアラブル計算機へ、今後の発展	テキストを復習する。１時間
13	プログラマブル高速計算機の発達	チューリング機械、手回し計算機と計算尺、最初の電算機 ENIAC 弾道ミサイルの計算、金融計算から天気予報まで	テキストを復習する。１時間
14	ロボット工学	ロボット工学の過去・現在・未来を解説	テキストを復習する。１時間
15	電気と宇宙	第４の状態ープラズマ、放電の原理と応用、雷の発生原理、 太陽プラズマと黒点の関係、オーロラの発光メカニズム	テキストを復習する。１時間

関連科目：特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	テキストを配付する		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	受講メモ 50%、小テスト 50%の総合点で評価する。
学生への メッセージ	我々の暮らしに電気は不可欠です。しかも原子力発電の問題が出てきて、エネルギー問題への関心は節電対策も含め高まっていると思います。しかし、単純に噂などを鵜呑みにするのではなく、電気の発生から伝達までのしくみを詳しく知れば、風評に惑わされることなく、対策を考えることができます。常に様々な電気関連のニュースに注意を払いながら受講して下さい。
担当者の 研究室等	１号館４階・５階電気電子工学科教員室 責任者： 片田（１号館４階）
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 原則として出席率 80%以上を成績評価の対象とする。 就職活動中の４年生はとくに注意すること。 受講メモは翌週に返却し、小テストの結果は個別に通知する。

科目名	科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ｃ１）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤　譲
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

教養科目

授業概要・目的	授業の目的は，受講者に私たちの生活を支える土木技術に対する興味を持つとともに技術の基本原理を知ってもらうことである．第１回目の授業では，身の回りの土木技術の例を取り上げ，それらが技術者によってどのように守られているのかを説明する．第 2・3 回目は現在にまでつながる国土開発の歴史をそれに従事した人々にも注目して講義する．第 4～7 回は「土木」の由来となる基本的な材料，第 8～11 回は設計方法，第 12～15 回は計画と環境問題について講義する．
到達目標	土木技術全般の基礎知識を有し，土木技術と社会や経済活動，生活との関りを理解できる．
授業方法と留意点	・基本的にパワーポイントを用いた講義形式．授業中はメモを取らせ授業終了時もしくは終了後に提出する． ・歴史と人物と基本原理をセットとして取り扱う．第４回以降は材料や設計の基本原理を扱う．基本的に古くからの基礎的な技術と現在の技術をセットで取り扱う． ・講義だけではイメージを伝えることが困難な場合には，サンプルや簡単な実験を併用する．
科目学習の効果（資格）	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設に関する基礎的な知識が得られ，安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	私たちの日常生活と土木技術	私たちの身の回りの土木技術：・鉄道・道路網，上下水道，エネルギー施設，防災施設，憩い．・私たちの生活にどう関わっているのか？・技術を支える人たち（建設会社，設計コンサルタント，公務員，メーカー・・・）	配布資料講義部分の予習と復習
2	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか①	国土建設の歴史 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦，敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
3	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか②	国土建設を行った人々 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦，敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
4	都市をつくる材料の話① -土木技術は土から始まった-	最も古い材料，土と人類，土と木 締固めて使う，事例１(古くからの技術)，事例２（近代以降の技術）	配布資料講義部分の予習と復習
5	都市をつくる材料の話② -セメントコンクリートの発明-	セメントの発見・発明 耐久性，品質管理	配布資料講義部分の予習と復習
6	都市をつくる材料の話③ -鋼は文明を支える-	産業革命による鉄利用の拡大 鋼構造	配布資料講義部分の予習と復習
7	都市をつくる材料の話④ -循環型社会と土木材料-	新材料，リサイクル材料 産業廃棄物の利用	配布資料講義部分の予習と復習
8	国土を測る技術	広い国土をどうやって測るのか． 歩測から GPS まで，原理，応用	配布資料講義部分の予習と復習
9	都市の造り方① -橋を設計する-	橋はなぜ必要か？橋はどうやって重力に抵抗しているのか． 構造力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
10	都市の造り方② -川を設計する-	治水は国を治める．水と波の力を計算する．川，ダムと港の設計へ． 水理学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
11	都市の造り方③ -地盤とトンネルを設計する-	都市を支える地盤の役割，地下空間． 地盤力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
12	安全で安心な都市へ① -未来の都市を計画する-	都市地域計画 （計画学の基礎）	配布資料講義部分の予習と復習
13	安全で安心な都市へ② -命の水を守る-	衛生工学 （上下水道学の基礎）	配布資料講義部分の予習と復習
14	安全で安心な都市へ③ -持続可能な都市を-	地球規模環境問題，循環型社会 （環境工学）	配布資料講義部分の予習と復習
15	安全で安心な都市へ④ -都市の生命線-	ライフラインと防災	配布資料講義部分の予習と復習

関連科目	特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	配布資料：科学技術教養　C1	都市環境工学科全教員	

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特になし		

評価方法（基準）	受講メモ 50%，レポート 50%の総合点で評価する．※レポートは，授業のまとめとして毎回提出すること．期末試験は行わない．
学生へのメッセージ	豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります．この講義を通じて，自然災害の防災・減災や産業・経済活動支える社会基盤施設に関する基礎知識を身につけていただければ幸いです．
担当者の研究室等	講義担当者居室　１号館３階および４階
備考	事前・事後学習にかける学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含めは，毎回１時間程度としてください．

科目名	科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ｃ２）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊藤　譲
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	概要：いくつかのプロジェクトを例に，建設事業の流れに沿って，社会的な位置づけ，市民生活との関わりを解説する．第１回目の授業では，事業主体別にプロジェクトの流れを説明する．第 2～3 回目は，高速道路建設を例に地形の調査・土質の調査，環境の調査を解説する．第 4～7 回は高速道路を構成する橋，トンネル，道路の設計と施工の考え方を解説する．第 8～15 回は，安全で潤いのある社会を築く観点からダム・堰，堤防，浸水対策，ライフライン，公園・まちづくり，地震防災など身近なテーマを概説する．
到達目標	土木構造物の計画から施工管理までの流れの概要を理解し土木構造物と社会や経済活動，生活との関りを理解できる．
授業方法と留意点	授業はパワーポイントを用いた講義形式とする．私たちの生活を支える社会基盤がどのようにして計画され，設計・施工されているかを事業の流れに沿って解説する．代表的な構造物や身近なテーマを取り上げ，安全で安心な社会を築くため，何が重要かを理解できるように講義を進める．
科目学習の効果（資格）	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設がどのように計画設計され施工されているかなどの知識が得られ，安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	社会基盤をつくる建設事業の流れ	国家プロジェクト，地域プロジェクト，民間主導プロジェクトなど事業主体別の建設の流れ，計画（意思決定）～調査～設計～施工の概要	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
2	高速道路建設の計画・調査・設計	国土開発や都市計画・地域計画との関連，一般道路や鉄道との関連，需要予測，予算，資本回収の考え方	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
3	建設に必要な調査①（地形の調査・土質の調査）	測量計測技術（地形測量・平板測量・水準測量・写真測量・GPS 測量），地盤の調査	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
4	建設に必要な調査②（環境の調査）	生態系・環境への影響，負荷の軽減策、排ガス規制と大気汚染など環境アセスメント	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
5	橋の設計と施工	コンクリート橋と鋼橋，橋の形式と適用支間長，景観設計，施工法	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
6	トンネル，半地下開削工法	山岳トンネル・都市地下トンネルの設計と施工，地山の強度と工法，半地下開削工法	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
7	道路の設計と施工	盛土形式と高架形式，道路の構造，道路舗装	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
8	ダム・堰の計画と施工	洪水への備え（治水、防災），発電・灌漑・上水などの多目的ダム，ダムの構造と種類	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
9	堰・堤防の計画と設計・施工	洪水・土砂災害への備え（治山・治水、防災），計画雨量，遊水池，親水施設	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
10	都市型洪水への備え	透水性舗装，都市大型地下貯槽，屋上緑化，排水と下水道設計，地下道・地下鉄の浸水対策	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
11	市民の日常生活を支えるライフライン	上下水道，水質管理，水質浄化，下水処理，電気，通信設備	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
12	市民の生活に潤いを与える公園・まちづくり	まちづくりとは，実現するものは，人とのかかわり，技術とのかかわり	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
13	市民の生活環境を守る	地球環境と生態系，人口増加と都市化・食糧生産，・自然エネルギーの問題点，火力発電所と大気汚染・温暖化，原子力発電と放射能問題，温排水問題	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
14	震災から市民を守る	地震の種類と特性，地震に備える構造とは？制震構造と免震構造，ライフラインの耐震，避難体制，緊急地震速報	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
15	津波や台風・高潮から市民を守る	港湾施設・防波堤，津波，避難施設，避難誘導	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．

関連科目：特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	配布資料：科学技術教養　C2	都市環境工学科全教員	
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特になし		
2			

評価方法（基準）	受講メモ 50%，レポート・小論文 50%の総合点で評価する．※レポート・小論文は，授業のまとめとして毎回あるいは 2～3 回に一回程度実施する予定．期末試験は行わない．
学生へのメッセージ	豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります．この講義を通じて，自然災害の防災・減災や産業・経済活動支える社会基盤施設がどのように計画設計され施工されているか知り理解を深めていただければ幸いです．
担当者の研究室等	講義担当者居室　１号館３階および４階
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは，理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする． 事前・事後学習にかける学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め，毎回１時間程度としてください．

科目名	科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ｔ１）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	東　武大
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「情念や宗教」においては，時代を超えて人々に事物を伝えるために，「すごくたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を発明したことで，誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し，人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では，科学技術を支える数学や物理学の内容を，時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。数や形状を正確に記述するためのさまざまな手法を概観し，それが最新技術にどのように用いられているかを知る。
到達目標	科学の歴史的な流れを，基礎的事項を踏まえながら説明できる。 科学という学問の背景にある考え方について，各自が意見を持つことができる。
授業方法と留意点	初回に配布するテキスト及び毎回の配布プリントを用いる。各回の最後には講義メモを提出すること。
科目学習の効果（資格）	数学・物理の発展に関する幅広い知識を得て知見を広めることができる。
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	人類にとっての数(1)	太古の昔、物を数えるための道具として「自然数」は生まれた。やがて「自然数」から「分数」へと数の世界は広がっていったが、どのような経緯を経たのか？人類の歴史と共に探る。	教科書 1 章の予習復習(1 時間)
2	人類にとっての数(2)	「小数」、「無理数」、「ゼロの数」、「負の数」と数の世界は更に広がっていった。これらの歴史を当時の文化や考え方を交えながら紹介する。	教科書 1 章の予習復習(1 時間)
3	人類にとっての数(3)	更に「実数」から「虚数」、「複素数」へと広がった数の世界。ガウス平面、オイラーの公式など「複素数」に関する先人たちの功績。また「複素数」の登場によって発展した科学について紹介する。	教科書 1 章の予習復習、レポート課題(1 時間)
4	三角形から始める幾何学	ピタゴラスの定理や三角形の合同と相似、三角比について振り返ることから始め、それらを用いて、私達の身の回りのものを測ってみる。	教科書 2 章の予習復習(1 時間)
5	平行線の公理	高校までの幾何では扱われていない平行線の公理について、その内容と意義を紹介し、平面とは異なる世界はどのようなものか、想像してみる。	教科書 2 章の予習復習(1 時間)
6	身近にある曲面	平行線の公理を検討することにより現れてきた、平面とは異なる曲面は結構身近にある。そのような曲面を通して、曲がっている世界を体験してもらう。	教科書 2 章の予習復習、レポート課題(1 時間)
7	波の数理 (音と光の基礎)	身近な「波」を表現するために、「振幅」、「波長」、「位相」という新たな概念を導入し、波の現象について紹介する。さらに、波の性質をもつ音波と光についても概観する。	教科書 3,4 章の予習復習(1 時間)
8	波としての光	光は粒子の性質と波の性質をあわせ持つ。しかし、この認識は科学者達の長年の研究と論争を経て得られたものである。本講では光が波であることの根拠を示す。そして写真やホログラフィーなどの、波の性質を利用した光の記録方法について述べる。	教科書 3,4 章の予習復習(1 時間)
9	電磁波	光は波である．弦を伝わる波は，弦の振れが大きいところと小さいところが繰り返し現れて波になっている．光が波ならば，いったい何の振動なのだろうか．マックスウェルは理論的に電磁波という波の存在を予言し、さらに光が電磁波の一種であることをつきとめた。本講では電磁波、そして光の正体について述べる。	教科書 3,4 章の予習復習(1 時間)
10	レーザー光	光を発するもの（光源）には様々なのがある。太陽は最も明るい光源である。人口の光源としては、電球、蛍光灯がある。近年では省エネルギーな発光ダイオード（LED）が急速に普及している。本講では人が創りだした「最も高機能な光」を発生するレーザーについて、発振の原理及び応用について述べる。	教科書 3,4 章の予習復習、レポート課題(1 時間)
11	X 線の発見から利用	X 線の発見から発生の原理、さらに X 線の利用について概観する。医療機器としてよく知られているレントゲンや X 線 CT がなぜ体内を見透かすことができるのかなどについても説明する。また、X 線の欠点と安全性についても簡単に紹	教科書 3,4 章の予習復習(1 時間)

		介する。	
12	放射光と未来の光	科学技術の発展によりシンクロトロン放射光という次世代の光を生み出した。放射光の発生原理と科学等への利用を紹介する。さらに、近年の利用されてきている次世代の放射光である自由電子レーザーの特性についても簡単に紹介する。	教科書 3,4 章の予習復習、レポート課題(1 時間)
13	コペルニクス以前の天動説	惑星の運動の法則を考えるうえで、コペルニクス以前の天動説に ついて概観する。	教科書 5 章の予習復習(1 時間)
14	コペルニクスの地動説	天動説から地動説へ、惑星運行の法則、実験で物理法則を実証す る近代自然科学の萌芽を考える。	教科書 5 章の予習復習(1 時間)
15	ガリレオの天文学	望遠鏡を発明した技術が自然観察である天体観測を精密化し宇宙 を理解したい知的好奇心が科学革命を導く過程を考える。	教科書 5 章の予習復習、レポート課題(1 時間)

関連科目	数学・物理の全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	科学技術教養 T1	基礎理工学機構	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	講義メモ 50%、レポート 50%の総合点で評価する。
学生への メッセージ	科学は現代社会で不可欠な学問の一つです。周囲を見渡せば、皆さんの生活が科学抜きには成立しないことがわかるでしょう。科学は近代になって急速に発展しましたが、古くから人々が自然現象や数に興味を持って考察を進めたことが基礎になっています。本講義で科学の歴史や重大な発見・発明の概要を学び、科学という学問をどう考えるか、さらに、これから科学や人間の活動はどう進んでいくべきか、各自で意見を持てるようになりましょう。
担当者の 研究室等	担当教員の居室〔1 号館 2 階，3 号館 3 階，8 号館 2 階〕
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。事前事後学習は、毎回 1 時間以上かけること。講義メモは毎回採点して返却する。

科目名	科学技術教養Ⅰ～Ⅳ（Ｔ２）	科目名（英文）	Scientific and Technological Literacy Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島田　伸一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「情念や宗教」においては，時代を超えて人々に事物を伝えるために，「すごくたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。 「科学」によって数や式を発明したことで，誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し，人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では，科学技術を支える数学や物理学の内容を，時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。
到達目標	時間や位置とともに変化する量をどのように表すのか，そして，その変化の割合がいったい何を意味し，現代科学につながっていくのかを，歴史的背景も込めて，知る。
授業方法と留意点	座学・説明中心の講義となるので，遅刻・私語は厳禁である。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	微積分学が成立するまでの話	ニュートンとライプニッツという２つ異なる個性が微積分学の成立にどう影響したか，その歴史を概観する。	課題・レポート
2	文字式から単位のない実数の世界へ	微積分の厳密化の過程で，記号法・単位の問題から実数概念をどう獲得していったか振り返る。	課題・レポート
3	ヒルベルトのテーゼ:無矛盾ならば存在する	微積分学が挑んだ無限を無矛盾・選択公理をキーワードにして述べる。	課題・レポート
4	現代科学は力（ちから）F から始まった	ニュートンの運動の法則 F=ma は，なんだか良くわからない力Ｆを使って，なんだか良くわからない質量ｍを定めた。どちらもわかっていないのに，大丈夫なのだろうか。	課題・レポート
5	万有引力の法則の美しいスケール不変性は偶然か	ニュートンが発見した「万有引力の法則」は，巨大なサイズをもった惑星の運動から導き出されたにもかかわらず，人工衛星や，飛行機，果ては雨粒にまで適用できることが分かった。これは，自然科学において貴重な「スケール不変性」をもつといい，人類の科学の発展にとって，計り知れないほど幸運であった。	課題・レポート
6	破壊力，衝撃力はどちらも同じ意味か	物体がもつ「運動の勢い」を考えると，２つの新しい概念が生まれた。一つを運動量といい，他方をエネルギーという。どちらの量が「運動の勢い」を正しく表している尺度なのか人々は５０年間議論した。その結論はどうだったのか。	課題・レポート
7	蒸気機関と熱力学の誕生(1)	18 世紀イギリス産業革命と熱機関。蒸気機関の改良・熱効率・熱素説。	課題・レポート
8	蒸気機関と熱力学の誕生(2)	カルノー登場。カルノーサイクルとそれを用いる思考実験。カルノーの定理の発見。	課題・レポート
9	蒸気機関と熱力学の誕生(3)	カルノーからケルビン，そしてクラウジウスに至る道。エネルギー保存則(熱力学第一法則)v.s.不可逆性。熱力学第二法則とその表現。熱力学的エントロピー。	課題・レポート
10	角の３等分について(1)	歴史的背景，方程式と結びつける，ユークリッド作図，作図できる数・できない数	課題・レポート
11	角の３等分について(2)	60 度は３等分できない，体の考え方	課題・レポート
12	角の３等分について(3)	体の拡大と作図できる数，定理の証明	課題・レポート
13	ニュートンからアインシュタインへ	慣性系、ガリレイ変換、マイケルソン・モーレーの実験等々アインシュタイン登場前に何が謎だったのかを説明する。	課題・レポート
14	特殊相対論--- 原理はたったの２つだけ	２つの基本的な原理を出発点にして、従来の時間や空間に対する考え方がどのように変更されたのか、高校レベルの数学を使って解説する。	課題・レポート
15	一般相対論 ---重力の謎	ニュートンの万有引力の法則はアインシュタインの相対論ではどのように記述されるのか？	課題・レポート

関連科目	数学・物理の全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	科学技術教養 T2		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	講義メモ 50%，レポート 50%で評価する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。

科目名	株式投資と企業家育成	科目名（英文）	Investment & Entrepreneurship
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林　正浩
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：IT01428a2～IT01432a2,L 科：LT01422a2～LT01426a2,D 科・S 科：IT01428a2～IT01432a2,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

教養科目

授業概要・目的	『「投資」とは何か』、個人投資に必要な基本的な金融・経済知識と投資手法ににについて学び、シミュレーションによる資産運用演習を体験します。更に、投資対象として注目度が高い新興企業（ベンチャー企業）について、新規事業の着想から，ビジネスモデルの構築，そして実際の起業に至るまでの諸課題や起業の実際，事業の維持・継続と発展に不可欠な諸要素について学びます。 【担当教員実務経歴】 ①ベンチャー投資財団（企業投資業務担当） ②監査法人（株式上場コンサルティング担当）
到達目標	将来、就職してからの確定拠出型年金制度への対応として、各種投資金融商品の特徴と運用リスク、リターンに対する税務処理を習得し、個人投資家の育成を目指します。 また、将来の選択肢として自身のアイデアをビジネスに転換するための知恵を習得する起業家育成を目指します。
授業方法と留意点	毎回、当該授業内容に関するキーワードを記載した「講義メモ」と付属資料を配付します。 「講義メモ」のキーワードについては、授業後の復習として活用してください。 またスライドで説明した内容について、自身で「講義メモ」に必要な点のみを記載する、効率的で効果的なノートの取り方を身に付けてください（板書の習慣を変えてください）。 毎回、講義内容に関する質問（アンケート表）を配布します。講義終了時に提出してもらいます。
科目学習の効果（資格）	自身の将来に向けた資産形成に必要な基本的ノウハウの習得 学生時代に自身のアイデアをビジネスに活かす挑戦意欲の醸成と将来の就くべき職業の選択肢を増やす（視野を拡げる）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講座ガイダンス 個人投資とは？ 起業家とは？	講座ガイダンス（勉強方法・評価方法） 投資を学ぶ理由（確定拠出型年金制度への対応、老後の資金需要への対応） 起業家教育を受ける理由	＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
2	経済、財政の基本知識と投資との関係	投資のために必要とされる消費生活における経済動向 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
3	家計と国の財政動向による投資環境への影響	雇用と所得、財政の役割 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
4	海外の動向による影響と経済指標との関係	景気動向指数、為替動向による投資環境への影響と対応 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
5	株式市場の役割と株式価値	株式市場、発行市場、流通市場による株式の役割と価値 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
6	銘柄選択の考え方と投資シミュレーションの説明	投資情報に基づく株価評価の考え方と投資シミュレーション 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1 時間）
7	債券市場の役割と投資の考え方	債券の基礎情報と債券投資の仕組み。金利の決定方法。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1 時間）
8	株式市況先読みの捉え方	株式投資の基本的分析手法と投資テクニック 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1 時間）
9	チャート分析と銘柄選定の考え方	株価下降局面、景気低迷期における投資リスクヘッジの考え方 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1 時間）
10	投資信託の仕組み	グローバル投信を含む投資信託商品選定の考え方 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1 時間）
11	外貨預金・ＦＸ・金投資の仕組みと投資の考え方	外貨預金・ＦＸ・金投資の魅力とリスク判定 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーシ

		設問による授業内容の再確認	ョン開始（各自）（1 時間）
12	企業組織と上場市場	ベンチャー企業組織組成の考え方と株式公開の意義。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1 時間）
13	事業構想におけるドメイン設定の考え方	起業準備としての事業構想の立て方と事例によるディスカッション 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1 時間）
14	経営機能構造の設計と税務	ビジネスモデル設計の考え方と会社設立および税務手続き。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1 時間）
15	投資シミュレーション結果検証	各自投資シミュレーションの結果報告と銘柄変動の要因についてのディスカッション。	＜事後＞投資シミュレーション結果と分析の再確認（30 分）

関連科目

ベンチャービジネス論、経営管理論、ビジネスプランニング（演習）

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

①毎回のアンケート内の［設問１］に対する回答評価（評価割合：50%）
授業内容のお復習いとして設定してある設問について、授業から学んだ手法を用いた自身の考え方を評価します。またアンケート内の［設問２］（授業内容に関する質問および要望）について、積極的に質問または提案した場合は加点評価とします。
なお、当該質問や要望については、次回授業時に解説文を付けて一覧表にして学習者全員に資料配付します。
②最終課題レポート（評価割合：50%）
投資手法および銘柄選定（経済指標分析）に関する知識度を判定するため、総括的評価としてのレポート課題とします。

学生へのメッセージ

■「投資」はギャンブルではありません。将来の資産形成のための金融手段です。
■「儲かる／儲からない」を競うものでもありません。
■法令を遵守した投資スタンスが必要です。
■投資は、あくまでも自己責任で行うものです。
この点を理解できる学生は参加してください。

担当者の研究室等

１１号館７階　林研究室

備考

実際の株式銘柄の動きを反映した「投資シミュレーション」を行う予定です。

科目名	環境と現代社会	科目名（英文）	Environment and Modern Sociaty
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	井上　尚之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA2419a2		

授業概要・目的	日本における環境経営を歴史的に辿ると、「環境経営」⇒「ＣＳＲ経営」⇒「サステナビリティ経営」という系譜である。本講義では、この歴史的流れを追うと共に、サステナビリティ経営とは何かを探る。
到達目標	サステナビリティ経営に関して自分なりの意見が言え、プレゼンテーションするレベルを目指す。
授業方法と留意点	授業中に教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う双方向の授業を目指す。
科目学習の効果（資格）	サステナビリティ経営を学ぶことによって、経営の基礎及び企業の CSR 部門における必須知識の獲得を目指す。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第 1 回　日米の環境政策の歴史	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
2	第 2 回　日本における環境経営の本格開始―ISO14001:1996 発行	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
3	第 3 回　トヨタの環境経営	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
4	第 4 回　３Ｒからゼロエミッションへ	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
5	第 5 回　環境経営とサスティナビリティ経営の相違	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
6	第 6 回　社会的な影響に配慮するとはどういうことか―トリプルボトムラインの登場	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
7	第 7 回　2003 年は日本のＣＳＲ元年	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
8	第 8 回　ISO26000 とサステナビリティ経営―ＣＳＲの国際規格 ISO26000 の発行	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
9	第 9 回　ISO26000 の社会的責任を果たすための 7 つの原則	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
10	第 10 回　社会的責任の 7 つの中核主題	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
11	第 11 回　組織にとっての ISO26000 を順守するメリットは何か？	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
12	第 12 回　ISO26000 の具体例	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
13	第 13 回　中小企業に ISO26000 を広め、定着させる企業市民制度	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
14	第 14 回　ＧＲＩとは何か？	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する。（９０分）
15	第 15 回　国連主導のＣＳＲ―ＳＤＧｓ	教科書を読ませ、意見を聞き、ディスカッションを行う。	予習:その日の講義の授業範囲の教科書を読む。(９０分) 復習：その日の講義の板書を整理する（９０分）。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	サステナビリティ経営	井上尚之	大阪公立大学共同出版会

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	積極的授業参加・発表・レポートが４５％、定期試験が５５％
学生へのメッセージ	サステナビリティ経営・環境経営は今や企業の常識となっています。この講義で環境経営の概要を知ることが重要です。
担当者の研究室等	
備考	レポートは採点して返却。

科目名	北河内を知る	科目名（英文）	Introduction to Kita-kawachi Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	荻田　喜代一.尾山　廣.喜多　大三.久保　貞也.鶴坂　貴恵
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ○,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TL01436a2,L科：LL01417a2,D科・S科：IL01423a2,P科：YL01418a2,J科：JL01434a2,W科：WL01419a2,N科：NL01415a2		

授業概要・目的	摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の歴史・文化・産業・ライフライン、地方自治体の現状と課題、「北河内」に関係する各分野で活躍している団体や機関の人びとの活動状況などをテーマに、外部講師の講演とグループディスカッションを中心に、この地域に住む人々の暮らしや特徴、現在の問題と今後の課題を知ることにより、摂南大生として、この地域とどのようにかかわるかを考える。 この授業は、「地域をつくる」「地域を考える」「地域をまなぶ」の３つのテーマからなり、地域貢献活動の動機づけを目的とする。授業担当者として、北河内７市および和歌山県すさみ町の「行政実務者」が担当する。
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、街づくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。この認識を踏まえて、地域おける摂南大学の役割を考え、積極的に地域にかかわる態度を示すとともに、活気ある地域の創生に向けたアイデアを立案し、行動できる。
授業方法と留意点	北河内地域の各分野で活躍されている方々を学外講師とするオムニバス講義である。授業は、土曜日に集中的に実施し、毎回の授業で「自己学習・グループ学習」「講演の聴講」「グループワーク・成果物のプレゼンテーション」を行う。 情報収集ツールとしてスマートフォン、タブレット、ノートパソコン等を持参すること
科目学習の効果（資格）	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、地域の課題を発見して解決する能力を身につけることに努力する。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・グループワークのアイスブレイク ９月２８日（土）２限	授業の進め方、成績評価方法 グループワークの進め方等を学ぶ	事前課題：北河内について調べる（３０分） 事後課題：グループワークの成果物をまとめる（３０分）
2	北河内地域に関する講演 １０月５日（土）１限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（１時間）
3	北河内地域に関する講演 １０月５日（土）２限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（１時間）
4	グループワーク・プレゼンテーション １０月５日（土）３限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（３０分）
5	北河内地域に関する講演 １０月１９日（土）１限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）の情報を収集して地域課題を発見する	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（１時間）
6	北河内地域に関する講演 １０月１９日（土）２限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（１時間）
7	グループワーク・プレゼンテーション １０月１９日（土）３限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（３０分）
8	北河内地域に関する講演 １１月２日（土）１限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（１時間）
9	北河内地域に関する講演 １１月２日（土）２限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（１時間）
10	グループワーク・プレゼンテーション １１月２日（土）３限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（３０分）
11	北河内地域に関する講演 １１月１６日（土）１限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（１時間）
12	北河内地域に関する講演 １１月１６日（土）２限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（１時間）
13	グループワーク・プレゼンテーション １１月１６日（土）３限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（３０分）
14	最終発表会 １２月７日（土）１限	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う（１０時間）
15	最終発表会 １２月７日（土）２限	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う（１０時間）

関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
評価方法 （基準）	個人レポートの評価（４０％）、グループごとの講演聴講および討議の態度のルーブリック評価（３０％）、グループワークの成果物（３０％）。欠席・遅刻の場合には当該項目の評価は「０」とする。
学生への メッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみませんか？
担当者の 研究室等	荻田喜代一（薬学部・副学長室）、鶴坂貴恵（経営学部・経営情報学科）、尾山廣（理工学部・生命科学科）、久保貞也（経営学部・経営情報学科）、喜多大三
備考	学外講師のご都合により、授業計画の内容や実施日、順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。

教養科目

科目名	近代文学から学ぶ	科目名（英文）	Modern Literature
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本　正俊
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	日本の近代文学の短編を読む。なお、明治から敗戦までの作品を近代文学と位置づける。 文学作品を読むことは、それだけで我々の心を豊かにしてくれる。作品を読むことで、近代の日本人が何を考え、発見し、何に悩んでいたのか、ともに考えたい。 文学作品への抵抗をなくし、作品を読んで考える習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	作品を鑑賞し、その文学的特徴を説明できる。 近代文学の流れについて概説できる。
授業方法と留意点	毎回、1 編の短編作品を取り上げて、講義する。 受講生は事前に作品を読んで授業に臨む。講義を受けたのち、作品に対するコメント、考察を書く。
科目学習の効果（資格）	文学に対する関心と知識が深まる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	近代文学史概説	近代文学の始まりと、言文一致運動について	事後：日本の近代史について調べる（2 時間）
2	明治の文学１ 夏目漱石の短編を読む	夢と心理の表現について考える	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：夏目漱石の（短編）作品を読む （2 時間）
3	明治の文学２ 谷崎潤一郎の短編を読む	近代が失った美意識について考える	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：谷崎潤一郎の（短編）作品を読む （2 時間）
4	明治の文学３ 森鴎外の短編を読む	歴史小説のはじまり	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：森鴎外の（短編）作品を読む （2 時間）
5	大正の文学１ 佐藤春夫の短編を読む	メルヘンと近代	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：佐藤春夫の（短編）作品を読む （2 時間）
6	大正の文学２ 志賀直哉の短編を読む	ヒューマニズムについて考える	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：志賀直哉の（短編）作品を読む （2 時間）
7	大正の文学３ 菊地寛の短編を読む	大衆文学の流行	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：菊池寛の（短編）作品を読む （2 時間）
8	大正の文学４ 小川未明の短編を読む	児童文学の登場	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：小川未明の（短編）作品を読む （2 時間）
9	大正の文学５ 芥川龍之介の短編を読む	人間心理と短編	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：芥川龍之介の（短編）作品を読む （2 時間）
10	昭和前期の文学 横光利一の短編を読む	新しい表現技法	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：横光利一の（短編）作品を読む （2 時間）
11	戦時下の文学１ 中島敦の短編を読む	漢文世界の表現	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：中島敦の（短編）作品を読む （2 時間）
12	戦時下の文学２ 太宰治の短編を読む	芸術の不在	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：太宰治の（短編）作品を読む （2 時間）
13	戦争の文学 原民喜の短編を読む	原爆小説が伝えるもの	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：戦争小説を読む （2 時間）
14	現代文学へ 安部公房の短編を読む	新しい時代と不安・孤独	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：戦後の（短編）作品を読む （2 時間）
15	近代の詩を読む 高村光太郎・萩原朔太郎・三好達治らの詩を読む	日本の近代史の流れをたどる	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：近代詩を読む （2 時間）

関連科目	歴史や言葉に関する授業

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	授業時のコメント・考察（100%） 場合によっては、課題を出す。
学生へのメッセージ	活字嫌いでも、少しがんばれば読み切れる短編を選びます。 この機会に、小説好きになりましょう。 専門の授業で疲れた脳を、文学で休ませてください。
担当者の研究室等	橋本研究室（7 号館 4 階）
備考	授業時のコメントに対しては、次回にフィードバックを行う。 事前事後学習時間は、上記が最低時間。計 60 時間を目安とする。

科目名	くらしと経済	科目名（英文）	Life and Economy
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩坪　加紋
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

教養科目

授業概要・目的	本講義は経済に関する基礎的な考え方の修得を目的とする。モノやサービスを売ったり買ったりすることを経済という。例えば通学の際には電車やバスという交通サービスを購入し、学食で定食を食べるにもお金を払って定食というモノを購入している。また、アルバイトをすれば月々お金をもらうが、それは諸君が自らの労働力をバイト先に売っているからである。経済がいかに身近な現象であるかが分かるだろう。問題は、この身近な経済が私たちの目の届きにくい世界と密接に繋がっているということである。例えば数年前、太平洋を挟んだアメリカで住宅ローン市場に問題が発生し、多くの先輩達が就職に難儀した経緯がある。したがって私たちは、これら経済を積極的に理解し、自力で対処する能力が必要なのである。本講義では基礎的ながらも経済に対する重要な考え方を学生の理解度を重視しながら進める予定である。
到達目標	経済問題を考えるための初歩的なスキルの修得
授業方法と留意点	教科書中心の講義形式で進める。ただし、受動的な受講姿勢とならないよう、“声を出す”ことを重視する。例えば教科書の音読、臨機応変な質疑応答などである。言うまでもなく教科書は必携である。私語への対処は、他の講義よりも厳しいと心得ておいて欲しい。また高校と異なり、大学の講義では板書よりも口頭説明が多く、自分なりのノートの取り方を工夫しておくこと。
科目学習の効果（資格）	日々のくらしの中で遭遇する経営・経済問題を深く理解し、対処するスキルを身につけることができる。また多くの社会科学系専門科目をより深く理解するための基礎となり、資格取得・公務員試験などにも役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	経済現象と日々のくらしとの結びつきについて概説し、本講義で何を考え学ぶのかを解説する。	復習すること
2	分業の利益	分業、比較優位、機会費用について解説する。	教科書第１章（pp. 19-32）を予習復習のこと　(1時間)
3	需要と供給	需要曲線、供給曲線について解説する。	教科書第２章（pp. 33-48）を予習復習のこと　(1時間)
4	価格メカニズム	市場取引や価格決定のメカニズムについて解説する。	教科書第３章（pp. 49-64）を予習復習のこと　(1時間)
5	市場の効率性	望ましい経済の基準として効率性について解説する。	教科書第４章（pp. 65-81）を予習復習のこと　(1時間)
6	市場の失敗	市場は万能ではない。市場の失敗について解説する。	教科書第５章（pp. 83-98）を予習復習のこと　(1時間)
7	市場の限界	市場の失敗の原因の一つである情報の非対称性や市場の限界について解説する。	教科書第６章（pp. 99-113）を予習復習のこと　(1時間)
8	中間試験	前回までの内容について試験を行う。	復習を行っておくこと
9	労働市場	学生にとって最も身近な労働市場について解説する。	教科書第７章（pp. 115-132）を予習復習のこと　(1時間)
10	ＧＤＰについて	国の豊かさを測るＧＤＰにについて解説する。	教科書第８、９章（pp. 137-163）を予習復習のこと（２時間）
11	消費需要と投資需要	ＧＤＰ構成要素の消費と投資について解説する。	教科書第１０章（pp. 165-178）を予習復習のこと（1時間）
12	貨幣と金融	経済取引に欠かせない貨幣と経済取引の大半を占める金融について解説する。	教科書第１１章（pp. 179-194）を予習復習のこと（1時間）
13	政府の役割	市場は万能ではなく、政府の存在意義の一つもそこにある。政府の経済的な役割について解説する。	教科書第１２章(pp. 195-212)を予習復習のこと（1時間）
14	外国貿易と為替レート	資源小国かつ技術立国日本は海外諸国との貿易で生計を立てている。日本の貿易の状況や為替レートの決定について解説する。	教科書第１３章（pp. 213-227）を予習復習のこと（1時間）
15	経済成長と国民生活	経済の成長は豊かさの維持と密接に関わる。経済成長率の表し方やその分析方法について解説する。	教科書第１４章（pp. 229-244）を予習復習のこと（1時間）

関連科目	ミクロ経済学、マクロ経済学など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	１からの経済学	中谷武、中村保 編著	碩学舎・中央経済社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として中間試験(50%)と期末試験(50%)で評価する。ただし、学習意欲（注意：出席率ではない）の顕著な者には加点して評価する。詳細は初回講義で述べる。
学生へのメッセージ	単位取得のためではなく、自身の能力向上のために受講するんだ、という姿勢であって欲しい。疑問点は積極的に質問して、一歩ずつ着実に前進願いたい。
担当者の研究室等	１１号館８階(岩坪教授室)
備考	中間試験については結果を返却し解説を行う。

科目名	現代韓国事情	科目名（英文）	Contemporary Korean Society
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中　悟
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：IT01428a2～IT01432a2,L 科：LT01422a2～LT01426a2,D 科・S 科：IT01428a2～IT01432a2,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	日本社会に生きる者にとって、似通っているようで異なる、また異なっているようで似通っている、そんな存在である韓国。そのような隣国に関して、大きな歴史的流れを検討し、近現代の韓国社会における変化を長期的な視点から理解することを目指す。
到達目標	この講義を通じて、韓国社会についての理解を深めていく。具体的には、次の各項目を目標とする。 ・韓国近現代史を概観できるようになる。 ・「解放」前後における朝鮮半島の政治状況について理解する。 ・「民主化」前後における韓国の政治状況について理解する。
授業方法と留意点	韓国近現代史の基礎を踏まえた上で、関連する映画作品を鑑賞し、それらの解説なども交えながら講義を進める。
科目学習の効果（資格）	韓国近現代史および現代韓国社会に関する基礎的な理解

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の目指すところ、テキストの内容について概説する。	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	近現代韓国の基礎知識（１）	韓国近現代史概説：　1945 年以前と以後	［事前学習］配布レジュメの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
3	近現代韓国の基礎知識（２）	韓国近現代史概説：　軍事政権の時代と民主化後の時代	［事前学習］配布レジュメの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
4	映画作品に見る「韓国現代史」（前編）	関連する映画作品の鑑賞と解説	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
5	映画作品に見る「韓国現代史」（後編）	関連する映画作品の鑑賞と解説	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
6	近現代韓国社会への理解（１）	解放・建国に始まる韓国現代史概説	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
7	近現代韓国社会への理解（２）	解放・建国に始まる韓国現代史概説	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
8	映画作品に見る「韓国現代史における政治と人々」（前編）	関連する映画作品の鑑賞と解説	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
9	映画作品に見る「韓国現代史における政治と人々」（後編）	関連する映画作品の鑑賞と解説	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
10	近現代韓国社会への理解（３）	民主化と、民主化以後の現代韓国	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
11	近現代韓国社会への理解（４）	民主化と、民主化以後の現代韓国	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
12	映画作品に見る「民主化と、民主化以後の現代韓国」（前編）	関連する映画作品の鑑賞と解説	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
13	映画作品に見る「民主化と、民主化以後の現代韓国」（後編）	関連する映画作品の鑑賞と解説	［事前学習］テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
14	現代韓国に向き合う（１）	韓国現代史と現代韓国社会	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
15	現代韓国に向き合う（２）	韓国現代史と現代韓国社会	［事前学習］テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） ［事後学習］配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）

関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	韓国現代史	木村幹	中公新書
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	提出レポートに基づく評価を行なう。（100%） 詳細については授業内で指示する。
学生への メッセージ	韓国語の能力は不要です。
担当者の 研究室等	7 号館 4 階　田中研究室
備考	授業のスケジュール・進行形式については、出席者の状況によって調整する可能性もある。

教養科目

科目名	現代ビジネス論	科目名（英文）	Modern Business
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧　美喜男
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：IT01428a2～IT01432a2,L 科：LT01422a2～LT01426a2,D 科・S 科：IT01428a2～IT01432a2,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	本講義では組織行動論の中心テーマであるリーダーシップや日本企業の直面するマネジメントの国際化時代における人的資源管理を学習する。本講義の特色は将来のビジネスリーダーを目指す皆さんが考える基盤や目標の提供を目指す。 両分野の基礎知識の学習に加えて、豊富な事例を紹介する。企業の倒産や再建事例におけるリーダーの行動、皆さんが属する若者の行動や意識の特徴、日本的経営の特色や日本が生み出したビジネスリーダー実例を学習する。私たち日本人の心の奥底に存する企業観・倫理観や労働観について再検討し、グローバル化・価値観の多様化が進展する中、将来のわが国ビジネスの在り方について、皆さんと一緒に考える。
到達目標	本講義では、以下の３つの目標を設定する。 ①組織を管理するマネージャーに求められる資質やスキルを理解する。 ②日本的経営の特色および、マネジメントの国際化時代におけるその進化の方向性を理解する。 ③組織で働くとは何かを考え、自分が目指すリーダーとは何かを理解する。
授業方法と留意点	可能な限り双方向（interactive）の講義を目指す。単に教科書を読んで内容を理解するというだけでなく、レクチャーを通じて身につけた基礎的な知識に基づきながら、現実世界の経営上の諸問題についての対応策を皆さんが考え、答えを追求する。わからない点や難しい点については補足的に説明しながら、必要に応じて応用的なディスカッションを実施する。
科目学習の効果（資格）	資格等の取得はありませんが、本講義終了時には以下が身に付きます。今後のビジネス社会の方向性を理解し、ビジネスリーダーとは何か、自身はどのようなビジネスリーダーを目指すかを考える基盤を取得出来ます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	現在のビジネス環境 及びリーダーの重要性	オペレーションの国際化とマネジメントの国際化の違いを説明しリーダーの役割を述べる。ビジネスマンの職場職場の現実の雰囲気を知る。 働くとは何かをを考える。	日本企業の戦後の海外展開の歴史や現状を調べてみよう。
2	マネジャーとマネジメント	人材を管理するとは何かを学ぶ。	マネジャーはどんな仕事をしているのか、またなぜマネジメントを学ぶ必要があるか考えてみる。
3	個人行動の原点	人はどのようなときに最もよく働くのかを考える。 個人行動の起点を知る。	組織行動論の目的は何かを考えてみる。
4	リーダーシップと信頼	各種リーダー論を紹介する。	自身のリーダー体験および今までに出会った素晴らしいーダーの特徴を考えてみる。
5	変革型リーダーがなぜ求められるか	マネジメントの国際化時代の変革型リーダーの重要性を各種事例をもとに説明する。(1～5 回までのレポート提出)	なぜリーダーシップに信頼が強調されるのか自己の体験に照らして考えてみる。
6	国際人的資源管理とは何か	各国人材・マネジメント方式の差異。 各国企業文化を知る。	海外展開をする企業は、本国の或いは出身国の労務管理制度のどちらを採用しようとしてしているのか考えてみる。
7	日本企業国際化の軌跡	オペレーションの国際化・マネジメント国際化時代の日本企業の対応。 多国籍従業員の意識。	トヨタ自動車･GM との合弁企業 NUMMI がなぜ設立されたのか調べてみよう。 最近、日本本社で外国人が多数採用されているがその理由を考えてみよう。
8	コミュニケーションと情報	高コンテクスト文化・社内言語とコミュニケーション外国人社員は何で苦労するのかを考える。	日本人は自己主張をしないと言われいます。あなたが発揮する日本人らしさとは何でしょうか？
9	日本人の特性と日本的経営の本質	歴史や地勢的観点から日本人独特の経営が生み出されたことを学ぶ。	有史以来他民族の侵略を受けてこなかった国が世界に一つだけあります。その特異性を考えましょう。
10	自身を考える	日米中韓 4 か国の若者調査の紹介・12 人の有識者による若者の実像。人材育成のモデルの紹介・提案 （6～10 回までのレポート提出）	あなたは偉くなり社会に貢献したいですか？ 自身の能力をどう評価していますか？
11	自分はどのようなビジネスリーダーになるか 事例１．平生釟三郎	日本的経営の原点･心も金も豊かにする実学を学ぶ。人生 3 分論（成長・働く・奉仕（奉公）を実践	以下2回にわたり偉大なビジネスの先人の話をします。2 人に関する本はたくさん出版されているので図書館やインターネットで調べてみよう。
12	事例２　パナソニック創業者　松下幸之助	経営の神様が追求し実践した指導者の条件。	第 11 回参照
13	地方創生	「やりたい仕事がない」［若者が地方に魅力を持たなくなっている」地方の現状を如何に解決するか	外部講師を呼ぶ予定です
14	国際企業を経営する	マネジメントの国際化時代です。国際企業の経営者が実情を語ります。	外部講師を呼ぶ予定です
15	まとめ	全 14 回の講義の中で浮かび上がってきたことを総括する。	

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際人的資源管理	関口倫紀ほか	中央経済社

	2	マネジメント入門	スティーブン P. ロビンス	ダイヤモンド社
	3	世界が称賛する日本の経営	伊勢雅臣	育鵬社

評価方法 （基準）	第５回時のレポート（２０％）、第 10 回時のレポート（２０％）、定期試験（６０％）
学生への メッセージ	自身を知り自身の特性を生かしマネジメントの国際化時代のリーダーとして活躍する。そのモデルである企業やリーダーに巡り合えると思います。紹介するリーダー事例より、自身がどのようなリーダーになりたいか自分に置き換えて考えてください。
担当者の 研究室等	教務課（11 号館１階）
備考	事前事後学習には、毎回１時間以上かけること。 「質問等は出講時に教務課にて対応する」

科目名	公衆衛生学	科目名（英文）	Public Health Science
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小堀　栄子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA2420a2		

授業概要・目的	授業では、公衆衛生の歴史、人口の現在と将来からはじまり、集団の健康をはかるための健康指標、および集団の健康を守るための予防医学の考え方、それに基づいて行われている感染症や慢性疾患の罹患の現状と対策などについて学ぶ。また、人の健康が環境から受ける影響などについても取り上げる。
到達目標	私たちの健康に影響を与える環境や社会を理解し、公衆衛生の取り組みを有機的に理解する.
授業方法と留意点	講義を中心とするが、各回の最新の話題に関する視聴覚教材や時事ニュースなどを随時活用し、身近な話題から専門的な話へとつなげていく。
科目学習の効果（資格）	
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	公衆衛生とは	公衆衛生の歴史と概要	・第１回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
2	人口転換と疫学転換	人類史と健康	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
3	保健統計（1）	日本の人口	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
4	保健統計（2）	健康指標	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
5	疫学（１）	疫学の歴史と考え方	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
6	疫学（２）	集団の疾病をとらえる方法	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
7	疾病予防	予防医学の考え方	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
8	感染症（1）	感染症の疫学	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
9	感染症（2）	感染症と予防	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
10	慢性疾患（1）	慢性疾患の疫学	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
11	慢性疾患（2）	慢性疾患と予防	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこ

			と（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
12	環境保健（1）	環境が健康に及ぼす影響	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
13	環境保健（2）	地球規模の環境問題と取り組み	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
14	国際保健	世界の健康・日本の健康	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと（30 分） ・わからない点を次回までに解決しておくこと（適宜）
15	移民と健康	日本在住外国人の健康	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと（30 分）

関連科目

なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	シンプル衛生公衆衛生学 2019	鈴木庄亮	南江堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国民衛生の動向 2018/2019	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会
2			
3			

評価方法（基準）

課題 20%、試験 80%で評価し、60%以上を合格とする。授業全 15 回出席が前提．出席の扱いは学生便覧のとおり（「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より）。

学生へのメッセージ

・授業では、公衆衛生学を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義する。教科書を用意して、毎回の授業に真剣に臨むこと．
・授業中の私語、教室の出入りは厳禁．
・授業中にあてられたとき教室にいなかった場合は欠席扱いとする．

担当者の研究室等

枚方キャンパス 看護学部 3 階 24

備考

提出された課題内容をまとめたものを授業で取り上げ、解説する。

科目名	自然地理学	科目名（英文）	Physical Geography
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	手代木　功基
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA2418a2		

授業概要・目的	自然地理学は地球環境問題や自然災害と深い関わりを持つとともに、私たちの日々の生活とも密接に関わっています。 本授業では、身近な場所から辺境の地まで、さまざまな地域の自然環境を理解するための基礎を学びます。 具体的には、1．プレート運動や気候といった地球規模のシステム、２．日本や世界で観察される景観の形成要因やその形成過程、３．自然災害や地球環境問題、といった内容を扱います。講義では各地の写真や映像などを数多く使って解説し、初学者にもイメージがつかみやすい内容にする予定です。授業を通して、自然現象を様々な時間・空間スケールに位置づけて理解する基礎を身につけ、それを将来様々な形で活かしていくことを期待します。
到達目標	日本・世界各地の自然環境の実態とそのシステムを学ぶことを通して自然環境の見方の基礎力を養い、日常で目にする自然景観の形成要因や災害の発生等について論理的に理解できるようになること
授業方法と留意点	プリントの配布および投影資料を利用した講義形式。理解を深めるため、映像資料やバーチャル地球儀等を利用します。Moodle やウェブブラウザ利用するため、スマートフォン・タブレット等を持ち込むことを推奨します。
科目学習の効果（資格）	地震等自然災害に対する認識の強化、環境に対する意識の向上

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、評価方法等について説明	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
2	I．日本の自然を知る 1	プレートテクトニクスと日本列島の形成	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
3	I．日本の自然を知る 2	地震のメカニズム	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
4	I．日本の自然を知る 3	地震災害	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
5	I．日本の自然を知る 4	火山と日本列島	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
6	II．多様な日本の自然 1	気候環境	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
7	II．多様な日本の自然 2	植生	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
8	II．多様な日本の自然 3	山地の隆起と侵食	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
9	II．多様な日本の自然 4	河川と平野・海岸	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
10	II．多様な日本の自然 5	大阪の自然・関西の自然	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
11	III．世界の自然を知る 1	熱帯から極地	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
12	III．世界の自然を知る 2	砂漠や高山	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
13	III．世界の自然を知る 3	自然と人々の暮らしの関係性	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュ

			ースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
14	IV. 環境と私たち 1	地球温暖化や砂漠化	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
15	IV. 環境と私たち 2/総括	自然災害への対処について・授業全体のまとめ	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業内で複数回の理解度確認テストを実施し、その結果をもとに評価する（授業内の理解度確認テスト：100%）
学生への メッセージ	高校地理・高校地学を学んでいない人でも理解できるような内容を扱い、難しい部分はフォローアップしながら授業を進めていく予定です。
担当者の 研究室等	7 号館 5 階
備考	事前・事後の学習は、全体で 60 時間を目安とします。理解度確認テストとは、講義内容に関する小テストです。理解度確認テストは、終了後に問題の解説を実施する形でフィードバックをおこないます。

科目名	社会学Ⅰ	科目名（英文）	Sociology Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本　圭三
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ISO1410a2		

授業概要・目的	私たちの生きる社会は、どのような仕組みで動いているのか。社会にはどのような問題があり、それはなぜ生じているのか。本講義では、受講生自身がこれらの問いに向きあえるようになるために、社会学の基本的な認識枠組みについて解説する。講義では社会学的な考え方や基礎知識を紹介したのち、教育、仕事・産業・経済といったテーマをとりあげ、それにかかわる社会学の諸研究を解説していく。
到達目標	授業で説明した社会学の基本的な知識・考え方が説明できる。自らが直面する問題について社会学的な発想に基づいて考察できる。日常生活における種々の問題について、社会学の知識に基づいた解釈ができる。
授業方法と留意点	授業は主に講義形式でおこなわれる。ただし、授業で提示された内容をより理解するために、受講生どうしで実践例についてのディスカッションをおこなう時間が頻繁に設けられる。なお、適宜映像資料も用いる。
科目学習の効果（資格）	社会生活を送る上で何かと直面することになるであろう「人と人」「人と集団」「集団と集団」に関わる問題に対する、幅広い視点を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義をはじめるにあたって	講義へのオリエンテーション	授業内容に関する復習
2	1　社会学とは	社会学における基礎的な知識と発想 (1)	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5 時間） （事後）授業内容について、自分なりの説明をまとめておく（0.5 時間）
3	1　社会学とは	社会学における基礎的な知識と発想 (2)	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5 時間） （事後）授業内容について、自分なりの説明をまとめておく（0.5 時間）
4	1　社会学とは	社会学における基礎的な知識と発想 (3)	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5 時間） （事後）授業内容について、自分なりの説明をまとめておく（0.5 時間）
5	1　社会学とは	社会学における基礎的な知識と発想 (4)	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5 時間） （事後）授業内容について、自分なりの説明をまとめておく（0.5 時間）
6	1　社会学とは	社会学における基礎的な知識と発想 (5)	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5 時間） （事後）授業内容について、自分なりの説明をまとめておく（0.5 時間）
7	中テスト	まとめと授業内容の理解度を問う記述式のテスト	（事前）授業レジュメを精読し復習しておく（2 時間） （事後）試験で十分できなかったところについてまとめ、レジュメをもとに復習しておく（2 時間）
8	2　教育の社会学	学歴社会のメカニズム（1）	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5 時間） （事後）授業内容について、自分なりの説明をまとめておく（0.5 時間）
9	2　教育の社会学	学歴社会のメカニズム（2）	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5 時間） （事後）授業内容について、自分なりの説明をまとめておく（0.5 時間）
10	2　教育の社会学	学歴社会のメカニズム（3）	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5 時間） （事後）授業内容について、自分なりの説明をまとめておく（0.5 時間）
11	3　仕事の社会学	働き方の変化とその背景（1）	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5 時間） （事後）授業内容について、自分なりの説明をまとめておく（0.5 時間）
12	3　仕事の社会学	働き方の変化とその背景（2）	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5 時間） （事後）授業内容について、自分なりの説明をまとめておく（0.5 時間）
13	4　産業と経済の社会学	豊かな社会への道（1）	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5 時間） （事後）授業内容について、自分なりの説明をまとめておく（0.5 時間）
14	4　産業と経済の社会学	豊かな社会への道（2）	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5 時間） （事後）授業内容について、自分なりの説明をまとめておく（0.5 時間）
15	講義を終えるにあたって	まとめ	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5 時間） （事後）授業内容について、自分なりの説明をまとめておく（0.5 時間）

関連科目	社会学Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	授業態度 10%、試験（中間、期末）90%で評価する。
学生への メッセージ	やや厳しい授業ですが、テーマに関心をもったやる気のある学生は受講してください。大事なのは「正解のない問題」と向き合う際の姿勢です。
担当者の 研究室等	11 号館 7 階　山本准教授室
備考	中間試験に関して、授業内で結果とポイントについて解説する時間を設ける。

科目名	社会学Ⅱ	科目名（英文）	Sociology II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本　圭三
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ISO1411a2		

授業概要・目的	私たちの生きる社会は、どのような仕組みで動いているのか。社会にはどのような問題があり、それはなぜ生じているのか。本講義では、受講生自身がこれらの問いに向きあえるようになるために、社会学の基本的な認識枠組みについて解説する。具体的には、家族と子ども、政治、宗教、社会意識といったテーマをとりあげ、それにかかわる社会学の諸研究を解説していく。
到達目標	授業で説明した社会学の基本的な知識・考え方が説明できる。自らが直面する問題について社会学的な発想に基づいて考察できる。日常生活における種々の問題について、社会学の知識に基づいた解釈ができる。
授業方法と留意点	授業は主に講義形式でおこなわれる。ただし、授業で提示された内容をより理解するために、受講生どうしで実践例についてのディスカッションをおこなう時間が頻繁に設けられる。なお、適宜映像資料も用いる。
科目学習の効果（資格）	社会生活を送る上で何かと直面することになるであろう「人と人」「人と集団」「集団と集団」に関わる問題に対する、幅広い視点を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義をはじめるにあたって	講義へのオリエンテーション	授業内容に関する復習
2	1　家族と子どもの社会学	家族は危機に陥ったのか（1）	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）授業内容について、自分なりの説明をまとめておく（0.5時間）
3	1　家族と子どもの社会学	家族は危機に陥ったのか（2）	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）授業内容について、自分なりの説明をまとめておく（0.5時間）
4	1　家族と子どもの社会学	家族は危機に陥ったのか（3）	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）授業内容について、自分なりの説明をまとめておく（0.5時間）
5	2　宗教の社会学	人はなぜ宗教に惹かれるのか（1）	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）授業内容について、自分なりの説明をまとめておく（0.5時間）
6	2　宗教の社会学	人はなぜ宗教に惹かれるのか（2）	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）授業内容について、自分なりの説明をまとめておく（0.5時間）
7	2　宗教の社会学	人はなぜ宗教に惹かれるのか（3）	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）授業内容について、自分なりの説明をまとめておく（0.5時間）
8	中テスト	まとめと授業内容の理解度を問う記述式のテスト	（事前）授業レジュメを精読し復習しておく（2時間） （事後）試験で十分できなかったところについてまとめ、レジュメをもとに復習しておく（2時間）
9	3　政治の社会学	平和と共存の作法を求めて（1）	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）授業内容について、自分なりの説明をまとめておく（0.5時間）
10	3　政治の社会学	平和と共存の作法を求めて（2）	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）授業内容について、自分なりの説明をまとめておく（0.5時間）
11	3　政治の社会学	平和と共存の作法を求めて（3）	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）授業内容について、自分なりの説明をまとめておく（0.5時間）
12	4　社会意識	社会に生きるわれわれの「意識」（1）	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）授業内容について、自分なりの説明をまとめておく（0.5時間）
13	4　社会意識	社会に生きるわれわれの「意識」（2）	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）授業内容について、自分なりの説明をまとめておく（0.5時間）
14	4　社会意識	社会に生きるわれわれの「意識」（3）	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）授業内容について、自分なりの説明をまとめておく（0.5時間）
15	講義を終えるにあたって	まとめ	（事前）事前に指示されている内容について下調べをしておく（0.5時間） （事後）授業内容について、自分なりの説明をまとめておく（0.5時間）

関連科目	社会学Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	授業態度 10%、試験（中間、期末）90%で評価する。
学生への メッセージ	やや厳しい授業ですが、テーマに関心をもったやる気のある学生は受講してください。大事なのは「正解のない問題」に向きあう際の姿勢です。
担当者の 研究室等	11 号館 7 階　山本准教授室
備考	中間試験について、結果とポイントについて解説する時間を設ける。

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡　亮太
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：IT01428a2～IT01432a2,L 科：LT01422a2～LT01426a2,D 科・S 科：IT01428a2～IT01432a2,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のものですので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。 講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input 量が多いので、予習・復習が大切です。
科目学習の効果（資格）	社会で必要とされる数的能力を獲得する

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30 分)・実力テストを復習しておくこと(目安：30 分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式について復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
3	数的思考②	割合の活用①	割合について復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
4	数的思考③	割合の活用②	割合について復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
5	数的思考④	分数の活用	分数問題について復習しておく(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・速度の考え方①	2～5 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2 時間)
7	数的思考⑥	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
8	数的思考⑦	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
9	数的思考⑧	集合の概念	集合について復習しておく(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
10	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6～9 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2 時間)
11	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
12	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
13	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：2.5 時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：5 時間)

関連科目：コミュニケーション能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。　また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　30%、中間テスト・最終テスト　55%、SmartSPI　15% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようになってもらえればと思います。と、同時に学ぶ楽しさも体感してください。 また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	亀田　峻宣.寺内　睦博
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：IT01428a2～IT01432a2,L 科：LT01422a2～LT01426a2,D 科・S 科：IT01428a2～IT01432a2,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のものですので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。 講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input 量が多いので、予習・復習が大切です。
科目学習の効果（資格）	社会で必要とされる数的能力を獲得する

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安：30 分)・実力テストを復習しておくこと(目安：30 分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式について復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
3	数的思考②	割合の活用①	割合について復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
4	数的思考③	割合の活用②	割合について復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
5	数的思考④	分数の活用	分数問題について復習しておく(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・速度の考え方①	2～5 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2 時間)
7	数的思考⑥	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
8	数的思考⑦	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
9	数的思考⑧	集合の概念	集合について復習しておく(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
10	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6～9 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2 時間)
11	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
12	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
13	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：2.5 時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：5 時間)

関連科目：コミュニケーション能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。　また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　30%、中間テスト・最終テスト　55%、SmartSPI　15% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようになってもらえればと思います。と、同時に学ぶ楽しさも体感してください。 また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	人文地理学	科目名（英文）	Human Geography
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	麻生　将
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU2408a2		

授業概要・目的	現代世界・社会の諸問題に地理学がどのように向き合っているかを考えるにあたり、具体的な事例を通して主要な人文地理学の研究成果とアプローチを紹介する。
到達目標	＜地理学的なものの見方・考え方＞について理解し、それをふまえ、身近な問題を捉え直すことができる。
授業方法と留意点	配付資料を用いて、講義形式で行う。授業中に何度か課題を出す。それらの課題に取り組むことで、授業内容をしっかりと復習をしてほしい。
科目学習の効果（資格）	＜地理学的なものの見方・考え方＞の学習・理解を通じて、ひととは違った視点から身近な問題を捉えられるようになる。なお、中学社会・高等学校地理歴史の教員免許取得を目指す学生にとっては必修科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：地理学を学ぶ意義、地理学から見える世界・現象	授業の進め方、授業全体の参考書の紹介など	中学校（高校での地理選択者は高校地理）までの「地理」の学習内容を振り返る（事後学習）（2 時間）
2	地図から見た世界	地図の歴史と原理について	紹介した参考文献を読む（事後学習） テーマに沿った地図（身近な地域の地図またはメンタルマップ）作成の課題に取り組む（事後学習）（2 時間）
3	都市の空間現象	都市の歴史、現代の都市で生じる様々な現象と課題について	紹介した参考文献を読む（事後学習）（2 時間）。 紹介した事例と関連するニュースを確認する（事後学習）（1 時間）。
4	農村の現状と課題	農業地理学の基礎と農村の成り立ちと現状、課題について	紹介した参考文献を読む（事後学習）（2 時間）
5	経済地理学①工業	工業立地の歴史と現状、将来の変化について	紹介した参考文献を読む（事後学習）（2 時間）。 紹介した事例と関連するニュースを確認する（事後学習）（1 時間）。
6	経済地理学②農業	日本と世界の農業の現状と課題について	紹介した参考文献を読む（事後学習）（2 時間）。 紹介した事例と関連するニュースを確認する（事後学習）（1 時間）。
7	経済地理学③商業・流通	事業所の立地と流通システム、および経済のグローバル化について	身近な地域の事業所（コンビニや喫茶店、スーパーマーケットや書店など）の分布を調べる（事後学習）（2 時間）
8	環境問題と地理学	様々なスケールから見た環境問題について	紹介した参考文献を読む（事後学習）（2 時間）。 紹介した事例と関連するニュースを確認する（事後学習）（1 時間）。
9	災害と地理学	災害と人間活動との関わりについて	自然環境と人間活動の関係を理解するための課題（関西のいくつかの地域の地形図の読図作業）に取り組む（事後学習）（2 時間）
10	社会問題と地理学	日本と世界の主な社会問題の空間現象について	紹介した参考文献を読む（事後学習）（2 時間）。 紹介した事例と関連するニュースを確認する（事後学習）（1 時間）。
11	ジェンダーの地理学	ジェンダーをめぐる空間現象について	身の周りにある「ジェンダー化された空間」（授業で紹介した事例を中心に）を探してみる（事後学習）（2 時間）
12	空間と政治	都市における空間の管理と政治的背景について	身の回りにある「管理された空間」（授業で紹介した事例を中心に）を探してみる（事後学習）（1 時間）
13	文化の広がり	文化と社会の関わりについて	紹介した参考文献を読む（事後学習）（2 時間）。 紹介した事例と関連するニュースを確認する（事後学習）（1 時間）。
14	生活世界の認識	メンタルマップ、時間地理学について	紹介した参考文献を読む（事後学習）（2 時間）。
15	地図の読解	様々な地図の読解と理解について	期末レポートを作成する（事後学習）（3 時間）

関連科目：「自然地理学」「地誌学」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	人文地理学への招待	竹中克行編	ミネルヴァ書房
2	地理学概論	上野和彦ほか編	朝倉書店
3			

評価方法（基準）	期末レポート 60%、授業中課題 40%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	授業内で課した課題の解説とコメントを次回の授業の冒頭で行う。その際、課題の目的・ねらい等について具体的に解説する。 授業外の質問等については、授業後 1 時間以内とする。それ以外はメールにて対応する。メールアドレスは授業中に知らせる。

科目名	心理学Ⅰ	科目名（英文）	Psychology Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺口　司
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1401a2		

教養科目

授業概要・目的	【授業概要】 心理学は、人間の行動を予測することを究極的な目標としている。本授業は、これまでに得られた心理学的知見を学ぶことで、自己と他者、そして自分の周囲を取り巻く社会を科学的な視点から見直すことを目指している。これにより、学生の友人や教員との関係の変化に柔軟に対応できるような人間力を得て、他者と接する上での心のあり方やマナーなどの態度について改善されることも期待している。? 【授業目的】 本講義の目的は下記の３つである。 １）心理学という学問に対する初歩的な理解ができるようにする。 ２）情報を捉えるメカニズムを理解できるようにする。 ３）自己を探求するための手がかりをつかめるようすること。?
到達目標	本講義の具体的な到達目標として以下の２点を挙げる。 1）心理学のいくつかの理論について説明が出来る。 2）現実場面の現象を見て、心理学の理論で解釈が出来る。
授業方法と留意点	・講義方式で適宜資料を配布する。講義中には、視聴覚教材やデモンストレーションなども取り入れる。 ・心理学的知見を実際に体感するため、心理実験や調査も行う予定にしているので、積極的に参加すること。 ・受講にあたって、教室では、座席指定制を導入する予定であり、配付資料に授業内容に関する重要キーワードの記入も必要となる場合がある。?
科目学習の効果（資格）	講義を通して自己理解・他者理解を深め、自分と社会との関わりを考えるきっかけを得ることができる。?

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業概要、目的、内容、授業の進め方、授業のルール、評価基準について説明します。?	身の回りで起きているさまざまなことについて心理学的に考える習慣をつけましょう。?
2	心理学概論?	心理学の歴史、発展、学派、研究対象、研究手法、研究分野について概説します。?	心理学に対するこれまでのイメージと比較しながら、新たに認識した心理学を考えましょう。?
3	心と脳?	心と脳、脳と行動、脳の特徴・構造、部位の損傷と症状、脳波と自律系反応、睡眠と夢、記憶と脳、発達と脳について解説します。?	脳に関する写真・ビデオなどを図書館などで見つけ、授業内容を映像で理解してください。?
4	知覚のプロセス(1)?	感覚（視覚・聴覚・味覚・嗅覚・皮膚感覚）の種類と特性、感覚の役割・相互作用・基本特性について解説します。?	教科書の第２章を事前に予習しましょう。?
5	知覚のプロセス(2)?	知覚の体系化、知覚の恒常性、距離・奥行きの知覚、動きの知覚、知覚から認知へについて解説します。?	「錯覚」の例を調べてきて A4 1 枚のレポートにまとめましょう。
6	学習理論?	学習とは、学習の方法、古典的条件づけ、オペラント条件付け、二つの条件付けの違いについて解説します。?	例を挙げながら、二つの条件付けの違いについてレポートにまとめて提出してください。?
7	心の構造?	精神分析理論、局所論、構造論、エディプス・コンプレックスについて解説します。?	教科書の第８章を事前に予習しましょう。?
8	Ex. 超能力	超能力などを研究している「超心理学」という分野について解説します。	超心理学という異分野を通じて授業後にあらためて心理学を捉える視点を見直してください。
9	パーソナリティ?	精神分析学とパーソナリティ、外見とパーソナリティ、類型論、特性論、血液型とパーソナリティについて解説します。?	事前に自身のパーソナリティがどのようなものであるかについて，すぐ答えられるようになっておいてください。
10	自己の形成?	自己制御（客体的自覚状態・没個性化状態・公的自己・私的自己）、自己表現（自己開示・自己呈示）・ジョハリの窓について解説します。?	例を挙げながら、自己概念はどのように作り上げたかを説明するレポートを作成してください。?
11	自己表現?	好意と愛情、恋愛の諸理論について解説します。	第７章の後半部分を事前に予習してください。?
12	印象形成?	中心特性と周辺特性説、初頭効果と新近効果説、ステレオタイプ、第一印象について解説します。?	教科書の第 10 章を読んでおきましょう。
13	攻撃?	対人葛藤、攻撃、攻撃の過程モデル、攻撃の影響要因、タイプ A、攻撃の抑制方法について解説します。?	事前に第 17 章を予習してください。?
14	健康と適応?	心の健康と身体の健康、ストレスと健康、心の健康と適応?	これまでの授業テーマを見直し，最も興味のあるもの，そしてそれに関わる現象について考えてみてください。
15	まとめ	授業全体のまとめ	授業後、教科書およびこれまで配布したプリントに基づき、すべての内容を復習してください。?

関連科目	後期の「心理学Ⅱ」もあわせて取ることを推奨します。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	わたしそしてわれわれ　ミレニアムバージョン	大坊郁夫	北大路書房
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 小レポート、学期末試験の結果を総合し、到達目標の理解度によって合否を判定する。 【定期試験６０％，提出物２０％，授業内小レポート２０％】？
学生への メッセージ	心理学は、みなさんが想像しているよりもはるかに幅広い領域を扱っており、人間の社会生活の全てを研究対象としていると言っても過言ではありません。講義を通じ、自分を取り巻く社会と結びつけて考えることによって理解を深めて下さい。？
担当者の 研究室等	11 号館 6 階 経営学部事務室
備考	事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけるようにしてください。 自主学習には、期末試験の準備を含めて、合計 20 時間かけるようにしてください。

科目名	心理学Ⅱ	科目名（英文）	Psychology II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	法　卉
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1402a2		

教養科目

授業概要・目的	心理学は、人間の社会行動に関する原理の追求を目的とする科学である。本講義では、心理学全般について、身近なエピソードを手がかりに様々な角度からの理論説明や実験などの紹介を行い、心理学が基礎から応用に至るまで幅広く展開し、日常生活ともリンクしていることを講義する。
到達目標	（1）心理学の専門的基礎知識について説明できる。 （2）心理学の実証研究について詳細に学ぶことによって、論理的な思考方法や分析手法が身につく。 （3）心理学の基本的な考え方や知識について学ぶことによって、自分自身や周囲の人々の心の働きや行動について「考える」力が身につく。
授業方法と留意点	・講義方式で適宜資料を配布する。講義中には、視聴覚教材やデモンストレーションなども取り入れる。 ・心理学的知見を実際に体感するため、心理実験や調査も行う予定にしているので、積極的に参加すること。 ・受講にあたって、教室では、座席指定制を導入する予定をし、配付資料に授業内容に関する重要キーワードの記入も必要となる。
科目学習の効果（資格）	講義を通して自己理解・他者理解を深め、自分と社会との関わりを考えるきっかけを得ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業概要、目的、内容、授業の進め方、授業のルール、評価基準について説明します。	身の回りで起きているさまざまなことについて心理学的に考える習慣をつけましょう。
2	対人的魅力（1）	外見的要因、美の定義・タイプ、魅力度、マッチング仮説について解説します	予習：教科書 12 章 34～36 のエピソード部分を読んでおく 復習：配布資料の内容と理論のつながりを確認する
3	対人的魅力（2）	環境要因、単純接触効果、ラブスタイルについて解説します	日常生活にある対人魅力に関係ある事柄を留意して観察してください 復習：配布資料の内容と理論のつながりを確認する
4	対人的魅力（3）	友情・愛情、性差について解説します（DVD 緩衝有）	復習：配布資料の内容と理論のつながりを確認する
5	援助行動	傍観者効果、責任の分散、多数の無知、援助のプロセスについて解説します	予習：教科書の p206?214 を読んでおく 復習：配布資料の内容と理論のつながりを確認する
6	対人コミュニケーション	言語コミュニケーション・非言語コミュニケーションについて解説します	復習：配布資料の内容と理論のつながりを確認する
7	説得と欺瞞	広告、バランス理論、フット・イン・ザ・ドアなどの説得テクニック、騙されやすい人の特徴について解説します	予習：教科書第 16 章を読んでおく 復習：配布資料の内容と理論のつながりを確認する
8	同調	同調の定義、種類、社会的インパクト理論について解説します	多数派の意見に流されないように、養う必要のあることを考えましょう 復習：配布資料の内容と理論のつながりを確認する
9	権威への服従	服従のプロセス、代理状態、服従と同調の異同について解説します	ユダヤ人の虐殺などの歴史事件を踏まえ、人間の服従の心理を考えましょう 復習：配布資料の内容と理論のつながりを確認する
10	人の不合理行動	認知的節約による不合理行動・価値関数・囚人のジレンマについて解説します	ダイエットや禁煙、なぜ失敗するのかを心理学の角度から考えましょう 復習：配布資料の内容と理論のつながりを確認する
11	社会的促進・抑制	社会的促進、社会的抑制、社会的手抜きについて解説します	他者の存在は自分に対する影響を考えましょう 復習：配布資料の内容と理論のつながりを確認する
12	集団意思決定（1）	個人的アイデンティティ・社会的アイデンティティ、内集団・外集団、集団意思決定について解説します	社会的アイデンティティがもたらすメリットとデメリットについて考えましょう 復習：配布資料の内容と理論のつながりを確認する
13	集団意思決定（2）	映画鑑賞	社会心理学の観点から映画を鑑賞し、授業で勉強した知識を用いて映画のワンシーンを分析してみましょう
14	心と文化	日本人らしさ、集団主義・個人主義、異文化コミュニケーションについて解説します。	予習：教科書第 17 章を読んでおく 復習：配布資料の内容と理論のつながりを確認する
15	まとめ	授業全体のまとめ	授業後、教科書およびこれまで配布したプリントに基づき、すべての内容を復習してください。

関連科目	「心理と社会」も併せて履修することが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	エピソードでわかる社会心理学	谷口淳一など	北樹出版

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 授業への参与度（感想シート）、学期末試験の結果を総合し、到達目標の理解度によって合否を判定する。 【定期試験 80%、平常点 20%】
学生へのメッセージ	心理学は、みなさんが想像しているよりもはるかに幅広い領域を扱っており、人間の社会生活の全てを研究対象としていると言っても過言ではありません。講義を通じ、自分を取り巻く社会と結びつけて考えることによって理解を深めて下さい。
担当者の研究室等	11 号館 6 階 経営学部事務室
備考	事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけるようにしてください。 自主学習には、期末試験の準備を含めて、合計 20 時間かけるようにしてください。

科目名	住まいとデザイン	科目名（英文）	Design and Living Environment
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大髙　和香
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	INA1417a2		

授業概要・目的	最も身近な空間である住居について、その歴史の中で生み出された住まいの工夫と文化を知り、快適な住生活と、特にデザインとのかかわりを考察する。また、「リノベーション」の実習を体験し、初歩的な知識と技術を修得する。
到達目標	将来、住み手の立場で必要となる基礎知識を身につけることが目標である。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。
科目学習の効果（資格）	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス･住まいとデザインのトピックス	授業の進め方や受講上の注意点などのガイダンスと、住まいとデザインのトピックスについて説明する。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
2	インテリアの常識	身近なインテリアの用語、法規について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
3	インテリアの構成要素	住空間を構成する主な要素について学び、知識を深める。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
4	デザインスタイルの基礎	第５回目から第７回目までの授業の前段としてデザインスタイル全般について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
5	デザインスタイルの分類（1）	モダン系デザインについて、インテリアエレメントを例に学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
6	デザインスタイルの分類（2）	ナチュラル系デザインについて、インテリアエレメントを例に学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
7	デザインスタイルの分類（3）	クラシック系デザインについて、インテリアエレメントを例に学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
8	j実習:ビフォーアフター「団地のリノベーション」（1）	中古住宅のリノベーションを、二週に渡りプランし、プレゼンテーションを作成する。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
9	実習：ビフォーアフター「団地のリノベーション」(2)	中古住宅のリノベーションを、二週に渡りプランし、プレゼンテーション作成する。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
10	「団地のリノベーション」作品講評会（1）	作品のコンセプト、プランを発表する。聞き手は、それらについてコメントをする。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
11	「団地のリノベーション」作品講評会（2）	作品のコンセプト、プランを発表する。聞き手は、それらについてコメントをする。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
12	「団地のリノベーション」作品講評会（3）	作品のコンセプト、プランを発表する。聞き手は、それらについてコメントをする。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
13	住まいの色彩計画	色彩計画の基礎を学び、インテリアにおける手法と効果を考える。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
14	住まいの照明計画	照明計画の基礎を学び、インテリアにおける手法と効果を考える。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
15	講義のまとめテストと解説	講義のまとめテスト及びその解説を行う	試験に備えて、これまでの復習をしておくこと

関連科目：特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義まとめテスト：60%　、受講態度（出席・講義メモ・課題・小テストなど）：40%を、合わせて評価する。
学生へのメッセージ	自分の周りにある色々な住宅や建物、街並みなどを興味を持って眺めて下さい。きっと新しい発見があることでしょう。
担当者の研究室等	12 号館 7 階、8 号館 3 階　大谷教授室
備考	出欠・遅刻に関する規定は、理工学部に準ずる。

教養科目

科目名	政治学概論Ⅰ	科目名（英文）	Introduction to Politics Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ISO2415a2		

教養科目

授業概要・目的	人間が集団で生活している限り、法や条例、公共事業、景気の影響を避けて生きることはできません。それらを決定・介入するのが政治であり、皆さんは政治参加することによって自分自身の生活をより善いものに作りかえることができます。しかし逆に、政治参加しないことによってより悪いものになってしまう可能性も否定できません。こうしたことは、企業経営に関わろうとする経営学部の皆さんにはより深刻な事実として突きつけられる事柄でしょう。 この授業では、有権者である学生の皆さんに政治と政治学についての基本的な知識・技能を与えることを一番大きな目的にしています。政治学の中でも、政治体制論、政治過程論、国際政治にあたる内容を授業する予定です。また皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治的な時事問題についても紹介し、解説します。
到達目標	この授業を通じて学生は、政治・政治学についての基本的な知識・技能を獲得し、いかなる法・政策・立候補者が望ましいか理性的・論理的に判断し、政治に積極的に参加する中でそれを表明していくという政治・政治学に関する思考力・判断力・表現力を育成することができます。
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーに政治問題に関する意見を論理的に書いてもらうこともあります。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職活動において、政治や政治学の内容が一般常識として問われる場合があります。また現在でも一人の有権者として政治参加するさいに、判断材料として政治的な事柄について知っておく必要があります。そうした事柄に対応し、身の回りで起こっている政治・社会の出来事に造詣の深い人物になるべく、基本的な政治的知識・技能を獲得し、そのメリット・デメリットを判断し、政治的意見として表明することができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション～政治とは何か？	イントロダクションとして、講義の内容と政治・政治参加の必要性について授業します。	事前学習：政治・政治学について文献を収集し、、授業に積極的に参加するモチベーションを高める。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
2	政治と権力①～政治の条件とは何か？	身近な日常生活で現れる政治について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第五章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
3	政治と権力②～正当な権力とは何か？	マックス・ウェーバーの権力観を理解し、政治・経済における近代性とは何かを考えます。	事前学習：教科書の該当箇所（第五章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
4	国家と政治システム～システムとは何か？	政治システムとはどういう構造になっているのか考えます。	事前学習：教科書の該当箇所（第六章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
5	デモクラシー～デモクラシーの条件とは何か？	さまざまな政治システムがあるなかで、デモクラシーとはいかなる政治システムなのか考えます。	事前学習：教科書の該当箇所（第十八章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
6	マスメディアと世論①～政治文化と初期の世論研究	世論と政治文化について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第二十一章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
7	マスメディアと世論②マスメディアの役割とは何か？	マスメディアの役割とそのさまざまな効果について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第二十一章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
8	選挙と政党～中選挙区制から小選挙区比例代表並立制へ	日本の選挙制度を中心に、選挙と政党制について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第二十二章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
9	国会と内閣～議院内閣制と今世紀の行政改革	行政改革による内閣の権限強化を中心に、日本の国会と内閣について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第十一章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
10	国際政治の二つの観点①～アイデアリズム	国際連盟から国際連合への経過について授業します。また国際連盟から離脱したときの日本の状況について映像資料を見て考えます。	事前学習：教科書の該当箇所（第七章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
11	国際政治の二つの観点②～リアリズム	東西冷戦の基盤となるリアリズムの考え方について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第八章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
12	冷戦終結後の日本外交①～湾岸戦争とその結果	冷戦終結後の新しい国際秩序を開くことになった湾岸戦争と日本政府の対応	事前学習：教科書の該当箇所（第八章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得

		について授業します。	する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
13	冷戦終結後の日本外交②～米国同時多発テロとアフガニスタン戦争、イラク戦争	米国同時多発テロをきっかけに生じたアフガニスタン戦争と後のイラク戦争と日本の新法作成について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第八章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
14	冷戦終結後の日本外交③～安全保障体制の転換	集団的自衛権の行使の閣議決定を中心に、近年の日本外交の転換について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第八章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく。

関連科目：中学・高校の現代社会、政治・経済、日本史、世界史など。大学の政治学概論Ⅱ、社会学、国際政治など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	政治学	久米郁男・川出良枝ほか	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	政治思想の知恵―マキャベリからサンデルまで―	仲正昌樹編	法律文化社
2	18 歳から考える日本の政治	五十嵐仁	法律文化社
3			

評価方法（基準）：定期試験（80%）とリアクションペーパー（20%）で評価します。

学生へのメッセージ：新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、政治・政治学についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。

担当者の研究室等：11 号館 10 階　和田講師室

備考：予習・復習テストについては次回の授業で解説します。提出してもらったリアクションペーパーについてもいくつか匿名で紹介し、短評を与えます。

科目名	政治学概論Ⅱ	科目名（英文）	Introduction to Politics II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ISO2416a2		

教養科目

授業概要・目的	人間が集団で生活している限り、法や条例、公共事業、景気の影響を避けて生きることはできません。それらを決定・介入するのが政治であり、皆さんは政治参加することによって自分自身の生活をより善いものに作りかえることができます。しかし逆に、政治参加しないことによってより悪いものになってしまう可能性も否定できません。こうしたことは、企業経営に関わろうとする経営学部の皆さんにはより深刻な事実として突きつけられる事柄でしょう。 この授業では、有権者である学生の皆さんに政治と政治学についての基本的な知識・技能を与えることを一番大きな目的にしています。政治学の中でも、日本政治史、地方自治、政治哲学にあたる内容を授業する予定です。また皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治的な時事問題についても紹介し、解説します。
到達目標	この授業を通じて学生は、政治・政治学についての基本的な知識・技能を獲得し、いかなる法・政策・立候補者が望ましいか理性的・論理的に判断し、政治に積極的に参加する中でそれを表明していくという政治・政治学に関する思考力・判断力・表現力を育成することができます。
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーに政治問題に関する意見を論理的に書いてもらうこともあります。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職活動において、政治や政治学の内容が一般常識として問われる場合があります。また現在でも一人の有権者として政治参加するさいに、判断材料として政治的な事柄について知っておく必要があります。そうした事柄に対応し、身の回りで起こっている政治・社会の出来事に造詣の深い人物になるべく、基本的な政治的知識・技能を獲得し、そのメリット・デメリットを判断し、政治的意見として表明することができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	戦前日本の政治体制①～大日本帝国憲法の問題点	戦前の日本の政治システムを考えるうえで必要な、大日本帝国憲法の重要箇所について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第六章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
2	戦前日本の政治体制②～軍部の台頭	映像資料を見ながら、日本が日中戦争・太平洋戦争へと向かっていった原因の一つである軍部を考えます。	事前学習：教科書の該当箇所（第六章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
3	戦後日本の政治体制①～GHQ による占領と日本国憲法の成立	GHQ による日本占領政策の開始と日本国憲法の成立過程について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所（第三回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
4	戦後日本の政治体制②～戦後復興の諸問題	激しいインフレと食糧難に苦しむ戦後日本の経済状況と政府の経済政策について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所（第四回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
5	戦後日本の政治体制③～インフレ対策と逆コース	冷戦の激化と激しいインフレにともない、GHQ の日本占領政策が転換していった過程について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所（第五回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
6	戦後日本の政治体制④～独立と 55 年体制の成立	吉田政権の外交政策と 55 年体制について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所（第六回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
7	戦後日本の政治体制⑤～岸内閣と安保闘争	岸内閣における 60 年安保闘争と新日米安全保障条約の内容について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所（第七回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
8	戦後日本の政治体制⑥～沖縄編化問題と田中派の隆盛	佐藤内閣の沖縄返還、ならびに自民党の派閥政治の特徴と田中派が勢力を拡大していく過程について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所（第八回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
9	戦後日本の政治体制⑦～80 年代の日本政治	「戦後日本の総決算」と豪語した中曽根政権を中心に、80 年代の日本政治の経過について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所（第九回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
10	戦後日本の政治体制⑧～政治改革と 55 年体制の崩壊	90 年代の政治改革、ならびに 55 年体制が崩壊していった背景や理由、その結果について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所（第十回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
11	戦後日本の政治体制⑨～自公連立政権から民主党政権へ	村山談話や行政改革、郵政民営化など、55 年体制崩壊から現在の安倍政権までの各政権の重要政策の特徴について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所（第十一回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
12	地方自治～地方自治の本旨	日本の地方自治の特徴と今世紀の地方	事前学習：教科書の該当箇所（第十三回）を読み、

	と地方分権改革	分権計画について授業します。	マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
13	古代の政治学～プラトンとアリストテレス	古代の政治学の目的とその特徴について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第十八回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
14	社会契約論～ホッブズ、ロック、ルソー	古代の政治学のテーゼに反論しつつ展開された社会契約論者の基本的な特徴について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第十八回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく。

関連科目	中学・高校の現代社会、政治・経済、日本史、世界史など。大学の政治学概論Ⅰ、社会学、国際政治など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	政治学	久米郁男・川出良枝ほか	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	政治思想の知恵―マキャベリからサンデルまで	仲正昌樹編	法律文化社
2	18 歳から考える日本の政治	五十嵐仁	法律文化社
3			

評価方法（基準）	定期試験（80%）とリアクションペーパー（20%）で評価します。
学生へのメッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、政治や政治学についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　和田講師室
備考	予習・復習テストについては次回の授業で解説します。提出してもらったリアクションペーパーについてもいくつか匿名で紹介し、短評を与えます。

科目名	青少年育成ファシリテーター養成講座	科目名（英文）	Facilitator Training Program
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野　英一
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科･R 科･A 科･M 科･E 科･C 科:IT01428a2～IT01432a2,L 科:LT01422a2～LT01426a2,D 科･S 科:IT01428a2～IT01432a2,P 科:YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	教養特別講義「青少年育成ファシリテータ養成講座」は、サービスラーニングの授業であり、青少年育成活動のファシリテーターとして、知識・野外活動の方法を習得し実習を通して学びと成長を得ることができる実践型学習プログラム。実践は単なる擬似的体験ではなく、人々のために役立ったという現実的な体験を得ることを目的としている。
到達目標	到達目標として自己の振り返りと自己発見、責任感、価値観・技能や知識の獲得、リスクマネジメント、社会問題の理解を果たす体験を同時に得るものである。
授業方法と留意点	大学の授業後や、授業の無い日を利用して学外活動する。週に１度、90 分の活動が基本となっているが、夏休み・冬休みなど長期の休み期間中に集中して活動することも可能。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	活動場所は、寝屋川市、交野市役所、すさみ町役場、共学センター、南農園等の主催・共催事業。第１回目の事前授業は４月 11 日６時限目、1134 教室で行う。 ---------- 事前教育①～⑨回分： ①活動についての心構え、授業内容の徹底周知、ファシリテーターについて ②守秘義務：活動に伴って知った情報を漏らしてはならない義務を学ぶ ③安全管理スキル：活動に伴って発生しうる事故を未然に防ぐ方法を学ぶ ④救命救護スキル：命の大切さ、命を助ける方法、ＡＥＤの使用法を学ぶ ⑤安全対策スキル：安全。衛生管理、危険予知、責任について学ぶ ⑥コミュニケーションスキル A：対象者理解、人とのかかわり方を学ぶ ⑦コミュニケーションスキル B：報告、連絡、相談（ホウ・レン・ソウ）の重要性を学ぶ ⑧コミュニケーションスキル C：アイスブレーキング手法を学ぶ ⑨コミュニケーションスキル D：指導者のあるべき姿、リーダーシップの取り方 活動（90 分×20 回分）： 受入機関において青少年育成ファシリテーター活動実践 事後教育（90 分）： 青少年育成ファシリテーター活動実践のふりかえり ---------- 履修上の注意： 学外団体との連携と信頼関係構築が必要であることから、履修希望者は事前に授業担当者から、説明を受け、活動内容を確認し履修許可を受けた学生のみ履修可能となる。 事前・事後学習課題： 学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各１時間程度行う。
関連科目	ボランティア論
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	①参加日数、②実習報告書、③最終報告書、④受入機関からの調書、以上の４点を総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	青少年育成活動を通して、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
担当者の研究室等	７号館５階　（浅野研究室）
備考	第１回目の事前授業は４月 11 日６時限目、1134 教室で行う。

科目名	世界遺産論	科目名（英文）	Rethinking World Heritage
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北條　ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：IT01428a2～IT01432a2,L 科：LT01422a2～LT01426a2,D 科・S 科：IT01428a2～IT01432a2,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	ユネスコの「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」（1972 年採択、1975 年発効）に謳われる理念に基づき、世界には人類と地球にとってかけがえのない価値をもつ記念建造物や遺跡、自然環境、伝統文化などを人類共通の財産として守るための「世界遺産」がある。その理念と具体的な世界遺産に関する学びを通じて、宗教・文化の多様性、地理、芸術・建築などを深く知る知識編（前半 7 回）と、それぞれに異なるアプローチと研究対象地域の観点から前半の学びをさらに掘り下げて考える考察編から構成する。後半では、地域に根付く人々の暮らしや信仰を遺産化する意義、自然保護と環境保全、人類の負の歴史、行き過ぎた観光地化がもたらす問題などについて考える。
到達目標	世界遺産を通し、グローバル社会において活躍するための知識や教養を身につけるとともに、世界の動きに対する関心を深め、批判の目と自分の意見を持てるようになる。
授業方法と留意点	前半 7 回で世界各地の「世界遺産」について講師の体験に基づく解説を通じて知識を培い、後半は 4 名の教員が 2 回ずつ、具体的な世界遺産を窓口としてその歴史をわかりやすく説き起こし、現代世界に占める意味を問題提起する。
科目学習の効果（資格）	世界遺産検定 3 級 旅行・観光業、ホテル業等への就職に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	世界遺産を「学ぶ」意義はなにか。 ユネスコの理念と世界遺産理念誕生の背景について関ｇ萎える。	「世界遺産」の種類（自然、文化、複合）について理解しておく。
2	世界遺産誕生までの流れ	世界遺産条約誕生の背景と登録後の流れを知る。	前回のユネスコの理念を復習し、世界遺産条約について調べておく。
3	登録基準	世界遺産がもつ「顕著な普遍的価値」と登録基準について学ぶ。	京都と奈良の世界遺産について調べ、違いについて考えておく。
4	日本の産業遺産	日本で登録されている石見、富岡、明治日本の産業革命遺産について学ぶ。	日本の近代化について調べておく。
5	世界で最初の世界遺産	1978 年に登録された世界で最初の世界遺産 12 件について学ぶ。	世界で最初に登録された遺産の保有国について調べておく。
6	文化的景観	文化遺産と自然遺産の接点を登録する文化的景観について学ぶ。	日本で登録されている文化的景観の世界遺産について調べておく。
7	中間テスト シリアル・ノミネーションとトランスバウンダリー・サイト	第 6 回までの理解度確認を行った後、登録の多様性を目指すシリアル・ノミネーションとトランスバウンダリー・サイトについて学ぶ。	第2回目で扱ったグローバル・ストラテジーを含め、第 6 回までに学んだことを復習しておく。
8	日本の文化遺産１	平泉の遺産、長崎の教会群とキリスト教関連遺産などを事例に日本における信仰の多様性について考える。	日本におけるキリスト教伝来およびその展開について書籍や web で調べておく。
9	日本の文化遺産２	白川郷・五箇山の合掌造り集落を事例に人びとの生業や暮らしが遺産化されることについて考える。	白川郷、五箇山について書籍や web で調べておく。
10	自然遺産の重要性と課題１	世界自然遺産とその背景にある自然保護・環境保全について、特に日本に存在する自然遺産や複合遺産を事例として考察する。	日本における自然遺産の分布や歴史的な背景について書籍や web で調べておく。
11	自然遺産の重要性と課題２	世界自然遺産とその背景にある自然保護・環境保全について、特にアフリカのケニア山やキリマンジャロ山、セレンゲティ・ンゴロンゴロなどの自然遺産を事例として考察する。	アフリカの自然遺産の実態や問題点について書籍や web で調べておく。
12	負の世界遺産１	アウシュヴィッツ＝ヴィルケナウ強制絶滅収容所を例に、「負の世界遺産」の意義と問題点について考える。	ア第二次世界大戦中にアウシュヴィッツ＝ヴィルケナウ強制絶滅収容所がどのように用いられたのか調べておく。
13	負の世界遺産２	海商都市リヴァプールを例に、奴隷貿易という負の歴史が世界遺産を通してどのように伝えられているか考える。	リヴァプールと奴隷貿易の関係について調べておく。
14	文明の衝突の記憶１	スペイン・コルドバのメスキータ大聖堂を例に、イスラム文明がカトリック圏のイベリア半島に与えた影響と異教徒間の共存について考える。	イベリア半島の歴史と世界遺産について調べておく。
15	文明の衝突の記憶２	ラテンアメリカの古代先住民文明の遺跡を例に、インディヘニスモ（先住民擁護）の歴史と先住民統合政策、観光開発とオーバー・ツーリズムがもたらす問題について考える。	中米のマヤ文明、アンデスのインカ文明について調べておく。

関連科目：エリアスタディーズ、多文化共生論,、エコツーリズム論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	きほんを学ぶ世界遺産 100＜第 2 版＞世界遺産検定 3 級公式テキスト	世界遺産検定事務局	マイナビ出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	第 7 回目までの学習に関する中間テスト（40%）、後半 8 回で取り上げられた個別の世界遺産に基づくテーマのうち、最も関心を抱いたことに関するレポート（40%）、毎回の質問・コメント票（20%）によって総合的に評価する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	講師控室（7 号館 2 階）、赤澤研究室（7 号館 4 階）、手代木研究室（7 号館 5 階）、林田研究室（7 号館 4 階）、北條研究室（7 号館 5 階）
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間。 第 7 回目に行う中間テストに関するフィードバックは第 8 回目に行う。

科目名	世界の歴史	科目名（英文）	History of the World
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村上　司樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1406a2		

授業概要・目的	「都市」と聞いて私たちが思い浮かべるのは、経済・産業の中心であり、自由な活動の場といったイメージではなかろうか。経済と自由、この２つの特徴の歴史的ルーツをたどっていけば、ヨーロッパ中世都市に行き着く。高校世界史において、商業の復活がヨーロッパ中世都市を生み出し、市民の自治がこれを発展させたと教わった人も少なくないだろう。中国を代表として他の地域の都市の歴史もあわせてみることで、このような通説を疑い考えなおす。そのようにして、都市を窓に歴史を展望する。以上が本講義の目的である。支配と消費の中心ではなく、周辺の自然環境や地域社会と共存できる都市のあり方など、現代的な問題を解決するためのヒントも探りたい。
到達目標	学んだことを結論・理由・具体例に分けて、簡潔に説明できるようにする。
授業方法と留意点	暗記は必要ない。教科書も必要ない。こちらでプリントを用意し、参考書は各単元ごとに紹介する。また図や表を多く使って説明する。だから受講生の側でも、以下３点のことをしてほしい。①授業前には、プリントにあらかじめ目を通しておくこと。②授業後には、プリントを読み返すこと。③プリントを読む際は、線を引くなり印をつけるなり、必ず手を動かすこと。なぜなら授業は教員と受講生のキャッチボールであり、どちらか一方の努力だけでは内容理解につながらないからである。
科目学習の効果（資格）	商業や市民に限られない、中世都市の多様なあり方とダイナミズムを中心として、経営を学ぶための基礎体力となる幅広い教養と具体的思考の習慣を身に付ける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	歴史を学ぶにあたって（1）	授業のルール、すべては表裏一体、現代中心主義から脱け出す	必ず出席するよう予定を調整する。
2	歴史を学ぶにあたって（2）	成績評価の基準、具体的に書く必要と方法、単純な善悪二元論は捨てよう	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
3	歴史を学ぶにあたって（3）	論理的に書く必要と方法、学ぶことの意義、「進んだ西洋」は思い込み	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
4	都市を窓に世界史をみる(1)	視点をしぼる必要性、人間社会の焦点、魅力と危険が背中合わせ	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
5	都市を窓に世界史をみる(2)	都市は文明とともにあった、世界史的な共通性、歴史の大きな流れがみえる	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
6	都市を窓に世界史をみる(3)	都市とは壁で囲まれているもの、西洋でも中東でも中国でも、世界史からみえてくる日本史の個性	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
7	中国都市（1）	「止まっている」「同じことのくり返し」という偏見、都市ができて国家ができる	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
8	中国都市（2）	1000 年前の大転換、防衛から経済へ	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
9	中国都市（3）	近現代を先取りしたウオーターフロント型の都市、世界の先端を行った貨幣経済の発展	同上の課題に加えて小レポート。
10	中国都市（4）	近現代を先取りした都市的生活、流通の発展と試験・芸能・ファーストフード	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
11	中国都市（5）	近現代を先取りした都市的生活、流通の発展と試験・芸能・ファーストフード	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
12	ヨーロッパ都市	アジア都市は大きくヨーロッパ都市は小さかった、農業中心の経済、「肉食＝豊か」ではない	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
13	ヨーロッパ都市	政治の分裂と自治の発展、宗教と経済の結びつき	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
14	ヨーロッパ都市	巨大化したのは 200 年前、「産業革命」は何が「革命」なのか	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
15	ヨーロッパ都市	小さな都市への回帰、歴史に学ぶ	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。

関連科目：特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	ポイントは以下３点。　第１に暗記は必要ない。テストも論述１題で持ち込み可であり、この他にレポートとレスポンス・ペーパーで採点するから。第２に消極的姿勢でプラス評価になることはないが、積極的に受講してマイナス評価されることも絶対にない。例えば、出席点はない。しかし誤字や脱字のために減点、ということもない。つまり減点主義ではなく加点主義。また配点は、①テスト（40 点）、②レポート（30 点）、③レスポンスペーパー（30 点＋α）。第３に 60 点に達するなら、①②③すべてを提出する必要はない。その点では、各自のスタイルに合わせて受講してほしい。
学生へのメッセージ	歴史が教えてくれるのは、「すべては表裏一体」ということです。この授業も例外ではありません。テストにレポート、レスポンス・ペーパーと、3 つの論述課題がありますが、「やることが多い」とのみ考えるのは一面的。裏返せば「単位取得のチャンスが多い」とも言えるからです。またみなさんが「何かを分かっている」かどうかを判定するには、結局「それが何なのかを説明できる」かどうかを見る以外にありません。しかし、このように説明し、伝える力は、文系・理系に関係なく学問研究すべてに欠かせないだけでなく、大学卒業後の長い人生でも、あらゆる場面で必要とされる力です。テスト終了と同時に忘れてしまうような、「暗記科目としての歴史」を教えるつもりはありません。この授業で学ぶのは「具体的・論理的に考える歴史」であり、みなさんには、それを通して「単位以上のもの」を得てほしいと思います。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場　嘉教.木村　朋紀.船越　英資
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO2438a2,L 科：LLO2419a2,D 科・S 科：ILO2425a2,P 科：YLO2420a2,J 科：JLO2436a2,W 科：WLO2421a2,N 科：NLO2417a2		

授業概要・目的	〈摂大ブランド商品の開発・販売プロジェクト〉 様々な大学でオリジナル商品が作られており、多種多様なものがある。これまでに摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を模索し、いくつかの商品を企画した（サツマイモとみかんビールのお酒、焦げがとれやすい BBQ 網、シソとミカンの入浴剤など）。本プロジェクトでは、これまでに企画した商品について具体的な商品開発を行い、販売を目指す。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	３人の教員が担当する。 少人数で活動を行うため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	実施手順は以下のとおりである。 〈開発プロジェクト〉 １．連携企業を決める。試作品の作製および改良を行う。 ２．必要な資金を確保し、具体的な製品案を決定する。 ３．商品を委託製造する。 ４．広報活動を行う。 〈販売プロジェクト〉 １．価格設定 ２．販売ルートの確保 ３．販売管理 週 1 回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。
関連科目	教養系・科学技術系科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	活動状況、取り組む姿勢および活動成果を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	摂大ブランド商品の販売を目指して、頑張りましょう。
担当者の研究室等	居場講師室（1 号館 9 階）、木村准教授室（1 号館 8 階）、船越准教授室（1 号館 9 階）
備考	新聞を読んで、大学のブランド商品に関連した情報を集めるなど、自主学習に努めましょう。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	橋本　正治
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO2438a2,L 科：LLO2419a2,D 科・S 科：ILO2425a2,P 科：YLO2420a2,J 科：JLO2436a2,W 科：WLO2421a2,N 科：NLO2417a2		

授業概要・目的	過疎地域におけるグリーンエネルギー活用プロジェクト これまで、過疎地域（和歌山県すさみ町）の住民・行政に提案し、グリーンエネルギーを利用した過疎地域自立活性化に利用出来る設備などを製作してきた。本年度はこれまでの活動で得た成果をもとに廃屋を改修し災害時にも対応できる休憩施設を設計、製作する。また、当地で夏に開催される柱松まつりにおいて、観望会を開催する。観望会ではこれまでのプロジェクトで製作してきた天体望遠鏡を用いる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 １．チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。 ２．問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。 ３．ものつくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。
授業方法と留意点	年数回すさみ町で作業します。(2 泊 3 日を 3-4 回、7 泊 8 日夏休み中に 1 回) それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	3 年計画の 3 年目のプロジェクトです。はじめに大きな目標からはずれないような目的を設定します。(受講生が提案して目的を定めることから始めます) 4 月　　テーマの情報教共有（昨年度までの成果の説明）と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定。大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。 大型装置・設備については現地で加工組み立てできるよう練習する。 5 月　　現地で加工、施工、組み立て開始　不具合の調査 6、7 月　　大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う 8 月　　現地で加工、施工、組み立て 9 月　　大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う 10-1 月　　大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う 2、3 月　　現地で加工、施工、組み立て 現地で加工、施工、組み立て 事前事後課題は、週 1 回行う活動に対応して次回までに実施しないといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく
関連科目	テクニカルデザイン演習
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	通常(週 1 回の) 活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。
学生へのメッセージ	「古民家再生」では建物のビフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。機械工学科の学生が多いのですが、これまで建築学科、住環境デザイン学科、環境環境工学科、外国語学部の参加メンバーもいました。浅野教授担当の PBL 授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものつくりを通じた地域活性とも言える活動です。
担当者の研究室等	８号館１階テクノセンター、１号館５階メカトロニクス研究室で活動します。
備考	週 1 階のミーティングの事前準備としての学習時間が週あたり 1 時間程度必要となります。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田　秀士.小田　靖久.桒田　寿基.下元　一輝.釣本　聖司
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ○,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,DP5△,DP6△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TLO2438a2,L科：LLO2419a2,D科・S科：ILO2425a2,P科：YLO2420a2,J科：JLO2436a2,W科：WLO2421a2,N科：NLO2417a2		

授業概要・目的	ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔３．５インチ、５インチの鉄道模型を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場などで運転会・展示会を催す。 また、運転会・展示会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、 「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、 「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。 イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。
授業方法と留意点	週１回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。 履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	本年度はレール間隔３．５インチ、５インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。 １．プロジェクトの開始に先立って、社会人基礎力、目標管理、工程管理、プロジェクト管理について、メンバーで調査・討議する。 ２．教員の指導の下に目標と計画を作成する。 ３．計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設等を製作する。 ４．計画からの遅れには対策を講じる。 ５．製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 ６．運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 ７．計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。 なお，自主学習として自分の役割に応じ，マネジメント(参考書欄参照)，蒸気機関，機械工作手法，電気回路等々を継続して学ぶことが必要となる．
関連科目	教養系・科学技術系科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	マネジメント基本と原則	P.F.ドラッカー（上田惇生編訳）	ダイヤモンド社
2	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社
3			

評価方法（基準）	汎用的能力（40%）、主体性・柔軟性・課題発見解決（30%）、貢献度（30%）について、ミーティングでの報告、イベントや作業時の態度で評価する。
学生へのメッセージ	与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。
担当者の研究室等	１号館３階　石田准教授室 ８号館１階　テクノセンター
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田　裕子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO2438a2,L 科：LLO2419a2,D 科・S 科：ILO2425a2,P 科：YLO2420a2,J 科：JLO2436a2,W 科：WLO2421a2,N 科：NLO2417a2		

授業概要・目的	概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。 目的：池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組み力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ・何が問題であるかを認識し、それに対してチームで解決する素養を身に付けることができる。 ・多様な人の意見を聞いて理解し、自分の意見を述べることができる。 ・世界や日本で起こっている環境問題や流域の課題について、正しい知識を身に付けることができる。
授業方法と留意点	連携内容・方法：池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。 留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト 内容： １．寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援 ２．巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 ３．淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 ４．天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 ５．天然アユ復活プロジェクトの学習 ６．いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 方法：授業のうち半分（月１回）は原則として平常授業期間内の土曜日１・２限に行い、主として学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9 月と 12 月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。 他の半分（月１回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。 学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（６月）、近畿水環境交流会（７月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11 月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。 事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C 科） 科学技術教養 C1・C2
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%) 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)
学生へのメッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。
担当者の研究室等	１号館３階　石田准教授室
備考	自主学習時間として、総時間数 30 時間以上取り組むこと。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野　英一
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO2438a2,L 科：LLO2419a2,D 科・S 科：ILO2425a2,P 科：YLO2420a2,J 科：JLO2436a2,W 科：WLO2421a2,N 科：NLO2417a2		

授業概要・目的	「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力（資源）を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。 地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の 3 種類。 ①調査：地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画：具体案を立て、評価（実現可能性、コスト、実施期間、有効性）を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点（廃校になった小学校の校舎）を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	すさみ町は人口が約 4700 人で、39 ある集落のうち 18 が限界集落の町で、その中の１つ、佐本・大都河地域は人口約 360 人、高齢化率 60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティーの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化（社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など）を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。 すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィシュトーナメント」「ケンケン鰹祭り」の運営協力、220 年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。 大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道 5 時間という距離である。この距離が PDCA を行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港（大学）を出港（出発）して、遠洋（すさみ町）で漁業（活動）するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段など PDCA を現実に体験する。 事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。 社会人基礎力の、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の 3 つの能力（12 の能力要素）から構成を自主学習として、調べておくこと。
関連科目	ボランティア論
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	参加態度 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表能力 20%で評価する。
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。
担当者の研究室等	7 号館 5 階　浅野研究室
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保　貞也.針尾　大嗣
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO2438a2,L 科：LLO2419a2,D 科・S 科：ILO2425a2,P 科：YLO2420a2,J 科：JLO2436a2,W 科：WLO2421a2,N 科：NLO2417a2		

授業概要・目的	地域を便利にするアプリ開発 学生が最新のデータベース技術とアプリケーション構築（携帯アプリ）の技能を身に付ける。そして、大学近隣の市町村に学生が市民への情報提供の課題を聞き取り、身に付けた情報技術を活かして自治体が公開しているオープンデータを利用したアプリケーションを開発し、その成果を検証する。
到達目標	・学生が最近の IT 動向を理解している ・学生が一般ユーザー向けの IT についてその仕組みを説明できる ・学生が初めて触れた技術を修得するための持続的な学習を行える ・学生自身が技術的な問題解決のために自学自習できる ・学生が地域の課題を知るためにインタビュー調査票を作成できる ・地域が抱える問題に対して情報技術の特性を活かした提案ができる
授業方法と留意点	データベースに関する勉強会（土曜日開催） ヒアリング調査 開発合宿 自治体でのプレゼンテーション
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ】 地域を便利にするアプリ開発 【内容】 自治体が保有するオープンデータを用いて、市民の利便性向上に貢献するアプリケーションを開発する。データベース技術を駆使することで開発期間を短縮しつつ、メンテナンス性が高いサービスの提供を目指す。 【方法】 ・データベースに関する勉強会（土曜日開催） ・ヒアリング調査 ・開発合宿 ・自治体でのプレゼンテーション などを一連の流れとし、支援協力をいただいた自治体ごとにプロジェクトチームを構成する。 【事前・事後学習課題】 プロジェクトのテーマを考慮して、以下の内容について自主的な調査、学習を行う。 ・自治体の情報サービスの現状調査（4 時間×2 回） ・IT 関連の情報収集（サービス、セキュリティ、生産性向上など）（1 時間×8 回） ・データベース設計の見直し（3 時間） ・作成したアプリの動作テスト（2 時間） 学習課題を遂行する上で必要と思った書籍やソフトウェアなどについては購入を検討する。
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学（消費者）、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	技術習得の成長度（グループとしての学び合いを高く評価する） 自発的な役割の選択 開発プロセス全体での関与の度合い
学生へのメッセージ	新しい技術は若い人が活用してこそ効果が発揮されます。少しハードルが高そうな課題ですが、社会の課題を最新技術で解決する経験に挑戦しましょう！
担当者の研究室等	11 号館 7 階　久保准教授室、針尾准教授室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	牧野　幸志.久保　貞也
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO2438a2,L 科：LLO2419a2,D 科・S 科：ILO2425a2,P 科：YLO2420a2,J 科：JLO2436a2,W 科：WLO2421a2,N 科：NLO2417a2		

授業概要・目的	学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト　～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～ 地元の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ・地域の課題を認識する ・課題を解決する方法を考える ・解決策を実行する ・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する 以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。
授業方法と留意点	学内でのレクチャー（学部講師を含む）、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。 プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。 参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。 自主学習時間を活動前(1 時間)と後(2 時間)に取ること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ】 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト　～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～ 【内容】 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬けの続編や販売展開（寝屋川市、京都市ほか）、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント（枚方市）、大学共同のイルミネーションイベント（茨木市）、スポーツ教室運営（門真市）、地域の IT スキル測定と教育（摂津市）、歴史資産の展覧会企画（河南町）などである。 【方法】 ・メンバー間のディスカッション ・グループワーク ・オンラインミーティング ・博物館や自治体の見学会 ・実地調査 ・企画書や報告書の作成 ・学外でのプレゼンテーション など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。 【事前学習課題】 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。 事前学習の自主学習時間は、毎週 1 時間程度とする。その内容をまとめて提出すること。 【事後学習課題】 プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。 事後学習の自主学習時間は、活動後 2 時間程度とする。活動での気づき、反省点などをまとめて提出すること。
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学（消費者）、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価、自主学習の提出などから総合的に評価する。
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。
担当者の研究室等	11 号館 7 階　、牧野准教授室、久保准教授室、針尾准教授室
備考	活動内で課された課題に対しては，その後の活動の中で評価・解説を行い，フィードバックをする。 自主学習時間の評価も行います。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大塚　正人
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO2438a2,L 科：LLO2419a2,D 科・S 科：ILO2425a2,P 科：YLO2420a2,J 科：JLO2436a2,W 科：WLO2421a2,N 科：NLO2417a2		

授業概要・目的	本プロジェクトでは、連携先調剤薬局と協働し、PBL に参加した学生が、就職関連イベントを企画・運営・実施する事で、学生のコミュニケーション能力、ファシリテーション能力など、人間的な総合力を育成することを目的とする。就職関連イベントに行くのではなく、就職関連イベントを企画・運営・実施することは、難易度の高い教育プログラムである。その過程で、Active Book Dialog（ABD）の手法を用いてグループ学習を行い、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の３つの能力で構成される「社会人基礎力」が向上するように設計している。
到達目標	【到達目標】 現状の就職関連イベントの問題点・ニーズを踏まえた上で、調剤薬局における理想的な就職関連イベントを企画・運営・実施する。 【プロセス】 １．　理想的な就職関連イベントとは何かを定義できる。 ２．　現状の就職関連イベントの問題点・ニーズを列挙できる。 ３．　他の PBL プロジェクト参加学生と協働して、就職関連イベントの具体案を企画できる。 ４．　他の PBL プロジェクト参加学生と協働して、就職関連イベントの参加者アンケートやイベント広報を立案できる。 ５．　関係先調剤薬局の担当者とビジネスマナーをわきまえた上で円滑な人間関係を構築できる。 ６．　就職関連イベントの企画・運営・実施を通して、社会にどんな貢献が出来るか主体的に考えられる。
授業方法と留意点	大学での学びの主役は PBL の受講者である。教員は、PBL の受講者の学びを補助するファシリテーター役に徹するので、いわゆる座学的な講義は一切行わない。教員は、教科書や教材に書いてある知識の伝達は一切行わない（質問には答えます）。 具体的には、ABD 読書会方式の受講者の主体的な学び合いを行う。すなわち、各回のテーマに沿ってその内容を各自で学習し、B5 用紙５枚にまとめ、リレープレゼンテーションにて共有する。 ABD 読書会については、以下の URL を参照のこと。http://www.abd-abd.com/ 講義内容については、Moodle を用いて資料を配付する。また、本講義はアクティブラーニング的手法を積極的に取り入れ、学生が積極的に講義に参加できるよう工夫する。 また、大学外での学びについても、振り返りを重視した指導を行う。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	４月　学内研修：まず、チームビルディングを行う。就職関連イベントの目的・方法・成果について具体例を調査・検証・評価する事により、理想的な就職関連イベントとは何かを定義する。また、企業ブランド・ミッションについて ABD の手法を用いてグループ学習する。 ５月　学内研修：就職関連イベントの現状や課題点などについて具体例を調査・検証・評価する事により、現状の就職関連イベントの問題点と改善点とは何かを定義する。また、システム思考について ABD の手法を用いてグループ学習する。 ６月　学内研修：理想的な就職関連イベントと現状の就職関連イベントの問題点を比較することで、就職関連イベントの企画のポイントを見いだす。また、組織開発について ABD の手法を用いてグループ学習する。 ７月　学内研修：就職関連イベントの具体案を企画する。参加者アンケート、広報ポスター等についても検討する。役割分担を決めた上で、協働する。 ８月　学内研修：就職関連イベントの具体案を企画する。参加者アンケート、広報ポスター等についても検討する。 学外研修：阪神調剤ホールディング株式会社を訪問し、就職関連イベント開催に向けて具体的に協議する。役割分担を決めた上で、協働する。 ９月　学内研修：中間報告の準備。パワーポイント作成法、プレゼンテーション法について、ABD の手法を用いてグループ学習する。 １０月　学内研修：企画した就職関連イベントを実際に学内で実施してみる。必要であれば企画の練り直しを図るファシリテーション力、タイムマネジメント力の育成を図る。また、ファシリテーション法について ABD の手法を用いてグループ学習する。 １１月　学外研修：阪神調剤ホールディング株式会社にて就職関連イベントを実際に行う。役割分担を決めた上で、協働する。 学内研修：ふりかえりワークショップを行う。 １２月　学内研修：最終報告の準備。パワーポイント作成法、プレゼンテーション法について、ABD の手法を用いてグループ学習する。 １月　学内研修：ふりかえりワークショップを行う。成果報告書の作成。 ２月　学内研修：成果報告書の作成。 事前、事後学習課題 について 事前、事後学習課題についてはその都度指定しますが、時間的には１単位あたり週２時間の事前、事後学習課題の実施を設定致します。
関連科目	教養系、キャリア系科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	人を伸ばす力 ： 内発と自律のすすめ	エドワード・L・デシ, リチャード・フラスト	新曜社
2	フロー体験　喜びの現象学	M. チクセントミハイ［著］；今村浩明訳	世界思想社
3	モチベーション 3.0 ： 持続する「やる気!(ドライブ!)」をいかに引き出すか	ダニエル・ピンク著 ； 大前研一訳	講談社

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	グロービス MBA で教えているプレゼンの技術 ： 人を動かす勝利の方程式	グロービス	ダイヤモンド社
2	教え上手になる！： 教えと学びのワークブック	関根雅泰	クロスメディア・パブリッシング
3	東大生が書いた議論する力を鍛えるディスカッションノート　「2 ステージ、6 ポジション」でつかむ「話し合い」の新発想!	吉田雅裕	東洋経済新報社

評価方法（基準）	ＰＢＬ活動への参加意欲および貢献度（70%）、学内・学外発表会等への貢献度（30%） 準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。？
学生へのメッセージ	医療の現場を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を開花させながら、ファシリテーション能力をうまく使ってチームビルディングによる力を引き出して下さい。
担当者の研究室等	摂南大学枚方キャンパス　薬学部薬学科　生命融合化学分野（１号館５階）
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井　信輝.水野　武
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO2438a2,L 科：LLO2419a2,D 科・S 科：ILO2425a2,P 科：YLO2420a2,J 科：JLO2436a2,W 科：WLO2421a2,N 科：NLO2417a2		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーリーグの PR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には 2019 年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態（座学、現地調査）を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する １．プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 ２．マーケティング手法の学習（座学による） ３．連携先との面談 ４．連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 ５．学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 ６．広報誌制作準備（広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行） ７．学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL 中間報告会、広報誌の発行、来場者への 　　アンケートの実施 ８．まとめと最終報告会
関連科目	チームビルディング
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	活動報告、活動現場での取り組をもとに評価する。
学生へのメッセージ	積極的に活動してください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井研究室 ７号館３階　水野研究室
備考	スケジュールに沿って１時間程度を目安として、プロジェクト遂行のための自主学習の時間（事前・事後）をとってください。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田井　義人
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO2438a2,L 科：LLO2419a2,D 科・S 科：ILO2425a2,P 科：YLO2420a2,J 科：JLO2436a2,W 科：WLO2421a2,N 科：NLO2417a2		

授業概要・目的	Ⅰ　授業概要 ・吹田市栄通商店街における地域活性化事業への支援による商店街ブランド作成プロジェクトへの参画（企画・活動・推進・振り返り活動への参画）を行う。 ・当該活動地域は、顧客獲得において対立構造にある商店街、大規模店、コンビニエンスストアが協働している希有な事例であり、TV 等でも紹介された。 ・2018 年度よりプロジェクト事業拡大によりブランド化を模索・推進している地域である。 Ⅱ　目的 ・シャッター街に代表される商店街の課題を成功例に学生が参画（前述のとおり）することと事前学習によって自ら設定した課題認識との比較により地域活性化の方法論を学ぶ。
到達目標	Ⅰ　到達目標（共通） 　本プロジェクトでは、参加メンバー・学外連絡先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 Ⅱ　到達目標（本プロジェクト）：Ⅰの目標を達成するため、以下のいくつかの修得を行うこと。 （１）課題と課題対応した事例を現場体験することで解決プロセスを列挙できること。 （２）課題解決のための課題認識と対応策を具体的に提案できること。 （３）異なる世代間の交流により情報収集のスキルを修得すること。 （４）成功事例を発展させることで他の事例へのＰＤＣＡスキルを醸成できること。 （５）行政依存から脱却し地域の市民主体の取り組みの有効性と効果を体験することで自立した政策提案することができること。 （６）地域住民や商店街関係者との地域活性に尽力する「本気の大人」に出会うことによるコミュニケーション力や「気づき」力を醸成すること。 （７）企画・運営・振り返り資料作成による PPT のスキル、プレゼンテーションスキルを醸成すること。 （８）企画から振り返りまでの一貫した事業展開への参画による PDCA 活用スキルを修得すること。 （９）地域活性化に必要な知識と活用による各種ステークホルダ間の調整スキルを修得すること。 （１０）世代間コミュニケーションスキルを修得すること。
授業方法と留意点	Ⅰ　授業方法 ・少子高齢化の進展と中心市街地での後継者不足とともに大規模店やコンビニエンスストアの出店によって商店街が衰退している。シャッターが閉められ人通りがほとんど無くなっている商店街も地域には多く存在する。 ・本プロジェクトは、このような社会状勢のなか、プロジェクトを企画・運営する地域交流拠点（コンビニ２階）を中心に市民が商店街や大規模店及びコンビニエンスストアとも協働する様々なブランド形成事業に若者である本学学生の視点を取り入れることにより連携先課題であるシャッター商店街防止策を企画・活動・推進・振り返りを行う。 ・上記目的の達成のため、大学における事前・事後学習と演習及び地元での課外学習（参画による）によって到達目標へ指導する。 ・事前学習において、課題設定のブレインストーミングを行い出来ればグループ分けを行う。 Ⅱ　留意点 ・上記学習、演習に必ず参加すること。特に他の授業やクラブなどの課外活動との時間調整であるタイムマネジメントに留意すること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	Ⅰ　授業テーマ：商店街を中心にした地域ブランドの創生 ・事前・事後学習及び講述の課外活動に参画してテーマを達成する事業案の参画 Ⅱ　内容、方法、事前・事後学習課題 （１）事前・事後学習 ・シラバスに記載した教科書、参考書を元に事前学習を行う。学習課題の設定の参考とする。 ・下記課外活動後、事前学習に使用した教科書を元に課外活動等との比較を行う事後学習を行う。 ・上記を通じて得た「気づき」を発表する。（中間報告会、最終報告会） （２）参画する課外活動例 ・４月頃：WEB 稼働及び勉強会。吹田祭企画会議実施。（JR 吹田で一番楽しい場として浸透。近隣店舗の参加推進。会員飲食店の営業推進。） ・５月～６月：今後の企画運営検討（エンタメ教室：地域の子育て世帯の参加者推進。商店街ブランド案の検討：栄通りの特色を検討、商店会は場提供。） 今後の企画運営検討（落研寄席：近隣住民の参画推進。近隣大学等との連携推進：地域モデルの模索、新しい形での連携で「イケテル商店街」構築へ ・７月頃：吹田祭推進、応援 ・８月以降：エンタメ教室に参加。お茶とお花の教室（親子教室）に参加。落研寄席準備に参加。落研寄席-吹田お笑いグランプリに参加。（予選エントリー本戦 16 組くらいで決戦、審査員は素人で公平に。継続により商店会のブランドのひとつとなることを目指す。） ・随時：周辺空き家の活用（古民家を活かしたノスタルジック喫茶店?スタバ）による商店街連携検討。 ・９月頃：エンタメ教室実施。（ミニ四駆をテーマに世代間参加を推進。親子で四駆レースを体験。翌年度吹田祭での大会レースを企画。） ・１０月頃：高浜神社　戎祭支援（チラシ配布、各店お店情報掲載、神社から店への誘導）に参加 ・１２月～３月頃：今年度事業の振り返りと予算策定に参加。翌年度の向けての WEB 委員会年度計画策定二酸化。エンタメ教室、落研寄席予算申請・企画開始に参加。 このスケジュール内に中間報告会、最終報告会がある。
関連科目	地域の持続的発展　地方自治論　地域実践演習　地域貢献実践演習
教科書	番号：1 書籍名：凡人のための地域再生入門 著者名：木下斉 出版社名：ダイアモンド社

2	商店街再生の罠　売りたいモノから顧客がしたいコトへ	久繁哲之介	ちくま書房
3	商店街はなぜ滅びるのか　社会・政治・経済史から探る再生の道	新雅史	光文社新書

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	イギリスに学ぶ商店街再生計画	足立基浩	ミネルヴァ書房
2	その島のひとたちは、ひとの話を聞かない-精神科医「自殺希少地域」を行くー	森川すいめい	青土社
3			

評価方法（基準）	事前事後学習への参加を必修とする。地域での活動内容の発表やプレゼンテーションを通じて評価を行う。
学生へのメッセージ	・教科書１「凡人のための地域再生入門」の黄色部分は必読です。 ・商店会のメンバは、商店街の発展を通じて地域活性化に努力している「本気の大人」である。彼らとのコミュニケーションを通じて学生個人のコミュニケーションスキルの醸成と課題設定、解決のプロセスを学ぶ。 ・積極的な活動と活動の糧となる読書を推奨する。 ・当該商店街だけでなく学生が居住する地域の商店街の課題や地域活性化の課題を発見し対策を模索するプロセスを重視する。 ・何よりも商店会が主催する企画会議への出席（参画）が基本である。その他の事業参加も推奨する。
担当者の研究室等	１号館７階　経済学部　田井義人研究室
備考	・事前･事後学習として教科書や参考書の輪読や講評を推奨する。 ・課外活動に参画することを重視する。 ・やみくもに参画するのではなく、情報や知識習得のため教科書、参考書などの熟読を進める。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田　佐治子.水野　武
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO2438a2,L 科：LLO2419a2,D 科・S 科：ILO2425a2,P 科：YLO2420a2,J 科：JLO2436a2,W 科：WLO2421a2,N 科：NLO2417a2		

授業概要・目的	【テーマ】 社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」の活動支援プロジェクト 【概　要】 枚方市に所在する社会人サッカークラブ「FC　TIAMO 枚方」の活動を支援するための企画を立案・実施する。ホームゲームにおける観戦者向けにアンケートを実施し、来場者は何に価値を求めてるのを明らかにした上で広報戦略を立案する。また枚方市内における認知率を測定し、認知度向上に向けた施策を行う。 また、２月には摂南大学×FC ティアの枚方主催で子ども向けスポーツフェスタを計画している。 【目的】 ・ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し、クラブの広報活動に関する提案を行う ・クラブの広報ポスターを作成し、枚方市内の飲食店等で掲示 ・近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加
到達目標	・学外の方々向けに通用するビジネスマナーを修得する ・アンケートの集計を通じ、回答者の傾向を読み取ることができる ・連携先に企画提案ができる ・広報活動（飛び込み営業）を通じ、基本的な営業スキルを感得する ・メンバー間とのディスカッションを通じ、他者を理解・共感することができる ・締切意識を持ち、「何を、いつまでに、誰が、どうやって」を意識するようになる ・メンバー間の連絡・返信コメントを行えるようになる ・プレゼンテーションの準備を通し、PPT の作成スキルが向上する
授業方法と留意点	「FC　TIAMO 枚方」と連携しつつ，学生が中心となって活動するプロジェクトです。 全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【内容】 ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し，クラブの広報活動に関する提案を行う。そのことにより，近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加を目指す。 【方法】 ・ホームゲームでのアンケート調査の実施と考察 ・連携先へのヒアリングを通じて課題を抽出 ・クラブのプロモーション案の展開を作成・評価・検証（連携先の許可により実施） ・近隣市におけるクラブの認知率測定と認知度の向上のための施策を提案 【年間計画（予定)】 ４月　マーケティング基礎講座の実施 連携先との顔合わせ ５月　ホームゲーム観戦体験 ホームゲーム来場者向けのアンケートの実施 ６月　アンケートの集計と結果を踏まえたイベントの企画立案 ７月　枚方市・寝屋川市内における認知度調査（プレ調査）の実施 域内商店街での広報活動の実施 ８月　ホームゲームでのイベントの実施 ９月　枚方市・寝屋川市における認知度調査（ポスト調査）の実施 10 月　ホームゲーム運営補助 中間報告会 12 月　最終報告会とその準備 ２月　Sports Festival
関連科目	全ての科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
評価方法（基準）	全体で行う活動やミーティングへの貢献，自分の役割の遂行，報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表，連携先からの評価を総合的に判断し評価する。
学生へのメッセージ	プロジェクトの成否は，みなさま一人ひとりにかかっています。それぞれが主体的に取り組み，「FC TIAMO 枚方」を盛り立てていきましょう。
担当者の研究室等	吉田佐治子（７号館３階） 水野武（７号館３階）
備考	学外での活動に際し，事前の準備・事後のまとめ等にかなりの時間を要します。活動によっても異なりますが，一つの活動に対して，それぞれ 5?10 時間は必要です。

教養科目

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山　裕士
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO2438a2,L 科：LLO2419a2,D 科・S 科：ILO2425a2,P 科：YLO2420a2,J 科：JLO2436a2,W 科：WLO2421a2,N 科：NLO2417a2		

授業概要・目的	テーマ： 中山間地域における生活支援体制の構築プロジェクト 概　要： 和歌山県海草郡紀美野町をフィールドに、中山間地域におけるひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験、その他の作業等を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。
到達目標	①中山間地域に暮らす人びとの生活を知り、地域生活やその課題の多様性について説明することができる ②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について考えを述べることができる ③中山間地域における生活支援体制の構築にかかわる主体について説明することができる ④「地域の見守り、支え合い」の担い手としての自覚と責任を身につける
授業方法と留意点	文献、資料等を用いた学内研修と和歌山県海草郡紀美野町における現地調査を実施します。 具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	講義では以下の内容に取り組みます（進捗状況によって変更となる場合があります）。 ・学内研修：紀美野町の人口・産業・伝統・観光・その他の特性について、地域福祉の考え方について、日常生活支援体制の構築方法について、中間報告会および最終報告会に向けた準備について、等（週一回程度；各回の実施に当たってはテーマに応じた自主学習（1 時間程度）が求められます） ・地域での活動：地域視察、地域住民との交流、日常生活支援体制構築に向けた実践、等（月一回程度；学外研修後には活動成果の整理および実施意義の分析にかかる自主学習（2 時間程度）が求められます） ・中間報告会、最終報告会：他のプロジェクトと合同で実施（各一回）
関連科目	なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学内研修および地域での活動への主体的な参加および中間／最終報告会に対する貢献度により評価します。
学生へのメッセージ	ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。 都会から離れた場所での生活を実際に体験し、くらしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？
担当者の研究室等	
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤原　京佳.梅野　将之
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO2438a2,L 科：LLO2419a2,D 科・S 科：ILO2425a2,P 科：YLO2420a2,J 科：JLO2436a2,W 科：WLO2421a2,N 科：NLO2417a2		

授業概要・目的	「異文化理解・交流を通した地域貢献プロジェクト」 留学生を含む参加学生が異文化理解・交流にかかわる活動（オリジナルかるた、ゲーム、文化紹介教材、演劇等）を企画し、寝屋川市国際交流協会や近隣学校等において実施していく。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性をもって前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の想像を目指す。 自らの言語・文化資源を活用すると同時に、異なる文化背景をもつ他者と協働し、活動を企画・実行できる。 学外の活動を通して地域への理解を深め、地域における異文化理解・交流を促すことができる。 プロジェクトにおける自身の貢献および不足点を分析し、省察することができる。
授業方法と留意点	さまざま文化背景、価値観をもつ人々と対話・交渉しながら活動を進めていくことになります。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【内容】 ・週１回のミーティングで活動に関する企画を立案し、進捗等を確認する。 ・寝屋川市国際交流協会および近隣学校と連絡をとり、活動内容や日程を決める。 ・必要に応じて本学国際交流センターにおける活動を企画・実施する。 ・活動内容を報告会等で発表する。 【方法】 ・異文化理解・交流をテーマにした教材、ゲーム等を作成する。 ・作成物を使った活動を地域や国際交流センターで実施する。 【事後学習】 受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。 プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらう。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。
関連科目	人文社会系科目全般、外国語科目全般
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ミーティング、報告会、各活動への貢献度 60%、活動日誌およびプロジェクト最終レポート 40%
学生へのメッセージ	他者を知り、地域を知るは自分自身を知ることにもつながると思います。 普段自明視している常識、先入観、前提に気づくことから始めてみてください。
担当者の研究室等	
備考	自主学習時間の目安は毎週１時間。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場　嘉教.木村　朋紀.船越　英資
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO2439a2,L 科：LLO2420a2,D 科・S 科：ILO2426a2,P 科：YLO2421a2,J 科：JLO2437a2,W 科：WLO2422a2,N 科：NLO2418a2		

授業概要・目的	〈摂大ブランド商品の開発・販売プロジェクト〉 様々な大学でオリジナル商品が作られており、多種多様なものがある。これまでに摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を模索し、いくつかの商品を企画した（サツマイモとみかんビールのお酒、焦げがとれやすい BBQ 網、シソとミカンの入浴剤など）。本プロジェクトでは、これまでに企画した商品について具体的な商品開発を行い、販売を目指す。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	３人の教員が担当する。 少人数で活動を行うため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	実施手順は以下のとおりである。 〈開発プロジェクト〉 １．連携企業を決める。試作品の作製および改良を行う。 ２．必要な資金を確保し、具体的な製品案を決定する。 ３．商品を委託製造する。 ４．広報活動を行う。 〈販売プロジェクト〉 １．価格設定 ２．販売ルートの確保 ３．販売管理 週 1 回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。
関連科目	教養系・科学技術系科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	活動状況、取り組む姿勢および活動成果を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	摂大ブランド商品の販売を目指して、頑張りましょう。
担当者の研究室等	居場講師室（1 号館 9 階）、木村准教授室（1 号館 8 階）、船越准教授室（1 号館 9 階）
備考	新聞を読んで、大学のブランド商品に関連した情報を集めるなど、自主学習に努めましょう。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	橋本　正治
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO2439a2,L 科：LLO2420a2,D 科・S 科：ILO2426a2,P 科：YLO2421a2,J 科：JLO2437a2,W 科：WLO2422a2,N 科：NLO2418a2		

授業概要・目的	過疎地域におけるグリーンエネルギー活用プロジェクト これまで、過疎地域（和歌山県すさみ町）の住民・行政に提案し、グリーンエネルギーを利用した過疎地域自立活性化に利用出来る設備などを製作してきた。本年度はこれまでの活動で得た成果をもとに廃屋を改修し災害時にも対応できる休憩施設を設計、製作する。また、当地で夏に開催される柱松まつりにおいて、観望会を開催する。観望会ではこれまでのプロジェクトで製作してきた天体望遠鏡を用いる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 １．チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。 ２．問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。 ３．ものつくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。
授業方法と留意点	年数回すさみ町で作業します。(2 泊 3 日を 3-4 回、7 泊 8 日夏休み中に 1 回) それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	3 年計画の 3 年目のプロジェクトです。はじめに大きな目標からはずれないような目的を設定します。(受講生が提案して目的を定めることから始めます) 4 月　　テーマの情報教共有（昨年度までの成果の説明）と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定。大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。 大型装置・設備については現地で加工組み立てできるよう練習する。 5 月　　現地で加工、施工、組み立て開始　不具合の調査 6、7 月　　大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う 8 月　　現地で加工、施工、組み立て 9 月　　大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う 10-1 月　　大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う 2、3 月　　現地で加工、施工、組み立て 現地で加工、施工、組み立て 事前事後課題は、週 1 回行う活動に対応して次回までに実施しないといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく
関連科目	テクニカルデザイン演習
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	通常(週 1 回の) 活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。
学生へのメッセージ	「古民家再生」では建物のビフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。機械工学科の学生が多いのですが、これまで建築学科、住環境デザイン学科、環境環境工学科、外国語学部の参加メンバーもいました。浅野教授担当の PBL 授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものつくりを通じた地域活性とも言える活動です。
担当者の研究室等	８号館１階テクノセンター、１号館５階メカトロニクス研究室で活動します。
備考	週 1 階のミーティングの事前準備としての学習時間が週あたり 1 時間程度必要となります。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田　秀士.小田　靖久.桒田　寿基.下元　一輝.釣本　聖司
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ○,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,DP5△,DP6△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TLO2439a2,L科：LLO2420a2,D科・S科：ILO2426a2,P科：YLO2421a2,J科：JLO2437a2,W科：WLO2422a2,N科：NLO2418a2		

授業概要・目的	ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔３．５インチ、５インチの鉄道模型を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場などで運転会・展示会を催す。 また、運転会・展示会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、 「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、 「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。 イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。
授業方法と留意点	週１回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。 履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	本年度はレール間隔３．５インチ、５インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。 １．プロジェクトの開始に先立って、社会人基礎力、目標管理、工程管理、プロジェクト管理について、メンバーで調査・討議する。 ２．教員の指導の下に目標と計画を作成する。 ３．計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設等を製作する。 ４．計画からの遅れには対策を講じる。 ５．製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 ６．運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 ７．計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。 なお，自主学習として自分の役割に応じ，マネジメント(参考書欄参照)，蒸気機関，機械工作手法，電気回路等々を継続して学ぶことが必要となる．
関連科目	教養系・科学技術系科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	マネジメント基本と原則	P.F.ドラッカー（上田惇生編訳）	ダイヤモンド社
2	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社
3			

評価方法（基準）	汎用的能力（40%）、主体性・柔軟性・課題発見解決（30%）、貢献度（30%）について、ミーティングでの報告、イベントや作業時の態度で評価する。
学生へのメッセージ	与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。
担当者の研究室等	１号館３階　石田准教授室 ８号館１階　テクノセンター
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田　裕子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO2439a2,L 科：LLO2420a2,D 科・S 科：ILO2426a2,P 科：YLO2421a2,J 科：JLO2437a2,W 科：WLO2422a2,N 科：NLO2418a2		

授業概要・目的	概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。 目的：池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組み力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ・何が問題であるかを認識し、それに対してチームで解決する素養を身に付けることができる。 ・多様な人の意見を聞いて理解し、自分の意見を述べることができる。 ・世界や日本で起こっている環境問題や流域の課題について、正しい知識を身に付けることができる。
授業方法と留意点	連携内容・方法：池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。 留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト 内容： １．寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援 ２．巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 ３．淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 ４．天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 ５．天然アユ復活プロジェクトの学習 ６．いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 方法：授業のうち半分（月１回）は原則として平常授業期間内の土曜日１・２限に行い、主として学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9 月と 12 月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。 他の半分（月１回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。 学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（６月）、近畿水環境交流会（７月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11 月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。 事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C 科） 科学技術教養 C1・C2
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%) 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)
学生へのメッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。
担当者の研究室等	１号館３階　石田准教授室
備考	自主学習時間として、総時間数 30 時間以上取り組むこと。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野　英一
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO2439a2,L 科：LLO2420a2,D 科・S 科：ILO2426a2,P 科：YLO2421a2,J 科：JLO2437a2,W 科：WLO2422a2,N 科：NLO2418a2		

授業概要・目的	「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力（資源）を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。 地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の 3 種類。 ①調査：地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画：具体案を立て、評価（実現可能性、コスト、実施期間、有効性）を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点（廃校になった小学校の校舎）を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	すさみ町は人口が約 4700 人で、39 ある集落のうち 18 が限界集落の町で、その中の１つ、佐本・大都河地域は人口約 360 人、高齢化率 60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティーの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化（社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など）を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。 すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィシュトーナメント」「ケンケン鰹祭り」の運営協力、220 年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。 大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道 5 時間という距離である。この距離が PDCA を行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港（大学）を出港（出発）して、遠洋（すさみ町）で漁業（活動）するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段など PDCA を現実に体験する。 事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。 社会人基礎力の、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の 3 つの能力（12 の能力要素）から構成を自主学習として、調べておくこと。
関連科目	ボランティア論
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	参加態度 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表能力 20%で評価する。
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。
担当者の研究室等	7 号館 5 階　浅野研究室
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保　貞也.針尾　大嗣
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO2439a2,L 科：LLO2420a2,D 科・S 科：ILO2426a2,P 科：YLO2421a2,J 科：JLO2437a2,W 科：WLO2422a2,N 科：NLO2418a2		

授業概要・目的	地域を便利にするアプリ開発 学生が最新のデータベース技術とアプリケーション構築（携帯アプリ）の技能を身に付ける。そして、大学近隣の市町村に学生が市民への情報提供の課題を聞き取り、身に付けた情報技術を活かして自治体が公開しているオープンデータを利用したアプリケーションを開発し、その成果を検証する。
到達目標	・学生が最近の IT 動向を理解している ・学生が一般ユーザー向けの IT についてその仕組みを説明できる ・学生が初めて触れた技術を修得するための持続的な学習を行える ・学生自身が技術的な問題解決のために自学自習できる ・学生が地域の課題を知るためにインタビュー調査票を作成できる ・地域が抱える問題に対して情報技術の特性を活かした提案ができる
授業方法と留意点	データベースに関する勉強会（土曜日開催） ヒアリング調査 開発合宿 自治体でのプレゼンテーション
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ】 地域を便利にするアプリ開発 【内容】 自治体が保有するオープンデータを用いて、市民の利便性向上に貢献するアプリケーションを開発する。データベース技術を駆使することで開発期間を短縮しつつ、メンテナンス性が高いサービスの提供を目指す。 【方法】 ・データベースに関する勉強会（土曜日開催） ・ヒアリング調査 ・開発合宿 ・自治体でのプレゼンテーション などを一連の流れとし、支援協力をいただいた自治体ごとにプロジェクトチームを構成する。 【事前・事後学習課題】 プロジェクトのテーマを考慮して、以下の内容について自主的な調査、学習を行う。 ・自治体の情報サービスの現状調査（4 時間×2 回） ・IT 関連の情報収集（サービス、セキュリティ、生産性向上など）（1 時間×8 回） ・データベース設計の見直し（3 時間） ・作成したアプリの動作テスト（2 時間） 学習課題を遂行する上で必要と思った書籍やソフトウェアなどについては購入を検討する。
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学（消費者）、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	技術習得の成長度（グループとしての学び合いを高く評価する） 自発的な役割の選択 開発プロセス全体での関与の度合い
学生へのメッセージ	新しい技術は若い人が活用してこそ効果が発揮されます。少しハードルが高そうな課題ですが、社会の課題を最新技術で解決する経験に挑戦しましょう！
担当者の研究室等	11 号館 7 階　久保准教授室、針尾准教授室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	牧野　幸志.久保　貞也
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TL02439a2,L 科：LL02420a2,D 科・S 科：IL02426a2,P 科：YL02421a2,J 科：JL02437a2,W 科：WL02422a2,N 科：NL02418a2		

授業概要・目的	学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト　～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～ 地元の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ・地域の課題を認識する ・課題を解決する方法を考える ・解決策を実行する ・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する 以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。
授業方法と留意点	学内でのレクチャー（学部講師を含む）、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。 プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。 参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。 自主学習時間を活動前(1 時間)と後(2 時間)に取ること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ】 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト　～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～ 【内容】 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬けの続編や販売展開（寝屋川市、京都市ほか）、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント（枚方市）、大学共同のイルミネーションイベント（茨木市）、スポーツ教室運営（門真市）、地域の IT スキル測定と教育（摂津市）、歴史資産の展覧会企画（河南町）などである。 【方法】 ・メンバー間のディスカッション ・グループワーク ・オンラインミーティング ・博物館や自治体の見学会 ・実地調査 ・企画書や報告書の作成 ・学外でのプレゼンテーション など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。 【事前学習課題】 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。 事前学習の自主学習時間は、毎週 1 時間程度とする。その内容をまとめて提出すること。 【事後学習課題】 プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。 事後学習の自主学習時間は、活動後 2 時間程度とする。活動での気づき、反省点などをまとめて提出すること。
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学（消費者）、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価、自主学習の提出などから総合的に評価する。
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。
担当者の研究室等	11 号館 7 階　、牧野准教授室、久保准教授室、針尾准教授室
備考	活動内で課された課題に対しては，その後の活動の中で評価・解説を行い，フィードバックをする。 自主学習時間の評価も行います。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大塚　正人
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TL02439a2,L 科：LL02420a2,D 科・S 科：IL02426a2,P 科：YL02421a2,J 科：JL02437a2,W 科：WL02422a2,N 科：NL02418a2		

授業概要・目的	本プロジェクトでは、連携先調剤薬局と協働し、PBL に参加した学生が、就職関連イベントを企画・運営・実施する事で、学生のコミュニケーション能力、ファシリテーション能力など、人間的な総合力を育成することを目的とする。就職関連イベントに行くのではなく、就職関連イベントを企画・運営・実施することは、難易度の高い教育プログラムである。その過程で、Active Book Dialog（ABD）の手法を用いてグループ学習を行い、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の３つの能力で構成される「社会人基礎力」が向上するように設計している。
到達目標	【到達目標】 現状の就職関連イベントの問題点・ニーズを踏まえた上で、調剤薬局における理想的な就職関連イベントを企画・運営・実施する。 【プロセス】 １．　理想的な就職関連イベントとは何かを定義できる。 ２．　現状の就職関連イベントの問題点・ニーズを列挙できる。 ３．　他の PBL プロジェクト参加学生と協働して、就職関連イベントの具体案を企画できる。 ４．　他の PBL プロジェクト参加学生と協働して、就職関連イベントの参加者アンケートやイベント広報を立案できる。 ５．　関係先調剤薬局の担当者とビジネスマナーをわきまえた上で円滑な人間関係を構築できる。 ６．　就職関連イベントの企画・運営・実施を通して、社会にどんな貢献が出来るか主体的に考えられる。
授業方法と留意点	大学での学びの主役は PBL の受講者である。教員は、PBL の受講者の学びを補助するファシリテーター役に徹するので、いわゆる座学的な講義は一切行わない。教員は、教科書や教材に書いてある知識の伝達は一切行わない（質問には答えます）。 具体的には、ABD 読書会方式の受講者の主体的な学び合いを行う。すなわち、各回のテーマに沿ってその内容を各自で学習し、B5 用紙５枚にまとめ、リレープレゼンテーションにて共有する。 ABD 読書会については、以下の URL を参照のこと。http://www.abd-abd.com/ 講義内容については、Moodle を用いて資料を配付する。また、本講義はアクティブラーニング的手法を積極的に取り入れ、学生が積極的に講義に参加できるよう工夫する。 また、大学外での学びについても、振り返りを重視した指導を行う。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	４月　学内研修：まず、チームビルディングを行う。就職関連イベントの目的・方法・成果について具体例を調査・検証・評価する事により、理想的な就職関連イベントとは何かを定義する。また、企業ブランド・ミッションについて ABD の手法を用いてグループ学習する。 ５月　学内研修：就職関連イベントの現状や課題点などについて具体例を調査・検証・評価する事により、現状の就職関連イベントの問題点と改善点とは何かを定義する。また、システム思考について ABD の手法を用いてグループ学習する。 ６月　学内研修：理想的な就職関連イベントと現状の就職関連イベントの問題点を比較することで、就職関連イベントの企画のポイントを見いだす。また、組織開発について ABD の手法を用いてグループ学習する。 ７月　学内研修：就職関連イベントの具体案を企画する。参加者アンケート、広報ポスター等についても検討する。役割分担を決めた上で、協働する。 ８月　学内研修：就職関連イベントの具体案を企画する。参加者アンケート、広報ポスター等についても検討する。 学外研修：阪神調剤ホールディング株式会社を訪問し、就職関連イベント開催に向けて具体的に協議する。役割分担を決めた上で、協働する。 ９月　学内研修：中間報告の準備。パワーポイント作成法、プレゼンテーション法について、ABD の手法を用いてグループ学習する。 １０月　学内研修：企画した就職関連イベントを実際に学内で実施してみる。必要であれば企画の練り直しを図るファシリテーション力、タイムマネジメント力の育成を図る。また、ファシリテーション法について ABD の手法を用いてグループ学習する。 １１月　学外研修：阪神調剤ホールディング株式会社にて就職関連イベントを実際に行う。役割分担を決めた上で、協働する。 学内研修：ふりかえりワークショップを行う。 １２月　学内研修：最終報告の準備。パワーポイント作成法、プレゼンテーション法について、ABD の手法を用いてグループ学習する。 １月　学内研修：ふりかえりワークショップを行う。成果報告書の作成。 ２月　学内研修：成果報告書の作成。 事前、事後学習課題 について 事前、事後学習課題についてはその都度指定しますが、時間的には１単位あたり週２時間の事前、事後学習課題の実施を設定致します。
関連科目	教養系、キャリア系科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	人を伸ばす力 ： 内発と自律のすすめ	エドワード・L・デシ, リチャード・フラスト	新曜社
2	フロー体験　喜びの現象学	M. チクセントミハイ［著］；今村浩明訳	世界思想社
3	モチベーション 3.0 ： 持続する「やる気!(ドライブ!)」をいかに引き出すか	ダニエル・ピンク著 ； 大前研一訳	講談社

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	グロービス MBA で教えているプレゼンの技術 ： 人を動かす勝利の方程式	グロービス	ダイヤモンド社
2	教え上手になる！： 教えと学びのワークブック	関根雅泰	クロスメディア・パブリッシング
3	東大生が書いた議論する力を鍛えるディスカッションノート　「2 ステージ、6 ポジション」でつかむ「話し合い」の新発想!	吉田雅裕	東洋経済新報社

評価方法（基準）	ＰＢＬ活動への参加意欲および貢献度（70%）、学内・学外発表会等への貢献度（30%） 準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。？
学生へのメッセージ	医療の現場を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を開花させながら、ファシリテーション能力をうまく使ってチームビルディングによる力を引き出して下さい。
担当者の研究室等	摂南大学枚方キャンパス　薬学部薬学科　生命融合化学分野（１号館５階）
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井　信輝.水野　武
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO2439a2,L 科：LLO2420a2,D 科・S 科：ILO2426a2,P 科：YLO2421a2,J 科：JLO2437a2,W 科：WLO2422a2,N 科：NLO2418a2		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーリーグの PR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には 2019 年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態（座学、現地調査）を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する １．プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 ２．マーケティング手法の学習（座学による） ３．連携先との面談 ４．連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 ５．学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 ６．広報誌制作準備（広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行） ７．学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL 中間報告会、広報誌の発行、来場者への 　　アンケートの実施 ８．まとめと最終報告会
関連科目	チームビルディング
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	活動報告、活動現場での取り組をもとに評価する。
学生へのメッセージ	積極的に活動してください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井研究室 ７号館３階　水野研究室
備考	スケジュールに沿って１時間程度を目安として、プロジェクト遂行のための自主学習の時間（事前・事後）をとってください。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田井　義人
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TL02439a2,L 科：LL02420a2,D 科・S 科：IL02426a2,P 科：YL02421a2,J 科：JL02437a2,W 科：WL02422a2,N 科：NL02418a2		

授業概要・目的	Ⅰ　授業概要 ・吹田市栄通商店街における地域活性化事業への支援による商店街ブランド作成プロジェクトへの参画（企画・活動・推進・振り返り活動への参画）を行う。 ・当該活動地域は、顧客獲得において対立構造にある商店街、大規模店、コンビニエンスストアが協働している希有な事例であり、TV 等でも紹介された。 ・2018 年度よりプロジェクト事業拡大によりブランド化を模索・推進している地域である。 Ⅱ　目的 ・シャッター街に代表される商店街の課題を成功例に学生が参画（前述のとおり）することと事前学習によって自ら設定した課題認識との比較により地域活性化の方法論を学ぶ。
到達目標	Ⅰ　到達目標（共通） 　本プロジェクトでは、参加メンバー・学外連絡先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 Ⅱ　到達目標（本プロジェクト）：Ⅰの目標を達成するため、以下のいくつかの修得を行うこと。 （１）課題と課題対応した事例を現場体験することで解決プロセスを列挙できること。 （２）課題解決のための課題認識と対応策を具体的に提案できること。 （３）異なる世代間の交流により情報収集のスキルを修得すること。 （４）成功事例を発展させることで他の事例へのＰＤＣＡスキルを醸成できること。 （５）行政依存から脱却し地域の市民主体の取り組みの有効性と効果を体験することで自立した政策提案することができること。 （６）地域住民や商店街関係者との地域活性に尽力する「本気の大人」に出会うことによるコミュニケーション力や「気づき」力を醸成すること。 （７）企画・運営・振り返り資料作成による PPT のスキル、プレゼンテーションスキルを醸成すること。 （８）企画から振り返りまでの一貫した事業展開への参画による PDCA 活用スキルを修得すること。 （９）地域活性化に必要な知識と活用による各種ステークホルダ間の調整スキルを修得すること。 （１０）世代間コミュニケーションスキルを修得すること。
授業方法と留意点	Ⅰ　授業方法 ・少子高齢化の進展と中心市街地での後継者不足とともに大規模店やコンビニエンスストアの出店によって商店街が衰退している。シャッターが閉められ人通りがほとんど無くなっている商店街も地域には多く存在する。 ・本プロジェクトは、このような社会状勢のなか、プロジェクトを企画・運営する地域交流拠点（コンビニ２階）を中心に市民が商店街や大規模店及びコンビニエンスストアとも協働する様々なブランド形成事業に若者である本学学生の視点を取り入れることにより連携先課題であるシャッター商店街防止策を企画・活動・推進・振り返りを行う。 ・上記目的の達成のため、大学における事前・事後学習と演習及び地元での課外学習（参画による）によって到達目標へ指導する。 ・事前学習において、課題設定のブレインストーミングを行い出来ればグループ分けを行う。 Ⅱ　留意点 ・上記学習、演習に必ず参加すること。特に他の授業やクラブなどの課外活動との時間調整であるタイムマネジメントに留意すること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	Ⅰ　授業テーマ：商店街を中心にした地域ブランドの創生 ・事前・事後学習及び講述の課外活動に参画してテーマを達成する事業案の参画 Ⅱ　内容、方法、事前・事後学習課題 （１）事前・事後学習 ・シラバスに記載した教科書、参考書を元に事前学習を行う。学習課題の設定の参考とする。 ・下記課外活動後、事前学習に使用した教科書を元に課外活動等との比較を行う事後学習を行う。 ・上記を通じて得た「気づき」を発表する。（中間報告会、最終報告会） （２）参画する課外活動例 ・４月頃：WEB 稼働及び勉強会。吹田祭企画会議実施。（JR 吹田で一番楽しい場として浸透。近隣店舗の参加推進。会員飲食店の営業推進。） ・５月～６月：今後の企画運営検討（エンタメ教室：地域の子育て世帯の参加者推進。商店街ブランド案の検討：栄通りの特色を検討、商店会は場提供。） 今後の企画運営検討（落研寄席：近隣住民の参画推進。近隣大学等との連携推進：地域モデルの模索、新しい形での連携で「イケテル商店街」構築へ ・７月頃：吹田祭推進、応援 ・８月以降：エンタメ教室に参加。お茶とお花の教室（親子教室）に参加。落研寄席準備に参加。落研寄席-吹田お笑いグランプリに参加。（予選エントリー本戦 16 組くらいで決戦、審査員は素人で公平に。継続により商店会のブランドのひとつとなることを目指す。） ・随時：周辺空き家の活用（古民家を活かしたノスタルジック喫茶店?スタバ）による商店街連携検討。 ・９月頃：エンタメ教室実施。（ミニ四駆をテーマに世代間参加を推進。親子で四駆レースを体験。翌年度吹田祭での大会レースを企画。） ・１０月頃：高浜神社　戎祭支援（チラシ配布、各店お店情報掲載、神社から店への誘導）に参加 ・１２月～３月頃：今年度事業の振り返りと予算策定に参加。翌年度の向けての WEB 委員会年度計画策定二酸化。エンタメ教室、落研寄席予算申請・企画開始に参加。 このスケジュール内に中間報告会、最終報告会がある。
関連科目	地域の持続的発展　地方自治論　地域実践演習　地域貢献実践演習
教科書	番号：1 書籍名：凡人のための地域再生入門 著者名：木下斉 出版社名：ダイアモンド社

2	商店街再生の罠　売りたいモノから顧客がしたいコトへ	久繁哲之介	ちくま書房
3	商店街はなぜ滅びるのか　社会・政治・経済史から探る再生の道	新雅史	光文社新書

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	イギリスに学ぶ商店街再生計画	足立基浩	ミネルヴァ書房
2	その島のひとたちは、ひとの話を聞かない-精神科医「自殺希少地域」を行くー	森川すいめい	青土社
3			

評価方法（基準）

事前事後学習への参加を必修とする。地域での活動内容の発表やプレゼンテーションを通じて評価を行う。

学生へのメッセージ

・教科書１「凡人のための地域再生入門」の黄色部分は必読です。
・商店会のメンバは、商店街の発展を通じて地域活性化に努力している「本気の大人」である。彼らとのコミュニケーションを通じて学生個人のコミュニケーションスキルの醸成と課題設定、解決のプロセスを学ぶ。
・積極的な活動と活動の糧となる読書を推奨する。
・当該商店街だけでなく学生が居住する地域の商店街の課題や地域活性化の課題を発見し対策を模索するプロセスを重視する。
・何よりも商店会が主催する企画会議への出席（参画）が基本である。その他の事業参加も推奨する。

担当者の研究室等

１号館７階　経済学部　田井義人研究室

備考

・事前･事後学習として教科書や参考書の輪読や講評を推奨する。
・課外活動に参画することを重視する。
・やみくもに参画するのではなく、情報や知識習得のため教科書、参考書などの熟読を進める。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田　佐治子.水野　武
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO2439a2,L 科：LLO2420a2,D 科・S 科：ILO2426a2,P 科：YLO2421a2,J 科：JLO2437a2,W 科：WLO2422a2,N 科：NLO2418a2		

授業概要・目的	【テーマ】 社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」の活動支援プロジェクト 【概　要】 枚方市に所在する社会人サッカークラブ「FC　TIAMO 枚方」の活動を支援するための企画を立案・実施する。ホームゲームにおける観戦者向けにアンケートを実施し、来場者は何に価値を求めてるのを明らかにした上で広報戦略を立案する。また枚方市内における認知率を測定し、認知度向上に向けた施策を行う。 また、２月には摂南大学×FC ティアの枚方主催で子ども向けスポーツフェスタを計画している。 【目的】 ・ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し、クラブの広報活動に関する提案を行う ・クラブの広報ポスターを作成し、枚方市内の飲食店等で掲示 ・近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加
到達目標	・学外の方々向けに通用するビジネスマナーを修得する ・アンケートの集計を通じ、回答者の傾向を読み取ることができる ・連携先に企画提案ができる ・広報活動（飛び込み営業）を通じ、基本的な営業スキルを感得する ・メンバー間とのディスカッションを通じ、他者を理解・共感することができる ・締切意識を持ち、「何を、いつまでに、誰が、どうやって」を意識するようになる ・メンバー間の連絡・返信コメントを行えるようになる ・プレゼンテーションの準備を通し、PPT の作成スキルが向上する
授業方法と留意点	「FC　TIAMO 枚方」と連携しつつ，学生が中心となって活動するプロジェクトです。 全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【内容】 ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し，クラブの広報活動に関する提案を行う。そのことにより，近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加を目指す。 【方法】 ・ホームゲームでのアンケート調査の実施と考察 ・連携先へのヒアリングを通じて課題を抽出 ・クラブのプロモーション案の展開を作成・評価・検証（連携先の許可により実施） ・近隣市におけるクラブの認知率測定と認知度の向上のための施策を提案 【年間計画（予定）】 ４月　マーケティング基礎講座の実施 連携先との顔合わせ ５月　ホームゲーム観戦体験 ホームゲーム来場者向けのアンケートの実施 ６月　アンケートの集計と結果を踏まえたイベントの企画立案 ７月　枚方市・寝屋川市内における認知度調査（プレ調査）の実施 域内商店街での広報活動の実施 ８月　ホームゲームでのイベントの実施 ９月　枚方市・寝屋川市における認知度調査（ポスト調査）の実施 10 月　ホームゲーム運営補助 中間報告会 12 月　最終報告会とその準備 ２月　Sports Festival
関連科目	全ての科目
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
評価方法（基準）	全体で行う活動やミーティングへの貢献，自分の役割の遂行，報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表，連携先からの評価を総合的に判断し評価する。
学生へのメッセージ	プロジェクトの成否は，みなさま一人ひとりにかかっています。それぞれが主体的に取り組み，「FC TIAMO 枚方」を盛り立てていきましょう。
担当者の研究室等	吉田佐治子（７号館３階） 水野武（７号館３階）
備考	学外での活動に際し，事前の準備・事後のまとめ等にかなりの時間を要します。活動によっても異なりますが，一つの活動に対して，それぞれ 5?10 時間は必要です。

教養科目

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山　裕士
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO2439a2,L 科：LLO2420a2,D 科・S 科：ILO2426a2,P 科：YLO2421a2,J 科：JLO2437a2,W 科：WLO2422a2,N 科：NLO2418a2		

授業概要・目的	テーマ： 中山間地域における生活支援体制の構築プロジェクト 概　要： 和歌山県海草郡紀美野町をフィールドに、中山間地域におけるひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験、その他の作業等を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。
到達目標	①中山間地域に暮らす人びとの生活を知り、地域生活やその課題の多様性について説明することができる ②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について考えを述べることができる ③中山間地域における生活支援体制の構築にかかわる主体について説明することができる ④「地域の見守り、支え合い」の担い手としての自覚と責任を身につける
授業方法と留意点	文献、資料等を用いた学内研修と和歌山県海草郡紀美野町における現地調査を実施します。 具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	講義では以下の内容に取り組みます（進捗状況によって変更となる場合があります）。 ・学内研修：紀美野町の人口・産業・伝統・観光・その他の特性について、地域福祉の考え方について、日常生活支援体制の構築方法について、中間報告会および最終報告会に向けた準備について、等（週一回程度；各回の実施に当たってはテーマに応じた自主学習（1 時間程度）が求められます） ・地域での活動：地域視察、地域住民との交流、日常生活支援体制構築に向けた実践、等（月一回程度；学外研修後には活動成果の整理および実施意義の分析にかかる自主学習（2 時間程度）が求められます） ・中間報告会、最終報告会：他のプロジェクトと合同で実施（各一回）
関連科目	なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学内研修および地域での活動への主体的な参加および中間／最終報告会に対する貢献度により評価します。
学生へのメッセージ	ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。 都会から離れた場所での生活を実際に体験し、くらしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？
担当者の研究室等	
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤原　京佳.梅野　将之
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO2439a2,L 科：LLO2420a2,D 科・S 科：ILO2426a2,P 科：YLO2421a2,J 科：JLO2437a2,W 科：WLO2422a2,N 科：NLO2418a2		

授業概要・目的	「異文化理解・交流を通した地域貢献プロジェクト」 留学生を含む参加学生が異文化理解・交流にかかわる活動（オリジナルかるた、ゲーム、文化紹介教材、演劇等）を企画し、寝屋川市国際交流協会や近隣学校等において実施していく。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性をもって前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の想像を目指す。 自らの言語・文化資源を活用すると同時に、異なる文化背景をもつ他者と協働し、活動を企画・実行できる。 学外の活動を通して地域への理解を深め、地域における異文化理解・交流を促すことができる。 プロジェクトにおける自身の貢献および不足点を分析し、省察することができる。
授業方法と留意点	さまざま文化背景、価値観をもつ人々と対話・交渉しながら活動を進めていくことになります。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【内容】 ・週１回のミーティングで活動に関する企画を立案し、進捗等を確認する。 ・寝屋川市国際交流協会および近隣学校と連絡をとり、活動内容や日程を決める。 ・必要に応じて本学国際交流センターにおける活動を企画・実施する。 ・活動内容を報告会等で発表する。 【方法】 ・異文化理解・交流をテーマにした教材、ゲーム等を作成する。 ・作成物を使った活動を地域や国際交流センターで実施する。 【事後学習】 受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。 プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらう。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。
関連科目	人文社会系科目全般、外国語科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ミーティング、報告会、各活動への貢献度 60%、活動日誌およびプロジェクト最終レポート 40%
学生へのメッセージ	他者を知り、地域を知るは自分自身を知ることにもつながると思います。 普段自明視している常識、先入観、前提に気づくことから始めてみてください。
担当者の研究室等	
備考	自主学習時間の目安は毎週１時間。

教養科目

科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名（英文）	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TL01437a2,L 科：LL01418a2,D 科・S 科：IL01424a2,P 科：YL01419a2,J 科：JL01435a2,W 科：WL01420a2,N 科：NL01416a2		

教養科目

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、 １）ICT 部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきていることを理解する。 ２）ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ないことを理解する。 ３）グローバル社会において必要とされるビジネス実務ななならびにビジネス実務能力とは何かを学ぶ。 ４）変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを発揮する自らの職業観を確立する。 ようになることが期待される。 なお、講義は担当講師の民間企業社員、自治体職員として業務経験及び、NPO 法人の理事、高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。
到達目標	１）ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身に付ける必要性を学ぶ。 ２）社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化（多様性）を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」（３つの力）を理解できる。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。 また、毎回の座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関してのプレゼンテーションを行う。
科目学習の効果（資格）	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。	・事前学修：自己紹介の原案を考えること（２時間） ・事後学修：プレゼンテーション資料を熟読すること（２時間）
2	ビジネスの定義	・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。	・事前学修：テキストの指定個所を熟読し、ノートにまとめること（２時間） ・事後学修：企業の事例を調べること（２時間）
3	組織の種類　－営利組織と非営利組織－	・阪神淡路大震災後、急速に進化した NPO 組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。	・事前学修：NPO について調べること（２時間） ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成すること（２時間）
4	ビジネス環境をとらえる①－経済のグローバル化と高度情報化－	・グローバル化の明暗について考察する。	・事前学修：グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集めること（２時間） ・事後学修：日本のグローバル化に関する小レポートを作成すること（２時間）
5	ビジネス環境をとらえる②－地球環境問題と少子高齢社会－	・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。	・事前学修：ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめること（２時間） ・事後学修：地球市民として考えたことをまとめること（２時間）
6	ビジネス現場をとらえる－オフィスからワークプレイスへ－	・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。	・事前学修：将来の働き方をイメージし、まとめること（２時間） ・事後学修：グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成すること（２時間）
7	ビジネス実務能力	・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。	・事前学修：働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身に付けるかをまとめること（２時間） ・事後学修：自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめること（２時間）
8	ビジネス実務の基本①　－仕事の進め方－	・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。	・事前学修：問題プリント①を解くこと（２時間） ・事後学修：問題プリント②を解くこと（２時間）
9	ビジネス実務の基本②－ビジネスと諸活動－	・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。	・事前学修：CSR について調べ、まとめること（２時間） ・事後学修：一企業の CSR を選び、レポートを作成すること（２時間）
10	ビジネス実務の基本③－ビジネスと経営資源－	・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。	・事前学修：男女共同参画社会に関して調べ、まとめてくること（２時間） ・事後学修：、ワークライフバランスに関してレポートを作成すること（２時間）
11	ビジネス実務の基本④－ビジネスと PDCA サイクル／マーケティング活動とコストパフォーマンス（経理財務）－	・PDCA サイクルを理解する。 ・マーケティングとコストの関係について理解する。	・事前学修：業界内の２社 CM を比較し、その特徴をまとめること（２時間） ・事後学修：CM の必要性の有無に関してレポートを作成すること（２時間）
12	自己実現とキャリアプランニング　－セルフマネジメントと自己啓発－	・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。	・事前学修：自己振り返りシートを作成すること（２時間） ・事後学修：再度自己振り返りシートを作成し、職業を通した自己意識をまとめること（２時間）
13	ビジネスプラン①－起業への意識－	・日常生活での不便な点、改善すべき点を挙げ、提案をするためのグループワークを行う。	・事前学修：各自がテーマを見つけること（２時間） ・事後学修：グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行うこと（２時

		・CM 比較をイノベーションの観点から行う（とくに CSR に関するもの）。	間）
14	ビジネスプラン②	・CM 比較プレゼンテーションを準備する。 ・実際に企画を考える。	・事前学修：グループのビジネスプランを発展させること（２時間） ・事後学修：グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行うこと（２時間）
15	ビジネスプラン・プレゼンテーション	・作成したビジネスプランに基づいて発表する。	・事前学修：プレゼンテーション準備を行うこと（２時間） ・事後学修：最終レポートを作成すること（２時間）

関連科目

「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	20 歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ
2	イノベーションと企業家精神	P.F.ドラッカー	ダイヤモンド社
3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社

評価方法（基準）

・グループワーク（30%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（40%）を総合的に評価する。
・毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンが繰り返される予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。

学生へのメッセージ

私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。

担当者の研究室等

７号館５階　教育イノベーションセンター（石井）

備考

予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。

科目名	大学教養応用	科目名（英文）	Applied Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大塚　正人.伊藤　譲.越　希美江.原　由紀子.柳沢　学
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：IT01428a2～IT01432a2,L 科：LT01422a2～LT01426a2,D 科・S 科：IT01428a2～IT01432a2,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

教養科目

授業概要・目的	この科目は，プロジェクトベースドラーニング形式で学ぶ，学部の枠を越えた教養応用科目です．初年次の大学教養入門と大学教養実践のステップアップの講座としての位置づけです． 本科目の目的は，自分の未来のためには「学び」を実践していくことが大切であることを知ることにあります．そして，今後の大学での学びにおいても社会との接点を考えながら学ぶ姿勢を持ってもらうため，大学生として必要な，SDGs(2030 年までの世界の目標)などを中心とした教養（社会、経済、環境等）を身に付けます．また，身につけた知識をもとに考え、未来に向けての実践行動に活かすため、シナリオプランニングを活用します． なお，授業担当者伊藤は建設系公団での対外折衝から人材育成まで幅広い実務経験から，社会人としての心がけ，コミュニケーション力の大切さを学生に伝えることができる．柳沢は大手建築会社における研究開発と設計業務の実務経験から，チームワーク力を学生に伝えることができる．原由紀子，越希美江は自治体や医療機関等でのファシリテーション講師の実務経験が豊富であり，多様な学生が入り混じった授業の運営を得意とする．
到達目標	(1)社会課題を考えるための教養として，SDGs(2030 年までの世界の目標)について知り，討議することができる． (2)読書により教養を身につけ，さらに自分が知りたいと思うことについて「テーマ設定」をすることができる． (3)シナリオプランニングを通して，情報収集の方法を知り，実践できる．論理的思考を知り，実践できる． (4)論理的でわかりやすく、効果的なプレゼンテーションをすることができる． (5)ファシリテーション力を身につけ、合意形成を促進するなどチームへの貢献ができる． (6)チームの中でリーダーシップを発揮し，成果が上がる協働作業に貢献ができる．
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で，自ら主体的に，仲間と対話を通して理解を深め，表現するための技術等を修得します．学修法として ABD（アクティブ・ブック・ダイアログ），テーマ設定のための QFT，未来を検討するためのシナリオプランニング等の協働学習による学びを体験します．この科目では，教員が知識を伝えるのではなく，チームの一員として協働学習に取り組むことにより，人間関係のつくり方，チームワークの仕方，リーダーシップ，ものごとに対する柔軟な対応力を身につけます．諸君が積極的に参加することが大切となります．
科目学習の効果（資格）	社会課題を議論するための教養として SDGs（2030 年までの世界の目標）を知る．自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる．多様なメンバーと意見を交わしながらシナリオを作成することで，違いを活かし合い新しいものを共創する力を育むことができる．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	アイスブレイク 事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る シナリオプランニング体験 振り返りシート	SDGs を調べる（3 時間以上）
2	世界を知る教養：　2030SDGs を体感する	2030SDGs カードゲームを実施する．入門編でも行っているが，そのときとの違いを知る。 振り返り、振り返りシート	SDG s 前文を読み、サマリーの下書きをする（3 時間以上）
3	世界を知る教養：　SDGs 前文	解説，理解度確認クイズ 協働学習，プレゼン，対話 テーマ設定 振り返り、振り返りシート	設定したテーマをリサーチ、それに関連するアカデミックインパクトもリサーチ ワークシート作成（3 時間以上）
4	世界を知る教養：　SDGs 前文＋アカデミックインパクト	解説，理解度確認クイズ リサーチの共有 「2030 年未来タイムズ」を作成 プレゼンテーションを実施. 振り返り、振り返りシート	教科書の P32-97 を読み、担当のパート部分のサマリーの下書きをする（3 時間以上）
5	世界を知る教養：SDGs（アジェンダ 1-10）	解説，理解度確認クイズ 協働学習，プレゼン，対話 テーマ設定 振り返り、振り返りシート	設定したテーマをリサーチ、それに関連するアカデミックインパクトもリサーチ ワークシート作成（3 時間以上）
6	世界を知る教養：　SDG s（アジェンダ 1-10）+アカデミックインパクト	解説，理解度確認クイズ リサーチの共有 「2030 年未来タイムズ」を作成 プレゼンテーションを実施. 振り返り、振り返りシート	教科書の p98-159 を読み、担当のパート部分のサマリーの下書きをする（3 時間以上）
7	世界を知る教養：SDGs（アジェンダ 11-17）	解説，理解度確認クイズ 協働学習，プレゼン，対話 テーマ設定 振り返り、振り返りシート	設定したテーマをリサーチ、それに関連するアカデミックインパクトもリサーチ ワークシート作成（3 時間以上）
8	世界を知る教養：　SDG s（アジェンダ 11-17）+アカデミックインパクト	解説，理解度確認クイズ リサーチの共有 「2030 年未来タイムズ」を作成 プレゼンテーションを実施. シナリオプランニングとは講義	振り返りレポート 外部環境リサーチ（3 時間以上）
9	未来を考える教養：　ほぼ確実な未来を考える	解説、 課題の共有，提出 協働学習 振り返り、振り返りシート	外部環境リサーチシート作成（3 時間以上）
10	未来を考える教養：　不確実な未来を考える①	課題の共有，提出 協働学習 10 年後の未来シナリオづくり	外部環境リサーチシート作成（3 時間以上）

		振り返り、振り返りシート	
11	未来を考える教養：　不確実な未来を考える②	課題の共有，提出 協働学習 10 年後の未来シナリオ完成 振り返り、振り返りシート	グループでシナリオ完成（3 時間以上）
12	未来を考える教養：　不確実な未来を考える③	課題の共有，提出 協働学習、プレゼンテーション講義 10 年後の機会、脅威、対応策検討 振り返り、振り返りシート	ポスター作成，プレゼンテーション準備（3 時間以上）
13	未来を考える教養：　プレゼンテーション	プレゼンテーション実施，質疑応答 プレゼンテーション相互評価 振り返り、振り返りシート	自己の行動計画案作成（3 時間以上）
14	未来を考える教養:未来に向けての行動計画作成	課題の共有，協働学習，対話 ワールドカフェ実施、行動計画完成 振り返り、振り返りシート	振り返りレポート 2 回目（3 時間以上）
15	全体振り返り	全体を通しての学びの整理、共有，振り返り	振り返りレポート 2 回目（3 時間以上）

関連科目

摂南大学で開講されている科目のすべて?

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	SDGs アジェンダ前文		国連
2	未来を変える目標 SDGs アイデアブック	蟹江憲史	紀伊國屋書店　1,800 円(税別)
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

・取り組み姿勢（チーム：20%）
・新聞作り／発表（チーム：20%）
・振り返りレポート　2 回（個人：20%）　　・振り返りシート（個人：10%）
・理解度確認クイズ（個人：　10%）
・外部環境リサーチ　3 回（20%）
以上の評価点の合計で 60%以上を合格とする．期末試験は実施しない．
なお，成績評価の対象は原則として出席率 80%以上の学生とする．

学生へのメッセージ

この授業では，すべての学部の学生が，学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います．この授業を履修することで，大学生として未来を創っていくための教養，コミュニケーション力，ファシリテーション力，学習方法が身に付き，さらに学部，学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう．？

担当者の研究室等

大塚正人（薬学部 1 号館 5F），伊藤譲（1 号館 3F），柳沢学（8 号館 3F），喜多大三（7 号館 8F），水野武（7 号館 3F），原由紀子（非常勤講師室），越希美江（非常勤講師室）

備考

バインダーを用意し、資料を管理します．この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践 I からつながる科目です．教養を身につけながら学習法を修得することを期待しています．また，学部や学科を越えた多くの友人を見つけてください．

科目名	大学教養実践	科目名（英文）	Practical Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊藤　譲.越　希美江.原　由紀子.藤林　真美.柳沢　学
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：IT01428a2～IT01432a2,L 科：LT01422a2～LT01426a2,D 科・S 科：IT01428a2～IT01432a2,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	この科目は，チームで協働し，対話を通し学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です．前期の大学教養入門のステップアップ講座としての位置づけです． 本科目の目的は，大学生として必要な教養として，文学，社会学や経済学の基礎知識を身につけ，その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します．そうすることで，教養としての知識を実社会での実践にむすびつけることを目指します． なお，,授業担当者伊藤は建設系公団での対外折衝から人材育成まで幅広い実務経験から，社会人としての心がけ，コミュニケーション力の大切さを学生に伝えることができる．柳沢は大手建築会社における研究開発と設計業務の実務経験から，チームワーク力を学生に伝えることができる．原由紀子，越希美江は自治体や医療機関等でのファシリテーション講師の実務経験が豊富であり，多様な学生が入り混じった授業の運営を得意とする．
到達目標	(1)大学生として必要な教養レベルを身につけ，実践的に討議することができている． (2)ABD による読書法を身に付けている． (3)QFT により，自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができるようになる． (4)人間関係のつくり方，チームワーク能力，リーダーシップを身に付けることができる． (5)論理的でわかりやすいプレゼンテーションをすることができる． (6)ファシリテーションの基礎能力を身に付け，協働学習を進めることができる．
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で，自ら主体的に，仲間と対話を通して理解を深め，表現するための技術等を修得します．大学生として必要な教養を身につけ，身につけた教養，知識をもとに，社会課題の解決策を協働学習により検討します．この科目では，これまでの授業とは異なり，教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので，諸君が積極的に参加することが大切です．？
科目学習の効果（資格）	大学生に必要な教養の知識が身につき,それを元に社会課題について討議できる．ABD,QFT 法等の協働学習の方法が身につく．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	アイスブレイク 事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る チームづくり＋振り返りの大切さ	「星の王子さま」1 章?12 章を読み、サマリーの下書き(3 時間以上)
2	教養としての文学に触れる：「星の王子さま」	教科書の紹介，概要 ABD による学習の進め方の説明 ABD にチャレンジ 振り返り、振り返りシート	「星の王子さま」13 章?24 章を読んでサマリーの下書き(3 時間以上)
3	教養としての文学に触れる：「星の王子さま」	解説 協働学習，プレゼン，対話 振り返り、振り返りシート	「星の王子さま」25 章?27 章を読んでサマリーの下書き(3 時間以上)
4	教養としての文学に触れる：「星の王子さま」	解説 協働学習，プレゼン，対話 QFT により、探求テーマだし 振り返り、振り返りシート	探求テーマのリサーチ，検討(3 時間以上)
5	教養としての文学に触れる：中間成果発表	解説 前回課題の共有、対話 ポスター作成 プレゼン，質疑応答 振り返り、振り返りシート	振り返りレポート 1 回目 「未来の年表」P3-79 を読み、サマリーの下書きをする(3 時間以上)
6	教養として社会課題を知る：「未来の年表」	教科書の紹介 解説 協働学習，プレゼン，対話， 理解度確認クイズ，振り返りシート	「未来の年表」P3-79 から、重要なキーワードとキーセンテンスを抜き出し調べてくる(3 時間以上)
7	教養として社会課題を知る：「未来の年表」	キーワードの共有、解説 QFT による探求テーマだし 大切な質問作り 振り返り、振り返りシート	探求テーマの調査(3 時間以上)
8	教養として社会課題を知る：「未来の年表」	探求テーマの調査の共有、提出 テーマ別ポスター作り プレゼンテーションを実施する 相互評価、振り返り、振り返りシート	「未来の年表」P80-146 を読み、サマリーの下書きをする(3 時間以上)
9	教養として社会課題を知る：「未来の年表」	解説、 協働学習，プレゼン，対話， 理解度確認クイズ，振り返り 振り返り、振り返りシート	「未来の年表」p80-146 から、重要なキーワードとキーセンテンスを抜き出し、調べてくる(3 時間以上)
10	教養として社会課題を知る：「未来の年表」	キーワードの共有、解説 QFT による探求テーマだし 大切な質問作り 振り返り、振り返りシート	探求テーマの調査(3 時間以上)
11	教養として社会課題を知る：「未来の年表」	探求テーマの調査の共有、提出 テーマ別ポスター作り プレゼンテーションを実施する 振り返り、振り返りレポート	「未来の年表」第２部を読む(3 時間以上)
12	教養として社会課題を知る：「未来の年表」	自分たちで解決策を考えたい社会課題テーマを決める 理解度確認クイズ，振り返り 振り返り、振り返りレポート	解決策の検討(3 時間以上)

13	教養として社会課題を知る：「未来の年表」	解決策を検討、ポスター作成 プレゼンテーション準備 振り返り、振り返りレポート	ポスター作成、プレゼンテーション準備(3 時間以上)
14	教養として社会課題を知る：最終発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り、振り返りレポート	振り返りレポート 2 回目(3 時間以上)
15	全体振り返り	全体を通しての学びの整理、共有，振り返り	振り返りレポート 2 回目(3 時間以上)

関連科目

摂南大学で開講されている科目のすべて?

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	星の王子さま	サン＝テグジュペリ	新潮文庫　476 円
2	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書　760 円
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

・取り組み姿勢（チーム：30%）
・ポスター／発表（チーム：20%）
・振り返りレポート　2 回（個人：20%）　　・振り返りシート（個人：10%）
・理解度確認クイズ（個人：20%）
以上の評価点の合計で 60%以上を合格とする．期末試験は実施しない．
なお，成績評価の対象は原則として出席率 80%以上の学生とする．

学生へのメッセージ

　この授業では，すべての学部の学生が，学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います．この授業を履修することで，大学生としてふさわしい教養の基礎，コミュニケーション力，ファシリテーション力，と学習方法が身に付き，さらに学部，学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう．？

担当者の研究室等

伊藤譲（1 号館 3F），柳沢学（8 号館 3F）　大塚正人（薬学部 1 号館 5F），喜多大三（7 号館 8F），藤林真美（総合体育館 1F），水野武（7 号館 3F），原由紀子（非常勤講師室），越希美江（非常勤講師室）

備考

バインダーを用意し、資料を管理します．この科目は前期の大学教養入門と同じスタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です．また，学部や学科を越えた多くの友人を見つけてください．？

科目名	大学教養入門	科目名（英文）	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	荻田　喜代一.伊藤　譲.大塚　正人
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：IT01428a2～IT01432a2,L 科：LT01422a2～LT01426a2,D 科・S 科：IT01428a2～IT01432a2,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

教養科目

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です．本科目の目的は，大学生としての教養を身に付けるスタートラインに立つことにあり，自らが主体的に知識を獲得し，対話を通して理解を深め，表現するための技術等を修得することです．授業では教養の入門書を用いて ABD（アクティブ・ブック・ダイアログ）読書法や協働学習の習慣を身に付けるとともに，チームワーク能力，コミュニケーション能力等を身に付けることを目指します． なお，授業担当者伊藤は建設系公団での対外折衝から人材育成まで幅広い実務経験から，社会人としての心がけ，コミュニケーション力の大切さを学生に伝えることができる．柳沢は大手建築会社における研究開発と設計業務の実務経験から，チームワーク力を学生に伝えることができる．藤林真美は医療機関での運動指導の業務に従事した実務経験から，対話力を学生に伝えることができる． 授業担当者伊藤は建設系公団での対外折衝から人材育成まで幅広い実務経験から，社会人としての心がけ，コミュニケーション力の大切さを学生に伝えることができる．柳沢は大手建築会社における研究開発と設計業務の実務経験から，チームワーク力を学生に伝えることができる．石井は企業，自治体，NPO の運営等の実務経験から社会人基礎力全般の教育を専門としている．
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身に付けている． (2)ABD による読書法を身に付けている． (3)チームワーク能力を身に付け，対話を通じた協働学習をすることができる． (4)SDG s と UNAI について基礎的な知識を身に付けている． (5)読書の意義を理解して読書習慣を身に付けている． (6)コミュニケーション能力を身に付け，自分の考えを相手に伝え，相手の考えを理解することができる．
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で，自ら主体的に，仲間と対話を通して理解を深め，表現するための技術等を修得します．教養の入門書を用いて ABD（アクティブ・ブック・ダイアログ）学修法を中心として，読書，対話，発表等の協働学習による学びを体験します．この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので，諸君が積極的に参加することが大切です．
科目学習の効果（資格）	大学生に必要な教養の基礎知識が身につく．ABD 法等の協働学習の方法が身につく．

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「大人の教養」序章　私たちはどこから来て、何処へ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 科目の特徴，どのような力が身につくのか 「教養とは何か？」 ABD の体験	「おとなの教養」第二章を読むこと(1.5 時間以上)
2	教養入門：「大人の教養」 第二章　宇宙	教科書の紹介，概要 チーム作り，授業の約束事 ABD による学習の進め方の説明 ABD 法に挑戦「第二章 宇宙」	「おとなの教養」第六章を読むこと(1.5 時間以上)
3	教養入門：第六章　歴史	解説 協働学習，対話 理解度確認クイズ，振り返り	「おとなの教養」第四章を読むこと(1.5 時間以上)
4	教養入門:第四章　人間と病気	解説 協働学習，対話 理解度確認クイズ，振り返り	「おとなの教養」第一章を読むこと(1.5 時間以上)
5	教養入門：第一章　宗教	解説 協働学習，対話 理解度確認クイズ，振り返り 中間発表テーマの決定	中間発表の下調べ、ポスターの案（3 時間以上）
6	教養入門：中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	ポスターの改善、プレゼンの改善 振り返りレポート１回目（3 時間以上）
7	教養入門：中間成果発表	ポスター改善 発表・質疑応答 振り返り	SDG s とは何か調べる（3 時間以上）
8	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ?	SDGs の概要 SDG s ゲーム 理解度確認クイズ，振り返り	チーム学習の振り返り（1.5 時間以上）
9	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ?	SDG s とは何か ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ，振り返り	UNAI とは何かを調べる（3 時間以上）
10	世界を知る教養:国連アカデミックインパクト?	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ，振り返り	振り返り学習：割り当て個所全体の読み返し（2 時間以上）
11	自分を知る教養:岸見著「アドラー心理学入門」 第二章 アドラー心理学の育児と教養?	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り	「アドラー心理学」第二章まで読むこと(2 時間以上)
12	自分を知る教養： 第四章 アドラー心理学の基礎理論?	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り	「アドラー心理学」第四章を読むこと(1.5 時間以上)
13	自分を知る教養： 第五章　人生の意味を求めて?	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ，振り返り 中間発表テーマの決定	「アドラー心理学」第五章を読むこと(1.5 時間以上)
14	自分を知る教養:中間成果発	ポスター作成	振り返りレポート２回目

	表	発表・質疑応答 振り返り	（3 時間以上）
15	大学教養入門：まとめ	グループワーク「教養とは何か？」 事後アンケート	振り返りレポート３回目 （3 時間以上）

関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版
2	アドラー心理学入門	岸見一郎	KK ベストセラーズ
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	・取り組み姿勢（チーム：30%） ・ポスター／発表（チーム：30%） ・振り返りレポート　3 回（個人：30%） ・理解度確認クイズ（個人：10%） 以上の評価点の合計で 60%以上を合格とする．期末試験は実施しない． なお，成績評価の対象は原則として出席率 80%以上の学生とする．
学生への メッセージ	この科目は全国に先駆けて実施する摂南大学独自の教養科目です．授業では，すべての学部の学生が，学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います．この授業を履修することで，大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き，さらに学部，学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう．
担当者の 研究室等	荻田喜代一（7 号館 8F，副学長室），伊藤譲（1 号館 3F），柳沢学（8 号館 3F）　大塚正人（薬学部 1 号館 5F），藤林真美（総合体育館 1 F），久保貞也（11 号館 7F），寺内睦博（11 号館 10F），石井三恵（7 号館 5F）
備考	この科目は，入学式～キックオフセミナーからつながる科目です．教養を身につけながら学習法を身につけることを期待しています．また，学部や学科を越えた多くの友人を見つけてください．

科目名	ダイバーシティとコミュニケーション	科目名（英文）	Diversity and Communication
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：IT01428a2～IT01432a2,L 科：LT01422a2～LT01426a2,D 科・S 科：IT01428a2～IT01432a2,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、 １）グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れていることを知る。 ２）「境界線」も一つの視野では理解できないことをわかる。 ３）さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ（多様性）を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。 ４）ジェンダーの基本的理解はもちろん、ビジネスにおけるダイバーシティマネジメントをジェンダー視点で俯瞰する。 容認することが期待される。 なお、講義は担当講師の民間企業社員、自治体職員として業務経験及び、NPO 法人の理事、高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
科目学習の効果（資格）	・ダイバーシティマネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。 ・「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ダイバーシティの世界へようこそ ・政策提言へ向けて	・事前学修：ダイバーシティに関して、調べること（１時間） ・事後学修：身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成すること（３時間）
2	ダイバーシティと境界線	・ウチとソトの感覚	・事前学修：私たちの周りにある伝統や習慣について考えること（２時間） ・事後学修：「ウチとソト」に関するレポートを作成をすること（２時間）
3	ジェンダー視点	・フェミニズム×女性学＋男性学＝人間学 ・時代を生きた女性たち６名に関して調査	・事前学修：フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べること（２時間） ・事後学修：活躍した女性たちに関してグループで文献調査し、まとめること（２時間）
4	日本の近代化	・明治の落とし物 ・グループで時代を生きた女性たちに関するプレゼンテーション	・事前学修：明治・大正・昭和の歴史年表を作成すること（２時間） ・事後学修：明治・大正・昭和の世相と時代を文学の世界から垣間見ることによって、現代にも残存している慣習に関してレポートを作成すること（２時間）
5	国際統計比較	・ジェンダーギャップ ・ジェンダーエンパワーメント指数	・事前学修：国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えること（２時間） ・事後学修：国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成すること（２時間）
6	性役割の形成①	・発達段階における「刷り込み」 ・DV/デート DV	・事前学修：性役割を理解し、幼児期から振り返ること（２時間） ・事後学修：自らの「刷り込み」体験に関するレポートを作成すること（２時間）
7	性役割の形成②	・結婚と母性信仰 ・妊娠と出生前診断 ・優生保護法と母体保護法 ・「親になること」と「親であること」の相違	・事前学修：共同作業である結婚の意味を見直すと同時に、親役割に関して考えること（２時間） ・事後学修：自らの結婚観に関するレポートを作成すること（２時間）
8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	・M 字型労働力率曲線とビジネスマインドの形成 ・格差と二極分化	・事前学修：日本と世界を比較しながら、女性労働について考えること（２時間） ・事後学修：M 字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成すること（２時間）
9	男女共同参画社会とワークライフバランス	・ジェンダーマネジメント ・働き方改革	・事前学修：ワークライフバランスとは何か、政府の見解を調べること（２時間） ・事後学修：ワークライフバランスが必要な理由をまとめ、レポートを作成すること（２時間）
10	中間プレゼンテーション	・各自決めたテーマに関して調査考察した結果を発表する	・事前学修：調査考察し、発表準備をすること（２時間） ・事後学修：議論した結果などを加筆し、最終プレゼンに向けて練習すること（２時間）
11	アサーティブネス理論①	・世界中でアサーティブネスが用いられる理由 ・政策提言へ向けての中間レポート提出	・事前学修：アサーティブネスについて調べること（２時間） ・事後学修:アサーティブに話す練習をすること（２時間）
12	アサーティブネス理論②	・スキルの必要性を理解し、身に付けることを試みる	・事前学修：アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考えること（２時間） ・事後学修：アサーティブネス理論を使うことによる自身の変化についてレポートを作成すること（２時間）

13	ダイバーシティマネジメント①	・企業比較から政策提言へ	・事前学修：企業が必ず取り入れているダイバーシティマネジメントについて、事例研究すること（２時間） ・事後学修：興味のある企業のダイバーシティマネジメントに関してダイバーシティの視点からの政策提言に関するレポートを作成すること（２時間）
14	ダイバーシティマネジメント②	・政策提言プレゼンテーション ・自由討議	・事前学修：事例研究した内容をプレゼンテーションできるよう練習すること（２時間） ・事後学修：事例研究した内容をより上手くプレゼンテーションできるよう練習すること（２時間）
15	まとめ	・最終レポート提出 ・まとめ	・事前学修：ダイバーシティ・マネジメントについて述べられるようまとめること（２時間） ・事後学修：ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめること（２時間）

関連科目

「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社
2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房
3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書

評価方法（基準）

ロールプレイ（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。

学生へのメッセージ

皆さんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論、そしてダイバーシティにあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもにそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。

担当者の研究室等

７号館５階　教育イノベーションセンター（石井）

備考

予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。

科目名	地域貢献実践演習	科目名（英文）	Practical Training for Social Innovation
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂　貴恵.石井　三恵.上野山　裕士.藤林　真美.水野　武
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TLO3440a2,L 科：LLO3421a2,D 科・S 科：ILO3427a2,P 科：YLO3422a2,J 科：JLO3438a2,W 科：WLO3423a2,N 科：NLO3419a2		

授業概要・目的	この授業は、ソーシャルイノベーション副専攻課程における総仕上げ科目です。 これまで、講義やフィールドワークで見つけた学びを総合的に活かして、地域の課題により深く関与し、課題の解決を導くための計画策定から、実施、検証にいたるまでを、学生が主体的に取り組みます。 その過程のなかで、理論と実践を結び付け方を体験を通じて学び、新たな成長につなげていくことが目的です。 具体的にはグループ単位で地域担当者と密に連携しながら、課題の抽出から解決までの年間計画を立て、現地で実践と振り返りをくりかえしながら、当初立てた目的達成にチャレンジしていきます。
到達目標	①これまで学んだ理論を実践に結び付けて、考察し行動することができる。 ②課題発見から解決までの PDCA サイクルを回すことができる。 ③チームで活動することができる。 ④チーム内ので役割行動ができる。 ⑤地域の多様性、独自性などを理解した上で、解決策を提示することができる。
授業方法と留意点	この授業はグループワークで行います。 ・学生が主体的に地域の課題を解決するため、フィールドに赴き活動を行います。 ・中間発表会、最終報告会での発表（チーム単位）、個人別レポートの作成が課せられます。 ・チームで活動を行うため、コミュニケーションを密にし、役割行動ができることが求められます。 ・社会に出れば、必ず求められる「報告、連絡、相談」を実践し、チームで情報共有しながら連携先との相互理解を図り、課題解決のための、計画策定から実施、振り返りまで、途中で投げ出すことなく取り組むことが求められます。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	この授業は学生がチームごとに主体的にフィールドワークを行っていきますが、月に１度程度、共有を図り、進捗状況の確認を行います。 チームで活動したときには、必ず日誌を作成し、担当教員、連携先、チームメンバーに共有をしてください。 また、課題や問題が発生した時には、必ず担当教員に相談をしてください。 月に１度程度のミーティングの年間スケジュールは第１回目に提示します。 第１回　　4 月 18 日（木）　6 時間目　　オリエンテーション　　ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ内容や進め方の説明を行います 履修者は必ず出席してください。
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	活動の取組（自己評価、相互評価、連携先からの評価等）50%、発表会での発表（中間、最終）20%、レポート 30%
学生へのメッセージ	PBL より、さらに踏み込んだ活動を行い、応用力や実践力をつけましょう！
担当者の研究室等	
備考	【事前学習】活動を実施するまでには、チームで議論し役割分担を決め準備を行います。またミーティング等活動をしたときは活動記録を作成ください。そのためには１時間～４時間程度の自主学習時間が必要となります。 【事後学習】活動を行った後は、結果をまとめ、チームでミーティングを行い振り返りをしてください。また全体ミーティングに備えて、スライドの作成をしてください。この場合も活動記録を作成してください。これらの活動に１～4 時間程度の自主学生時間が必要となります。

科目名	地域と私	科目名（英文）	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鶴坂　貴恵.石井　三恵.稲地　秀介.上野山　裕士.久保　貞也.田中　結華.藤林　真美
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ○,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TL01435a2,L科：LL01416a2,D科・S科：IL01422a2,P科：YL01417a2,J科：JL01433a2,W科：WL01418a2,N科：NL01414a2		

授業概要・目的	「地域」に焦点を当てて学ぶ意義を理解し、地域ではどのような課題が存在しているかを学ぶために、テーマごとに学習をします。その後、体験学習では過疎地域である由良町を対象として、由良町の現状と課題を知った上で、現地に赴いて、グループ単位で調査の上、解決策を考え発表します。 この授業は、講義のテーマによって担当教員が変わるオムニバス授業です。 また由良町役場の行政担当者や地元事業者などの実務経験者より、由良町の現状や課題、現在取り組んでいる対応策について講義があります。
到達目標	・地域のことを学ぶ意義を理解する。 ・地域の課題を理解する。 ・地域の課題について解決策を提案できる。 ・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。 ・グループの中で自分の役割を理解しながら活動できる。
授業方法と留意点	グループで議論等をした上で、グループごとに発表、レポートの作成といったグループワークが中心の授業です。 第２回目、３回目は外部講師による体験型の研修となります。 第 11 回目は和歌山県由良町での体験学習となります。 グループワークで学習を進めて行きますので、グループのメンバーに迷惑がかからないよう責任のある行動をしてください。
科目学習の効果（資格）	
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ４月１３日（土）２時間目	到達目標や授業方法、成績評価方法等について説明します。 地域のことを学ぶ意義を解説します。 （鶴坂）	【事前学習】 シラバスをみて、内容を確認する。 地域のことを学ぶことについて自分なりに考える（1 時間） 【事後学習】 地域という視点で新聞等のニュースを探し、読み、自分なりの意見を考える（1 時間）
2	自己の探求 ４月２０日（土）	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 (外部講師・鶴坂)	体験型セミナーでの気づきをまとめる（1 時間）
3	自己の探求 ４月２１日（日）	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 （外部講師・鶴坂）	体験型セミナーでの気づきを今後、どのように活かすかを考え、レポートをまとめる（２時間）
4	今、地域で何が起きているか ５月１８日（土）１限	人口減少時代の都市・地域の問題や課題について解説し、地域貢献活動の重要性について考えます。 （鶴坂）	【事前学習】 キーワード「消滅可能性都市」について調べる（1 時間）。 【事後学習】由良町の現状と人口減少等の地域の問題を結びつける。その上で由良町での人口減少の理由を考え、グループでレポートをまとめる（2 時間）
5	由良町関係者の講演 ５月１８日（土）２限	和歌山県由良町役場の方に来学いただき、観光、環境・防災、スポーツ・文化、地域医療の各領域の現状や課題をお聞きします。(鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 和歌山県由良町の概要を調べる（1 時間） 【事後学習】 和歌山県由良町の課題をまとめグループでレポートをまとめる（2 時間）
6	地域経済・経営 －地域の観光･ブランディング－ ５月１８日（土）３限	観光資源を活用した地域経済の活性化と地域のブランディングについて学習し、都市部と過疎地域での取組の違いを議論します。 （鶴坂・久保）	【事前学習】 地域資源を活用した観光によるまちおこしの事例を調べる（1 時間） 【事後学習】 由良町の観光の目玉を考え、グループでレポートをまとめる（2 時間）
7	地域環境・防災 －空き家の現状と課題－ ６月１日（土）１限	大都市周辺市街地と地方農山村部とでは空き家を取り巻く状況は異なります。地域特性ごとに異なる空き家の現状と課題を学習し、寝屋川市や和歌山県下の市町村などを対象とした空き家対策などについて議論します。 （稲地）	【事前学習】 授業前に国内の空き家問題を概観するために、国土交通省や自治体などが行っている調査結果、対策、制度など情報をインターネットなどで収集・整理しておくこと（1 時間） 【事後学習】 授業後は議論した内容をふまえ、由良町における空き家対策について検討し、グループでレポートをまとめる（2 時間）
8	地域政策・文化 －地域とスポーツ－ ６月１日（土）２限	地域とスポーツとの関連；「トップスポーツ（プロ野球やプロサッカー、ラグビーのトップリーグ、都道府県対抗駅伝など）との循環による郷土愛的な地域性」および「地域スポーツクラブにおける住民のスポーツ参加」について理解・議論します。 （藤林）	【事前学習】 事前に提示するキーワードについて予習しておくこと（1 時間） 【事後学習】 授業ノート等で復習の上、由良町にける地域スポーツを振興するための方策を検討しグループでレポートをまとめる（2 時間）
9	地域医療 －地域で健康な生活を送るには？－ ６月 15 日（土）１限	民が活用できる、組織、サービス、専門職について理解し、地域で健康な生活を送るための課題を多様な視点から話し合います。	【事前学習】事前に提示するキーワードについて各自調べておくこと(1 時間) 【事後学習】 授業で発表された内容について整理し、由良町の地

		（田中・上野山）	域医療の課題についてまとめグループでレポートにまとめる（2 時間）
10	事前学習 グループワーク ６月１５日（土）２、３限	由良町を対象として、地域経済・経営、地域政策・文化、地域環境・防災、地域医療のどの切り口で課題発見や解決策に取組むかをグループで検討します。また、グループ内での分担を決めます。（鶴坂、稲地、藤林、上野山）	【事前学習】 グループでどの領域の問題を取り扱うか決めておく（1 時間） 【事後学習】 由良町でのフィールドワークの準備を行う（2 時間）
11	体験学習 （和歌山県由良町） ６月２９日（土）終日	由良町に出かけ、フィールドワーク（調査）を行います。（鶴坂、稲地、藤林、上野山）	【事前学習】 現地で調べることについて予備調査しておく（1 時間） 【事後学習】 現地で得られた情報をまとめておく（２時間）
12	プレゼンテーション講座 ７月６日（土）１限	プレゼンテーションについての解説、パワーポイントによる資料作成方法の解説をします。 （石井、鶴坂）	【事前学習】 現地で得た情報をまとめておく（1 時間） 【事後学習】 スライドをつくってみる（２時間）
13	事後学習① グループワーク ７月６日（土）２限	現地で得た情報の整理をもちより、発表できる形にしていきます。 （鶴坂、稲地、藤林、上野山）	【事前学習】 グループで情報を共有化しておく（2 時間） 【事後学習】 発表できるよう準備をする（４時間）
14	事後学習② 成果発表会 ７月２０日（土）１、２限	作成したスライドを使い、成果発表を行います。 （鶴坂、稲地、藤林、上野山）	【事前学習】 発表の練習を行う（４時間） 【事後学習】 他のグループの取組内容の整理をする（1 時間） 発表したときのコメントや質問を自分たちのグループの発表内容に反映させ、レポート作成に役立たせる。
15	事後学習③ ふりかえり ７月２１日（土）３限	「地域と私」全体の総括、ふりかえりを行います。（鶴坂）	【事前学習】 これまでのプリントや副専攻課程ガイドブック等を整理する（1 時間） 【事後学習】 副専攻課程ガイドブックの完成、レポート作成（3 時間）

関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	グループワークの成果物　40% グループの成果発表　20%（ルーブリック評価） 最終レポート　40%　６０%で合格とする。
学生への メッセージ	地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。
担当者の 研究室等	鶴坂研究室　11 号館７階
備考	

科目名	地域連携教育活動Ⅰ	科目名（英文）	Communitiy-Based Education Support Activities Ⅰ
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田　佐治子.朝日　素明.谷口　雄一.林　茂樹
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,N科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V科･R科･A科･M科･E科･C科:IT01428a2～IT01432a2,L科:LT01422a2～LT01426a2,D科･S科:IT01428a2～IT01432a2,P科:YT01423a2～YT01427a2,J科：,W科：WT01424a2～WT01428a2,N科：NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	本科目はサービスラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週１回９０分行う。 ※ 担当者のうち２名は、長く学校に勤務した経験をもっている。また、小学校・中学校での活動では、現職の先生方から直接ご指導いただく。
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年２月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」を初めて履修する学生を対象とする。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	事前指導１　活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備 事前指導２　マナー講座・小中学校の教育現場について 事前指導３　「守秘義務」の意味とその内容について 活動準備　受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する 活動 1～25　受け入れ校にて活動　（活動業務日報・活動時間票の提出） 最終報告会　活動報告会を開催する。 ※注意事項 事前指導に１回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。 事前・事後学習課題 学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各１時間程度行う。
関連科目	教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
担当者の研究室等	７号館３階（朝日研究室）、７号館４階（谷口研究室）、７号館３階（林研究室）、７号館３階（吉田研究室）
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名（英文）	Communitiy-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田　佐治子.朝日　素明.谷口　雄一.林　茂樹
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,N科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V科･R科･A科･M科･E科･C科:IT01428a2～IT01432a2,L科:LT01422a2～LT01426a2,D科･S科:IT01428a2～IT01432a2,P科:YT01423a2～YT01427a2,J科：,W科：WT01424a2～WT01428a2,N科：NT01420a2～NT01424a2		

教養科目

授業概要・目的	本科目はサービスラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週１回９０分行う。 ※ 担当者のうち２名は、長く学校に勤務した経験をもっている。また、小学校・中学校での活動では、現職の先生方から直接ご指導いただく。
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年２月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」を初めて履修する学生を対象とする。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	事前指導１　活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備 事前指導２　マナー講座・小中学校の教育現場について 事前指導３　「守秘義務」の意味とその内容について 活動準備　受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する 活動 1～25　受け入れ校にて活動　（活動業務日報・活動時間票の提出） 最終報告会　活動報告会を開催する。 ※注意事項 事前指導に１回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。 事前・事後学習課題 学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各１時間程度行う。
関連科目	教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階（朝日研究室）、７号館４階（谷口研究室）、7 号館 3 階（林研究室）、7 号館 3 階（吉田研究室）
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。

科目名	チームビルディング	科目名（英文）	Team Building
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：IT01428a2～IT01432a2,L 科：LT01422a2～LT01426a2,D 科・S 科：IT01428a2～IT01432a2,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	成熟社会においては個人の力を集合させてプロジェクトを作り上げる「チームビルディングの思考や技術」を学ぶことが重要である。 本科目はチームビルディングの理論を学び、様々なアクティビティを通してチームに貢献する方法を考えられるようになるための授業である。 ２回生以降に摂南大学 PBL プロジェクトを履修する際にも役立つ。 なお、講義は担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部［II］
到達目標	チームで物事を進める際に必要な知識が理解出来るようになり、技能を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	講義は受講生によるアクティビティ・プレゼンテーション・グループワークなどを織り交ぜて進める。
科目学習の効果（資格）	チームで物事を進める際の基礎知識が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の進め方 ・なぜチームが必要なのかを知る ・チームビルディングとは何か　を理解する	事前学習：本科目のシラバスを精読すること。（1 時間） 事後学修：講義で配付された資料を見直すこと（1 時間）
2	チームビルディングとは何か	・自己紹介ワーク ・チームビルディングの理論を学ぶ ・チームビルディングのための技能を知る	事後学修：チームにどのように貢献できるかを考える。（1 時間）
3	チームビルディング体験	・ペーパータワーワーク（予定） ・チームの 10 カ条 などに取り組み、チームビルディングを体験する	事後学修：チームでの取り組みを振り返る。（1 時間）
4	チームにおけるリーダーとフォロワーの役割	・リーダーシップとフォロワーシップを学ぶ ・メンバーを支援するための質問術、傾聴術を身につける	事前学修：講義３で出る課題に取り組むこと（1 時間） 事後学修：講義で配付された資料を見直すこと（1 時間）
5	学習するためのチームづくり	・チームを機能させるために必要な要素を学ぶ	事後学修：講義で配付された資料を見直すこと(1.5 時間)
6	話し合う技術	・チーム話し合う際の技術を学ぶ	事後学修：講義で配布された資料を見直すこと(1.5 時間)
7	ビジネス記事を活用したディスカッション	記事を活用して情報の読み取りと活用、自分ならどうするかを考える	事後学修：講義で身につけた読解技術を日常生活で試してみること(1.5 時間)
8	チームビルディングの技術を身につけるためのアクティビティ①	・ペアワークに取り組み、情報の読み取りと活用、提案することを学ぶ	事前学修：チームにどのように貢献できるかを考えること（1 時間） 事後学修：講義で配付された資料を見直すこと（1 時間）
9	チームビルディングの技術を身につけるためのアクティビティ②	・グループでニッポンの課題の解決策を考える	事前学修：チームにどのように貢献できるかを考えること（1 時間） 事後学修：講義で配付された資料を見直すこと（1 時間）
10	チームでプロジェクトを企画する	・講義の中間おさらい ・チームでプロジェクトを企画する	事後学修：チームで課題に取り組むこと(4 時間)
11	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介①	本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	事後学修：興味を持ったプロジェクトについて調べること(1.5 時間)
12	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介②	本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	事後学修：興味を持ったプロジェクトについて調べること。(1.5 時間)
13	プロジェクトのプレゼンテーション	第１０回目の課題の報告プレゼンテーション	事後学修：チームで発表をする準備をすること(2 時間) 事後学修：自チームの発表内容、及び他チームの発表を振り返ること（1 時間）
14	プロジェクトのプレゼンテーション	第１０回目の課題の報告プレゼンテーション	事後学修：チームで発表をする準備をすること（2 時間） 事後学修：自チームの発表内容、及び他チームの発表を振り返ること（1 時間）
15	講義のまとめと振り返り	講義のおさらいと振り返りを行う	事前学修提出物などの出し忘れがないか確認する。(1.5 時間) 事後学修：講義全体を振り返ること。（1 時間）

関連科目	・「ソーシャル・イノベーション副専攻科目過程」の科目 ・キャリアデザインⅠ・Ⅱ、摂南大学 PBL プロジェクト、ソーシャルイノベーション実務総論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	チームでの提出物 20%、チームへの貢献度とワーク後の振り返りシート 30%、個別課題 10%、最終レポート 40%　で総合的に評価する。
学生への メッセージ	ワークやアクティビティを織り交ぜる授業となるので、主体性を持って講義に挑むこと。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　教育イノベーションセンター（水野研究室）
備考	・参考とする書籍、文献は適宜提示する。

科目名	地誌学	科目名（英文）	Regional Geography
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	渡邉　英明
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1407a2		

授業概要・目的	地誌学は，地域を構成する諸要素を体系的に捉え，その特色を解明しようとする分野で，系統地理学（人文地理学・自然地理学）とともに地理学の根幹を成す。本講義では，世界各地における自然環境と人間生活との関わりを通して，地域の特色を学習する。
到達目標	地誌学の基本的な考え方について，具体的な事例を通して理解できるようになる。
授業方法と留意点	最新の教科書を用いて講義形式で進める。簡単な理解度チェックを適宜行う。期末試験とは別に，授業内で小試験を実施する。
科目学習の効果（資格）	中学社会・高校地理歴史教員免許

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義の進め方	講義ノートを復習しておくこと（事後学習３時間）
2	熱帯気候と住民生活（1）	タンザニアのコーヒー生産	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習1.5時間、事後学習1.5時間）
3	熱帯気候と住民生活（2）	熱帯雨林の狩猟採集民（1）	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習1.5時間、事後学習1.5時間）
4	熱帯気候と住民生活（3）	熱帯雨林の狩猟採集民（2）	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習1.5時間、事後学習1.5時間）
5	熱帯気候と住民生活（4）	発展途上国の都市問題	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習1.5時間、事後学習1.5時間）
6	乾燥･半乾燥気候と住民生活（1）	砂漠ゾウと地域住民	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習1.5時間、事後学習1.5時間）
7	乾燥･半乾燥気候と住民生活（2）	乾燥地帯で生きる人々（1）	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習1.5時間、事後学習1.5時間）
8	乾燥･半乾燥気候と住民生活（3）	乾燥地帯で生きる人々（2）	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習1.5時間、事後学習1.5時間）
9	寒帯・冷帯気候と住民生活（1）	氷河と人々の暮らし	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習1.5時間、事後学習1.5時間）
10	寒帯・冷帯気候と住民生活（2）	極北の狩猟民・イヌイット	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習1.5時間、事後学習1.5時間）
11	寒帯・冷帯気候と住民生活（3）	山岳地帯の牧畜	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習1.5時間、事後学習1.5時間）
12	温帯気候と住民生活（1）	先進国の都市問題	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習1.5時間、事後学習1.5時間）
13	温帯気候と住民生活（2）	日本の自然と住民生活（1）	教科書の該当ページを復習しておくこと（事後学習1.5時間）
14	温帯気候と住民生活（3）	日本の自然と住民生活（2）	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習1.5時間、事後学習1.5時間）
15	まとめ	総括と期末試験の説明	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習1.5時間、事後学習1.5時間）

関連科目：人文地理学、自然地理学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	世界がわかる地理学入門	水野一晴	筑摩書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末試験 75%，平常点 25%
学生へのメッセージ	高校で地理（A・B）を履修していない人も問題なく受講できます。授業内容を正しく理解するため，毎回きちんと出席し，ノートを取りながら集中して受講してください。
担当者の研究室等	７号館２階　（非常勤講師室）
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。授業内で実施する小試験については，翌週以降の授業で解説を行います。

科目名	地理学Ⅰ	科目名（英文）	GeographyI
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	手代木　功基
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

教養科目

授業概要・目的	自然地理学は地球環境問題や自然災害と深い関わりを持つとともに、私たちの日々の生活とも密接に関わっています。 本授業では、身近な場所から辺境の地まで、さまざまな地域の自然環境を理解するための基礎を学びます。 具体的には、1．プレート運動や気候といった地球規模のシステム、２．日本や世界で観察される景観の形成要因やその形成過程、３．自然災害や地球環境問題、といった内容を扱います。講義では各地の写真や映像などを数多く使って解説し、初学者にもイメージがつかみやすい内容にする予定です。授業を通して、自然現象を様々な時間・空間スケールに位置づけて理解する基礎を身につけ、それを将来様々な形で活かしていくことを期待します。
到達目標	日本・世界各地の自然環境の実態とそのシステムを学ぶことを通して自然環境の見方の基礎力を養い、日常で目にする自然景観の形成要因や災害の発生等について論理的に理解できるようになること
授業方法と留意点	プリントの配布および投影資料を利用した講義形式。理解を深めるため、映像資料やバーチャル地球儀等を利用します。Moodle やウェブブラウザ利用するため、スマートフォン・タブレット等を持ち込むことを推奨します。
科目学習の効果（資格）	地震等自然災害に対する認識の強化、環境に対する意識の向上

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、評価方法等について説明	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
2	I. 日本の自然を知る 1	プレートテクトニクスと日本列島の形成	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
3	I. 日本の自然を知る 2	地震のメカニズム	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
4	I. 日本の自然を知る 3	地震災害	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
5	I. 日本の自然を知る 4	火山と日本列島	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
6	II. 多様な日本の自然 1	気候環境	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
7	II. 多様な日本の自然 2	植生	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
8	II. 多様な日本の自然 3	山地の隆起と侵食	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
9	II. 多様な日本の自然 4	河川と平野・海岸	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
10	II. 多様な日本の自然 5	大阪の自然・関西の自然	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
11	III. 世界の自然を知る 1	熱帯から極地	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
12	III. 世界の自然を知る 2	砂漠や高山	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
13	III. 世界の自然を知る 3	自然と人々の暮らしの関係性	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュ

			ースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
14	IV. 環境と私たち 1	地球温暖化や砂漠化	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
15	IV. 環境と私たち 2/総括	自然災害への対処について・授業全体のまとめ	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業内で複数回の理解度確認テストを実施し、その結果をもとに評価する（授業内の理解度確認テスト：100%）
学生への メッセージ	高校地理・高校地学を学んでいない人でも理解できるような内容を扱い、難しい部分はフォローアップしながら授業を進めていく予定です。
担当者の 研究室等	7 号館 5 階
備考	事前・事後の学習は、全体で 60 時間を目安とします。理解度確認テストとは、講義内容に関する小テストです。理解度確認テストは、終了後に問題の解説を実施する形でフィードバックをおこないます。

科目名	地理学Ⅱ	科目名（英文）	Geography II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	麻生　将
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	現代世界・社会の諸問題に地理学がどのように向き合っているかを考えるにあたり、具体的な事例を通して主要な人文地理学の研究成果とアプローチを紹介する。
到達目標	＜地理学的なものの見方・考え方＞について理解し、それをふまえ、身近な問題を捉え直すことができる。
授業方法と留意点	配付資料を用いて、講義形式で行う。授業中に何度か課題を出す。それらの課題に取り組むことで、授業内容をしっかりと復習をしてほしい。
科目学習の効果（資格）	＜地理学的なものの見方・考え方＞の学習・理解を通じて、ひととは違った視点から身近な問題を捉えられるようになる。なお、中学社会・高等学校地理歴史の教員免許取得を目指す学生にとっては必修科目である。

教養科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：地理学を学ぶ意義、地理学から見える世界・現象	授業の進め方、授業全体の参考書の紹介など	中学校（高校での地理選択者は高校地理）までの「地理」の学習内容を振り返る（事後学習）（2 時間）
2	地図から見た世界	地図の歴史と原理について	紹介した参考文献を読む（事後学習） テーマに沿った地図（身近な地域の地図またはメンタルマップ）作成の課題に取り組む（事後学習）（2 時間）
3	都市の空間現象	都市の歴史、現代の都市で生じる様々な現象と課題について	紹介した参考文献を読む（事後学習）（2 時間）。 紹介した事例と関連するニュースを確認する（事後学習）（1 時間）。
4	農村の現状と課題	農業地理学の基礎と農村の成り立ちと現状、課題について	紹介した参考文献を読む（事後学習）（2 時間）
5	経済地理学①工業	工業立地の歴史と現状、将来の変化について	紹介した参考文献を読む（事後学習）（2 時間）。 紹介した事例と関連するニュースを確認する（事後学習）（1 時間）。
6	経済地理学②農業	日本と世界の農業の現状と課題について	紹介した参考文献を読む（事後学習）（2 時間）。 紹介した事例と関連するニュースを確認する（事後学習）（1 時間）。
7	経済地理学③商業・流通	事業所の立地と流通システム、および経済のグローバル化について	身近な地域の事業所（コンビニや喫茶店、スーパーマーケットや書店など）の分布を調べる（事後学習）（2 時間）
8	環境問題と地理学	様々なスケールから見た環境問題について	紹介した参考文献を読む（事後学習）（2 時間）。 紹介した事例と関連するニュースを確認する（事後学習）（1 時間）。
9	災害と地理学	災害と人間活動との関わりについて	自然環境と人間活動の関係を理解するための課題（関西のいくつかの地域の地形図の読図作業）に取り組む（事後学習）（2 時間）
10	社会問題と地理学	日本と世界の主な社会問題の空間現象について	紹介した参考文献を読む（事後学習）（2 時間）。 紹介した事例と関連するニュースを確認する（事後学習）（1 時間）。
11	ジェンダーの地理学	ジェンダーをめぐる空間現象について	身の周りにある「ジェンダー化された空間」（授業で紹介した事例を中心に）を探してみる（事後学習）（2 時間）
12	空間と政治	都市における空間の管理と政治的背景について	身の回りにある「管理された空間」（授業で紹介した事例を中心に）を探してみる（事後学習）（1 時間）
13	文化の広がり	文化と社会の関わりについて	紹介した参考文献を読む（事後学習）（2 時間）。 紹介した事例と関連するニュースを確認する（事後学習）（1 時間）。
14	生活世界の認識	メンタルマップ、時間地理学について	紹介した参考文献を読む（事後学習）（2 時間）。
15	地図の読解	様々な地図の読解と理解について	期末レポートを作成する（事後学習）（3 時間）

関連科目：「自然地理学」「地誌学」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	人文地理学への招待	竹中克行編	ミネルヴァ書房
2	地理学概論	上野和彦ほか編	朝倉書店
3			

評価方法（基準）	期末レポート 60%、授業中課題 40%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	授業内で課した課題の解説とコメントを次回の授業の冒頭で行う。その際、課題の目的・ねらい等について具体的に解説する。 授業外の質問等については、授業後 1 時間以内とする。それ以外はメールにて対応する。メールアドレスは授業中に知らせる。

科目名	哲学Ⅰ	科目名（英文）	Philosophy Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	貫井　隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU2403a2		

授業概要・目的

【授業全体のあらまし】

「哲学」と聞くと、皆さんはどんなことを思い浮かべるでしょうか。「難しそうだな」と思うでしょうか。それとも「面白そう」とか、「深い話が聞けるかもしれない」と思う人もいるでしょうか。

辞書で「哲学」と調べると、たいてい、次の二つの意味が載っています。

一つ目は「自分自身の経験などから作り上げた人生観・世界観」というものです。このような意味での「哲学」は、「人生哲学」といったほうが正確かもしれません。何かの分野で成功した人や、興味深い人生観を持つ人が、このような意味での「哲学」について講演したり、本を出版することがあります。このような「哲学」を、この授業に期待してくれている人もいるかもしれません。

もう一つの意味は「世界や人間の究極の根本原理を理性的に追求する学問」というものです。これはたとえば、「タレス」という哲学者は、世界の「根本原理」を「水」と考えたとか、「プラトン」という哲学者にとっては、「根本原理」は「善のイデア」である、とか、そのような仕方で説明されることがあります。こちらの「哲学」は、もしかすると、私たちの日常生活からかけ離れた、空想めいた話のように聞こえてしまうこともあるかもしれません。「タレス」という人が、根本原理は「水」だと言ったからといって、それと自分の人生に一体何の関係があるのだ、私たちがそのことを学ぶメリットが一体どこにあるのか、と疑問に思う人もいるかもしれません。

今挙げた「哲学」の様々な特徴――難しそうだとか、でも何か深いことを言っているのではないかとか、人生の大事な指針になるのではないかとか、いや、単に空想めいた、日常生活からかけ離れたことにすぎないのではないか、ということ――は、おそらく、すべて当たっているところがあると思います。その中で、私としては、できるだけ哲学の「日常生活からかけ離れた」要素は少なくして、皆さんの人生に深くかかわる可能性がある部分を集中的に扱いたいと思います。

歴史上、現代まで伝えられてきた哲学者がいます。その人たちは、死後何百年、人によっては何千年も経っているのに、まだ忘れ去られることなく、「その人の考えは今生きている私たちの参考になる」と、ずっと思われ続けてきた人たちです。どこかの時代の人が「もうこの人は何の参考にもならない」と思ったとしたら、現代にまで伝わっていないかもしれません。

この授業では、このような人々の何人かを選んで、その人たちが言っていることのなかで、現代を生きる私たちの参考になりそうなことを、皆さんと一緒に探っていきたいと思います。このような人たちの哲学は、世界の根本原理の説明から、人生どのように生きるべきか、他者や自己とどのように付き合うべきか等、様々な要素を含んでおり、しかもそれらが密接に繋がり合って、一つの大きな、言わば〈世界の見方〉を作っています。皆さんは、その中で「これはなかなかいいな」とか「これはどうだろうか」などと、自由な感性で考えてほしいと思います。ただし、その際に、「なぜ自分はそう思ったのだろうか」とさらに踏み込んで考えてもらうと、これらの人々のことも、自分自身のことも、さらに深く理解できるようになるのではないでしょうか。

授業では、西洋哲学史上の著名な哲学者を十数名扱う予定です。しかし、一部変更がある可能性がありますので、その際はご承知願いたいと思います。

【各学部・学科の教育目的に基づいた位置づけ】

本授業は、本学経営学部経営学科のＤＰ（ディプロマ・ポリシー）１における「社会人として必要な教養」と、ＣＰ（カリキュラム・ポリシー）①における「企業社会で活躍し、また貢献・奉仕することができる幅広い教養とグローバルな視野」の涵養の一環に位置付けられます（経営学部経営学科のＤＰ、ＣＰについての詳細は http://www.setsunan.ac.jp/aboutus/policy/keiei/keiei.html を参照してください）。

到達目標

授業で扱う西洋哲学史上の人物について、①彼らの置かれた時代的背景　②彼らの考えの要点　③後の時代に与えた影響　の３点を理解すること。

授業方法と留意点

【授業形式】

講義を中心とする。しかし、特定のテーマについてピア・ディスカッション（机の隣の人との議論）をしてもらうことがある。また、授業内容に関する小問題を授業中に解いてもらうことがある。

【講義時間内のスケジュール（予定）】

前回のコメントシートへの返答、前回の小問題の解説（１０-２０分）
コメントシート（小問題が付く場合がある）配布、今回の講義のポイント解説（１０分-２０分）
講義（５０分程度）
コメントシート（小問題が付く場合がある）提出（５分）

科目学習の効果（資格）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の説明	特になし
2	古代ギリシアの哲学（1）	ソクラテス、プラトン、アリストテレスの思想の概要を扱う予定である（1）	予習：配布資料（古代ギリシア哲学に関するもの）を読んでくること 復習:配布した穴埋めプリント(A3 両面で 2 枚程度)を読み直すこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）
3	古代ギリシアの哲学（2）	ソクラテス、プラトン、アリストテレスの思想の概要を扱う予定である（2）	予習：配布資料（古代ギリシア哲学に関するもの）を読んでくること 復習:配布した穴埋めプリント(A3 両面で 2 枚程度)を読み直すこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）
4	古代ギリシアの哲学（3）	ストア派の思想の概要を扱う予定である	予習：配布資料（古代ギリシア哲学に関するもの）を読んでくること 復習:配布した穴埋めプリント(A3 両面で 2 枚程度)を読み直すこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）
5	中世の哲学（1）	キリスト教と哲学のかかわりと、アウグスティヌスの思想の概要を扱う予定である	予習：配布資料（中世哲学に関するもの）を読んでくること 復習:配布した穴埋めプリント(A3 両面で 2 枚程度)を読み直すこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）
6	中世の哲学（2）	キリスト教と哲学のかかわりと、トマス・アクィナスの思想の概要を扱う予定	予習：配布資料（中世哲学に関するもの）を読んでくること

		である（2）	復習:配布した穴埋めプリント(A3 両面で 2 枚程度)を読み直すこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）
7	近代の哲学（1）	デカルトの思想の概要を扱う予定である	予習：配布資料（近代哲学に関するもの）を読んでくること 復習:配布した穴埋めプリント(A3 両面で 2 枚程度)を読み直すこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）
8	近代の哲学（2）	スピノザ、ライプニッツの思想の概要を扱う予定である	予習：配布資料（近代哲学に関するもの）を読んでくること 復習:配布した穴埋めプリント(A3 両面で 2 枚程度)を読み直すこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）
9	近代の哲学（3）	ヒュームの思想の概要を扱う予定である	予習：配布資料（近代哲学に関するもの）を読んでくること 復習:配布した穴埋めプリント(A3 両面で 2 枚程度)を読み直すこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）
10	近代の哲学（4）	カントの思想の概要を扱う予定である	予習：配布資料（近代哲学に関するもの）を読んでくること 復習:配布した穴埋めプリント(A3 両面で 2 枚程度)を読み直すこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）
11	近代の哲学（5）	ヘーゲルの思想の概要を扱う予定である	予習：配布資料（近代哲学に関するもの）を読んでくること 復習:配布した穴埋めプリント(A3 両面で 2 枚程度)を読み直すこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）
12	近代の哲学（6）	キルケゴールの思想の概要を扱う予定である	予習：配布資料（近代哲学に関するもの）を読んでくること 復習:配布した穴埋めプリント(A3 両面で 2 枚程度)を読み直すこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）
13	近代の哲学（7）	ニーチェの思想の概要を扱う予定である	予習：配布資料（近代哲学に関するもの）を読んでくること 復習:配布した穴埋めプリント(A3 両面で 2 枚程度)を読み直すこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）
14	近代の哲学（8）	ハイデガーの思想の概要を扱う予定である	予習：配布資料（近代哲学に関するもの）を読んでくること 復習:配布した穴埋めプリント(A3 両面で 2 枚程度)を読み直すこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）
15	まとめ		予習：配布資料（近代哲学に関するもの）を読んでくること 復習:配布した穴埋めプリント(A3 両面で 2 枚程度)を読み直すこと （予習と復習合わせて、2 時間程度の作業時間を想定しています）

関連科目

哲学ＩＩ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

期末試験 55%
授業中の課題 45%
※　出席は評価方法には入らない

学生へのメッセージ

担当者の研究室等

非常勤講師控室

備考

参考書等は授業時に適宜紹介します。質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。
非常勤講師室等における相談可能時間についての相談や、授業に関連する相談等がある場合は、メールでお問い合わせください。

	連絡先： 貫井隆 nukui.takashi.54n★kyoto-u.jp ★は@に変えてください 評価基準の 45%である「授業中の課題」について： 「授業内容に関する小問題」を授業中に出題しますので、それによって評価します。 「授業内容に関する小問題」を実施する日時は授業中に連絡します。

科目名	哲学Ⅱ	科目名（英文）	Philosophy II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	濱　良祐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU2404a2		

教養科目

授業概要・目的

「哲学」と聞くとひどく難しい学問であると感じられるかもしれないし、ひとによっては役に立たない、自分には関係ない、と思うかもしれない。しかし、私たち人間は人生において誰もが必ず「私とは何か」,「他者とは何か」,「幸せとは何か」など，人間存在・人間関係に根本的に関わる難問に出会うことになる。

この授業は，そうした人生における難問に自ら向き合えるようになるための準備である。そのためにこの授業では西洋哲学の諸思想を通して人間存在や社会に関わる諸問題に取り組み，さらに現代という時代を生きる私たち自身のあり方について考察していく。

到達目標

（1）哲学に関する基礎的な知識を習得すること。
（2）人間存在や社会の問題に対する哲学的な洞察力と、主体的な思考力を身につけること。
（3）自らの思考を適切に伝えるための論理的表現力を高めること。

授業方法と留意点

講義形式

授業時に講義内容に関するレジュメを配布する。参考文献は必要に応じて授業中に適宜紹介する。

受講者には、授業で紹介される哲学思想を単に学習するだけではなく、それらについて自らで思考し、批判的に吟味するように求めたい。

前の回までの内容をふまえて講義することになるので、各授業後にしっかりと復習を行い、ノートや資料の整理をしておくこと。病気などやむをえない事情で欠席した場合には、その回の資料を入手し、目を通しておくこと。

授業期間中に授業の理解度を試す小テスト、小レポートを実施する。

科目学習の効果（資格）

現代社会の一員として主体的に生きるための、思考力と幅広い見識と教養を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションとイントロダクション	授業の進め方、目的について説明する。「哲学」することの意義について考察する。	〈復習〉ノート・資料の整理。
2	「知」の可能性――哲学の端緒（1）	古代ギリシアの思想を通して「知」の可能性について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
3	「知」の探求――哲学の端緒（2）	ソクラテスの思想を通して「知」の探求の意義について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
4	近代科学の方法と哲学（1）	西洋近代における自然観・人間観の変化と、それに基づく近代科学の発生などについて考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
5	近代科学の方法と哲学（2）	近代科学の方法論とその限界を、哲学的視点から考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
6	近代的自我の確立――デカルト（1）	デカルトの思想を紹介し、近代的自我の意義について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
7	合理主義の世界観――デカルト（2）	デカルトの思想から、哲学における「神」と「世界」の意義について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
8	経験主義の認識論（1）	ロックの思想から、確実な「知識」と蓋然的な「信念」の違いについて考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
9	経験主義の認識論（2）	ヒュームの認識論を取り上げ、人間はなぜ不確実なものを確実だと信じるのか、という問題について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
10	啓蒙と理性	啓蒙主義における人間の理性への確信と、その限界について	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
11	経験主義と合理主義の綜合――カント（1）	カントによる認識論の「コペルニクス的転回」を紹介し、人間の認識の限界について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
12	理性の二律背反――カント（2）	カント哲学における自然と自由の二元論と、それに基づく人間観について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
13	「ことば」とは何か（1）	ソシュールの思想を通して、言語の創造的機能について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
14	「ことば」とは何か（2）	言語と認識の関係について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
15	総括と展望	これまでの学習内容を概観し、その成果を確認すると同時に残された課題についての展望を示唆する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。

関連科目

哲学 II、社会学、経済倫理、社会と人権

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			

評価方法 （基準）	授業内での小レポート等を４０％、期末レポートを６０％として、総合的に評価する。
学生への メッセージ	授業中の私語、携帯の使用などで授業を妨害した者には退席を命じ、欠席扱いとします。大学生にふさわしい態度で授業に臨んでください。
担当者の 研究室等	非常勤講師控室（授業日のみ在室）
備考	授業担当者メールアドレス： xhamaryo@edu.setsunan.ac.jp 提出物についての全体的な講評は授業内で行う。具体的な評価に関する問い合わせには、授業時間の前後に対応することができる。授業時間外での質問等は出講時に非常勤講師室にて対応することができる。 授業外学習の目安は、予習復習を合わせて毎回１時間程度とする。

科目名	日本国憲法	科目名（英文）	The Japanese Constitutional Law
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大仲　淳介
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ISO1414a2		

授業概要・目的	日本国憲法をおおまかに理解できるように、基本的人権を中心に、授業テーマと関連する憲法に関わる問題をとりあげ、これに関わる基本的な事項、判例、学説を説明していきます。この授業の目的は、身近に生じる憲法に関わる問題を通して、憲法の基本的な内容と考え方を理解してもらうことです。
到達目標	この授業を通じて学生には、憲法の基本的な知識を習得し、「首相の靖国神社参拝」や「一票の格差」などの身近で話題になっている問題を憲法を通して考え説明できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	教科書と配布プリントを用いて講義形式で行います。小テストは授業中に、適宜、行います。なお小テストを実施した回に欠席した者のための再試験は行いませんので注意して下さい。
科目学習の効果（資格）	各種公的資格試験の法学科目の基礎知識の取得になると思います。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	憲法とは	憲法の意味、憲法の最高法規性、違憲審査制などについて説明します。	事前に教科書 11 頁から 20 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。（1 時間程度）
2	国民主権	国民主権の意味、国民主権を具体化する制度、国民主権が人権の解釈にどのように関わるかなどについて説明します。	事前に教科書 243 頁から 249 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。（1 時間程度）
3	基本的人権の保障１	人権の歴史、人権の分類、人権の限界、人権の享有主体について説明します。	事前に教科書 21 頁から 30 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。（1 時間程度）
4	基本的人権の保障２	外国人にも日本国憲法が保障する人権の享有が認められか、認めえるとしてその人権は何かなどについて説明します。	事前に教科書 31 頁から 40 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。（1 時間程度）
5	幸福追求権	幸福追求権の意味と範囲、新しい人権について説明します。	事前に教科書 49 頁から 58 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。（1 時間程度）
6	法の下の平等	憲法 14 条の定める平等の意味、差別の許される合理的根拠かどうかの判断基準などについて説明します。	事前に教科書 60 頁から 70 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。
7	信教の自由と政教分離	信教の自由の内容と限界、国家と宗教の関わりなどについて説明します。	事前に教科書 71 頁から 82 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。（1 時間程度）
8	表現の自由	表現の自由の保障の範囲、限界、検閲などについて説明します。	事前に教科書 83 頁から 104 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。（1 時間程度）
9	経済的自由権	職業選択の自由とその規制をなどについて説明します。	事前に教科書 105 頁から 114 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。（1 時間程度）
10	社会権	生存権を中心に社会権について説明します。	事前に教科書 115 頁から 134 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。（1 時間程度）
11	刑罰と刑事手続	犯罪と刑罰、憲法と罪刑法定主義などについて説明します。	事前に教科書 135 頁から 144 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。（1 時間程度）
12	国会	国会の地位、国会の組織と活動、国会の権能などについて説明します。	事前に 161 頁から 172 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。（1 時間程度）
13	内閣	議院内閣制、内閣の組織と権能などについて説明します。	事前に教科書 173 頁から 184 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。（1 時間程度）
14	裁判所	司法権の定義、司法権の範囲、司法権の独立などについて説明します。	事前に教科書 185 頁から 206 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。（1 時間程度）
15	平和主義	戦争の放棄の意味、憲法 9 条と自衛隊の存在などについて説明します。	事前に教科書 217 頁から 229 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。（1 時間程度）

関連科目　法学入門

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	はじめての憲法学（第 3 版）	中村睦男・岩本一郎・大島佳代子・木下和朗・齊藤正彰・佐々木雅寿・寺島壽一	三省堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	期末試験の点数（60%）、小テストの点数（40%）の合計によって評価します。
学生への メッセージ	授業で生じた疑問は必ず質問して下さい。
担当者の 研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	①小テストの返却は 11 号館 6 階キャリアルームで行い、その正解は次回の授業で解説します。 ②授業時間外の質問等に対しては、水曜日 12 時 30 分から 13 時 20 分に 11 号館 5 階法学部資料室において応対できます。

科目名	日本の歴史	科目名（英文）	History of Japan
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高木　純一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU1405a2		

教養科目

授業概要・目的	本講義では、日本の歴史を概観しつつ、とくに現代の私たちが“伝統的”と観念しているような日本の諸要素について、その形成過程や歴史的実態を提示する。その際、私たちがそれらに対して抱いているイメージとのギャップに注意し、何となく“日本の伝統（的なもの）”だと思われている諸要素が、その歴史的実態において、私たちの認識とは相当程度かけ離れたものであったことを明らかにする。 半期という限られた期間であるため、ある程度日本通史を兼ねることが可能で、かつ最も重要な要素として、とくに【天皇・宗教・武士・村社会・景観】という五つのテーマを取り上げる。基本的にはテーマごとに時系列に沿って講義を進めるが、各時代の比重は必ずしも同等ではなく、テーマに応じて異なってくるはずである。
到達目標	・日本史の大まかな流れを理解し、最低限の認識・知識を身につける。 ・現代とは相当異質な社会がかつて存在したことを知ることで、現代社会を相対化する。 ・“日本の伝統（的なもの）”だと思われていた諸要素が、その歴史的実態において、私たちの認識とは相当程度異なるものであったことを理解し、そうした無理解はときに大きな危険性をもはらむことを学ぶ。
授業方法と留意点	基本的に講義形式。レジュメとパワーポイントを主に使用する。 教科書はとくになし。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本講義の進め方、評価方法などについて説明する。併せて、単なる基礎教養・知識にとどまらない歴史を学ぶことの意義や、「日本史学」という学問の特質を提示する。	シラバスを一読してくること。
2	天皇（1）：天皇と「日本」の起源	日本における国家形成とその特質について、とくに大陸との関係性を意識しつつ、天皇制や「日本」という国号の成立を中心に概観する。	予習：高校・中学校日本史教科書の古代の「天皇」に該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
3	天皇（2）：創られた近代天皇制	前回講義をふまえつつ、近代の天皇制について、前期代とは相当程度断絶した「創られた伝統」という性格に注目して考察する。	予習：高校・中学校日本史教科書の近代の「天皇」に該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
4	宗教（1）：仏教伝来と神仏習合	日本における諸宗教の成立・伝来や相互の関係について、とくに「神仏習合」という観点からその特質を述べる。	予習：高校・中学校日本史教科書の古代中世の仏教及び「神仏習合」に該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
5	宗教（2）：キリシタンと葬式仏教	現代に続いていくような日本的な宗教のあり方の起源や、「無宗教」と自認して顧みることのない現代の我々の心性の淵源について考える。	予習：高校・中学校日本史教科書の「キリシタン」「寺檀制」に該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
6	宗教（3）：国家神道とは何か	とくに国家神道を取り上げ、戦争への道を歩んでいく近代日本の宗教的・思想的状況を概観する。	予習：高校・中学校日本史教科書の「国家神道」に該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
7	武士（1）：「武士」の成立	武士と貴族の意外な親近性、「武士」の身分的性格などの指摘により、従来型の武士の成立論に再検討を加える。	予習：高校・中学校日本史教科書の「武士」に関係する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
8	武士（2）：戦国大名の実像	とくに織田信長・今川義元を取り上げ、今でも絶大な人気を誇る「戦国大名」なる存在の歴史的実像に迫る。	予習：高校・中学校日本史教科書の「戦国大名」に該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
9	武士（3）：武士道という幻想	「武士道」と言われて現代の私たちが想起する思想の淵源、歴史の諸段階における「武士道」なる思想の内容を概観する。	予習：高校・中学校日本史教科書の近世思想史に該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
10	村社会（1）：「村社会」日本の成立	現代に続くような村落（永続的な村、自律的・自立的な村）の成立について、中世の時代環境からのそれを説明する。	予習：高校・中学校日本史教科書の「惣村」に該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
11	村社会（2）：日本の家と村	成立した村を構成する家や、日本人の名前について、氏・姓・苗字といったものの違いにも留意しつつ概観する。	予習：高校・中学校日本史教科書の氏姓制度に関係する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
12	村社会（3）：刀狩りと百姓一	「竹槍蓆旗」に代表される武器を剥奪さ	予習：高校・中学校日本史教科書の「刀狩り」に該

	揆	れた近世民衆イメージを問い直し、日本社会の非暴力化・平和化への歴史的道のりを示す。	当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
13	景観（1）：里山・棚田・松原	「日本の原風景」として語られる里山・棚田・松原（いわゆる「白砂青松」）の歴史的形成過程や実態や、前近代の植生景観について考察を加える。	予習：高校・中学校日本史教科書の日本列島の景観に関係する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
14	景観（2）：「鎮守の森」	同じく「日本の原風景」とされる「鎮守の森」について、とくに近代的改変を意識しつつその歴史的成立や実態を明らかにする。	予習：高校・中学校日本史教科書の森林及びその景観に関係する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
15	本講義のまとめ	本講義で述べてきたことを時系列に即しつて再構成しつつ、全体を総括する。	予習：これまでのレジュメ・ノートをもとに、講義をふり返っておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	平常点 30% 期末テスト 70%
学生への メッセージ	主体的に学習する意志を持つ学生の受講を期待します。
担当者の 研究室等	連絡先：jun01.tkg@gmail.com
備考	授業内でとくに課題を課すことはしない。 レポートのフィードバックはポータルサイトにおいて行う。 私語・携帯電話の使用等は厳禁。これを守れない場合には受講を認めない場合がある。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	犯罪被害者の支援と法的救済	科目名（英文）	Legal Remedies for Victims of Crime
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：IT01428a2～IT01432a2,L 科：LT01422a2～LT01426a2,D 科・S 科：IT01428a2～IT01432a2,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

教養科目

授業概要・目的	・日常的な人間関係や医療過誤を通じて、何らかの犯罪の被害者となった場合、犯罪被害者はどのような対処をとることができるだろうか。 ・たとえば、医療機関における医療ミス、交友関係をめぐって生じるストーカーやデート DV の被害、近親者からの精神的・肉体的な虐待、学生をカモにする巧妙な儲け話から起因する詐欺被害（マルチ商法）、とりわけ男子学生が陥りやすい出会い系を通じた美人局被害、あるいは、家族が犯罪に遭うことによる経済的損失ないし被害など、事例を挙げればきりがない。 ・近年、わが国でも犯罪被害に遭った者を支援する制度が構築されつつある。 しかし、わが国ではこうした支援ないし救済策が講じられてこなかった期間が長すぎたため、多くの国民にその内容が浸透していない。そのため、依然として被害者は泣き寝入りするか、何も打つ手をとらずに最悪の結果を招来することもある。 ・本講義では、自身や家族が犯罪被害者となってしまった場合、どのような救済策があるのかをわかりやすく解説し、被害を最小限度にとどめ、さらには犯罪被害者に対する理解を深めることを目的とする。 ・犯罪被害者を論ずる前に、講義の数回を用いて、まず「加害者」の法的責任、「犯罪者」刑事責任、「犯罪者」の処遇、刑罰の正当化根拠、厳罰化をめぐる諸問題など、犯罪被害者を講じる前提となる伝統的な刑事学の講義を行う。 ・法的知識は、時代を生き抜く上での一種の「転ばぬ先の杖」（教養）でもあるため、文系や理系を問わず、幅広い学生を履修対象とする。
到達目標	この講義を通じて学生には、 「・「被害者」概念について説明できる 　・犯罪被害者の救済制度を挙げ、これを説明できる 　・犯罪被害者の支援制度について理解できる」 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・原則として講義形式で行うが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答をミニッツペーパーを通じて行う。
科目学習の効果（資格）	・万が一に犯罪の被害に遭ったとしても、泣き寝入りすることなく、正当な手法による被害回復や救済手段を身につけることができる。 ・公務員や法律事務所などへの就職に役立ちうる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「加害者」と「犯罪者」 「被害者」と「犯罪被害者」	・授業の進め方と文献紹介 ・「加害者」の法的責任 ・「加害者」と「犯罪者」 ・「被害者」の意義 ・「犯罪被害者」の意義	・教科書の入手 事前：教科書第 1 章をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「犯罪被害者」とは何かについてノートにまとめること（2 時間）
2	少年犯罪の被害者	・少年法と被害者救済	事前：教科書第 6 章「少年犯罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「少年犯罪からの被害者救済」についてノートにまとめること（2 時間）
3	性犯罪の被害者	・性犯罪被害特有の問題点	事前：教科書第 6 章「性犯罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「性犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間）
4	ドメスティックバイオレンス（ＤＶ）の被害者	・ＤＶ被害の特殊性	事前：教科書第 6 章「ＤＶ」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「ＤＶ被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間）
5	ストーカー犯罪の被害者	・ストーカーへの対抗手段	事前：教科書第 6 章「ストーカー犯罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「ストーカー被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間）
6	インターネット犯罪の被害者 刑事公判と被害者	・インターネット犯罪被害の特殊性	事前：教科書第 6 章「インターネット犯罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「インターネット犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間）
7	児童虐待の被害者救済	・児童虐待の意義	事前：教科書第 6 章「児童虐待」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「児童虐待被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間）
8	触法精神障害者からの被害	・精神障害者の加害行為と対処法	事前：教科書第 6 章「触法精神障害者」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「触法精神障害者からの被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間）
9	犯罪被害救済総論①	・被害届と告訴・告発の効果 ・加害者との示談交渉 ・マスコミ対策 ・検察審査会 ・検察審査員 ・審査申立手続 ・検察審査会と被害者 ・起訴議決制度	事前：教科書第 2 章「刑事手続きの流れ」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「刑事手続きの流れ」についてノートにまとめること（2 時間）
10	犯罪被害救済総論②	・被害者による裁判傍聴と参加 ・被害者による記録の閲覧と謄写	事前：教科書第 3 章「被害者参加制度」をあらかじめ読むこと（2 時間）

		・被害者における心情陳述 ・被害者等特定事項の非公開 ・遺影の持ち込みと公正なる刑事裁判	事後：「被害者参加制度」についてノートにまとめること（2 時間）
11	犯罪被害救済総論③	・損害賠償命令制度	事前：教科書第 4 章「損害賠償命令制度」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「損害賠償命令制度の長所と短所」についてノートにまとめること（2 時間）
12	犯罪被害救済総論④	・被害回復給付金制度	事前：教科書第 4 章「被害回復給付金制度」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「被害回復給付金制度の長所と短所」についてノートにまとめること（2 時間）
13	犯罪被害救済総論⑤	・犯罪被害者等給付金支給制度	事前：教科書第 7 章「犯罪被害者等給付金支給制度」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「犯罪被害者等給付金支給制度」についてノートにまとめること（2 時間）
14	犯罪被害救済総論⑥	・加害者情報へのアクセス ・法テラス	事前：教科書第 7 章「法テラス」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「法テラス」についてノートにまとめること（2 時間）
15	重要事項のまとめと確認テスト	重要事項のまとめ	事前：教科書で取り扱った箇所をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：重要事項についてノートにまとめること（2 時間）

関連科目	各学部開講の教養科目・・・法学入門、現代社会と法、日本国憲法 法学部開講の専門科目・・・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事政策、少年法、民法、民事訴訟法ほか

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	補訂版 犯罪被害者支援実務ハンドブック	第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会	東京法令出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	開講時に指示する。		
2			
3			

評価方法（基準）	・定期試験（95%）および講義の理解を試すミニッツペーパー（5%）の合計によって評価する。
学生へのメッセージ	・事件報道やその後の話、あるいは社会の問題に関心のある学生が受講することをおすすめします。知って得をすることがあっても、損はさせない内容です。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小野准教授室
備考	講義の理解を試すミニッツペーパーに対するコメントは次回講義の冒頭で行う。

科目名	プロポーザル・デザイン	科目名（英文）	Design and Proposal
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北村　浩
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：IT01428a2～IT01432a2,L 科：LT01422a2～LT01426a2,D 科・S 科：IT01428a2～IT01432a2,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	新しい商品・サービスを共創型でいかに創造するか、企画の提案&設計（プロポーザル・デザイン）の方法論を学習する。特に、企業・消費者等のアイデア・感性を融合する『デザイン思考（Design Thinking)』の手法により、多様なメンバーから成るグループ型の提案をどのように進めるのかを実践する。 デザイン思考は、学部・専攻の枠を超えた汎用的な課題解決プロセスを提供し、多くの産官学で実践されている米国発の方法論で、新サービス有形化の手段として、新市場の開拓を狙う関係者から注目を集めている。 担当教員は、IT&コンサルティング企業で手掛けてきた国内・海外での多数の顧客企業向けのプロポーザル（提案書）の企画・デザインの推進実績をもとに、課題解決を支援する視点・指針を示し、学生の主体的かつ自律的な学習活動を支援する。
到達目標	インターネットやソーシャルメディアの利活用を図り、新サービスを提供する業界・企業等の事例研究、提案活動の体験をとおして、提案を支援するデザインに関するリテラシーとコミュニケーション力を育成する。主な目標は次の通り。 1. サービス思考　どのようなサービスを提案し、いかにつくるのか（試作化）を試みる。 2. 共創（コラボレーション）　異分野や立場の異なる人達と思考ベクトルを合わせ、新しい価値の創出を狙う。 3. サービス提案　共創することで、アウトカム（成果）としてまとめて、プレゼンテーションで発信する。
授業方法と留意点	授業は、①講義（前半）、②グループワーク（後半）から成る。グループワークは、デザイン思考を適用したサービスデザインのケーススタディの演習に取り組み、ディスカッションやプレゼンテーション（グループまたは個人）を行う課題を指示する。ケーススタディは、現代社会の公私の活動で接することの多い IT サービスデザイン事例に、グループワークで取り組み、デザイン思考の方法論による課題解決のプロポーザル（提案）のリテラシーを高めることを学ぶ。質問は、対面に加え、指定する Web フォーム・質問共有システム（初回授業でガイド予定、締切厳守で毎回運用する）にて記名式のものを対象に適宜回答する。 グループワークで行うケーススタディ以外に、a. 個人向け課題の提示、b. 質問のクラス共有のために、携帯端末（スマートフォン）を持参することを推奨する。
科目学習の効果（資格）	・サービスデザインの方法論の手順、グループワークによる共創活動の概観を理解することができる。 ・モノのデザインとサービスデザインの違いを理解して、後者への基礎的な素養を身につけることができる。 ・他学部の異分野・専攻者とのグループワークによる意見交換と創造の機会に慣れ親しむことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	・授業ガイダンス ・『デザイン思考（Design Thinking)』とは何か ・デザインファームの役割	事後学習：イントロダクション内容から質問を Web フォーム入力する。(標準学習時間：0.5 時間)
2	サービスデザイン	・サービスデザイン ・人間中心のデザイン ・グループワーク&プレゼン	事前学習：日常接する IT サービスを列挙し、役割と特徴を、1 ページに要約する。(標準学習時間：1 時間)
3	ヒトの視点の適用デザイン	・サービスの人間の感性 ・IT サービスデザイン ・グループワーク&プレゼン	事前学習：参考文献の『デザイン思考』(前半) 概観を読んで、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)
4	市場とプロポーザルの視点	・市場におけるプロポーザルの意味 ・プロポーザルの視点 ・グループワーク&プレゼン	事前学習:指定する IT サービス事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)
5	デザイン思考の概観	・デザイン思考とシステム思考 ・デザイン思考の位置づけ ・個人発表（プレゼンテーション）	事前学習：指定する対面サービス事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)
6	顧客体験デザイン	・顧客体験デザイン（カスタマーエクスペリエンスデザイン：Customer Experience Design） ・グループワーク&プレゼン	事前学習：参考文献の『デザイン思考』(後半) 概観を読んで、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)
7	デザイン思考の手順	・デザイン思考の手順 ・発見・定義・発想・実証 ・グループワーク&プレゼン	事前学習：指定する業界・企業のデザイン思考の適用事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)
8	デザイン思考のプロトタイピング	・サービスのプロトタイピング（試作） ・グループワーク&プレゼン	事前学習：指定する業界・企業のデザイン思考の適用事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)
9	プロローザルのステークホルダー	・ステークホルダー　顧客、取引先、CMO（chief marketing officer)、利益団体（Interest Group） ・個人発表（プレゼンテーション）	事前学習：参考文献の『デザインの誤解』を読んで、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)
10	プローザル（提案書）	・プロポーザルの構成と目次 ・顧客の課題解決の提案 ・グループワーク&プレゼン	事前学習：参考文献の『デザイン思考の誤解』を読んで、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)
11	B2C/B2B とデザイン思考	・B2C とデザイン思考 ・B2B とデザイン思考 ・グループワーク&プレゼン	事前学習：指定する業界・企業のデザイン思考の適用事例のネット検索・調査を行って、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)
12	デザイン思考の個別手法	・思考の発散と収束 ・演繹法と帰納法 ・グループワーク&プレゼン	事前学習：参考文献の『デザイン思考の実践』を読んで、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)
13	オープンデザイン	・オープンデザイン ・ビジネス実践事例 ・グループワーク&プレゼン	事前学習：参考文献の『デザイン思考の社会実装』を読んで、1 ページに要約する。(標準学習時間：1.5 時間)
14	デザイン思考ビジネスの紹	・デザインファーム企業の講演	事後学習：講演をとおして、何が理解でき、またど

	介	・トークセッション	んな疑問が生じたのかをWebフォーム入力する。(標準学習時間：0.5時間)
15	まとめ	・総括 ・小テスト ・小テストフィードバック	事後学習：総括と小テストの内容から質問をWebフォーム入力する。(標準学習時間：0.5時間)

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	デザイン思考の先を行くもの ファン・ブイエン，アネミック/ダールハウゼン，ヤープ/ザイルストラ，イェル/ファンデル・スコール，ロース	各務 太郎	クロスメディア・パブリッシング
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	デザイン思考が世界を変える	ティム・ブラウン	早川書房
2	IBMの思考とデザイン	山崎 和彦	丸善出版
3	オープンデザイン ―参加と共創から生まれる「つくりかたの未来」	ヴァン・アベル，バス/エバーズ，ルーカス/クラーセン，ロエル/トロクスラー，ピーター	オライリージャパン

評価方法（基準）

平常点（15%）、個人課題（5%）、小テスト（10%）、期末テスト（70%）の累計による総合評価を行う。平常点は、ケーススタディのグループ課題（毎回および不定期、授業時間内の提出）、指名者（個人・グループ）発表、積極的な質問、建設的な発言等の授業への参画の程度で評価する。授業において、迷惑な私語、携帯機器の私用、遅刻等の進行を妨げる者、授業に無関係な行動を行う者については退室指示等で厳しく対処し、かつ成績評価に反映する。授業の受講に集中すること。

学生へのメッセージ

新サービスの発想を形にする方法論として、市場から注目を集めているデザイン思考を学習します。多様な視点で考察・提案を進め、異なる価値観を有する人達との情報交流をとおして成果を導き出すアプローチに慣れ親しんでください。グループワークで共創する機会を主体的かつ自律的に参画し、コミュニケーションをとおして触発し合う重要性を認識すること。グループでの自分の存在感が発揮できるように率先して問題の発見・解決に取り組むこと。

担当者の研究室等

11号館7階（北村教授室）

備考

指定座席での着席をお願いします。課題等のフィードバックについては、グループワークのケーススタディ、個人課題、小テストが主対象で、提出後早期の授業の中で、書面（MS Office形式）や学習支援ツール（Webフォーム形式）の媒体を使って、詳細を説明する。

初回の授業ガイダンスでは、クラス運営法、日常学習方法、成績評価基準（評価マトリクス）の説明、ケーススタディ（グループ・個人）、課題発表（プレゼンテーション）の実施要領、学習支援ツール（Webフォーム・質問共有システム）の使用方法を説明するので、必ず出席すること。また、授業の出席回数の要件を満たさない者、成績評価にかかわる活動での不正行為者は、初回授業で示す評価基準に従った評価を行う。

科目名	文学から学ぶ	科目名（英文）	Literature
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本　正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	IHU2409a2		

授業概要・目的	日本の近代文学の短編を読む。なお、明治から敗戦までの作品を近代文学と位置づける。 文学作品を読むことは、それだけで我々の心を豊かにしてくれる。作品を読むことで、近代の日本人が何を考え、発見し、何に悩んでいたのか、ともに考えたい。 文学作品への抵抗をなくし、作品を読んで考える習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	作品を鑑賞し、その文学的特徴を説明できる。 近代文学の流れについて概説できる。
授業方法と留意点	毎回、1 編の短編作品を取り上げて、講義する。 受講生は事前に作品を読んで授業に臨む。講義を受けたのち、作品に対するコメント、考察を書く。
科目学習の効果（資格）	文学に対する関心と知識が深まる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	近代文学史概説	近代文学の始まりと、言文一致運動について	事後：日本の近代史について調べる（2 時間）
2	明治の文学１ 夏目漱石の短編を読む	夢と心理の表現について考える	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：夏目漱石の（短編）作品を読む （2 時間）
3	明治の文学２ 谷崎潤一郎の短編を読む	近代が失った美意識について考える	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：谷崎潤一郎の（短編）作品を読む （2 時間）
4	明治の文学３ 森鴎外の短編を読む	歴史小説のはじまり	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：森鴎外の（短編）作品を読む （2 時間）
5	大正の文学１ 佐藤春夫の短編を読む	メルヘンと近代	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：佐藤春夫の（短編）作品を読む （2 時間）
6	大正の文学２ 志賀直哉の短編を読む	ヒューマニズムについて考える	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：志賀直哉の（短編）作品を読む （2 時間）
7	大正の文学３ 菊地寛の短編を読む	大衆文学の流行	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：菊池寛の（短編）作品を読む （2 時間）
8	大正の文学４ 小川未明の短編を読む	児童文学の登場	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：小川未明の（短編）作品を読む （2 時間）
9	大正の文学５ 芥川龍之介の短編を読む	人間心理と短編	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：芥川龍之介の（短編）作品を読む （2 時間）
10	昭和前期の文学 横光利一の短編を読む	新しい表現技法	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：横光利一の（短編）作品を読む （2 時間）
11	戦時下の文学１ 中島敦の短編を読む	漢文世界の表現	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：中島敦の（短編）作品を読む （2 時間）
12	戦時下の文学２ 太宰治の短編を読む	芸術の不在	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：太宰治の（短編）作品を読む （2 時間）
13	戦争の文学 原民喜の短編を読む	原爆小説が伝えるもの	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：戦争小説を読む （2 時間）
14	現代文学へ 安部公房の短編を読む	新しい時代と不安・孤独	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：戦後の（短編）作品を読む （2 時間）
15	近代の詩を読む 高村光太郎・萩原朔太郎・三好達治らの詩を読む	日本の近代史の流れをたどる	事前：配布したプリントを読み、理解しておく 事後：近代詩を読む （2 時間）

関連科目	歴史や言葉に関する授業

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	授業時のコメント・考察（100%） 場合によっては、課題を出す。
学生へのメッセージ	活字嫌いでも、少しがんばれば読み切れる短編を選びます。 この機会に、小説好きになりましょう。 専門の授業で疲れた脳を、文学で休ませてください。
担当者の研究室等	橋本研究室（7 号館 4 階）
備考	授業時のコメントに対しては、次回にフィードバックを行う。 事前事後学習時間は、上記が最低時間。計 60 時間を目安とする。

科目名	法学入門	科目名（英文）	Jurisprudence
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小島　俊朗
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ISO1413a2		

授業概要・目的	法は私たちの日常生活と密接な関係にあり、私たちが普段あまり意識しないで行動していても、その行為の裏には法律関係若しくは法律的問題のあるものが沢山あります。法を学ぶことは世の中を知ることにもつながります。この講義では、現実の社会と法の世界がどのように関係しあっているかということについて理解してもらいたいと思います。法についての基本的な知識と考え方を身につけ、世の中の動きに関心を持ってもらえたらと思います。内容としては、国の基本法である憲法と私生活を規律する民法が中心となります。
到達目標	この授業を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。 ①憲法が守ろうとしているものが何であるかを概ね理解できるようになること。 ②民法の枠組みと基本事項を理解できるようになること。
授業方法と留意点	講義方式を採ります。決まった教科書は使用しませんが、レジュメと参考資料を随時配付します。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や教員免許の取得等に参考になると思います。 また、法律や政治に関する時事問題が理解し易くなります。 さらに、法律的なものの考え方が理解できるようになります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法とは何か	法規範と道徳の違い、法源とは何かなど	配布資料を見直すこと（約１時間）
2	法の解釈	法令解釈の基本	配布資料を見直すこと（約 1.5 時間）
3	国家と法	国家と憲法、国民主権、三権分立	配布資料を見直すこと（約 1.5 時間
4	平和と法	平和主義	配布資料を見直すこと（約１時間）
5	人権と法（Ⅰ）	基本的人権の保障（自由権）	配布資料を見直すこと（約１時間）
6	人権と法（Ⅱ）	基本的人権の保障（社会権）	配布資料を見直すこと（約１時間）
7	政治と法	統治機構	配布資料を見直すこと（約１時間）
8	国と地方	地方自治	配布資料を見直すこと（約１時間）
9	財産と法	所有権の絶対性	配布資料を見直すこと（約 1.5 時間）
10	契約と法（Ⅰ）	契約自由の原則	配布資料を見直すこと（約 1.5 時間）
11	契約と法（Ⅱ）	契約各論	配布資料を見直すこと（約１時間）
12	契約と法（Ⅲ）	契約各論（続き）	配布資料を見直すこと（約１時間）
13	行政と法	行政機関の仕事	配布資料を見直すこと（約１時間）
14	紛争解決と法	争訟制度	配布資料を見直すこと（約１時間）
15	まとめ	授業全体のまとめ	ノート及び配付資料等を見直すこと（約５時間）

関連科目：憲法、民法など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民事法入門	野村豊弘	有斐閣アルマ
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験の点数（１００％）で評価します。ただし、期中に理解度テストを実施することがあります（実施する場合は、定期試験の点数ｘ70％と理解度テストの点数ｘ30％の合計で評価）。
学生へのメッセージ	学生時代には、いろいろなことに興味を持ち、専門分野以外の勉強をすることも、将来何かの役に立つと思います。法の世界もその一つです。授業が進めば新たな世界が見えてくると思います。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小島研究室
備考	講義の内容は、憲法と民法を中心とする基本的なものですから、ご自分に合った入門書を適宜選んで、講義内容に相当するところを講義の前後に読み、予習・復習を心がけるようにして下さい。これらに要する時間は通算 20 時間を目途として下さい。ただし、講義は入門書に書いていない事柄も少なからず含まれますので、特に講義内容の復習を欠かさずに行って下さい。 レジュメの穴埋めは講義において説明します。また、理解度テストは、解答の回収後に板書などの方法により正解を伝えます。

科目名	マーケティングと歴史	科目名（英文）	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居　奈緒子
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,N科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：IT01428a2～IT01432a2,L科：LT01422a2～LT01426a2,D科・S科：IT01428a2～IT01432a2,P科：YT01423a2～YT01427a2,J科：,W科：WT01424a2～WT01428a2,N科：NT01420a2～NT01424a2		

教養科目

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式を基本とします。
科目学習の効果（資格）	マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品政策に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、価格政策に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通チャネル政策に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、販売促進政策に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
6	マーケティングのＳＴＰアプローチ	市場細分化について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、ＳＴＰアプローチに関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
8	マーケティングの歴史的研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、三井越後屋に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、呉服商の流通機構に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
10	越後屋の仕入機構（１）	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
11	越後屋の仕入機構（２）	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、いとう松坂屋・大丸屋の仕入機構に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店化に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店業態に関連する内容を読みましょう。（所要時間１時間）
15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと歴史の総復習をしておきましょう。（所要時間１時間）

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大規模呉服商の流通革新と進化ー三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷ー	武居　奈緒子	千倉書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	史料が語る三井のあゆみ	三井文庫編	吉川弘文館
2	消費行動　新版	武居　奈緒子	晃洋書房
3			

評価方法 （基準）	期末テストの成績 70%、授業内課題 30%
学生への メッセージ	授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましょう。
担当者の 研究室等	11 号館８階　武居教授室
備考	

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名（英文）	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：IT01428a2～IT01432a2,L 科：LT01422a2～LT01426a2,D 科・S 科：IT01428a2～IT01432a2,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

教養科目

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部［II］
到達目標	この授業を通じて学生には、自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようになることが期待される。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよい。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。
科目学習の効果（資格）	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守れるようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか？	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか？	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。１件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
3	犯罪はなぜ起こるのか？どうやって減らすのか？	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
4	大阪の治安はどのくらい悪いのか？どのように防犯対策を進めているのか？	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト１を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
5	街頭犯罪――ひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最近の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
7	性犯罪――街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
9	ストーカー、DV（配偶者からの暴力）	ストーカーや DV は、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まずさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
10	詐欺――高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
11	サイバー犯罪――子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでの ID、	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）

		パスワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。	
12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青パト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）
15	警察官の仕事の実際	犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。（約１時間）

関連科目：法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）：定期試験(70%)、講義毎回の確認ペーパー(30%)の合計によって評価する。

学生へのメッセージ：勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できるところからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえると思う。

担当者の研究室等：11 号館 9 階 中沼研究室

備考：講義毎回の確認ペーパーの正解の提示や、そこに書かれた意見の紹介はポータルサイトを通じて行う。

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名（英文）	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	坂本　淳二
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：IT01428a2～IT01432a2,L 科：LT01422a2～LT01426a2,D 科・S 科：IT01428a2～IT01432a2,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

教養科目

授業概要・目的	これから就職活動を始める学生（大学３年）を対象に、社会人として必要とされる規律やマナー、製造業など企業で働く上での基礎知識、課題を発見して解決する方法などを習得することを目的とする。履修後には、社会人・企業人としての役割および責任、仕事への情熱、創造的態度、自己の能力向上意欲が喚起されることを期待する。 なお，本授業では、パナソニック（株）より講師を招き、社会人・企業人としての基礎である知識と心がまえについて、パナソニック（株）の新入社員研修の方式に従い、講義に加えて具体事例演習を通じて体得させる。
到達目標	(1)社会人としてのマナーを身につける。(2)仕事の基本に関する知識を修得する。(3)企業における品質問題を体験する。（４)原価管理の基礎知識を修得する。（５)PDCA サイクルによる課題解決を体験する。
授業方法と留意点	前半では、グループワーク、Think-Pair-Share などアクティブラーニングを主体に授業を進める。また授業テーマ毎に，授業内容についてのレポートを作成する。摂大教員も教室に常駐し、授業の補助と成績評価を分担する。授業は挨拶に始まり、挨拶で終わるので遅刻は厳禁。なお、1～8 回目までは 120 分授業とする。
科目学習の効果（資格）	社会が学生に何を求めているのかを体得し、職業意識を高め、自発的に能力向上を行えるようになる。就職後ただちに、社会人・企業人としての適切な行動が取れるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	企業・製造業・仕事の基本とは① 4 月 11 日（木）	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと（書式は別途）
2	企業・製造業・仕事の基本とは② 4 月 18 日（木）	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと（書式は別途）
3	企業・製造業・仕事の基本とは③ 4 月 25 日（木）	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと（書式は別途）
4	企業・製造業・仕事の基本とは④ 5 月 9 日（木）	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと（書式は別途）
5	企業・製造業・仕事の基本とは⑤ 5 月 16 日（木）	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと（書式は別途）
6	企業・製造業・仕事の基本とは⑥ 5 月 23 日（木）	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと（書式は別途）
7	品質教育① 5 月 30 日（木）	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からＱＣ７つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する	-----
8	品質教育② 6 月 6 日（木）	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からＱＣ７つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する	品質教育①～②の講義終了後、レポートを提出する（書式は別途）
9	原価・コスト教育① 6 月 13 日（木）	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	-----
10	原価・コスト教育② 6 月 20 日（木）	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	-----
11	原価・コスト教育③ 6 月 27 日（木）	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	原価・コスト教育①～③の講義終了後、レポートを提出する（書式は別途）
12	課題解決教育① 7 月 4 日（木）	PDCA サイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	-----
13	課題解決教育② 7 月 11 日（木）	PDCA サイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	課題解決教育①～②の講義終了後、レポートを提出のこと（書式は別途）
14	プレゼンテーションの方法 7 月 18 日（木）	プレゼンテーションの基礎知識を習得する	これまでの講義を総括して、全体討議・質疑応答でのプレゼン資料作成を行うこと
15	全体討議・質疑応答 7 月 25 日（木）	14 回の講義を総括しての討議・質疑応答を実施する	最終報告として受講レポートを提出する。

関連科目

『ものづくりインターンシップ実践』を履修する学生は、必ずこの科目を履修すること。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			
評価方法 （基準）	課題レポート（6 回）と受講レポート 50%、授業姿勢（積極性）20%、全体討議（プレゼンテーション）10%、期末試験 20%にて総合評価を行う。			
学生への メッセージ	日本を代表する企業であるパナソニック（株）と共同で実施する研修を受講して、社会と企業は学生に何を求めているのかを知り、職業人としての基礎知識を身につけ、社会人になるための意識転換をしましょう。この科目を履修する学生は、この科目と「ものづくりインターンシップ実践」を同時に受講することが前提です。			
担当者の 研究室等	12 号館６階　坂本教授室			
備考	毎回の講義内容を振り返りのための学習毎回 1 時間程度。　レポート各回 3 時間程度，プレゼン準備と期末試験のための学習 20 時間程度。全体討議におけるプレゼンテーション資料作成のため，2 回 実習前指導を実施する（7/11(木)，7/18(木)6 限目)。 パナソニック講師：佐藤哲志、山下秀行、斎藤遵、町田秀人			

教養科目

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名（英文）	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	楢橋　洋一
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：IT01428a2～IT01432a2,L 科：LT01422a2～LT01426a2,D 科・S 科：IT01428a2～IT01432a2,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

教養科目

授業概要・目的	本科目は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ」で実際に海外に渡航し、海外で実習を受けるために必要な英語力やマナー、現地の予備知識（社会・文化等）、協同作業能力などを身につけるための講義である。日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となっている。本科目では、将来グローバルに活躍できる人材の育成を視野に入れ、海外事情や企業のグローバル化の実態、持続可能な開発の在り方を学ぶほか、英語によるコミュニケーション力や海外での企業や大学の人たちと交流・研究する際の社会人としてのマナーなどについて養成する。これらの各項目の要点について、企業での業務・海外渡航経験を有する授業担当者により講義する。
到達目標	(1)海外事情が理解できる。(2)海外渡航の手順や手続きが理解できる。(3)グローバル企業の現状が理解できる。(4)海外インターンシップ先の事情が理解できる。(5)英語による基本的なコミュニケーションができる。(6)社会人としてのマナーが身につく。
授業方法と留意点	講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また、男女も問わない。本講義は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ」の準備のための講義とする。夏期の実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において受講者を選定する。講義室内ではできるだけ、日本語を使わないようにする。
科目学習の効果（資格）	英語による基本的なコミュニケーション力が身につく。TOEIC や英検などを受験する契機となる。また、社会人としてのマナーが身につく。海外における実体験ができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、海外渡航手続き概要、英語コミュニケーション１	パスポート、チケット予約（航空機、ホテル）、保険、海外渡航準備、英語による自己紹介	事前：海外渡航手続き調査（1 時間） 事後：課題レポート作成（1 時間）
2	海外事情、日系企業のグローバル化、英語コミュニケーション２	英語による自己紹介発表、海外の文化、経済、グローバル化事情	事前：英語での自己紹介準備（1 時間）事後：課題レポート作成（1 時間）
3	研修先　事前調査、英語コミュニケーション３	英字新聞記事の調査、文化、歴史、経済事情，企業・大学	事前：研修先の英字新聞調査（1 時間） 事後：課題レポート作成（1 時間）
4	格差社会の問題	これからのグローバル人材として必要な素養を考える、ビデオ鑑賞など	事前：格差社会の調査（1 時間） 事後：課題レポート作成（1 時間） 格差社会の問題について、レポート提出
5	社会人基礎力、英語コミュニケーション４	社会人として必要な基礎力、英語による日本の紹介発表	事前：英語での日本紹介準備（1 時間） 事後：課題レポート作成（1 時間）
6	英語コミュニケーション５	海外渡航、海外生活、大学紹介、専門科目の紹介	事前：予習プリント学習（1 時間） 事後：課題レポート作成（1 時間）
7	英語コミュニケーション６	研修先企業、大学の調査、英語による発表、英語によるワークショップなど	事前：予習プリント学習（1 時間） 事後：課題レポート作成（1 時間）
8	英語コミュニケーション７	海外研修を想定したグループ実習 1、テクノセンター見学、ヒヤリングなど	事前：予習プリント学習（1 時間） 事後：課題レポート作成（1 時間）
9	英語コミュニケーション８	海外研修を想定したグループ実習 2、テクニカルニュースのリスニングなど	事前：予習プリント学習（1 時間） 事後：課題レポート作成（1 時間）
10	英語コミュニケーション９	海外研修を想定したグループ実習 3、テクニカルニュースの発表など	事前：予習プリント学習（1 時間） 事後：課題レポート作成（1 時間）
11	英語コミュニケーション 10	海外研修を想定したグループ実習 4、英語フレーズ集の作成など	事前：予習プリント学習（1 時間） 事後：課題レポート作成（1 時間）
12	英語コミュニケーション 11	海外研修を想定したグループ実習 5、英語フレーズ集の作成など	事前：予習プリント学習（1 時間） 事後：課題レポート作成（1 時間）
13	マナー実習	挨拶、礼儀、服装、ミーティング、質疑、懇親会、感謝、気配り、機転	事前：予習プリント学習（1 時間） 事後：課題レポート作成（1 時間）
14	海外渡航、海外生活	渡航準備、入出国、習慣、食生活、健康管理	事前：予習プリント学習（1 時間） 事後：課題レポート作成（1 時間）
15	英語による成果発表	まとめ	事前：成果発表の準備（1 時間） 事後：成果発表の反省（1 時間）

関連科目：ものづくり海外インターンシップ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題レポート 60%、取組み姿勢 20%、成果発表 20%として評価を行う。
学生へのメッセージ	これまでに「ものづくり海外インターンシップ」を受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また、男女も問わない。
担当者の研究室等	1 号館 4 階　楢橋教授室
備考	【共同担当者】　楢橋教授（E 科）、原教授（M 科）、木多教授（A 科）、白鳥准教授（R 科）、理工学部インターンシップ委員会委員

科目名	ものづくりインターンシップ実践	科目名（英文）	Internship for Manufacturing Practice
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	坂本　淳二
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科:IT01428a2～IT01432a2,L 科:LT01422a2～LT01426a2,D 科・S 科:IT01428a2～IT01432a2,P 科:YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	『ものづくりインターンシップ基礎』 の実践コースである。『ものづくりインターンシップ基礎』 で学んだ内容をパナソニックのモノづくり現場で具体実習・実践することにより、 更なる理解を進め、習得して自らの強みとすることを目的とする。 なお，本授業は，パナソニック人材開発カンパニーの講師陣による生産，製造の実践を通して，企業における目標達成のプロセスを体得するものである．
到達目標	(1)生産革新・改善を体験，理解することができる。(2)製造業の成り立ち・仕組みを体験，理解することができる．(3)チームワーク・ＱＣＤ問題を体験，理解することができる。(4)パナソニックの工場を見学する。(5)研修成果を発表する。
授業方法と留意点	『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容を体験するため、パナソニック（株）人材開発カンパニーで、計７日間の宿泊実習を行なう。また、事前指導として『ものづくりインターンシップ基礎』のまとめを行い、事後指導として実習で得られた成果の定着をはかるためにプレゼンテーションによる報告を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	直前指導 ・1 回目　ものづくりインターンシップ基礎のまとめ，ものづくりインターンシップ実践の準備　7/18（木）　6 限目 ・2 回目　ものづくりインターンシップ基礎全体討議プレゼンテーション指導　7/25（木）　6 限目 宿泊実習（パナソニック人材開発カンパニー） ・1～3 日目 【授業テーマ】 生産革新演習 【内容・方法等】 1 個流しセル生産のロールプレイを通じて、生産革新実践・方法等を体得する。(グループ演習) 【事前・事後学習課題】 演習終了後、レポートを提出のこと ・4～5 日目 【授業テーマ】 モノづくりシュミレーション演習 【内容・方法等】 四角錐製作を通じて、製造業の成り立ち・しくみを習得（設計～生産）し、目標達成のためのチームワーク・QCD 問題意識の重要性を体得する。(グループ演習) 【事前・事後学習】 演習終了後、レポートを提出のこと ・6 日目 【授業テーマ】 工場見学 【内容・方法等】 パナソニックのモノづくりを工場見学を通じて体得する。(2 工場) 【事前・事後学習課題】 見学終了後、レポートを提出のこと ・7 日目 【授業テーマ】 研修成果報告会 【内容・方法等】 研修成果報告会の実施。(グループ単位) 【事前・事後学習課題】 グループ単位でプレゼン資料をまとめておくこと 実習中指導 ・8 月 31 日（土）　1～4 限目　プレゼンテーション指導 実習後指導 ・1 回目　体験報告書の添削指導 ・2 回目　研修成果報告会（2 回目）に向けたプレゼンテーション指導 ・3 回目　研修成果報告会（2 回目）に向けたプレゼンテーション指導 ・4 回目　研修成果報告会（2 回目） ・5 回目　全体報告会　学生代表者の発表・質疑 ・6 回目　全体報告会　企業管理者の講演と講評
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法	実習成果 40%、研修成果報告会（2 回）20%、実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、実習・授業態度 20%とした総合評価を行なう。

（基準）	
学生への メッセージ	この科目は「ものづくりインターンシップ基礎」を同時に受講することが前提です。
担当者の 研究室等	坂本教授室（12 号館 6 階）
備考	期間：2019 年 8 月 26 日（月）～8 月 30 日（金）、9 月 2 日（月）～9 月 3 日（火）　パナソニック（株）人材開発カンパニーでの宿泊研修です。8 月 31 日（土）には摂南大学でプレゼン資料を作成します。その間、パナソニック㈱社員の、朝礼、ランニングにも参加します。ジーンズ、スリッパは禁止。ランニングできる履物、着替えが必要です。学生負担金・食費等は別途徴収します。 【事前事後学習】 レポート作成，プレゼン準備としての学習時間：20 時間程度。 【担当者】 パナソニック講師：佐藤哲志、高岡清、熊本義久、西尾幹夫

科目名	ものづくり海外インターンシップ	科目名（英文）	International Internship for Manufacturing
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	楢橋　祥一
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科:IT01428a2～IT01432a2,L 科:LT01422a2～LT01426a2,D 科・S 科:IT01428a2～IT01432a2,P 科:YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

授業概要・目的	日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となる。本科目は、「ものづくり海外インターンシップ」と呼び、世界展開をしている「ものづくり企業」の海外工場において具体的に実習体験をすることにより、グローバル企業の現状を理解するとともに、自らの視野と経験を広げることを目的とする。研修先は東南アジアおよび北米とする。研修先によっては、海外の大学でワークショップ体験も含める。企業での業務経験を有する授業担当者により、ものづくりおよび英語によるコミュニケーションの要点を講義する。
到達目標	(1)グローバル企業の現状が理解できる。(2)英語による基本的なコミュニケーションができる。(3)海外でのものづくりの工程を体験できる。(4)チームワークを体験できる。(5)国際的視野を広げられる。(6)研修成果が発表できる。
授業方法と留意点	東南アジアは、タイ、フィリピン、ベトナムを、北米は、アメリカを予定している。受講者はいずれかの企業において、本学の夏休み中に往復を含めて約１０日間（予定）の現場実習を行う。実習後にレポート作成および海外実習の成果報告会を行う。講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識を特に必要としないので、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。なお、本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインターンシップ基礎（海外班）」の受講を必須とする。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	直前指導 　ものづくり海外インターンシップ基礎の全体報告会に向けたプレゼンテーションの指導、海外実習の準備など 海外実習 ・1～2 日目 【授業テーマ】移動、オリエンテーション 【内容・方法等】研修先の概要、オリエンテーション、語学（英語）研修など 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと ・3 日目 【授業テーマ】企画・設計部門実習／ワークショップ 【内容・方法等】ものづくり工程の上流である企画・設計部門。 【事前・事後学習】実習終了後、レポート、アイディアスケッチなどを提出のこと ・4～5 日目 【授業テーマ】製造工場見学 【内容・方法等】関連工場、施設、建築、デザイン作品の見学、現地協同プロジェクト、現地現地従業員・大学生との交流会に参加する。交流会では、英語によるコミュニケーションを行う。 【事前・事後学習課題】交流会終了後、レポート、アイディアスケッチなどを提出のこと ・6～8 日目 【授業テーマ】製造系実習 【内容・方法等】製造系の加工、組立、検査・品質管理など。(グループ演習) 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと ・9～10 日目 【授業テーマ】研修成果報告会、移動 【内容・方法等】グループ単位でパワーポイントによるプレゼンテーション、または部分模型やその他手法を用いてプレゼンテーションしてもよい。 【事前・事後学習課題】実習終了後、最終レポート、または各グループで研究成果ポスター、または梗概作成を提出すること。 実習後指導 ・1 回目　最終レポート（体験報告書）の添削指導 ・2 回目　成果報告会に向けたプレゼンテーション指導 ・3 回目　全体報告会　学生代表者の発表・質疑 ・4 回目　全体報告会　企業管理者の講演と講評
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 /	
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 /	
評価方法（基準）	海外現地研修 60%（実習記録簿 20%、実習・授業態度 20%、実習成果プレゼン 20%)、実習前後の学習 5%、実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、成果報告会（2 回）15%として評価を行う。
学生へのメッセージ	これまでに受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので、大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も文系・理系も問わない。また、男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は、理工学部インターンシップ委員会において参加者を選定する。本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインターンシップ基礎（海外班)」の受講を必須とする。
担当者の研究室等	１号館４階　楢橋教授室 １号館５階　原教授室 ８号館３階　木多教授室 12 号館 7 階　白鳥准教授室
備考	【注意事項】研修予定期間：2019 年 8 月中旬（研修先の都合により変更する場合があります。） 航空運賃、宿泊費、保険代などは自己負担となります。 【事前事後学習】レポート作成、復習の学習時間：20 時間程度 【共同担当者】　楢橋教授、原教授、木多教授、白鳥准教授、理工学部インターンシップ委員会委員

科目名	役立つ金融知力	科目名（英文）	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	陸川　富盛
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,N科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：IT01428a2～IT01432a2,L科：LT01422a2～LT01426a2,D科・S科：IT01428a2～IT01432a2,P科：YT01423a2～YT01427a2,J科：,W科：WT01424a2～WT01428a2,N科：NT01420a2～NT01424a2		

教養科目

授業概要・目的

諸君は大学生になるまでは、「これまでに既に起きたこと」を学んできました。「既に起きたこと」はもう変わることはありませんから必ず正解があり、それらを覚えておけば済みました。つまり、たかだか「正解を教えてもらって要領良く覚える」ということをやってきただけに過ぎません。

しかし、諸君がこれから歩を進めていく実社会は「明日を創っていく社会」ですから、最初から決まり切った正解なんかどこにもありません。自分で自分の答えを創り出して行くしかないのです。そこで最も必要となるのは、他人の話や文章を正確に理解し、自分の考えを的確に表現する能力です。

実社会で諸君が自ら成長し自分の人生を築き上げていくことは、企業がより良い企業となることを目指して経営していくことと同じです。つまり、諸君のこれからの人生は「自分株式会社を経営していくこと」に他なりません。それには、自ら考えて決断し行動する「賢い経済主体」となる、という大きな方向転換が必要なのです。具体的には、市場経済や契約社会の仕組みを実感覚として理解し、自分の人生を切り拓いていく力を身に着ける、ということです。

金融や投資などファイナンスに関する実戦的な知識を得てそれらを日常的に活用していくことは、単に目先のお金の問題に役立つだけでなく、より良い人生や社会の実現に欠かせません。これは諸君の専門科目が何であっても同じです。

本講義の目的は、諸君が人生のさまざまな局面で的確に決断し行動できるよう、ファイナンスの知識や考え方に根差した実戦的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着けることです。

到達目標

主としてファイナンスの観点から、実戦的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着けること、これが諸君の到達目標です。

具体的には、諸君が将来直面する経済生活やキャリアライフで、諸君自身が「賢い経済主体」として適宜的確に行動できるようになることを目指します。

授業方法と留意点

本講義は１５回全体を通して次の三つのステップで構成し、各回とも教科書を使用した講義形式で進めます。

① 先ずは経済主体としての視点で、社会の仕組みの全体観を把握し、様々な課題や対処法を認識します。
② 次に、ファイナンスの基礎知識を、大学で学ぶ様々な専門知識と関連付けながら、実戦的に学んでいきます。
③ 更に、それらを統合し活用する能力をインテリジェンスとして身に着け、社会生活に応用する方法を学びます。

本講義では毎回必ず教科書をベースに講義を進めるため、レジュメ等の資料を配布することは一切ありません。受講者は指定された教科書を必ず持参してください。但し、講義の内容は教科書通りではなく、教科書は単なる教材として手元資料的に利用するに過ぎません。このため、毎回きちんと聴講しなければ成果は得られません。

講義中や講義に関連した e-Learning として、スマホアプリの利用や検索等を適宜指示します。これらは諸君の成績評価に直結するので指示に従って必ず実施し、ビジネスに役立つ IT 活用を身に付けてください。

科目学習の効果（資格）

経済・社会生活やキャリアライフに必要な意思決定を適宜適切に行えるよう、ファイナンスの知識を活用する実戦的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着けます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	「経済主体としての立ち位置 」	テキスト＜P15～14,4～13＞ ・私たちのくらしと経済 ・戦後の社会発展 ・パラダイムシフト ・変革の必要性
2	経済・金融の基礎知識 ①	「国際経済と国家財政」	テキスト＜P44～49,38～44＞ ・国際経済 ・国家の財政
3	経済・金融の基礎知識 ②	「市場経済と金融の役割」	テキスト＜P16～18,25～29,18～25＞ ・お金の役割 ・市場経済のしくみと意義 ・金融の役割と銀行
4	法律の基礎知識	「契約の基本」	テキスト＜P154～157,159～166＞ ・契約社会 Ⅰ ・ローン・クレジット ・契約社会 Ⅱ
5	リスクと向き合う ①	「日常生活のリスク」	テキスト＜P79～87,166～168,157～159,168＞ ・リスクマネジメント ・契約社会 Ⅲ
6	リスクと向き合う ②	「リタイアメント」	テキスト＜P88～97＞ ・年金制度 ・老後生活資金
7	投資の基礎知識	「投資とは何か」	テキスト＜P98～104＞ ・投資とは ・投資意思決定プロセス
8	経済活動と金融市場	「景気・株価」	テキスト＜P30～31,56～57,32～36,54～55,37,50～53＞ 景気 景気と株価
9	金融商品の基礎知識 ①	「代表的な金融商品（株式等）」	テキスト＜P123～135＞ ・株式 ・投資信託 ・外貨建て商品 ・保険商品

			・デリバティブ
10	金融商品の基礎知識 ②	「代表的な金融商品（債券他）」	テキスト＜P117～123＞ ・預貯金 ・信託 ・債券
11	金融商品の基礎知識 ③	「金融市場と金融商品の性格」	テキスト＜P105～117＞ ・直接金融と間接金融 ・金融商品の性格
12	投資のリスク管理	「投資のリスクマネジメント」	テキスト＜P136～153＞ ・分散投資 ・時間分散 ・長期投資
13	ライフプランニング ①	「ライフプランニング表」	テキスト＜P58～67＞ ・ライフプランニング
14	人生の三大資金	「住宅、教育、リタイヤメント資金」	テキスト＜P68～78＞ ・キャッシュフロー表の見直し ・ライフイベントごとの課題
15	最終まとめ	「講義のまとめ」	全体レビュー 講義で得た金融インテリジェンスのレビューを行い、実戦力を確認します。

関連科目

民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学　など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎		金融知力普及協会
2			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

評価方法（基準）

下記のとおり、本講義と課題に対する取り組み姿勢や理解度等を総合的に評価します。
・試験　　：　20%（経済やファイナンスに関する知識の正確性を評価します。試験範囲は講義全体です。）
・レポート　：　50%（自分で考えて調査し問題解決する能力、即ち、全講義を受講して得た知見を評価します。）
・平常点　：　30%（受講状況と態度、質疑応答、e-Learningj 実績等を評価します。出席は前提条件です。）

必要な学習は、e-Learning システムで適宜指示します。これらにきちんと対応しなければ単位は取得できません。

講義にただ出席して教科書を開いているだけでは、目標に到達することはあり得ませんから、当然ながら単位も取得できません。毎回きちんと意識を集中して受講し、「自分で考えて講義内容を理解し行動する」という自分自身の努力を積み重ねる事が必要です。

成績評価の一つとなる上記課題レポートは表計算ソフト「エクセル」で出題するので、提出期限（定期試験当日を予定）までにこの課題レポートの出題に答えて必要事項を調査・入力し、内容を精査すること。
（講義では「エクセル」の使い方は教えませんが、フォーマットを提示するので表入力と確認が必要です。）

レポート課題は大学内の情報システムを通じて掲示・連絡しますので、学内情報システムの利用や連絡設定は各自で事前に必ず行っておいてください。

学生へのメッセージ

本講義は「受講者の誰もが覚えられるように一つ一つ教えていく」のではなく、初回「イントロダクション」でも説明する通り、全１５回を通して受講することによって、情報収集能力、考える力、判断力などの実力が付くように構成してあります。このため本講義を聴講すると、諸君は実戦と同じく、広範で大量の情報が一方的に流れてくることを経験することになります。
しかし、諸君は既に大学生なのだから、「自分に分かる程度のことを自分に分かるように教えてもらえるのが当然だ」などという子供じみた甘えは捨て去ること。
その上で、「講義されている内容を自分自身で考えて理解しよう」という確固たる意志を持ち、私語を慎み毎回静粛に受講すること。
そうすればこれまでと異なる観点に立つことができ、本講義本来の効果を各自が最大限に得ることができます。

本講義ではレジュメ等の資料を配布することは一切ありませんが、スマホやタブレット等からのネット検索やサイトの利用を適宜指示することがあります。

受講者は指定された教科書を必ず購入してください。但し、教科書は単なる教材として手元資料的に利用するに過ぎず、講義内容も教科書通りではありません。毎回きちんと聴講しなければ成果は得られませんから単位も取得できません。

その他、課題の提示方法等についても詳しくは講義の中で説明しますので、講義は毎回注意深く受講し、指示に従って下さい。こうした日常の情報収集能力が、各自の実力や成績評価にも大きく影響します。

本講義で得た知識は、自分が学んでいる様々な専門知識と組み合わせて考えていくことで、より高い効果を得ることができます。安直にありきたりの答えを求めるのではなく、自分で考える習慣を身に着けてください。

なお、居眠り、内職、途中離着席、私語など、真摯に受講せず講義の妨げとなる学生には、講義を中断して注意を促し退席を命じる場合があります。学生の本分を弁えない不適切な行動は本講義の主旨を理解していない証左であり、成績評価にはマイナスとして反映します。

担当者の研究室等

11 号館 1 階（教務課）

備考

「事前・事後学習課題」について
予習（シラバス記載の教科書該当ページを事前に読む）：３０分程度
復習（講義の内容を振り返り、自分の言葉で整理する）：３０分程度

質問等は、講義前又は後の時間帯に、教室等での対面による自由な質疑応答で受け付けます。
興味のあることや疑問を感じたことなど、自分で抱え込まないで気軽に相談してください。

この講義は、ＳＭＢＣ日興証券グループによる「寄附講座」です。

科目名	ライフサイエンスの基礎	科目名（英文）	Introduction to Life Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西矢　芳昭
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：IT01428a2～IT01432a2,L 科：LT01422a2～LT01426a2,D 科・S 科：IT01428a2～IT01432a2,P 科：YT01423a2～YT01427a2,J 科：,W 科：WT01424a2～WT01428a2,N 科：NT01420a2～NT01424a2		

教養科目

授業概要・目的	ライフサイエンスの基礎知識は、医療、環境、食品分野などへの生物機能の応用、すなわちバイオテクノロジーと密接に係る。ライフサイエンスおよびバイオテクノロジーの知識を深めることで、最新の科学情報を理解できると共に、社会人として相応しい教養が身に付く。ライフサイエンスの各分野を深く学ぶためにも役立つ基礎的知識を、各専門分野に精通した教員により概説する。 また、企業で商品開発等に 20 年以上の実務経験を有する教員が、その経験を活かして生体物質の実用化に関する教育も行う。
到達目標	教養としてのライフサイエンスの基礎的知識の理解
授業方法と留意点	配布資料に沿って、板書およびプロジェクターによる講義を行う。
科目学習の効果（資格）	生命科学の学習に必要な基礎的事項を理解することができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	概要説明 特殊環境微生物学（西矢）	授業の進め方を説明する。 微生物や酵素に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
2	糖質生化学（大橋）	糖質にまつわる基礎知識・キーワード・最新トピックについて、生化学的な見地から解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
3	細胞生命生理学（宮崎）	生物がいかにして環境に適応する仕組み（ホメオスタシス）を獲得し、進化してきたのかについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
4	分子生物学（川崎）	分子生物学ににについて説明する。 個体ゲノム制御機構に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
5	環境分析学（青笹）	食品因子の機能性と生活習慣病などの健康との係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
6	生命環境科学（長田）	ライフサイエンスにおける植物について解説する。	講義後に小論文を課す。
7	細胞機能学（船越）	生物の構成単位である細胞の構造、種類や機能について解説する。	課題レポート、または確認小テストを課す。
8	環境毒性学（木村）	環境化学物質による健康リスクへのライフサイエンスの係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
9	構造生物学（中嶋）	生体分子がもつ分子構造を機能の関係性について解説する。	課題レポートを課す。
10	共生機能材料学（松尾）	タンパク質に対する水の必要性とその機能について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
11	分子細胞制御学（西村）	多くの生命現象は「現在（いま）」を生きるためだが，生殖は「未来」を作る現象であり，具体的に生殖とは何かを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
12	生体触媒科学（井尻）	生殖細胞におけるエネルギー代謝について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
13	病態薬理学（居場）	薬理学の基本について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
14	動物生理学（向井）	生物が環境の変化に適応するしくみについて、昆虫を題材として解説する。	課題レポートを課す。
15	生体分子機能学（尾山）	さまざまな機能性タンパク質について解説する。	確認小テストを課す。

関連科目：生物学概論、生化学Ⅰ、生物無機化学、生物統計学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義中の積極性、各回のレポートや知識確認テスト、小論文などで総合評価する。
学生へのメッセージ	不明な点があれば、各回の担当教員に遠慮無く質問して下さい。
担当者の研究室等	１号館　８階および９階　（理工学部生命科学科全専任教員）
備考	欠席・遅刻の扱いは理工学部の規定に従って処理する。 事後学習に要する総時間の目安は１５時間

科目名	倫理学	科目名（英文）	Ethics
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有馬　善一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ISO2412a2		

授業概要・目的	いわゆる日本の高度成長期には「消費は美徳」という言葉が流行した。「大量生産／大量消費社会」を賛美したものである。しかし、現在ではこれはもはや死語である。代わって、時代をリードしているのは「Mottainai」（もったいない）であるが、現代社会は本当にエコロジーを主軸に転換することに成功しているだろうか。この講義では、20 世紀の半ば以降、今日に至るまで社会を動かしている経済のシステムを理解した上で、それを変革するための道を探る。
到達目標	資本主義の精神的基盤について理解する。 古典的資本主義の限界と現代資本主義の特徴を理解する。 現代資本主義の限界、特に「外部問題」について理解する。 「成長の限界」において何が問われているのかを理解する。 資本主義に代わる社会のあり方について、自分なりの考えをまとめる。
授業方法と留意点	テキストを用いない「ノート講義」方式。適宜プリントを配布する。
科目学習の効果（資格）	現代社会の根幹をなす資本主義を理解することによって、自分たちが混沌の時代に生きていること、また、これにどう対処すべきかのヒントが得られるはず。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業への導入	・現代＝近代の特徴とは何か ・〈熱い〉社会と〈冷たい〉社会（レヴィ＝ストロース） ・資本主義と成長の「神話」	現代社会の特徴と問題点を自分なりに考えてみる。
2	資本主義社会の成立（1）	・冒険商人と資本家 ・「倫理」としての資本主義（マックス・ウェーバー）	配付資料について自分なりの考えをまとめる。
3	資本主義社会の成立（２）	・恋愛と贅沢と資本主義（ゾンバルト） ・禁欲的生産と享楽的消費の関係	ウェーバーとゾンバルトの着眼点の違いを整理して、現代の商品開発に当てはめてみる。
4	古典的資本主義の限界と現代資本主義	・資本主義の帰結としての恐慌と帝国主義 ・現代資本主義の登場（フォードと GM の経営戦略）	『現代社会の理論』の該当箇所を読んでおく。
5	現代資本主義社会の特徴	・大量生産／大量消費社会 ・情報化／消費化社会におけるゆたかさ	『現代社会の理論』の該当箇所を読んでおく。
6	産業の文明論的進化と情報化社会	・梅棹忠夫の「情報産業論」 ・情報化と脱工業化 ・情報化と消費化	『情報の文明学』の該当箇所を読んでおく。
7	情報化と人間社会	・インターネットの発達とコミュニケーションの変質 ・ネット社会の光と影	ネット社会の問題点を自分なりに考えてくる。
8	大衆社会と消費文化	・社会の大衆化と文化としての消費 ・情報の消費としてのマス・コミュニケーション ・消費と消尽（バタイユ）	社会の大衆化によって形成されてきた消費文化の事例を考えてみる。
9	現代社会の「外部問題」（1）	・経済システムと物理システム ・資源・エネルギーと環境の経済的「価値」	『現代社会の理論』の該当箇所を読んでおく。
10	現代社会の「外部問題」（2）	・貨幣の謎とエントロピー ・エコロジー経済学の可能性	エントロピー概念についての資料を理解する。
11	現代社会の「外部問題」（3）	・社会システムの限界としての「共有地の悲劇」 ・外部問題としての南北問題 ・途上国の人口爆発と先進国の少子高齢化	「共有地の悲劇」について調べてくる。
12	「成長の限界」をめぐって（1）	・『成長の限界』の予測とそれに対する様々な評価 ・エネルギー・資源の限界と「2050 年問題」	「算術級数的増加」と「幾何級数的増加」の意味について調べてくる。
13	「成長の限界」をめぐって（2）	・成長神話からの脱却 ・江戸時代における循環型社会 ・循環型社会の構築のための条件	フローとストックについて調べてくる。
14	グローバル化と自由主義	・グローバル化の様々な局面 ・市場主義と経済の自由 ・リバタリアンとコミュニタリアン	グローバル化の事例について調べてみる。
15	まとめ	・講義全体のまとめ	これまでの講義ノートをまとめておく。

関連科目：環境倫理Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プロテスタンティズムの倫理と資本主義の〈精神〉	M・ウェーバー	岩波文庫
2	情報の文明学	梅棹忠夫	中公文庫

	3	現代社会の理論	見田宗介	岩波新書
評価方法 （基準）	授業内のレポート・平常点（15%）、授業後のレポート（50%）、期末試験（35%）			
学生への メッセージ	環境問題の解決のためには現代社会全体の変革が必要です。21 世紀のあるべき企業の姿もそこに重なっていきます。			
担当者の 研究室等	7 号館 4 階（有馬研究室）			
備考	事前事後学習に全部で 60 時間程度必要。			

キャリア形成科目

科目名	インターンシップ基礎	科目名（英文）	Introduction to Internship
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野　武.上野山　裕士
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1502a3		

授業概要・目的	現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報から的確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考え、３年次にビジネスインターンシップを履修するまでに実践する。 なお、講義は担当者の人材業界での業務経験及び起業経験に基づいて議論を進行することもある。
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果（資格）	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことを等を考えられるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・事前学習：前期の大学生活で経験したことを思い出しておくこと（１時間）
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・事後学修：配付したレジュメを熟読しておくこと（１時間）
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・事前学習：グループで討議する準備をすること（１時間）
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業界/業種とは何かを理解する ・川上～川下の概念を理解する	・事後学修：配付したレジュメを熟読すること（１時間）
5	社会を知る④	・会社組織とは何かについて理解する ・職種について理解を深める	・事後学修：配付したレジュメを熟読すること（１時間）
6	就活体験①	特性と心がけ、自己 PR の組み立て方を学ぶ	・事後学修：配付したレジュメを熟読すること（１時間）
7	就活体験②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・事後学修：配付したレジュメを熟読すること（１時間）
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・事後学修：講義を踏まえ、これからの大学生活において何に取り組むのかを考えること（１時間）
9	自分を高める②	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケ―ションを学ぶ	・事後学修：講義の内容を日常生活で実践すること（１時間）
10	自分を高める③	講義⑧⑨の実践報告プレゼンテーション	・事前学修：発表の準備をしておくこと（１時間）
11	社会を知る⑤ グループプレゼンテーション①	グループ課題の発表	・事前学修：プレゼンテーションの準備をしておくこと（１時間）
12	社会を知る⑥ グループプレゼンテーション②	グループ課題の発表	・事前学修：プレゼンテーションの準備をしておくこと（１時間）
13	社会を知る⑦	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る	・事後学修：自分の将来について考えること（１時間）
14	社会を知る⑧	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方について考える	・事後学修：日本を取り巻く課題について理解すること（１時間）
15	授業のおさらい	講義のおさらいと期末レポートの振り返り	・事前学修：課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(0.5 時間) ・事後学修：講義全体を振り返ること(0.5 時間)

関連科目	キャリアデザイン、ビジネスインターンシップⅠ・Ⅱ、職業能力開発、キャリアプラン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループワーク（10%）、提出物（40%）、レポート（50%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。
担当者の研究室等	７号館３階　教育イノベーションセンター（上野山） ７号館３階　教育イノベーションセンター（水野）
備考	

科目名	エンプロイメントデザインⅠ	科目名（英文）	Employment design Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1503a3		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、各回講師の大学での学生生活の過ごし方、学修に対する姿勢、大学を卒業するにあたってどのような進路を選択し、またどのような職業へと導かれたかの３つのテーマを基に、本学の教職員から多様な生き方を聴き、それらに基づいたグループワーク、個人ワークを行う。 この活動により、４年間の学生生活をプランニングし、自分の意見を持つことを主な目的とする。 また、大教室での多くの学生と共に話を聴くという態度を養い、グループに分かれて他者との意見の交換を行うことで、自分には思いつかなかった考え方を理解するようになることが期待される。
到達目標	講師の意見を聴き、自身のキャリア（職業生活）を通したライフプランニング（人生設計）を必ず描いてみること、またそのための試行錯誤することを学ぶことが目標である。
授業方法と留意点	人生の先輩方のお話を真摯な態度で聴く姿勢をもつことを心がける。また、話を聴くことが主となり、内容に関して調べ、まとめることを課題とするため、メモを取る習慣を身に付ける。 この科目は１年生向けの科目で、2019 年度入学生のみ履修ができる。
科目学習の効果（資格）	大学生活の過ごし方や将来への目標の設定の仕方から、職業人として働くことや人・社会とかかわることについて考える契機となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・科目の趣旨・目的と評価について ・受講上の注意ならびに大教室でのマナーに関して ・キーワードの調べ方とレポートに関して	・講義内容を振り返ること(0.5 時間)
2	学生生活① 未来の自分に何を渡すか！ ～大学生活で成長するために必要な３つのこと～ （担当:看護学部事務室　課長　古屋豊吾）	・みなさんと同じ摂大生として、ラグビー部での経験と社会で活かせる能力とを関連付けて、「自己肯定感」の重要性についてお話します。 個人ワークやミニゲームを取り入れながら進行します。	・講義内容を振り返ること(0.5 時間)
3	学生生活② チャンスだらけの摂南大学-学生時代に飛躍する方法- （担当：経営学部　准教授　久保 貞也　）	（1）摂南大学をうまく活かした先輩たち（事例紹介） （2）チャンスを失う典型的な学生（注意喚起） （3）摂大でチャンスを得る方法	・講義内容を振り返ること(0.5 時間)
4	学生生活③ 大学生活が教えてくれた１０のこと(担当:常翔学園 本部広報室 池田 有紀)	・講師の話を聴き、自分が「好きなこと・モノ」を明確化するとともに、大学生活のなかで何かに向かって試行錯誤しながらチャレンジするきっかけを作る。	・講内容義を振り返ること(0.5 時間)
5	学生生活④ 講義の中間まとめ（担当：教育イノベーションセンター）	・グループ分けの実施 ・講義２回から４回のまとめ ・レポートの書き方	・第１回「学生生活」に関するレポートを作成すること(２時間)
6	キャリアパス① 個別ワーク「私が NO.1 プロジェクト」	・今、自分が属しているコミュニティにおいて、何かで「NO.1 になる」為の計画を立て、実践する。	・設定した課題を実践すること(２時間)
7	キャリアパス② 「私のキャリア」　キャリアアップを考える（担当：経済学部 教授　持永 政人）	・企業での経験を踏まえ、将来のキャリアアップのために学生時代に何をすべきかを講義します。	・講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
8	キャリアパス③ 「NO.1 プロジェクト」途中経過の共有（担当：教育イノベーションセンター）	・講義６で設定した個別の課題の経過、結果をグループで共有する。	・グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること（0.5 時間）
9	キャリアパス④ 自分のキャリア形成のためには何が必要なのか？（担当:スポツ振興センター　准教授　藤林 真美）	・自身の失敗（しかし、将来への原動力につながる）から、充足・不足していたことを紹介します。事前課題として「学歴、資金、マンパワーなど何一つ心配することなく、自分のやりたい職業に就ける or 起業できると仮定し、その内容と準備について」自由な発想で考えてきてください。	・講義内容を振り返ること(0.5 時間)
10	キャリアパス⑤ 講義の中間まとめ（担当：教育イノベーションセンター）	・キャリアパスの回のまとめ ・グループワーク	・第２回課題「キャリアパス」に関する課題を作成すること(２時間)
11	学修① 学修の回のオリエンテーション（担当：教育イノベーションセンター）	・学修の回のオリエンテーション ・グループワーク「グループで課題研究のためのリサーチプロポーザルの作成」	・グループで課題に取り組むこと(２時間)
12	学修② 講師のキャリア事例から「キャリア」を考える（担当：経営学部　准教授　西之坊穂）	・これまで学んできた「キャリア」は何なのか、キャリアについてあらためて考える	・講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
13	学修③ 法律とスポーツと将来の職（担当:法学部　教授　石井信輝）	・法とスポーツとの関係性は見出しにくいが、様々な関係性を有する。したがって、その関係性を解説しながら、担当者が研究に取り組むに至った経緯や大学	・講義の内容を振り返ること(0.5 時間)

		における学習に向かう心構え等について講義する。	
14	学修④ 課題「グループで課題研究」の発表（担当：教育イノベーションセンター）	・講義１１で取り組んだ課題をグループごとに発表する。	・自グループ、及び他グループの発表内容を振り返ること(0.5時間)
15	講義のまとめ（担当：教育イノベーションセンター）	・エンプロイメントデザインⅠの振り返り	・講義全体を振り返ること ・第３回課題「講義の最終レポート」を作成すること（２時間）

関連科目	キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ・エンプロイメントデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	毎回のミニッツペーパー（15%）、グループワーク（15%）、レポート３回（70%）、を総合的に判断する。
学生への メッセージ	学生生活４年間をいかに有意義に過ごすかをプランニングし、社会人・職業人としてのライフスタイルを考えるために、人生の先輩のお話を真摯な態度で聴いてほしい。また、自ら考え、選択し、決定していくプロセスを大切にし、行動へ繋ぐ大切を学んでほしい。
担当者の 研究室等	７号館５階 教育イノベーションセンター（石井） ７号館３階 教育イノベーションセンター（上野山） ７号館３階 教育イノベーショセンター（水野）
備考	教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布。 参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。 講師・内容は都合により変更することもある。 中間課題の評価基準・書き方に関する注意事項は講義内またはポータルサイトで伝達する。

科目名	エンプロイメントデザインⅡ	科目名（英文）	Employment design II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1504a3		

授業概要・目的	外部講師（本学卒業生を含む）をお招きし、仕事・職業観・人生経験やキャリア・パス等についてのお話を聴く。質疑応答の時間を設けているので、勇気を持って講師に質問をするだけでなく、質問時の態度や表現の仕方を学ぶ。 この科目を通じて、学生はさまざまな職業について理解し、多様な仕事術についての知識を得ること、さらには仕事観や人生観の涵養に役立てるとが期待される。
到達目標	さまざまな職業についての知識を得て、多様な仕事術を理解できるようになることを講義の目標とする。
授業方法と留意点	話を聴くことが主となるため、社会人としての真摯な態度での話の聴き方、メモの取り方、積極的に質問すること等の習慣を身に付ける。
科目学習の効果（資格）	人や社会に関わること、仕事力の伸ばし方について考えるきっかけとなる。
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション(教育イノベーションセンター)	・講義のオリエンテーション ・ゲスト講義の際の注意点（特に聴く態度）について	・事前学修：シラバスを熟読すること(１時間) ・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
2	「先人（企業家）に学ぶ　～仕事への心構え」大阪商工会議所人材開発部職員（所属：大阪企業家ミュージアム）	・企業家から学ぶ、仕事の心構えについてお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
3	私が大阪府警察で働く理由～警察官の数だけ理由がある～（警察官）	・採用担当者が大阪府警察の仕事、働く上でのやりがいなどを紹介。警察学校の生活を紹介する DVD の上映も行います(予定)。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
4	「社会起業家とは」（社会起業家）	今、進路に悩む方も多いかと思います。私たちは何のために働くのでしょうか。今、世界でも日本でも「働く上で、お金を動かすのも大事だが、むしろ自分は社会を動かしたい」と考える人々が増えています。市場メカニズムを用いて社会課題の解決を目指す社会起業家。社会起業家たちはなぜ出現し、どのような生き様をし、どのように社会を変えていくのか。国内外の最新動向もご紹介しつつ、ご一緒に新しい可能性を探ります。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
5	社会問題と対峙する仕事 -ソーシャルワーカーについて- （摂南大学 OB・ソーシャルワーカー）	①講師の学生生活から学んだことを伝える。グループワークを実施。 ②社会問題が他人事ではなく、自分事であることに気付く個人ワークやグループワーク、実際にあった事例を編集して伝える、事例検討を行います。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
6	お坊さんから後輩のみなさんへ(摂大 OB/住職)	・一人の学生が僧侶として歩みだすまでの過程を自身の学生生活の経験談を交えながらお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
7	プログラマを目指して摂南大学に入学してから NPO 代表になるまで（摂大 OB/NPO 法人代表）	・理系学部でプログラマーを目指しながらもスタープログラマーになれなかった男が、“公共性“を武器に NPO 法人を設立するまでのキャリア構築の過程をお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
8	講義の中間まとめ(教育イノベーションセンター)	・講義の中間まとめ ・グループワークの実施	・事後学修:グループワークを振り返ること(1時間) 中間課題を作成すること(2.5時間)
9	枚方市からＪリーグへ！?FC ティアモ枚方の挑戦?	社会人サッカークラブのマネジメントに携わるまでの経歴と今後についてお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
10	新卒での就職活動で全てが決まる！？（摂南大学 OG・旅行代理店/カウンター業務）	・講師の学生生活、キャリア形成のプロセスなどを実体験を交えてお話しします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
11	信用金庫の仕事と期待される人財 (金融/人材開発)	仕事のやりがいとキャリアを学生の皆さんにイメージしていただけるよう、講義します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
12	高校教師の仕事（高校教師）	・高校の教師の仕事についてお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
13	今求められる公務員像(摂南大学ＯＢ／市役所職員)	・あるべき姿からありたい姿へ-職業としての公務員- 経験談を通して、公務員になりたい自分を再度見つめ直していただきます。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
14	社会人になって学んだことと、企業経営で大切にしているモノ （摂南大学 OB/経営者）	・社会人となる学生へ、体験談を通して企業の中で誠実に生き抜くことを伝えます。	・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
15	講義のまとめ	・エンプロイメントデザインⅡのまとめ ・まとめのワークシート	・事前学修：講義全体を振り返り、ノートにまとめること(1.5時間)

				・事後学修：最終課題を作成すること(2.5 時間)

関連科目	キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、エンプロイメントデザインⅠ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	毎回の感想（30%）、レポート２回（60%）、グループ課題（10%）を総合的に判断する。
学生への メッセージ	講師の多様な仕事に対する意識や成果の上げ方等を聴くことで、職業観の形成に役立ててほしい。また、摂大生として誠実な態度で質疑応答に臨んでほしい。
担当者の 研究室等	7 号館 5 階　教育イノベーションセンター（石井） 7 号館 3 階　教育イノベーションセンター（上野山） 7 号館 3 階　教育イノベーションセンター（水野）
備考	講師・内容は都合により変更することもある。 教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布する。 参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。

科目名	キャリアデザイン	科目名（英文）	Introduction to Career Design
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1501a3		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には １）就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 ２）基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 ３)専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 ４）講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 ようになることが期待される。 なお、講義は担当講師の人材業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。
到達目標	１）摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 ２）社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 ３）調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果（資格）	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

キャリア形成科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？ ・公と私について考える	・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(0.5 時間)
2	さぁ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	・大学で学ぶ意味について考えること(0.5 時間)
3	摂大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話を聴く	・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(0.5 時間)
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・設定された個人ワークに取り組むこと(２時間)
5	グループ課題の設定	・グループワーク（インタビュープロジェクト）の目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える	・グループで課題に取り組むこと(３時間)
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・社会で求められる人材について考えること(0.5 時間)
7	社会の仕組み①	・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(0.5 時間)
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(0.5 時間)
9	自分づくり①	・自分の良いところを１００挙げる ・ペアワーク	・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(１時間)
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学４年間の目標設定	・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(0.5 時間)
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・社会人基礎力を実践する方法を考えること(0.5 時間)
12	ビブリオバトル①	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(１時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること(2 時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をすること(２時間)
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	・学びのプランニング ・講義の振り返り	・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(１時間)

関連科目	キャリアデザインⅡ 、キャリアデザインⅢ 、インターンシップⅠ 、インターンシップⅡ エンプロイメントデザイン Ⅰ、エンプロイメントデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
評価方法 （基準）	グループワーク（20%）、ミニレポート（30%）、レポート（50%）で総合的に評価する。
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 教育イノベーションセンター（上野山） 7 号館 3 階 教育イノベーションセンター（水野）
備考	１．必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 ２．各回のミニレポートは採点した後に、最終講義で返却する。

科目名	キャリアプラン	科目名（英文）	Career Plan
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1507a3		

授業概要・目的	本講義は就職活動に関する知識と実践技法も学ぶための講義である。 この科目を通じて、学生は、学生生活での学びを活かし、社会で求められ、活躍できる人材（人財）になるために何をすべきかを考えられるようになることが期待される。 なお、授業担当者の人材業界での業務経験・起業経験を講義に活かす講義の内容となる。
到達目標	自分を振り返り、社会をよく知り、選択肢を発見し、自分の特性や強みについて、他者に伝えられることができる。 その結果、満足のいく就職活動、進路選択ができるようになる。
授業方法と留意点	講義ではセルフワークとグループワークを織り交ぜて行うため、能動的な姿勢が求められる。
科目学習の効果（資格）	授業を通して自分の成長に気づき、人に自分の意思が伝えられるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目標、進め方、評価方法の解説 ・就職活動のスケジュールを知る	・配付資料を熟読すること（１時間）
2	ビジネス研究①	・業界・会社・職種を知る	・配付資料を熟読すること ・どんな業界があるのかを調べること（１時間）
3	ビジネス研究②	・成長企業のキーワード ・会社研究について	・配付資料を熟読すること ・どんな会社があるのかを調べること（１時間）
4	ビジネス研究③	企業の多様なビジネスの事例を知る	・配付資料を熟読すること ・ビジネスモデルについて調べること（１時間）
5	ビジネス研究④	・会社の経営理念について考える ・ブラック企業問題について考える ・いい会社とは何かについて考える	・配付資料を熟読すること ・自分のワークスタイルを考えること（１時間）
6	ビジネス研究⑤	・事業立案のフレームを学ぶ ・グループでビジネスプランを立てる	・配付資料を熟読すること ・グループへの貢献の仕方を考えること(1.5 時間)
7	ビジネス研究⑥	・グループでプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をしておくこと（１時間）
8	ビジネス研究⑦	・グループでプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をしておくこと（１時間）
9	自分を知る①	・自分の将来を描いてみる	・配付資料を熟読すること ・自分の未来について考えること（１時間）
10	自分を知る②	・自分の強み、学生生活を振り返る	・配付資料を熟読すること ・自分について振り返ること（１時間）
11	自分を知る③	・ワークシートを使って自分の特性を確認する	・配付資料を熟読すること ・自分の特性について考えること（１時間）
12	自分のことを伝える	・エントリーシートとは何かを知る ・読み手の着眼点を理解する	・配付資料を熟読すること ・エントリーシートを作成する準備をしておくこと(1.5 時間)
13	グループでのコミュニケーション	・グループディスカッションを学ぶ	・配付資料を熟読すること ・グループへの貢献の仕方を考えること(1.5 時間)
14	面接における対人コミュニケーション	・面接における対人コミュニケーションについて考える ・面接のメカニズムを知る	・配付資料を熟読すること ・模擬面接の準備をしておくこと(1.5 時間)
15	講義のまとめ	・成果を上げるための行動計画立案 ・講義のまとめ	・提出物など、出し忘れが無いか確認すること（１時間）

関連科目	・キャリアデザイン、インターンシップ基礎、ビジネスマナーⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ、数的能力開発、コミュニケーション能力開発、エンプロイメントデザインⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義での提出物と授業態度（30%）、期末レポート（50%）、授業での課題（２０％）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	みなさんの将来のことを一緒に考えましょう。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　教育イノベーションセンター(上野山研究室) 7 号館 3 階　教育イノベーションセンター（水野研究室）
備考	参考文献・書籍は必要に応じて適宜提示する。

科目名	コミュニケーション能力開発	科目名（英文）	Development of Communication Ability
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	亀田　峻宣.橋本　朗子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1510a3		

授業概要・目的	社会で必要なコミュニケーションスキルを習得するための授業です。読む・書く・話す・聴くの４技能は常に求められるスキルですが、それらは「技術」として認識し、訓練することによってより実践的なものに高めることが可能です。この授業では毎回「こちらの意図を的確に伝える」技術や「相手の意図を十分に理解する」技術、すなわち「話す」「聴く」技術を高める練習をします。普段、ディスカッションをしたり、プレゼンテーションを練習する機会はあまりありません。講義を通じてこれら社会で求められる力を身につけたい人は受講をお勧めします。 講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、「話す」「聴く」技術を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使えるコミュニケーション能力の獲得を目指します。
到達目標	高度なコミュニケーションスキルを身につけることを目標とします。具体的には社会活動において、自らが望む相応の結果を出すためのスキルを身につけることが目標です。
授業方法と留意点	毎回、個人ワーク・グループワーク等演習を中心に進行します。主体性を持って積極的に参加することで一層の学習効果が期待できます。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	コミュニケーションとは	コミュニケーションの本質を考える。	シラバス熟読
2	聴く力①?傾聴力を高める?	聴くための技術の基本的な方法を学ぶ。?	講義内容を復習し、実践すること(目安：30 分)?
3	聴く力②?質問力・コーチング力?	聴いた内容を深めるために、質問とコーチングの基礎を学ぶ	講義内容を復習し、実践すること(目安：30 分)?
4	話す力①?ロジカルコミュニケーション①?	論理的に会話するための基礎を学ぶ	講義内容を復習し、実践すること(目安：30 分)?
5	話す力②?ロジカルコミュニケーション②?	論理的に会話するためのフレームワークを学び、発表する	講義内容を復習し、実践すること(目安：30 分)?
6	話す力③?プレゼンテーションの技法①?	非言語面で、プレゼンテーションを効果的に行う方法を学ぶ	講義内容を復習し、実践すること(目安：30 分)?
7	話す力④?プレゼンテーションの技法②?	言語面で、プレゼンテーションを効果的に行う方法を学ぶ	講義内容を復習し、実践すること(目安：30 分)?
8	中間テスト	聴く力・話す力を問う。	今までの範囲を復習しておくこと(目安：2 時間)
9	議論する力①?対話と議論の進め方①?	対話・議論を進めるための方法を知る	講義内容を復習し、実践すること(目安：30 分)。チームで発表の準備を行う(目安：1 時間)。
10	議論する力②?対話と議論の進め方②?	対話・議論の練習をして、対話・技法のスキルを習得する	講義内容を復習し、実践すること(目安：30 分)。チームで発表の準備を行う(目安：1 時間)。
11	議論する力③?ファシリテーションの技法?	話し合いを円滑にする技術を習得する	講義内容を復習し、実践すること(目安：30 分)。チームで発表の準備を行う(目安：1 時間)。
12	相手を尊重する①?自分の気持ちを伝える?	適切に主張する態度・手法を身につける	講義内容を復習し、実践すること(目安：30 分)。チームで発表の準備を行う(目安：1 時間)。
13	相手を尊重する②?ダイバーシティを理解する?	コミュニケーションの基礎となる多様性の考え方を身につける	講義内容を復習し、実践すること(目安：30 分)。チームで発表の準備を行う(目安：1 時間)。
14	総合演習①	課題について、発表と議論を行う	講義内容を復習し、実践すること?(目安：2 時間)
15	総合演習②・最終テスト	課題について、発表と議論を行う	全ての範囲を確認しておくこと(目安：2 時間)

関連科目	キャリアデザインⅡ,数的能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み 30%、課題 10%、プレゼンテーション 20%、中間テスト 15%、最終テスト 25%
学生へのメッセージ	人間は「社会的動物」です。他者との関係の中で生きていかねばなりません。他者との関係性を良好に保つことは、豊かな人生を送るための重要な条件になります。そのために求められるものが「コミュニケーション能力」と言われており、これはビジネスシーンにおいても同様です。コミュニケーションを楽しみながら、適切に行えるようになっていきましょう。あ、その能力を、今から一緒に磨いて行きましょう！
担当者の研究室等	
備考	

科目名	職業能力開発	科目名（英文）	Human Resources Development
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA2508a3		

授業概要・目的	この科目を通じて、学生は 【目的】社会生活およびビジネスに必要な社会的基礎力の向上を目指す。 社会人・職業人に求められる社会的基礎力＜論理的な思考力、新しいアイディアを生み出す発想力、チームワーク力の向上を目指すことが期待される。 【概要】 講義担当者の人材業界での業務経験、及び起業経験を元に、日本の産業の変遷の視点からビジネスパーソンに求められる能力の変化について理解し、その能力の獲得方法について考える。
到達目標	１．日本の産業の変遷を理解する ２．ビジネスにおいて求めらえる力を理解し、その獲得のために行動変容を起こせるようになる ３．チームで成果物を創出する ４．自らのやる気の源泉を考えられるようになる
授業方法と留意点	配布資料とスライドに基づいて講義を行う。授業ではグループワークを多用するので能動的に自ら考えて答えを出すように心掛けること。
科目学習の効果（資格）	ビジネス社会で必要な能力を習得し、活用することができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンス:講義概要と講義の進め方	・講義目的と講義内容を説明し、講義の進め方、成績評価の方法について解説する。 ・職業の定義を知る	事後学修:講義の内容、進行方法を理解すること（1時間）
2	キャリア理論を学ぶ	・キャリアに関する様々な理論を知る	・事後学修：多数ある理論から興味を持ったものについて調べること（1時間）
3	日本の職業指導の歴史	・日本の作業の変遷と求められた能力の変化を知る	事後学修：配布レジュメを熟読し、日本の産業の変遷について復習すること。（1時間）
4	グループワークのウォーミングアップ	・グループ分け ・グループで企画を考える	事後学修：グループで課題に取り組むこと（1時間）
5	グループワークの提示	・グループワークの提示 ・グループで工程管理を考える	事後学修：グループで課題に取り組むこと（3時間）
6	マーケット感覚を身につける	・市場化する社会について考える	事後学修：配付資料を見直し、市場化する社会の中で自分の出来ることについて考えること（1時間）
7	営業力向上計画	・「営業力とは何か」について個々で考える	事後学修：「営業力とは何か」について個々で考えること（1時間）
8	グループ発表	・講義④の課題のグループ発表	事前学修：発表の準備をしておくこと（1時間）
9	ワークモティベーション研究の歴史を学ぶ①	・ワークモティベーション研究の歴史とその内容を知る	事後学修：講義の内容を踏まえ、自分のやる気の源泉について考えること（1時間）
10	ワークモティベーション研究の歴史を学ぶ②	・ワークモティベーション研究の歴史とその内容を知る	事後学修：講義の内容を踏まえ、自分のやる気の源泉について考えること（1時間）
11	ライフデザイン①	・自らのライフデザインを考える	事後学修：講義内で出された課題を作成すること（1時間）
12	ライフデザイン②	・自らのライフデザインを考える	事後学修：配付された資料を見直し、講義を振り返ること（1時間）
13	問題解決の事例を学ぶ	・実社会で起こった問題の解決事例とその対処について知る	事後学修：講義で扱った内容以外でも実ビジネスの事例を収集すること（1時間）
14	内省する技術	・今までの学生生活を振り返って今後に活かす方法を知る	事前学修：今までの学生生活を振り返り、他者に伝えられるようにまとめておくこと（1時間）
15	講義のまとめ	・講義の振り返り	提出物等、出し忘れが無いか確認すること（1時間）

関連科目：キャリアデザイン、インターンシップ基礎、エンプロイメントデザイン１、エンプロイメントデザイン２

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業での提出物（30%）、グループワーク（20%）、期末レポート（50%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	私語厳禁。遅刻厳禁。授業中の入退室禁止。飲食等の禁止。スマホ・携帯の使用禁止。居眠り禁止。これらに違反した学生には退室を命ずることがある。 講義では自ら考えて答えを出すこと。そのためにはまず自分の頭で考えることを心がけることで、皆さんの就業力を伸ばすの方法を共に考える。
担当者の研究室等	7号館3階　教育イノベーションセンター　水野研究室
備考	講義に関する質問には積極的に対応します。

科目名	数的能力開発	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	亀田　峻宣
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1509a3		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。 講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていること
授業方法と留意点	まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習(目安：1時間)
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと(目安：30分)・講義で取り扱った問題の復習(目安：1時間)
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと(目安：30分)・講義で取り扱った問題の復習(目安：1時間)
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと(目安：30分)・講義で取り扱った問題の復習(目安：1時間)
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと(目安：30分)・講義で取り扱った問題の復習(目安：1時間)
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと(目安：30分)・講義で取り扱った問題の復習(目安：1時間)
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習(目安：2 時間)
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習(目安：2 時間)
9	思考力が必要な算数･数学①	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと(目安：30分)・講義で取り扱った問題の復習(目安：1時間)
10	思考力が必要な算数･数学②	集合問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと(目安：30分)・講義で取り扱った問題の復習(目安：1時間)
11	思考力が必要な算数･数学③	図表問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと(目安：30分)・講義で取り扱った問題の復習(目安：1時間)
12	思考力が必要な算数･数学④	論証問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと(目安：30分)・講義で取り扱った問題の復習(目安：1時間)
13	思考力が必要な算数･数学⑤	推理問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと(目安：30分)・講義で取り扱った問題の復習(目安：1時間)
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習(目安：2時間)
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習(目安：2時間)

関連科目：キャリアデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『ASHITANE 数的思考　スタンダード』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。Smart SPI も利用します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　40%、中間テスト・最終テスト　50%、SmartSPI　10%
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週1時間程度の復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	7号館3階　教育イノベーションセンター
備考	

キャリア形成科目

科目名	数的能力開発	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山岡　亮太
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1509a3		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。なお、講義では担当講師の 20 年来の人材業界および教育業界での業務において数的能力を活用してきた経験を元に、基礎から応用力の習得をめざします。
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていること
授業方法と留意点	まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 なお、履修者数によっては、2 回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習（1 時間程度）
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（1 時間程度）
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（1 時間程度）
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（1 時間程度）
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（1 時間程度）
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（1 時間程度）
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習(1 時間程度)
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習(1 時間程度)
9	思考力が必要な算数･数学①	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（1 時間程度）
10	思考力が必要な算数･数学②	集合問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（1 時間程度）
11	思考力が必要な算数･数学③	図表問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（1 時間程度）
12	思考力が必要な算数･数学④	論証問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（1 時間程度）
13	思考力が必要な算数･数学⑤	推理問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習（1 時間程度）
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習（1 時間程度）
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習（1 時間程度）

関連科目：キャリアデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ASHITANE 数的思考 スタンダード	（一社）キャリアラボ	（一社）キャリアラボ
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　40%、中間テスト・最終テスト　50%、SmartSPI　10%
学生へのメッセージ	算数や数学を楽しんで学習してください。 また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週 1 時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	数的能力開発	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本　朗子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1509a3		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。 講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていること
授業方法と留意点	まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習１時間
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 計１時間
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 計１時間
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 計１時間
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 計１時間
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習 計１時間
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習計２時間
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習計２時間
9	思考力が必要な算数･数学①	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習計１時間
10	思考力が必要な算数･数学②	集合問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習計１時間
11	思考力が必要な算数･数学③	図表問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習計１時間
12	思考力が必要な算数･数学④	論証問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習計１時間
13	思考力が必要な算数･数学⑤	推理問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習計１時間
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習計２時間
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習計２時間

関連科目：キャリアデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『ASHITANE 数的思考　スタンダード』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。Smart SPI も利用します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　40%、中間テスト・最終テスト　50%、SmartSPI　10%
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週１時間程度の復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　教育イノベーションセンター
備考	

キャリア形成科目

科目名	数的能力開発	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村　忠
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1509a3		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。 講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていること。
授業方法と留意点	まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。 なお、履修者数によっては、2 回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習(目安：1 時間)
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと(目安：30 分)・講義で取り扱った問題の復習(目安：1 時間)
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと(目安：30 分)・講義で取り扱った問題の復習(目安：1 時間)
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと(目安：30 分)・講義で取り扱った問題の復習(目安：1 時間)
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと(目安：30 分)・講義で取り扱った問題の復習(目安：1 時間)
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと(目安：30 分)・講義で取り扱った問題の復習(目安：1 時間)
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習(目安：2 時間)
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習(目安：2 時間)
9	思考力が必要な算数･数学①	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと(目安：30 分)・講義で取り扱った問題の復習(目安：1 時間)
10	思考力が必要な算数･数学②	集合問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと(目安：30 分)・講義で取り扱った問題の復習(目安：1 時間)
11	思考力が必要な算数･数学③	図表問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと(目安：30 分)・講義で取り扱った問題の復習(目安：1 時間)
12	思考力が必要な算数･数学④	論証問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと(目安：30 分)・講義で取り扱った問題の復習(目安：1 時間)
13	思考力が必要な算数･数学⑤	推理問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと(目安：30 分)・講義で取り扱った問題の復習(目安：1 時間)
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習(目安：2 時間)
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習(目安：2 時間)

関連科目：キャリアデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ASHITANE 数的思考　スタンダード	キャリアラボ	キャリアラボ
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。 また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週 1 時間程度の復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　教育イノベーションセンター
備考	授業では『ASHITANE 数的思考　スタンダード』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。Smart SPI も利用します。

科目名	日本語能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	澤野　加奈
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	教科書を使って、文章作成の練習をする。文章表現の基本を再確認し、身につけた上で課題作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	教科書・資料の復習（３０分）
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	教科書・資料の復習（３０分）
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	教科書・資料の復習（３０分）
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	事前・教科書・資料の見直し（１時間）
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	教科書・資料の復習（３０分）
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	教科書・資料の復習（３０分）
7	フィードバック	課題１のフィードバック	課題１を見直す（３０分）
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	教科書・資料の復習（３０分）
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	教科書・資料の復習（３０分）
10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	教科書・資料の復習（３０分）
11	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	事前・教科書・資料の見直し（１時間）
12	レポートの書き方１・２	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	教科書・資料の復習（３０分）
13	フィードバック	課題２のフィードバック	課題２を見直す（３０分）
14	【 レポート 】	レポートを提出する	レポートを作成する（２時間）
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	小テストの復習（４０分）

関連科目：ゼミ、卒業研究など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題２回（20%×2）、レポート（30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

キャリア形成科目

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	澤野　加奈
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活で必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、ディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。グループワークのなかから、ディベートする力を養う。
科目学習の効果（資格）	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	――――――
2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題１】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
4	ディスカッション準備	配布された資料をまとめる	前回の復習
5	フィードバック	課題１のフィードバック	課題１を見直す
6	ディスカッション１	グループ分けとディスカッションを行う	テーマの下調べ
7	ディスカッション２	ディスカッションを行う	前回の復習
8	【課題2】報告文	ディスカッションの経過を文書で報告する	これまでの復習
9	資料作成	プレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
10	フィードバック	課題２のフィードバック	課題２を見直す
11	プレゼンテーション１	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
12	プレゼンテーション２	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	【課題３】報告文	プレゼンテーションの内容を文書で報告する	報告文の準備
14	手紙の書き方	手紙の基本とマナーを学ぶ	前回の復習
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目：ゼミ、卒業研究など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題３回（20%、20%、30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	ビジネスインターンシップⅠ	科目名（英文）	Business Internship Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA2505a3		

授業概要・目的	この科目を通じて、学生は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に　1）仕事の社会における役割　2）仕事の成果とは　3）仕事の責任と充実感　を直接肌で感じること　が期待される。 インターンシップⅠでは事前学修として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。 なお、講義では担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。
到達目標	就職活動の流れとインターンシプの位置づけ、意義について説明することができる。 インターンシップへ意欲的に自信を持って参加するためのマナーと心がまえを身につける。
授業方法と留意点	グループワークやプレゼンテーションなどを行う参加型の授業である。 インターンシップの現場につながる講義（演習を含む）であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
科目学習の効果（資格）	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	インターンシップとは	・授業オリエンテーション ・学生と社会人の違いを理解する ・インターンシップの目的を考える	・事前学修：インターンシップとは何かについて考えること（１時間） ・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること（２時間）
2	企業組織・ビジネスの理解	・組織の形態を知る ・ビジネスへの理解を深める	・事前学修：自らの興味のあるビジネスについて調べておくこと（３時間） ・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること（１時間）
3	実習参加企業について	・産業の分類を知る ・業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る	・興味のある会社や自治体などの組織について調べること（１時間） ・事後学修：インターン受入企業等の組織のリストに目を通し、希望する実習先を吟味すること（３時間）
4	効果的なプレゼンテーションとは	・効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る	・事前学修：効果的なプレゼンテーションについて考えること（１時間） ・事後学修：配付された資料を見直し講義を振り返ること（３時間）
5	課題のプレゼンテーション①	・第４回目の課題をプレゼンテーションする	・事前学修：第４回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること（３時間） ・事後学修：プレゼンテーションのポイントをまとめる（１時間）
6	社会人のマナー①	・社会人としての心構えを知る ・身だしなみ	・事前学修：マナーがなぜ大切なのかを考えること（２時間） ・事後学修：配付されたテキストを精読すること（２時間）
7	社会人のマナー②	・文書でのコミュニケーション	・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること（２時間） ・事後学修：授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること（２時間）
8	社会人のマナー③	・口頭でのコミュニケーション	・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること（２時間） ・事後学修：マナーの大切さを再度考えること（２時間）
9	履歴書を記入する	・インターンシップ用の履歴書を記入する	・事前学修：履歴書を書く準備をしておくこと（２時間） ・事後学修：講義を振り返り、履歴書を下書きすること（２時間）
10	グループワーク①	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	・事前学修：グループ内の自分の役割を考えること（２時間） ・事後学修：グループで課題に取り組むこと（２時間）
11	グループワーク②	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	・事前学修：グループでプレゼンテーションを行う準備をすること（２時間） ・事後学修：自グループ及び他グループのプレゼンテーションを振り返ること（２時間）
12	事前訪問について	・事前訪問のマナーと準備について	・事前学修：インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べること（２時間） ・事後学修：訪問時のマナーについておさらいをすること（２時間）
13	課題のプレゼンテーション②	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること（２時間） ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること（２時間）
14	課題のプレゼンテーション③	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること（２時間） ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること（２時間）
15	振り返りとまとめ	・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する	・事前学修：インターンシップⅠで学んだことをまとめること（２時間） ・事後学修：インターンシップで何を身につけたい

				かをもう一度考えること（３時間）

関連科目	この科目を履修する学生は、「インターンシップⅡ（企業等の組織での就業体験）」を履修することが望まれる。
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
評価方法 （基準）	個別の発表（40%）、グループでの発表(20%)、授業でのレポート等の提出物（30%）、授業態度（投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、グループワークへの参加し姿勢など）（10%）を総合的に評価する
学生への メッセージ	インターンシップの流れは以下のとおりである。 ※４月下旬にリスト公開→５月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→５月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→６月末頃に事前訪問→８月上旬からインターンシップ開始（予定） インターンシップ先の都合により、流れの日程等が変更する場合もある。
担当者の 研究室等	７号館５階　教育イノベーションセンター（石井）
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示 インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。 予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。グループワーク、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で６０時間程度を目安とする。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	ビジネスインターンシップⅡ	科目名（英文）	Business Internship II
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA3506a3		

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。
到達目標	インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性について主体的に考えることができる。講義での学び、経験を通じて、職業観を涵養し、それを他者に伝えることができる。
授業方法と留意点	「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。
科目学習の効果（資格）	就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	直前学修① ６月２２日(土)　３限目(予定)	・インターンシップの心構え ・今後のスケジュールの確認 ＊スーツ着用のこと	・事前学習：社会人を意識したスーツ着用し、身だしなみを自分なりに整えてくること(１時間)
2	直前学修② ６月２２日(土)　４限目(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	・事前学習：マナーについて考えること(0.5 時間) ・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5 時間)
3	インターンシップ実習	・夏季休暇中に１０日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5 時間)
4	インターンシップ実習	・夏季休暇中に１０日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5 時間)
5	インターンシップ実習	・夏季休暇中に１０日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5 時間)
6	インターンシップ実習	・夏季休暇中に 10 日間以上（原則）	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5 時間)
7	体験報告書の作成・提出・指導	・報告書提出/ゼミ教員 ・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導 （担当教員への提出と教務課へ電子データを提出）	・事後学修：事前学修②の通りに報告書を作成するが、提出前に必ず推敲を行い、提出期限を厳守すること(２時間)
8	事後学修① ９月２１日(土)　３限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修：個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること (1.5 時間)
9	事後学修② ９月２１日(土)　４限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修：個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5 時間)
10	事後学修③ ９月２８日(土)　３限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習：代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5 時間) ・事後学修：聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5 時間)
11	事後学修④ ９月２８日(土)　４限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修：代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5 時間) ・事後学修：聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5 時間)
12	事後学修⑤ １０月５日(土)　３限目(予定)	・インターンシップを振り返る （実習記録簿の提出）	・事前学習：実習記録簿を見直してくること(１時間)
13	事後学修⑥ １０月５日(土)　４限目(予定)	・インターンシップを振り返る	・事後学修：インターンシップの講義の全体を振り返ること(１時間)
14	事後学修⑦ １０月２６日(土)　(予定)	・全体報告会 ・学生代表者の発表	・事前学修：全員スーツ着用で受講するため、身だしなみを再度確認すること ＊学生代表者はパワーポイントで１０分で報告ができるように準備すること
15	事後学修⑧ １０月２６日(土)　(予定)	・全体報告会 ・受け入れ企業管理者の講演とまとめ (予定)	

関連科目	インターンシップⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

キャリア形成科目

	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	企業による報告書（20%）、体験報告書など提出物（40%）、発表を含む授業態度（投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、グループワークの参加姿勢など）（40%）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	１.「インターンシップⅠ」を必ず履修すること。 ２.「インターンシップⅠ」の履修には、ガイダンスに出席し、履修申し込み書を提出する必要がある。 履修希望者が多い場合は、選考することもある。
担当者の 研究室等	７号館５階　教育イノベーションセンター（石井）
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布する。 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。 なお、振り返りの課題（体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など）は３時間以上かけて仕上げること。 事前事後学修に出席する際は、必ずスーツを着用してくること。

科目名	ビジネスマナーⅠ	科目名（英文）	Business Manners Ⅰ
学部	経営学部	学科	経営学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田　和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ICA1511a3		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。 ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、また経営士としての観点から人間関係について話をします。
到達目標	クリエイティブなビジネスパースンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	ロールプレイやグループワークを多く取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。
科目学習の効果（資格）	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ーあいさつの重要性(理論と実践)	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	・事前学修：ビジネスマナーとは何かを考える。 ・事後学修：ビジネスマナーの意義とは何か、400字でまとめる。
2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の８つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修：仕事の基本の８つの意識について調べる。 ・事後学修：仕事の取り組み方の基本は何か、まとめる。
3	目標設定とPDCAサイクル	・目標設定（MBO） ・PDCAとは ・チームと個人の役割	・事前学修：PDCAについて調べる。 ・事後学修：あなたの日常生活における MBO とPDCAを考え、まとめる（400字以上）。
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT方式-	・事前学修：あなたの１週間予定表を作成する。 ・事後学修：あなたの予定表を作成提出し、改善点をまとめる。
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPO をもとに-	・事前学修：敬語プリント①をする。 ・事後学修：ケーススタディプリントをする。
6	電話応対	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2Hから6W3Hへ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修：電話応対プリントをする。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。
7	来客応対	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換	・事前学修：来客応対プリント①をする。 ・事後学修：来客対応プリント②をする。
8	ホウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修：報告・連絡・相談の重要性について調べる ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。
9	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社交文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修：ビジネス文書始める前にをする。 ・事後学修：ビジネス文書②をする。
10	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修：ビジネス文書③をする。 ・事後学修：ビジネス文書④をする。
11	ビジネス通信の基本	・通信手段（電子メール、ファックス等）の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修：郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修：メール文書を作成する。
12	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護（Pマーク） ・コンプライアンス	・事前学習：コンプライアンスについて調べる。 ・事後学修：個人情報保護法についてレポートを作成する（400字以上）。
13	設営の基本	・YTT方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修：同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修：設営事例をまとめる。
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修：慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修：ビジネス文書（社外社内）、郵便の知識、慶事のマナーのポイントをまとめる。
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修：ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。 ・事後学修：全体をまとめる。

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	ロールプレイ等のワーク（20%）、複数回のレポート（40%）、期末試験（40%）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。
担当者の 研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井）
備考	予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。

教　職　科　目

科目名	教育課程論	科目名（英文）	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大野　順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	（1）教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 （2）わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 （1）学校教育における教育課程の意義について理解できる。 （2）将来、教職に就いた際、適切な教育課程（カリキュラム）を計画・編成し、かつ、実践、評価し、改善できる資質が身につく。
授業方法と留意点	テキストや資料を中心に授業を進める講義形式が基本となりますが、扱うテーマによってはグループワークを導入するなど、学生一人一人の授業への主体的な参加が求められるます。また、授業準備として各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を読んだり、それぞれの免許取得教科の学習指導要領を入手し、目を通しておくことが望ましいと考えます。また本授業用のノートを 1 冊準備してください。授業でレジュメを配布予定としていますが、板書内容やパワーポイント資料の中の内容を記述するためのノートを一冊準備しておいてください。
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	教育課程とは何か／オリエンテーション	学校教育のもつ機能について。	課題：シラバスに挙げているテキストの該当する分を読んでおくこと。
2	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅰ	戦前から戦後（経験主義～系統主義：高度経済成長期）の教育課程変遷について。	課題：テキストの該当する部分と授業（第 1 回目）で配布する資料に目を通しておくこと。
3	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅱ	1970 年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。	課題：テキストの該当する部分と授業（第 1 回目）で配布する資料に目を通しておくこと。
4	教育課程（カリキュラム）の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素（内部要因と外部要因）について。	課題：シラバスに挙げているいずれかのテキストの該当する分を読んでおくこと。
5	教育評価　その１	子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。	課題：事前に配布した資料を読んでおくこと。
6	教育評価　その２	教育課程評価について。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4 一枚程度、詳細は授業で伝える)。
7	『総合的な学習の時間』について	導入の背景とそのねらいについて（学生グループによる発表を予定)。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4 一枚程度、詳細は授業で伝える)。
8	新しい教育課程　その１	「キャリア教育」について（学生グループによる発表を予定)。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4 一枚程度、詳細は授業で伝える)。
9	新しい教育課程　その２	「アクティブラーニング」について。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4 一枚程度、詳細は授業で伝える)。
10	新しい教育課程　その３	「社会に開かれた教育課程」について。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4 一枚程度、詳細は授業で伝える)。
11	教育課程と教育改革　その１	特色のある学校づくり＝小中高編（学生グループによる発表を予定)。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4 一枚程度、詳細は授業で伝える)。
12	教育課程と教育改革　その２	カリキュラム・マネジメントについて。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4 一枚程度、詳細は授業で伝える)。
13	教育課程と教育格差　その１	学力格差と学力低下問題について（学生グループによる発表を予定)。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4 一枚程度、詳細は授業で伝える)。
14	教育課程と教育格差　その２	教育格差に抗する学校の取り組みについて（学生グループによる発表を予定)。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4 一枚程度、詳細は授業で伝える)。
15	総括:教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向、及び、キー・コンピテンシー（OECD）について。	課題：事前に配布した資料を読んでおくこと。

関連科目	教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新教育課程ライブラリ（Vol.1～Vol.12）	（株）ぎょうせい	（株）ぎょうせい
2			
3			

評価方法（基準）	出席（全 15 回出席が当たり前、少なくとも 8 割以上出席必須）、学期末試験（単位取得のためには 60 点以上必要）、中間試験（実施予定）、レポート及び授業態度や授業への貢献度（グループでの発表を含む）など総合的に評価を行う。特に、学期末試験の結果は成績評価に大きく影響することから、日頃からしっかりと予習復習（特に復習）をする。また、遅刻、欠席が多い者については成績評価の対象外となりますので注意すること（原則、第一回目から全 15 回出席すること)。
学生へのメッセージ	以下の項目、必ず守ってください。 １．第一回目の授業は必ず出席すること。 ２．欠席・遅刻はしない。 ３．授業中、むやみやたらに出入りしたり、私語、飲食はしない。

	４．グループワークでは何事にも積極的に取り組む（グループ内の他のメンバーに迷惑をかけない）。 ５．毎回授業内容の復習をする。 ６．テキスト、資料等については配布するので準備の必要はありません。参考書にあげているテキストは 12 セット販売で高額なテキストですので担当者のほうで印刷し配布します。 ７．授業内容で分からない点については遠慮せずに担当者に空いている時間を見つけて質問に来てください。
担当者の 研究室等	７号館３階(大野順子研究室)
備考	2009 年度以前入学生は、（高校）教免取得上選択 授業計画、及び内容は授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 教科書に代わる配布資料（「『新教育課程ライブラリ』、発行：ぎょうせい」を使用予定）については事前に該当箇所を印刷し、配布します。高額ですので購入する必要はありません。また、その他のテキスト、資料等については適宜印刷し、配布します。 事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。

科目名	教育経営論	科目名（英文）	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日　素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目では、現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識、および学校や教育行政の組織構造･機能・関係に関する基礎的知識を身につけ、経営の観点から理解するとともに、そこに内在する課題を理解します。そのために、公教育システムに関してなじみの深い事象を参照し、その原理や構造・機能、それに関する政策や法制度、理論や論争、実態や課題を検討していきます。
到達目標	私たちにとってはあたりまえで意識することもないような、学校教育を中心とした公教育システムのあり方について視野が広がり、理解が深まります。例えば「学校では何を学ぶのか」「学校ではどのように教えられるのか」という内容・方法的な事柄についても、さまざまな制度やその運用によって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がりが理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション（LTD；Learning Through Discussion）等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 公教育とは	授業概要、方法としての LTD について説明 教育における「公」と「私」 公教育の成立・展開	シラバス、テキスト第１部を読んでくる。
2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」「学習する権利」	テキスト第２部を読んでくる。
3	教育を受ける権利の保障	教育権論争について簡単なグループワーク 公教育の制度原理	教育権論争についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第１部を読んでくる。
4	学校体系のしくみ	「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク 段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	教育の制度原理についての配布飼料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第１部を読んでくる。
5	学校体系の現代的課題	選別・分離と接続・統合	テキスト第１部を読んでくる。
6	教育条件整備の法制度と新しい動向	「選抜・選別」について簡単なグループワーク 公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか	学校の機能に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第３部を読んでくる。
7	中央教育行政の組織構造	各省庁・審議会	テキスト第３部を読んでくる。
8	地方教育行政の組織構造	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 首長部局と教育委員会	テキスト第３部を読んでくる。
9	中央 - 地方教育行政の関係構造	教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク 教育行政の原則、監督行政と指導行政 教育行政関係の新しい動向	教育委員会制度の動向に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第３部を読んでくる。
10	教育費と教育財政	教育財政の考え方 国・地方の教育費と教育財政 義務教育費国庫負担制度とその改革 学校財務	テキスト第３部を読んでくる。
11	指導行政と教育課程管理	学習指導要領、研究指定・研究開発、教科書行政 学力論争と教育評価論	テキスト第４部を読んでくる。
12	人事行政と教職員管理	学力低下論争をめぐって簡単なグループワーク 教職員の資格・身分・服務管理、教育労働管理	学力低下論争に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第４部を読んでくる。
13	学校の組織管理と組織編制	教職員配置、学校・学級の「適正規模」「適正配置」 学校評議員制度、学校運営協議会制度	テキスト第４部を読んでくる。
14	学校経営の組織構造	学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク 学校の組織特性、学校経営の組織と過程（学校と地域との連携含む）	学校統廃合に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第４部を読んでくる。
15	学校の安全管理と安全教育	安全管理の領域 安全教育の方法	テキスト第４部を読んでくる。

関連科目：教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公教育経営概説　（改訂版）	堀内孜	学術図書出版社
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
評価方法 （基準）	定期試験 70%、レポート内容 20%、グループワーク・ピア評価 10%。定期試験を受験しなかった場合は評価をしません。
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。 遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	教育原理	科目名（英文）	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口　雄一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語ることができます。しかし、「教育とは一体何だろう？」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないでしょうか。 この授業では、「教育とは一体何だろう？」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。 これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。 授業担当者は小学校での約 15 年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的に講義形式で行います。 また、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、教育について多面的・多角的に考えることができるように配慮します。
科目学習の効果（資格）	（1）高等学校教諭１種免許状　（2）中学校教諭１種免許状　の取得　（3）学芸員資格　の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス： 教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	「教育とは一体何だろう」という問いについて自分なりの考えをまとめておく。
2	教育の基礎理論①： 教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	教育の必要性について、授業後に自分なりの考えを整理しておく。
3	教育の基礎理論②： 教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	教育の目的について、授業後に自分なりの考えを整理しておく。
4	教育の基礎理論③： 子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	子ども観や子どもをめぐる問題について、自分なりの考えを整理しておく。
5	教育の基礎理論④： 教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	教師の教育的役割について、自分なりの考えを整理しておく。
6	教育の基礎理論⑤： 近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	近代の学校や学校教育の広がりについて、授業後にもう一度整理しておく。
7	教育の基礎理論⑥： 家庭と教育	家庭において子どもはどう扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	家庭における教育について、授業後にもう一度整理しておく。
8	近代の教育思想①： コメニウスの教育思想	コメニウスの教育思想について概観し、考察を加える。	授業で取り上げた近代の教育思想について、授業後にもう一度整理しておく。
9	近代の教育思想②： ルソー、ペスタロッチの教育思想	ルソー、ペスタロッチらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業で取り上げた近代の教育思想について、授業後にもう一度整理しておく。
10	近代の教育思想③： ヘルバルト、フレーベルの教育思想	ヘルバルト、フレーベルらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業で取り上げた近代の教育思想について、授業後にもう一度整理しておく。
11	現代の教育理論①： デューイの教育思想	デューイの教育思想について概観し、考察を加える。	授業で取り上げた現代の教育思想について、授業後にもう一度整理しておく。
12	現代の教育理論②： 20 世紀の教育理論	20 世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	授業で取り上げた現代の教育思想について、授業後にもう一度整理しておく。
13	現在の教育課題①： 学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	学力問題について、授業後にもう一度整理しておく。
14	現在の教育課題②： 生涯学習の思想	現在の教育課題の一つである生涯学習について概観し、考察を加える。	生涯学習の思想について、授業後にもう一度整理しておく。
15	まとめ： 今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	「自分はどのような教師になりたいのか」について、考えをまとめる。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみることが大切です。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	哲学する教育原理	伊藤潔志　編著	保育出版社

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領	文部科学省	東山書房
2	高等学校学習指導要領	文部科学省	東洋館出版
3	哲学する学校経営	伊藤潔志　編著	教育情報出版

評価方法（基準）	毎回の授業の終わりに書いてもらうコメントペーパーの内容（30%）や、学期末試験の結果（70%）をもとに、総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。
学生へのメッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等の学習を適宜取り入れたいと考えています。受講者の皆さんの積極的な参加・発言を期待しています。
担当者の研究室等	7 号館 4 階（谷口研究室）
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。

科目名	教育実習Ⅰ	科目名（英文）	Teaching Practice Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日　素明.大野　順子.谷口　雄一.林　茂樹.吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	（１）教育実習の実際についての情報を提供する。それらに基づき、受講者は、演習や実習を行う。（２）教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、学級・ホームルーム経営、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、効果的な指導をできるようにする。（３）教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的心がまえについて理解を深める。
到達目標	教育実習の目的や意義、内容等を理解し、教育実習へ向けての充分な準備ができるようになる。そのことにより、自信をもって教育実習に臨めるようになる。
授業方法と留意点	講義（体験報告を含む）、演習（文献購読、発表、討議を含む）、実習（指導案作成、模擬授業を含む）を行う。実習生として主体的・能動的な姿勢・態度で参加すること。
科目学習の効果（資格）	教員免許状取得上必修，免許法施行規則に定められた「教育実習」５単位あるいは３単位のうち１単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 教育実習

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	教育実習の意義等	教育実習の意義と目的、実習の形態と内容について	授業時に指示する
2	教育実習への準備と心がまえ等	事前準備の必要性、教育実習の心がまえと教育実習の基本となる事項について	授業時に指示する
3	実習中の勤務の要領	学校の一日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について	授業時に指示する
4	授業の方法と技術	授業のスタイルとスキル、教材研究、学習評価の観点について	授業時に指示する
5	授業の記録と評価	授業研究の意義、授業分析の方法、授業評価について	授業時に指示する
6	生徒理解・生徒指導と学級・ホームルーム経営	生徒理解・生徒指導の方法、個別指導・集団指導、学級・ホームルームの指導について	授業時に指示する
7	指導案の作成（１）	授業の準備と配慮事項、学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案、板書計画の作成	授業時に指示する
8	指導案の作成（２）	学級（ホームルーム）活動等の指導案について	授業時に指示する
9	模擬授業（１）	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
10	模擬授業（２）	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
11	模擬授業（３）	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
12	模擬授業（４）	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
13	学校における人権教育	人権教育の現状と課題について、学校保健と安全指導について	授業時に指示する
14	特別支援教育の現状と課題	障がいの種類と配慮事項、障がい児理解と交流教育について	授業時に指示する
15	まとめ	――――	――――

関連科目：教職課程で学んだ全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『新編　教育実習の常識』	教育実習を考える会	蒼丘書林
2			
3			

評価方法（基準）	課題の提出状況とその内容、指導案と模擬授業、授業における積極性・貢献度、期末レポート等によって総合的に評価する。
学生へのメッセージ	教育実習はこれまで学んできたことの総まとめです。よい実習ができるよう、充分に準備してください。
担当者の研究室等	吉田研究室・林研究室・大野研究室・朝日研究室（７号館３階） 谷口研究室（７号館４階）
備考	教育実習体験発表会（10 月末土曜日）、教育実習総括講義（11 月末土曜日）には原則として必ず出席すること。 ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を必ずすること。 担当者により、授業の具体的な内容・方法が若干異なる場合がある。 事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。

科目名	教育実習Ⅱ	科目名（英文）	Teaching Practice II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日　素明.大野　順子.谷口　雄一.林　茂樹.吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において 10 日間以上の実習を行う。（１）教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。（２）事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。（３）教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。（４）事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。
授業方法と留意点	（１）教育実習校での実習を中心に行う。（２）大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。（３）事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。（４）事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	1　教育実習特別個人指導（４月） 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じること。 2　教育実習事前指導（４月～５月） 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出 3　教育実習個人指導（４月～５月） 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること（必要な者のみ)。 4　前期教育実習開始（５月～６月） 実習校において授業を行なったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 5　後期教育実習開始（９月～１０月） 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 6　教育実習事後指導（７月～１１月） 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。 7　教育実習体験発表会（１０月） 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。 8　教育実習総括講義（１１月） 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 「教育実習記録」を提出する。
関連科目	教職関連科目全般
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新編教育実習の常識 － 事例にもとづく必須６６項	教育実習を考える会	蒼丘書林
2	学習指導要領解説	文部科学省	
3			

評価方法（基準）	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び課題提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。
担当者の研究室等	７号館３階（朝日研究室、吉田研究室、林研究室、大野研究室） ７号館４階（谷口研究室）
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。

教職科目

科目名	教育実習Ⅲ	科目名（英文）	Teaching Practice III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日　素明.大野　順子.谷口　雄一.林　茂樹.吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において 15 日間以上の実習を行う。（１）教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。（２）事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。（３）教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。（４）事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。
授業方法と留意点	（１）教育実習校での実習を中心に行う。（２）大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。（３）事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。（４）事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	1　教育実習特別個人指導（４月） 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じること。 2　教育実習事前指導（４月～５月） 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出 3　教育実習個人指導（４月～５月） 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること（必要な者のみ)。 4　前期教育実習開始（５月～６月） 実習校において授業を行なったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 5　後期教育実習開始（９月～１０月） 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 6　教育実習事後指導（７月～１１月） 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。 7　教育実習体験発表会（１０月） 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。 8　教育実習総括講義（１０月） 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 「教育実習記録」を提出する。
関連科目	教職関連科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新編教育実習の常識 － 事例にもとづく必須６６項	教育実習を考える会	蒼丘書林
2	学習指導要領解説	文部科学省	
3			

評価方法（基準）	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び各種提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。
担当者の研究室等	７号館３階（朝日研究室、吉田研究室、林研究室、大野研究室） ７号館４階（谷口研究室）
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。

教職科目

科目名	教育社会学	科目名（英文）	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野　順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	近年、学校教育現場では様々な問題を抱えるようになってきました。一般的に私たちはそうした問題に対し、学校教育内部でのみ対処し解決しようとする傾向があります。しかしながら、そうした問題の多くは、時に関係のないような社会的、経済的、政治的、そして文化的なシステムと密接な関係性をもっていることが多々あります。そこで本講義では、教育現場で生じている諸問題を、特に社会学的観点からとらえ、検討していくことを目標とします。特に、最近社会問題化している子どもの貧困や教育格差・学力格差問題、ジェンダーにかかわる問題等を扱いながら、体系的に現代社会と教育の関係性について学び、教育社会学の理論や概念を学んでいきます。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 １．教育社会学の基礎理論と概念について学習する。 ２．現代社会における様々な教育問題について理解する。 ３．教育に関わる諸問題を社会学的観点からとらえ、論理的に思考し、分析し、検討する力を養う。 ４．様々な教育問題に対して、それぞれ意見発表を行い、他者と議論し、解決の方向を見出せる力をつける。
授業方法と留意点	講義形式を中心としますが、ワークショップや体験活動・課外活動、問題理解・解決に向け議論する手法を取り入れるなど、受講生の皆さんの主体的な参加の機会を多く提供します。例えば、実際に学校教育現場へ出向き、リアルな学校教育現場の様子を体験し、学ぶ機会ももうけます（授業時間外に実施する場合もある）。よって、基本的に受講生の皆さんは本講義が提供する全プログラム（週末などに実施される課外活動含む）に出席する義務があります。また、毎回、講義開始の５分間、教育社会学必須単語の小テストを行います。遅刻や欠席が多い場合小テストが０点となりますので気を付けてください。 〇準備学習の具体的な方法 指定しているテキストを購入し、事前に講義で扱うテーマに該当する部分（章）を読み、要約する。また、日頃から新聞・雑誌等で教育に関する記事を読み、どのような問題が教育界では話題になっているのかについて情報を収集しておく。また、毎時間の小テスト対策として必須単語帳に記載されている教育社会学必須単語をすべて覚える。
科目学習の効果（資格）	（１）高等学校教諭１種免許状　　（２）中学校教諭１種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション　教育社会学とは	教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。	事前課題：教科書の序章を読み、疑問点についてまとめてくる。
2	新自由主義と学校教育	近年の学校教育（制度）の質的転換について事前資料を基にグループで意見交換し、発表する（学校教育を社会学観点から考察します）。	事前課題：小テスト対策、事前配布資料を読み、その内容についてまとめてくる。
3	マイノリティと教育Ⅰ	マイノリティ体験ワークショップの実施。	事前課題：小テスト対策
4	マイノリティと教育Ⅱ	前時を踏まえ、学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の実態、現状について考え、その対応について議論する。	事前課題：小テスト対策、前時のワークショップの感想をまとめてくる。
5	マイノリティと教育Ⅲ	予定：当事者（外国にルーツのある子ども）を招聘し、学校での経験についてのお話を聞く。その後、質疑応答、ふりかえりを実施する。	事前課題：小テスト対策、前時の復習をしてくる。
6	教育格差・学力格差問題Ⅰ	教育格差・学力格差に関する近年の研究動向を紹介し、その基礎的理解を深める。	事前課題：小テスト対策、教科書の第７章の要約。
7	教育格差・学力格差問題Ⅱ	貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考える。子どもの貧困・格差に関する映画、あるいはビデオの鑑賞、及び子どもの貧困問題に取り組んでいる実践者の方を招聘し、現状についての理解を深める。	事前課題：小テスト対策、前時の復習をしてくる。ゲスト講師からの課題があれば予習をしてくる。
8	教育格差・学力格差問題Ⅲ	格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて、グループで話し合い、発表する。なお、実際に学校現場で行われている取り組みについても紹介する。	事前課題：小テスト対策、事前に配布する資料を読み、要約する。
9	学校教育の現場を知るⅠ	予定：学校関係者等、話題提供者を招聘し、今、学校教育が抱える問題について問題提起してもらう。	事前課題：小テスト対策、前時の復習、及び講師、話題提供者からの課題等があれば予習をしてくる。
10	学校教育の現場を知るⅡ	予定：学校関係者等、話題提供者を招聘し、今、学校教育が抱える問題について問題提起してもらう。	事前課題：小テスト対策、前時の復習、及び話題提供者からの課題等があれば予習をしてくる。
11	学校教育の現場を知るⅢ	前々回～前回の授業を踏まえ、学校教育が抱える諸問題について、それぞれ関心のある問題を選択し、小グループに分かれ発表する。	事前課題：小テスト対策、グループ発表資料の準備をしてくる。
12	ジェンダーと教育Ⅰ	学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考えるワークを実施する。	事後課題：小テスト対策、事前に配布する資料を読み、要約する。
13	ジェンダーと教育Ⅱ	ジェンダー問題を扱った映画の鑑賞予定。	事後課題：小テスト対策、前時の復習をしてくる。
14	ジェンダーと教育Ⅲ	ジェンダーロールにとらわれない教育、社会の創造について意見交換しながら	事後課題：小テスト対策、映画の感想をまとめてくる。

		考える。	
15	総括	まとめの確認テストと「教育改革」をキーワードにこれからの教育のあり方について考える。	事後課題：小テスト対策、教科書の第 10 章の要約。

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教師教育テキストシリーズ『教育社会学』	久富善之、長谷川裕	学文社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代教育社会学	岩井八郎、近藤博之	有斐閣ブックス
2	新版『教育社会学を学ぶ人のために』	石戸教嗣	世界思想社
3			

評価方法（基準）	出席・授業への貢献度、試験（毎時間行う小テストとまとめの確認テスト）、学校でのボランティア活動体験報告書（必須）、課題・レポート等をすべてこなした上で総合的に評価するが、まとめの確認テストで 6 割以上取れない場合、さらに、出席が 80%に満たない者、課題（要約）の提出が十分でない者は成績評価の対象外とする。また、遅刻は欠席とするので注意すること。
学生へのメッセージ	本講義を履修する者は、原則、前期履修期間中に学校現場でのボランティア活動経験が必須条件となります。すでに何らかの活動をしているものはその活動内容についてレポートをまとめ提出してもらいます（必須）。一度も活動したことがないものは、前期履修期間中にいくつかの活動を紹介するので、その活動に参加しレポートを作成し提出してもらいます（必須）。この必須レポート提出がない者は単位認定できませんので、履修前によく考えてから履修してください。なお、地域連携やその他の大学認定の活動（PBL など）は、本レポートの対象とはなりません。 学校でのボランティア等活動経験のない者については本講義を履修期間中、学校でボランティア活動をすることを義務づけます。よって、学校でのボランティア活動をやっていない者、やりたくない者、やる予定がない者は履修しても単位認定しません。また、提出物に関しては締め切りを厳守すること。締め切り以降の提出に関しては受け取りますが「未提出」扱いとします。
担当者の研究室等	７号館３階(大野順子研究室)
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。また、いくつかの課外活動を通常の時間割外に行う予定です。課外活動に参加できない人は本科目の単位を取得することは困難な場合もあります。また、学校でのボランティア活動への参加も必須です。こちらへの参加ができない人も本科目の単位取得が困難となりますので、履修を決める前にしっかりと考えてから履修登録してください。履修登録をした時点で、あなた自身が本講義のシラバス内容をすべて了解した上で登録したことになりますので、履修登録以降のシラバスに関するご意見については一切受け付けませんのでご了承ください。 事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。

科目名	教育心理学	科目名（英文）	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために，教師が学習者を理解し，さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ，日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について，心理学的に説明し，考えることができるようになることを目標とする。
到達目標	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について，基礎的な知識を身につけ，各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。
授業方法と留意点	講義中心で行う。事前に資料を moodle 上で配付するので，各自入手しておくこと。 必要に応じて，簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果（資格）	教員免許状取得上必修，免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」１０単位のうち２単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と１	教育に対して心理学ができること，発達と教育	テキスト第０章１，配付資料による本時の予習と復習
2	発達と教育と心理学と２	発達の要因，主な発達理論の概観	テキスト第８章１，配付資料による本時の予習と復習
3	こどもの発達１	乳幼児期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第８章２・第９章，配付資料による本時の予習と復習
4	こどもの発達２	児童期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第８章２・第 10 章・第 11 章，配付資料による本時の予習と復習
5	こどもの発達３	青年期……運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第８章２・第 10 章・第 11 章・第 12 章，配付資料による本時の予習と復習
6	学習を支える認知機能１	思考……人間の思考の特徴，メタ認知の機能と発達	テキスト第７章１，配付資料による本時の予習と復習
7	学習を支える認知機能２	言語……言語の機能，言語理解と言語産出とその発達	テキスト第 11 章，配付資料による本時の予習と復習
8	学習を支える認知機能３	記憶……記憶のメカニズムと発達	テキスト第４章・第５章，配付資料による本時の予習と復習
9	こどもの学び１	さまざまな学習①……学習とは何か，主な学習理論の概観，条件づけ	テキスト第１章，配付資料による本時の予習と復習
10	こどもの学び２	さまざまな学習②……観察学習，自己制御学習	テキスト第１章・第６章，配付資料による本時の予習と復習
11	学習を支える動機づけ１	意欲とは何か……動機づけ過程，動機づけ理論	テキスト第２章・第３章，配付資料による本時の予習と復習
12	学習を支える動機づけ２	さまざまな意欲……外発的動機づけ・内発的動機づけ，その他の視点，意欲の発達	テキスト第２章・第３章，配付資料による本時の予習と復習
13	学習を支える動機づけ３	意欲を育む……こどもの発達と意欲，意欲を育む教育のあり方，学習と評価	テキスト第２章・第３章，配付資料による本時の予習と復習
14	学校における人間関係	教師-生徒の関係，生徒-生徒の関係，教師-教師の関係，集団としての学級	テキスト第０章２・第１０章，配付資料による本時の予習と復習
15	個に応じた教育	個人差の理解と教育……ＡＴＩ，学習方略	テキスト第０章３・第６章・第７章２，配付資料による本時の予習と復習

関連科目：教職課程におけるすべての科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	絶対役立つ教育心理学―実践の理論，理論を実践―	藤田哲也（編著）	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト 30%，期末試験 70%
学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
担当者の研究室等	７号館３階（吉田研究室）
備考	・授業内で，moodle を使用することがあります。利用できるようにしておいてください。 ・期末試験は希望者に返却します。 ・事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。

教職科目

科目名	教育相談	科目名（英文）	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育相談の考え方や進め方についての理解を深め、生徒が成長する過程に生じるさまざまな課題や問題に対処するための援助の考え方や実際、カウンセリングの基礎知識と教育相談の技法を身につけることを目標とする。学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的な意義を解説し、カウンセリングの基礎知識およびその実践的な手法を紹介する。併せて、「問題」に悩む児童・生徒への実践的な取り組み方を考える.
到達目標	教育相談の基本的な考え方、カウンセリングの基礎、生徒理解と「問題」への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせて行う。演習は，グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。
科目学習の効果（資格）	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」４単位のうち２単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 各科目に含める必要事項：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について	＿＿＿＿＿
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方、教師としての立場、カウンセリングマインド	テキスト第 1 章、第 2 章を読む
3	グループ発表の準備	グループワーク	検討したいテーマについてよく考えておく グループ発表の準備
4	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協力体制、専門機関との連携とその方法	テキスト第 12 章、第 13 章を読む グループ発表の準備
5	学校におけるカウンセリング活動 1	カウンセリング活動のいろいろ(1)……治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動	テキスト第 10 章を読む グループ発表の準備
6	学校におけるカウンセリング活動 2	カウンセリング活動のいろいろ(2)……開発的カウンセリング活動	テキスト第 10 章を読む グループ発表の準備
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの	グループ発表の準備
8	問題の理解と対応 1	問題とは何か、その原因・背景と対応、適応過程	テキスト第 3 章を読む グループ発表の準備
9	問題の理解と対応 2	ストレス、欲求不満，葛藤	テキスト第 3 章、第 4 章を読む グループ発表の準備
10	心の発達と危機	認知の発達、自己意識の発達、道徳性の発達、仲間関係の発達	教育心理学の復習 グループ発表の準備
11	相談援助活動の実際 1	不登校……その理解と対応（学生グループ発表）	テキスト第 5 章を読む
12	相談援助活動の実際 2	いじめ……その理解と対応（学生グループ発表）	テキスト第 6 章を読む
13	相談援助活動の実際 3	学級崩壊・授業崩壊……その理解と対応（学生グループ発表）	テキスト第 7 章を読む
14	相談援助活動の実際 4	反社会的行動……その理解と対応（学生グループ発表）	テキスト第 8 章を読む
15	教員のメンタル・ヘルス	教員自身が健康であるために，教員への対応	テキスト第 14 章を読む

関連科目：教職課程の科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教育相談	森田健宏・吉田佐治子（編著）	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループ発表 50%，期末試験 50%
学生へのメッセージ	これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。
担当者の研究室等	７号館３階（吉田研究室）
備考	グループ発表について，他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。また，全発表中最も評価が高かったグループも、最後にお知らせします。 グループ内ではピア評価を行います。 事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。

科目名	教育方法論	科目名（英文）	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林　茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職課程「教育の方法及び技術」に対応する科目である。授業は、教育方法の歴史と理論の概観、授業の設計から評価に至る授業構成の理解、学習指導を組織化するための基礎的な授業技術と方略の習得に関する講義、児童生徒に向き合う授業づくりのための技術に関するミニ講座、グループに分かれて、共同作業による教材開発とマイクロ・ティーチングの実施体験により構成する。 授業担当者は公立高校５校で 34 年間にわたり授業を行ってきた経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを期待する。 より具体的には、つぎのことをめざす。 (1) 自己の被教育体験を出発点に、学ぶこと・教えることの意味について考え、学習観・授業観・学校観を問い直す作業を通して、今日の教師に求められる多様な資質・能力についての理解を深める。 (2) 「教え込む技術」の習得ではなく、生徒の生活背景や教室の人間関係を把握し、生徒の声を聴き取り、生徒どうしをつなぎ、教材の文脈にもどし、日々の教室での出来事に柔軟かつ的確に対処しながら、教室を豊かな学びの場とする授業づくりをめざす。 (3) 教育実践の質を向上させるためには、個々の教師が、上記(2)に関する専門性を向上させるだけでなく、職場で相互に学び合える同僚性を構築すること、また、教育諸科学の最新の研究から新しい知見を積極的に摂取することの重要性を理解する。
到達目標	教師と生徒が意思疎通を図りつつ、相互に作用しながら、主体的に問題を発見し、協力協同しながら解に接近する時空間としての授業を構想することをめざして、 (1) 指導目標を適切に設定し、多角的な視点から教材研究を行い、学習指導案を作成するとともに、同僚との協議を踏まえて指導案を改善することができる。 (2) 豊富な事例研究を通して、教育実践を対象として分析、批判、省察、再構成できる。
授業方法と留意点	(1) 講義・ワークを中心に授業を進める。インタラクティブ（双方向的）な授業構成となるよう積極的な参加を求める。私語は厳禁だが、質問や意見提起は歓迎する。 (2) 毎回、授業の最後にコメントペーパーを配付する。「コメントペーパー」は記入・提出すること（編集して、次回に配布し、共有すべき点についてコメントを行う。）。 (3) 授業終了時に復習用の講義資料を配布する。講義資料は各自ファイリングすること。 (4)　第 9～12 回でチームでのマイクロ・ティーチングを実施する。また、チーム・マイクロ・ティーチングに関するレポートの提出をもとめる（中間レポートとして）。 (5) 定期試験を必ず受験すること。
科目学習の効果（資格）	教員免許（小学校・中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、教育方法学の論点と課題 授業技術ミニ講座①授業びらき・授業じまい	「学力」の登場と学力論争、「問題解決学習」論争、「たのしい授業」論争、「教育技術」をめぐる論争	教科書第３章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。
2	子どもは何を学ぶのか（教育目標・内容論） 授業技術ミニ講座②授業のルールづくり	教育目標に関する基本的な考え方、教育目標・内容の諸相、育成すべき資質と能力、学校教育目標	教科書第４章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。
3	学習とは何か（学習論） 授業技術ミニ講座③私語の傾向と対策	学習をめぐる３つの理論、学習理論にもとづく学習方法、学習における他者の役割 、学習指導の形態	教科書第５章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。
4	欧米における授業の歴史（教授論の歴史①） 授業技術ミニ講座④板書の技術	近代教育思想と教授学の成立、教育学の体系化と授業の組織化、カリキュラム研究の成立と展開、科学技術の進歩と教育改革	教科書第１章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。
5	日本における授業の歴史（教授論の歴史②） 授業技術ミニ講座⑤発問の工夫と仕方	近代学校制度と授業の成立、授業の定型化、新教育の受容と戦後改革、新自由主義的教育改革	教科書第２章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。
6	学力をどう高めるか（学力論） 授業技術ミニ講座⑥指名、指示の仕方、発言のさせ方 ワーク１　チーム顔合わせ・自己紹介	学力をどうとらえるか、「できる学力」を高める、「分かる学力」を高める、学力調査をめぐって	教科書第６章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。
7	授業をどうデザインするか（計画論） ワーク ２　チームで教材開発・模擬授業の打ち合わせ①	授業のデザインとは、教育内容と子どもの学び、対話的・協働的な学び合い、授業づくりの課程と構造、学びのための指導・支援	教科書第７章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。
8	教育の道具・素材・環境（教材論） ワーク ３　チームで教材開発・模擬授業の打ち合わせ②	教材づくり、メディアとしての教材、教材概念の拡張、学習環境としての時空間	教科書第８章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。
9	何をどう評価するか（評価論） ワーク４　第１・２グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施	目標に準拠した評価と相対評価、形成的評価と自己評価、パフォーマンス評価とポートフォリオ評価、指導と評価の一体化	教科書第９章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。
10	誰がカリキュラムを編成するのか（カリキュラム論） 第３・４グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施	カリキュラム・イメージの払拭、カリキュラムの編成原理、学習指導要領、カリキュラム開発、隠れたカリキュラム	配布プリントをよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。
11	ICTを活用した授業をつくる	各種メディアの授業への活用、学習用デ	配布プリントをよく読んでおく。講義資料を参考に

	① ワーク５　第５・６グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施	ジタル・コンテンツの利用	学習内容を整理する。
12	ICTを活用した授業をつくる② ﾜｰｸ６　第７・８グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施	情報教育、メディア・リテラシー、ｅラーニング、学校運営・教務事務の ICT 化	配布プリントをよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。
13	インクルーシブな授業をつくる ワーク７　チームによるマイクロ・ティーチングの振り返り① 授業技術ミニ講座⑦個別指導と一斉指導	通常学級における特別支援教育、個に応じた指導とは、学級集団づくりと授業づくり、授業の「わかりやすさ」と多様な参加	配布プリントをよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。
14	ユニバーサルデザインの授業をつくる ワーク８　チームによるマイクロ・ティーチングの振り返り② 授業技術ミニ講座⑧ほめ方・叱り方	バリアフリーとユニバーサルデザイン、学習環境のユニバーサルデザイン化、指導方法のユニバーサルデザイン化、学習のユニバーサルデザインと合理的配慮	配布プリントをよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。
15	まとめ～学び続ける教員像をめぐって 授業技術ミニ講座⑨グループ学習の方法	２つの教師モデル、専門家としての教師、教師としての成長に向けて	教科書第１１章をよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。

教職科目

関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい時代の教育方法　改訂版	田中耕治他	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	定期試験（50%）、レポート（30%）、コメントペーパー（20%）により総合的に評価する。
学生への メッセージ	「授業に出席するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、日々、メディアで取り上げられる教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。
担当者の 研究室等	７号館３階(林研究室)
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。

科目名	教職実践演習（中・高）	科目名（英文）	Practicum in Prospective Teachers
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田　佐治子.朝日　素明.大野　順子.谷口　雄一.林　茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や実践的な力量について確認する。 ○中学・高校での現場体験学習をもとに、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。 ○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。 ○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。 ※ 担当者のうち２名は、長く学校に勤務した経験をもっている。また、中学校での実地学習では、現職の先生方から直接ご指導いただく。
到達目標	免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。
授業方法と留意点	○教職課程の専任教員５名による全体指導と、各専任教員ごとのグループ学習を中心に進める。１グループは１０名程度。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねるなかで、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。 ○大学の教科に関する科目の担当者・指導主事・現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。
科目学習の効果（資格）	○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目（教職実践演習を除く） の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するもの。 ○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	「教職実践演習」の全体ガイダンス	・本講義の目的、内容方法についての確認。 ・受講者各自の教育実習後の課題についての確認。 ・３回目以降に行われるグループ学習の各課題の確認。	教育実習ノートの点検と再確認
2	専攻科目における実践上の課題①	専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野に関する受講者各自の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	専攻教科における分野ごとの課題を整理
3	専攻科目における実践上の課題②	専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野における実践上の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	専攻教科における分野ごとの課題を整理
4	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)①	地元市教委との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。	中学生における集団づくりと個別指導(生徒指導・進路指導のあり方)についてレポートにまとめる
5	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)②	地元市教委との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、教科指導上の実践課題を知る。	中学生における集団づくりと個別指導(教科指導のあり方)についてレポートにまとめる
6	いじめの現状	問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前)配布資料の熟読 (事後)小レポートの提出
7	いじめ問題への取り組み	日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前)配布資料の熟読 (事後)小レポートの提出
8	ジェンダーと教育	近現代社会は「個人の尊重」という理念のもと成り立っている。しかしながら、その背後には伝統的な価値規範を内包していることも忘れてはならない。 近代国家によって制度化されてきた学校教育も現在では自由や個性の尊重を掲げながら、一方では伝統的な価値観を強制している部分があるのではないか。 そうしことを考えるきっかけとして「ジェンダー」という視点を用い、学校教育を改めて考えてみたい。 特に、身近なところからジェンダーについて考え、学校教育や社会について検討していく。	（事前）第一回目の授業で配布する資料を読み、Ａ４サイズの用紙１～2 枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
9	学校の中のマイノリティ:外国にルーツをもつ子どもたち	1990 年代以降、日本の入国管理政策の転換により、多くの外国人が家族とともに渡日するようになった。 それに伴い多くの外国人の子どもたちは日本の学校へ通うことになったが、彼らは日本語の問題や日本特有の学校文化など様々な問題に直面することとなった。 ここでは外国にルーツをもつ子どもた	（事前）第一回目の授業で配布する資料を読み、Ａ４サイズの用紙１～2 程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。

教職科目

		ちの視点から日本の学校教育制度について講義、およびディスカッションを通して考えていく。	
10	学校の危機管理①:学校管理下の事件・事故	学校管理下における事件・事故発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質を高める。	（事前）学校管理下の事件・事故に関する配布資料を読んでくる。（事後）ミニレポートを課す。
11	学校の危機管理②：災害	災害発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質を高める。	（事前）災害発生時の学校の対応に関する配布資料を読んでくる。（事後）ミニレポートを課す。
12	教員の体罰はなぜなくならないのか？	教員の体罰の実態や体罰防止の現状等について学ぶとともに、体罰の背景にある指導観、子ども観について考える。	（事前）配布した新聞記事の切り抜きを読んでくる。 （事後）ミニレポートを課す。
13	教員の勤務時間はなぜ長くなるのか？	労働時間法制や教員の勤務時間の実態について学ぶとともに、長時間勤務の背景にある問題について考察し、働き方改革の方途を考える。	（事前））配布した新聞記事の切り抜きを読んでくる。 （事後）ミニレポートを課す。
14	カウンセリングマインドと生徒対応	カウンセリングの技法を生徒への対応、保護者への対応に応用する。	（事前）カウンセリングマインドについての復習。中学生あるいはその親のもつ“悩み”を３つあげる。 （事後）小レポート
15	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための１方法としてのエゴグラム作成を行う。	（事前）「自分」について考える。 （事後）小レポート

関連科目	全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科ごとの必修科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループ学習が中心であり、それぞれについて課題が出される。それらの評価を総合し、最終的な評価とする。
学生へのメッセージ	教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察すること。そのなかで、問題点を見出し、諸課題を自ら設定し、この科目を軸にしながら、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力量を身に付けること。
担当者の研究室等	７号館３階（朝日、大野、林、吉田） ７号館４階（谷口）
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。

科目名	教師論	科目名（英文）	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日　素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようになっているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション（LTD；Learning Through Discussion）等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教職の意義等に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）・進路選択に資する各種の機会の提供等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性（1）	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性（2）	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性（3）	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性（4）	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	文献･映像に基づく教師像の探究（1）	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	文献･映像に基づく教師像の探究（2）	「不良教師」と「熱血教師」（文献・映像に基づく教師像の探究） レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	文献･映像に基づく教師像の探究（3）	「人間教師」と「プロ教師」） レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	文献･映像に基づく教師像の探究（4）	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料
11	教員の役割・職務（1）	学校･教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
12	教員の役割・職務（2）	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
13	教員の役割・職務（3）	学校内外の連携の視点からみた教員の役割・職務（チーム学校運営への対応を含む）	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する配布資料
14	教員の役割・職務（4）	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務（5）	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	メンタルヘルスに関する配布資料

関連科目：教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	定期試験 70%、レポート 20%、グループワーク・ピア評価 10%
学生へのメッセージ	教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。 遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。

科目名	社会科・公民科教育法Ⅰ	科目名（英文）	Civic Education Method Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野　順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、中学社会科、高校公民科の学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな授業方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に、参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。まずは「教育実習」で生徒を失望させないきちんとした授業ができるよう、知識と意欲、そして責任をもって授業に参加してください。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 （1）中学社会科（地理、歴史、公民分野）、高校公民科の教師として必要な「知識」を確実に身につける。 （2）中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 （3）社会科・公民科の授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」をするための力をつける。
授業方法と留意点	まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践的・参加型の授業」を目指します。模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、模擬授業に対する問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備、指導案の作成、教材研究は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席は認めません。
科目学習の効果（資格）	中学校１種「社会」、高校１種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科・公民科教育の課題について考えてくること。 ※それぞれの学習指導要領の総則部分を読んでおく。
2	中学校指導要領（社会）、高校指導要領（公民）にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領（中学：社会科、高校：公民科）の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（1）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（2）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（3）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術（1）：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター（パワーポイントやインターネット）を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
7	教育方法と技術（2）：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取りれたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
8	学習指導案の書き方（1）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（1）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方（2）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（2）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業（1）	模擬授業の実践と指導（1）	模擬授業の準備。
11	模擬授業（2）	模擬授業の実践と指導（2）	模擬授業の準備。
12	模擬授業（3）	模擬授業の実践と指導（3）	模擬授業の準備。
13	模擬授業（4）	模擬授業の実践と指導（4）	模擬授業の準備。
14	成績評価の方法について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。	※事前配布資料の要約
15	総括ー社会科指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。

関連科目：社会科・公民科教育法１、社会科・公民科教育法２は「１→２」と連続して受講することが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			

評価方法 （基準）	出席（全 15 回出席すること。少なくとも 80%以上の出席が必須。）、課題・レポート（提出の締め切りは厳守すること）、平常点（授業への貢献度、模擬授業等）、及び、小テストや最終試験（予定）により総合的に評価する。遅刻も欠席扱いとするので注意すること。
学生への メッセージ	本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さん自身が授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間予習・復習を怠ることなく、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。また、毎時間、講義開始時に社会科の教員としての知識を問う小テストを行う予定です。詳細については第一回目の授業で説明し、資料等も配布します。第一回目の授業を休まれる方にはそれら一切お渡ししません。本講義は教職科目の授業であり、他の講義科目とは異なり、第一回目の授業から本格的に始まっています。ですので本講義に関しては、教科教育法という特殊性もあるため、履修するかしないかを考える移行期間は基本的にないと考えてください。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　大野順子研究室
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 中学社会科、高校公民科の学習指導要領の入手方法については改めて説明します。 事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。

科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ	科目名（英文）	Civic Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大野　順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。また、近年、選挙年齢が 18 歳に引き下げられたことによる子どもたちへの政治教育の重要性が改めて問われています。とりわけ公民科では政治や経済問題を取り扱うことが多く、子どもたちに政治の主体として意識を涵養するための教育（市民性教育）をどのように実践できるのかについても考えていきます。具体的には政府が作成した政治教育副教材の分析や学校現場での実践例の分析などを積極的に行います。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 （1）中学社会科（地理、歴史、公民分野）、高校公民科の教師として必要な「知識」を確実に身につける。 （2）中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 （3）授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」の力をつける。 （4）政治教育、市民性教育についての理解を深め、指導案を作成し、授業実践ができるようになる。
授業方法と留意点	まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践型・参加型の授業」を目指します。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、授業内容に対する問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席は一切認めません。
科目学習の効果（資格）	中学校１種「社会」、高校１種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科教育の課題について考えてくること。
2	中学校指導要領（社会）、高校指導要領（公民）にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領（中学：社会科、高校：公民科）の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（1）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（2）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（3）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術（1）：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター（パワーポイントやインターネット）を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
7	教育方法と技術（2）：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取りれたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
8	学習指導案の書き方（1）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（1）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方（2）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（2）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業（1）	模擬授業の実践と指導（1）	模擬授業の準備。
11	模擬授業（2）	模擬授業の実践と指導（2）	模擬授業の準備。
12	政治教育（市民性教育）（1）	政治教育副教材の分析	各自、副教材を分担し分担箇所を要約してくる。
13	政治教育（市民性教育）（2）	実践事例分析	政治教育実践例についてまとめ、発表。
14	成績評価の方法について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。	※事前配布資料の要約
15	総括ー社会科・公民科指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。

関連科目	社会科・公民科教育法１、社会科・公民科教育法２は連続して受講することが望ましいため、原則として社会科・公民科教育法１を既に履修していること。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
評価方法 （基準）	出席（全 15 回出席すること。少なくとも 80%以上の出席が必須。）、課題・レポート（提出の締め切りは厳守すること）、平常点（授業への貢献度、模擬授業等）、及び、最終試験（予定）により総合的に評価する。遅刻も欠席とするので注意すること。
学生への メッセージ	本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さんが授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間予習・復習を怠ることなく、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。本講義は教職科目の授業であり、他の講義科目とは異なり、第一回目の授業から本格的に始まっています。ですので履修するかしないかを考える移行期間は基本的にないと考えてください。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　大野順子研究室
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 中学社会科、高校公民科の学習指導要領の入手方法については改めて説明します（前期社会科公民科教育法 I で購入済みの者は購入の必要なし）。 事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。

科目名	商業科教育法	科目名（英文）	Business Education Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	久井　孝則
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	前期は、商業高校の教育課程の特徴について理解を深める。そのために、学習指導要領に示された「商業科」の科目について、その目指す学力観及び指導内容と留意点を明らかにしていく。また、商業教育の課題と展望を通して、次代を担う教員としてどのような教育を行うべきかを考察する。 後期は、模擬授業を中心に行い、お互いに評価をし合うことにより、発表者の授業に対する教材研究、教材提示、板書法や教育姿勢などについて考察する。 また、新学習指導要領の改訂のポイントを理解させ、その体現者としての自覚を促す。
到達目標	①商業科教員としての基本的かつ幅広い知識を習得する。 ②学習指導計画の立案ならびに模擬授業を行い、実践的な能力を体得する。 ③ビジネス教育のあり方について考え、将来の方向性について理解を深める。
授業方法と留意点	講義形式の授業だけではなく、模擬授業などの実践授業を取り入れ課題や調査研究成果を発表させるなどの対話型授業を行う。 あらかじめ学習資料を渡すので、必ず事前学習をしてくること。特に学習指導計画案の作成や模擬授業では、綿密な資料研究が必要である。
科目学習の効果（資格）	本講座は、高等学校教職員免許状「商業」を取得するための必修科目である。商業高校では、様々な分野の専門科目を担当する可能性があり、そのための基本的な知識・技能を習得することができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期のガイダンス「授業の進め方」	自己申告表 授業の進め方	
2	商業教育の必要性と意義	(1)高等学校における商業教育の必要性 （２）商業教育の意義	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること
3	わが国の商業教育の歩み	(1)新制商業教育の開始まで (2)学習指導要領(試案)から平成 11 年の改訂まで	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること
4	学習指導要領(平成 21 年 3 月告示)と新学習指導要領(平成30年3月告示)の理解	(1)教育課程の編成方針 (2)教科〔商業〕の理解 (3)「総合的な学習の時間」の理解	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること。平成 30 年 3 月告示の新学習指導要領について調べてくること
5	各科目の学習内容とそのねらい（基礎的科目「ビジネス基礎」）	(1)目指す学力観 (2)指導内容と留意点	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること
6	各科目の学習内容とそのねらい(マーケティング分野)	(1)科目構成と目指す学力観 (2)科目「マーケティング」等の指導内容と留意点	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること
7	各科目の学習内容とそのねらい(ビジネス経済分野)	(1)科目構成と目指す学力観 (2)科目「ビジネス経済」等の指導内容と留意点	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること
8	各科目の学習内容とそのねらい（会計分野）	(1)科目構成と目指す学力観 (2)科目「簿記」等の指導内容と留意点	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること
9	各科目の学習内容とそのねらい(ビジネス情報分野)	(1)科目構成と目指す学力観 (2)科目「情報処理」等の指導内容と留意点	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること
10	各科目の学習内容とそのねらい（総合的科目）	(1)科目構成と目指す学力観 (2)「ビジネス実務」等の指導内容と留意点	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること
11	指導計画と授業展開①	(1)教育課程と学習指導 (2)指導計画 (3)指導形態と指導方法	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること
12	指導計画と授業展開②	(1)年間指導計画作成の実際 (2)学習指導案作成の実際 (3)プレゼンテーションと授業	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること
13	「商業教育と人間形成」と「商業科教師への期待」	(1)商業教育と進路指導・キャリア教育 (2)新しい時代における教師のあり方	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること
14	商業教育の課題と展望	(1)魅力ある商業教育を目指して (2)確かな学力の育成 (3)商業教育の理解と啓発	〔事前〕教科書の当該章を熟読してくること
15	前期のまとめ		
16	後期のガイダンス「模擬授業演習に向けて」	学習指導計画案のモデル作成	
17	基礎的科目「ビジネス基礎」の学習指導計画案の作成	(1)次回の模擬授業を想定した学習指導計画案を作成 (2)板書計画案の』作成	〔事前〕模擬授業の範囲の内容について、予習してくること
18	基礎的科目「ビジネス基礎」の模擬授業	(1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成 (3)発表	〔事前〕模擬授業のシミュレーションをしてくること
19	ビジネス情報分野「情報処理」の学習指導計画案の作成	(1)次回の模擬授業を想定した学習指導計画案を作成 (2)板書計画案の』作成	〔事前〕模擬授業の範囲の内容について、予習してくること
20	ビジネス情報分野「情報処理」の模擬授業	(1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成 (3)発表	〔事前〕模擬授業のシミュレーションをしてくること
21	会計分野「簿記」の学習	(1)次回の模擬授業を想定した学習指導	〔事前〕模擬授業の範囲の内容について、予習してく

	指導案の作成①	計画案を作成 (2)板書計画案の』作成	ること
22	会計分野「簿記」の模擬授業①	(1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成 (3)発表	〔事前〕模擬授業のシミュレーションをしてくること
23	会計分野「簿記」の学習指導案の作成②	(1)次回の模擬授業を想定した学習指導計画案を作成 (2)板書計画案の』作成	〔事前〕模擬授業の範囲の内容について、予習してくること
24	会計分野「簿記」の模擬授業②	(1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成 (3)発表	〔事前〕模擬授業のシミュレーションをしてくること
25	ビジネス経済分野「ビジネス経済」の学習指導計画案の作成	(1)次回の模擬授業を想定した学習指導計画案を作成 (2)板書計画案の』作成	〔事前〕模擬授業の範囲の内容について、予習してくること
26	ビジネス経済分野「ビジネス経済」の模擬授業	(1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成 (3)発表	〔事前〕模擬授業のシミュレーションをしてくること
27	マーケティング分野「マーケティング」の学習指導計画案の作成	(1)次回の模擬授業を想定した学習指導計画案を作成 (2)板書計画案の』作成	〔事前〕模擬授業の範囲の内容について、予習してくること
28	マーケティング分野「マーケティング」の模擬授業	(1)模擬授業 (2)評価表・自由感想表の作成 (3)発表	〔事前〕模擬授業のシミュレーションをしてくること
29	総合的科目「総合的科目の教育の進め方」	(1)課題研究 (2)総合実践	〔事前〕配布された資料を熟読してくること
30	後期のまとめ		

関連科目

大学の経営学部や経営情報学部で学ぶ専門科目は、商業科の専門科目として活かせる魅力がある。
簿記、会計、原価計算、管理会計、情報処理、電子商取引、経営学、経済学、マーケティング、民法、会社法、ベンチャービジネス論など、幅広く履修しておくことが大切。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教職必修最新商業科教育法	日本商業教育学会	実教出版株式会社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高等学校学習指導要領解説　商業編	文部科学省	実教出版株式会社
2			
3			

評価方法（基準）

小テスト・レポート５０％ 、 授業への参加度（学習意欲、事前学習、発表等） ５０％とし、 総合的に判断して評価する。

学生へのメッセージ

商業科教員採用試験では、日本商工会議所簿記検定２級程度の問題が出題されるので、在学中の取得を目指して欲しい。また、新聞やインターネットの政治・経済や教育に関する記事を日頃から読み、社会の変化に興味・関心を持ち、幅広いビジネスに関する知識を有する商業科教員を目指そう。

担当者の研究室等

備考

最初の授業に自分の出身高校の教育課程をインターネットで検索し、プリントアウトして持参すること。
事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。

科目名	職業指導Ⅰ	科目名（英文）	Vocational Guidance Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化と職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。
科目学習の効果（資格）	商業科における職業指導の基礎知識が身に付きます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業概要の説明、職業の定義、職業指導の概念整理	事前学修：本科目のシラバスを熟読すること。(1時間)
2	職業指導の基礎理論	・職業指導における基本的な考え方、手法	事後学修：職業指導に関する資料を熟読すること。(1時間)
3	職業指導の歴史①	・アメリカ・ヨーロッパを中心に職業指導の経緯を知る	事後学修：欧米の職業指導に関する資料を熟読すること。(1時間)
4	日本の産業構造の変化	・日本の産業、雇用事情の変化を知る	事後学修：日本の産業史に関する資料を熟読すること。(1時間)
5	職業指導の歴史②	・日本の戦後の教育改革について	事後学修：日本の戦後の教育改革についての資料を熟読すること。(1時間)
6	日本型雇用と職業指導	・日本における雇用システムの変容と職業指導の関わり	事前学修：日本型雇用の見通しについて考えること。(1時間)
7	新規高卒就職システム	・新規高卒労働市場の変容と現状	事後学修：高卒労働市場に関する資料を熟読すること。(1時間)
8	高等学校における職業指導	・各種学校における職業指導の在り方について	事前学修:職業指導の事例を調査すること。(1時間)
9	「労働すること」を考える	・仕事をすることの意義を考える	事後学修：講義を振り返りは自らの労働観を持つようにすること。(1時間)
10	職業指導の領域	・学校、家庭、地域コミュニティ、公的機関等職業指導がなされる「場」について考える	事後学修：職業指導領域に関する資料を熟読すること。(1時間)
11	キャリア教育の基礎理論①	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事後学修：キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること。(1時間)
12	キャリア教育の基礎理論②	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事後学修：キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること。(1時間)
13	授業内容立案	・高校生向けの職業指導・キャリア教育に関する授業内容を立案する	事後学修：模擬授業の準備をすること。(1時間)
14	模擬授業	・講義 13 で立案した内容で模擬授業を実施	事前学修：模擬授業の準備をすること。(1時間)
15	講義の振り返り	・講義の振り返り、最終レポートの提出	レポート提出の準備をすること。(1時間)

関連科目	教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。また「特別活動論」にも近接します。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義内での課題、提出物、レポート、授業への積極的参加、レポートの提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。 平常点(20%)、プレゼンテーション(30%)、期末レポート(50%) また、前期最終時にレポートを実施します。
学生へのメッセージ	「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。 特に後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。 なお。講義は科目担当者の人材業界での業務経験・及び起業経験を元にしたお話も交えて進行します。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　教育イノベーションセンター（水野）
備考	

科目名	職業指導Ⅱ	科目名（英文）	Vocational Guidance II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化とそれが職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論、面談する際の技法への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。
科目学習の効果（資格）	商業科における職業指導の基礎知識が身に付く

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業概要の説明	事前学修：本科目のシラバスを熟読すること。(1時間)
2	商業教育と職業指導	・商業高校における職業指導の事例を知る	事後学修：商業高校の職業指導事例に関する資料を熟読すること。(1時間)
3	工業教育と職業指導	・工業高校における職業指導の事例を知る	事後学修：工業高校の職業指導事例に関する資料を熟読すること。(1時間)
4	普通科高校と職業指導	・普通科高校における職業指導について	事後学修：提示する資料を熟読すること。(1時間)
5	フリータートニートについて	グループ（またはペア）でフリーター・ニート対策を考える	事後学修：フリーター・ニート問題に関する資料を熟読すること(1時間)
6	職業指導・キャリア教育の実例	・地方も含めた職業指導の事例紹介	事前学修：発表の準備をすること。(2時間)
7	キャリアデザインとは何か	キャリアデザインとは何かを考える	事後学修：自らの節目について考えること(1時間)
8	高校生の就業力について 職業適性とは何か	・新規高卒者に求められる基本的な能力 ・職業適性、アセスメントについて	事後学修：就業力育成のための企画を考えること。(2時間)
9	人権教育としての職業指導	・職業指導の国際基準、ハンディキャップがある生徒への職業指導	事後学修：配布資料を精読すること。(1時間)
10	未来の働き方を考える	・日本の課題、それにより想像される未来における働き方を考える	事後学修：配布資料を精読すること。(1時間)
11	就業力向上企画を立案①	高校生の就業力向上のための企画・授業を考える	事前学修：発表の準備をすること。(2時間)
12	就業力向上計画立案②	１１回目で考えた内容を発表する	事前学修：発表の準備をすること。(2時間)
13	キャリアカウンセリング理論①	自己概念・環境との相互作用・学習理論からのアプローチ	事後学修：配布資料を精読すること。(1時間)
14	キャリアカウンセリング理論②	カウンセリングマインドについて	事後学修：配布資料を熟読すること。(1時間)
15	まとめ/講義の振り返り	提出物の確認、授業内容に関する質疑応答	事前学修：期末レポートを作成すること(2時間)

関連科目	教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。「特別活動論」にも近接します。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポートを実施します。その他、授業への積極的参加、その他課題の提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。 平常点(20%)、調査・プレゼンテーション課題(30%)、期末レポート(50%)
学生へのメッセージ	「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。 後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。 なお、講義では担当者の実務経験にもとづいて議論を進めることもあります。
担当者の研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター（水野）
備考	

科目名	生徒指導論	科目名（英文）	Studies of Guidance and Counceling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日　素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めています。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されています。本科目では、生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義について理解を深め、実践を進める方法原理について基礎的な知識を獲得し、教職員や関係機関と協力して解決・改善を目指そうとする素養を養います。
到達目標	学生は、生徒指導、進路指導、キャリア教育の意義と原理を理解し、学校の教育活動の核にこれを据え、全ての教職員および関係機関等と協力し、組織的に実践を進めていくために必要な知識やスキルを学び、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につけることができます。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に、内容をめぐってのディスカッション等も織り交ぜて授業を進めます。また時折、レポートを課します。 「事前・事後学習課題」はすべて事前課題です。事後課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導の理論及び方法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教育課程と生徒指導･進路指導	科目概要について説明 自分の生徒指導上の体験のふりかえり	テキスト pp. 3-6、pp. 25-32、pp. 80-100
2	生徒指導の目標と意義	生徒指導の目標と意義	テキスト pp. 6-17
3	生徒指導の実践	生徒指導の実践課題と領域	テキスト pp. 17-24
4	生徒指導の理論	発達に関する理論 生徒指導における治療的支援に関する理論 相談理論など	テキスト pp. 32-42
5	生徒理解の進め方（１）	生徒理解の意義と目的 生徒理解の方法	テキスト pp. 43-52
6	生徒理解の進め方（２）	生徒の自己理解の支援 教師の生徒認知のありよう	テキスト pp. 52-62
7	学級経営の進め方（１）	学級経営の意義 学級集団の役割・機能	テキスト pp. 63-68
8	学級経営の進め方（２）	学級集団の力学 学級経営の方法	テキスト pp. 68-79
9	生徒指導上の諸問題の理解と対応	生徒指導上の諸問題とは 最近の諸問題の動向 諸問題にどう対応するか	生徒指導上の諸問題に関する配布資料
10	学校の生徒指導･進路指導体制と連携・協力	学校における指導体制 家庭との連携 専門機関との連携	テキスト pp. 116-131
11	生徒の進路･キャリアに関する実態と課題	進路選択の実態と課題 キャリア適応 青少年の勤労観・職業観 勤労観・職業観の形成と変容	テキスト pp. 176-195
12	進路指導･キャリア教育の目標と意義	進路指導・キャリア教育の意義 進路指導･キャリア教育の現代社会的課題	テキスト pp. 135-159
13	進路指導･キャリア教育の理論	キャリア発達に関する諸理論 キャリアカウンセリングに関する理論	キャリア発達理論に関する配布資料
14	進路指導における「ガイダンスの機能」	ガイダンスを活かした指導	テキスト pp. 220-223
15	学校教育における進路指導の実践展開	進路指導実践の展開モデル	テキスト pp. 196-220、pp. 223-234

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育心理学」「特別活動の理論と方法」「教育経営論」に関連する事柄を含みます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）	文部科学省	
2	高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）	文部科学省	

評価方法（基準）	定期試験 80%、レポート 20%。定期試験を受験しなかった場合、評価はしません。
学生へのメッセージ	生徒指導、進路指導を学ぶ原資になる自らの体験は大事です。さらに自らの体験を対象化して考える習慣をつけましょう。そのために、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。 授業への遅刻、無断欠席・早退等は厳禁です。生徒指導を行おうとする者としての適格性が問われます。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　朝日研究室
備考	Moodle を通して資料配布、レポート課題提示・提出受付を行います。メンバー登録を必ずしてください。メンバー登録については初回に説明します。 また、ポータルシステムを通じて講義連絡、学生呼出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 テキストは授業の各回に先立ち配布します。 事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。

科目名	道徳教育の研究	科目名（英文）	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口　雄一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、中学校において「特別の教科　道徳」の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約 15 年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の「特別の教科　道徳」の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、「特別の教科　道徳の学習指導案を作成できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的に講義形式で行います。しかし、後半には、学習指導案作成等の演習や模擬授業を適宜取り入れます。 また、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができるように配慮します。
科目学習の効果（資格）	中学校教諭１種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各項目に含める必要事項：道徳の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス： 道徳の授業について考える	・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める４つのアプローチについて概観する。	自身が学校教育においてが受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。
2	日本の道徳教育の歴史	・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。	日本の道徳教育の歴史や信念対立について、授業後にもう一度整理しておく。
3	よい道徳教育とは何か	よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。	道徳の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について、授業後にもう一度整理しておく。
4	道徳の授業の多様な指導方法の特徴	道徳の授業のねらいに基づく８類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。	道徳の授業のねらいに基づく８類型について、授業後にもう一度整理しておく。
5	道徳の授業の発問の構成法	「特別の教科　道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。	ねらいに基づく発問の構成法について、授業後にもう一度整理しておく。
6	道徳の授業の学習指導案の作成法	「特別の教科　道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。	道徳の授業の学習指導案の作成方法について、授業後にもう一度整理しておく。
7	道徳の授業の評価	「特別の教科　道徳」における評価の内容や方法について考える。	道徳の授業の評価の内容や方法について、授業後にもう一度整理しておく。
8	各授業類型のねらいと発問の特徴	教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。	教材分析の方法や授業構成について、授業後にもう一度整理しておく。
9	教材分析の視点	教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。	教材分析の方法について授業後に整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。
10	発問分析による授業づくりの視点	発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。	問題解決的な学習や、発問分析に基づく授業改善の方法について、授業後にもう一度整理しておく。
11	授業づくりの実際①： カリキュラム・マネジメント、 テーマ発問	カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について、授業後にもう一度整理しておく。
12	授業づくりの実際②： 問題解決的な学習、探究型学習	問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について、授業後にもう一度整理しておく。
13	学習指導案の作成①	これまでの講義内容をふまえ、第９回で選択し教材分析した教材を用いた道徳の授業について、学習指導案を作成する。	作成した学習指導案をグループ内で発表するための準備をしておく。
14	学習指導案の作成②	前回の授業で作成した学習指導案について各グループで発表し、模擬授業の準備を行う。	グループ毎に模擬授業の準備をしておく。
15	まとめ： 模擬授業と事後の検討	・模擬授業を行い、授業改善のための検討を行う。 ・道徳の授業づくりについてまとめる。	「よい道徳の授業」について、考えをまとめる。

関連科目：教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみることが大切です。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	道徳科　初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰　編著	大学教育出版
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 中学校学習指導要領解説―特別の教科　道徳編― / 文部科学省 / 東山書房 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	毎回の授業の終わりに書いてもらうコメントペーパーの内容（30%）や、作成した学習指導案（20%）、学期末試験の結果（50%）をもとに、総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等の学習を適宜取り入れたいと考えています。受講者の皆さんの積極的な参加・発言を期待しています。
担当者の 研究室等	７号館４階(谷口研究室)
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	科目名（英文）	Methodolgy of Special Activities and Integrated Studies
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林　茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	特別活動の指導法については、学校における様々な構成での集団活動を通して、自ら課題を発見し、協力協働して解決を行うことで、よりよい集団づくり、生活づくりや人間関係づくりをめざすという特別活動の意義、目標及び内容を理解し、学校教育活動の中での特別活動への要請を踏まえた、指導に必要な知識や素養を身に付けるようにする。 子どもの現状を踏まえ、望ましい集団活動が生徒の個人的な資質と社会的な資質を育むとともに、学習活動を統合し補完する役割を果たしていることについても理解を深めるようにする。 「学級づくり」（教師と生徒の関係づくり、生徒どうしの関係づくり）に視点を据え、7 つの教育課題を取り上げ、問題発生の背景を踏まえた対応の視点・方法について、事例をもとにグループ討議や即興劇を行い、交流や意見交換をする。 総合的な学習の時間の指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。 公立高校教員として 34 年間にわたり、学級担任、生徒会指導主担者、総合的な学習の時間企画主担者等を分掌した経験に基づいた、学校現場で役立つ実践的な授業を行う。
到達目標	教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連性、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。 合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成することの重要性について理解している。 主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性、探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立て、児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。
授業方法と留意点	講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見いだし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･特別活動及び総合的な学習の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第 1 章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
2	特別活動の目標・内容・方法ワーク①「キャラ」をめぐって　〈ソロワークと意見交換〉	教科外活動としての位置づけ、特別活動の３つの内容、方法としての集団活動・体験活動	特別活動テキスト第 2 章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
3	学級活動･ホームルーム活動①ワーク②大学に入って〈ソロワークと意見交換〉	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画	特別活動テキスト第 3 章第 1 節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
4	学級活動･ホームルーム活動②ワーク③学級活動の思い出〈ソロワークと意見交換〉	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直	特別活動テキスト第 3 章第 1 節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
5	生徒会活動･児童会活動、学級行事ワーク④学校行事の思い出〈ソロワークと意見交換〉	生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点	特別活動テキスト第 3 章第 2･3 節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
6	体験活動の意義ワーク⑤「14 歳の頃」「17 歳の頃」〈ソロワークと意見交換、グループワークの班分け、顔合わせ〉	特別活動･総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通した学びの重要性と計画的な指導の重要性	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
7	特別活動の歴史・領域・方法ワーク⑥いじめ（１）〈グループ討議・発表〉	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがい	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
8	特別活動と学級経営ワーク⑦不登校〈グループ討議・発表〉	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
9	特別活動と生徒指導ワーク⑧暴力〈即興劇･交流〉	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
10	特別活動の指導計画と評価ワーク⑨外国にルーツのある子ども（グループ討議・発表〉	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1 単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用	特別活動テキスト第 4 章第 1･2･5 節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
11	特別活動と総合的な学習の時間ワーク⑩進路指導･キャリア教育〈即興劇・交流〉	特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
12	総合的な学習の時間の目標・内容・方法　ワーク⑪インクルーシブ教育〈グループ討議・発表〉	総合的な学習の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理	総合的な学習の時間のテキスト第 1・2･3 章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習する。
13	総合的な学習の時間の学習指導ワーク⑫ジェンダー・LGBT〈即興劇・発表〉	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び	総合的な学習の時間のテキスト第2･7 章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習する。

教職科目

14	総合的な学習の時間の指導計画と評価 ワーク⑬いじめ（２）〈グループ討議・発表〉	全体計画、年間計画、単元計画の作成、生徒の学習状況の評価	総合的な学習の時間のテキスト第 5･6・8 章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習する。
15	補足とまとめ 補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。	特別活動の指導の配慮事項及び担当する教師、国旗・国歌の取扱い 総合的な学習の時間の体制づくり	特別活動のテキスト第 4 章第 2･3･4 節、総合的な学習の時間のテキスト第 9 章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習する。

関連科目

すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるともに、教育方法論、生徒指導論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領解説　特別活動編	文部科学省	東山書房
2	中学校学習指導要領　総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

定期試験（50%）、中間レポート（30%）、コメントペーパー、ミニエッセイ及び授業への参加状況（20%）を総合的に評価する。定期試験の内容は客観式＋記述式とする。中間レポートは、ミニエッセイをもとに「自己史に関するエッセイ」をまとめ、提出すること。毎回のコメントペーパー・ミニエッセイの作成と授業への出席をもとに授業への参加状況を評価する。

学生へのメッセージ

学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだということが言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。

担当者の研究室等

7 号館 3F 林研究室

備考

事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。

科目名	特別活動の理論と方法	科目名（英文）	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林　茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学校における様々な構成での集団活動を通して、自ら課題を発見し、協力協働して解決を行うことで、、よりよい集団づくり、生活づくりや人間関係づくりをめざすという特別活動の意義、目標及び内容を理解し、学校教育活動の中での特別活動への要請を踏まえた、指導に必要な知識や素養を身に付けるようにする。 子どもの現状を踏まえ、望ましい集団活動が生徒の個人的な資質と社会的な資質を育むとともに、学習活動を統合し補完する役割を果たしていることについても理解を深めるようにする。 「学級づくり」（教師と生徒の関係づくり、生徒どうしの関係づくり）に視点を据え、7 つの教育課題を取り上げ、問題発生の背景を踏まえた対応の視点・方法について、事例をもとにグループ討議や即興劇を行い、交流や意見交換をする。 また、学級担任が担当することが多い総合的な学習の時間の指導についても合わせて取り扱う。 公立高校教員として 34 年間にわたり、学級担任、生徒会指導主担者、総合的な学習の時間企画主担者等を分掌した経験に基づいた、学校現場で役立つ実践的な授業を行う。
到達目標	教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連性、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。 合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義ならびに実際におこりやすいトラブルや事件についての指導の在り方を例示することができる。 主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性、探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立て、児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。
授業方法と留意点	講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見いだし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・特別活動および総合的な学習の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第 1 章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
2	特別活動の目標・内容・方法 ワーク①「キャラ」をめぐって　〈ソロワークと意見交換〉	教科外活動としての位置づけ、特別活動の３つの内容、方法としての集団活動・体験活動	特別活動テキスト第 2 章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
3	学級活動・ホームルーム活動① ワーク②大学に入って　〈ソロワークと意見交換〉	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画	特別活動テキスト第 3 章第 1 節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
4	学級活動・ホームルーム活動② ワーク③学級活動の思い出〈ソロワークと意見交換〉	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直	特別活動テキスト第 3 章第 1 節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
5	生徒会活動・児童会活動、学級行事 ワーク④学校行事の思い出〈ソロワークと意見交換〉	生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点	特別活動テキスト第 3 章第 2･3 節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
6	体験活動・体験的な学びの意義ワーク⑤「14 歳の頃」「17 歳の頃」〈ソロワークと意見交換、グループワークの班分け、顔合わせ〉	特別活動・総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通した学びの重要性と計画的な指導の重要性	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
7	特別活動の歴史・領域・方法 ワーク⑥いじめ（１）〈グループ討議・発表〉	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがい	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
8	特別活動と学級経営 ワーク⑦不登校　〈グループ討議・発表〉	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
9	特別活動と生徒指導 ワーク⑧暴力　〈即興劇・交流〉	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
10	特別活動の指導計画と評価 ワーク⑨不登校　〈グループ討議・発表〉	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1 単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用	特別活動テキスト第 4 章第 1･2･5 節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
11	特別活動と総合的な学習の時間 ワーク⑩いじめ（その２）〈即興劇・交流〉	特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
12	総合的な学習の時間の目標・内容・方法 ワーク⑪進路指導〈グループ討議・発表〉	総合的な学習の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理	総合的な学習の時間のテキスト第 1・2･3 章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習する。
13	総合的な学習の時間の学習指導 ワーク⑫インクルーシブ教	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び	総合的な学習の時間のテキスト第2･7 章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習する

教職科目

	育〈グループ討議・発表〉		
14	総合的な学習の時間の指導計画と評価 ワーク⑬ジェンダー・性的マイノリティ〈グループ討議・発表〉	全体計画、年間計画、単元計画の作成、生徒の学習状況の評価	総合的な学習の時間のテキスト第 5･6・8 章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習する。
15	補足とまとめ	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。 特別活動の指導の配慮事項及び担当する教師、国旗・国歌の取扱い総合的な学習の時間の体制づくり	特別活動のテキスト第 4 章第 2･3･4 節、総合的な学習の時間のテキスト第 9 章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習する。

関連科目

すべての教職科目と関連するが、特に、「教師論」、「教育原理」「教育心理学」で学習したことと関連づけるともに、「教育方法論」、「生徒指導論」、「教育社会学」などの学習につなげることが大切である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　特別活動編	文部科学省	東山書房
2	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

定期試験（50%）、中間レポート（30%）、コメントペーパー、ミニエッセイ及び授業への参加状況（20%）を総合的に評価する。定期試験の内容は客観式＋記述式とする。中間レポートは、ミニエッセイをもとに「自己史に関するエッセイ」をまとめ、提出すること。毎回のコメントペーパー・ミニエッセイの作成と授業への出席をもとに授業への参加状況を評価する。

学生へのメッセージ

学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだということが言われる。学級づくりには多様な方法論が存在するが、要は子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。

担当者の研究室等

７号館３階(林研究室)

備考

事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。

科目名	特別支援教育論	科目名（英文）	Studies of Special Needs Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林　茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職課程「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」に対応する科目である。 障害をはじめ、日本語指導や貧困、被虐待等による特別な教育ニーズのある児童生徒が、安心安全のうちに、楽しく、達成感を持って学び、生きる力を身に付けることができるよう、教員として必要な知識及び支援の方法について学ぶ。 「障害とは何か」を可視化させ、「障害」の概念を再構成するとともに、特別支援教育の理念・制度・方法について歴史的変遷から最新の動向までを踏まえ、その現状と課題について整理し、今後の在り方についても展望したい。 中・高（・小）免許状取得希望者を対象とする科目であることを踏まえ、公立高校教員として 34 年間勤務し、特別支援教育コーディネーターや人権教育主担者としての実務経験をもつ授業担当者が、通常の学校での特別支援教育の実践に焦点をしぼった授業を行う。
到達目標	①インクルーシブ教育システムにおける特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。 ②視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・発達障害を含むさまざまな障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。 ③発達障害や知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童・生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解している。 ④さまざまな障害や成育歴をもち、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。 ⑤個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。 ⑥特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している。
授業方法と留意点	講読演習の形式も取り入れながら、講義形式を中心に行う。
科目学習の効果（資格）	教員免許（小学校・中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、インクルーシブ教育システムの概要	わが街は暮らしやすいか、わが学校は学びやすいか。インクルーシブ教育システムの概要と課題	教科書の序章を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
2	新しい障害観と特別なニーズ教育の考え方	ICIDH から ICF へ。医学モデルから社会モデルへ。一人ひとりの教育ニーズに応じた教育	教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
3	障害者権利条約と合理的配慮	国連障害者権利条約の批准と国内法の整備。差別的取り扱いの禁止と合理的配慮の提供義務	教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
4	戦前・戦後の特殊教育の成立と展開	障害のある子どもの学校教育からの排除。盲・ろう学校の義務化と養護学校の義務化	教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
5	特別支援教育への転換	障害種に応じた教育から個別のニーズに応じた教育へ。新たに発達障害も対象に	教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
6	障害のある子供たちの学校生活と家庭生活の課題	学校でも家庭でも地域でも孤立しやすい子供たち。周りの子供との関係づくり。保護者との連携	配布資料を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
7	障害のある子供たちの進路選択と地域生活の課題	差別的取り扱いの禁止及び合理的配慮としての入試受験配慮や就労促進支援	配布資料を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
8	通常学級での特別支援教育の実践（通級による指導を含む）	ともに学びともに生きる教育の歴史的経過と課題。通教による指導の現状と課題	教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
9	発達障害・知的障害の理解と支援	知的障害の概要と学習上の課題と対応。発達障害の概要と学習上の課題と対応	教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
10	肢体不自由・病弱・重複障害の理解と支援	肢体不自由・病弱の子どもの学校生活や学習上の配慮。さまざまな重複障害、障害の多様性の理解	教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
11	視覚障害・聴覚障害の理解と支援	視覚障害・聴覚障害のある子どもの学校生活や学習上の配慮。	教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
12	個別の指導計画と個別の教育支援計画、卒業後の課題	つなぐツールとしての個別の指導計画、個別の教育支援計画、移行支援計画。	教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
13	校内支援体制の構築と SC・SSW 等との連携・協働	校内での連携。他職種との連携。福祉・医療との連携	教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
14	社会的養護にある子供、LGBT など性的マイノリティの子供の理解と対応	ニューカマーの子供、施設から通学する子供、LGBT など性的マイノリティの子供等を視野に入れた学級づくり、授業づくり	配布資料を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
15	被虐待の子供など家庭の問題を抱えた子供の理解と対応、まとめ	非虐待の子供等、家庭の問題を抱えた子供への心理的ケアと関係機関との連携	配布資料を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。

関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、教師論、教育心理学、特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法、教育方法論、教育課程論、教育社会学、教育相談での学習内容と関連させて理解を深めることが大切である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特別支援教育　多様なニーズへの挑戦	柘植雅義	中央公論新社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特別支援教育資料（平成 30 年度版）	文部科学省	Web

	2			
	3			

評価方法 （基準）	定期試験（50%）、レポート（30%）、コメントペーパー・ミニエッセイ及び授業への参加状況（20%）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	本科目を受講することで、障害のある児童生徒をはじめ、特別な支援を必要とする児童生徒への理解が進み、1 人ひとりの教育ニーズに応じた教育が展開できるようになってほしい。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階林研究室
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。

発行　2019年4月

常翔学園　摂南大学

寝屋川校地　〒572-8508
大阪府寝屋川市池田中町17番8号

電話(072)-839-9106 【教務課】

枚方校地　〒573-0101
大阪府枚方市長尾峠町45番1号

電話(072)-866-3100 【枚方事務室・薬学部】
電話(072)-807-6001 【枚方事務室・看護学部】

SETSUDAI